



IBM Systems - iSeries

i5/OS コマンド

CPYIGCTBL (DBCS フォント・テーブルのコピー)
での開始～

バージョン 5 リリース 4





IBM Systems - iSeries

i5/OS コマンド

CPYIGCTBL (DBCS フォント・テーブルのコピー)
での開始～

バージョン 5 リリース 4

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、1029 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、i5/OS (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 4、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りが無い限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM Systems - iSeries
i5/OS Commands
Starting with CPYIGCTBL (Copy DBCS Font Table)
Version 5 Release 4

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

目次

DBCSフォント・テーブルのコピー

(CPYIGCTBL)	1
パラメーター	1
DBCSフォント・テーブル (IGCTBL)	2
コピー・オプション (OPTION)	3
装置 (DEV)	3
ファイル・ラベル (LABEL)	3
選択イメージ (SELECT)	3
イメージの範囲 (RANGE)	4
ユーザー・イメージの置き換え (RPLIMG)	6
ボリューム識別コード (VOL)	6
ファイル満了日 (EXPDATE)	6
順序番号 (SEQNBR)	6
テープ終了オプション (ENDOPT)	7
ファイル (FILE)	7
メンバー (MEMBER)	7
例	7
エラー・メッセージ	8

ライブラリー・コピー (CPYLIB) 9

パラメーター	10
既存のライブラリー (FROMLIB)	10
新しいライブラリー (TOLIB)	10
ライブラリー作成 (CRTLIB)	10
データの複写 (DATA)	11
重複制約 (CST)	11
重複トリガー (TRG)	11
例	12
エラー・メッセージ	12

光ディスク・コピー (CPYOPT) 13

パラメーター	13
FROMボリューム識別コード (FROMVOL)	14
FROM経路 (FROMPATH)	14
TOボリューム識別コード (TOVOL)	14
TO経路 (TOPATH)	15
コピーするファイルの選択 (SLTFILE)	15
サブディレクトリー・コピー (CPYSUBDIR)	15
ディレクトリー作成 (CRTDIR)	16
反対側へのコピー可能 (ALWCPYOPP)	16
コピー・オプション (COPYTYPE)	16
開始日および時刻 (FROMTIME)	17
例	18
エラー・メッセージ	18

プログラム一時修正コピー (CPYPTF) 23

パラメーター	23
プロダクト (LICPGM)	24
取り出し装置 (FROMDEV)	24
受け取り装置 (TODEV)	24

選択するPTF番号 (SELECT)	25
除外するPTF番号 (OMIT)	25
リリース (RLS)	25
取り出し保管ファイル (FROMSAVF)	25
取り出しテープ順序番号 (FROMSEQNBR)	26
FROM媒体の終わりオプション (FROMENDOPT)	26
FROM経路識別コード (FROMPATHID)	27
ボリューム識別コード (TOVOL)	27
受け取りテープ順序番号 (TOSEQNBR)	28
TO媒体の終わりオプション (TOENDOPT)	28
受け取り保管ファイル (TOSAVF)	28
消去 (CLEAR)	29
PTFカバー・レター・コピー (COVER)	29
カバー・レター言語 (CVRLTRLNG)	29
データ圧縮 (DTACPR)	30
例	30
エラー・メッセージ	30

PTFカバー・レターのコピー (CPYPTFCVR) 33

パラメーター	33
装置 (DEV)	33
プロダクト (LICPGM)	34
選択するPTF番号 (SELECT)	34
リリース (RLS)	34
カバー・レター・オプション (CVROPT)	35
媒体の終わりオプション (ENDOPT)	35
例	35
エラー・メッセージ	36

PTFグループのコピー (CPYPTFGRP) 37

パラメーター	37
PTFグループ (PTFGRP)	38
取り出し装置 (FROMDEV)	38
受け取り装置 (TODEV)	38
取り出し保管ファイル (FROMSAVF)	38
取り出しテープ順序番号 (FROMSEQNBR)	39
FROM媒体の終わりオプション (FROMENDOPT)	39
ボリューム識別コード (TOVOL)	40
受け取りテープ順序番号 (TOSEQNBR)	40
TO媒体の終わりオプション (TOENDOPT)	40
受け取り保管ファイル (TOSAVF)	41
消去 (CLEAR)	41
置き換え (REPLACE)	41
関連PTFグループのコピー (RELPTFGRP)	42
データ圧縮 (DTACPR)	42
PTFのコピー (CPYPTF)	42
代替PTFの置き換え (RPLSPR)	43
PTFカバー・レター・コピー (COVER)	43
例	43
エラー・メッセージ	44

スプール・ファイル・コピー (CPYSPLF) 47

パラメーター	47
スプール・ファイル (FILE)	48
TO データベース・ファイル (TOFILE)	48
ジョブ名 (JOB)	48
スプール・ファイル番号 (SPLNBR)	49
ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)	49
作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)	50
TOメンバー (TOMBR)	50
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	50
制御文字 (CTLCHAR)	51
チャンネル値 (CHLVAL)	51
例	52
エラー・メッセージ	52

ソース・ファイルのコピー (CPYSRCF) 55

パラメーター	56
データベース・ソース・ファイル (FROMFILE)	56
TOファイル (TOFILE)	57
FROMメンバー (FROMMBR)	57
メンバー (TOMBR)	58
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	58
ソース更新オプション (SRCOPT)	58
ソース・ステートメントの順序番号付け (SRCSEQ)	59
例	59
エラー・メッセージ	60

ディレクトリーへのコピー (CPYTODIR) 63

パラメーター	63
ファイル・ラベル (LABEL)	63
装置 (DEV)	64
自動初期設定 (AUTOINZ)	64
データの置換え (RPLDTA)	64
ボリューム識別コード (VOL)	64
順序番号 (SEQNBR)	65
テープ終了オプション (ENDOPT)	65
例	65
エラー・メッセージ	66

インポート・ファイルへのコピー (CPYTOIMPF) 67

パラメーター	68
FROMファイル (FROMFILE)	69
TO データベース・ファイル (TOFILE)	69
TOストリーム・ファイル (TOSTMF)	70
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	71
変換元CCSID (FROMCCSID)	71
変換先CCSID (TOCCSID)	71
ストリーム・ファイル・コード・ページ (STMFCDPAG)	71
レコード区切り文字 (RCDDLML)	72
インポート・ファイルのレコード様式 (DTAFMT)	73
ストリング区切り文字 (STRDLM)	73
ストリング・エスケープ文字 (STRESCCHR)	73
ブランクの除去 (RMVBLANK)	74
フィールド区切り文字 (FLDDLML)	74

ヌル・フィールド標識 (NULLIND)	75
小数点 (DECPTNT)	75
日付の形式 (DATFMT)	75
時刻形式 (TIMFMT)	75
例	76
エラー・メッセージ	76

PC文書へのコピー (CPYTOPCD) 77

エラー・メッセージ: CPYTOPCD	77
パラメーター	77
取り出しファイル (FROMFILE)	78
受け取りフォルダー (TOFLR)	78
取り出しメンバー (FROMMBR)	78
受け取り文書 (TODOC)	78
文書置き換え (REPLACE)	79
変換テーブル (TRNTBL)	79
PCデータの形式 (TRNFMT)	80
DBCSコード・ページ (TRNIGC)	80
レコード様式 (RCDFMT)	80
例	81
エラー・メッセージ	81

PCFファイルへコピー (CPYTOPCF) 83

パラメーター	83
コピー元漢字フォント・テーブル (FROMIGCTBL)	83
コピー先PCFファイル (TOPCF)	84
フォントの置換え (RPLFNT)	84
例	84
エラー・メッセージ	85

ストリーム・ファイルへのコピー (CPYTOSTMF) 87

パラメーター	87
FROM ファイル・メンバーか保管ファイル (FROMMBR)	88
TOストリーム・ファイル (TOSTMF)	88
ストリーム・ファイル・オプション (STMFOPT)	89
データ変換オプション: (CVTDTA)	89
データベース・ファイルCCSID (DBFCCSID)	89
ストリーム・ファイル・コード・ページ (STMFCDPAG)	90
変換テーブル (TBL)	91
行の終わり文字 (ENDLINFMT)	91
例	92
エラー・メッセージ	93

テープへのコピー (CPYTOTAP) 95

パラメーター	95
FROMファイル (FROMFILE)	96
テープ・ファイル (TOFILE)	96
FROMメンバー (FROMMBR)	96
ファイル順序番号 (TOSEQNBR)	97
テープ・ラベル (TOLABEL)	97
装置 (TODEV)	98
コピー先リール (TOREELS)	98
レコード長 (TORCDLEN)	99

テープ終了オプション (TOENDOPT)	99
ボリューム識別コード (TOVOL)	100
ブロックの長さ (TOBLKLEN)	100
レコード・ブロックのタイプ (TORCDBLK)	100
ファイル満了日 (TOEXPDATE)	101
コピーするレコードの数 (NBRRCD)	101
データ短縮 (COMPACT)	102
例	102
エラー・メッセージ	102

クラスター管理ドメインの作成 (CRTADMDMN) 105

パラメーター	106
クラスター (CLUSTER)	106
クラスター管理ドメイン (ADMDMN)	106
管理ドメイン・ノード・リスト (DMNNODL)	106
例	106
エラー・メッセージ	107

警報テーブルの作成 (CRTALRTBL) . . . 109

パラメーター	109
警報テーブル (ALRTBL)	109
プロダクト (LICPGM)	110
ライセンス・プログラムのテキスト (LICPGMTXT)	110
テキスト'記述' (TEXT)	110
権限(AUT)	111
例	111
エラー・メッセージ	112

権限ホルダー作成 (CRTAUTHLR) 113

パラメーター	113
オブジェクト (OBJ)	114
権限(AUT)	114
例	115
エラー・メッセージ	115

権限リスト作成 (CRTAUTL) 117

パラメーター	117
権限リスト (AUTL)	117
テキスト'記述' (TEXT)	118
権限(AUT)	118
例	118
エラー・メッセージ	119

バインドCL PGMの作成 (CRTBNDCL) 121

パラメーター	121
プログラム (PGM)	122
ソース・ファイル (SRCFILE)	122
ソース・メンバー (SRCMBR)	123
テキスト'記述' (TEXT)	123
省略時の活動化グループ (DFTACTGRP)	123
活動化グループ (ACTGRP)	123
ストレージ・モデル (STGMDL)	124
出力 (OUTPUT)	124
ソース・リスト・オプション (OPTION)	125
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	125

ログ・コマンド (LOG)	126
プログラムの置き換え (REPLACE)	126
ターゲット・リリース (TGTRLS)	127
権限 (AUT)	127
分類順序 (SRTSEQ)	128
言語識別コード (LANGID)	129
最適化 (OPTIMIZE)	129
デバッグ・ビュー (DBGVIEW)	129
パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFCOL)	130
例	130
エラー・メッセージ	131

バインド・ディレクトリーの作成 (CRTBNDDIR) 133

パラメーター	133
ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	133
権限 (AUT)	134
テキスト'記述' (TEXT)	134
例	134
エラー・メッセージ	135

構成リスト作成 (CRTCFGL) 137

パラメーター	137
構成リスト・タイプ (TYPE)	138
構成リスト (CFGL)	139
省略時のフィルター処置 (DFTFTRACN)	139
APPN リモート CFGL フィルター (APPNRMTFTR)	140
テキスト'記述' (TEXT)	140
APPN ローカル・ロケーション項目 (APPNLCLE)	140
APPN リモート・ロケーション項目 (APPNRMTE)	141
非同期ネットワーク・アドレス項目 (ASYNCADRE)	143
非同期リモート・ロケーション項目 (ASYNCCLOCE)	143
小売業パススルー項目 (RTLPASTHRE)	144
権限 (AUT)	144
例	145
エラー・メッセージ	145

C ロケール記述の作成 (CRTCLD) 147

エラー・メッセージ: CRTCLD	147
パラメーター	147
ロケール名 (CLD)	148
ソース・ファイル (SRCFILE)	148
ソース・メンバー (SRCMBR)	149
テキスト記述 (TEXT)	149
ソース・リスト・オプション (OPTION)	149
エラー・リスト・レベル (LISTING)	149
印刷ファイル (PRTFILE)	150
置き換え (REPLACE)	150
権限 (AUT)	150
ターゲット・リリース (TGTRLS)	151
例	152
エラー・メッセージ	152

CLモジュールの作成 (CRTCLMOD) . . . 153

パラメーター	153
モジュール (MODULE)	154

ソース・ファイル (SRCFILE)	154
ソース・メンバー(SRCMBR)	154
テキスト'記述' (TEXT)	155
出力 (OUTPUT)	155
ソース・リスト・オプション (OPTION)	155
ログ・コマンド (LOG)	156
モジュール・オブジェクトの置き換え (REPLACE)	156
ターゲット・リリース (TGTRLS)	157
権限 (AUT)	157
分類順序 (SRTSEQ)	158
言語識別コード (LANGID)	159
最適化 (OPTIMIZE)	159
デバッグ・ビュー (DBGVIEW)	160
パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFRCOL)	160
例	160
エラー・メッセージ	160

CLプログラム作成 (CRTCLPGM) 163

パラメーター	163
プログラム (PGM)	164
ソース・ファイル (SRCFILE)	164
ソース・メンバー(SRCMBR)	165
テキスト'記述' (TEXT)	165
ソース・リスト・オプション (OPTION)	165
生成オプション (GENOPT)	166
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	167
ログ・コマンド (LOG)	168
RTVCLSRC可能 (ALWRTVSR)	168
プログラムの置き換え (REPLACE)	168
ターゲット・リリース (TGTRLS)	168
権限 (AUT)	169
分類順序 (SRTSEQ)	170
言語識別コード (LANGID)	170
例	171
エラー・メッセージ	171

クラス作成 (CRTCLS) 173

パラメーター	173
クラス (CLS)	173
実行優先順位 (RUNPTY)	174
タイム・スライス (TIMESLICE)	174
除去適格 (PURGE)	174
省略時の待ち時間 (DFTWAIT)	175
最大CPU時間 (CPUTIME)	175
最大一時記憶域 (MAXTMPSTG)	175
最大スレッド数 (MAXTHD)	176
テキスト'記述' (TEXT)	176
権限(AUT)	176
例	177
エラー・メッセージ	177

クラスターの作成 (CRTCLU) 179

パラメーター	179
クラスター (CLUSTER)	180
ノードID (NODE)	180
開始の標識 (START)	180

ターゲット・クラスター・バージョン (VERSION)	181
例	181
エラー・メッセージ	181

コマンド作成 (CRTCMD) 183

パラメーター	184
コマンド (CMD)	185
コマンドを処理するプログラム (PGM)	186
ソース・ファイル (SRCFILE)	186
ソース・メンバー (SRCMBR)	187
REXXソース・ファイル (REXSRCFILE)	187
REXXソース・メンバー (REXSRCMBR)	187
REXXコマンド環境 (REXCMDENV)	188
REXX出口プログラム (REXEXITPGM)	188
スレッド・セーフ (THDSAFE)	189
マルチスレッド・ジョブの処置 (MLTTHDACN)	190
テキスト'記述' (TEXT)	190
妥当性検査プログラム (VLDCR)	190
有効なモード (MODE)	191
実行可能な環境 (ALLOW)	191
制限ユーザー可能 (ALWLMTUSR)	192
最大定位置パラメーター数 (MAXPOS)	192
プロンプト・テキスト用メッセージ・ファイル (PMTFILE)	193
メッセージ・ファイル (MSGF)	193
ヘルプ・ブックシェルフ (HLPShelf)	194
ヘルプ・パネル・グループ (HLPPNLGRP)	194
ヘルプ識別コード (HLPID)	194
ヘルプ検索見出し (HLPschIDX)	195
現行ライブラリー (CURLIB)	195
実行ライブラリー (PRDLIB)	196
プロンプト一時変更プログラム (PMTovRPGM)	196
権限 (AUT)	197
コマンドの置き換え (REPLACE)	197
GUI使用可能 (ENBGUI)	198
例	198
エラー・メッセージ	198

サービス・クラス記述作成 (CRTCOSD) 199

パラメーター	199
サービス・クラス記述 (COSD)	208
送信優先順位 (TMSPTY)	208
回線の1行目 (ROW1LINE)	208
ノードの1行目 (ROW1NODE)	210
回線の2行目 (ROW2LINE)	210
ノードの2行目 (ROW2NODE)	212
回線の3行目 (ROW3LINE)	213
ノードの3行目 (ROW3NODE)	215
回線の4行目 (ROW4LINE)	215
ノードの4行目 (ROW4NODE)	217
回線の5行目 (ROW5LINE)	217
ノードの5行目 (ROW5NODE)	219
回線の6行目 (ROW6LINE)	220
ノードの6行目 (ROW6NODE)	222
回線の7行目 (ROW7LINE)	222
ノードの7行目 (ROW7NODE)	224

回線の8行目 (ROW8LINE)	224
ノードの8行目 (ROW8NODE)	226
テキスト'記述' (TEXT)	227
権限 (AUT)	227
例	228
エラー・メッセージ	228

クラスター資源グループの作成 (CRTCRG) 229

パラメーター	231
クラスター (CLUSTER)	232
クラスター資源グループ (CRG)	232
クラスター資源グループ・タイプ (CRGTYPE)	233
CRG出口プログラム (EXITPGM)	233
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	234
回復ドメイン・ノード・リスト (RCYDMN)	234
引き継ぎIPアドレス (TKVINTNETA)	236
出口プログラムの形式名 (EXITPGMFM)	236
出口プログラム・データ (EXITPGMDTA)	236
配布情報ユーザー待ち行列 (CRGMSGUSRQ)	237
引き継ぎIPアドレスの構成 (CFGINTNETA)	237
ジョブ (JOB)	238
アプリケーション再始動の許可 (ALWRESTART)	238
アプリケーション再始動数 (NBRRESTART)	238
構成オブジェクト・リスト (CFGOBJ)	239
テキスト'記述' (TEXT)	240
フェールオーバー・メッセージ待ち行列 (FLVMSGQ)	240
フェールオーバー待ち時間 (FLVWAITTIM)	240
フェールオーバー省略時処置 (FLVDFTACN)	241
適用業務識別コード (APPID)	241
例	241
エラー・メッセージ	242

CRQ記述の作成 (CRTCRQD) 243

パラメーター	243
要求記述の変更 (CRQD)	243
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	244
問題識別コード (PRBID)	244
問題の起点 (PRBORG)	244
テキスト'記述' (TEXT)	245
権限 (AUT)	245
例	246
エラー・メッセージ	246

通信サイド情報の作成 (CRTCSI) 247

パラメーター	247
サイド情報 (CSI)	247
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	248
トランザクション・プログラム (TNSPGM)	248
テキスト'記述' (TEXT)	248
装置 (DEV)	249
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	249
モード (MODE)	249
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	250
権限 (AUT)	250

例	251
エラー・メッセージ	251

制御装置記述の作成 (APPC) (CRTCTLAPPC) 253

パラメーター	253
制御装置記述 (CTLD)	256
リンク・タイプ (LINKTYPE)	256
IPL時のオンライン (ONLINE)	258
交換接続 (SWITCHED)	258
短期保留モード (SHM)	259
交換網バックアップ (SNBU)	259
APPN可能 (APPN)	260
リモート・インターネット・アドレス (RMTINTNETA)	260
ローカル・インターネット・アドレス (LCLINTNETA)	260
LDLCタイマー (LDLCTMR)	261
LDLCリンク速度 (LDLCLNKSPD)	261
LDLC送信グループ (LDLCTMSGRP)	262
制御装置のタイプ (TYPE)	264
接続される非交換回線 (LINE)	265
交換回線リスト (SWTLINLST)	265
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	265
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	266
リモート制御点 (RMTCPNAME)	266
リモート・システム名 (RMTSYSNAME)	266
交換識別コード (EXCHID)	267
初期接続 (INLCNN)	268
ダイヤル開始 (DIALINIT)	268
接続番号 (CNNNBR)	268
返答番号 (ANSNBR)	269
発信接続リスト (CNLSTOUT)	269
接続リスト項目 (CNLSTOUTE)	269
データ・リンクの役割 (ROLE)	269
SHM切断限界 (SHMDSCLMT)	270
SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)	270
端末アドレス (STNADR)	270
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	271
LAN DSAP (DSAP)	271
LAN SSAP (SSAP)	271
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	272
X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)	272
X.25論理チャネルID (LGLCHLID)	273
X.25接続パスワード (CNNPWD)	273
APPN CPセッション・サポート (CPSSN)	273
リモートAPPNノードのタイプ (NODETYPE)	274
分岐拡張の役割 (BEXROLE)	274
APPN/HPR使用可能 (HPR)	274
HPRバス・スイッチ (HPRPTHSWT)	275
APPN伝送グループ番号 (TMSGRPNBR)	275
APPN最小交換状況 (MINSWTSTS)	275
装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)	276
自動装置削除 (AUTODLTDEV)	276
ユーザー定義1 (USRDFN)	276

ユーザー定義2 (USRDFN)	277
ユーザー定義3 (USRDFN)	277
モデル制御装置記述 (MDLCTL)	277
接続ネットワークID (CNNNETID)	278
接続ネットワークCP (CNNCPNAME)	278
テキスト'記述' (TEXT)	278
接続されている装置 (DEV)	279
文字コード (CODE)	279
SSCP識別コード (SSCPID)	279
IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)	279
IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)	280
IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)	280
IDLC接続再試行 (IDLCCNNRTY)	280
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	280
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	281
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	281
交換回線切断 (SWTDSC)	281
切断タイマー (DSCTMR)	282
SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)	282
SDLCポーリング限界 (POLLLMT)	283
SDLC出力限界 (OUTLMT)	283
SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)	283
SDLC NDMポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)	283
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	284
LAN接続再試行 (LANCNNRTY)	284
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	284
LAN接続タイマー (LANCNNTMR)	285
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	285
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	285
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	286
LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	286
LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	286
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	287
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	287
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	287
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	288
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	288
X.25着信課金 (RVSCRG)	289
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	289
X.25接続再試行 (X25CNNRTY)	289
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	290
X.25接続タイマー (X25CNNTMR)	290
X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)	290
X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)	290
X.25非活動タイマー (X25INACTMR)	291
ユーザー機能 (USRFL)	291
回復限界 (CMNRCYLMT)	291
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	292
権限 (AUT)	292
例	293
エラー・メッセージ	293

制御装置記述の作成 (非同期) (CRTCTLASC)	295
パラメーター	295

制御装置記述 (CTLD)	296
リンク・タイプ (LINKTYPE)	296
IPL時のオンライン (ONLINE)	297
交換接続 (SWITCHED)	297
交換網バックアップ (SNBU)	297
接続される非交換回線 (LINE)	298
交換回線リスト (SWTLINLST)	298
初期接続 (INLCNN)	298
接続番号 (CNNNBR)	299
返答番号 (ANSNBR)	299
X.25論理チャンネルID (LGLCHLID)	299
テキスト'記述' (TEXT)	299
接続されている装置 (DEV)	300
接続されている装置 (DEV)	300
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	300
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	300
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	301
交換回線切断 (SWTDSC)	301
ファイル転送肯定応答タイマー (ACKTMR)	301
ファイル転送再試行 (RETRY)	301
リモート検査 (RMTVIFY)	302
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	302
ローカル識別コード (LCLID)	302
PADエミュレーション (PADEML)	302
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	303
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	303
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	303
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	304
X.25着信課金 (RVSCRG)	304
ユーザー機能 (USRFL)	305
回復限界 (CMNRCYLMT)	305
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	305
権限 (AUT)	306
例	307
エラー・メッセージ	307

制御装置記述の作成(BSC) (CRTCTLBSC)	309
パラメーター	309
制御装置記述 (CTLD)	310
IPL時のオンライン (ONLINE)	310
接続タイプ (CNN)	310
交換網バックアップ (SNBU)	310
接続される非交換回線 (LINE)	311
交換回線リスト (SWTLINLST)	311
適用業務タイプ (APPTYPE)	311
初期接続 (INLCNN)	312
接続番号 (CNNNBR)	312
ローカル識別コード (LCLID)	312
リモート識別コード (RMTID)	313
RJEホスト・タイプ (RJEHOST)	313
RJE ホスト・サインオン/ログオン (RJELOGON)	313
テキスト'記述' (TEXT)	314
接続されている装置 (DEV)	314
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	314
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	314

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	315
回復限界 (CMNRCYLMT)	315
権限 (AUT)	315
例	316
エラー・メッセージ	316

制御装置記述の作成-金融機関

(CRTCTLFNC) 319

パラメーター	319
制御装置記述 (CTLD)	321
制御装置のタイプ (TYPE)	321
制御機構型式 (MODEL)	322
リンク・タイプ (LINKTYPE)	322
IPL時のオンライン (ONLINE)	322
交換接続 (SWITCHED)	322
短期保留モード (SHM)	323
交換網バックアップ (SNBU)	323
接続される非交換回線 (LINE)	324
交換回線リスト (SWTLINLST)	324
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	324
交換識別コード (EXCHID)	325
初期接続 (INLCNN)	325
接続番号 (C>NNNBR)	326
返答番号 (ANSNBR)	326
SHM切断限界 (SHMDSCLMT)	326
SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)	327
端末アドレス (STNADR)	327
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	327
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	327
X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)	328
X.25論理チャンネルID (LGLCHLID)	328
X.25接続パスワード (CNNPWD)	328
テキスト'記述' (TEXT)	329
接続されている装置 (DEV)	329
文字コード (CODE)	329
SSCP識別コード (SSCPID)	330
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	330
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	330
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	330
交換回線切断 (SWTDSC)	331
SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)	331
SDLCポーリング限界 (POLLMT)	331
SDLC出力限界 (OUTLMT)	331
SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)	332
SDLC NDMポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)	332
LAN DSAP (DSAP)	332
LAN SSAP (SSAP)	333
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	333
LAN接続再試行 (LANC>NNRTY)	334
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	334
LAN接続タイマー (LANC>NNTMR)	334
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	334
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	335
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	335

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	335
LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	336
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	336
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	336
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	337
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	337
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	338
X.25着信課金 (RVSCRG)	338
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	338
X.25接続再試行 (X25C>NNRTY)	339
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	339
X.25接続タイマー (X25C>NNTMR)	339
X.25遅延接続タイマー (X25DLTYTMR)	339
X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)	340
X.25非活動タイマー (X25INACTMR)	340
ユーザー機能 (USRFLC)	340
回復限界 (CMNRCYLMT)	340
権限 (AUT)	341
例	342
エラー・メッセージ	342

制御装置記述の作成(SNA ホスト)

(CRTCTLHOST) 343

パラメーター	343
制御装置記述 (CTLD)	346
リンク・タイプ (LINKTYPE)	346
IPL時のオンライン (ONLINE)	346
交換接続 (SWITCHED)	347
短期保留モード (SHM)	347
交換網バックアップ (SNBU)	347
APPN可能 (APPN)	348
接続される非交換回線 (LINE)	348
交換回線リスト (SWTLINLST)	348
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	349
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	349
リモート制御点 (RMTCPNAME)	350
隣接リンク端末 (ADJLNKSTN)	350
SSCP識別コード (SSCPID)	350
ローカル交換識別コード (LCLEXCHID)	351
初期接続 (INLCNN)	351
ダイヤル開始 (DIALINIT)	351
接続番号 (C>NNNBR)	352
返答番号 (ANSNBR)	352
発信接続リスト (C>NNLSTOUT)	352
接続リスト項目 (C>NNLSTOUTE)	353
端末アドレス (STNADR)	353
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	353
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	353
X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)	354
X.25論理チャンネルID (LGLCHLID)	354
X.25接続パスワード (CNNPWD)	354
APPN CPセッション・サポート (CPSSN)	355
リモートAPPNノードのタイプ (NODETYPE)	355
分岐拡張の役割 (BEXROLE)	355
APPN/HPR使用可能 (HPR)	356

HPRパス・スイッチ (HPRPTHSWT)	356
APPN伝送グループ番号 (TMSGRPNBR)	357
APPN最小交換状況 (MINSWTSTS)	357
装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)	357
自動装置削除 (AUTODLTDEV)	358
ユーザー定義1 (USRDFN)	358
ユーザー定義2 (USRDFN)	358
ユーザー定義3 (USRDFN)	359
オフへの構成変更の再接続 (RECONTACT)	359
テキスト'記述' (TEXT)	359
1次DLUS名 (PRIDLUS)	359
バックアップDLUS名 (BKUDLUS)	360
従属PU名 (DEPPUNAME)	361
30-2550 (秒) (ACTTMR)	361
切断/再接続タイマー(T309) (RECNTTMR)	362
接続されている装置 (DEV)	362
文字コード (CODE)	363
IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)	363
IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)	363
IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)	364
IDLC接続再試行 (IDLCCNNRTY)	364
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	364
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	364
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	365
交換回線切断 (SWTDSC)	365
切断タイマー (DSCTMR)	365
LAN DSAP (DSAP)	366
LAN SSAP (SSAP)	366
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	367
LAN接続再試行 (LANCNRRTY)	367
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	367
LAN接続タイマー (LANCNTMR)	368
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	368
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	368
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	369
LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	369
LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	369
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	370
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	370
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	370
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	371
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	371
X.25着信課金 (RVSCRG)	372
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	372
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	372
X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)	373
X.25非活動タイマー (X25INACTMR)	373
ユーザー機能 (USRFL)	373
回復限界 (CMNRCYLMT)	373
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	374
権限 (AUT)	374
例	375
エラー・メッセージ	375

**制御装置記述の作成(ローカル WS)
(CRTCTLLWS) 377**

パラメーター	377
制御装置記述 (CTLD)	378
制御装置のタイプ (TYPE)	378
制御機構型式 (MODEL)	379
資源名 (RSRCNAME)	380
IPL時のオンライン (ONLINE)	380
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	380
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	381
初期設定プログラム (INZPGM)	381
テキスト'記述' (TEXT)	382
接続されている装置 (DEV)	382
入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)	383
自動構成制御装置 (AUTOCFG)	383
権限 (AUT)	383
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	384
例	384
エラー・メッセージ	385

**制御装置記述の作成(ネットワーク)
(CRTCTLNET) 387**

パラメーター	387
制御装置記述 (CTLD)	387
IPL時のオンライン (ONLINE)	387
接続回線 (LINE)	388
応答タイマーの接続 (CNRSPPTMR)	388
テキスト'記述' (TEXT)	388
接続されている装置 (DEV)	388
権限 (AUT)	388
例	389
エラー・メッセージ	389

**制御装置記述の作成 (小売業)
(CRTCTLRTL) 391**

パラメーター	391
制御装置記述 (CTLD)	393
制御装置のタイプ (TYPE)	393
制御機構型式 (MODEL)	393
リンク・タイプ (LINKTYPE)	393
IPL時のオンライン (ONLINE)	394
交換接続 (SWITCHED)	394
交換網バックアップ (SNBU)	394
接続される非交換回線 (LINE)	395
交換回線リスト (SWTLINLST)	395
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	395
交換識別コード (EXCHID)	396
初期接続 (INLCNN)	396
接続番号 (CNRNBR)	396
返答番号 (ANSNBR)	397
端末アドレス (STNADR)	397
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	397
LAN DSAP (DSAP)	397
LAN SSAP (SSAP)	398
X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	398
X.25論理チャネルID (LGLCHLID)	399
X.25接続パスワード (CNNPWD)	399

テキスト'記述' (TEXT)	399	リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID) 420	
接続されている装置 (DEV)	400	交換識別コード (EXCHID)	420
文字コード (CODE)	400	初期接続 (INLCNN)	420
SSCP識別コード (SSCPID)	400	ダイヤル開始 (DIALINIT)	421
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	400	接続番号 (CNNNBR)	421
再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	401	返答番号 (ANSNBR)	421
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	401	発信接続リスト (CNNLSTOUT)	422
交換回線切断 (SWTDSC)	401	接続リスト項目 (CNNLSTOUTE)	422
SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)	401	SHM切断限界 (SHMDSCLMT)	422
SDLCポーリング限界 (POLLMT)	402	SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)	422
SDLC出力限界 (OUTLMT)	402	端末アドレス (STNADR)	423
SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)	402	LAN リモート・アダプター・アドレス	
SDLC NDMポーリング・タイマー		(ADPTADR)	423
(NDMPOLLTMR)	403	X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)	423
LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	403	X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)	424
LAN接続再試行 (LANCNNRTY)	403	X.25論理チャンネルID (LGLCHLID)	424
LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	404	X.25接続パスワード (CNNPWD)	424
LAN接続タイマー (LANCNNTMR)	404	装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)	425
LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	404	交換回線切断 (SWTDSC)	425
LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	405	テキスト'記述' (TEXT)	425
LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	405	接続されている装置 (DEV)	426
LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	405	接続されている装置 (DEV)	426
LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	405	文字コード (CODE)	426
LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	406	入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)	426
X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	406	SSCP識別コード (SSCPID)	427
X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	406	IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)	427
X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	407	IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)	427
X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	407	IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)	428
X.25着信課金 (RVSCRG)	408	IDLC接続再試行 (IDLCCNNRTY)	428
X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	408	事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	428
X.25接続再試行 (X25CNNRTY)	408	再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	428
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	409	ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	429
X.25接続タイマー (X25CNNTMR)	409	SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)	429
X.25遅延接続タイマー (X25DLTYTMR)	409	SDLCポーリング限界 (POLLMT)	429
ユーザー機能 (USRFLC)	410	SDLC出力限界 (OUTLMT)	430
回復限界 (CMNRCYLMT)	410	SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)	430
権限 (AUT)	410	SDLC NDMポーリング・タイマー	
例	411	(NDMPOLLTMR)	430
エラー・メッセージ	411	LAN DSAP (DSAP)	431
		LAN SSAP (SSAP)	431
		LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)	431
		LAN接続再試行 (LANCNNRTY)	432
		LAN応答タイマー (LANRSPTMR)	432
		LAN接続タイマー (LANCNNTMR)	432
		LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)	433
		LAN非活動タイマー (LANINACTMR)	433
		LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)	433
		LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)	434
		LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)	434
		LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)	434
		X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)	435
		X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	435
		X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	435
		X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)	436
		X.25着信課金 (RVSCRG)	436
		X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)	437
制御装置記述の作成(リモート WS)			
(CRTCTLRWS) 413			
パラメーター	413		
制御装置記述 (CTLD)	415		
制御装置のタイプ (TYPE)	415		
制御機構型式 (MODEL)	416		
リンク・タイプ (LINKTYPE)	416		
IPL時のオンライン (ONLINE)	417		
交換接続 (SWITCHED)	417		
短期保留モード (SHM)	418		
交換網バックアップ (SNBU)	418		
接続される非交換回線 (LINE)	418		
交換回線リスト (SWTLINLST)	419		
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	419		
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	419		
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	419		

X.25接続再試行 (X25CNNRTY)	437
X.25応答タイマー (X25RSPTMR)	437
X.25接続タイマー (X25CNNTMR)	437
X.25遅延接続タイマー (X25DLTYTMR)	438
X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)	438
X.25非活動タイマー (X25INACTMR)	438
ユーザー機能 (USRFLC)	438
割り振り再試行タイマー (ALCRTYTMR)	439
回復限界 (CMNRCYLMT)	439
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	439
権限 (AUT)	440
例	441
エラー・メッセージ	441

制御装置記述の作成 (テープ)

(CRTCTLTAP) 443

パラメーター	443
制御装置記述 (CTLD)	443
制御装置のタイプ (TYPE)	444
制御機構型式 (MODEL)	444
資源名 (RSRCNAME)	444
IPL時のオンライン (ONLINE)	444
テキスト'記述' (TEXT)	445
接続されている装置 (DEV)	445
自動構成制御装置 (AUTOCFG)	445
権限 (AUT)	445
例	446
エラー・メッセージ	446

制御装置記述の作成 (仮想WS)

(CRTCTLVWS) 449

パラメーター	449
制御装置記述 (CTLD)	449
IPL時のオンライン (ONLINE)	449
テキスト'記述' (TEXT)	450
接続されている装置 (DEV)	450
入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)	450
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	451
権限 (AUT)	451
例	452
エラー・メッセージ	452

DDMファイル作成 (CRTDDMF) 453

パラメーター	453
DDMファイル (FILE)	454
リモート・ファイル (RMTFILE)	454
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	456
リレーショナル・データベース (RDB)	457
テキスト'記述' (TEXT)	457
装置 (DEV)	457
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	457
モード (MODE)	458
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	458
ポート番号 (PORT)	459
アクセス方式 (ACCMTH)	459
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	461

保護された会話 (PTCCNV)	461
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	461
権限 (AUT)	462
ファイルの置き換え (REPLACE)	462
例	463
エラー・メッセージ	464

装置記述の作成(APPC) (CRTDEVAPPC) 465

パラメーター	465
装置記述 (DEV)	466
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	466
IPL時のオンライン (ONLINE)	466
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	466
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	466
接続される制御装置 (CTL)	467
モード (MODE)	467
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	467
APPN可能 (APPN)	468
単一セッション (SNGSSN)	468
ローカル制御セッション (LCLCTLSSN)	468
事前確立セッション (PREESTSSN)	468
ロケーション・パスワード (LOCPWD)	469
保護ロケーション (SECURELOC)	469
テキスト'記述' (TEXT)	469
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	470
権限 (AUT)	470
例	470
エラー・メッセージ	471

装置記述の作成 (非同期)

(CRTDEVASC) 473

パラメーター	473
装置記述 (DEV)	473
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	473
IPL時のオンライン (ONLINE)	474
接続される制御装置 (CTL)	474
テキスト'記述' (TEXT)	474
権限 (AUT)	474
例	475
エラー・メッセージ	475

装置記述の作成(ASP) (CRTDEVASP) 477

パラメーター	477
装置記述 (DEV)	477
資源名 (RSRCNAME)	477
リレーショナル・データベース (RDB)	478
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	478
テキスト'記述' (TEXT)	478
権限 (AUT)	479
例	479
エラー・メッセージ	480

装置記述の作成(BSC) (CRTDEVBSC) 481

パラメーター	481
装置記述 (DEV)	482
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	482

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	482
IPL時のオンライン (ONLINE)	482
接続される制御装置 (CTL)	483
接続タイプ (CNN)	483
適用業務タイプ (APPTYPE)	483
回線争奪解消による回線獲得側 (CTNWIN)	484
ブロック化のタイプ (BLOCK)	484
区切り文字 (SEPCHAR)	484
リモートBSCSEL (RMTBSCSEL)	484
レコード長 (RCDLEN)	485
ブロックの長さ (BLKLEN)	485
透過モード伝送 (TRNSPY)	485
データの圧縮と圧縮解除 (DTACPR)	485
後書きブランクの切り捨て (TRUNC)	486
グループ区切りのタイプ (GRPSEP)	486
エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)	486
エミュレートされるキーボード (EMLKBD)	487
エミュレートされる数字ロック (EMLNUMLCK)	487
エミュレーション・ワークステーション (EMLWRKSTN)	487
テキスト'記述' (TEXT)	487
権限 (AUT)	488
例	488
エラー・メッセージ	488

装置記述作成 (暗号) (CRTDEVCRP) 491

パラメーター	491
装置記述 (DEV D)	491
資源名 (RSRCNAME)	492
適用業務タイプ (APPTYPE)	492
IPL時のオンライン (ONLINE)	492
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	492
PKAキー保管ファイル (PKAKEYFILE)	493
DESキー保管ファイル (DESKEYFILE)	493
テキスト'記述' (TEXT)	494
権限 (AUT)	494
例	495
エラー・メッセージ	495

装置記述の作成 (表示装置)

(CRTDEV DSP) 497

パラメーター	497
装置記述 (DEV D)	499
装置クラス (DEVCLS)	499
装置タイプ (TYPE)	500
装置型式 (MODEL)	501
エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)	502
ポート番号 (PORT)	503
スイッチの設定値 (SWTSET)	503
共用セッション番号 (SHRSSNNBR)	503
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	504
ASCII装置のエミュレート (EMLASCII)	504
物理的接続 (ATTACH)	505
IPL時のオンライン (ONLINE)	505
接続される制御装置 (CTL)	505
キーボード言語タイプ (KBDTYPE)	506

サインオフ時の回線切断 (DROP)	511
カーソル明滅可能 (ALWBLN)	511
補助装置 (AUXDEV)	512
印刷装置 (PRINTER)	512
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	512
適用業務タイプ (APPTYPE)	512
活動化タイマー (ACTTMR)	513
非活動タイマー (INACTTMR)	513
SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	514
SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)	514
ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド (LOGON)	515
回線速度 (LINESPEED)	515
語の長さ (WORDLEN)	516
パリティのタイプ (PARITY)	516
停止ビット (STOPBITS)	517
最大未処理フレーム数 (MAXOUT)	517
アイドル・タイマー (IDLTMR)	518
NRMPポーリング・タイマー (NRMPOLLTMR)	518
フレーム再試行 (FRAMERTY)	518
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	518
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	519
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	519
DBCS機能 (IGCFEAT)	519
テキスト'記述' (TEXT)	520
従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)	520
文字識別コード (CHRID)	520
印刷装置 (PRTDEV)	521
出力待ち行列 (OUTQ)	521
印刷出力ファイル (PRTFILE)	522
ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)	522
権限 (AUT)	523
例	523
エラー・メッセージ	523

装置記述の作成 (金融機関)

(CRTDEV FNC) 525

パラメーター	525
装置記述 (DEV D)	525
装置タイプ (TYPE)	525
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	526
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	526
IPL時のオンライン (ONLINE)	526
接続される制御装置 (CTL)	527
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	527
装置クラス (DEVCLS)	527
活動化タイマー (ACTTMR)	527
非活動タイマー (INACTTMR)	528
SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	528
SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)	528
テキスト'記述' (TEXT)	529
権限 (AUT)	529
例	530
エラー・メッセージ	530

装置記述の作成(SNA ホスト)

(CRTDEVHOST)	531
パラメーター	531
装置記述 (DEV D)	531
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	532
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	532
IPL時のオンライン (ONLINE)	532
接続される制御装置 (CTL)	532
適用業務タイプ (APPTYPE)	532
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	533
エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)	533
エミュレートされるキーボード (EMLKBD)	533
エミュレートされる数字ロック (EMLNUMLCK)	534
エミュレーション・ワークステーション (EMLWRKSTN)	534
ホストとのセッション終了 (ENDSSNHOST)	534
テキスト'記述' (TEXT)	534
従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)	535
権限 (AUT)	535
例	536
エラー・メッセージ	536

装置記述の作成(INTRA) (CRTDEVINTR) 537

パラメーター	537
装置記述 (DEV D)	537
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	537
IPL時のオンライン (ONLINE)	537
テキスト'記述' (TEXT)	538
権限 (AUT)	538
例	539
エラー・メッセージ	539

装置記述作成 (媒体ライブラリー)

(CRTDEVMLB)	541
パラメーター	541
装置記述 (DEV D)	542
装置クラス (DEVCLS)	542
資源名 (RSRCNAME)	542
装置タイプ (TYPE)	542
IPL時のオンライン (ONLINE)	543
アンロード待機時間 (UNLOADWAIT)	543
装置待機最大時間 (MAXDEVTIME)	543
資源割り振り優先順位 (RSCALCPTY)	544
初期マウント待機時間 (INLMNTWAIT)	544
ボリューム・マウント終了待機時間 (EOVMNTWAIT)	545
カートリッジID生成 (GENCTGID)	545
ロボット装置記述 (ROBOTDEV)	545
ロボット・ホスト (ROBOTHOST)	545
ローカル・インターネット・アドレス (LCLINTNETA)	546
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	546
テキスト'記述' (TEXT)	547
権限 (AUT)	547
例	547

エラー・メッセージ	548
-----------	-----

装置記述の作成(ネットワーク)

(CRTDEVNET)	549
パラメーター	549
装置記述 (DEV D)	549
タイプ (TYPE)	549
IPL時のオンライン (ONLINE)	550
接続される制御装置 (CTL)	550
テキスト'記述' (TEXT)	550
権限 (AUT)	550
例	551
エラー・メッセージ	551

装置記述の作成(NWSH)

(CRTDEVNWSH)	553
パラメーター	553
装置記述 (DEV D)	554
資源名 (RSRCNAME)	554
ローカル・インターフェース (LCLIFC)	554
IPL時のオンライン (ONLINE)	556
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	557
回復限界 (CMNRCYLMT)	557
テキスト'記述' (TEXT)	558
権限 (AUT)	558
例	558
エラー・メッセージ	559

装置記述作成 (光ディスク)

(CRTDEVOPT)	561
パラメーター	561
装置記述 (DEV D)	561
資源名 (RSRCNAME)	561
装置タイプ (TYPE)	562
IPL時のオンライン (ONLINE)	562
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	562
テキスト'記述' (TEXT)	563
権限 (AUT)	563
例	564
エラー・メッセージ	564

装置記述の作成 (印刷装置)

(CRTDEVPR T)	565
パラメーター	565
装置記述 (DEV D)	568
装置クラス (DEVCLS)	569
装置タイプ (TYPE)	569
装置型式 (MODEL)	570
LAN接続機構 (LANATTACH)	571
交換回線リスト (SWTLINLST)	571
LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)	572
アダプター・タイプ (ADPTTYPE)	572
アダプター接続タイプ (ADPTCNNTYP)	572
エミュレートされる平衡型装置 (EMLDEV)	572

拡張機能の印刷 (AFP)	573
AFP接続機構 (AFPATTACH)	573
ポート番号 (PORT)	573
スイッチの設定値 (SWTSET)	574
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	574
補助印刷装置 (AUXPRT)	574
ASCII装置のエミュレート (EMLASCII)	575
物理的接続 (ATTACH)	575
IPL時のオンライン (ONLINE)	576
接続される制御装置 (CTL)	576
言語タイプ (LNGTYPE)	576
印刷品質 (PRTQLTY)	578
フォント識別コード (FONT)	579
用紙送り (FORMFEED)	579
区切り用紙入れ (SEPDRAWER)	580
セパレーター・プログラム (SEPPGM)	580
用紙入れの数 (NBRDRAWER)	581
印刷装置エラー・メッセージ (PRTERMSG)	581
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	581
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	582
適用業務タイプ (APPTYPE)	582
活動化タイマー (ACTTMR)	582
非活動タイマー (INACTTMR)	583
SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	584
SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)	584
ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド (LOGON)	584
ペーシング値 (PACING)	584
回線速度 (LINESPEED)	585
語の長さ (WORDLEN)	585
パリティのタイプ (PARITY)	585
停止ビット (STOPBITS)	586
ホスト印刷の変換 (TRANSFORM)	586
メーカー・タイプ、型式 (MFRYPMDL)	586
用紙入れ1 (PPRSRC1)	592
用紙入れ2 (PPRSRC2)	593
エンベロープ・ソース (ENVELOPE)	594
ASCIIコード・ページ 899 サポート (ASCII899)	594
イメージ構成 (IMGCFG)	594
保留中要求の最大数 (MAXPNDRQS)	597
変換中の印刷 (PRTCVT)	597
印刷要求タイマー (PRTRQSTMR)	597
用紙定義 (FORMDF)	597
文字識別コード (CHRID)	598
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	598
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	599
モード (MODE)	599
DBCS機能 (IGCFEAT)	599
ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)	600
ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)	600
データ変換プログラム (USRDTATFM)	601
ユーザー定義ドライバ・プログラム (USRDRVPGM)	602
システム・ドライバ・プログラム (SYSDRVPGM)	602
保護接続 (SECURECNN)	603
妥当性検査リスト (VLDL)	603

テキスト'記述' (TEXT)	605
従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)	605
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	605
ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)	606
権限 (AUT)	606
例	607
エラー・メッセージ	607

装置記述の作成 (小売業)

(CRTDEVRTL) 609

パラメーター	609
装置記述 (DEVDD)	609
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	610
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	610
IPL時のオンライン (ONLINE)	610
接続される制御装置 (CTL)	610
ペーシング値 (PACING)	610
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	610
適用業務タイプ (APPTYPE)	611
装置クラス (DEVCLS)	611
活動化タイマー (ACTTMR)	611
非活動タイマー (INACTTMR)	612
SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	612
SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)	612
テキスト'記述' (TEXT)	613
権限 (AUT)	613
例	614
エラー・メッセージ	614

装置記述の作成(SNPT) (CRTDEVSNPT) 615

パラメーター	615
装置記述 (DEVDD)	615
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	615
SNAパススルー・クラス (SNPTCLS)	616
IPL時のオンライン (ONLINE)	616
接続される制御装置 (CTL)	616
活動化タイマー (ACTTMR)	616
SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)	616
SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)	617
テキスト'記述' (TEXT)	617
従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)	617
権限 (AUT)	618
例	618
エラー・メッセージ	618

装置記述の作成(SNUF) (CRTDEVSNUF) 621

パラメーター	621
装置記述 (DEVDD)	621
ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)	622
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	622
IPL時のオンライン (ONLINE)	622
接続される制御装置 (CTL)	622
プログラム開始要求可能 (PGMSTRRQS)	622
特別なホスト適用業務 (SPCHOSTAPP)	622
適用業務識別コード (APPID)	623

ホスト・タイプ (HOST)	623
レコード長 (RCDLEN)	623
ブロックの長さ (BLKLEN)	623
省略時のプログラム (DFTPGM)	624
HCPエミュレーション (HCP EML)	624
テキスト'記述' (TEXT)	624
従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)	625
権限 (AUT)	625
例	626
エラー・メッセージ	626

装置記述の作成 (テープ)

(CRTDEVTAP) 627

パラメーター	627
装置記述 (DEV D)	627
装置タイプ (TYPE)	628
装置型式 (MODEL)	628
資源名 (RSRCNAME)	628
スイッチの設定値 (SWTSET)	629
IPL時のオンライン (ONLINE)	629
接続される制御装置 (CTL)	629
オンに構成変更時の装置割当て (ASSIGN)	629
オフに構成変更時の装置アンロード (UNLOAD)	629
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	630
テキスト'記述' (TEXT)	630
権限 (AUT)	630
例	631
エラー・メッセージ	631

ディレクトリーの作成 (CRTDIR) 633

パラメーター	634
ディレクトリー (DIR)	634
データの共通認可 (DTAAUT)	634
オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)	635
オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)	636
オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)	637
制限付き名前変更とリンク解除 (RSTDRNMUNL)	638
例	638
エラー・メッセージ	638

文書作成 (CRTDOC) 641

パラメーター	641
文書 (DOC)	641
フォルダー (FLR)	641
テキスト・プロファイル (TXTPRF)	642
文書記述 (TEXT)	642
文書明細 (DETAILS)	642
文書の編集 (EDIT)	642
出口表示画面 (EXITPNL)	643
例	643
エラー・メッセージ	643

表示装置ファイル作成 (CRTDSPF) 645

パラメーター	645
ファイル (FILE)	646

ソース・ファイル (SRCFILE)	647
ソース・メンバー(SRCMBR)	647
生成重大度レベル (GENLVL)	647
フラグづけ重大度レベル (FLAG)	648
表示装置 (DEV)	648
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	648
外字 (IGCEXNCHR)	649
テキスト'記述' (TEXT)	649
ソース・リスト・オプション (OPTION)	649
装置の最大数 (MAXDEV)	650
拡張表示 (ENHDSP)	650
画面復元 (RSTDSP)	651
書き出し据え置き (DFRWRT)	651
文字識別コード (CHRID)	651
10進数形式 (DECFMT)	652
SFLENDテキスト (SFLENDTXT)	652
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	653
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	653
データ待ち行列名 (DTAQ)	653
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	654
分類順序 (SRTSEQ)	654
言語識別コード (LANGID)	655
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	655
権限 (AUT)	655
ファイルの置き換え (REPLACE)	656
例	657
エラー・メッセージ	657

配布リスト作成 (CRTDSTL) 659

パラメーター	659
リスト識別コード (LSTID)	659
リスト記述 (LSTD)	660
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	660
例	660
エラー・メッセージ	661

データ域作成 (CRTDTAARA) 663

パラメーター	664
データ域 (DTAARA)	664
タイプ (TYPE)	665
長さ (LEN)	665
初期値 (VALUE)	666
リモート・データ域 (RMTDTAARA)	666
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	666
リレーショナル・データベース (RDB)	667
APPC装置記述 (DEV)	667
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	667
モード (MODE)	667
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	668
テキスト'記述' (TEXT)	668
権限(AUT)	669
例	669
エラー・メッセージ	670

データ・ディクショナリー作成 (CRTDTADCT) 673

パラメーター	673
データ・ディクショナリー (DTADCT)	673
テキスト'記述' (TEXT)	673
権限 (AUT)	674
例	674
エラー・メッセージ	675

データ待ち行列作成 (CRTDTAQ) . . . 677

パラメーター	677
データ待ち行列名 (DTAQ)	678
タイプ (TYPE)	678
最大項目長 (MAXLEN)	679
補助記憶域への強制書き込み (FORCE)	679
順序 (SEQ)	679
キーの長さ (KEYLEN)	680
送信元IDの組み込み (SENDERID)	680
待ち行列サイズ (SIZE)	680
自動再利用 (AUTORCL)	681
リモート・データ待ち行列 (RMTDTAQ)	681
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	682
リレーショナル・データベース (RDB)	682
APPC装置記述 (DEV)	682
ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)	682
モード (MODE)	683
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	683
テキスト'記述' (TEXT)	684
権限 (AUT)	684
例	685
エラー・メッセージ	685

複製オブジェクト作成 (CRTDUPOBJ) 687

パラメーター	689
オブジェクト (OBJ)	689
FROMライブラリー (FROMLIB)	690
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	690
TOライブラリー (TOLIB)	691
新しいオブジェクト (NEWOBJ)	691
複写元ASP装置 (ASPDEV)	692
宛先ASP装置 (TOASPDEV)	692
データの複写 (DATA)	693
重複制約 (CST)	693
重複トリガー (TRG)	693
例	694
エラー・メッセージ	694

編集記述作成 (CRTEDTD) . . . 697

パラメーター	697
編集記述 (EDTD)	697
整数マスク (INTMASK)	698
小数点文字 (DECPNT)	698
小数マスク (FRACMASK)	699
充てん文字 (FILLCHAR)	699
通貨記号 (CURSYM)	699
ゼロ値の編集 (ZEROBAL)	700
否定状況文字 (NEGSTS)	700
肯定状況文字 (POSSTS)	700

左の定数文字 (LFTCNS)	701
右の定数文字 (RGTCNS)	701
テキスト'記述' (TEXT)	701
権限 (AUT)	701
例	702
エラー・メッセージ	704

フォルダー作成 (CRTFLR) . . . 705

パラメーター	705
フォルダー (FLR)	705
フォルダー中 (INFLR)	706
テキスト'記述' (TEXT)	706
権限 (AUT)	706
補助記憶域プールID (ASP)	707
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	707
例	708
エラー・メッセージ	708

フォント資源の作成 (CRTFNTRSC) . . 709

パラメーター	709
フォント資源 (FNTRSC)	709
ソース・ファイル (FILE)	710
ソース・ファイル・メンバー (MBR)	710
フォント取り込み (FNTCAPTURE)	710
テキスト'記述' (TEXT)	711
フォント資源の置き換え (REPLACE)	711
権限 (AUT)	712
例	712
エラー・メッセージ	713

フォント・テーブルの作成 (CRTFNNTBL) . . . 715

パラメーター	716
フォント・テーブル (FNNTBL)	716
テキスト'記述' (TEXT)	717
権限 (AUT)	718
例	718
エラー・メッセージ	718

用紙定義の作成 (CRTFORMDF) . . . 721

パラメーター	721
用紙定義 (FORMDF)	721
ソース・ファイル (FILE)	722
ソース・ファイル・メンバー (MBR)	722
テキスト'記述' (TEXT)	722
用紙定義の置き換え (REPLACE)	723
権限 (AUT)	723
例	724
エラー・メッセージ	724

フィルターの作成 (CRTFTR) . . . 727

パラメーター	727
フィルター (FILTER)	727
タイプ (TYPE)	728
テキスト'記述' (TEXT)	728
権限 (AUT)	728

例	729
エラー・メッセージ	729
図形記号セット作成 (CRTGSS)	731
パラメーター	731
図形記号セット (GSS)	732
ファイル (FILE)	732
メンバー (MBR)	732
テキスト'記述' (TEXT)	732
権限 (AUT)	733
例	734
エラー・メッセージ	734

ICFファイル作成 (CRTICFF)	735
パラメーター	735
ファイル (FILE)	736
ソース・ファイル (SRCFILE)	736
ソース・メンバー(SRCMBR)	736
生成重大度レベル (GENLVL)	737
フラグづけ重大度レベル (FLAG)	737
獲得するプログラム装置 (ACQPGMDEV)	737
テキスト'記述' (TEXT)	737
ソース・リスト・オプション (OPTION)	738
プログラム装置の最大数 (MAXPGMDEV)	738
最大レコード長 (MAXRCDLEN)	739
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	739
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	739
データ待ち行列名 (DTAQ)	740
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	740
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	741
権限 (AUT)	741
ファイルの置き換え (REPLACE)	741
例	742
エラー・メッセージ	742

DBCS変換辞書作成 (CRTIGCDCT)	743
パラメーター	743
DBCS変換辞書 (IGCDCT)	743
テキスト'記述' (TEXT)	743
権限 (AUT)	744
例	744
エラー・メッセージ	745

イメージ・カタログの作成 (CRTIMGCLG)	747
パラメーター	748
イメージ・カタログ (IMGCLG)	748
ディレクトリー (DIR)	748
イメージ・カタログ・タイプ (TYPE)	749
ディレクトリーの作成 (CRTDIR)	749
参照イメージ・カタログ (REFIMGCLG)	749
テキスト'記述' (TEXT)	750
権限(AUT)	750
例	750
エラー・メッセージ	751

ジョブ記述作成 (CRTJOBQ)	753
パラメーター	753
ジョブ記述 (JOBQ)	754
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	755
ジョブ優先順位(JOBQでの) (JOBPTY)	755
出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)	755
印刷装置 (PRTDEV)	756
出力待ち行列 (OUTQ)	756
テキスト'記述' (TEXT)	757
ユーザー (USER)	757
会計コード (ACGCDE)	758
印刷テキスト (PRTTXT)	758
経路指定データ (RTGDTA)	758
要求データまたはコマンド (RQSDTA)	759
初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)	759
初期ASPグループ (INLASPGRP)	759
メッセージのロギング (LOG)	760
CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)	761
ジョブ・ログ出力 (LOGOUTPUT)	761
ジョブ・メッセージ待ち行列最大サイズ (JOBMSGQMX)	762
ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処置 (JOBMSGQFL)	762
CL構文検査 (SYNTAX)	763
終了重大度 (ENDSEV)	763
照会メッセージ応答 (INQMSGRPY)	764
ジョブ待ち行列上での保留 (HOLD)	764
ジョブ日付 (DATE)	764
ジョブ・スイッチ (SWS)	764
装置回復処置 (DEVRCYACN)	765
タイム・スライス終了プール (TSEPOOL)	765
権限(AUT)	766
マルチスレッド使用可能 (ALWMLTTHD)	766
スプール・ファイル・アクション (SPLFACN)	767
DDM会話 (DDMCNV)	767
例	768
エラー・メッセージ	768

ジョブ待ち行列作成 (CRTJOBQ)	769
パラメーター	769
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	770
テキスト'記述' (TEXT)	770
操作員制御 (OPRCTL)	770
検査権限 (AUTCHK)	770
権限(AUT)	771
例	771
エラー・メッセージ	772

ジャーナル作成 (CRTJRN)	773
パラメーター	773
ジャーナル (JRN)	774
ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)	775
ASP番号 (ASP)	775
ジャーナル・メッセージ待ち行列 (MSGQ)	776
レシーバーの管理 (MNGRCV)	777
レシーバーの削除 (DLTRCV)	778

レシーバー・サイズ・オプション (RCVSIZEOPT)	778
項目固有のデータの最小化 (MINENTDTA)	779
ジャーナル・キャッシング (JRNCACHE)	780
受信側遅延時間の管理 (MNGRCVDLY)	780
受信側遅延時間の削除 (DLTRCVDLY)	781
固定長データ (FIXLENDTA)	781
ジャーナル・オブジェクト限界 (JRNOBJLMT)	782
テキスト'記述' (TEXT)	782
権限 (AUT)	782
例	783
エラー・メッセージ	784

ジャーナル・レシーバー作成 (CRTJRNRCV) 787

パラメーター	787
ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)	787
ASP番号 (ASP)	788
ジャーナル・レシーバーしきい値 (THRESHOLD)	788
テキスト'記述' (TEXT)	789
入れたい記憶装置 (UNIT)	789
権限 (AUT)	790
例	790
エラー・メッセージ	791

JAVAプログラムの作成 (CRTJVAPGM) 793

パラメーター	793
クラス・ファイルまたはJARファイル (CLSF)	794
クラスパス (CLASSPATH)	794
JAVA DEVELOPER KITバージョン (JDKVER)	794
最適化 (OPTIMIZE)	795
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	796
借用権限の使用 (USEADPAUT)	796
プログラムの置き換え (REPLACE)	796
パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFRCOL)	797
プロファイリング・データ (PRFDTA)	797
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	797
ターゲット・リリース (TGTRLS)	798
LICオプション (LICOPT)	798
LICオプション・ファイル (LICOPTFILE)	798
例	799
エラー・メッセージ	799

論理ファイル作成 (CRTLF) 801

パラメーター	801
ファイル (FILE)	802
ソース・ファイル (SRCFILE)	803
ソース・メンバー (SRCMBR)	803
生成重大度レベル (GENLVL)	804
フラグづけ重大度レベル (FLAG)	804
ファイル・タイプ (FILETYPE)	804
論理ファイル・メンバー (MBR)	804
物理ファイル・データ・メンバー (DTAMBR)	805
テキスト'記述' (TEXT)	807
ソース・リスト・オプション (OPTION)	807
システム (SYSTEM)	808
メンバーの最大数 (MAXMBRS)	808

アクセス・パス・サイズ (ACCPHSIZ)	809
アクセス・パス論理ページ・サイズ (PAGESIZE)	809
アクセス・パスの保守 (MAINT)	809
アクセス・パス回復 (RECOVER)	810
強制キー順アクセス・パス (FRCACCPH)	811
入れたい記憶装置 (UNIT)	811
レコード様式選択プログラム (FMTSLR)	811
強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)	812
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	813
最大レコード待機時間 (WAITRCD)	813
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	813
分類順序 (SRTSEQ)	814
言語識別コード (LANGID)	814
レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)	815
権限 (AUT)	815
例	815
エラー・メッセージ	816

ライブラリー作成 (CRTLIB) 817

パラメーター	817
ライブラリー (LIB)	817
ライブラリー・タイプ (TYPE)	818
テキスト'記述' (TEXT)	818
権限 (AUT)	818
ASP番号 (ASP)	819
ASP装置 (ASPDEV)	820
作成権限 (CRTAUT)	820
オブジェクト監査の作成 (CRTOBJAUD)	821
例	821
エラー・メッセージ	822

回線記述の作成 (非同期) (CRTLINASC) 825

パラメーター	825
回線記述 (LIND)	826
資源名 (RSRCNAME)	826
IPL時のオンライン (ONLINE)	827
物理インターフェース (INTERFACE)	827
接続タイプ (CNN)	827
交換網バックアップ (SNBU)	828
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	828
自動呼び出し装置 (AUTOCALL)	828
文字当たりのデータ・ビット数 (BITSCHAR)	829
パリティのタイプ (PARITY)	829
停止ビット (STOPBITS)	829
二重 (DUPLEX)	829
エコー・サポート (ECHO)	830
回線速度 (LINESPEED)	830
サポートされるモデム・タイプ (MODEM)	830
交換接続タイプ (SWTCNN)	831
自動返答 (AUTOANS)	831
自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)	831
ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)	831
モデムASYNC設定コマンド (SETMDMASC)	832
モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)	833
自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)	833

呼び出し番号 (CALLNBR)	834
非活動タイマー (INACTTMR)	834
最大バッファ・サイズ (MAXBUFFER)	834
フロー制御 (FLOWCNTL)	834
XON文字 (XONCHAR)	835
XOFF文字 (XOFFCHAR)	835
レコードの終わりテーブル (EORTBL)	835
データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)	836
自動返答タイプ (AUTOANSTYP)	836
リモート返答タイマー (RMTANSTMR)	836
テキスト'記述' (TEXT)	836
接続された非交換制御装置 (CTL)	837
交換制御装置リスト (SWTCTLLST)	837
モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)	837
エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)	837
アイドル・タイマー (IDLTMR)	838
送信可タイマー (CTSTMR)	838
回復限界 (CMNRCYLMT)	838
権限 (AUT)	839
例	839
エラー・メッセージ	839

回線記述の作成(BSC) (CRTLINBSC) 841

パラメーター	841
回線記述 (LIND)	842
資源名 (RSRCNAME)	842
IPL時のオンライン (ONLINE)	842
適用業務タイプ (APPTYPE)	843
物理インターフェース (INTERFACE)	843
接続タイプ (CNN)	843
交換網バックアップ (SNBU)	844
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	844
自動呼び出し装置 (AUTOCALL)	845
端末アドレス (STNADR)	845
刻時 (CLOCK)	845
二重 (DUPLEX)	845
回線速度 (LINESPEED)	846
サポートされるモデム・タイプ (MODEM)	846
交換接続タイプ (SWTCNN)	846
自動返答 (AUTOANS)	847
自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)	847
ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)	847
自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)	847
呼び出し番号 (CALLNBR)	848
非活動タイマー (INACTTMR)	848
最大バッファ・サイズ (MAXBUFFER)	848
文字コード (CODE)	848
受信タイマー (RCVTMR)	849
続行タイマー (CONTTMR)	849
回線争奪状態再試行 (CTNRTY)	849
データ状態再試行 (DTASTTRY)	849
TTDまたはWACK送信再試行 (TMTRTY)	850
TTDまたはWACK受信再試行 (RCVRTY)	850
データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)	850

自動返答タイプ (AUTOANSTYP)	850
リモート返答タイマー (RMTANSTMR)	851
テキスト'記述' (TEXT)	851
接続された非交換制御装置 (CTL)	851
交換制御装置リスト (SWTCTLLST)	851
モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)	851
SYN同期文字 (SYNCCHARS)	852
エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)	852
LRCへのSTX文字の組み込み (STXLRC)	852
送信可タイマー (CTSTMR)	852
回復限界 (CMNRCYLMT)	853
権限 (AUT)	853
例	854
エラー・メッセージ	854

回線記述の作成(DDI) (CRTLINDDI) . . . 855

パラメーター	855
回線記述 (LIND)	856
資源名 (RSRCNAME)	856
IPL時のオンライン (ONLINE)	857
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	857
最大制御装置数 (MAXCTL)	858
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	858
ロギング・レベル (LOGLVL)	858
ローカル管理機能モード (LCLMGRMODE)	859
接続NWI (NWI)	859
DLC識別コード (NWIDLCL)	859
ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)	860
交換識別コード (EXCHID)	860
SSAPリスト (SSAP)	860
テキスト'記述' (TEXT)	861
ネットワーク制御装置 (NETCTL)	861
グループ・アドレス (GRPADR)	861
トークン循環時間 (TKNRTTIME)	862
リンク速度 (LINKSPEED)	862
コスト/接続時間 (COSTCNN)	862
コスト/バイト (COSTBYTE)	863
回線の機密保護 (SECURITY)	863
伝搬遅延 (PRPDLY)	863
ユーザー定義1 (USRDFN1)	864
ユーザー定義2 (USRDFN2)	864
ユーザー定義3 (USRDFN3)	864
制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)	864
制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)	865
回復限界 (CMNRCYLMT)	865
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	865
権限 (AUT)	866
例	866
エラー・メッセージ	867

回線記述の作成(イーサネット) (CRTLINETH) . . . 869

CRTLINETHの共通エラー	869
パラメーター	869
回線記述 (LIND)	871
資源名 (RSRCNAME)	871

IPL時のオンライン (ONLINE)	872
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	872
接続NWI (NWI)	873
NWIタイプ (NWITYPE)	873
ネットワーク・サーバー 記述 (NWS)	873
関連したポート資源名 (ASSOCPORT)	874
ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)	874
交換識別コード (EXCHID)	874
イーサネット標準 (ETHSTD)	875
回線速度 (LINESPEED)	875
二重 (DUPLEX)	875
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	876
SSAPリスト (SSAP)	876
ATMアクセス・タイプ (ACCTYPE)	878
PVC識別コード (PVCID)	878
LECSアドレスの使用 (USELECSADR)	878
LES ATMアドレス (LESATMADR)	879
エミュレートLAN名 (EMLLANNAME)	879
LEC切断タイムアウト (LECDSTIMO)	879
テキスト'記述' (TEXT)	880
ネットワーク制御装置 (NETCTL)	880
グループ・アドレス (GRPADR)	880
最大制御装置数 (MAXCTL)	880
エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)	881
テスト・フレームの生成 (GENTSTFRM)	881
リンク速度 (LINKSPEED)	881
コスト/接続時間 (COSTCNN)	881
コスト/バイト (COSTBYTE)	882
回線の機密保護 (SECURITY)	882
伝搬遅延 (PRPDLY)	882
ユーザー定義1 (USRDFN1)	883
ユーザー定義2 (USRDFN2)	883
ユーザー定義3 (USRDFN3)	883
制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)	883
制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)	884
回復限界 (CMNRCYLMT)	884
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	884
権限 (AUT)	885
例	885
エラー・メッセージ	886

回線記述の作成(ファクシミリ)

(CRTLINFAX) 887

パラメーター	887
回線記述 (LIND)	887
資源名 (RSRCNAME)	887
IPL時のオンライン (ONLINE)	888
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	888
テキスト'記述' (TEXT)	889
接続された非交換制御装置 (CTL)	889
権限 (AUT)	889
例	890
エラー・メッセージ	890

回線記述の作成(フレーム・リレー)

(CRTLINFR) 891

パラメーター	891
回線記述 (LIND)	892
接続NWI (NWI)	892
DLC識別コード (NWIDLCT)	892
IPL時のオンライン (ONLINE)	893
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	893
最大制御装置数 (MAXCTL)	893
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	894
交換識別コード (EXCHID)	894
SSAPリスト (SSAP)	894
テキスト'記述' (TEXT)	895
リンク速度 (LINKSPEED)	895
ネットワーク制御装置 (NETCTL)	896
コスト/接続時間 (COSTCNN)	896
コスト/バイト (COSTBYTE)	896
回線の機密保護 (SECURITY)	896
伝搬遅延 (PRPDLY)	897
ユーザー定義1 (USRDFN1)	897
ユーザー定義2 (USRDFN2)	898
ユーザー定義3 (USRDFN3)	898
回復限界 (CMNRCYLMT)	898
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	898
権限 (AUT)	899
例	900
エラー・メッセージ	900

回線記述(PPP)の作成 (CRTLINPPP) 901

パラメーター	901
回線記述 (LIND)	902
資源名 (RSRCNAME)	903
接続タイプ (CNN)	903
フレーム・タイプ (FRAMING)	903
物理インターフェース (INTERFACE)	903
接続された非交換NWI (NWI)	904
NWIチャンネル番号 (NWICHLNBR)	904
交換NWIリスト (SWTNWILST)	904
IPL時のオンライン (ONLINE)	905
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	905
回線速度 (LINESPEED)	906
情報転送タイプ (INFTRFTYPE)	906
モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)	907
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	908
交換接続タイプ (SWTCNN)	908
交換NWI選択 (SWTNWISLCT)	908
発信接続リスト (CNNLSTOUT)	909
接続リスト項目 (CNNLSTOUTE)	909
着信接続リスト (CNNLSTIN)	909
刻時 (CLOCK)	909
ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)	910
モデムASYNC設定コマンド (SETMDMASC)	910
呼び出し番号 (CALLNBR)	911
フロー制御 (FLOWCNTL)	911
ネットワーク制御装置 (NETCTL)	912
送信可タイマー (CTSTMR)	912
非活動タイマー (INACTTMR)	912

リモート返答タイマー (RMTANSTMR)	912
NRZIデータ・エンコード (NRZI)	913
テキスト'記述' (TEXT)	913
非同期制御文字マップ (ACCM)	913
LCP認証値 (LCPAUT)	914
LCP構成値 (LPCPCFG)	915
圧縮 (COMPRESS)	915
回復限界 (CMNRCYLMT)	916
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	916
権限 (AUT)	917
例	917
エラー・メッセージ	917

回線記述の作成(SDLC) (CRTLINS DLC) 919

パラメーター	919
回線記述 (LIND)	921
資源名 (RSRCNAME)	921
IPL時のオンライン (ONLINE)	921
データ・リンクの役割 (ROLE)	922
物理インターフェース (INTERFACE)	922
接続タイプ (CNN)	922
交換網バックアップ (SNBU)	923
SHMノード・タイプ (SHMNODE)	923
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	924
自動呼び出し装置 (AUTOCALL)	924
交換識別コード (EXCHID)	924
NRZIデータ・エンコード (NRZI)	925
最大制御装置数 (MAXCTL)	925
刻時 (CLOCK)	925
回線速度 (LINESPEED)	926
サポートされるモデム・タイプ (MODEM)	926
交換接続タイプ (SWTCNN)	926
自動返答 (AUTOANS)	927
自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)	927
モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)	927
ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)	928
自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)	928
SHM呼び出しタイマー (SHMCALLTMR)	928
SHM最大接続タイマー (SHMMAXCNN)	929
SHM返答遅延タイマー (SHMANSPLY)	929
SHM呼び出し形式 (SHMCALLFMT)	929
SHMアクセス・コード (SHMACC)	930
呼び出し番号 (CALLNBR)	930
端末アドレス (STNADR)	930
ポーリング接続再試行 (CNNPOLLRTY)	931
接続タイマー (CNNTMR)	931
短時間タイマー (SHORTTMR)	931
長時間タイマー (LONGTMR)	932
短時間再試行 (SHORTRTY)	932
長時間再試行 (LONGRTY)	932
呼び出し進行中信号再試行 (CPSRTY)	932
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	933
二重 (DUPLEX)	933
非活動タイマー (INACTTMR)	933
ポーリング応答遅延 (POLLRSPDLY)	934

非生産受信タイマー (NPRDRCVTMR)	934
アイドル・タイマー (IDLTMR)	934
接続ポーリング・タイマー (CNNPOLLTMR)	934
ポーリング・サイクル休止 (POLLPAUSE)	934
フレーム再試行 (FRAMERTY)	935
フェア・ポーリング・タイマー (FAIRPLLTMR)	935
データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)	935
自動返答タイプ (AUTOANSTYP)	935
リモート返答タイマー (RMTANSTMR)	936
テキスト'記述' (TEXT)	936
接続された非交換制御装置 (CTL)	936
モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)	936
エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)	936
モジュラス (MODULUS)	937
最大未処理フレーム数 (MAXOUT)	937
送信可タイマー (CTSTMR)	937
リンク速度 (LINKSPEED)	937
コスト/接続時間 (COSTCNN)	938
コスト/バイト (COSTBYTE)	938
回線の機密保護 (SECURITY)	938
伝搬遅延 (PRPDLY)	939
ユーザー定義1 (USRDFN1)	939
ユーザー定義2 (USRDFN2)	940
ユーザー定義3 (USRDFN3)	940
回復限界 (CMNRCYLMT)	940
権限 (AUT)	940
例	941
エラー・メッセージ	941

回線記述の作成(TDLC) (CRTLINTDLC) 943

パラメーター	943
回線記述 (LIND)	943
接続したワークステーション制御機構 (WSC)	943
IPL時のオンライン (ONLINE)	944
テキスト'記述' (TEXT)	944
ネットワーク制御装置 (NETCTL)	944
接続された非交換制御装置 (CTL)	944
権限 (AUT)	944
例	945
エラー・メッセージ	945

回線記述の作成(トークンリング)

(CRTLINTRN) 947

パラメーター	947
回線記述 (LIND)	949
資源名 (RSRCNAME)	949
NWIタイプ (NWIATYPE)	950
IPL時のオンライン (ONLINE)	950
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	950
最大制御装置数 (MAXCTL)	951
接続NWI (NWI)	951
DLC識別コード (NWDLCI)	951
ネットワーク・サーバー 記述 (NWS)	951
回線速度 (LINESPEED)	952
二重 (DUPLEX)	952

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	953
LECフレーム・サイズ (LECFRAME)	953
ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)	954
交換識別コード (EXCHID)	954
SSAPリスト (SSAP)	954
ATMアクセス・タイプ (ACCTYPE)	955
PVC識別コード (PVCID)	956
LECSアドレスの使用 (USELECSADR)	956
LES ATMアドレス (LESATMADR)	956
エミュレートLAN名 (EMLLANNAME)	957
LEC切断タイムアウト (LECDSTIMO)	957
テキスト記述 (TEXT)	957
ネットワーク制御装置 (NETCTL)	958
LAN管理機能の活動化 (ACTLANMGR)	958
TRLAN管理機能ロギング・レベル (TRNLOGLVL)	958
TRLAN管理機能モード (TRNMGRMODE)	958
構成変更ログ (LOGCFGCHG)	959
ビーコンのトークンリング通知 (TRNINFBCN)	959
機能分野アドレス (FCNADR)	959
トークン早期解放 (ELYTKNRLS)	960
エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)	961
リンク速度 (LINKSPEED)	961
コスト/接続時間 (COSTCNN)	961
コスト/バイト (COSTBYTE)	961
回線の機密保護 (SECURITY)	962
伝搬遅延 (PRPDLY)	962
ユーザー定義1 (USRDFN1)	962
ユーザー定義2 (USRDFN2)	963
ユーザー定義3 (USRDFN3)	963
制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)	963
制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)	963
回復限界 (CMNRCYLMT)	964
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	964
権限 (AUT)	964
例	965
エラー・メッセージ	965

回線記述の作成 (無線) (CRTLINWLS) 967

パラメーター	967
回線記述 (LIND)	968
資源名 (RSRCNAME)	968
IPL時のオンライン (ONLINE)	969
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	969
ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)	969
交換識別コード (EXCHID)	970
イーサネット標準 (ETHSTD)	970
SSAPリスト (SSAP)	970
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	971
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	972
初期設定プログラム (INZPGM)	972
テキスト記述 (TEXT)	973
ネットワーク制御装置 (NETCTL)	973
グループ・アドレス (GRPADR)	973
最大制御装置数 (MAXCTL)	973
リンク速度 (LINKSPEED)	973
コスト/接続時間 (COSTCNN)	974

コスト/バイト (COSTBYTE)	974
回線の機密保護 (SECURITY)	974
伝搬遅延 (PRPDLY)	975
ユーザー定義1 (USRDFN1)	975
ユーザー定義2 (USRDFN2)	975
ユーザー定義3 (USRDFN3)	975
制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)	976
制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)	976
回復限界 (CMNRCYLMT)	976
権限 (AUT)	977
例	977
エラー・メッセージ	978

回線記述の作成(X.25) (CRTLINX25) 979

パラメーター	979
回線記述 (LIND)	981
資源名 (RSRCNAME)	982
論理チャンネル項目 (LGLCHLE)	982
ローカル・ネットワーク・アドレス (NETADR)	983
接続開始 (CNNINIT)	983
IPL時のオンライン (ONLINE)	983
物理インターフェース (INTERFACE)	983
接続タイプ (CNN)	984
接続された非交換NWI (NWI)	984
NWIチャンネル・タイプ (NWLCHLTYPE)	985
NWIチャンネル番号 (NWLCHLNBR)	985
交換NWIリスト (SWTNWLST)	985
オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)	986
回線速度 (LINESPEED)	986
交換識別コード (EXCHID)	987
パケット・モード (PKTMODE)	987
情報転送タイプ (INFTRFTYPE)	987
拡張ネットワーク・アドレス指定 (EXNNETADR)	988
最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)	988
省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)	988
最大パケット・サイズ (MAXPKTSIZE)	989
モジュラス (MODULUS)	989
省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)	989
パケットへネットワーク・アドレスの挿入 (ADRINSERT)	990
ネットワーク・ユーザー識別コード (NETUSRID)	990
接続番号 (CNNNBR)	990
呼び出し番号 (CALLNBR)	990
交換接続タイプ (SWTCNN)	991
発信接続リスト (CNNLSTOUT)	991
接続リスト項目 (CNNLSTOUTE)	991
着信接続リスト (CNNLSTIN)	992
自動返答 (AUTOANS)	992
自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)	992
ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)	992
モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)	993
即時呼び出し (CALLIMMED)	993
自動呼び出し装置 (AUTOCALL)	994
自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)	994
事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)	994

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)	994
ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)	994
交換回線切断 (SWTDSC)	995
切断タイマー (SWTDSCTMR)	995
データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)	995
自動返答タイプ (AUTOANSTYP)	995
リモート返答タイマー (RMTANSTMR)	996
刻時 (CLOCK)	996
交換NWI選択 (SWTNWISLCT)	996
テキスト'記述' (TEXT)	997
X.25 DCEサポート (X25DCE)	997
ネットワーク制御装置 (NETCTL)	997
交換制御装置リスト (SWTCTLLST)	997
アイドル・タイマー (IDLTMR)	998
フレーム再試行 (FRAMERTY)	998
エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)	998
サポートされるモデム・タイプ (MODEM)	998
モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)	999
送信可タイマー (CTSTMR)	999
リンク速度 (LINKSPEED)	999
コスト/接続時間 (COSTCNN)	1000
コスト/バイト (COSTBYTE)	1000
回線の機密保護 (SECURITY)	1000
伝搬遅延 (PRPDLY)	1001
ユーザー定義1 (USRDFN1)	1001
ユーザー定義2 (USRDFN2)	1001
ユーザー定義3 (USRDFN3)	1002
回復限界 (CMNRCYLMT)	1002
メッセージ待ち行列 (MSGQ)	1002
権限 (AUT)	1003
例	1003
エラー・メッセージ	1004
ロケール作成 (CRTLOCALE)	1005
パラメーター	1005
ロケール名 (LOCALE)	1006
ソース・ファイル・パス名 (SRCFILE)	1006
コード化文字セットID (CCSID)	1006
生成重大度レベル (GENLVL)	1006
テキスト'記述' (TEXT)	1007
出力 (OUTPUT)	1007
ソース・リスト・オプション (OPTION)	1007
オブジェクトの置き換え (REPLACE)	1007
データの共通認可 (DTAAUT)	1008
オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)	1009
例	1009
エラー・メッセージ	1010

メニュー作成 (CRTMNU)	1011
パラメーター	1011
メニュー (MENU)	1012
メニュー・タイプ (TYPE)	1012
表示装置ファイル (DSPF)	1013
メッセージ・ファイル (MSGF)	1013
コマンド入力行 (CMDLIN)	1014
機能キーの表示 (DSPKEY)	1014
プログラム (PGM)	1014
ソース・ファイル (SRCFILE)	1015
ソース・メンバー (SRCMBR)	1015
ソース・リスト・オプション (OPTION)	1016
組み込みファイル (INCFIL)	1016
現行ライブラリー (CURLIB)	1017
実行ライブラリー (PRDLIB)	1017
文字識別コード (CHRID)	1018
メニューの置き換え (REPLACE)	1018
テキスト'記述' (TEXT)	1018
権限(AUT)	1019
例	1019
エラー・メッセージ	1020

モード記述作成 (CRTMODD)	1021
パラメーター	1021
モード記述 (MODD)	1022
最大セッション (MAXSSN)	1022
会話の最大数 (MAXCNV)	1022
ローカル制御セッション数 (LCLCTLSSN)	1022
事前結合セッション数 (PREESTSSN)	1023
最大インバウンド・ペーシング値 (MAXINPAC)	1023
インバウンド・ペーシング値 (INPACING)	1023
アウトバウンド・ペーシング値 (OUTPACING)	1023
要求単位の最大長 (MAXLENRU)	1024
データ圧縮 (DTACPR)	1024
インバウンド・データの圧縮 (INDTACPR)	1025
アウトバウンド・データの圧縮 (OUTDTACPR)	1026
セッション・レベル暗号 (SLE)	1026
テキスト'記述' (TEXT)	1027
サービス・クラス (COS)	1027
権限 (AUT)	1027
例	1028
エラー・メッセージ	1028

付録. 特記事項	1029
商標	1030
使用条件	1031

DBCSフォント・テーブルのコピー (CPYIGCTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

漢字テーブル・コピー(CPYIGCTBL)コマンドは、システム記憶域からテープ、ディスク、または物理ファイルへ、あるいはテープ、ディスク、または物理ファイルからフォント・テーブルに、2バイト文字セット(DBCS)フォント・テーブルの一部または全部をコピーします。DBCSフォントをテープ、ディスク、または物理ファイルからフォント・テーブルにコピーすることは、システムにその定義を置くことにもなります。DBCSフォント・テーブルはオブジェクトであり、保管および復元することができます。

DBCSフォント・テーブルには、システムで使用される2バイトの外字の所定ドット・マトリックスのイメージが入っています。システムは、該当の文字を印刷および表示する場合にこのテーブルを参照します。テーブルは、システムに接続されている装置で使用される各文字のイメージ・マトリックスごとに別個のものとなっています。

このコマンドを入力する前に、次のことを考慮してください。

- コピー操作で使用するディスクは*DATA形式でなければなりません。ディスクを*DATA形式で初期化する手順はISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))に記載されています。
- システムは、OPTION(*IN)が指定された時に漢字フォント・テーブルをコピーしますが、さらに次の場合にも漢字フォント・テーブルを作成します。
 - 指定されたテーブルがシステムにまだ存在していない。
 - テーブルのコピー元であるテープまたはディスクに、システム提供のすべての漢字が入っている。
 - SELECT(*ALL)またはSELECT(*SYS)が指定された。
- システムから漢字フォント・テーブルを削除する前に、その漢字フォント・テーブルをテープまたはディスクにコピーすることを考慮してください。

制約事項:テーブル情報の保管および復元に使用される物理ファイルは、74バイトの最小レコード長でなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IGCTBL	DBCSフォント・テーブル	名前, QIGC2424, QIGC2424K, QIGC2424C, QIGC2424S, QIGC3232, QIGC3232S	必須, 定位置 1
OPTION	コピー・オプション	*OUT, *IN	必須, 定位置 2
DEV	装置	名前, *FILE	必須, 定位置 3
LABEL	ファイル・ラベル	名前, <u>IGCTBL</u>	オプション
SELECT	選択イメージ	<u>ALL</u> , *SYS, *USER, *RANGE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
RANGE	イメージの範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ユーザー・コード	文字値, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: 終了ユーザー・コード	文字値, <u>*LAST</u>	
RPLIMG	ユーザー・イメージの置き換え	<u>*NO</u> , *YES	オプション
VOL	ボリューム識別コード	値 (最大 10 回の繰り返し); 文字値, <u>*MOUNTED</u>	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, <u>*PERM</u>	オプション
SEQNBR	順序番号	1-9999, *SEARCH, *END	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	<u>*REWIND</u> , *LEAVE, *UNLOAD	オプション
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
MBR	メンバー	名前	オプション

トップ

DBCSフォント・テーブル (IGCTBL)

コピーする2バイト文字セット(DBCS)フォント・テーブルの名前を指定します。次のテーブル名の1つを選択してください。

QIGC2424

24 X 24のドット・マトリックス・イメージの外字の表示および印刷に使用される日本語DBCSフォント・テーブル。

QIGC2424C

24 X 24のドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される中国語DBCS フォント・テーブル。

QIGC2424K

24 X 24のドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される韓国語DBCS フォント・テーブル。

QIGC2424S

24 X 24のドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される中国語 (簡体字) DBCSフォント・テーブル。

QIGC3232

32 X 32のドット・マトリックス・イメージの外字の表示および印刷に使用される日本語DBCSフォント・テーブル。

QIGC3232S

32 X 32ドット・マトリックス・イメージの外字の印刷に使用される中国語 (簡体字) DBCSフォント・テーブル。

QIGCRRCCCL

コピーするDBCSフォント・テーブルの名前を指定してください。名前は常にQIGCRRCCCL という形式になっていなければなりません。*RR*はテーブル行のマトリックス・サイズ, *CC*はテーブル列のマトリックス・サイズ, および英字*L*は任意選択の言語識別コードです。

コピー・オプション (OPTION)

2バイト文字セット(DBCS)フォント・テーブルをコピーする方法として、システムからディスクレット、テープ、または物理ファイルへコピーするか、あるいはディスクレット、テープ、または物理ファイルからシステムへコピーするかを指定します。

***OUT** 指定された漢字フォント・テーブルは、ディスクレット、テープ、または物理ファイルにコピーされます。

***IN** 指定された漢字フォント・テーブルは、ディスクレット、テープ、または物理ファイルからシステムにコピーされます。

トップ

装置 (DEV)

コピー機能で使用されるディスクレット装置やテープ装置または物理ファイルの名前を指定します。

***FILE** DBCSフォント・テーブルが物理ファイルに保管されることあるいは物理ファイルから復元されることを指定します。

***装置名**

テーブルの保管先または復元元であるディスクレットまたはテープの名前を指定します。この装置名は、装置記述により、システム上ですでに認識されているものでなければなりません。

トップ

ファイル・ラベル (LABEL)

2バイト文字セット(DBCS)フォント・テーブルが入っている（あるいは入れられる）ディスクレットまたはテープ上のデータ・ファイルの名前を指定します。このテーブルがシステムにコピーされる場合には、ラベルは、ディスクレットまたはテープに存在するファイルを識別します。このテーブルがディスクレットまたはテープにコピーされる場合には、ラベルは、ディスクレットまたはテープに作成されるファイルを識別します。

***IGCTBL**

ディスクレットまたはテープのデータ・ファイル名は、DBCSフォント・テーブル名（最初の文字がないもの）と同じです。

データ・ファイル識別コード

データ・ファイルの名前（ディスクレットの場合には最大8文字、テープの場合には最大17文字で、英字で始まるもの）を指定します。

トップ

選択イメージ (SELECT)

2バイト文字セット(DBCS)フォント・テーブルのコピーされる部分を指定します。

***ALL** 弊社提供およびユーザー定義のすべての2バイト文字がコピーされます。

*SYS 弊社提供の2バイト文字だけがコピーされます。

***USER**

ユーザー定義の2バイト文字だけがコピーされます。

***RANGE**

イメージの範囲(RANGE)パラメーターに指定された範囲内にあるユーザー定義の2バイト文字だけがコピーされます。

[トップ](#)

イメージの範囲 (RANGE)

コピー元のユーザー定義の文字の範囲を指定します。

範囲の値に指定できる漢字コードおよび漢字番号は、このパラメーター記述の終わりのテーブルにリストされます。日本語、韓国語、中国語（繁体字）、および中国語（簡体字）の言語のテーブルが提供されます。

最初の値はコピーされる最初に文字を識別します。

コピーされる開始文字で使用できる値は次の通りです。

***FIRST**

システムは、テーブル中の最初のユーザー定義の2バイト文字からコピーを開始します。

最初のユーザー定義の文字

4文字の2バイト文字セット(DBCS)コードまたは5文字のDBCS番号を指定します。システムは指定したDBCSコードまたはDBCS番号からコピーを開始します。

コピーされる終了文字で使用できる値は次の通りです。

2番目の値により、コピーする最後の文字が識別されます。

***LAST**

システムは、最後のユーザー定義の文字を見つけると、コピーを停止します。

最後のユーザー定義の文字

4文字のDBCSコードまたは5文字のDBCS番号を指定します。これにより、システムは指定したDBCSまたはDBCS番号でコピーを停止します。

以下は、ユーザー定義文字範囲の開始値と終了値に指定する有効なコードと番号をリストした表です。

ユーザー定義文字の日本語漢字コード

6941 - 69FE	6A41 - 6AFE	6B41 - 6BFE
6C41 - 6CFE	6D41 - 6DFE	6E41 - 6EFE
6F41 - 6FFE	7041 - 70FE	7141 - 71FE
7241 - 72FE	7341 - 73FE	7441 - 74FE
7541 - 75FE	7641 - 76FE	7741 - 77FE
7841 - 78FE	7941 - 79FE	7A41 - 7AFE
7B41 - 7BFE	7C41 - 7CFE	7D41 - 7DFE
7E41 - 7EFE	7F41 - 7FFE	

ユーザー定義文字の日本語漢字番号

10561 - 10750	10817 - 11006
11073 - 11262	11329 - 11518
11585 - 11774	11841 - 12030
12097 - 12286	12353 - 12542

12609 - 12798	12865 - 13054
13121 - 13310	13377 - 13566
13633 - 13822	13889 - 14078
14145 - 14334	14401 - 14590
14657 - 14846	14913 - 15102
15169 - 15358	15425 - 15614
15681 - 15870	15937 - 16126
16193 - 16382	

ユーザー定義文字の韓国語漢字コード

D441 - D4FE	D541 - D5FE	D641 - D6FE
D741 - D7FE	D841 - D8FE	D941 - D9FE
DA41 - DAFE	DB41 - DBFE	DC41 - DCFE
DD41 - DDFE		

ユーザー定義文字の韓国語漢字番号

37953 - 38142	38209 - 38393
38465 - 38654	38721 - 38910
38977 - 39166	39233 - 39422
39489 - 39678	39745 - 39934
40001 - 40190	40257 - 40446

ユーザー定義文字の中国語（繁体字）漢字コード

D041 - D0FE	D141 - D1FE	D241 - D2FE
D341 - D3FE	D441 - D4FE	D541 - D5FE
D641 - D6FE	D741 - D7FE	D841 - D8FE
D941 - D9FE	DA41 - DAFE	DB41 - DBFE
DC41 - DCFE	DD41 - DDFE	

ユーザー定義文字の中国語（繁体字）漢字番号

36929 - 37118	37185 - 37374
37441 - 37630	37697 - 37886
37953 - 38142	38209 - 38398
38465 - 38654	38721 - 38910
38977 - 39166	39233 - 39422
39489 - 39678	39745 - 39934
40001 - 40190	40257 - 40446

ユーザー定義文字の中国語（簡体字）漢字コード

7641 - 76FE	7741 - 77FE
7841 - 78FE	7941 - 79FE
7A41 - 7AFE	7B41 - 7BFE
7C41 - 7CFE	7D41 - 7DFE
7E41 - 7EFE	7F41 - 7FFE

ユーザー定義文字の中国語（簡体字）漢字番号

13889 - 14078	14145 - 14334
14401 - 14590	14657 - 14846
14913 - 15102	15169 - 15358
15425 - 15614	15681 - 15870
15937 - 16126	16193 - 16382

[トップ](#)

ユーザー・イメージの置き換え (RPLIMG)

指定したテーブルのユーザー定義の2バイト文字をテープまたはディスク上で見つかった2バイト文字に置き換えるかどうかを指定します。この値は、テープまたはディスクからシステムへコピーするときにだけ指定してください。

***NO** システムは、システムに記憶されているテーブル中のユーザー定義の2バイト文字を、テープまたはディスク上で見つかったユーザー定義の2バイト文字で置き換えません。

***YES** システムは、システムに記憶されているテーブル中のユーザー定義の2バイト文字を、テープまたはディスク上で見つかったユーザー定義の2バイト文字で置き換えます。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

ファイルによって使用される1つまたは複数のボリュームIDを指定してください。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***MOUNTED**

装置に現在入っているボリュームが使用されます。

ボリューム識別コード

テープ装置またはディスク装置に入っている1つまたは複数のディスクまたはテープを、コピー操作で使用される順序どおりに指定します。

[トップ](#)

ファイル満了日 (EXPDATE)

満了日を指定します。ファイルは満了日まで上書きすることはできません。満了日は、現在日付と等しいかまたはそれより後でなければなりません。

***PERM**

データ・ファイルは永続的に保護されます。

満了日 ファイルがもはや保護されなくなる日を指定してください。日付はジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

コピー操作の開始点として使用される順序番号を指定します（テープが使用される場合のみ）。

***END** システムは、システムからテープにコピーする場合にはテープの最後の順序番号の後にテーブルをコピーします。

***SEARCH**

ファイル・ラベル(LABEL)パラメーターに指定された名前と一致する名前のデータ・ファイルを見

つけるために、テープ装置に入っているテープが検索されます。一致する名前が見つかり、テーブルがシステムにコピーされます。ファイルの検索は、現在のテープ位置より後にある最初のデータ・ファイルから開始されます。

ファイル順序番号

コピー操作に使用されるファイルの順序番号を指定します。

[トップ](#)

テープ終了オプション (ENDOPT)

操作の終了後に、そのテープ・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されたテープ・ボリュームだけに適用されます。その他のすべてのテープ・ボリュームは、テープの終わりに達した時に巻き戻されてアンロードされます。

*REWIND

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

[トップ](#)

ファイル (FILE)

(DBCS)フォント・テーブルが入っている既存の物理ファイルの名前を指定します。

物理ファイルの名前は、次のライブラリー値によって修飾することができます。

ライブラリー名

使用するライブラリーの名前を指定してください。

物理ファイル名

物理ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

メンバー (MEMBER)

保管先または保管元の既存の物理ファイル・メンバーの名前を指定します。

[トップ](#)

例

```
CPYIGCTBL IGCTBL(QIGC2424) OPTION(*OUT)
          LABEL(*IGCTBL) DEV(QDKT)
```

このコマンドは、システムに日本語DBCSフォント・テーブルQIGC2424全体をシステムからディスクケットにコピーさせます。ディスクケット上のラベルの名前はIGC2424です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8181

DBCSフォント・テーブル&4に損傷がある。

CPF8416

DBCSフォント・テーブル&1は更新されず、イメージはコピーされなかった。

CPF8417

RANGEキーワードにエラーが見つかった。

CPF8418

データ・ファイル&2を使用してDBCSフォント・テーブル&1をコピーすることはできない。

CPF8419

DBCSフォント・テーブル&1は作成されず、イメージはコピーされなかった。

CPF8420

エラーのためにCPYIGCTBLコマンドが終了した。

CPF8421

DBCSフォント・テーブル&1が見つからない。

CPF8422

漢字フォント・テーブル&1を使用することはできない。

CPF8423

キーワードIGCTBLにエラーが見つかった。

CPF8426

装置&1が見つからなかったか、あるいはコマンドに対して正しくない。

CPF8427

DBCSフォント・テーブル&1は移行されなかった。

[トップ](#)

ライブラリー・コピー (CPYLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー・コピー(CPYLIB)コマンドは、ライブラリーの内容を新しいライブラリーにコピーします。新規ライブラリーが存在していない場合は、このコマンドがコピー前にオプションで作成します。

コピーされたオブジェクトはすべて、新規ライブラリーと同じ補助記憶域プール(ASP)に作成されます。新規ライブラリーにすでに存在している新規ライブラリーは、新規オブジェクトのコピー後に新規ライブラリー内に残っています。

注:新規ライブラリーをこのコマンドで作成する場合は、以下の通りです。

- 新規ライブラリーは、既存ライブラリーと同じASPに作成されます。
- 新規ライブラリーの共通認可はQSYSライブラリーの作成権限と同じです。QSYSライブラリーの作成権限はライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用して表示することができます。新規ライブラリーの作成後に、ライブラリー変更(CHGLIB)コマンドによってQSYSライブラリーの作成権限を変更すると、新規権限は新規ライブラリーの共通認可に影響を及ぼしません。
- 既存ライブラリーの専用認可は新規ライブラリーにはコピーされません。
- 新規ライブラリーの所有者はコマンドを出したユーザーのユーザー・プロファイルか、またはグループ・プロファイル (コマンドを出したユーザーのユーザー・プロファイルがグループが所有者であると指定されているメンバー・ユーザー・プロファイルである場合) のいずれかです。
- 既存ライブラリーが権限リストによって保護されていても、新規ライブラリーは権限リストによって保護されません。
- 権限を既存ライブラリーから新規ライブラリーにコピーするために参照オブジェクト (REFOBJ)パラメーターに既存ライブラリーを指定してオブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)コマンドを使用することができます。

制約事項:

- オブジェクト複製(CRTDUPOBJ)コマンドがサポートしているオブジェクト・タイプしかコピーできません。CRTDUPOBJコマンドの制限はこのコマンドにも適用されます。
- このコマンドが完了前に中断されると、結果は予測できません。
- 別のジョブが既存のライブラリー (FROMLIB)パラメーターに指定されたライブラリー内のオブジェクトのいずれかを処理しようとする、結果は予測不能です。たとえば、次の通りです。
 - コピーが開始された後に既存ライブラリー内に作成されたオブジェクトは、コピーされません。
 - コピーが開始された後に既存ライブラリーからオブジェクトが削除された場合は、このコマンドのユーザーがエラー・メッセージを受け取ります。
 - 既存ライブラリー内のオブジェクトが使用中か、あるいは別のジョブによってロックされている場合には、コピーは正常に行なわれていないことがあります。
- コピーが完了するまで、他のジョブが新しいライブラリー (TOLIB)パラメーターに指定されたライブラリー内のオブジェクトを使用しようとしてはいけません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMLIB	既存のライブラリー	名前	必須, 定位置 1
TOLIB	新しいライブラリー	名前	必須, 定位置 2
CRTLIB	ライブラリー作成	<u>*YES</u> , *NO	オプション
DATA	データの複写	<u>*YES</u> , *NO	オプション
CST	重複制約	<u>*YES</u> , *NO	オプション
TRG	重複トリガー	<u>*YES</u> , *NO	オプション

[トップ](#)

既存のライブラリー (FROMLIB)

コピーする既存ライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 コピーする既存ライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

新しいライブラリー (TOLIB)

既存ライブラリーからのオブジェクトのコピー先の新規ライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 オブジェクトのコピー先のライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ライブラリー作成 (CRTLIB)

新規ライブラリーを作成するかどうかを指定します。

***YES** 既存ライブラリーの内容が新規ライブラリーにコピーされる前に、新規ライブラリーはこのコマンドで作成されます。新規ライブラリーがすでに存在している場合は、エラー・メッセージが出されます。

***NO** 新規ライブラリーは作成されません。新規ライブラリーが存在していない場合は、エラー・メッセージが出されます。

[トップ](#)

データの複写 (DATA)

既存のライブラリー内のデータベース物理ファイルまたは保管ファイル内のデータ・レコードを、新規ライブラリー中の新規作成オブジェクトにコピーするかどうかを指定します。中に入っているデータがコピーされるかどうかにかかわらず、物理ファイルのメンバーがコピーされます。データベース物理ファイルまたは保管ファイルではないオブジェクトでは、指定された値は使用されません。

***YES** 既存のライブラリー内のデータベース物理ファイルまたは保管ファイルのメンバー内のデータ・レコードは、新規ライブラリー中の新規オブジェクトにコピーされます。

注: 新しいファイルの相対レコード番号は元のファイルと同じです。

***NO** 既存のライブラリー内のデータベース物理ファイルまたは保管ファイルのメンバー内のデータ・レコードは、新規ライブラリー中の新規オブジェクトにコピーされません。

トップ

重複制約 (CST)

既存のライブラリー内のデータベース物理ファイルと関連した制約は、新規ライブラリー中の新規作成オブジェクトにコピーされます。データベース物理ファイルではないオブジェクトでは、指定された値は使用されません。

***YES** 既存のライブラリー内のデータベース物理ファイルと関連した制約は、新規ライブラリー中の新規作成オブジェクトにコピーされます。

***NO** 既存のライブラリー内のデータベース物理ファイルと関連した制約は、新規ライブラリー中の新規作成オブジェクトにコピーされません。

トップ

重複トリガー (TRG)

既存のライブラリー内のデータベース物理ファイルと関連したトリガーを、新規ライブラリー中の新規作成オブジェクトにコピーするかどうかを指定します。データベース物理ファイルではないオブジェクトでは、指定された値は使用されません。

注: トリガーの複写に関して注意する必要がある特別な考慮事項があります。たとえば、複写では、既存のファイルと関連したトリガー・プログラムが既存のファイルと同じライブラリー中にあったかどうかによって異なります。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「データベース」情報を参照してください。

***YES** 既存のライブラリー内のデータベース物理ファイルと関連したトリガーは、新規ライブラリー中の新規作成オブジェクトにコピーされます。

***NO** 既存のライブラリー内のデータベース物理ファイルと関連したトリガーは、新規ライブラリー中の新規作成オブジェクトにコピーされません。

トップ

例

例1: 新規ライブラリーの作成後にライブラリーの内容を新規ライブラリーにコピーする

```
CPYLIB FROMLIB(MYLIB) TOLIB(NEWLIB)
```

このコマンドは、ライブラリーNEWLIBの作成後にライブラリーMYLIBの内容をライブラリーNEWLIBにコピーします。MYLIB中のデータベース物理ファイルと関連したデータ・レコード、制約、およびトリガーがNEWLIB中のデータベース物理ファイルにコピーされます。

例2: ライブラリーの内容を既存のライブラリーにコピーする

```
CPYLIB FROMLIB(MYLIBA) TOLIB(MYLIBB) CRTLIB(*NO) +  
DATA(*YES) CST(*NO) TRG(*NO)  
MONMSG MSGID(CPF2358)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBAの内容を既存のライブラリーMYLIBBにコピーします。コピーされたオブジェクトはすべて、ライブラリーMYLIBBとして同じ補助記憶域プール(ASP)内に作成されます。ライブラリーMYLIBBに既に存在していたオブジェクトはすべて、新規オブジェクトのコピー後もライブラリーMYLIBB内に残っています。MYLIBAのデータベース物理ファイル内のデータ・レコードは、MYLIBBで新規に作成されたデータベース物理ファイルにコピーされます。MYLIBAのデータベース物理ファイルと関連した制約およびトリガーは、MYLIBBで新規に作成されたデータベース物理ファイルにコピーされません。

MONMSGコマンドによってエスケープ・メッセージCPF2358を無視できます。このメッセージは、ライブラリーMYLIBA中のすべてのオブジェクトをライブラリーMYLIBBにコピーできない場合に通知することができます。オブジェクトをコピーできない1つの理由は、そのオブジェクトがライブラリーMYLIBB中にすでに存在する場合です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2358

ライブラリー&1はコピーされなかったかあるいは部分的にコピーされた。

CPF2365

FROMLIBとTOLIBパラメーターに同じライブラリーを指定することはできない。

[トップ](#)

光ディスク・コピー (CPYOPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク・コピー(CPYOPT)コマンドは、指定されたディレクトリーの中の特定のファイル、すべてのファイル、新しいファイル、または変更されたファイルを別のディレクトリーまたは別の光ディスク・ボリュームにコピーします。また、このコマンドによって次のこともできます。

- ファイルをコピーするためのディレクトリーを作成する
- 指定されたディレクトリー中のすべてのサブディレクトリーとそのファイルをコピーする
- 同じ名前の既存のファイルを置き換える

コピー元ボリュームまたはコピー先ボリュームがバックアップ用光ディスク・ボリュームである場合には、ディレクトリー、サブディレクトリー、およびファイルの名前がコピー操作中に変更されることはありません。また、ディレクトリー、サブディレクトリー、またはファイルの作成およびモディフィケーション日付および時刻も、コピー操作中に変更されることはありません。

制約事項: このコマンドを使用するためには、コピーされるボリューム(FROMVOL)を保護するために権限リストに対する*USE権限が必要であり、新しいボリューム(TOVOL)を保護するために権限リストに対する*CHANGE権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMVOL	FROMボリューム識別コード	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ボリューム	文字値	
	要素 2: ボリューム・タイプ	<u>*PRIMARY</u> , *BACKUP	
FROMPATH	FROM経路	文字値	必須, 定位置 2
TOVOL	TOボリューム識別コード	要素リスト	必須, 定位置 3
	要素 1: ボリューム	文字値, *FROMVOL	
	要素 2: ボリューム・タイプ	<u>*PRIMARY</u> , *BACKUP	
TOPATH	TO経路	文字値, *FROMPATH	オプション
SLTFILE	コピーするファイルの選択	<u>*CHANGED</u> , *NEW, *ALL	オプション
CPYSUBDIR	サブディレクトリー・コピー	<u>*NO</u> , *YES	オプション
CRTDIR	ディレクトリー作成	<u>*NO</u> , *YES	オプション
ALWCPYOPP	反対側へのコピー可能	<u>*NO</u> , *YES	オプション
COPYTYPE	コピー・オプション	<u>*IOP</u> , *SYSTEM	オプション
FROMTIME	開始日および時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日付	日付, <u>*BEGIN</u>	
	要素 2: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	

FROMボリューム識別コード (FROMVOL)

コピーされるディレクトリーおよびファイルが入っている光ディスク・ボリュームのボリュームIDおよびタイプを指定します。

要素1: ボリューム

ボリュームID

コピーされるディレクトリーおよびファイルが入っているボリュームのID を指定してください。

要素2: ボリューム・タイプ

*PRIMARY

光ディスク・ボリュームが基本ボリュームとなります。

*BACKUP

光ディスク・ボリュームがバックアップ・ボリュームとなります。

トップ

FROM経路 (FROMPATH)

コピー元ボリュームからコピーされるディレクトリーまたはファイルのパス名を指定します。パス名がディレクトリーである場合には、指定されたディレクトリー中のすべてのファイルがコピーされます。パス名がファイルである場合には、そのファイルだけがコピーされます。

トップ

TOボリューム識別コード (TOVOL)

ディレクトリーおよびファイルのコピー先の光ディスク・ボリュームのボリュームIDおよびタイプを指定します。

要素1: ボリューム

*FROMVOL

ボリュームIDは、オブジェクトのコピー元の光ディスク・ボリュームのIDと同じとなります。

ボリュームID

オブジェクトのコピー先の光ディスク・ボリュームの名前を指定してください。

要素2: ボリューム・タイプ

*PRIMARY

光ディスク・ボリュームが基本ボリュームとなります。

*BACKUP

光ディスク・ボリュームがバックアップ・ボリュームとなります。新しいバックアップ・ボリュームを使用するか、あるいはオブジェクトのコピー先のボリュームとして前に使用されたバックアップ・ボリュームを使用することができます。バックアップ・ボリュームの詳細については、AS/400 オプティカル・サポート(SC88-5465)を参照してください。

TO経路 (TOPATH)

書き込まれるファイルのパス名、あるいはボリュームのルート・ディレクトリーから始まるコピー先ボリュームの新規ファイルを受け取るパス名を指定します。

***FROMPATH**

パス名は、コピー元ボリュームからコピーされるファイルまたはディレクトリーのパス名と同じになります。

'パス名'

コピーされるファイルを受け取るディレクトリーのパス名、あるいは書き出されるファイルのパス名を指定してください。

トップ

コピーするファイルの選択 (SLTFILE)

コピー用のファイルまたはディレクトリーの選択方法を指定します。指定されたSLTFILE値に基づいてファイルがコピーされなくても、これはエラー条件と見なされません。ファイルは完了メッセージで「コピーに不適合」と見なされますが、それでもコマンドはエラーなしで完了することができます。

***CHANGED**

コピー元ボリュームのファイルの変更日付および時刻がコピー先ボリュームのファイルのものより後である場合に、ファイルがコピーされます。ファイルが変更されている場合には、2組の日付および時刻が決ります。すなわち、ファイルが最後に変更された日付および時刻、またはファイル属性が最後に変更された日付および時刻。これらの日付および時刻は、光ディスク表示(DSPOPT)コマンドにDATA(*FILATR)を指定することによって、表示することができます。

***ALL** すべてのファイルがコピーされます。コピー先ボリュームにあるファイルは日付が同じであっても置き換えられます。

***NEW** コピー先ボリュームにないファイルだけがコピーされます。

トップ

サブディレクトリー・コピー (CPYSUBDIR)

サブディレクトリー中のファイルをコピーするかどうかを指定します。

***NO** サブディレクトリーとサブディレクトリー内のファイルはコピーされません。

***YES** サブディレクトリー中のファイルはコピーされます。コピー先ボリュームにサブディレクトリーがない場合には、作成されます。新しく作成されるサブディレクトリーは、親ディレクトリーの名前が異なることがあっても、コピー元ボリュームにあったものと同じ名前となります。

コピー操作に先立って、結果として作成される新しいパス名がパス名の最大長を超えないかどうかを検査されます。また、ディレクトリーのすべてのサブディレクトリーを同じボリューム上のそのディレクトリーのサブディレクトリーにコピーしようとしていないかどうかを検査されます。

トップ

ディレクトリー作成 (CRTDIR)

コピー先ボリュームにディレクトリーがない場合に、コピー先パスの最後のディレクトリーが作成されるかどうかを指定します。コピー先パスのすべての要素の存在は、最後の要素を除いてCPYOPT要求が開始される前に、検査されます。

注: コピー先ボリュームまたはコピー元ボリュームのいずれかがバックアップ・タイプの光ディスク・ボリュームとして初期設定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***NO** コピー先ボリュームにディレクトリーがない場合には、コピー先パスの最後のディレクトリーは作成されません。

***YES** コピー先ボリュームにディレクトリーがない場合には、コピー先パスの最後のディレクトリーが作成されます。このパラメーターはファイルまたはディレクトリーのコピー先のディレクトリーを指定するだけで、そのディレクトリー下のサブディレクトリーには適用されません。CPYSUBDIRパラメーターはサブディレクトリーが作成されるかどうかを制御します。

トップ

反対側へのコピー可能 (ALWCPYOPP)

ファイルまたはディレクトリーを、光ディスク・カートリッジの一方の側のボリュームから反対の側にコピーできるようにするかどうかを指定します。

注: 大量のデータを光ディスク・カートリッジの反対側にコピーする時には、システム・パフォーマンスが低下します。

***NO** コピー先ボリュームがコピー元ボリュームの反対側にある場合には、コピー操作は試みられません。この値を使用することにより、不注意によって光ディスク・カートリッジの反対側にコピーすることを避けることができます。

***YES** コピー先ボリュームがコピー元の反対側にある場合に、コピー操作が試みられます。

注: コピー元ボリュームまたはコピー先ボリュームの光ディスク・カートリッジがバックアップ・タイプの光ディスク・ボリュームとして初期設定されている場合には、この値は無効となります。

トップ

コピー・オプション (COPYTYPE)

コピー要求に対して使用される処理のタイプを指定します。

***IOP** 入出力プロセッサ(IOP)が、1つのボリュームから別のボリュームに最少のデータ移動で、データをコピーします。2つのボリュームが必要な場合には、光ディスク媒体ライブラリーの2つのドライブがコピー操作の期間中に割り振られます。

注: COPYTYPE(*IOP)を指定することにより、コピー要求に対して最高のパフォーマンスが提供されます。しかし、光ディスク媒体ライブラリー中の2つの光ディスク・ドライブがコピー操作の間に割り振られるので、光ディスク媒体ライブラリー中の他のボリュームに対する要求の対話機能に不利な影響を与えることもあります。

***SYSTEM**

システムは使用可能な資源を使用してデータをコピーします。以下の場合は、このタイプの処理が自動的に使用されます。

- 操作できるドライブが1つだけである。
- 2つのボリュームが別々の光ディスク・ライブラリーに入っている。
- 2つのボリュームが同じ光ディスク・カートリッジの反対サイドにある。
- いずれか一方の媒体形式が汎用ディスク形式(UDF)である。
- ボリュームのコード化文字セットが異なっている。

コピー操作中に光ディスク媒体ライブラリー中のボリュームに対して対話式要求が行なわれる場合には、このオプションをお奨めします。

トップ

開始日および時刻 (FROMTIME)

コピー用のファイルまたはディレクトリーを選択するかどうかを決定するために使用される開始日および開始時刻を指定します。開始日および開始時刻以降に、作成または変更されているか、属性が変更されているすべてのファイルまたはディレクトリーがコピー用に選択されます。このパラメーターは、単一ファイルをコピーする場合、またはバックアップ・ボリュームから1次ボリュームにコピーする場合は無視されます。

次のようにすることによって、ファイルが最後に作成または変更された日時を判別することができます。

1. 光ディスク表示(DSPOPT)コマンドにDATA(*FILATR)を指定する。
2. 階層ファイル・システム(HFS)のAPIプログラムQHFRTVATを使用する。標準属性QWRDRTMはファイルの最終変更日付と時刻です。拡張属性OPT.CHGATDTMは属性の最終変更日付と時刻です。

要素1: 開始日付

*BEGIN

見つかったすべての日付が使用されます。すべてのファイルおよびディレクトリーがコピー用に選択されます。

開始日 開始点として使用する日付を指定してください。開始日以降に作成または変更されたすべてのファイルが選択されます。

日付はシステム値QDATFMT（区切り記号を使用する場合には、QDATSEP）によって指定された形式で入力しなければなりません。

要素2: 開始時刻

*AVAIL

開始日に対して使用可能なすべての時刻が使用されます。

開始時刻

開始時刻または開始日として使用する時刻を指定してください。時刻区切り記号はシステム値QTIMSEPによって定義されます。区切り記号は次の通りです。

- 時刻区切り記号付きの場合には、5桁または8桁のSTRINGで指定してください。ジョブの時刻区切り記号で時、分、秒を区切ります。このコマンドをコマンド入力行から出す場合には、STRINGをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された時刻区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のSTRING(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。ここで、**HH** =時、**MM** =分、および**SS** =秒です。**HH**の有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**の有効な値の範囲は00から59です。

例

例1:すべてのディレクトリー内のすべてのファイルのコピー

```
CPYOPT FROMVOL(VOL01) FROMPATH('/') TOVOL(VOL02)
        CPYSUBDIR(*YES) SLTFILE(*ALL) CRTDIR(*YES)
```

このコマンドは、ディレクトリーおよびサブディレクトリーのすべてのファイルのすべてを光ディスク・ボリュームVOL01から光ディスク・ボリュームVOL02にコピーします。ディレクトリーがボリュームVOL02に存在していない場合は、そのディレクトリーは作成されます。ファイルがボリュームVOL02上にすでに存在している場合は、そのファイルは置き換えられます。

例2:変更済みファイルのコピー

```
CPYOPT FROMVOL(VOL01) FROMPATH('/DIR1/DIR2') TOVOL(VOL02)
```

このコマンドは、ディレクトリー/DIR1/DIR2内のすべての変更済みファイルを光ディスク・ボリュームVOL02上の同じファイルにコピーします。

例3:ファイルのバックアップから1次ボリュームへのコピー

```
CPYOPT FROMVOL(VOL01BACKUP *BACKUP) FROMPATH('/DIR1')
        TOVOL(VOL02) CPYSUBDIR(*YES)
```

このコマンドは、光ディスク・バックアップ・ボリュームVOL01BACKUP上のディレクトリー/DIR1内のファイルおよびサブディレクトリーのすべてを、1次光ディスク・ボリュームVOL02上の同じファイルにコピーします。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

OPT0147

操作にはSLTFILE値を使用することができない。

OPT0149

FROMPATH値にはCPYSUBDIR(*YES)は使用できない。

OPT0152

FROMTIME(*BEGIN)では指定した開始時刻は使用できない。

OPT1105

ファイルは読み取り専用である。

OPT1115

ファイルが見つからない。

OPT1120

ファイルはすでに存在している。

OPT1125

ファイルが使用中。

- OPT1129**
拡張バッファ入出力用にオープンされているファイルには操作は行なえません。
- OPT1130**
指定されたファイル名は予約ファイル名である。
- OPT1135**
オープン・ファイル数が限界に達したので要求は失敗しました。
- OPT1140**
ファイル処理中に予期しないエラーが起こった。
- OPT1185**
保留中の光ディスク・ファイルをアクセスすることができない。
- OPT1205**
ディレクトリーが見つからない。
- OPT1212**
ディレクトリーが使用中です。
- OPT1220**
ファイルまたはディレクトリー名はすでに存在している。
- OPT1224**
パスの長さが最大値の256バイトを超えている。
- OPT1255**
ファイルが壊れている。
- OPT1261**
ボリューム&1で活動ファイルが見つかった。
- OPT1305**
光ディスク・ボリューム&1は読み取り専用です。
- OPT1315**
光ディスク・ボリューム&1は書き込み保護されている。
- OPT1317**
ディレクトリー名が長すぎる。
- OPT1320**
光ディスク・ボリューム&1は使用中である。
- OPT1325**
光ディスク・ボリュームの形式が認識されません。
- OPT1330**
光ディスク・ボリュームが見つからないか、または使用不能です。
- OPT1331**
光ディスク・ボリューム&1が見つかりません。
- OPT1340**
光ディスク・ボリューム&1が初期設定されていない。
- OPT1344**
光ディスク・ファイル名が正しくない。

OPT1345

媒体上に使用可能なフリー・スペースがありません。

OPT1346

リモート光ディスク装置にあるボリュームには操作を行なうことができない。

OPT1350

光ディスク・ボリューム&1への書き込み操作が失敗した。

OPT1360

光ディスク・ボリューム&1の媒体ディレクトリーが壊れています。

OPT1460

光ディスク・ボリューム&1が光ディスク装置にない。

OPT1462

操作が完了していない。光ディスク・ボリュームがバックアップ・ボリュームではありません。

OPT1463

操作が完了していない。光ディスク・ボリュームが基本ボリュームではありません。

OPT1530

&1は有効な光ディスク装置を表していない。

OPT1555

光ディスク装置&1は使用中です。

OPT1605

媒体または装置エラーが起きました。

OPT1640

ファイルまたはディレクトリーの読み取り中にエラーが起こった。

OPT1790

操作が許可されないか、または別の要求と矛盾しています。

OPT1795

ディレクトリー属性のアクセス中にエラー。

OPT1805

光ディスク・ボリューム索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1810

光ディスク・ディレクトリー索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1813

予期しないエラーが起こった。

OPT1815

内部プログラム・エラーが起きました。

OPT1820

光ディスク装置&1で内部エラーが起こった。

OPT1821

光ディスク装置&1でエラーが起こった。

OPT1825

光ディスク装置&1で光ディスク索引が間違っている。

- OPT1860**
光ディスク装置&1に対する要求が正常に実行されなかった。
- OPT1861**
装置&1に構成された装置記述がない。
- OPT1862**
資源&1に活動状態の装置記述がない。
- OPT1863**
光ディスク・ライブラリーを再利用する必要がある。
- OPT1872**
光ディスク要求がタイムアウトまたは取り消されました。
- OPT2001**
&1個のファイルがコピーされ、&2個のファイルまたはディレクトリーがコピーされませんでした。&8個のファイルはコピーに不適合です。
- OPT2004**
コピー要求が終了した。&1個のファイルはコピーされました。
- OPT2005**
ディレクトリーにファイルが見つからない。
- OPT2006**
ディレクトリー・パスが長すぎる。
- OPT2007**
TOVOLはFROMVOLの反対側にある。
- OPT2008**
コピー要求は使用できない。
- OPT2009**
バックアップ・ボリュームからのコピーは許されない。
- OPT2010**
バックアップ・ボリュームへのコピーは許されない。
- OPT2015**
ファイルをコピーすることができなかった。
- OPT2028**
指定された光ディスク・ボリュームではバックアップへのコピーは行なえない。
- OPT2029**
TOVOLはFROMVOLの反対側にある。
- OPT2040**
バックアップ制御ファイルのアクセス中にエラー。
- OPT2301**
内部システム・オブジェクトが使用中である。
- OPT2420**
光ディスク・ボリューム&2は認可されていない。
- OPT2422**
ファイルまたはディレクトリーに対して許可されていません。

OPT7740

ユーザーにはライブラリー&3タイプ&4のオブジェクト&2が認可されていない。

[トップ](#)

プログラム一時修正コピー (CPYPTF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正コピー(CPYPTF)コマンドは、指定されたプログラム一時修正(PTF)をテープ、ディスク、光ディスク、サービス、または保管ファイルから、テープ、ディスク、光ディスク媒体、または保管ファイルにコピーします。各PTFには、プログラムを含め、1つまたは複数のオブジェクトが入っています。これはプログラム一時修正ロード (LODPTF)コマンドによってロードされ、プログラム一時修正適用 (APYPTF)コマンドによってプロダクトに適用できます。

制約事項:

- このコマンドは共通の*EXCLUDE権限で出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための専用認可があります。
- コピーされるPTFにターゲット・リリースがない場合、あるいは指定されたターゲット・リリースが有効な保管および復元リリースでない場合には、PTFオブジェクトの最初に有効な保管および復元ターゲット・リリースにコピーされます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LICPGM	プロダクト	文字値	必須, 定位置 1
FROMDEV	取り出し装置	名前, *SERVICE, *SAVF	必須, 定位置 2
TODEV	受け取り装置	名前, *SAVF	必須, 定位置 3
SELECT	選択するPTF番号	単一値: *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション, 定位置 4
OMIT	除外するPTF番号	値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
RLS	リリース	文字値, *ONLY	オプション
FROMSAVF	取り出し保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 取り出し保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMSEQNBR	取り出しテープ順序番号	1-16777215, *SEARCH	オプション
FROMENDOPT	FROM媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
FROMPATHID	FROM経路識別コード	1-9999, *FIRST, *SELECT	オプション
TOVOL	ボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED	オプション
TOSEQNBR	受け取りテープ順序番号	1-16777215, *END	オプション
TOENDOPT	TO媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
TOSAVF	受け取り保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 受け取り保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CLEAR	消去	*NONE, *ALL	オプション
COVER	PTFカバー・レター・コピー	*YES, *NO	オプション
CVRLTRLNG	カバー・レター言語	文字値, *ONLY	オプション
DTACPR	データ圧縮	*DEV, *NO, *YES	オプション

トップ

プロダクト (LICPGM)

コピーするPTFのプロダクトの7桁のIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

取り出し装置 (FROMDEV)

PTFをコピーする場合のコピー元の装置の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

*SERVICE

保守サポート・システムから送られたPTFがコピーされます。

*SAVF

PTFは保管ファイルからコピーされます。

装置名 PTFのコピー元であるテープ、ディスクット、および光ディスク装置の名前を指定してください。

トップ

受け取り装置 (TODEV)

PTFをコピーする場合のコピー先の装置を指定します。

これは必須パラメーターです。

*SAVF

PTFは保管ファイルにコピーされます。

装置名 PTFのコピー先であるテープ、ディスクット、または光ディスク装置の名前を指定してください。

トップ

選択するPTF番号 (SELECT)

どのPTFをコピーするかを指定します。個別のPTFを指定した場合には、**除外するPTF番号 (OMIT)**パラメーターに値を指定することはできません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は、次の通りです。

ALL** すべてのPTFがコピーされます。SERVICE**の値が**取り出し装置 (FROMDEV)**パラメーターに指定された場合には、このパラメーターを指定することはできません。

PTF番号

コピーする各プログラミング修正のPTF番号を指定してください。最大50個のPTF番号を指定することができます。

[トップ](#)

除外するPTF番号 (OMIT)

このパラメーターに指定されたものを除いて、すべてのPTFをコピーするように指定します。残りのすべてをコピーする時に、コピーしないプログラミング修正のPTF番号を指定してください。最大50個のPTF番号を指定することができます。**選択するPTF番号 (SELECT)**パラメーターに単一のPTF番号を指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

[トップ](#)

リリース (RLS)

ソフトウェア・プロダクトのリリース・レベルを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***ONLY**

この値が有効なのは、FROMDEV(*SERVICE)が指定された時にシステム上に導入またはサポートされているリリースが1つだけか、あるいはFROMDEVパラメーターが光ディスク装置で、媒体上にあるプロダクトのリリースが1つだけの場合だけです。FROMDEVパラメーターがテープまたはディスクの装置の場合には、媒体上のソフトウェア・プロダクトのリリース・レベルは無視されます。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。VXはバージョン番号、RYはリリース番号、MZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

[トップ](#)

取り出し保管ファイル (FROMSAVF)

コピーするPTFが入っている保管ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

注: このパラメーターは、**取り出し装置 (FROMDEV)**パラメーターに*SAVFが指定されている場合にのみ有効です。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

保管ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

取り出しテープ順序番号 (FROMSEQNBR)

PTFをコピーする場合のコピー元のテープ・ボリューム上の順序番号を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、テープ装置名を**取り出し装置(FROMDEV)**パラメーターに指定した場合だけです。

***SEARCH**

テープ・ボリュームは、ライセンス・プログラムの最初のPTFファイルについて検索してから、そのPTFをコピーします。

順序番号

PTFデータのコピーを開始したい順序番号を指定してください。この順序番号はテープ上に存在しなければなりません。有効な値の範囲は1から16777215です。

[トップ](#)

FROM媒体の終わりオプション (FROMENDOPT)

PTFコピー操作が終了した後で、テープまたは光ディスク・ボリュームで実行される操作を指定してください。テープの1つまたは複数のボリュームが含まれる場合には、このパラメーターは最後のボリュームに適用されます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がFROMDEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

考えられる値は、次の通りです。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

[トップ](#)

FROM経路識別コード (FROMPATHID)

コピーしたいPTFが入っている、光ディスク媒体上のファイルの識別番号を指定します。光ディスク媒体上に存在する各プロダクトおよびリリースのPTFファイルにはパスIDの番号があり、これによって特定の順序でファイル进行处理できます。指定されたパスIDからのPTFだけがシステム上にコピーされます。

注: このパラメーターが有効なのは、光ディスク装置名を取り出し装置(FROMDEV)パラメーターに指定した場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***FIRST**

指定されたプロダクトおよびリリースの光ディスク媒体で最初のPTFファイルが検索されます。これはSELECTパラメーターに指定された検索従属性に従って行われます。

- SELECTパラメーターに特定のPTF IDが指定された場合には、指定されたPTFの最初のオカレンスがコピーされます。
- SELECTパラメーターに*ALLが指定された場合には、最低のパスIDをもつ既存のPTFファイルがコピーされます。

***SELECT**

光ディスク媒体上に存在し、プロダクトおよびリリースと一致するPTFファイルのリストが表示されます。特定のファイルを選択して、そこからPTFをコピーすることができます。バッチ環境では、この値は選択できません。

パスID

既存のPTFファイルのパスIDを指定し、そこからプロダクトおよびリリースのPTFデータをコピーします。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (TOVOL)

コピーされたPTFを受け取るテープ、ディスク、または光ディスク・ボリュームIDを指定してください。

注: このパラメーターが有効なのは、テープ、ディスク、または光ディスク装置名を受け取り装置(TODEV)パラメーターに指定した場合だけです。

***MOUNTED**

装置に現在入っているボリュームが使用されます。

ボリュームID

テープ、ディスク、または光ディスク・ボリュームのボリュームID を指定してください。

受け取りテープ順序番号 (TOSEQNBR)

コピーされたPTFを受け取るデータ・ファイルの順序番号を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、テープ装置名を受け取り装置 (TODEV)パラメーターに指定した場合だけです。

*END PTFはテープの終わりにコピーされます。

順序番号

コピーされたPTFを受け取るデータ・ファイルの順序番号を指定してください。有効な値の範囲は1から16777215です。

トップ

TO媒体の終わりオプション (TOENDOPT)

PTFコピー操作が終了した後で、テープまたは光ディスク・ボリュームで実行される操作を指定してください。テープの1つまたは複数のボリュームが含まれる場合には、このパラメーターは最後のボリュームに適用されます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前がTODEVパラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

考えられる値は、次の通りです。

*REWIND

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

トップ

受け取り保管ファイル (TOSAVF)

PTFのコピー先の保管ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

保管ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

消去 (CLEAR)

PTFのコピーで自動的に消去される時に、見つかった保管ファイルを消去しないかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、**受け取り装置 (TODEV)**パラメーターに*SAVFが指定されている場合にのみ有効です。

***NONE**

未消去保管ファイルは自動的に消去されません。

***ALL** 未消去保管ファイルは自動的に消去されるので、操作を続行することができます。

[トップ](#)

PTFカバー・レター・コピー (COVER)

PTFのカバー・レターをコピーするかどうかを指定します。カバー・レターは、FROMDEVまたはTODEVパラメーターがディスク装置に指定される場合、あるいはFROMDEV (*SERVICE)が複数のPTFに指定されている(SELECTパラメーター) 場合はコピーされません。

***YES** カバー・レターがコピーされます。

***NO** カバー・レターはコピーされません。

[トップ](#)

カバー・レター言語 (CVRLTRLNG)

コピーされるPTFのカバー・レター言語を指定してください。FROMDEV(*SERVICE) が指定されてPTFに複数のカバー・レターがある (複数言語) 場合には、コピーしたいカバー・レターの言語機能コードを指定してください。

注: このパラメーターは、**PTFカバー・レター・コピー (COVER)**パラメーターに*YESが指定されている場合にのみ有効です。

***ONLY**

言語機能コードにかかわらず、PTFと関連したカバー・レターだけがコピーされます。

機能コード

コピーしたいPTFカバー・レターの言語機能コードを指定してください。言語機能コードを指定できるのは、FROMDEVパラメーターに*SERVICEを指定した場合だけです。

[トップ](#)

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***DEV** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。

***NO** データ圧縮は実行されません。

***YES** テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていない場合、あるいは保管データがディスクまたは保管ファイルに書き込まれる場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われた場合には、全体的なシステム・パフォーマンスに影響を受ける場合があります。

トップ

例

例1: PTFの保管ファイルへのコピー

```
CPYPTF LICPGM(5722SS1) FROMDEV(TAP01)
       TODEV(*SAVF) SELECT(*ALL) TOSAVF(MYLIB/PTFFILE)
```

このコマンドは、TAP01という名前のテープから製品5722SS1のPTFFILEという名前の保管ファイルに、すべてのPTFをコピーします。

例2: 光ディスク装置からのPTFのコピー

```
CPYPTF LICPGM(5722SS1) FROMDEV(OPT01) TODEV(TAP01)
       SELECT(*ALL) FROMPATHID(2) RLS(*ONLY)
```

このコマンドは、パスID 0002をもつファイルに存在する製品5722SS1のすべてのPTFを、OPT01という名前の光ディスク装置からTAP01という名前のテープ装置にコピーします。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF35AE

重複したPTF &1が見つかった。

CPF35CC

PTF操作に必要なライブラリーはすでに存在しています。

CPF35C2

PTF &1-&2 &3を含めることはできない。

CPF35C3

PTF &1-&2を組み込むことはできない。

CPF35C4

CPYPTFは異常終了した。

- CPF35C6**
TOVOLパラメーターを指定しなければならない。
- CPF35C7**
FROMDEV装置のボリューム名がTOVOLパラメーター値と同じである。
- CPF35C8**
コピーするPTFファイルが正しくない。
- CPF35D5**
カバー・レターNLVが正しくない。
- CPF354C**
光ディスク・ボリューム上のPTFファイルを処理できない。
- CPF354D**
装置&1は使用できない。
- CPF354F**
必要なPTFファイルを処理できない。
- CPF3558**
&3のタイプ*&2の&1を割り振ることができない。
- CPF358A**
リリースは正しくない。
- CPF3586**
PTFのリストが正しくない。
- CPF3598**
PTF機能はすでに処理中である。
- CPF363A**
ボリュームの媒体タイプが操作に適していない。
- CPF363D**
PTF &2-&1 &3に複数のカバー・レターが存在している。
- CPF363E**
必要なPTFファイルを光ディスク・ボリュームに書き込めない。
- CPF6602**
PTF &1-&2 &3が見つからない。
- CPF9812**
ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。
- CPF9814**
装置&1が見つかりません。

トップ

PTFカバー・レターのコピー (CPYPTFCVR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正カバー・レター・コピー(CPYPTFCVR)コマンドは、プログラム一時修正(PTF)カバー・レターをテープまたは光ディスク媒体からライブラリーQGPL内のファイルQAPZCOVERにコピーします。各カバー・レターには、問題記述、訂正、および特別な指示などの情報が入っています。カバー・レターは、次に、PTFカバー・レターの表示 (DSPPTFCVR)およびプログラム一時修正表示 (DSPPTF)コマンドを使用して表示することができます。

制約事項: このコマンドは、*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための専用認可があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	文字値	必須, 定位置 1
LICPGM	プロダクト	文字値, *ALL, *SUPPTD	オプション, 定位置 2
SELECT	選択するPTF番号	単一値: *NOTAPY, *ALL その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
RLS	リリース	文字値, *ALL	オプション
CVROPT	カバー・レター・オプション	*NEW, *ADD, *ALL	オプション
ENDOPT	媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション

[トップ](#)

装置 (DEV)

コピーするカバー・レターが入っている装置の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

テープ装置名

カバー・レターのコピー元であるテープ装置の名前を指定します。

光ディスク装置名

カバー・レターのコピー元である光ディスク装置の名前を指定します。

[トップ](#)

プロダクト (LICPGM)

カバー・レターをコピーするプロダクトの7桁のIDを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** すべての導入済みまたはサポートされるプロダクトのカバー・レターがコピーされます。

*SUPPTD

すべてのサポートされるプロダクトのカバー・レターがコピーされます。

ライセンス・プログラム

コピーするカバー・レターのプロダクトID指定します。

[トップ](#)

選択するPTF番号 (SELECT)

指定されたプロダクトについてコピーされるカバー・レターを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*NOTAPY

指定されたプロダクトのまだ適用されていないかまたは延期されたPTFのすべてのカバー・レターがコピーされます。

***ALL** 指定されたプロダクトのすべてのカバー・レターがコピーされます。

PTF番号

コピーされるカバー・レターのPTF識別番号を指定します。最大300個のPTF番号を指定することができます。特定のPTF IDが使用できるのは、**プロダクト (LICPGM)**パラメーターに特定のプロダクトIDを指定した場合だけです。

[トップ](#)

リリース (RLS)

ソフトウェア・プロダクトのリリース・レベルを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 指定されたプロダクトのすべてのリリースのカバー・レターがコピーされます。

リリース・レベル

リリース・レベルをVXRYMZの形式で指定してください。VXはバージョン番号、RYはリリース番号、MZはモディフィケーション・レベルです。変数XおよびYは0から9の数字、変数Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。特定のリリースが使用できるのは、**プロダクト (LICPGM)**パラメーターに特定のプロダクトIDを指定した場合だけです。

[トップ](#)

カバー・レター・オプション (CVROPT)

コピーされるカバー・レターがすでにシステム上に存在する場合に何を実行するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

- *NEW** PTFのカバー・レターがすべての言語機能コードでシステム上に存在する場合には、そのカバー・レターは媒体からコピーされません。PTFのカバー・レターがシステム上に存在しない場合には、そのカバー・レターがコピーされます。
- *ADD** PTFの同じ言語機能コードのカバー・レターがシステム上に存在しない場合には、そのカバー・レターは媒体からコピーされます。それ以外の場合には、カバー・レターはコピーされません。
- *ALL** 同じ言語機能コードのカバー・レターがすでにシステム上に存在する場合には、それが置き換えられます。その言語機能コードについてシステム上にカバー・レターが存在しない場合には、そのカバー・レターがコピーされます。

トップ

媒体の終わりオプション (ENDOPT)

PTF操作が終了した後にテープ・ボリュームまたは光ディスク・ボリュームで自動的に実行される操作を指定します。媒体の1つまたは複数のボリュームが含まれる場合には、このパラメーターは最後のボリュームにのみ適用されます。

注: 光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

考えられる値は、次の通りです。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

トップ

例

```
CPYPTFCVR  DEV(OPT01) LICPGM(5722SS1) SELECT(*ALL)
            RLS(V5R4M0)
```

このコマンドは、製品5722SS1リリースV5R4M0に適用されていないPTFのすべてのカバー・レターを装置OPT01からコピーします。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF354D

装置&1は使用できない。

CPF3586

PTFのリストが正しくない。

CPF358A

リリースは正しくない。

CPF359D

装置&3のPTFが選択基準に一致していない。

CPF35BE

プロダクト&1 &3がサポートされていないか、または導入されていない。

CPF35E0

PTF情報のコピー中にエラーが起きました。

CPF35F1

カバー・レター・ファイル&1が&2に見つからない。

CPF363C

PTFカバー・レターが装置&3からコピーされない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

PTFグループのコピー (CPYPTFGRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム一時修正グループのコピー(CPYPTFGRP)コマンドは、プログラム一時修正(PTF)グループをテープ、光ディスク、保管ファイル、またはサービスからテープ、光ディスク、保管ファイル、またはサービスにコピーします。PTFグループ情報が指定した装置にコピーされます。PTFグループ内で名付けられたPTFも、CPYPTFパラメーターを使用してコピーすることができます。PTFグループの処理 (WRKPTFGRP)コマンドを使用して、システム上のPTFグループのリストを表示および処理することができます。

制約事項:

- このコマンドは共通の*EXCLUDE権限で出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための専用認可があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PTFGRP	PTFグループ	文字値, *ALL	必須, 定位置 1
FROMDEV	取り出し装置	名前, *SERVICE, *SAVF	必須, 定位置 2
TODEV	受け取り装置	名前, *SERVICE, *SAVF	必須, 定位置 3
FROMSAVF	取り出し保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 取り出し保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMSEQNBR	取り出しテープ順序番号	1-16777215, *SEARCH	オプション
FROMENDOPT	FROM媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
TOVOL	ボリューム識別コード	文字値, *MOUNTED	オプション
TOSEQNBR	受け取りテープ順序番号	1-16777215, *END	オプション
TOENDOPT	TO媒体の終わりオプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
TOSAVF	受け取り保管ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 受け取り保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CLEAR	消去	*NONE, *ALL	オプション
REPLACE	置き換え	*LVLGT, *NO, *YES	オプション
RELPTFGRP	関連PTFグループのコピー	*NO, *YES	オプション
DTACPR	データ圧縮	*DEV, *NO, *YES	オプション
CPYPTF	PTFのコピー	*NO, *YES	オプション
RPLSPR	代替PTFの置き換え	*YES, *NO	オプション
COVER	PTFカバー・レター・コピー	文字値, *DFT, *NONE	オプション

PTFグループ (PTFGRP)

コピーするPTFグループの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

PTFグループ名

コピーするPTFグループの名前を指定します。

***ALL** すべてのPTFグループがコピーされます。

トップ

取り出し装置 (FROMDEV)

コピーするPTFグループが入っている装置の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

***SERVICE**

PTFグループがシステムからコピーされます。PTFグループの処理 (WRKPTFGRP)コマンドを使用して、システム上のPTFグループのリストを表示することができます。

***SAVF**

PTFグループが保管ファイルからコピーされます。

装置名 PTFグループのコピー元であるテープまたは光ディスク装置の名前を指定します。

トップ

受け取り装置 (TODEV)

PTFグループのコピー先である装置を指定します。

これは必須パラメーターです。

***SERVICE**

PTFグループがシステムにコピーされます。PTFグループの処理 (WRKPTFGRP)コマンドを使用して、システム上のPTFグループのリストを表示することができます。FROMDEV(*SERVICE)を指定した場合には、TODEV(*SERVICE)を指定することはできません。

***SAVF**

PTFグループが保管ファイルにコピーされます。

装置名 PTFのコピー先であるテープまたは光ディスク装置の名前を指定します。

トップ

取り出し保管ファイル (FROMSAVF)

PTFグループのコピー元である保管ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

注: このパラメーターは、**取り出し装置 (FROMDEV)**パラメーターに*SAVFが指定されている場合にのみ有効です。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

保管ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

取り出しテープ順序番号 (FROMSEQNBR)

PTFグループのコピー元であるテープ・ボリューム上の順序番号を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、テープ装置名を**取り出し装置 (FROMDEV)**パラメーターに指定した場合だけです。

***SEARCH**

指定されたPTFグループの最初の媒体ファイルがテープ・ボリュームで検索されます。

順序番号

PTFデータのコピーを開始したい順序番号を指定してください。この順序番号はテープ上に存在しなければなりません。有効な値の範囲は1から16777215です。

[トップ](#)

FROM媒体の終わりオプション (FROMENDOPT)

コピー操作が終了した後で、テープまたは光ディスク・ボリュームで実行される操作を指定します。テープの1つまたは複数のボリュームが含まれる場合には、このパラメーターは最後のボリュームに適用されます。

注: このパラメーターが有効なのは、磁気テープ装置または光ディスク装置の名前が**FROMDEV**パラメーターに指定されている場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

考えられる値は、次の通りです。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (TOVOL)

コピーされたPTFグループを受け取るテープまたは光ディスク・ボリュームのボリュームIDを指定してください。

***MOUNTED**

装置に現在入っているボリュームが使用されます。

ボリュームID

テープまたは光ディスク・ボリュームのボリュームIDを指定します。

[トップ](#)

受け取りテープ順序番号 (TOSEQNBR)

コピーされたPTFグループを受け取るデータ・ファイルの順序番号を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、テープ装置名を受け取り装置 (TODEV)パラメーターに指定した場合だけです。

***END** PTFグループがテープの終わりにコピーされます。

順序番号

最初にコピーされたPTFグループを受け取るデータ・ファイルの順序番号を指定します。有効な値の範囲は1から16777215です。

[トップ](#)

TO媒体の終わりオプション (TOENDOPT)

コピー操作が終了した後で、テープまたは光ディスク・ボリュームで実行される操作を指定します。テープの1つまたは複数のボリュームが含まれる場合には、このパラメーターは最後のボリュームに適用されません。

注: このパラメーターが有効なのは、テープまたは光ディスク装置名を受け取り装置 (TODEV)パラメーターに指定した場合だけです。光ディスク装置の場合には、*UNLOADがサポートされるただ1つの特殊値であり、*REWINDおよび*LEAVEは無視されます。

考えられる値は、次の通りです。

***REWIND**

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。一部の光ディスク装置は操作が終了するとボリュームを排出します。

[トップ](#)

受け取り保管ファイル (TOSAVF)

PTFグループのコピー先である保管ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

注: このパラメーターは、**受け取り装置 (TODEV)**パラメーターに***SAVF**が指定されている場合にのみ有効です。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

保管ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

保管ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

消去 (CLEAR)

PTFグループのコピー時に、消去されていない保管ファイルを自動的に消去するかどうかを指定します。このパラメーターが適用されるのは、TODEV(*SAVF)を指定した場合だけです。

***NONE**

未消去保管ファイルは自動的に消去されません。

***ALL** 未消去保管ファイルは自動的に消去されるので、操作を続行することができます。

[トップ](#)

置き換え (REPLACE)

コピーされるPTFグループがすでにシステム上に存在する場合に実行する内容を指定します。PTFグループがシステム上にすでに存在していない場合には、これがコピーされます。このパラメーターが適用されるのは、TODEV(*SERVICE)を指定した場合だけです。

***LVLGT**

コピーするPTFグループのレベルがシステム上にあるPTFグループのレベルより高いときだけ、同じ名前の既存のPTFグループをコピーします。

- *NO 同じ名前の既存のPTFグループを置き換えません。同じ名前のPTFグループがシステム上にすでに存在し、PTFGRP(*ALL)が指定されていない場合には、エラーが起こります。
- *YES レベルが同じでない限り、同じ名前の既存のPTFグループを置き換えます。

[トップ](#)

関連PTFグループのコピー (RELPTFGRP)

関連PTFグループをコピーするかどうかを指定します。このパラメーターが適用されるのは、FROMDEV(*SERVICE)を指定した場合だけです。

- *NO 指定のPTFグループ内で指定された関連PTFグループはコピーされません。
- *YES 指定のPTFグループ内で指定された関連PTFグループがコピーされます。また、関連PTFグループ内の指定関連PTFグループもコピーされます。

[トップ](#)

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

- *DEV テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。そうでない場合には、データ圧縮は実行されません。
- *NO データ圧縮は実行されません。
- *YES テープへの保管で、ターゲット装置が圧縮をサポートしている場合には、ハードウェアの圧縮が実行されます。圧縮がサポートされていない場合、あるいは保管データがディスクまたは保管ファイルに書き込まれる場合には、ソフトウェア圧縮が実行されます。システム上で他のジョブが活動状態のときに、ソフトウェア圧縮を使用した保管が行われた場合には、全体的なシステム・パフォーマンスが影響を受ける場合があります。

[トップ](#)

PTFのコピー (CPYPTF)

PTFグループ情報の他に、指定したPTFグループ内で名付けられたPTFをコピーするかどうかを指定します。このパラメーターは、FROMDEV(*SERVICE)が指定されていて、テープまたは光ディスク装置名がTODEVパラメーターに指定される場合にだけ有効です。

- *NO 指定のPTFグループ内で名付けられた関連PTFグループはコピーされません。
- *YES 指定のPTFグループ内で名付けられた関連PTFグループがコピーされます。PTFグループ内で名付けられたPTFのすべての前提条件、相互必要条件、および配布必要条件PTFもコピーされます。PTFがコピーされるのは、これがサポートされる、または導入済みのプロダクトであり、また保管ファイルがPTFまたは代替のPTFのシステムに存在する場合だけです。

[トップ](#)

代替PTFの置き換え (RPLSPR)

指定したPTFグループ内で名付けられたPTFまたはPTFの必要条件を置換するかどうかを指定します。PTFを置換できるのは、保管ファイルが見つからず、保管ファイルをもつ代替のPTFがシステムに存在する場合だけです。このパラメーターが適用されるのは、CPYPTF(*YES)を指定した場合だけです。

***YES** PTFのコピー時に、指定したPTFグループ内で名付けられたPTFまたはPTFの必要条件が保管ファイルをもたない場合には、このPTFを保管ファイルをもつ最新の代替のPTFで置き換えてください。PTFグループ内で名付けられたPTFまたはPTFの必要条件に保管ファイルがある場合には、このPTFが置き換えられている、あるいはより新しい代替PTFをもつかどうかに関係なく、このPTFがコピーされます。

***NO** PTFのコピー時に、システムに保管ファイルをもたないPTFを置き換えしないでください。指定したPTFグループ内で名付けられたすべてのPTFおよびPTFの必要条件に保管ファイルが存在しなければなりません。

トップ

PTFカバー・レター・コピー (COVER)

PTFとともにカバー・レターをコピーするかどうかを指定します。このパラメーターが適用されるのは、CPYPTF(*YES)を指定した場合だけです。

***DFT** カバー・レターは省略時の言語機能コードを使用してコピーされます。PTFのカバー・レターが1つだけであった場合には、それがコピーされます。PTFに複数のカバー・レターがあった場合には、以下の基準を使用して、コピーするカバー・レターが決定されます。

保守サポート連絡先情報(WRKCNTINF)と一致した言語機能コードが使用されます。

保守サポート連絡先情報と一致する言語機能コードがない場合には、オペレーティング・システムの1次言語と一致した言語機能コードが使用されます。

保守サポート連絡先情報の言語機能コードまたはオペレーティング・システムの言語機能コードと一致するカバー・レターがない場合には、PTFのカバー・レターはコピーされません。

***NONE**

PTFカバー・レターはコピーされません。

機能コード

コピーしたいPTFカバー・レターの言語機能コードを指定してください。選択された言語機能コードのカバー・レターが使用できない場合には、そのPTFのカバー・レターはコピーされません。

トップ

例

例1: PTFグループの保管ファイルへのコピー

```
CPYPTFGRP  PTFGRP(SF99100) FROMDEV(*SERVICE) TODEV(*SAVF)
            TOSAVF(MYLIB/MYSAVF)
```

このコマンドは、システムからライブラリーMYLIBにあるMYSAVFという名前の保管ファイルに、SF99100という名前のPTFグループをコピーします。SF99100内で名付けられた関連したPTFグループは、コピーされません。

例2: PTFグループのテープへのコピー

```
CPYPTFGRP  PTFGRP(SF99200) FROMDEV(*SERVICE) TODEV(TAP01)
           TOSEQNBR(1) RELPTFGRP(*YES) CPYPTF(*YES)
```

このコマンドは、システムから順序番号1で始まる装置TAP01に装てんされたテープに、SF99200という名前のPTFグループとその関連したすべてのPTFグループをコピーします。PTFグループ内で名付けられたすべてのPTFがテープにコピーされます。省略時の言語機能コードを使用して、PTFのカバー・レターがコピーされます。

例3:光ディスクからのすべてのPTFグループのコピー

```
CPYPTFGRP  PTFGRP(*ALL) FROMDEV(OPT01) TODEV(*SERVICE)
           REPLACE(*YES)
```

このコマンドは、光ディスク装置OPT01に装てんされたボリュームからシステムに、すべてのPTFグループをコピーします。システムにすでに存在するPTFグループがあれば、これらは置き換えられます。

例4:テープから保管ファイルへのPTFグループのコピー

```
CPYPTFGRP  PTFGRP(SF99300) FROMDEV(TAP01) TODEV(*SAVF)
           TOSAVF(MYLIB/MYSAVF)
```

このコマンドは、装置TAP01に装てんされたテープを検索し、ライブラリーMYLIB中の保管ファイルMYSAVFにPTFグループSF99300をコピーします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF35CC

PTF操作に必要なライブラリーはすでに存在しています。

CPF35D5

カバー・レターNLVが正しくない。

CPF354C

光ディスク・ボリューム上のPTFファイルを処理できない。

CPF354D

装置&1は使用できない。

CPF354F

必要なPTFファイルを処理できない。

CPF355D

保管／復元媒体にPTFグループが見つかりません。

CPF355E

CPYPTFGRPが異常終了しました。

CPF355F

TODEVとFROMDEVパラメーターで同じ装置を指定することはできません。

CPF3598

PTF機能はすでに処理中である。

CPF36AB

PTFグループが見つかりません。

CPF36A3

PTFグループ&1はすでに存在しています。

CPF36A4

PTFグループ&1が見つかりません。

CPF36A5

PTFグループ&1の情報が完了していません。

CPF36A6

PTFグループ名&1が無効です。

CPF36B8

保管ファイルがないのでPTF &2-&3 &4をコピーできません。

CPF363A

ボリュームの媒体タイプが操作に適していない。

CPF363E

必要なPTFファイルを光ディスク・ボリュームに書き込めない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

OPT1660

光ディスク装置&1が空である。

[トップ](#)

スプール・ファイル・コピー (CPYSPLF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

スプール・ファイル・コピー(CPYSPLF)コマンドは、指定されたスプール・ファイルのデータ・レコードをユーザー定義の物理データベース・ファイルにコピーします。この変換によって、マイクロフィッシュ、データ通信、またはデータ処理を使用するアプリケーションでスプール・ファイルを使用することができません。全部がブランクの印刷行はコピーされません。スプール・ファイルを物理ファイルにコピーする時に、特定の情報は失われるか、あるいは変更されます。たとえば、次の通りです。

- グラフィックス・データは消失します。
- バーコード・データは消失します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	スプール・ファイル	名前	必須, 定位置 1
TOFILE	TO データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: TO データベース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY, *LAST, *ANY	オプション
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY, *CURRENT, *ANY	オプション
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成時刻	時刻, *ONLY, *LAST	
TOMBR	TOメンバー	名前, *FIRST	オプション
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	オプション
CTLCHAR	制御文字	*NONE, *FCFC, *PRTCTL, *S36FMT	オプション
CHLVAL	チャンネル値	単一値: *NORMAL その他の値 (最大 12 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: チャンネル	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12	
	要素 2: 行	1-255	

トップ

スプール・ファイル (FILE)

データベース・ファイルにコピーされるスプール・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 コピーするスプール・ファイルのファイル名を指定してください。

[トップ](#)

TO データベース・ファイル (TOFILE)

スプール・レコードをコピーするユーザー定義の物理データベース・ファイルを指定します。このファイルがコピーの時点で存在していない場合には、コピーは正常に実行されないことになります。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: TO データベース・ファイル

名前 コピーを受け取る物理ファイルのファイル名を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

データ・レコードをコピーするスプール・ファイルを作成したジョブを指定します。

単一値

***** このコマンドを出したジョブが、そのスプール・ファイルを作成したジョブです。

修飾子1: ジョブ名

名前 スプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定してください。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

[トップ](#)

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

このジョブでデータ・レコードをコピーするスプール・ファイルの番号を指定します。

***ONLY**

ジョブ内の1つのスプール・ファイルだけが指定されたファイル名をもっています。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

***LAST**

指定されたファイル名で最高の番号が付いているスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決定するのに、スプール・ファイル番号は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、スプール・ファイル番号よりジョブ・システム名パラメーターまたはスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

1から999999

データ・レコードをコピーするスプール・ファイルの番号を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター) が実行されたシステムの名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時を持つスプール・ファイルは、1つです。

***CURRENT**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時を持つ現行システム上で作成されたスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決定するのに、ジョブ・システム名は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、ジョブ・システム名よりスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

名前 スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定します。

[トップ](#)

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

単一値

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名を持つスプール・ファイルは、1つです。

*LAST

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最後の作成日時を持つスプール・ファイルが使用されます。

要素1: 作成日

日付 スプール・ファイルが作成された日付を指定します。

要素2: 作成時刻

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日を持つスプール・ファイルは、1つです。

*LAST

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の最後の作成時刻を持つスプール・ファイルが使用されます。

時刻 スプール・ファイルが作成された時刻を指定します。

[トップ](#)

TOメンバー (TOMBR)

コピー済みレコードを受け取るファイル・メンバーの名前を指定します。

*FIRST

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

名前 物理ファイルのメンバーの名前を指定してください。このメンバーが存在しない場合には、メンバーが作成されてコピーは続行します。

[トップ](#)

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

新しいレコードで置き換えるか、または既存のレコードに追加するかどうかを指定します。

*REPLACE

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

*ADD システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

制御文字 (CTLCHAR)

スプール・ファイルの内部印刷制御文字を置き換える印刷制御文字（存在する場合）を指定します。

*NONE

印刷制御文字は作成されません。

*FCFC

各レコードの最初の文字にAS/400 CL解説書(SD88-5022)にリストされているANSI用紙制御コードのいずれか1つが含まれることを指定します。このオプションはマイクロフィッシュの作成に役立ちます。

*PRTCTL

各レコードの最初の4文字に、高水準言語プログラムで役立つ印刷前スキップおよび印刷前スペースの値が含まれることを指定します。このコードはSSSLとして表示することができ、ここでSSSは印刷前スキップ行の値で、Lは印刷前スペースの値です。

*S36FMT

データベース・ファイルにコピーされるレコード様式がCOPYPRTでIBMシステム/36で作成されたものと同じであることを指定します。この値は、1次または2次補助記憶域プールに存在しているスプール・ファイルには許可されません。

トップ

チャネル値 (CHLVAL)

行番号が割り当てられたチャネル番号のリストを指定します。制御文字 (CTLCHAR)パラメーターに*FCFCを指定した場合にだけこのパラメーターを指定してください。チャネル番号は報告書のスキップを決定する方法を示します。報告書で正しい位置決めを行うためには、割り当てられた各チャネルが対応する行番号を持っていないければなりません。

単一値

*NORMAL

チャネル1だけが割り当てられたチャネル番号であることを示します。チャネル1 に割り当てられた行番号は行1です。

その他の値（最大12個指定可能）

要素1: チャネル

チャネル番号

報告書でのスキップを制御するために使用するチャネルを指定してください。このパラメーターの有効な値は1から12だけです。各チャネル番号はスプール・ファイル・コピー(CPYSPFL)コマンドごとに1回しか指定できません。

要素2: 行

1から255

同じリストでチャンネル番号に割り当てられた行番号。有効な行番号の範囲は1から255 です。各行番号はスプール・ファイル・コピー(CPYSPFL)コマンドごとに1回しか指定できません。

トップ

例

例1:データの置き換え

```
CPYSPFL FILE(QPRINT) JOB(PAYROLL01) SPLNBR(4)
        TOFILE(MYFILE) TOMBR(MYMBR) CTLCHAR(*PRTCTL)
```

この例では、ファイルQPRINT（ジョブPAYROLL01によって作成された4番目のファイル）が物理ファイルMYFILE（ライブラリー・リストの検索によって見つかったライブラリーの中にあります）のメンバーMYMBRにコピーされます。すべての旧レコードは消去されているので、新規にコピーされたデータがメンバー内のすべての旧データを置き換えます。4バイト印刷制御コードが作成されます。

例2:データの追加

```
CPYSPFL FILE(QPRINT) TOFILE(MYLIB/MYFILE) JOB(PAYROLL02)
        MBROPT(*ADD) CTLCHAR(*FCFC) CHLVAL((1 3) (4 15))
```

この例では、ファイルQPRINT（ジョブPAYROLL02に残されているその名前の唯一のファイル）がライブラリーMYLIBにある物理ファイルの最初のメンバーにコピーされます。新規にコピーされたデータは、メンバー内の既存のデータに追加されます。FCFC 1バイト印刷制御文字が使用され、出力の形式設定で割り当てられたチャンネル値が活用されます。コマンドの指定の通りに割り当てられるチャンネル値は次の通りです：

- チャンネル1への行3の割り当て
- チャンネル4への行15の割り当て

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3207

メンバーは追加されなかった。エラーが起こっています。

CPF3303

ファイル&1はジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

CPF3309

&1という名前のファイルは活動状態でない。

CPF3311

&7のファイル&6に対するコピー要求は正常に実行されなかった。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3340

指定された名前のファイルが、ジョブ&5/&4/&3で複数個見つかった。

CPF3342

ジョブ&5/&4/&3が見つからない。

CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

CPF3344

ファイル&1番号&8はもはやシステムにない。

CPF338A

制御文字*S36FMTは使用できません。

CPF3394

スプール・ファイル・データを変換することはできない。

CPF3429

ファイル&1番号&7を表示、コピー、または送信することができない。

CPF3482

コピー要求は正常に実行されなかった。スプール・ファイル&1はオープンされています。

CPF3483

&7のファイル&6に対するコピー要求は正常に実行されなかった。

CPF3486

CHLVALパラメーターの値が正しくない。

CPF3492

スプール・ファイルに対しては許可されていない。

CPF3493

ファイル&1に対してCTLCHARパラメーターが正しくない。

CPF3499

ファイル&1のレコードが割り当てられたすべてのチャンネル値に先行する。

CPF5812

メンバー&3はライブラリー&2のファイル&1にすでに存在している。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9837

ファイル&1をMBR(*ALL)に一時変更しようとした。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

トップ

ソース・ファイルのコピー (CPYSRCF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ソース・ファイル・コピー(CPYSRCF)コマンドは、データベースソース・ファイルまたはDDMファイルをソース物理ファイルまたはDDMファイルにコピーし、文字データを取り出しファイルのCCSIDから受け入れファイルのCCSIDに変換します。TOFILE(*PRINT)が指定された場合には、弊社提供の印刷装置ファイルQSYSPRTを使用して、定様式印刷装置ファイルが作成されます（ソース・レコードのファイルが変更されて、他のコピー・コマンドのファイル形式とは異なる）。取り出しファイルまたは受け入れファイルに対して出された一時変更は、コピー操作に使用されたファイルに適用されます。レコード・データは、取り出しファイルから受け入れファイルにコピーされ、文字データは取り出しファイルCCSIDから受け入れファイルCCSIDに変換されます。レコード様式のこの他の相違（CPYFコマンドのFMTOPT(*NOCHK)パラメーター・オプションの相違点など）は無視されます。

注: DDMファイルの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「分散管理」情報を参照してください。

1つのメンバー、すべてのメンバー、またはメンバーの総称セットは、コマンドを呼び出す度にコピーすることができます。受け入れファイル・メンバーは、類似名の受け入れファイル・メンバーまたは単一の受け入れファイル・メンバーにコピーすることができます。多くのメンバーはアルファベット順にコピーされリストされます。CPYSRCFコマンドの開始時には、受け入れファイルが存在しなければなりません。このコマンドは受け入れファイルを作成しませんが、その受け入れファイルにメンバーがまだ存在しない場合に、既存の物理ファイルにメンバーを追加します。

このコマンドは、CPYFコマンドで使用可能なパラメーターのサブセットを提供します。MBROPTパラメーターの省略時の値は*REPLACEである（他のコピー・コマンドとは異なる）ことに注意してください。これは、取り出しファイルからコピーされるレコードと既存のレコードを置き換える前に、受け入れファイルの受け入れメンバーにすでにある既存のレコードを消去します。また、TOMBRパラメーターの省略時の値が*FROMMBR の場合には、これによって、取り出しファイル・メンバーを類似名の受け入れファイルのメンバーにコピーすることになります。

制約事項:

1. ファイルのオープン・データ・パス(ODP)は、コピー操作中にジョブ（経路指定ステップ）の他のプログラムと共用することはできません。
2. マルチスレッド・ジョブでは、複数のデータベース・ファイル・メンバー、装置ファイル(SPOOL(*YES)印刷ファイルを除く)、分散ファイル、または*SNAタイプのDDMファイルとのコピー時に、このコマンドはスレッド・セーフではありません。このコマンドは、*SNAタイプのリレーショナル・データベースおよび*SNAタイプのDDMファイルを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。スレッド・セーフであるのは、単一のデータベース・ファイル・メンバー（ローカルまたは*IPタイプのDDM)あるいはSPOOL(*YES)印刷ファイルとのコピー時だけです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFILE	データベース・ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データベース・ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOFILE	TOファイル	単一値: *PRINT その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: TOファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMMBR	FROMメンバー	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	必須, 定位置 3
TOMBR	TOメンバーまたはラベル	名前, *FROMMBR, *FIRST	オプション, 定位置 4
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	オプション, 定位置 5
SRCOPT	ソース更新オプション	単一値: *SAME その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *SEQNBR, *DATE	オプション
SRCSEQ	ソース・ステートメントの順序番号付け	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始順序番号	0.01-9999.99, <u>1.00</u>	
	要素 2: 増分番号	0.01-9999.99, <u>1.00</u>	

トップ

データベース・ソース・ファイル (FROMFILE)

コピーされるレコードの入っているデータベースソース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

データベース・ソース・ファイル名

コピーされるレコードが入っているデータベース・ソース・ファイルの名前を指定してください。

トップ

TOファイル (TOFILE)

コピーされたレコードを受け取るファイルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*PRINT

レコードは弊社提供の印刷装置ファイルQSYSPRTにコピーされ、SEUタイプのソース・ファイルの形式にリストされます。*PRINTが指定された場合には、CCSID変換は行われません。この形式ではレコードとソース・フィールドとの間に、データを区切る空白行は入れられません。また、メンバーはアルファベット順にリストされます。16進数形式のリストが必要な場合には、OUTFMT(*HEX)パラメーター値を指定したファイル・コピー(CPYF)コマンドを使用してください。弊社提供の印刷装置ファイルQSYSPRTを別のファイル名に一時変更できないことがあり、これはRPLUNPRT(*YES)およびCTLCHAR(*NONE)の属性でなければなりません。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ソース物理ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

ソース物理ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

受け入れファイル名

コピー済みレコードを受け取るソース物理ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

FROMメンバー (FROMMBR)

取り出しファイルからコピーされるファイル・メンバーを指定します。取り出しファイルの1つのメンバー、メンバーの総称セット、またはすべてのメンバーがコピーされます。メンバーはアルファベット順にコピーされリストされます。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** データベース・ファイルのすべてのメンバーがコピーされます。

*FIRST

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

取り出しメンバー名

コピーされるデータベース・ファイル・メンバー名を指定します。

総称*メンバー名

コピーされるメンバーのグループの総称名を指定してください。

[トップ](#)

メンバー (TOMBR)

コピー済みレコードを受け取るファイル・メンバーの名前を指定します。

TOファイルプロンプト(TOFILEパラメーター) に*PRINTを指定した場合には、このパラメーターに*FIRSTまたは*FROMMBRを指定しなければなりません。

考えられる値は次の通りです。

*FROMMBR

取り出しファイルおよび受け入れファイル相互間で対応するメンバー名またはラベルIDが使用されます。対応する名前のメンバーが受け入れファイルに存在しない場合には、その名前のメンバーが受け入れファイルに追加されます。

メンバー名または*FIRSTがFROMMBRパラメーターの値として指定された場合には、同じ名前の受け入れファイルのメンバーがコピーされるレコードを受け取ります。*ALLまたは総称メンバー名がFROMMBRパラメーターの値として指定された場合には、取り出しファイルの各メンバーは受け入れファイルの同じ名前のメンバーにコピーされます。取り出しファイルの1つまたは複数のメンバー (FROMMBRパラメーターによって指定される) からのレコードが受け入れファイルの最初のメンバーにコピーされます。

*FIRST

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

受け入れメンバー名

レコードを受け取る物理受け入れファイル・メンバー名を指定してください。指定された名前のメンバーが存在しない場合には、同じ名前のメンバーが追加されます。

[トップ](#)

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

新しいレコードで置き換えるか、または既存のレコードに追加するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*REPLACE

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

*ADD システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

ソース更新オプション (SRCOPT)

取り出しファイルのレコードを受け入れファイルにコピーする時に、ソース順序番号フィールドおよび日付フィールドに新しい値を割り当てるかどうかを指定します。新しい値はいずれかのフィールドまたは両方のフィールドに指定することができます。

***SAME**

ソース順序番号フィールドおよび日付フィールドに新しい値は割り当てられません。

***SEQNBR**

ソース・ステートメントの順序番号付けプロンプト(SRCSEQパラメーター)で指定された通りに、順序番号および順序番号に増分された値が割り当てられます。

***DATE**

コピーされるレコードの日付フィールドは6桁のゼロにセットされます。

トップ

ソース・ステートメントの順序番号付け (SRCSEQ)

ソース更新オプションプロンプト(SRCOPTパラメーター)に*SEQNBRも指定した時にかぎり、受け入れファイルにコピーされる最初および後続の順序番号レコードを作成するために増分される開始値および終了値を指定します。増分値は、コピーされる他のすべてのレコードの番号付け直しのために使用されます。順序番号の最大値は9999.99です。値がこの限界より大きい場合には、メンバーの追加のレコードには、順序番号9999.99が割り当てられています。

順序番号として指定できる値は次の通りです。

1.00 受け入れファイルにコピーされる最初のソース・レコードの順序番号が0001.00になります。

開始順序番号

受け入れファイルにコピーされる最初のソース・レコードの順序番号として、0000.01から9999.99までの範囲内の値を指定してください。

増分値に指定できる値は次の通りです。

1.00 受け入れファイル中のコピーされたソース・レコードは、整数の増分値1で番号が付け直されます。

増分値 最初のレコードの後でコピーされるすべてのソース・レコードの番号付け直しのために使用される増分値として、0000.01から9999.99までの範囲内の値を指定してください。0.01から9999.99の範囲内の任意の値を指定することができます。9999.99の最大値に達した場合には、追加のレコードの順序番号は9999.99となります。

トップ

例

例1: 既存レコードの置き換え

```
CPYSRCF FROMFILE(QGPL/QCLSRC) TOFILE(MYLIB/CLSRC)
        FROMMBR(PGMA)
```

このコマンドは、QGPLライブラリー中にあるデータベース・ソース・ファイルQCLSRCのメンバーPGMAからレコードをコピーします。TOMBRおよびMBROPTパラメーターの省略時の値が取られるので、レコードはライブラリーMYLIB中のCLSRCの同名メンバー(PGMA)にコピーされて、そのメンバーの既存のレコードを置き換えます。メンバーPGMAが受け入れファイル中に存在しない場合は、それがコピー操作の一部として追加されます。QGPL/QCLSRCのCCSIDがMYLIB/CLSRCのCCSIDと異なる場合は、文字データはCLSRCのCCSIDに変換されます。

例2: ファイルの印刷

```
CPYSRCF FROMFILE(QRPG/QRPGSRC) TOFILE(*PRINT) FROMMBR(INV*)
```

このコマンドは、ライブラリーQRPG中のデータベース・ソース・ファイルQRPGSRCから、文字INVで始まる名前をもつすべてのファイル・メンバーをコピーします。特殊値*PRINTが受け入れファイルに対して指定されるので、レコードは印刷装置にコピーされて、SEUによって作成される印刷出力のように、ソース・レコードに合わせた形式でリストされます。TOFILE(*PRINT)の指定時には、文字データは変換されません。

例3: 増分値の変更

```
CPYSRCF FROMFILE(MYLIB/TXTSRC) TOFILE(QIDU/QTXTSRC)  
FROMMBR(*ALL) SRCOPT(*SEQNBR *DATE) SRCSEQ(1 .25)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB中のデータベース・ソース・ファイルTXTSRCのすべてのメンバーをコピーします。これらがコピーされて、ライブラリーQIDU中のデータ・ソース・ファイルQTXTSRCの（省略時のTOMBR(*FROMMBR)を使用して）同名のメンバーの既存レコードを（省略時のMBROPT(*REPLACE)を使用して）置き換えます。受け入れファイル・メンバーが存在しない場合は、コピー操作によってこれらが追加されます。コピーされる各メンバーでは、最初のレコードには1の番号が付けられ、以下の番号のそれぞれは0.25ずつ増分されます。また、ソース日付フィールドは各レコードでゼロに設定されます。MYLIB/TXTSRCのCCSIDがQIDU/QTXTSRCのCCSIDと異なる場合には、文字データはQIDU/QTXTSRCのCCSIDに変換されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2816

エラーのために、&2のファイル&1はコピーされなかった。

CPF2817

エラーのために、コピー・コマンドが終了した。

CPF2858

印刷出力のファイル属性が正しくない。

CPF2859

共用オープン・データ・パスを使用することはできない。

CPF2864

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF2875

正しくないファイル・メンバーまたはラベルがオープンされた。

CPF2888

エラーのためにメンバー&3はファイルに追加されなかった。

CPF2909

&2のファイル&1のメンバー&3の消去中にエラー。

CPF2949

&2のファイル&1のメンバー&3のクローズ中にエラー。

CPF2952

ライブラリー&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF2968

&2のファイル&1のコピー中に位置指定エラーが起こった。

CPF2971

ファイル&1のメンバー&3の読み取り中にエラー。

CPF2972

ファイル&1のメンバー&3への書き出し中にエラー。

CPF3140

メンバー&2の初期設定またはコピーが取り消された。

CPF3143

メンバー&2に増分値を使用することはできない。

CPF3148

新しいレコードのためにメンバー&2に必要なスペースが多すぎる。

CPF3150

メンバー&2のデータベース・コピーが正常に行なわれなかった。

CPF9212

&3のDDMファイル&2をロードまたはアンロードすることができない。

[トップ](#)

ディレクトリーへのコピー (CPYTODIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリーへのコピー(CPYTODIR)コマンドは、システム配布ディレクトリー・データを磁気テープまたはディスクからローカル・システムへコピーするために使用されます。ローカル・システムへコピーされるディレクトリーのデータは、リモート・システムのディレクトリーからのコピー(CPYFRMDIR)コマンドによって作成されます。この機能によって、ローカル・システムは、リモート・システムからディレクトリーのデータに対して行なわれた変更をシャドー処理することにより、リモート・システムでディレクトリーのシャドー処理環境を開始することができます。

注意: データを回復するためにディレクトリーのデータを保管および復元するバックアップ・ユーティリティーとして、このコマンドを使用してはいけません。バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)に説明されている通常のバックアップおよび回復の手順の指針に従ってください。

制約事項: このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LABEL	ファイル・ラベル	文字値	必須, 定位置 1
DEV	装置	値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
AUTOINZ	自動初期設定	*YES, *NO	オプション
RPLDTA	データの置換え	*YES, *NO	オプション
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
SEQNBR	順序番号	1-9999, *NEXT	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション

トップ

ファイル・ラベル (LABEL)

コピー操作に使用するテープまたはディスク上の装置ファイルのラベルを指定します。テープ装置には最大17桁、ディスク装置には最大8桁を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

トップ

装置 (DEV)

コピー操作に使用されるテープまたはディスク装置の名前を指定します。それぞれのテープまたはディスク装置名は、装置記述によってすでにシステムに認識されていなければなりません。

テープ装置名

コピー操作に使用する1つまたは複数のテープ装置の名前を指定してください。複数のテープ装置を使用する場合には、使用する順序で装置名を指定してください。複数のテープ・ボリュームを使用する場合には、複数のテープ装置を使用することで、1つのテープ・ボリュームを巻き戻しあるいは取り外している時に別のテープ装置で次のテープ・ボリュームを処理することができます。

ディスク装置名

コピー操作に使用するディスク装置の名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

自動初期設定 (AUTOINZ)

このシステムにコピーされた情報を、ディレクトリーのシャドー処理によって自動的に他の収集システムに渡すかどうかを指定します。

***YES** コピーされたディレクトリー項目は、自動的に収集システムに提供されます。

***NO** コピーされたディレクトリー項目は、すでに初期設定されている他の収集システムには提供されません。

[トップ](#)

データの置換え (RPLDTA)

ローカル・システムのディレクトリー項目を、テープまたはディスクからコピーされたディレクトリーのデータで置換えるかどうかを指定します。

***NO** シャドー処理されたデータはテープまたはディスクからコピーされますが、ディレクトリー項目がシステム上に存在すれば、そのディレクトリー項目はコピーされたディレクトリー・データと置換えられません。

***YES** ディレクトリーのすべてのデータがテープまたはディスクからコピーされます。ディレクトリー項目は、すでにシステム上に存在する同じユーザーの項目を置換えます。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (VOL)

ファイルによって使用される1つまたは複数のボリュームIDを指定してください。

***NONE**

ファイルのボリュームIDが指定されていません。ボリュームIDは検査されません。

ボリュームID

複数のボリュームのIDを、それらが装置上に取り付けられてコピー操作に使用される順序で指定してください。

[トップ](#)

順序番号 (SEQNBR)

処理されるテープ上のデータ・ファイルの順序番号を指定します。データ・ファイルの最初の見出しラベルから、4桁のファイル順序番号が読み取られます。

*NEXT

コピー操作は、テープ・ボリューム上の次のファイルで開始されます。テープが現在最初のファイルよりも前に位置付けられている場合には、そのテープから最初のファイルが処理されます。

ファイル順序番号

使用されるファイルの順序番号を指定してください。有効な値の範囲は1から9999です。

[トップ](#)

テープ終了オプション (ENDOPT)

操作の終了後に、そのテープ・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されたテープ・ボリュームだけに適用されます。その他のすべてのテープ・ボリュームは、テープの終わりに達した時に巻き戻されてアンロードされます。

*REWIND

操作の終了後に、テープは自動的に巻き戻されますが、アンロードされません。

*LEAVE

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

*UNLOAD

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

[トップ](#)

例

CPYTODIR DEV(DKT01) AUTOINZ(*YES) RPLDTA(*NO)

このコマンドは、ディレクトリー・データのすべてをディスク装置DKT01からローカル・システムにコピーします。ローカル・システムにコピーされるデータは、ディレクトリー・シャドーイングの初期化または通常のディレクトリー・シャドーイングを実行するために通信を使用する他のシステムに沿って渡されます。ディスク・データと同じであると識別されたローカル・システム・データは置き換えられません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF90FB

エラーのためにディレクトリー・データはコピーされなかった。

[トップ](#)

インポート・ファイルへのコピー (CPYTOIMPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

インポート・ファイルへのコピー(CPYTOIMPF)コマンドは、外部記述ファイルをインポート・ファイルにコピーします。インポート・ファイルという用語は、異なるデータベース間でデータをコピーする目的で作成されるファイルを説明するために使用します。インポート・ファイル (TOSTMFまたはTOFILEパラメーター) は、このコマンドの 受け入れファイル と呼ばれます。

CPYTOIMPFコマンドによって実行できる特定機能の一部には、次が含まれています。

- 外部記述物理ファイルから受け入れファイル(TOFILEまたはTOSTMFパラメーター) へのコピー。
- 既存の受け入れファイル・メンバーへのレコードの追加、または受け入れファイル・メンバー(MBROPTパラメーター) の内容の置き換え。

エラーの処理: コピー操作中に発生することがある多くの異なるエラー条件の場合にエスケープ・メッセージCPF2817が送られます。常に、エスケープ・メッセージの前に、特定のエラー条件を示す診断メッセージが少なくとも1つは出されます。エラー処理の詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ファイルおよびファイル・システム」トピックに記載されています。

一時変更: このコマンドにはすべての一時変更が有効です。CPYTOIMPF によってサポートされている一時変更のパラメーターは、次の通りです。

- FILE
- MBR
- OPNSCOPE
- SHARE
- LVLCHECK
- RCDFMLCK
- SEQONLY
- INHWRT
- WAITRCD
- DSTDTA
- NBRRCDS
- STMFCODPAG

状況メッセージ: CPYTOIMPFコマンドの実行中に、コピー操作が実行中であることを対話式ユーザーに通知するメッセージCPI2801が状況メッセージとして送られます。状況メッセージが表示されないようにする方法の詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ファイルおよびファイル・システム」トピックに記載されています。

制約事項:

- CPYTOIMPF要求の実行中には、 **TO データベース・ファイル (TOFILE)**パラメーターに指定されたファイルは、アクセス可能でなくなるようにロックされることがあります（タイムアウトのない*EXCLロックと類似している）。
- 取り出しファイルにSHARE(*YES)属性がある場合には、予測できない結果が起こることがあります。したがって、取り出しファイルがSHARE(*YES)で定義されている場合には、コピーの前に、ユーザーはそのファイルがどれかのプロセスによってオープンされていないことを確認する必要があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFILE	FROMファイル	要素リスト	必須、定位置 1
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST, *ALL	
TOFILE	TO データベース・ファイル	要素リスト	オプション、定位置 2
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST, *FROMMBR, *ALL	
TOSTMF	TOストリーム・ファイル	パス名	オプション、定位置 3
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*ADD, *REPLACE	オプション
FROMCCSID	変換元CCSID	1-65533, *FILE	オプション
TOCCSID	変換先CCSID	1-65533, *FILE	オプション
STMFCODPAG	ストリーム・ファイル・コード・ページ	1-32767, *STMF, *PCASCII, *STDASCII	オプション
RCDDL	レコード区切り文字	文字値, *EOR, *CRLF, *LF, *CR, *LFCR	オプション
DTAFMT	インポート・ファイルのレコード様式	*DLM, *FIXED	オプション
STRDLM	ストリング区切り文字	文字値, *DBLQUOTE, *NONE	オプション
STRESCCHR	ストリング・エスケープ文字	文字値, *STRDLM, *NONE	オプション
RMVBLANK	ブランクの除去	*NONE, *LEADING, *TRAILING, *BOTH	オプション
FLDDL	フィールド区切り文字	文字値, ', *TAB	オプション
NULLIND	ヌル・フィールド標識	*NO, *YES	オプション
DECPNT	小数点	*PERIOD, *COMMA	オプション
DATFMT	日付の形式	*ISO, *USA, *EUR, *JIS, *YYMD	オプション
TIMFMT	時刻形式	*ISO, *USA, *EUR, *JIS	オプション

トップ

FROMファイル (FROMFILE)

コピーされたレコードを含めるファイルを指定します。データベース・ファイルは単一様式の論理ファイル、物理ファイル、またはマルチ・システム・ファイルとすることができます。

これは必須パラメーターです。

要素1: ファイル

修飾子1: ファイル

名前 コピーされるレコードが含まれるファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

***FIRST**

指定された取り出しファイルの最初のメンバー（作成日順）が使用されます。取り出しファイルにメンバーがない場合には、*FIRSTの指定は許可されません。

***ALL** 指定したファイルのすべてのメンバーがコピーされます。

名前 コピーするレコードが入っている取り出しファイルのメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

TO データベース・ファイル (TOFILE)

コピーされたレコードを受け取るデータベース・ファイルを指定します。このパラメーターまたはTOSTMFパラメーターのいずれか一方が必要です。

受け入れファイルは次のファイル・タイプのいずれかとすることができます。

- ソース物理ファイル
- プログラム記述物理ファイル
- 1つの非数値フィールドをもつ外部記述物理ファイル。

要素1: ファイル

修飾子1: ファイル

名前 コピーされたレコードを受け取るファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

***FIRST**

指定された受け入れファイルの最初のメンバー（作成日順）が使用されます。

指定された受け入れファイルにメンバーがなくて、受け入れファイルのメンバー名を指定した有効な一時変更(OVRDBFコマンド)がない場合には、*FIRSTの指定は許されません。

***ALL** データは区画に分割されたテーブルの適切な受け入れメンバーにコピーされます。*ALLが有効となるのは、区画に分割されたテーブルの場合だけです。

***FROMMBR**

対応する取り出しファイルおよび受け入れファイルのメンバー名が使用されます。

名前 コピーされたレコードを受け取る受け入れファイル・メンバーの名前を指定してください。指定された名前前のメンバーがまだ受け入れファイル内に存在しない場合には、そのメンバーが追加されます。

[トップ](#)

TOストリーム・ファイル (TOSTMF)

データのコピー先の出力ストリーム・ファイルを指定します。このパラメーターまたはTOFILEパラメーターのいずれか一方が必要です。パス名のディレクトリーはすべて存在していなければなりません。新しいディレクトリーは作成されません。ストリーム・ファイルが存在していない場合には、作成されます。

注: QSYS.LIBファイル・システムにより、属性はセットできないので、TOSTMFパラメーターに指定されたパス名がQSYSメンバーの場合には、診断メッセージがジョブ・ログに表示されます。この診断メッセージによって、コピー操作の正常な完了が妨げられることはありません。

パス名 データのコピー先の出力ストリーム・ファイルのパス名を指定します。

[トップ](#)

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

指定された名前のメンバーがすでに存在している場合には、コピー操作で受け入れファイル・メンバー内のレコードを置き換えるか、追加するか、あるいはコピーを正常に実行しないかを指定します。メンバーが存在していない場合には、それが作成されて、受け入れファイルに追加されます。

注: *ADDが指定されて、受け入れファイルにレコードが入っていない場合には、コピー操作は正常に完了します。*REPLACEが指定されて、受け入れファイルにレコードが入っていない場合には、コピー操作は異常終了します。

使用可能な詳細説明は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ファイルおよびファイル・システム」トピックにあります。

***ADD** コピーされたレコードは既存のメンバー・レコードの終わりに追加されます。

***REPLACE**

コピーされたレコードが既存のメンバー・レコードを置き換えます。

[トップ](#)

変換元CCSID (FROMCCSID)

取り出しファイルのフィールドに使用するコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

***FILE** データは、取り出しファイルのフィールドCCSIDに変換されます。取り出しファイルのフィールドのCCSIDが65535である場合には、フィールドは変換されず、2進データとして扱われます。

1から65533

取り出しファイルのフィールドのCCSIDが65535である場合に使用するCCSIDを指定してください。取り出しファイルのフィールドのCCSIDが65535でない場合には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

変換先CCSID (TOCCSID)

TO データベース・ファイル (TOFILE)パラメーターに指定されたファイルに使用するコード化文字セットID (CCSID)を指定します。

***FILE** 受け入れファイル・データベース・ファイルのCCSIDが使用されます。

1から65533

受け入れファイルのCCSIDが65535である時に使用されるCCSIDを指定します。受け入れファイルのCCSIDが65535でない場合には、エラー・メッセージが発信されます。

[トップ](#)

ストリーム・ファイル・コード・ページ (STMFCODPAG)

ストリーム・ファイルのコード・ページ、およびデータ変換に使用するコード・ページのコード化文字セットID (CCSID)と同等なものを入手する方法を指定します。

***STMF**

ストリーム・ファイルが存在し、データ変換が必要な場合には、ストリーム・ファイルと関連したコード・ページのCCSIDに等しい物が変換の実行に使用されます。

ストリーム・ファイルが存在しない場合には、ソース・データベース・ファイルCCSIDのコード・ページと等しい物が使用され、ストリーム・ファイルと関連付けされます。

***STDASCH**

ストリーム・ファイルが存在する場合には、ストリーム・ファイルと関連したコード・ページが指定された値と同じ時だけ、このオプションが有効です。そうでない場合には、操作は正常に実行されません。

ストリーム・ファイルが存在しない場合には、IBM PCデータ・エンコード・スキーム(X2100)のコード・ページが計算されます。このコード・ページはターゲット・ストリーム・ファイルと関連付けられ、必要であればデータ変換に使用されます。

***PCASCH**

ストリーム・ファイルが存在する場合には、ストリーム・ファイルと関連したコード・ページが指定された値と同じ時だけ、このオプションが有効です。そうでない場合には、操作は正常に実行されません。

ストリーム・ファイルが存在しない場合には、MICROSOFT WINDOWSのエンコード・スキーム(X4105)中のコード・ページが計算されます。(MICROSOFTおよびWINDOWSはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です。) このコード・ページはターゲット・ストリーム・ファイルと関連付けられ、必要であればデータ変換に使用されます。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWSアプリケーションで使用することができます。

1から32767

使用するコード・ページを指定します。ストリーム・ファイルが存在する場合には、ストリーム・ファイルと関連付けられたコード・ページが指定された値と同じ時だけ、このオプションは有効です。そうでない場合には、エラー・メッセージが送信されます。ストリーム・ファイルが存在しない場合には、指定したコード・ページは、ストリーム・ファイルが作成された時にそのストリーム・ファイルと関連付けられます。

[トップ](#)

レコード区切り文字 (RCDDLML)

受け入れファイルのレコード区切り文字を指定します。

TOFILEパラメーターを指定する場合、有効な値は*EORまたは文字値です。TOSTMFパラメーターを指定する場合、有効な値は*CR、*CRLF、*LF、*LFCR、または*ALLです。

***EOR** レコードの終わりおよび最後のフィールドの後のデータはX'00'で埋め込まれます。

***CRLF**

改行とそれに続く行送りが行の終わりに付加されます。

***LF** 行送りが行の終わりに付加されます。

***CR** 改行が行の終わりに付加されます。

***LFCR**

行送りとそれに続く改行が行の終わりに付加されます。

文字値 単一レコードの終わりを指示する単一文字を指定してください。

インポート・ファイルのレコード様式 (DTAFMT)

生成される受け入れファイルのデータの形式を指定します。

***DLM** データには区切り文字が入っています。ストリング、フィールド、およびレコード区切り文字については、STRDLM, FLDDLML,およびRCDDLMLのパラメーターの説明を参照してください。

***FIXED**

データ形式は固定です。各レコードのデータは固定欄に入っています。受け入れファイルにヌル・フィールドがどのように現れるかの詳細については、ヌル・フィールド標識 (NULLIND)パラメーターを参照してください。

トップ

ストリング区切り文字 (STRDLM)

コピー先のフィールドのデータのストリング区切り文字を指定します。この文字は、受け入れファイル内の文字、日付、時刻、およびタイム・スタンプ・ストリングの開始と終了を指示します。受け入れファイルの作成に使用されるユーティリティーによっては、一部のタイプのストリングがストリング区切り文字なしで取り出しファイル内に現れることがあります。

指定した区切り文字は、ジョブのコード化文字セットID (CCSID)から受け入れファイルのCCSIDに変換されます。取り出しファイルのCCSIDが1200, 1208,または13488である場合には、区切り文字がジョブのCCSIDに変換されるか、あるいはジョブのCCSIDが65535であると、ジョブの省略時のCCSIDに変換されます。

***DBLQUOTE**

二重引用符文字がストリング区切り文字として使用されます。

***NONE**

区切り文字はストリング区切り文字として不要です。ブランク文字()は*NONE 値を表します。

文字値 ストリング区切り文字の文字値を指定してください。

トップ

ストリング・エスケープ文字 (STRESCCHR)

受け入れファイルのストリング・フィールド内で生成されるエスケープ文字を指定します。受け入れファイルの文字フィールドには、インポート・ユーティリティーに対して特殊な意味を持つ文字が含まれる場合があります。これらの文字には、ストリング区切り文字およびストリング・エスケープ文字自体があります。

ストリング・エスケープ文字は、受け入れファイルのデータ内でこうした文字の前において、その特殊な意味を取り消します。これにより、インポート・ユーティリティーは、その文字がデータであるか、それともストリング区切り文字であるかを判断できます。

指定したストリング・エスケープ文字は、ジョブのコード化文字セットID (CCSID)から受け入れファイルのCCSIDに変換されます。受け入れファイルのCCSIDが1200, 1208,または13488である場合には、ストリング・エスケープ文字がジョブのCCSIDに変換されるか、あるいはジョブのCCSIDが65535であると、ジョブの省略時のCCSIDに変換されます。

***STRDLM**

ストリング区切り文字は、エスケープ文字として使用されます。取り出しファイルの文字フィールドの各ストリング区切り文字は、2つの隣接したストリング区切り文字としてエクスポートされます。

***NONE**

データにストリング・エスケープ文字は挿入されません。データにストリング区切り文字があると、受け入れファイルに信頼を置いているインポート・ユーティリティーで予期しない結果と発生することがあります。

文字値 エスケープ文字として使用される文字を指定してください。

[トップ](#)

ブランクの除去 (RMVBLANK)

ブランクを除去するのか、あるいは保存するのかを指定します。DTAFMTパラメーターを*FIXEDに設定した時には、このパラメーターは無視されます。

***NONE**

先行および後書きブランクはすべて保存されます。

***LEADING**

先行ブランクは除去されます。

***TRAILING**

後書きブランクは除去されます。

***BOTH**

先行および後書きブランクは除去されます

[トップ](#)

フィールド区切り文字 (FLDDLM)

レコードのフィールド区切り文字を指定します。この値はフィールドとフィールドの間に入れられます。

; フィールド区切り文字としてコンマが使用されます。

***TAB** 水平タブ文字がフィールド区切り文字として使用されます。

文字値 フィールド区切り文字の文字値を指定してください。

[トップ](#)

ヌル・フィールド標識 (NULLIND)

各フィールドの次の最初の文字には、そのフィールドがヌルかどうかを示すYまたはNのいずれか一方が入ります。*FIXEDがインポート・ファイルのレコード様式 (DTAFMT)パラメーターに指定された場合にかぎり、NULLIND(*YES)が有効です。

***NO** 各フィールドの後にヌル値標識を追加しません。

***YES** 生成された固定形式受け入れファイル内の各フィールドの後に、ヌル値標識文字を追加します。

[トップ](#)

小数点 (DECPNT)

受け入れファイルに数字データをコピーする時に使用される小数点文字を指定します。

***PERIOD**

ピリオド(.)が小数点文字として使用されます。

***COMMA**

コンマ(,)が小数点文字として使用されます。

[トップ](#)

日付の形式 (DATFMT)

受け入れファイルに日付フィールドをコピーする時に使用される日付形式を指定します。

***ISO** 国際標準化機構(ISO)日付形式YYYY-MM-DDが使用されます。

***USA** 米国日付形式MM/DD/YYYYが使用されます。

***EUR** 欧州日付形式DD.MM.YYYYが使用されます。

***JIS** 日本工業規格(JIS)日付形式YYYY-MM-DDが使用されます。

***YYMD**

日付形式YYYYMMDDが使用されます。

[トップ](#)

時刻形式 (TIMFMT)

受け入れファイルに時刻フィールドをコピーする時に使用される時刻形式を指定します。

***ISO** 国際標準化機構(ISO)時刻形式HH.MM.SSが使用されます。

***USA** 米国時刻形式HH:MMXXが使用されます。ここで、XXはAMまたはPMです。

***EUR** 欧州時刻形式HH.MM.SSが使用されます。

***JIS** 日本工業規格(JIS)時刻形式HH:MM:SSが使用されます。

[トップ](#)

例

```
CPYTOIMPF FROMFILE(DB2FILE) TOFILE(EXPFILE)
          FLDDLML(';') RCDDLML(X'07')
          STRDLM(*DBLQUOTE) DATFMT(*JIS) TIMFMT(*JIS)
```

外部記述ファイルDB2FILEのすべてのレコードがインポート・ファイルEXPFILEに追加されます。インポート・ファイルのフィールドはセミコロン(;)文字で区切られます。インポート・ファイルの各レコードは16進'07'文字によって区切られます。文字、日付、時刻、およびタイム・スタンプの値は二重引用符文字で開始し終了します。日時フィールドは*JIS形式です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2817

エラーのために、コピー・コマンドが終了した。

[トップ](#)

PC文書へのコピー (CPYTOPCD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

PC文書へのコピー(CPYTOPCD)コマンドは、システム・データベース・ファイルのメンバーをフォルダーのPC文書にコピーします。

注: この項目が、(画面自身またはヘルプ情報に) アスタリスク付きで示される「特殊値」でない限り、項目の前にアスタリスクを付けないでください。

エラー・メッセージ: CPYTOPCD

*ESCAPE メッセージ

IWS1612

メンバー&1はPC文書にコピーされなかった。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFILE	取り出しファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 取り出しファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOFLR	受け取りフォルダー	文字値	必須, 定位置 2
FROMMBR	取り出しメンバー	名前, *FIRST	オプション, 定位置 3
TODOC	受け取り文書	文字値, *FROMMBR	オプション, 定位置 4
REPLACE	文書置き換え	*NO, *YES	オプション, 定位置 5
TRNTBL	変換テーブル	単一値: *DFT, *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 変換テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TRNFMT	PCデータの形式	*TEXT, *NOTEXT	オプション
TRNIGC	DBCSコード・ページ	*DFT, *JPN, *CHT, *BG5, *CHS, *KOR, *KSC, *SCGS, *NONE	オプション
RCDFMT	レコード様式	名前, *ALL	オプション

トップ

取り出しファイル (FROMFILE)

コピーするデータが入っているデータベース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このファイルは物理ファイルまたは論理ファイルのいずれかとすることができます。

これは必須パラメーターです。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** データベース・ファイルを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリー項目がライブラリー・リストに存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

このファイルがソース・ファイルで、レコードがEBCDICからASCIIに変換される場合には、レコードをPC文書に書き出す時に行番号および日付は除去されます。

[トップ](#)

受け取りフォルダー (TOFLR)

コピー先のPC文書が入っているフォルダーの名前を指定します。

この名前は、次の形式のすべて修飾されたパス名とすることができます。

- フォルダー 1 / フォルダー 2 / フォルダー 3 / ... / フォルダー n

パス名の長さは、63桁以内で指定することができます。パスのすべてのフォルダーが存在していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

取り出しメンバー (FROMMBR)

コピーされるメンバーの名前を指定します。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーがコピーされます。

メンバー名

コピーされるメンバー名を指定してください。

[トップ](#)

受け取り文書 (TODOC)

コピーしたデータベース・ファイル・メンバーを入れるフォルダー内PC文書の名前を指定します。指定した文書が存在していない場合には、それが作成されます。

***FROMMBR**

PC文書の名前はメンバー名と同じです。

文書名 次の形式の有効な文書名を指定してください。

- ファイル名 . エクステンション

ファイル名は1-8文字で、エクステンションは1-3文字とすることができます。

トップ

文書置き換え (REPLACE)

既存の文書をコピー操作によって置き換えるかどうかを指定します。

***NO** この名前の文書がすでに**受け取りフォルダ**プロンプト (TOFLRパラメーター) によって指定されたフォルダに存在している場合には、その文書のコピーは実行されません。

***YES** この名前の文書がすでに**受け取りフォルダ**プロンプト (TOFLRパラメーター) によって指定されたフォルダに存在している場合には、その文書はコピーされるデータベース・ファイル・メンバーによって置き換えられます。

トップ

変換テーブル (TRNTBL)

変換を実行するかどうか、実行する場合には、EBCDICからASCIIにデータを変換するために使用する変換テーブルの名前を指定します。

注: ユーザー定義の2バイト文字セットでは、このパラメーターは変換を実行するかどうか、実行する場合には、単一バイト変換に使用する変換テーブルも指定します。

PC文書のレコードの様式は、**PCデータの形式**プロンプト (TRNFMTパラメーター) によって処理されます。

***DFT** 省略時の変換テーブルが使用されます。

変換テーブル名

変換テーブルの名前およびライブラリーを指定します。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** テーブルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

テーブルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリー項目がライブラリー・リストに存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

テーブルが入っているライブラリーを指定します。

***NONE**

EBCDICからASCIIへの変換は行なわれません。レコードは固定長レコードとしてPC 文書にコピー

されます。ASCIIの復帰文字、改行文字、またはファイルの終わり文字はPC文書に追加されません。これらの固定長レコードの長さはデータベース・ファイル・メンバーのレコードの長さと同じです。

[トップ](#)

PCデータの形式 (TRNFMT)

PC文書のレコードの様式を指定します。

変換テーブルプロンプト (TRNTBLパラメーター) に*NONEが指定された場合には、このパラメーターは無効です。

*TEXT

PC文書のレコードは標準DOS ASCII可変長形式で書き出されます。ASCIIの復帰文字および行送り文字は各レコードの終わりに追加され、ASCIIのファイルの終わり文字がPC文書の終わりに追加されます。

*NOTEXT

PC文書のレコードは固定長レコードとなります。データベース・ファイルのレコードの長さがPC文書のレコードの長さとして使用されます。

[トップ](#)

DBCSコード・ページ (TRNIGC)

変換に使用される2バイト文字セットを指定します。変換テーブルプロンプト (TRNTBLパラメーター) によって一時変更されないかぎり、このパラメーターも単一バイト変換テーブルを指定します。

*DFT 省略時の国または地域の2バイト文字セット。

*JPN IBM日本語。

*CHT IBM中国語 (繁体字)。

*BG5 台湾工業規格(BIG-5)。

*CHS IBM中国語 (簡体字)。

*KOR IBM韓国語(KS)。

*KSC 韓国工業規格。

*SCGS

中華人民共和国国家規格(GB)。

*NONE

2バイト変換は実行されません。

[トップ](#)

レコード様式 (RCDFMT)

コピーされるレコードのレコード様式を指定します。指定できる値は、次の通りです。

*ALL データベース・ファイルの (すべてのレコード様式の) すべてのレコードがコピーされます。

レコード様式名

特定のレコード様式のレコードだけをコピーしたい場合には、そのレコード様式の名前を指定してください。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

IWS1612

メンバー&1はPC文書にコピーされなかった。

[トップ](#)

PCFファイルへコピー (CPYTOPCFF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ポータブル・コンパイル済み形式ファイルへのコピー(CPYTOPCFF)コマンドは、DBCS文字セット(DBCS)フォント・テーブルに入っているすべてのユーザー定義のDBCS文字フォントを既存のPCFフォント・ファイルにコピーします。コピー操作の実行中に、ドット・マトリックス変換が自動的に実行されます。サポートされているドット・マトリックス変換がリストされている表については、PCFファイルからコピー(CPYFRMPCFF)コマンドの説明を参照してください。DBCSフォント・テーブルのタイプごとにコピーすることができるユーザー定義のDBCS文字フォントの最大数がリストされている表もあります。

制約事項: 次の権限が必要です。

1. CPYIGCTBL, CRTPF, CHKIN,およびCHKOUTコマンドに対する*USE権限。
2. 漢字フォント・テーブルに対する*USE権限。
3. PCFファイルのパス名接頭部のディレクトリーに対する*X権限。
4. PCFフォント・ファイルに対する*RW権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMIGCTBL	コピー元漢字フォント・テーブル	QIGC2424, QIGC2424K, QIGC2424C, QIGC2424S, QIGC3232, QIGC3232S	必須, 定位置 1
TOPCFF	コピー先PCFファイル	パス名	必須, 定位置 2
RPLFNT	フォントの置き換え	*NO, *YES	オプション

トップ

コピー元漢字フォント・テーブル (FROMIGCTBL)

すべてのユーザー定義のDBCS文字フォントのコピー元のDBCSフォント・テーブルの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

QIGC2424

24 X 24ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される日本語 DBCSフォント・テーブル。

QIGC2424C

24 X 24ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される中国語 (繁体字) DBCSフォント・テーブル。

QIGC2424K

24 X 24ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される韓国語 DBCSフォント・テーブル。

QIGC2424S

24 X 24ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される中国語 (簡体字) DBCSフォント・テーブル。

QIGC3232

32 X 32ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される日本語 DBCSフォント・テーブル。

QIGC3232S

32 X 32ドット・マトリックス・フォントで外字を表示および印刷するために使用される中国語 (簡体字) DBCSフォント・テーブル。

QIGCRRCL

コピーされるDBCSフォント・テーブルの名前は常にQIGCRRCLという形式になっていなければなりません。ここで、RRはテーブル行のマトリックス・サイズで、CCはテーブル列のマトリックス・サイズで、英字Lは任意選択の言語識別コードです。

[トップ](#)

コピー先PCFファイル (TOPCFF)

ユーザー定義のDBCS文字フォントのコピー先のPCFファイルのパス名を指定します。パス名のPCFファイルおよびすべてのディレクトリは存在していなければなりません。PCFファイルはストリーム・ファイル・オブジェクトであり、UCS-2エンコードを用いたユーザー定義の文字セットでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

フォントの置き換え (RPLFNT)

指定されたPCFフォント・ファイルのユーザー定義のDBCS文字フォントが、指定されたDBCSフォント・テーブルからのDBCS文字フォントで置き換えられるかどうかを指定します。

- *NO** システムは、指定されたPCFフォント・ファイルのユーザー定義のDBCS文字フォントを指定されたDBCSフォント・テーブルからのDBCS文字フォントで置き換えません。
- *YES** システムは、指定されたPCFフォント・ファイルのユーザー定義のDBCS文字フォントを指定されたDBCSフォント・テーブルからのDBCS文字フォントで置き換えます。

[トップ](#)

例

例1:既存のフォントを置き換えずにコピー

```
CPYTOPCFF QIGC2424  
          '/QIBM/PRODDATA/NETWORKSTATION/FONTS/PCF/IBM_JPN12.PCF'  
          RPLFNT(*NO)
```

このコマンドは、日本語DBCSフォント・テーブルQIGC2424 (24 X 24ドット・マトリックス・フォント) に入っているすべてのユーザー定義DBCS文字フォントをディレクトリ /QIBM/PRODDATA/NETWORKSTATION/FONTS/PCF中のIBM_JPN12.PCF という名前の日本語PCFファイル(16 X 16ドット・マトリックス・フォント) にコピーします。PCFファイルで見つからないユーザー定義PCF文字フォントだけがコピーされます。コピー操作の時に、ユーザー定義DBCS文字フォントが24 X 24ドット・マトリックスから16 X 16ドット・マトリックスに変換されます。

例2:コピーして既存のフォントを置き換え

```
CPYTOPCFF QIGC2424C  
          '/QIBM/PRODDATA/NETWORKSTATION/FONTS/PCF/CHTPC23.PCF'  
          RPLFNT(*YES)
```

このコマンドは、中国語（繁体字）DBCSフォント・テーブルQIGC2424C (24 X 24 ドット・マトリックス・フォント) に入っているすべてのユーザー定義DBCS文字フォントをディレクトリ /QIBM/PRODDATA/NETWORKSTATION/FONTS/PCF中のCHTPC23.PCF という名前の中国語（繁体字）PCFファイル(32 X 32ドット・マトリックス・フォント) にコピーします。PCFファイル中のユーザー定義PCF文字フォントは、DBCSフォント・テーブル中に見つかったもので置き換えられます。コピー操作の時に、ユーザー定義DBCS文字フォントが24 X 24ドット・マトリックスから32 X 32ドット・マトリックスに変換されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFB7A7

&1コマンドがエラーのために終了した。

[トップ](#)

ストリーム・ファイルへのコピー (CPYTOSTMF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ストリーム・ファイルへのコピー (CPYTOSTMF)コマンドは、データベース・ファイル・メンバーまたは保管ファイルのいずれかをストリーム・ファイルにコピーします。データベース・ファイル・メンバーをコピーする時に、任意選択のデータの変換および形式変更が実行されます。このコマンドを使用して、リモート・システムとの間でデータベース・ファイル・メンバーをコピーすることはできません。データベース・ファイル・メンバーまたは保管ファイルに有効な指定変更は、このコマンドでは使用されません。

このコマンドは、通常のファイルおよび/DEV/NULL文字特殊ファイルで操作することができます。通常のファイルとは、統合ファイル・システム入出力(I/O)操作のオープン、読み取り、および書き込みをサポートするファイルをいいます。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. データベース・メンバーのパス名は、名前.オブジェクト・タイプの形式でなければなりません。たとえば、/QSYS.LIB/LIBA.LIB/FILEA.FILE/MBRA.MBRは、QSYS.LIBファイル・システムに必要な形式です。
2. 保管ファイルのパス名は名前.オブジェクト・タイプの形式でなければなりません。たとえば、/QSYS.LIB/LIBA.LIB/SAVEFILEA.FILEはQSYS.LIBファイル・システムに必要な形式です。
3. ユーザーには次の権限が必要です。
 - データベース・ファイル、保管ファイル、ストリーム・ファイル、または変換テーブルの、パス名接頭部のディレクトリーに対する実行(*X)権限。
 - データベース・ファイルまたは保管ファイルに対する実行(*RX)権限。
 - ストリーム・ファイルがすでに存在している場合には、ストリーム・ファイルに対する書き込み(*W)権限。
 - ストリーム・ファイルがまだ存在しない場合には、ストリーム・ファイルの親ディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限。
 - 変換テーブルが指定されている場合には、その変換テーブルに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMMBR	FROM ファイル・メンバー か保管ファイル	パス名	必須, 定位置 1
TOSTMF	TOストリーム・ファイル	パス名	必須, 定位置 2

キーワード	記述	選択項目	注
STMFOPT	ストリーム・ファイル・オプション	* <u>NONE</u> , *ADD, *REPLACE	オプション
CVTDTA	データ変換オプション:	* <u>AUTO</u> , *TBL, *NONE	オプション
DBFCCSID	データベース・ファイル CCSID	1-65533, * <u>FILE</u>	オプション
STMFCODPAG	ストリーム・ファイル・コード・ページ	1-32767, * <u>STMF</u> , *PCASCII, *STDASCII	オプション
TBL	変換テーブル	パス名	オプション
ENDLINfmt	行の終わり文字	* <u>CRLF</u> , *LF, *CR, *LFCR, *FIXED	オプション

トップ

FROM ファイル・メンバーか保管ファイル (FROMMBR)

データがコピーされる元のデータベース・ファイル・メンバーまたは保管ファイルのパス名を指定します。メンバーからコピーする時には、ファイルはソース物理ファイルまたはプログラム記述物理ファイルのいずれかになります。複数のデータ・フィールドをもつソース物理ファイルはサポートされていません。

データベース・ファイルがソース物理ファイルであった場合には、レコードがストリーム・ファイルに書き出された時に、順序番号および日付が除去されます。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

トップ

TOストリーム・ファイル (TOSTMF)

データをコピーする先のストリーム・ファイルのパスおよび名前を指定します。パス名のすべてのディレクトリが存在しなければなりません。新しいディレクトリは作成されません。このストリーム・ファイルが存在していない場合には、それが作成されます。

このコマンドは、タイプ*STMFおよび/DEV/NULL文字特殊ファイルで操作することができます。

注: QSYS.LIBおよび独立ASP QSYS.LIBファイル・システムでは、属性を設定することができないために、TOSTMFパラメーターに指定されたパス名がQSYSメンバーである場合には、ジョブ・ログに診断メッセージが表示されます。この診断メッセージはコピー操作の正常な完了の妨げにはならず、無視することができます。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

トップ

ストリーム・ファイル・オプション (STMFOPT)

指定された名前のストリーム・ファイルがすでに存在していた場合に、コピー操作でストリーム・ファイル内のレコードを置き換えるか、追加するか、またはレコードのコピーを正常に実行しないかを指定します。このストリーム・ファイルが存在していない場合には、それが作成されます。

*NONE

レコードはコピーされず、操作は失敗します。

***ADD** レコードは、既存のストリーム・ファイル・レコードの終わりに追加されます。

この値は保管ファイルをコピーする時には使用できません。

***REPLACE**

レコードは、既存のストリーム・ファイル・レコードを置き換えます。

トップ

データ変換オプション： (CVTDTA)

データをデータベース・ファイル・メンバーからストリーム・ファイルに変換するための処理を指定します。

このパラメーターは、保管ファイルをコピーする時には無視されます。

*AUTO

データは、コピー操作の実行中に、ストリーム・ファイル・データのコード・ページに相当するコード化文字セットID (CCSID)およびデータベース・ファイルのCCSIDを使用して変換されます。1バイト、2バイト、および混合文字セットがサポートされています。ストリーム・ファイル・データのコード・ページは **ストリーム・ファイル・コード・ページ (STMFCODPAG)**パラメーターで指定しなければならず、データベース・ファイルのCCSIDは**データベース・ファイルCCSID (DBFCCSID)**パラメーターで指定しなければなりません。

***TBL** データは、変換テーブルを使用して変換されます。1バイト文字セットだけがサポートされています。変換テーブルは、**変換テーブル (TBL)**パラメーターで指定しなければなりません。変換テーブルが使用可能でない場合には、操作は失敗します。

***NONE**

ソース物理ファイルからの順序番号および日付スタンプの除去と、指定された行形式設定文字のストリーム・ファイルへの任意選択の挿入だけが実行されます。その他の文字についてデータベース・ファイルのCCSIDからストリーム・ファイルのコード・ページへの変換は実行されません。

トップ

データベース・ファイルCCSID (DBFCCSID)

データベース・ファイルのCCSIDを入手する方法を指定します。

このパラメーターは、保管ファイルをコピーする時には無視されます。

***FILE** データベース・ファイルのCCSIDが65535でなければ、それが使用されます。データベース・ファイルのCCSIDが65535で、ファイルがプログラム記述ファイルでない場合には、操作は失敗します。データベース・ファイルのCCSIDが65535であり、そのファイルがプログラム記述ファイルである場合には、省略時のジョブCCSIDが使用されます。

データベース・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)を指定してください。

[トップ](#)

ストリーム・ファイル・コード・ページ (STMFCODPAG)

ストリーム・ファイルのコード・ページおよびデータ変換に使用されるコード・ページのCCSIDに等しい物を入力する方法を指定します。

このパラメーターは、保管ファイルをコピーする時には無視されます。

***STMF**

ストリーム・ファイルが存在し、データ変換が必要な場合には、ストリーム・ファイルと関連したコード・ページのCCSIDに等しい物が変換の実行に使用されます。

ストリーム・ファイルが存在しない場合には、ソース・データベース・ファイルCCSIDのコード・ページに等しい物が使用され、ストリーム・ファイルと関連付けされます。

データベース・ファイルのCCSIDが混合エンコード・スキームの場合には、1バイトのコード・ページだけがストリーム・ファイルに書き込まれます。

***STDASCI**

ストリーム・ファイルが存在する場合には、ストリーム・ファイルと関連したコード・ページが指定された値と同じ時だけ、このオプションが有効です。そうでない場合には、操作は正常に実行されません。

ストリーム・ファイルが存在しない場合には、IBM PCデータ・エンコード・スキーム(X2100)のコード・ページが計算されます。このコード・ページはターゲット・ストリーム・ファイルと関連付けされ、必要であればデータ変換に使用されます。

***PCASCI**

ストリーム・ファイルが存在する場合には、ストリーム・ファイルと関連したコード・ページが指定された値と同じ時だけ、このオプションが有効です。そうでない場合には、操作は正常に実行されません。

ストリーム・ファイルが存在しない場合には、MICROSOFT WINDOWSのエンコード・スキーム(X4105)中のコード・ページが計算されます。(MICROSOFT, WINDOWS, WINDOWS NT,およびWINDOWS 95のロゴはMICROSOFT CORPORATIONの登録商標です。) このコード・ページはターゲット・ストリーム・ファイルと関連付けされ、必要であればデータ変換に使用されます。このオプションにより、結果のデータをMICROSOFT WINDOWSアプリケーションで使用することができます。

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。ストリーム・ファイルが存在する場合には、ストリーム・ファイルと関連付けされたコード・ページが指定された値と同じ時だけ、このオプションは有効です。そうでない場合には、操作は正常に実行されません。ストリーム・ファイルが存在しない場合には、指定したコード・ページは、ストリーム・ファイルが作成された時にそのストリーム・ファイルと関連付けられます。

[トップ](#)

変換テーブル (TBL)

データベース・ファイル・メンバーからストリーム・ファイルへのデータの変換に使用される変換テーブルのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseries/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: このパラメーターは必須であり、有効となるのはCVTDTA(*TBL)が指定された場合だけです。このパラメーターは、保管ファイルをコピーする時には無視されます。

トップ

行の終わり文字 (ENDLINFMT)

レコードのコピー時にストリーム・ファイルに挿入する行の終わり文字を指定します。

このパラメーターは、保管ファイルをコピーする時には無視されます。

行の終わり文字の1つのオプションが選択された (ENDLINFMT(*FIXED)が指定されない) 場合には、コピーされる時に、データベース・ファイル・レコードが可変長のストリーム・ファイル・テキスト行に変換されます。各データベース・ファイル・レコードは、後書きブランクによってトリミングされます。次に、データは、宛先データ形式に変換され (それが指定された場合)、行の終わり文字がテキスト行の終わりに付加されます。このテキスト行がストリーム・ファイルにコピーされます。

***CRLF**

改行に続いて行送りが各行の終わりに付加されます。

***LF** 行送りが各行の終わりに付加されます。

***CR** 改行が各行の終わりに付加されます。

***LFCR**

行送りに続いて改行が各行の終わりに付加されます。

***FIXED**

ストリーム・ファイル内の行は、固定長レコードとして書き出されます。CRおよびLF文字は各行の終わりに追加されず、後書きブランクは各レコードの終わりから除去されません。ストリーム・ファイル・レコードの長さは、データベース・ファイル・レコードの長さと同しくなります。

このオプションには、結果としてデータのレコード長を拡張させることのない、互換性のあるエンコード・スキームをもったストリーム・ファイルおよびデータベース・ファイルだけが有効です。互換性のないエンコード・スキームの組み合わせが検出された場合には、操作は正常に実行されません。

次のエンコード・スキームの組み合わせがサポートされています。

- 1バイトから1バイト
- 2バイトから2バイト
- 混合ASCIIから混合ASCII
- 混合EBCDICから混合EBCDIC

トップ

例

例1: 自動変換を使用したデータベース・ファイル・メンバーからストリーム・ファイルへのデータのコピー

```
CPYTOSTMF FROMMBR('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYFILE.FILE/MYMBR.MBR')
           TOSTMF('STMF.TXT')
```

このコマンドは、データベース・ファイルのメンバー/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYFILE.FILE/MYMBR.MBRに入っているデータを現行作業ディレクトリーのSTMF.TXTという名前のストリーム・ファイルにコピーします。自動データ変換では、データベース・ファイルのCCSIDとデータベース・ファイルのCCSIDに等しいコード・ページが使用されます。データベース・ファイル・メンバーのレコードは末尾ブランクが取り除かれ、ENDLINFMT(*CRLF)が省略時の値であるため、各レコードの終わりにCRとLF文字が挿入されます。ストリーム・ファイルSTMF.TXTが現行作業ディレクトリーにすでに存在する場合には、STMFOPT(*NONE)が省略時の値であるため、コピー操作は実行されません。

例2: 変換テーブルを使用したデータベース・ファイル・メンバーからストリーム・ファイルへのデータのコピー

```
CPYTOSTMF FROMMBR('/QSYS.LIB/FINANCE.LIB/STAFF.FILE/MNGR.MBR')
           TOSTMF('/MYDIR/FINANCE.MNG') CVTDTA(*TBL)
           DBFCCSID(37) STMFCODPAG(437)
           TBL('/QSYS.LIB/QUSRSYS.LIB/TBL1.TBL')
           ENDLINFMT(*CRLF)
```

このコマンドは、データベース・ファイルのメンバー/QSYS.LIB/FINANCE.LIB/STAFF.FILE/MNGR.MBRに入っているデータをユーザー・ディレクトリー/MYDIRのFINANCE.MNGという名前のストリーム・ファイルにコピーします。データは、ディレクトリー/QSYS.LIB/QUSRSYS.LIBに入っている変換テーブルTBL1.TBLを使用して変換されます。データベース・ファイル・メンバーのレコードは、末尾ブランクが取り除かれ、CRとLF文字が付加されて、ストリーム・ファイルへ書き込まれます。データベース・ファイル・メンバーのブランク文字は、DBFCCSIDパラメーターで指定されたCCSID 37から認識されます。挿入される行形式設定文字(CRおよびLF)は、STMFCODPAGパラメーターで指定されたコード・ページ437の各文字に対応します。ストリーム・ファイルが存在する場合には、コード・ページ437でなければなりません。

例3: データ変換なしのデータベース・ファイル・メンバーからストリーム・ファイルへのデータのコピー

```
CPYTOSTMF FROMMBR('/QSYS.LIB/FINANCE.LIB/STAFF.FILE/MNGR.MBR')
           TOSTMF('/MYDIR/FINANCE.MNG') CVTDTA(*NONE)
           ENDLINFMT(*FIXED)
```

このコマンドは、データベース・ファイルのメンバー/QSYS.LIB/FINANCE.LIB/STAFF.FILE/MNGR.MBRに入っているデータをデータ変換なしにユーザー・ディレクトリー/MYDIRのストリーム・ファイルFINANCE.MNGにコピーします。ストリーム・ファイルのデータは、データベース・ファイルのレコードと同じ長さの固定長のレコードとして書き込まれます。ENDLINFMT(*FIXED)が指定されているので、行形式設定文字は挿入されません。ストリーム・ファイルとデータベース・ファイルのエンコード・スキームが異なる場合には、コピーは終了してエラー・メッセージが出されます。

例4: 保管ファイルからストリーム・ファイルへのデータのコピー

```
CPYTOSTMF FROMMBR('/QSYS.LIB/PACKAGE.LIB/SOFTWARE.FILE')
           TOSTMF('/MYDIR/SOFTWARE')
```

このコマンドは、保管ファイル/QSYS.LIB/PACKAGE.LIB/SOFTWARE.FILEに入っているデータをストリーム・ファイル/MYDIR/SOFTWAREにコピーします。ストリーム・ファイルのデータは、保管ファイルのレコードと同じ長さの固定長のレコードとして書き込まれます。行形式設定文字は挿入されず、データ変換も実行されません。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA097

オブジェクトはコピーされませんでした。オブジェクトは&1です。

テープへのコピー (CPYTOTAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープへのコピー(CPYTOTAP)コマンドはレコードをテープ・ファイルにコピーします。受け入れファイルもテープ・ファイルでなければなりません。コピー元ファイルは、物理ファイル、論理ファイル、DDMファイル、ディスク・ファイル、テープ・ファイル、またはインライン・データ・ファイルとすることができます。

注: DDMファイルの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「分散管理」情報を参照してください。

このコマンドは、ファイル・コピー(CPYF)コマンドで使用可能なパラメーターのサブセットをよりテープに限定されたパラメーターと一緒に提供します。

制約事項: ファイルのオープン・データ・パス(ODP)は、コピー操作中にジョブ(経路指定ステップ)の他のプログラムと共用することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFILE	FROMファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: FROMファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TOFILE	テープ・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: テープ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FROMMBR	FROMメンバー	総称名, 名前, *FIRST, *ALL	オプション
TOSEQNBR	ファイル順序番号	1-16777215, *TAPF, *END	オプション
TOLABEL	テープ・ラベル	文字値, *FROMMBR, *TAPF, *NONE	オプション
TODEV	装置	単一値: *TAPF その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	オプション
TOREELS	コピー先リール	要素リスト	オプション
	要素 1: ラベル処理タイプ	*TAPF, *SL, *NL, *LTM	
TORCDLEN	レコード長	整数, *TAPF, *CALC, *FROMFILE	オプション
TOENDOPT	テープ終了オプション	*TAPF, *REWIND, *UNLOAD, *LEAVE	オプション
TOVOL	ボリューム識別コード	単一値: *TAPF, *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション
TOBLKLEN	ブロックの長さ	1-524288, *TAPF, *CALC	オプション
TORCDBLK	レコード・ブロックのタイプ	*TAPF, *F, *FB, *V, *VB, *D, *DB, *VS, *VBS, *U	オプション
TOEXPDATE	ファイル満了日	日付, *TAPF, *PERM	オプション
NBRRCDS	コピーするレコードの数	符号なし整数, *END	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
COMPACT	データ短縮	*TAPF, *NO	オプション

トップ

FROMファイル (FROMFILE)

コピーするレコードが入っている物理ファイル、論理ファイル、ディスク・ファイル、またはテープ・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

物理ファイル、論理ファイル、ディスク・ファイル、またはテープ・ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

物理ファイル、論理ファイル、ディスク・ファイル、またはテープ・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

テープ・ファイル (TOFILE)

コピーされたレコードを受け取るファイルを指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

テープ・ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーを指定しない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

テープ・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

FROMメンバー (FROMMBR)

取り出しファイルからコピーされるデータベース・メンバー、あるいはディスクまたはテープ・ファイル・メンバーのIDを指定します。取り出しファイルがスプール・インライン・ファイルである場合には、このパラメーターに*FIRSTを指定しなければなりません。

***FIRST**

指定したファイルの最初のメンバーが使用されます。

- *ALL** データベース取り出しファイルのすべてのメンバー、あるいはディスクット取り出しファイルのすべてのファイル・ラベルIDがコピーされます。FROMMBR(*ALL)は、テープ・ファイルまたはインライン・データ・ファイルに有効ではありません。

取り出しメンバー名

コピーされるデータベース・ファイル・メンバーの名前あるいはテープまたはディスクット・データ・ファイルIDのラベルを指定してください。コピーされるテープまたはディスクット・ファイルのテープ・ラベルIDに特殊文字が入っているか、あるいは10桁より長い場合には、装置ファイルのCRTTAPF、CHGTAPF、またはOVRTAPFコマンドにこれを指定しなければなりません。

総称*メンバー名

コピーされる1セットのデータベース・メンバーまたはディスクット・ラベルの総称名を指定してください。

トップ

ファイル順序番号 (TOSEQNBR)

コピーされるレコードを受け入れるデータ・ファイルの順序番号を指定します。

***TAPF**

テープ・ファイルに指定された順序番号が使用されます。

- *END** レコードは、ファイルの終わり条件が示されるまでコピーされます。

ラベル付きテープの場合には、TOLABELで指定されたラベルがこの順序番号で見つかる必要があります。有効な順序番号の範囲は1から16777215までです。

新規データ・ファイルをテープ受け入れファイルに追加する場合には、順序番号はそのボリュームの最後のデータ・ファイルの順序番号より1だけ大きくなっている必要があります。一連の順序番号を飛ばすことはできません。既存のデータ・ファイルの順序番号を指定すると、そのファイルが上書きされ、ボリュームの後続のファイルはすべて破棄されます。

ファイル順序番号

コピーされるレコードを受け入れるデータ・ファイルの順序番号を指定します。有効な順序番号の範囲は1から16777215までです。

トップ

テープ・ラベル (TOLABEL)

コピーされるレコードを受け入れるデータ・ファイルのラベルを指定します。ラベルなしテープの場合には、このデータ・ファイルIDは無視されます。

***FROMMBR**

受け入れファイルのデータ受信ファイルは、取り出しファイルからコピーされるメンバー／ラベルと同じラベルとなります。メンバー／ラベル名がFROMMBRパラメーターの値として（または(*TAPF)によって暗黙指定される）指定された場合には、テープ受け入れファイルと同じ名前のデータ・ファイルがコピーされるレコードを受け取ります。総称名または*ALLがFROMMBRパラメーターの値として指定された場合には、この値は無効です。

取り出しファイルがラベルなしテープ・ファイルである場合には、テープの受け入れファイルのラベルIDがCPYNNNNNの形式で作成されます。ここでNNNNNはデータ・ファイルのテープ順序番号です

***TAPF**

コピー済みレコードを受け取るラベルを識別するために、テープ・ファイルまたは一時変更に指定されたラベル値が使用されます。

***NONE**

データ・ファイルIDは指定されません。受け入れファイル・テープが標準ラベルである場合には、*NONEは正しくありません。

データ・ファイルID

コピーされるレコードを受け入れるデータ・ファイルを識別するラベル値を指定します。

[トップ](#)

装置 (TODEV)

テープ受け入れファイルにレコードをコピーするために使用される装置の名前を指定します。

***TAPF**

テープ・ファイル記述に指定された装置が使用されます。

装置名 テープ取り出しファイルからのレコードの書き込み時に使用する最大4つのテープ装置、1つの仮想テープ装置、または1つの媒体ライブラリー装置の名前を指定してください。装置名を指定する順序は、装置上のテープがテープ受け入れファイルに連続して書き出される順序です。それぞれの装置は、このコマンドで指定する前に（装置記述作成(CRTDEV D)コマンドを使用して）装置記述に定義されていなければなりません。

[トップ](#)

コピー先リール (TOREELS)

コピー済みレコードを受け取るテープ・リールで使用されるラベルづけのタイプを指定します。このシステムは、標準ラベル・テープまたはラベルのないテープにだけ書き出しを行いません。

***TAPF**

受け入れファイル用にテープ・ファイルに指定された値が使用されます。

***SL** コピーされるレコードを受け入れるためのボリュームには標準ラベルが付いています。

***NL** 使用されるボリュームにはラベルがありません。各ボリュームの終りおよび各ボリュームのデータ・ファイルを指示するために、テープ・マークが使用されます。

***LTM** 使用するボリュームにはラベルがありませんが、最初のデータ・レコードの前に先行テープ・マークがあります。

[トップ](#)

レコード長 (TORCDLEN)

テープの受け入れファイルに書き出されるレコードの長さ (バイト数) を指定します。取り出しファイルのレコードは、テープに書き込む前に指定されたレコード長になるように切り捨てるか、あるいはブランクを埋め込むことができます。既存のデータ・ファイル (標準ラベルの) がテープ上で拡張した場合には、2番目の見出しラベル(HDR2) からレコード長を獲得します。レコード長、ブロック長、およびレコードのブロック形式は矛盾しないように指定しなければなりません。新しいデータ・ファイルが追加される場合、あるいはこれがラベルなしファイルである場合には、そのレコード長は、このパラメーターまたはRCDLENパラメーターによって、テープ装置ファイル・コマンドの1つに明示的に指定しなければなりません。

***FROMFILE**

受け入れファイルのレコード長は取り出しファイルのレコード長と同じになります。取り出しファイルに可変長レコードがある場合には、取り出しファイルの最大レコード長が受け入れファイルのレコード長として使用されます。

***TAPF**

テープ・ファイルで定義されたレコード長が使用されます。

***CALC**

既存のデータ・ファイル・ラベルからのレコード長が使用されます。

レコード長

受け入れファイルに書き出されるレコードに対して使用される1から32767バイトの範囲のレコード長を指定します。レコード長は、ブロック長の値およびレコードのブロック形式の値と矛盾してはなりません。

[トップ](#)

テープ終了オプション (TOENDOPT)

テープ・ファイルがクローズされる時に、受け入れファイルの最後のテープ・ボリュームで自動的に行なわれる位置指定操作を指定します。マルチボリュームのテープ受け入れファイルの場合には、すべての中間リールは、*UNLOAD値を指定することによって位置指定されます。これは、最後のリールにだけ適用されます。

***TAPF**

テープ・ファイルに指定された値にしたがってテープの位置変更が行われます。

***REWIND**

テープは巻き戻されますが、アンロードされません。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

[トップ](#)

ボリューム識別コード (TOVOL)

標準ラベルのテープの場合には、テープ受け入れファイルへのレコードのコピー時に使用する1つまたは複数のテープのボリュームIDを指定します。テープ・ボリュームは、IDを指定した時と同じ順序に装置に入れなければなりません。この順序でない場合には、メッセージが操作員に送られます。

このパラメーターには複数の値を入力することができます。入力画面が表示されていて、これらの複数の値を入力するために追加の入力フィールドが必要な場合には「値の続きは+」の句の反対側の入力フィールドにプラス符号(+)を入力して、実行キーを押してください。

*TAPF

テープ・ファイル中のテープ・ボリュームIDが使用されます。

*NONE

このファイルにはテープ・ボリュームIDは指定されません。正しいラベル・タイプのボリュームが装置上にあることを検査しますが、それ以上のボリューム検査は行われません。

ボリュームID

コピーされるレコードを受け入れるテープを識別するために使用されるボリュームIDを50個まで指定します。テープ・ボリュームは、指定されたIDと同じ順序で、さらに、TODEVパラメーターに指定された装置名と同じ順序で装置上になければなりません。各IDは最大6桁の英数字とすることができます。

[トップ](#)

ブロックの長さ (TOBLKLEN)

テープに転送されるデータ・ブロックの長さ（バイト数）を指定します。ブロックの長さは、レコードの長さおよびレコードのブロック形式の値と矛盾するものであってはいけません。

*TAPF

テープ・ファイルからのブロック長の値が使用されます。

*CALC

テープ受け入れファイルにブロックの長さが指定されません。既存のデータ・ファイル・ラベルのブロックの長さが使用されます。

ブロック長

テープに書き込まれるデータ・ブロックの最大長を指定します。最小ブロック・サイズ値は18バイトで、最大サイズは524288バイトです。

[トップ](#)

レコード・ブロックのタイプ (TORCDBLK)

テープ受け入れファイルにコピーされるレコードのレコード様式およびブロック化属性を指定します。既存のデータ・ファイルが受け入れファイルとして拡張している場合には、既存のデータ・ファイル・ラベルからのレコードのブロック形式が使用されます。レコード長、ブロックの長さ、およびレコードのブロック形式のパラメーターは矛盾しないように指定しなければなりません。

*TAPF

テープ・ファイルからのレコード・ブロック形式の値が使用されます。

- *F EBCDIC形式またはASCII形式の固定長非ブロック化レコードが使用されます。
- *FB EBCDIC形式またはASCII形式の固定長ブロック化レコードが使用されます。
- *V EBCDIC形式の可変長非ブロック化レコードが使用されます。
- *VB EBCDIC形式の可変長ブロック化レコードが使用されます。
- *D ASCIIタイプD形式の可変長非ブロック化レコードが使用されます。
- *DB ASCIIタイプD形式の可変長ブロック化レコードが使用されます。
- *VS 可変長スパン・レコードが使用されます。
- *VBS 可変長ブロック化スパン・レコードが使用されます。
- *U 未定義の形式のレコードが使用されます。

トップ

ファイル満了日 (TOEXPDATE)

受け入れファイルに追加中のデータ・ファイルの満了日を指定します。標準ラベルのテープ・ファイルのデータ・ファイル満了日だけが確立されて、そのラベルで記述されるデータ・ファイルの直前のテープ見出しラベルに記憶されます。

*TAPF

テープ・ファイルからの満了日が受け入れファイルに使用されます。

*PERM

追加中のデータ・ファイルは永続的に保護されます。

ファイル満了日

データ・ファイルに使用される満了日を指定します。日付はシステム値QDATFMTによって定義された形式で指定し、区切り記号を使用する場合には、QDATSEPで指定しなければなりません。

トップ

コピーするレコードの数 (NBRRCDS)

受け入れファイルにコピーされるレコード数を指定します。

*END レコードは、ファイルの終わり条件が示されるまでコピーされます。

レコード数

受け入れファイルにコピーされるレコード数を識別する、レコード数を1から4294967288の範囲で指定します。指定されたレコード数がコピーされる前にファイルの終わり条件が起こった場合には、コピーされるレコード数が少なくなります。

トップ

データ短縮 (COMPACT)

装置データの短縮が実行されるかどうかを指定します。受け入れファイルによって使用されているテープ装置がデータ短縮をサポートしていない場合には、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

*TAPF

受け入れファイルによって使用されている装置がデータ短縮をサポートしている場合にのみ、受け入れファイルの装置データの短縮が実行されます。

*NO 受け入れファイルの装置データの短縮は実行されません。

トップ

例

例1: データベース・ファイルの最初のメンバーの磁気テープへのコピー

```
CPYTOTAP FROMFILE(MYLIB/MYFILE) TOFILE(QTAPE) TODEV(QTAPE1)
TORCDLEN(*FROMFILE) TOEXPDATE(10 15 89)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIB中のデータベース・ファイルMYFILEの最初のメンバーを磁気テープにコピーします。SEQNBR(1)およびRCDBLKFMT(*F)の属性をもつ磁気テープ装置ファイルQTAPEが使用され、これは、パラメーターTOSEQNBRおよびTORCDBLKの省略時の値として使用されます。コピー・コマンドに指定される追加の属性には、テープに書き込まれるファイルの磁気テープ装置名および有効期限が含まれています。テープ装置で使用されるラベル名は、コピーされたメンバーのラベル名と同じです。また、TORCDLEN (*FROMFILE)が指定されたので、磁気テープ装置ファイルのレコード長も、データベース取り出しファイルのレコード長と同じです。

例1: データベース・ファイルのメンバーの磁気テープへのコピー

```
CPYTOTAP FROMFILE(MYLIB/MYFILE) TOFILE(QTAPE) FROMMBR(M1)
TOLABEL(BACKUPM1) TODEV(QTAPE1) TORCDLEN(50)
TOBLKLEN(1000) TORCKBLK(*FB) TOENDOPT(*LEAVE)
```

このコマンドは、磁気テープ装置ファイルQTAPEを使用して、ライブラリーMYLIB中のデータベース・ファイルMYFILEからメンバーM1を磁気テープにコピーします。レコードは磁気テープ装置QTAPE1上のラベルBACKUPM1にコピーされて、コピーの完了時には、リールはその現在位置でそのままになります。磁気テープに書き込まれるデータ・ファイルは固定長の50バイトのレコードとなり、1000バイト（あるいは20個のレコード）が1ブロックにブロック化されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2816

エラーのために、&2のファイル&1はコピーされなかった。

CPF2817

エラーのために、コピー・コマンドが終了した。

CPF2859

共用オープン・データ・パスを使用することはできない。

CPF2864

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF2875

正しくないファイル・メンバーまたはラベルがオープンされた。

CPF2904

複数のラベル・コピーのディスクット・ラベルが正しくない。

CPF2949

&2のファイル&1のメンバー&3のクローズ中にエラー。

CPF2952

ライブラリー&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF2968

&2のファイル&1のコピー中に位置指定エラーが起こった。

CPF2971

ファイル&1のメンバー&3の読み取り中にエラー。

CPF2972

ファイル&1のメンバー&3への書き出し中にエラー。

CPF9212

&3のDDMファイル&2をロードまたはアンロードすることができない。

[トップ](#)

クラスター管理ドメインの作成 (CRTADMDMN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター管理可能ドメイン作成(CRTADMDMN)コマンドは、クラスター管理可能ドメインを表わすピア・クラスター資源グループ・オブジェクトを作成します。クラスター管理可能ドメインによって、ドメイン内の活動ノードにまたがってモニターされる資源が同期されます。クラスター管理可能ドメイン内で定義されたクラスター・ノードは、同期化処理に関与します。クラスター管理可能ドメイン名は、作成するクラスター資源グループの名前です。ドメイン・ノード・リストで定義されたノードは、クラスター資源グループの回復ドメイン内のノードです。このコマンドが正常に完了すると、新規のジョブがQSYSWRKサブシステムで開始される結果になります。このジョブは、作成するクラスター管理可能ドメインの名前と同じ名前になります。

ノードをクラスター管理可能ドメインに追加するには、CRGノード項目追加(ADDCRGNODE)コマンドを使用します。クラスター管理可能ドメインからノードを除去するには、CRGノード項目除去(RMVCRGNODE)コマンドを使用します。クラスター管理可能ドメインを開始するには、クラスター資源グループ開始(STRCRG)コマンドを使用します。クラスター管理可能ドメインを終了するには、クラスター資源グループ終了(ENDCRG)コマンドを使用します。

このコマンドは次のことを行います。

- 定義された管理可能ドメイン内のすべてのノードでクラスター管理可能ドメインを作成します。クラスター管理可能ドメインは、クラスター内の任意のノード上でクラスター資源グループ・コマンドを実行してアクセスすることができます。
- クラスター管理可能ドメインの単一システム・イメージをユーザーに提供します。すなわち、クラスター管理可能ドメインを表わすクラスター資源グループ・オブジェクトに対して行った変更は、管理可能ドメイン中のすべてのノードでも行われます。同様に、クラスター管理可能ドメインに登録されたシステム・エンティティおよび属性に対して行った変更は、クラスター資源グループが開始されると、管理可能ドメイン内のすべての活動ノードにも広がります。
- クラスター資源グループCRGは、QCLUSTERユーザー・プロファイルによって所有されます。クラスター管理可能ドメインでクラスター資源グループ・コマンドを使用するには、クラスター資源グループおよびQCLUSTERユーザー・プロファイルの使用を認可されている必要があります。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
2. このコマンドは、クラスター資源グループの出口プログラムから呼び出すことはできません。
3. クラスター管理可能ドメイン名はQCSTで始めることはできません。
4. クラスター資源サービスは、要求を処理中のノードで活動状態になっていなければなりません。
5. 管理可能ドメイン内のすべてのノードが「活動状態」状況のクラスター内になければなりません。
6. 各ノードは、管理可能ドメイン内で一度しか指定することができません。
7. クラスターの1つのクラスター管理可能ドメイン内では1つのノードを指定できます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
ADMDMN	クラスター管理ドメイン	名前	必須, 定位置 2
DMNNODL	管理ドメイン・ノード・リスト	値 (最大 128 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 3

[トップ](#)

クラスター (CLUSTER)

作成されるクラスター管理可能ドメインを含むクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスターの名前を指定してください。

[トップ](#)

クラスター管理ドメイン (ADMDMN)

作成されるクラスター管理可能ドメインを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスター管理可能ドメインの名前を指定してください。

[トップ](#)

管理ドメイン・ノード・リスト (DMNNODL)

管理可能ドメインを構成するノードのリストを指定します。管理可能ドメイン内のノードは固有のクラスター・ノードでなければなりません。クラスター内で各ノードが活動状態でなければなりません。

管理可能ドメインには、最大128個のノードを指定することができます。

これは必須パラメーターです。

名前 活動クラスター・ノードの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

3つのノードからなる管理可能ドメインをもつクラスター管理可能ドメインの作成

```
CRTADMDMN CLUSTER(MYCLUSTER) ADMDMN(MYDOMAIN)
           DMNNODL(NODE01 NODE02 NODE03)
```

このコマンドは、MYCLUSTERというクラスター内にMYDOMAINという名前のクラスター管理可能ドメインを表わすピア・クラスター資源グループ・オブジェクトを作成します。この管理可能ドメインは、NODE01, NODE02,およびNODE03という3つのノードから構成されています。このクラスター管理可能ドメインの属性を変更するには、クラスター資源グループ・コマンドを使用できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFBBB4

クラスター管理ドメインの作成が失敗しました。

[トップ](#)

警報テーブルの作成 (CRTALRTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報テーブル作成(CRTALRTBL)コマンドは、警報記述レコードを記憶するための警報テーブルを作成します。警報テーブルは、警報（ネットワーク内の問題通知）に使用し、それを定義するために使用するハードウェアおよびソフトウェア・プロダクトを指定します。代表的なユーザーは、システム・プログラマーまたはネットワーク・プログラマー、あるいはネットワーク管理の責任がある操作員です。警報の詳細については、AS/400 ALERT SUPPORT (SC41-5413)ブックを参照してください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ALRTBL	警報テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 警報テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
LICPGM	プロダクト	文字値, <u>5769SS1</u> , *NONE	オプション
LICPGMTXT	ライセンス・プログラムのテキスト	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

[トップ](#)

警報テーブル (ALRTBL)

作成する警報テーブルの修飾名を指定します。各警報テーブルには、警報の作成に使用される警報記述が入っています。警報テーブルはメッセージ・ファイルと1対1で対応しています。特定のメッセージの警報を定義するためには、警報テーブルの名前をメッセージ・ファイルの名前と同じものにしなければなりません。

注: 警報テーブルおよびメッセージ・ファイルを同じライブラリーに入れる必要はありません。しかし、警報テーブル・ライブラリーは警報を作成するジョブのライブラリー・リストに入っていないければなりません。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

警報テーブルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

警報テーブルが入っているライブラリーを指定してください。指定したライブラリーだけが検索されます。ユーザーは指定したライブラリーに対する読み取り権限および追加権限をもっていなければなりません。

[トップ](#)

プロダクト (LICPGM)

この警報テーブルに対応したライセンス・プログラムを指定します。このプログラムは、警報送信元のソフトウェア・プロダクト識別として警報中に組み込まれます。

5722SS1

OS/400システムのプロダクト識別コードです。

*NONE

ライセンス・プログラムは指定されません。この値は、システムのソフトウェア資源管理データベースに定義されていないプログラムで使用することができます。ソフトウェア・プロダクト識別は警報送信元の警報にはありません。

ライセンス・プログラム

ライセンス・プロダクトの7文字のプロダクト識別コードを指定してください。警報管理者はこの識別コードを使用して、リリースおよびレベル情報用のソフトウェア資源管理データベースをアクセスします。

注: このパラメーターは必ずしも弊社のライセンス・プログラムである必要はありません。警報処理コマンドの使用にとって意味のある7桁の識別コードであれば、どれでも指定することができます。LICPGMパラメーターに指定された値をシステムに定義した場合には、識別コードと、リリースおよびレベル情報が警報中に組み込まれます。

[トップ](#)

ライセンス・プログラムのテキスト (LICPGMTXT)

警報テーブル・ライセンス・プログラム・パラメーターの記述テキストを指定します (たとえば、'OS/400')。このテキストは、警報送信元のソフトウェア・プロダクト識別として警報中に組み込まれます。

*BLANK

テキストは指定されません。

ライセンス・プログラム・テキスト

プログラムを記述する最大30文字までのテキストを指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

‘記述’ 50文字以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入るライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドの作成権限プロンプト (CRTAUTパラメーター) で指定された値を使用して、オブジェクトに対する権限を判別します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTALRTBL ALRTBL(ALRTBLLIB/ALRTBLNBR1) LICPGM(5716SS1)
          LICPGMTXT('OS/400')
          TEXT('これは作成する最初の警報テーブルです')
```

このコマンドは、ライブラリーALRTBLLIBにALRTBLNBR1という警報テーブルを作成します。一般ユーザーは、このテーブルに対する*CHANGE権限をもちます。このALRTBLと関連したライセンス・プログラムはOS/400システムです。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2108

オブジェクト&1タイプ*&3はライブラリー&2に追加されませんでした。

CPF2112

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

権限ホルダー作成 (CRTAUTHLR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限ホルダー作成(CRTAUTHLR)コマンドによってユーザーは、タイプが*FILEのオブジェクトを保護する権限ホルダーを、そのオブジェクトがシステム上に存在する前に作成することができます。このファイルはプログラム記述データベース・ファイルでなければなりません。指定の名前でオブジェクトが作成された時に、権限ホルダーに指定された権限が新たに作成されたオブジェクトにリンクされます。

権限ホルダーは、1つの特定のオブジェクト、オブジェクト・タイプ、およびライブラリーと関連づけられます。このため、正しい権限をもつユーザーだけがオブジェクトにアクセスすることができます。権限ホルダーおよび関連したオブジェクトの所有者は常に同じです。

オブジェクトと関連付けられた権限があった場合には、それが新たに作成された権限ホルダーにリンクされます。オブジェクトの所有者は権限ホルダーの所有者になります。権限ホルダーは、ライブラリーQSYSの中にあります。

制約事項:

- このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- 新しい権限ホルダーによって保護されるオブジェクト・タイプは、*FILEに限定されています。このファイルはプログラム記述データベース・ファイルでなければなりません。
- ライブラリーQRCL, QRECOVERY, QSPL, QSPLXXXX, QSYS,またはQTEMPの中にあるオブジェクトについて権限ホルダーを作成することはできません。
- 権限ホルダーは、システム補助記憶域プール(ASP)または基本ユーザーASP中のファイルしか保護できません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

[トップ](#)

オブジェクト (OBJ)

権限ホルダーがオブジェクトの作成時に保護するデータベース・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: オブジェクト

名前 権限ホルダー・オブジェクトに割り当てられる名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

名前 権限ホルダーが作成されるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB)で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

例

```
CRTAUTHLR OBJ(QGPL/FIL1) AUT(*EXCLUDE)
```

このコマンドは、*EXCLUDE権限をもつライブラリーQGPL内のオブジェクトFIL1の権限保有者を作成します。

```
GRTOBJAUT OBJ(QGPL/FIL1) TYPE(*FILE) USER(TWO) AUT(*USE)
```

このコマンドを実行することによって、*USE権限が、ライブラリーQGPL内のファイルFIL1を保護する権限保有者のユーザーTWOに認可されます。

```
CRTSRCF FILE(QGPL/FIL1)
```

このコマンドを実行することによって、ユーザーONEは、一致している権限所有者をもつファイルを作成します。ユーザーONEは、QGPL/FIL1に対する*USE権限をもっているユーザーTWOでファイル所有者になります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPC2212

権限ホルダーが作成された。

CPF2122

ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。

CPF2163

&2に権限ホルダーを作成することはできない。

CPF22BA

権限ホルダーを作成することができなかった。

CPF22BC

タイプ&3のオブジェクト&1はプログラム定義のオブジェクトでない。

CPF22B2

権限ホルダーの作成または削除は認可されていない。

CPF22B5

権限ホルダーはすでに存在している。

CPF22B6

権限ホルダーを作成することができなかった。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF2289

権限リスト&1を割り振ることができない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

[トップ](#)

権限リスト作成 (CRTAUTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限リスト作成(CRTAUTL)コマンドは、権限リストを作成します。権限リストは、1つのオブジェクトまたはオブジェクトのセットに対するユーザー特定権限のセットを付与するために使用されます。各ユーザーは、すべてのオブジェクトに対する権限を持ちます。オブジェクトに対する権限が権限リストに認可された場合には、そのリスト上のユーザーが、オブジェクトに対する権限を取得します。ユーザーが受け取る権限は、そのユーザーについて権限リストに指定されている権限です。

権限リスト上のユーザーの権限は、ユーザー特定権限をオブジェクトに認可することによって一時変更することができます。権限リストに指定されたユーザーの権限は、特定権限によって一時変更されます。ユーザーの権限とグループ権限の両方が指定されていた場合には、そのユーザーのグループ権限も特定権限によって一時変更されます。

オブジェクトに対して指定された共通認可が*AUTLであった場合には、権限リストに指定された共通認可が使用されます。

制約事項:

- ユーザー・プロファイルまたは他の権限リストを保護するために権限リストを使用することはできません。
- オブジェクトを保護するために使用できる権限リストは1つだけです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTL	権限リスト	名前	必須, 定位置 1
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	*CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション, 定位置 2

トップ

権限リスト (AUTL)

作成する権限リストを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 権限リスト・オブジェクトに割り当てられる名前を指定します。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

[トップ](#)

例

```
CRTAUTL  AUTL(PROGMR)  AUT(*CHANGE)
          TEXT('プログラマー権限リスト')
```


このコマンドは、権限リスト(PROGMR)を作成します。権限が権限リストから受け取られるオブジェクトにAUT(*AUTL)としてUSER(*PUBLIC)が指定されている場合は、変更権限をもっていないユーザーがオブジェクトに対する変更権限をもっていないユーザーには、この権限リストで保護されたオブジェクトに対して*CHANGE権限が付与されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2122

ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。

CPF22AD

ユーザーのグループ・プロファイルが見つからなかった。

CPF22A6

権限リストを作成するユーザーは、自分のユーザー・プロファイルに対する*ADD権限をもっていないなければならない。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2222

記憶域限界が、ユーザー・プロファイル&1に指定されているものより大きい。

CPF2278

権限リスト&1はすでに存在している。

CPF2289

権限リスト&1を割り振ることができない。

[トップ](#)

バインドCL PGMの作成 (CRTBNDCL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

結合制御言語プログラム作成(CRTBNDCL)コマンドは、指定されたCLソース・プログラムから統合化言語環境(ILE)制御言語(CL)プログラムを作成します。

CRTBNDCLコマンドの大部分のパラメーターおよびオプションは、CRTBNDCLコマンドにのみ存在するユーザー・プロファイル (USRPRF)パラメーターを除き、制御言語モジュール作成(CRTCLMOD)コマンドのパラメーターおよびオプションと同じです。オプション*NOGENはCRTBNDCLコマンドでは使用できません。常に完全なコンパイルが実行されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QCLSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PGM	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
DFACTGRP	省略時の活動化グループ	*YES, *NO	オプション
ACTGRP	活動化グループ	名前, *STGMDL, *NEW, *CALLER	オプション
STGMDL	ストレージ・モデル	*SNGLVL, *TERASPACE	オプション
OUTPUT	出力	*PRINT, *NONE	オプション, 定位置 4
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 3 回の繰り返し): *XREF, *NOXREF, *SECLVL, *NOSECLVL, *EVENTF, *NOEVENTF	オプション, 定位置 5
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*USER, *OWNER	オプション
LOG	ログ・コマンド	*JOB, *YES, *NO	オプション
REPLACE	プログラムの置き換え	*YES, *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT, *PRV	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
SRTSEQ	分類順序	単一値: *HEX, *JOB, *JOB RUN, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
LANGID	言語識別コード	文字値, *JOB RUN, *JOB	オプション
OPTIMIZE	最適化	*NONE, *BASIC, *FULL, 10, 20, 30, 40	オプション
DBGVIEW	デバッグ・ビュー	*STMT, *SOURCE, *LIST, *ALL, *NONE	オプション
ENBPFCOL	パフォーマンス収集使用可能	*PEP, *FULL, *NONE	オプション

トップ

プログラム (PGM)

作成するプログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 作成するプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

プログラムはジョブの現行ライブラリーに保管されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムを入れるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

コンパイルするCLソース・メンバーが入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: ソース・ファイル

QCLSRC

コンパイルするCLソース・メンバーが入っている、QCLSRCという名前のソース・ファイルが使用されます。

名前 コンパイルするCLソース・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。このソース・ファイルは、データベース・ファイル、装置ファイル、またはインライン・データ・ファイルとすることができます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

ソース・メンバー(SRCMBR)

コンパイルするCLソース・プログラムが入っているソース・ファイルのメンバーの名前を指定します。

***PGM** コンパイルするCLソース・プログラムは、コンパイル済みプログラムの**プログラム (PGM)**パラメーターに指定されたのと同じ名前のソース・ファイルのメンバーの中にあります。

名前 メンバー名が作成するプログラムの名前と同じでない場合に、CLソース・プログラムが入っているメンバーの名前を指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

コンパイル済みCLプログラムを簡単に記述するテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

テキストは、CLプログラムを作成するために使用されたソース・ファイル・メンバーからとられます。ソース・ファイルがインライン・データ・ファイルまたは装置ファイルであった場合には、このテキストは空白となります。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

省略時の活動化グループ (DFTACTGRP)

プログラムが省略時の活動化グループと関連付けられるかどうかを指定します。

***YES** プログラムは、省略時の活動化グループと関連付けられます。

注: この値を指定した場合には、ACTGRPパラメーターを指定することはできません。

***NO** プログラムは、省略時の活動化グループと関連付けられません。

トップ

活動化グループ (ACTGRP)

プログラムが呼び出された時に関連付けられる活動化グループを指定します。活動化グループにより、次のものが提供されます。

- プログラムの実行をサポートするための実行時データ構造
- アドレッシング保護
- メッセージを作成するための論理境界
- アプリケーションのクリーンアップを処理するための論理境界

***STGMDL**

STGMDL(*SNGLVL)が指定されている場合には、このプログラムが呼び出されると、このプログラムは活動化されてQILE活動化グループに入れられます。STGMDL(*TERASPACE)が指定されている場合には、このプログラムが呼び出されると、このプログラムは活動化されてQILETS活動化グループに入れられます。

***CALLER**

このプログラムが呼び出される時に、プログラムは呼び出し元の活動化グループ内で活動化されま

***NEW** このプログラムが呼び出されると、システムは新しい活動化グループを作成します。

名前 このプログラムが呼び出された時に使用される活動化グループの名前を指定してください。

トップ

ストレージ・モデル (STGMDL)

プログラムの記憶域モデル属性を指定します。

***SNGLVL**

プログラムは単一レベル記憶域モデルで作成されます。単一レベル記憶域モデル・プログラムが活動化されて実行されると、これに自動および静的記憶域用の単一レベル記憶域が提供されます。単一レベル記憶域プログラムは単一レベル記憶域活動化グループ内でのみ実行されます。

***TERASPACE**

プログラムはテラスペース記憶域モデルで作成されます。テラスペース記憶域モデル・プログラムが活動化されて実行されると、これに自動および静的記憶域用のテラスペース記憶域が提供されます。テラスペース記憶域プログラムはテラスペース記憶域活動化グループ内でのみ実行されます。DFACTGRP(*YES)が指定されている場合には、STGMDL(*TERASPACE)を指定することはできません。

トップ

出力 (OUTPUT)

コンパイル・リストを作成するかどうかを指定します。

***PRINT**

コンパイル・リストが作成されます。このリストに含まれる情報は、ソース・リスト・オプション(OPTION)パラメーターに指定された値によって異なります。

***NONE**

コンパイル・リストは作成されません。リストが不要な場合には、コンパイル時のパフォーマンスが向上することがあるので、このオプションを使用しなければなりません。

トップ

ソース・リスト・オプション (OPTION)

このコマンドの処理時に作成される出力リストのタイプ、およびプログラムを作成するかどうかを指定します。このパラメーターには、以下の値を3つまで任意の順序で指定することができます。各グループに値がどちらも指定されないか、あるいは両方の値が指定された場合には、下線のついた値が使用されます。

注: このパラメーターの下線のついた値は省略時の値と類似していますが、実際の省略時の値ではありません。したがって、コマンド省略時値変更(CHGCMDDFT)コマンドによって変更することはできません。

相互参照オプション

*NOXREF

ソース・プログラム中の変数およびデータ項目に対する参照の相互参照表は作成されません。

*XREF

ソース・プログラムの相互参照表が作成されます。OUTPUT(*PRINT)を指定しなければなりません。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

*NOSECLVL

第2レベル・メッセージ・テキストは印刷されません。

*SECLVL

第2レベル・メッセージ・テキストが印刷されます。OUTPUT(*PRINT)を指定しなければなりません。

イベント・ファイル作成オプション

*NOEVENTF

コンパイラーは、COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT FOR ISERIES (CODE FOR ISERIES)プロダクトが使用するイベント・ファイルを作成しません。

*EVENTF

コンパイラーは、CODE FOR ISERIESプロダクトが使用するイベント・ファイルを作成します。このイベント・ファイルは、ソース・ライブラリーのファイルEVFEVENTのメンバーとして作成されます。CODE FOR ISERIESプロダクトは、このファイルを使用して、CODE FOR ISERIESエディターによって統合されたエラー・フィードバックを提供します。通常、このオプションはユーザーのためにCODE FOR ISERIESプロダクトによって指定されます。

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

このプログラムの実行中に実行される権限検査に、プログラムを実行中のユーザー(*USER)だけを含めるか、あるいはプログラムを実行中のユーザーとプログラム所有者(*OWNER)の両方を含めるかどうかを指定します。プログラム・ユーザーのプロファイルまたはプログラム・ユーザーとプログラム所有者の両方のプロファイルは、各オブジェクトについてプログラムがもつ権限を含め、プログラムで使用できるオブジェクトを制御するために使用されます。ユーザー・プロファイル属性を変更できるのは、プログラム所有者またはQSECOFR権限をもつユーザーだけです。

注: REPLACE(*YES)が指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***USER**

プログラムはプログラム・ユーザーのユーザー・プロファイルのもとで実行されます。

***OWNER**

プログラムの処理時には、プログラムの所有者とプログラムのユーザーの両方のユーザー・プロファイルが使用されます。プログラムの処理時にオブジェクトを検索してアクセスするために、両方のユーザー・プロファイルにあるオブジェクト権限の集合セットが使用されます。所有ユーザー・プロファイルのグループ・プロファイルからの権限は、実行プログラムの権限には組み込まれません。

[トップ](#)

ログ・コマンド (LOG)

作成されたCLプログラムに関するロギング・オプションを指定します。

***JOB** 実行中のCLプログラムの中のコマンドのロギングは、ジョブのロギング・フラグの状況によって決まります（ジョブ変更(CHGJOB)コマンドのLOGCLPGMパラメーターを参照してください）。ログされたコマンドをリストするためには、ジョブのロギング・レベルが3または4でなければなりません。

*YESまたは*NOの値は、CHGJOBコマンドに指定されたどの値よりも優先します。

***YES** コマンドはすべての場合にログされます。

***NO** コマンドはログされません。

[トップ](#)

プログラムの置き換え (REPLACE)

同じ名前のプログラムが指定したライブラリーにすでに存在していた場合に、既存のプログラムを置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のプログラムをQRPLIBライブラリーに移動させることによって、それが置き換えられます。

注:

1. 実行中のCLプログラムがREPLACEパラメーターに*YESを指定して再コンパイルされた場合には、実行中のCLプログラムでメッセージ待ち行列エラーが起こる可能性があります。
2. このパラメーターに*YESを指定すると、USRPRFおよびAUTパラメーターの値は無視されます。権限の情報源として既存のプログラムが使用され、ユーザー・プロファイル属性は既存のプログラムから新しいプログラムにコピーされます。プロファイルを変更するためにはプログラム変更 (CHGPGM)コマンドを使用することができます。プログラムに対する権限を変更するためにはオブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)またはオブジェクト権限取り消し(RVKOBJAUT)コマンドを使用することができます。

***NO** 既存のプログラムは置き換えられません。同じ名前のプログラムが指定したライブラリーに存在していた場合には、メッセージが表示され、コンパイルは停止します。

[トップ](#)

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成中のオブジェクトの使用を計画しているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

*CURRENT

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムで使用することができます。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトの特定権限をもたず、権限リストにも入っておらず、またこのオブジェクトの特定権限をもたないユーザー・グループに属しているユーザーに対して認可しようとしている権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

注: REPLACE(*YES)が指定されている時には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

分類順序 (SRTSEQ)

このCLプログラムのストリングの比較に使用される分類順序テーブルを指定します。この分類順序値は、使用する分類順序テーブルを決定するためにジョブの言語IDおよびコード化文字セットIDと一緒に使用されます。

単一値

***HEX** 分類順序テーブルは使用されません。分類順序を決定するために、文字の16進数値が使用されます。

***JOB** 使用される分類順序は、CLプログラムの作成時にジョブと対応したSRTSEQです。

*JOBRUN

使用される分類順序は、CLプログラムの実行時にジョブと対応したSRTSEQです。

*LANGIDUNQ

分類順序テーブルでは、各文字ごとに固有の重みを使用され、これは、LANGIDパラメーターに指定された言語の順位別分類テーブルです。

*LANGIDSHR

分類順序テーブルは、複数の文字に同じ重みを使用する、LANGIDパラメーターに指定された言語に関連付けられた同順位分類順序テーブルです。

修飾子1: 分類順序

名前 このCLプログラムで使用される分類順序テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

言語識別コード (LANGID)

SRTSEQ(*LANGIDUNQ)またはSRTSEQ(*LANGIDSHR)が指定されている時に使用される言語IDを指定します。

***JOBRUN**

使用される言語IDは、CLプログラムの実行時にジョブと対応するLANGIDです。

***JOB** 使用される言語IDは、CLプログラムの作成時にジョブと対応するLANGIDです。

言語ID

ジョブによって使用される言語IDを指定してください。

[トップ](#)

最適化 (OPTIMIZE)

生成されたプログラム・コードの最適化レベルを指定します。ILE CLは最適化できません。互換性については*NONE以外の値は受け入れられますが、最適化は実行されません。ILE CLモジュールおよびプログラムは、*NONEより高い最適化レベルが必要なシステム機能では使用しないでください。

***NONE**

生成されたコードは最適化されません。この値は、変換時間の点からは最速の最適化のレベルです。このレベルによって、デバッグ中に変数を表示および変更することができます。

***BASIC**

最適化は実行されません。CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

***FULL**

最適化は実行されません。CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

10 最適化は実行されません。CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

20 最適化は実行されません。CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

30 最適化は実行されません。CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

40 最適化は実行されません。CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

[トップ](#)

デバッグ・ビュー (DBGVIEW)

コンパイル済みプログラムに使用可能なデバッグ・レベル、およびソース・レベルのデバッグに使用可能なソース・ビューを指定します。

***STMT**

プログラムのステートメント番号および記号識別名を使用して、コンパイル済みプログラムをデバッグすることができます。

***ALL** コンパイル済みプログラムのデバッグにすべてのデバッグ・オプションを使用することができ、ソースおよびデバッグ・リスト・ビューが生成されます。

***SOURCE**

コンパイル済みプログラムのデバッグのためにソース・ビューが生成されます。

***LIST** コンパイル済みプログラムのデバッグのためにリスト・ビューが生成されます。

***NONE**

コンパイル済みプログラムをデバッグするためのデバッグ・オプションは使用できません。

[トップ](#)

パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFRCOL)

パフォーマンス・データの収集を使用可能にするかどうかを指定します。

***PEPまたは*NONE**

プログラム入りロプロシージャの入り口および出口のパフォーマンス・データが収集されます。モジュールの内部プロシージャには入り口または出口フックがなく、他のプロシージャに対する呼び出しの周辺に事前または事後呼び出しフックはありません。

***FULL**

プロシージャの入り口および出口のパフォーマンス・データが収集されます。また、パフォーマンス・データは外部プロシージャの呼び出しの前および後にも収集されます。

[トップ](#)

例

例1:任意のシステム・ユーザーが実行するプログラムの作成

```
CRTBNDCL  PAYROLL  TEXT('給与計算プログラム')
```

このコマンドは、ILE CLコンパイラを呼び出して、PAYROLLという名前のプログラムを作成します。CLプロシージャ・ソースは、省略時のソース・ファイルQCLSRCのメンバーPAYROLLに入っています。コンパイラ・リストが作成されます。プログラムは、プログラム・ユーザーのユーザー・プロファイルのもとで処理され、任意のシステム・ユーザーが実行できます。

例2:許可ユーザーが実行するプログラムの作成

```
CRTBNDCL  PGM(PARTS) SRCFILE(MYLIB/PARTDATA) AUT(*EXCLUDE)
          OUTPUT(*PRINT)
          TEXT('このプログラムはすべての部品データを表示します')
```

このコマンドは、PARTSという名前のCLプログラムを作成して、現行ライブラリーに保管します。このプログラムのソースは、ライブラリーMYLIBにあるソース・ファイルPARTDATAのPARTSメンバーに入っています。コンパイラ・リストが作成されます。このプログラムは、このプログラムを実行するユーザーのプロファイルのもとで処理することができます。このユーザーは、所有者であるか、所有者がオブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)コマンドで名前によって特定の権限を付与した別のユーザーです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0C33

ターゲット・リリース&1が正しくない。

CPF0C35

ターゲット・リリース&1はサポートされているリリースではない。

CPF0807

コンパイラ印刷出力を含むファイルがオープンされなかった。

CPF0808

コンパイラ作成のコードにエラー。

CPF0814

ライセンス・プログラム5769-SS1のオプション9が導入されていない。

CPF0815

&2のCLプログラム&1を前のリリース用に作成することはできない。

CPF0820

プログラム&1は作成されなかった。

CPF0849

アドレス空間のアドレス指定の違反。

CPF3202

ライブラリー&2のファイル&1は使用中である。

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF3224

ファイル&1に対する操作の実行は認可されていない。

トップ

バインド・ディレクトリーの作成 (CRTBNDDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バインド・ディレクトリーの作成(CRTBNDDIR)コマンドは、指定したライブラリーにバインド・ディレクトリー・オブジェクトを作成します。

制約事項:

- バインド・ディレクトリーを作成するライブラリーに対する読み取り(*READ)および追加(*ADD)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ディレクトリーのバインド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション

トップ

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

作成するバインド・ディレクトリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

名前 作成するバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

バインド・ディレクトリーはジョブの現行ライブラリーに作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 バインド・ディレクトリーを作成するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUT パラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE 権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

バインド・ディレクトリー・オブジェクトを簡単に記述するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

例

CRTBNDDIR BNDDIR(*CURLIB/DISPLAYS)

このコマンドは、ジョブの現行ライブラリー内に、あるいはそのジョブの現行ライブラリーがない場合は QGPLライブラリー内に、DISPLAYSという名前のバインド・ディレクトリーを作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF5D0B

バインド・ディレクトリー&1が作成されなかった。

[トップ](#)

構成リスト作成 (CRTCFGL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成リスト作成(CRTCFGL)コマンドにより、構成リストが作成されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	構成リスト・タイプ	*APPNDIR, *APPNLCL, *APPNRMT, *APPNSSN, *ASYNCADR, *ASYNCLOC, *RTLPASTR, *SNAPASTHR	必須, 定位置 1
CFGL	構成リスト	名前	オプション
DFTFTRACN	省略時のフィルター処置	*ACCEPT, *REJECT	オプション
APPNRMTFTR	APPN リモート CFGL フィルター	*ACCEPT, *NONE	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
APPNLCLC	APPN ローカル・ロケーション項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ローカル・ロケーション名	通信名	
	要素 2: 項目 '記述'	文字値, *BLANK	
APPNRMTE	APPN リモート・ロケーション項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: リモート ロケーション名	総称名, 名前, *ANY	
	要素 2: リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *NETATR, *NONE	
	要素 3: ローカル・ロケーション名	通信名, *NETATR	
	要素 4: リモート制御点	通信名, *NONE	
	要素 5: 制御点ネットワーク ID	通信名, *NETATR, *NONE	
	要素 6: ロケーション・パスワード	文字値, *NONE	
	要素 7: 保護ロケーション	*YES, *NO, *VFYENCPWD	
	要素 8: 単一セッション	*YES, *NO	
	要素 9: ローカル制御セッション	*YES, *NO	
	要素 10: 事前確立セッション	*YES, *NO	
	要素 11: 項目 '記述'	文字値, *BLANK	
要素 12: 会話の数	1-512, 10		

キーワード	記述	選択項目	注
ASYNCADRE	非同期ネットワーク・アドレス項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク・アドレス	文字値	
	要素 2: ダイヤル呼び出し再試行	1-255, <u>2</u>	
	要素 3: 項目 '記述'	文字値, *BLANK	
ASYNCLOCE	非同期リモート・ロケーション項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: リモート ロケーション名	通信名	
	要素 2: リモート・ロケーション識別コード	名前	
	要素 3: 項目 '記述'	文字値, *BLANK	
RTLPASTRHRE	小売業パススルー項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 小売業装置	名前	
	要素 2: SNUF装置	名前	
	要素 3: 省略時のホスト・プログラム	名前	
	要素 4: 項目 '記述'	文字値, *BLANK	
AUT	権限	名前, *CHANGE , *ALL , *USE , *EXCLUDE , *LIBCRTAUT	オプション

トップ

構成リスト・タイプ (TYPE)

5つの指定可能な構成リスト・タイプのうちの1つを指定します。

これは必須パラメーターです。

*APPNDIR

拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)ディレクトリー検索フィルター構成リストが使用されます。このコマンドを使用して指定できるのは、テキスト記述(TEXT)パラメーターおよび省略時処置(DFTACN)パラメーターだけです。

注: APPNディレクトリー構成リスト中の項目を変更するためには、構成リスト項目変更(CHGCFGLE)コマンドを使用してください。

*APPNLCL

拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)ローカル・ロケーション・リストです。構成リストには、最高476個までのAPPNローカル・ロケーション項目を使用することができます。

*APPNRMT

APPNリモート・ロケーション・リストです。構成リストには、最高1898個までのAPPNリモート・ロケーション項目を使用することができます。

*APPNSSN

APPNセッション・エンドポイント・フィルター構成リストが使用されます。

***ASYNCADR**

非同期ネットワーク・アドレス・リストが作成されます。構成リストには、最高294個までの非同期ネットワーク・アドレス項目を使用することができます。

***ASYNCLOC**

非同期リモート・ロケーション・リストが作成されます。構成リストには非同期リモート・ロケーション項目を最大で32000個まで入れることができます。

***RTLPASTR**

小売業パススルー・リスト。最大450個の小売業パススルー記入項目を構成リストで使用することができます。

***SNAPASTHR**

SNAパススルー・リスト。構成リストには、最高254個までのSNAパススルー項目を使用することができます。このコマンドを使用して、SNA構成リスト用のテキスト記述だけを指定することができます。

注：項目をSNA構成リストに追加するためには、構成リスト項目追加(ADDCFGLE)コマンドを使用してください。

装置の名前および記述を既存の項目に追加するためには、構成リスト項目変更(CHGCFGLE)コマンドを使用してください。

トップ

構成リスト (CFGL)

構成リストの名前を指定します。この値は、必要ですが、構成リストが非同期ネットワーク・アドレス・リスト（構成リスト・タイプ (TYPE)パラメーターに*ASYNCADRが指定された）の時にだけ有効です。リスト・タイプにはシステム提供の名前、QAPPNLCL, QAPPNRMT, QASYNCADR, QASYNCLOC, QRTLPASTR,およびQSNAPASSTRがあります。

トップ

省略時のフィルター処置 (DFTFTRACN)

ローカル・システムによって処理されるAPPN要求の省略時のフィルター処置を指定します。このフィルター処置は、構成リストに特にリストされていないすべてのディレクトリー検索要求およびセッション・エンドポイント要求に適用されます。

注：このパラメーターが有効なのは、TYPE(*APPNDIR)またはTYPE(*APPNSSN)が指定された場合だけです。

***REJECT**

要求は拒否されます。

***ACCEPT**

要求は受け入れられます。

トップ

APPN リモート CFGL フィルター (APPNRMTFTR)

セッション・エンドポイント要求のフィルター操作が行なわれる時に、APPNリモート構成リスト項目が使用されるかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*APPNSSN)が指定された場合だけです。

*ACCEPT

APPNリモート構成リストに指定された項目のセッション・エンドポイント要求が受け入れられます。

*NONE

セッション・エンドポイント要求は、APPNリモート構成リスト中に指定された項目を使用してフィルター操作されません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

APPN ローカル・ロケーション項目 (APPNLCL)

APPNローカル・ロケーション項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメーター)に*APPNLCLが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*PROMPT

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

ローカル・ロケーション名

ローカル・システムに存在しているロケーション名を指定してください。この名前は、送られてくる要求がこのシステム用のものか、あるいはネットワーク中の別のシステム用のものかを判別するためにAPPNによって使用されます。ローカル・ロケーション名は固有としなければならない、構成リストQAPPNRMTで使用されるリモート・ロケーション名としてすでに存在してはならず、あるいは同じAPPNネットワーク中のローカル・ロケーションとして別のシステムに指定されてはいけません。

項目記述

各ローカル項目の20文字以下の短い記述を指定してください。

トップ

APPN リモート・ロケーション項目 (APPNRMTE)

APPNリモート・ロケーション項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメーター)に*APPNRMTEが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*PROMPT

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーションの完全な名前、あるいはアスタリスク(*)で終る総称名を指定してください。総称ロケーション名は、名前がアスタリスクの前の文字と一致している単一制御点で、すべてのロケーションに対して1つのディレクトリー項目を定義できるようにするために使用されます。また、*ANYを指定することができ、システムはこれを通して送られてくるすべての要求を受け入れることができます。総称記入項目は、ネットワーク・ノードからのみ使用することができます。

リモート・ネットワークID

リモート・ロケーションが入っているネットワークのネットワークIDを指定してください。省略時の値*NETATRは、システム・ネットワーク属性からのLCLNETID値を使用します。

ローカル・ロケーション名

ローカル・システムに存在しているロケーション名を指定してください。APPNはこの名前を使用して、ローカルとリモートの対になるロケーションの項目を突き合わせます。省略時の値*NETATRは、システム属性からのLCLLOCNAMEを使用します。

制御点名

リモート・ロケーションのネットワーク機能を備えている制御点を指定してください。この制御点名(リモート・ロケーションのディレクトリー項目)を使用することによって、ロケーションを見つけるために、ネットワークがより効果的に検索されます。リモート・ロケーション名が総称の場合には、このフィールドは必須です。省略時の値は*NONEです。

制御点ネットワークID

制御点が入っているネットワークのネットワークIDを指定してください。省略時の値*NETATRは、システム・ネットワーク属性からのLCLNETID値を使用します。

ロケーション・パスワード

ローカル・ロケーション/リモート・ロケーション名の対にセッションを確立するときに使用するパスワードを指定します。この値には、偶数個の16進文字が含まれていなければなりません。省略時の値は*NONEです。

機密保護ロケーション

リモート・システムから受け取られたプログラム開始要求で機密保護情報がどのように扱われるかを指定します。セッションが確立された時に、この値がリモート・システムに送られます。これは、割り振りまたは呼び出し要求の作成方法を決定する時に使用されます。この値は、SECURITY(SAME)レベルの機密保護で開始された会話にのみ適用されます。

***NO** リモート・システムは保護ロケーションではありません。リモート・システムによって行なわれる機密保護の妥当性検査は受け入れられません。SECURITY(SAME)会話はSECURITY(NONE)として扱われます。割り振りまたは呼び出し要求で機密保護情報は送られません。

***YES** リモート・システムは保護ロケーションで、ローカル・システムはリモート・システムによって行なわれる機密保護妥当性検査を受け入れます。SECURITY(SAME)会話の場合には、ローカル・システムによって、リモート・システムはユーザー・パスワードを検査することができます。リモート・システムでは、ユーザーIDはオペレーティング・システムから検索されます。次に、ユーザーIDは、割り振りですでに検査済みの標識と一緒に送信されるか、要求を呼び出します。

*VFYENCPWD

リモート・システムは保護ロケーションではありません。SECURITY(SAME)会話の場合には、リモート・システムは検査済み標識を送ることはできません。リモート・システムでは、ユーザーIDおよびパスワードはオペレーティング・システムから検索されます。次に、パスワードは暗号化され、ローカル・システムによって検査するために、割り振り時のユーザーIDと一緒に送信されるか、要求を呼び出します。この値は、リモート・システムがi5/OS V3R2M0以降を使用している場合にのみ使用してください。リモート・システムがパスワード保護をサポートしていない場合には、セッション確立は許可されないこととなります。パスワード保護をサポートしているが、暗号化されたパスワードの検証(VFYENCPWD)をサポートしていないリモート・システムの場合には、会話はSECURITY(NONE)として取り扱われることとなります。

会話の数

単一セッション接続の会話の数を指定してください。省略時の会話の数は10です。単一セッションが*NOの場合には、省略時の値を使用しなければなりません。会話の数の有効な範囲は1から512です。

ローカル制御セッション

ローカル制御セッションが、このローカル・ロケーション名/リモート・ロケーション名の対に使用できるかどうかを示すために、YESまたはNOを指定してください。省略時の値は*NOです。

事前確立セッション

ローカルおよびリモート・ロケーションとの間で接続が行なわれた時に、セッションが自動的に結合されるかどうかを示すために、YESまたはNOを指定してください。省略時の値は*NOです。

項目記述

各リモート項目に短い記述を指定します。省略時の値は*BLANKです。

注: リモート・ロケーション名、ネットワークID、およびローカル・ロケーション名の組み合わせは固有のものでなければなりません。また、リモート・ロケーション名は、構成リストQAPPNLCL内のローカル・ロケーション名として、あるいはLCLLOCNAMEまたはLCLCPNAMEネットワーク属性の現行値としてすでに存在するものであってはなりません。

トップ

非同期ネットワーク・アドレス項目 (ASYNCADRE)

非同期ネットワーク・アドレス項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメーター)に*ASYNCADRが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*PROMPT

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

ネットワーク・アドレス

X.25ネットワーク・アドレスを指定します。この値には数字0から9しか入れることができません。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出し中にエラーが起こった時に、リストの次の番号のダイヤル呼び出しが試みられる前にダイヤル呼び出しが再試行される回数を指定してください。ダイヤル呼び出しの再試行回数の有効な範囲は1から255です。

項目記述

各ネットワーク・アドレス項目の短い記述を指定してください。

[トップ](#)

非同期リモート・ロケーション項目 (ASYNCLOCE)

非同期リモート・ロケーション項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメーター)に*ASYNCLOCが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*PROMPT

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーションIDと結合された時に、着信呼び出しを受け入れるかどうかを決定する名前を指定してください。これは、ローカル名としてリモート・システムで使用された名前と同じです。この値は固有でなければなりません。

リモート・ロケーションID

リモート・ロケーション名と結合された時に、着信呼び出しを受け入れるかどうかを決定するIDを指定してください。このIDは、ローカルIDとしてリモート・システムで使用されたものと同じでなければなりません。

項目記述

各リモート・ロケーション項目の短い記述を指定してください。省略時の値は*BLANKです。

トップ

小売業パススルー項目 (RTLPASTRHRE)

小売業パススルー項目を指定してください。この値は、構成リスト・タイププロンプト(TYPEパラメータ)に*RTLPASTRHREを指定した場合に必要です。

このパラメータには複数の値を入力できます。

*PROMPT

特殊値*PROMPTによって、全画面入力パネルを使用して項目を追加、除去、および変更することができます。

このパラメータに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

小売業装置名

ホストと通信する小売業装置の名前を指定してください。この値は固有でなければなりません。

SNUF装置名

小売業装置がホストと通信するためのSNUF装置の名前を指定してください。この値は固有でなければなりません。

省略時のホスト・プログラム名

セッションの開始を要求するSNAコマンド(INIT-SELF)にプログラム名が示されていない場合には、ホストで開始するプログラムの名前を指定してください。

項目記述

各小売業パススルー項目ごとの短い記述を指定してください。省略時の値は*BLANKです。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTCFLG TYPE(*APPNLCL)
```

このコマンドは、全画面の入力画面を表示して、ユーザーが構成リストQAPPNLCLに新しい項目を追加できるようにします。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF260D

構成リスト&1はすでに存在している。

CPF260E

構成リスト&1は作成されなかった。

CPF261C

構成リスト&1の索引は変更されなかった。

CPF261D

構成リスト&1の索引は変更されなかった。

CPF261F

構成リスト&1が削除された。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

[トップ](#)

C ロケール記述の作成 (CRTCLD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

C/400*ロケール記述作成(CRTCLD)コマンドは、SRCFILEおよびSRCMBRパラメーターで供給されたソース情報を使用して、ロケール記述オブジェクト(*CLD)を作成します。ロケール記述ソース・ファイルが存在していなければなりません。

既存のロケールを変更するためには、Cロケール記述検索(RTVCLDSRC)コマンドを使用してください。

エラー・メッセージ: CRTCLD

*ESCAPE メッセージ

PSE1707

CRTCLDコマンドのリスト・オプションが正しく実行されなかった。

PSE1708

指定したファイルおよびライブラリーにメンバー&3が見つからなかった。

PSE1709

ファイル&1がライブラリー&2に見つからなかった。

PSE1739

必要な記憶域を割り振ることができなかった。

PSE1749

コンパイルは正常に実行されなかった。ロケール・オブジェクト&1は作成されませんでした。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLD	ロケール名	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ロケール名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QCLDSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *CLD	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション, 定位置 4
OPTION	ソース・リスト・オプション	*NOSOURCE, *SOURCE, *NOSRC, *SRC	オプション, 定位置 5

キーワード	記述	選択項目	注
LISTING	エラー・リスト・レベル	<u>*NOSECLVL</u> , *SECLVL	オプション、定位置 6
PRTFILE	印刷ファイル	修飾オブジェクト名	オプション、定位置 7
	修飾子 1: 印刷ファイル	名前, <u>QSYSPRT</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
REPLACE	置き換え	<u>*YES</u> , *NO	オプション、定位置 8
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *ALL, *CHANGE, *USE, *EXCLUDE	オプション、定位置 9
TGTRLS	ターゲット・リリース	<u>*CURRENT</u> , *PRV, V3R0M5, V3R1M0, V3R6M0	オプション、定位置 10

トップ

ロケール名 (CLD)

新しいC/400ロケール記述の名前およびライブラリーを指定します。

ロケール名

C/400ロケール記述の名前を入力してください。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

Cロケール記述作成(CRTCLD)コマンドが処理される時には、ロケールを記憶するために現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

C/400ロケール記述を作成するライブラリーの名前を入力してください。このライブラリーはすでに存在しているものでなければなりません。

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

C/400ロケール記述ソースのソース物理ファイル名およびライブラリーを指定します。ソース物理ファイルもライブラリーも存在しているものでなければなりません。

QCLDSRC

処理するC/400ロケール記述ソースが入っているソース物理ファイルの省略時の名前です。

ソース・ファイル名

C/400ロケール記述ソースが入っているファイルの名前を入力してください。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

*LIBL Cロケール記述作成(CRTCLD)コマンドが処理される時には、ソース・ファイルが入っているライブラリーを見つけるためにライブラリー・リストが検索されます。

*CURLIB

Cロケール記述作成(CRTCLD)コマンドが処理される時には、ソース・ファイルを見つけるために現行ライブラリーが検索されます。現行ライブラリーとして特定のライブラリーを指示していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

C/400ロケール記述ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

C/400ロケール記述ソースが入っているメンバーを指定します。このメンバーはSRCFILEパラメーターで指定したファイルおよびライブラリーにあります。このメンバーは存在しなければなりません。

***CLD** CLDパラメーターによって識別されるロケール名がメンバーの名前でもあります。

ソース・ファイル・メンバー名

処理するロケール記述ソースが入っているファイル・メンバーの名前を入力してください。

[トップ](#)

テキスト記述 (TEXT)

C/400ロケール記述を説明するテキストを入力してください。

*SRCMBRTXT

ロケール記述ソースと関連したテキスト記述が使用されます。

*BLANK

テキストはありません。

'記述' 50桁以内の記述テキストを入力し、それを単一引用符で囲んでください。引用符は50桁のストリングの一部ではありません。

[トップ](#)

ソース・リスト・オプション (OPTION)

C/400ロケール記述ソースを処理する時に使用するオプションを指定します。

*NOSOURCEまたは*NOSRC

ソース・リストを作成しません。

*SOURCEまたは*SRC

ソース・リストを作成します。

[トップ](#)

エラー・リスト・レベル (LISTING)

作成されたソース・リストに入れるエラー・メッセージの詳細のレベルを指定します。

***NOSECLVL**

第1レベルのエラー・メッセージ・テキストだけが、作成されたソース・リストに入れられます。

***SECLVL**

両方のレベルのメッセージ・テキストが、作成されたソース・リストに入れられます。第2レベルのテキストには、エラーの原因、回復のために取るべき考えられるステップ、およびエラーのために取られた処理ステップの詳細説明が示されます。

トップ

印刷ファイル (PRTFILE)

ソース・リストの印刷に使用される印刷装置ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

QSYSPRT

リストは省略時の印刷装置ファイルQSYSPRTに送られます。

印刷ファイル名

ソース・リストを送りたい印刷装置ファイルの名前を入力してください。このファイルは、少なくとも132文字のレコード長をもつように定義されているものでなければなりません。

使用できるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 印刷装置ファイルを見つけるために、システムはライブラリー・リストを検索します。

***CURLIB**

印刷装置ファイルを見つけるために、現行ライブラリーが検索されます。現行ライブラリーとして特定のライブラリーを指示していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

印刷装置ファイルが入っているライブラリーの名前を入力してください。

トップ

置き換え (REPLACE)

ロケール記述オブジェクトの既存のバージョンを現行バージョンで置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のロケール記述は、新しいバージョンで置き換えられます。古いバージョンは、ライブラリーQRPLOBJに移動され、システム日付および時刻に基づいて名前が変更されます。置き換えられたロケール記述のテキスト記述は、元のロケール記述の名前に変更されます。古いロケール記述は、明示的に削除しない場合には、次のIPL時に削除されます。

***NO** 既存のロケール記述は置き換えられません。指定したライブラリーに同じ名前のロケール記述が存在する場合には、メッセージが表示され、ロケール記述は作成されません。

トップ

権限 (AUT)

オブジェクトに対して特定権限をもっていないか、権限リスト上にないか、あるいはそのグループがオブジェクトに対して特定権限をもっていないユーザーに認可するオブジェクト権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトの共通認可は、目的ライブラリー（作成されたオブジェクトが入れられるライブラリー）のCRTAUTキーワードから取られます。この値はオブジェクトの作成時に決定されます。オブジェクトの作成後にライブラリーに対するCRTAUT値が変わっても、新しい値が既存のオブジェクトに影響を及ぼすことはありません。

***CHANGE**

すべてのデータ権限と、所有者に限定されるかあるいはオブジェクト権限およびオブジェクト管理権限によって制御されたオブジェクトを除くすべての操作を実行する権限を提供します。オブジェクトを変更することができ、オブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。

***USE** オブジェクト操作権限および読み取り権限、すなわちプログラムの実行、ファイルの読み取りなどオブジェクトに対する基本的な操作の権限を提供します。オブジェクトを変更することはできません。

***ALL** 所有者に限定されるかあるいは権限リスト管理権限によって制御されたオブジェクトを除く、すべての操作の権限を認可します。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、またオブジェクトに基本的な機能を実行することができますが、所有権を移すことはできません。

***EXCLUDE**

オブジェクトをアクセスすることはできません。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成中のオブジェクトを使用したいオペレーティング・システムのリリースを指定します。

注: このパラメーターはCロケール記述作成(CRTCLD)コマンドでは機能をもっていませんが、オブジェクト作成用の他のCLコマンドとの整合性を保つために含まれています。使用可能なTGTRLS値のいずれかを使用して作成された*CLDオブジェクトは、前のバージョンのオペレーティング・システムで復元して使用することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在システムで稼働中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。たとえば、システムでV3R6M0が実行中の場合には、*CURRENTは、V3R6M0の導入されているシステムでオブジェクトを使用したいことを意味します。導入されているオペレーティング・システムの後のリリースのシステムでオブジェクトを使用することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムの前のリリースで使用されます。たとえば、システムでV3R6M0が実行中の場合には、*PRVは、V2R3M0の導入されているシステムでオブジェクトを使用したいことを意味します。導入されているオペレーティング・システムの後のリリースのシステムでオブジェクトを使用することもできます。

リリース・レベル

リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。

オブジェクトは、指定されたリリースのシステム、あるいは導入されているオペレーティング・システムより後のリリースのシステムで使用することができます。

有効な値は現行のバージョン，リリース，およびモディフィケーション・レベルによって決まり，新しいリリースごとに変わります。このリリースについて有効な値のリストを参照するためには，TGTRLSパラメーターからF4（プロンプト）キーを押してください。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

PSE1707

CRTCLDコマンドのリスト・オプションが正しく実行されなかった。

PSE1708

指定したファイルおよびライブラリーにメンバー&3が見つからなかった。

PSE1709

ファイル&1がライブラリー&2が見つからなかった。

PSE1739

必要な記憶域を割り振ることができなかった。

PSE1749

コンパイルは正常に実行されなかった。ロケール・オブジェクト&1は作成されませんでした。

[トップ](#)

CLモジュールの作成 (CRTCLMOD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御言語モジュール作成(CRTCLMOD)コマンドは、指定されたCLソース・メンバーから制御言語(CL)モジュールを作成します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MODULE	モジュール	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: モジュール	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QCLSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *MODULE	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OUTPUT	出力	*PRINT, *NONE	オプション, 定位置 4
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 4 回の繰り返し): *XREF, *NOXREF, *GEN, *NOGEN, *SECLVL, *NOSECLVL, *EVENTF, *NOEVENTF	オプション, 定位置 5
LOG	ログ・コマンド	*JOB, *YES, *NO	オプション
REPLACE	モジュール・オブジェクトの置き換え	*YES, *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT, *PRV	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
SRTSEQ	分類順序	単一値: *HEX, *JOB, *JOBRUN, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *JOBRUN, *JOB	オプション
OPTIMIZE	最適化	*NONE, *BASIC, *FULL, 10, 20, 30, 40	オプション
DBGVIEW	デバッグ・ビュー	*STMT, *SOURCE, *LIST, *ALL, *NONE	オプション
ENBPFCOL	パフォーマンス収集使用可能	*PEP, *FULL, *NONE	オプション

トップ

モジュール (MODULE)

作成するモジュール・オブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: モジュール

名前 作成するモジュールの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

モジュールはジョブの現行ライブラリーに保管されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 モジュールを保管するライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

コンパイルするCLソース・メンバーが入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: ソース・ファイル

QCLSRC

コンパイルするCLソース・メンバーが入っている、QCLSRCという名前のソース・ファイルが使用されます。

名前 コンパイルするCLソース・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。このソース・ファイルは、データベース・ファイル、装置ファイル、またはインライン・データ・ファイルとすることができます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー(SRCMBR)

コンパイルするCLソース・メンバーが入っているソース・ファイルのメンバーの名前を指定します。

***MODULE**

コンパイルするCLソース・メンバーは、コンパイル済みモジュールのMODULEパラメーターに指定されたのと同じ名前のソース・ファイルのメンバーの中にあります。

名前 メンバー名が作成するモジュールの名前と同じでない場合に、CLソースが入っているメンバーの名前を指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

コンパイル済みCLモジュールを簡単に説明するテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

テキストは、CLモジュールを作成するために使用されたソース・ファイル・メンバーからとられます。ソース・ファイルがインライン・データ・ファイルまたは装置ファイルであった場合には、このテキストはブランクとなります。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コンパイル・リストを作成するかどうかを指定します。

***PRINT**

コンパイル・リストが作成されます。このリストに含まれる情報は、ソース・リスト・オプション (OPTION)パラメーターに指定された値によって異なります。

***NONE**

コンパイル・リストは作成されません。リストが不要な場合には、コンパイル時のパフォーマンスが向上することがあるので、このオプションを使用しなければなりません。

トップ

ソース・リスト・オプション (OPTION)

このコマンドの処理時に作成される出力リストのタイプ、およびプログラムを作成するかどうかを指定します。このパラメーターには、以下の値を4つまで任意の順序で指定することができます。各グループに値がどちらも指定されないか、あるいは両方の値が指定された場合には、下線のついた値が使用されます。

注: このパラメーターの下線のついた値は省略時の値と類似していますが、実際の省略時の値ではありません。したがって、コマンド省略時値変更(CHGCMDDFT)コマンドによって変更することはできません。

モジュール作成オプション

***GEN** コンパイル処理のすべての段階が実行されます。

***NOGEN**

構文検査の後にコンパイルは停止します。モジュールは作成されません。

相互参照オプション

***NOXREF**

ソース・プログラム中の変数およびデータ項目に対する参照の相互参照表は作成されません。

***XREF**

ソース・プログラムの相互参照表が作成されます。OUTPUT(*PRINT)を指定しなければなりません。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

***NOSECLVL**

第2レベル・メッセージ・テキストは印刷されません。

***SECLVL**

第2レベル・メッセージ・テキストが印刷されます。OUTPUT(*PRINT)を指定しなければなりません。

イベント・ファイル作成オプション

***NOEVENTF**

コンパイラーは、COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT FOR ISERIES (CODE FOR ISERIES)プロダクトが使用するイベント・ファイルを作成しません。

***EVENTF**

コンパイラーは、CODE FOR ISERIESプロダクトが使用するイベント・ファイルを作成します。このイベント・ファイルは、ソース・ライブラリーのファイルEVFEVENTのメンバーとして作成されます。CODE FOR ISERIESプロダクトは、このファイルを使用して、CODE FOR ISERIESエディターによって統合されたエラー・フィードバックを提供します。通常、このオプションはユーザーのためにCODE FOR ISERIESプロダクトによって指定されます。

トップ

ログ・コマンド (LOG)

作成されたCLプログラムに対するロギング・オプションを指定します。

***JOB** CLモジュールを実行中のコマンドのロギングは、ジョブのロギング・フラグの状況（ジョブ変更(CHGJOB)コマンドのLOGCLPGMパラメーターを参照）によって決まります。ログされたコマンドをリストするためには、ジョブのロギング・レベルが3または4でなければなりません。

*YESまたは*NOの値は、CHGJOBコマンドに指定されたどの値よりも優先します。

***YES** コマンドはすべての場合にログされます。

***NO** コマンドはログされません。

トップ

モジュール・オブジェクトの置き換え (REPLACE)

同じ名前のモジュールが指定したライブラリーにすでに存在していた場合に、既存のモジュールを置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のモジュールをQRPLOBJライブラリーに移動させることによって、それが置き換えられます。

注:

1. REPLACEパラメーターに*YESが指定されている時に実行中のCLモジュールを再コンパイルした場合には、実行中のCLモジュールでメッセージ待ち行列エラーが起こります。
2. このパラメーターに*YESを指定すると、AUTパラメーターの値は無視されることとなります。既存のモジュールが権限の情報源として使用されます。モジュールの権限を変更するためには、オブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)またはオブジェクト権限取り消し(RVKOBJAUT)コマンドを使用することができます。

***NO** 既存のモジュールは置き換えられません。同じ名前のモジュールが指定したライブラリーに存在していた場合には、メッセージが表示され、コンパイルは停止します。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成中のオブジェクトの使用を計画しているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5、リリース3、モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムで使用することができます。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトの特定権限をもたず、権限リストにも入っておらず、またこのオブジェクトの特定権限をもたないユーザー・グループに属しているユーザーに対して認可しようとしている権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行すること

ができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

注: REPLACE(*YES)が指定されている時には、このパラメーターは無視されます。

トップ

分類順序 (SRTSEQ)

このCLモジュールのストリングの比較に使用される分類順序テーブルを指定します。この分類順序値は、使用する分類順序テーブルを決定するためにジョブの言語IDおよびコード化文字セットIDと一緒に使用されます。

単一値

*HEX 分類順序テーブルは使用されません。分類順序を決定するために、文字の16進数値が使用されません。

*JOB 使用される分類順序は、CLモジュールの作成時のジョブと関連したSRTSEQです。

*JOBRUN

使用される分類順序は、CLモジュールの実行時のジョブと関連したSRTSEQです。

*LANGIDUNQ

分類順序テーブルでは、各文字ごとに固有の重みを使用され、これは、LANGIDパラメーターに指定された言語の順位別分類テーブルです。

*LANGIDSHR

分類順序テーブルは、複数の文字に同じ重みを使用する、LANGIDパラメーターに指定された言語に関連付けられた同順位分類順序テーブルです。

修飾子1: 分類順序

名前 このCLモジュールで使用される分類順序テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

言語識別コード (LANGID)

SRTSEQ(*LANGIDUNQ)またはSRTSEQ(*LANGIDSHR)が指定されている時に使用される言語IDを指定します。

***JOBRUN**

使用される言語IDは、CLモジュールの実行時のジョブと関連したLANGIDです。

***JOB** 使用される言語IDは、CLモジュールの作成時のジョブと関連したLANGIDです。

言語ID

ジョブによって使用される言語IDを指定してください。

[トップ](#)

最適化 (OPTIMIZE)

生成されたプログラム・コードの最適化レベルを指定します。ILE CLは最適化できません。互換性については*NONE以外の値は受け入れられますが、最適化は実行されません。ILE CLモジュールおよびプログラムは、*NONEより高い最適化レベルが必要なシステム機能では使用しないでください。

***NONE**

生成されたコードは最適化されません。この値は、変換時間の点からは最速の最適化のレベルです。このレベルによって、デバッグ中に変数を表示および変更することができます。

***BASIC**

最適化は実行されません。CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

***FULL**

最適化は実行されません。CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

10 最適化は実行されません。CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

20 最適化は実行されません。CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

30 最適化は実行されません。CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

40 最適化は実行されません。CPD0861がコンパイル済みリストに表示され、ジョブ・ログに送られます。

[トップ](#)

デバッグ・ビュー (DBGVIEW)

コンパイル済みモジュールに使用可能なデバッグ・レベル、およびソース・レベルのデバッグに使用可能なソース・ビューを指定します。

*STMT

モジュールのステートメント番号および記号識別名を使用して、コンパイル済みモジュールをデバッグすることができます。

*NONE

コンパイル済みモジュールをデバッグするためのデバッグ・オプションは使用できません。

***ALL** コンパイル済みモジュールのデバッグにすべてのデバッグ・オプションを使用することができ、ソースおよびデバッグ・リスト・ビューが生成されます。

*SOURCE

コンパイル済みモジュールのデバッグのためにソース・ビューが生成されます。

***LIST** コンパイル済みモジュールのデバッグのためにリスト・ビューが生成されます。

トップ

パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFCOL)

パフォーマンス・データの収集を使用可能にするかどうかを指定します。

*PEPまたは*NONE

プログラム入り口プロシージャの入り口および出口のパフォーマンス・データが収集されます。モジュールの内部プロシージャには入り口または出口フックがなく、他のプロシージャに対する呼び出しの周辺に事前または事後呼び出しフックはありません。

*FULL

プロシージャの入り口および出口のパフォーマンス・データが収集されます。また、パフォーマンス・データは外部プロシージャの呼び出しの前および後にも収集されます。

トップ

例

例1: CLモジュールの作成

```
CRTCLMOD  PAYROLL  TEXT('給与計算プログラム')
```

このコマンドは、ILE CLコンパイラを呼び出して、PAYROLLという名前のモジュール(*MODULE)を作成します。CLプロシージャ・ソースは、省略時のソース・ファイルQCLSRCのメンバーPAYROLLに入っています。コンパイラ・リストが作成されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0C33

ターゲット・リリース&1が正しくない。

CPF0C35

ターゲット・リリース&1はサポートされているリリースではない。

CPF0807

コンパイラ印刷出力を含むファイルがオープンされなかった。

CPF0808

コンパイラ作成のコードにエラー。

CPF0814

ライセンス・プログラム5769-SS1のオプション9が導入されていない。

CPF0815

&2のCLプログラム&1を前のリリース用に作成することはできない。

CPF0821

モジュール&1は作成されなかった。

CPF0849

アドレス空間のアドレス指定の違反。

CPF3202

ライブラリー&2のファイル&1は使用中である。

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF3224

ファイル&1に対する操作の実行は認可されていない。

[トップ](#)

CLプログラム作成 (CRTCLPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

CLプログラム作成(CRTCLPGM)コマンドは、指定されたCLソース・プログラムをもとにして制御言語(CL)プログラムを作成します。

制約事項: コンパイル済みプログラムが占める補助記憶域の量は、プログラム中のコマンドの数、コマンドによって実行される機能の種類（たとえば、表示、作成、追加、および呼び出し）、および指定されたパラメーター値の種類（変数対定数）によって異なります。これらの要素の組み合わせによっては、プログラムに対するシステムの内部サイズ限界を超える場合があります（めったに起こらない）。限界を超えた場合には、プログラムを再作成しなければなりません（通常は、1つでなく複数を作成する）。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, <u>QCLSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *PGM	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 6 回の繰り返し): *SOURCE, *NOSOURCE, *SRC, *NOSRC, *XREF, *NOXREF, *GEN, *NOGEN, *SECLVL, *NOSECLVL, *SRCDBG, *NOSRCDBG, *LSTDBG, *NOLSTDBG	オプション, 定位置 4
GENOPT	生成オプション	値 (最大 3 回の繰り返し): *NOLIST, *LIST, *NOXREF, *XREF, *NOPATCH, *PATCH	オプション, 定位置 5
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*USER, *OWNER	オプション
LOG	ログ・コマンド	*JOB, *YES, *NO	オプション
ALWRTVSRC	RTVCLSRC可能	*YES, *NO	オプション
REPLACE	プログラムの置き換え	*YES, *NO	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	単純名, *CURRENT, *PRV	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SRTSEQ	分類順序	単一値: *HEX, *JOB, *JOBRUN, *LANGIDUNQ, *LANGIDSHR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, *JOBRUN, *JOB	オプション

トップ

プログラム (PGM)

作成するプログラムを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: プログラム

名前 作成するプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

プログラムはジョブの現行ライブラリーに保管されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムを入れるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

コンパイルするCLソース・メンバーが入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: ソース・ファイル

QCLSRC

コンパイルするCLソース・メンバーが入っている、QCLSRCという名前のソース・ファイルが使用されます。

名前 コンパイルするCLソース・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。このソース・ファイルは、データベース・ファイル、装置ファイル、またはインライン・データ・ファイルとすることができます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、スレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ソース・メンバー(SRCMBR)

コンパイルするCLソース・プログラムの入っているソース・メンバー（ソース・ファイルの）の名前を指定します。

***PGM** ジョブ名は、**プログラム (PGM)**パラメーターに指定されたプログラム名と同じです。

名前 メンバー名が作成するプログラムの名前と同じでない場合には、CLソース・プログラムの入っているメンバーの名前を指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

テキストは、CLプログラムを作成するために使用されたソース・ファイル・メンバーからとられません。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

ソース・リスト・オプション (OPTION)

このコマンドの処理の際に作成される出力のタイプ、および、このコマンドの処理結果としてプログラムを作成するかどうかを指定します。このパラメーターには、複数のオプション値を任意の順序で指定することができます。各グループに値がどちらも指定されないか、あるいは両方の値が指定された場合には、下線のついた値が使用されます。

注: このパラメーターの下線のついた値は省略時の値と類似していますが、実際の省略時の値ではありません。したがって、コマンド省略時値変更(CHGCMDDFT)コマンドによって変更することはできません。

ソース・リスト・オプション

***SRCまたは*SOURCE**

コンパイラーは、プログラムのコンパイルに使用するソース入力のリストを作成します。

***NOSRCまたは*NOSOURCE**

完全なコンパイラー・ソース・リストは作成されず、コンパイル・エラーだけがリストされます。

相互参照オプション

***XREF**

コンパイラーは、ソース仕様の中の変数またはラベルに対する参照の相互参照表を作成します。

*NOSOURCEを指定した場合には、常に*NOXREFと見なされます。

***NOXREF**

ソース仕様の中の変数およびデータ項目に対する参照の相互参照表は作成されません。

プログラム作成オプション

***GEN** コンパイラーはプログラムを作成し、それを該当のライブラリーに入れます。

***NOGEN**

プログラムは作成されません。コンパイラーは、ソース仕様の構文検査を行ない、*SOURCEまたは*SRCが指定されていれば、ソース・リストを作成します。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

***NOSECLVL**

第2レベル・メッセージ・テキストは印刷されません。

***SECLVL**

コンパイラー・エラーのために、第1レベル・テキストと一緒に第2レベル・テキストも印刷されません。

ソース・レベル・デバッグ・オプション

***NOSRCDBG**

ソース・レベル・デバッグ情報は生成されません。ソース・レベル・エラー情報は、*LSTDBGが指定されていなければ生成されません。

***SRCDBG**

コンパイラーは、COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT/400 (CODE/400)で使用されるソース・レベル・エラーおよびデバッグ情報を生成します。システム・デバッガーのソース・レベル・デバッグ機能を使用して(STRDBG OPMSRC(*YES)) OPMプログラムをデバッグしたい場合には、ソース・レベルまたはリスト・レベル・デバッグ情報も必要になります。コンパイラーがエラーなしで処理を完了した場合にも、イベント・ファイルが作成されます。

リスト・レベル・デバッグ・オプション

***NOLSTDBG**

リスト・ビューまたはリスト・レベル・デバッグ情報は生成されません。ソース・レベル・エラー情報は、*SRCDBGが指定されていなければ作成されません。

***LSTDBG**

コンパイラーは、COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT/400 (CODE/400)で使用されるリスト・ビュー、ソース・レベル・エラー情報、およびリスト・レベル・デバッグ情報を生成します。システム・デバッガーのソース・レベル・デバッグ機能を使用して(STRDBG OPMSRC(*YES)) OPMプログラムをデバッグしたい場合には、ソース・レベルまたはリスト・レベル・デバッグ情報も必要になります。

トップ

生成オプション (GENOPT)

使用するプログラム生成オプションを指定します。これらの値は、OPTION(*NOGEN)が指定されると無視されます。このパラメーターには、複数のオプション値を任意の順序で指定することができます。各グループに値がどちらも指定されないか、あるいは両方の値が指定された場合には、下線のついた値が使用されません。

注: このパラメーターの下線のついた値は省略時の値と類似していますが、実際の省略時の値ではありません。したがって、コマンド省略時値変更(CHGCMDDFT)コマンドによって変更することはできません。

IRP/MIリスト・オプション

*NOLIST

プログラムの中間表現(IRP)のリストは作成されません。

***LIST** プログラムの中間表現(IRP)のリストが、生成されたマシン・インターフェース(MI)命令も含めて作成されます。

IRP/MI相互参照オプション

*NOXREF

プログラムの中間表現の中の変数およびデータ項目に対する参照の相互参照表は作成されません。

***XREF**

プログラムの中間表現の中の変数およびデータ項目に対する参照の相互参照表が作成されます。

プログラム・パッチ域オプション

*NOPATCH

コンパイル済みプログラムの中に、プログラム・パッチ域のためのスペースは予約されません。

***PATCH**

コンパイル済みCLプログラムの中に、プログラム・パッチ域のためのスペースが予約されます。

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

このプログラムの実行中に行われる権限の検査に、プログラムを実行中のユーザー(*USER)のみを組み込むか、あるいはプログラムを実行中のユーザーおよびプログラム所有者(*OWNER)の両方を組み込むかどうかを指定します。プログラム・ユーザーのプロファイルまたはプログラム・ユーザーとプログラム所有者の両方のプロファイルは、各オブジェクトについてプログラムがもつ権限を含め、プログラムで使用できるオブジェクトを制御するために使用されます。ユーザー・プロファイル属性を変更できるのは、プログラム所有者またはQSECOFR権限をもつユーザーだけです。

注: REPLACE(*YES)が指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

*USER

プログラムはプログラム・ユーザーのユーザー・プロファイルのもとで実行されます。

***OWNER**

プログラムの処理時には、プログラムの所有者とプログラムのユーザーの両方のユーザー・プロファイルが使用されます。プログラムの処理時にオブジェクトを検索してアクセスするために、両方のユーザー・プロファイルにあるオブジェクト権限の集合セットが使用されます。所有ユーザー・プロファイルのグループ・プロファイルからの権限は、実行プログラムの権限には組み込まれません。

トップ

ログ・コマンド (LOG)

作成されたCLプログラムに関するロギング・オプションを指定します。ここで指定した*YESまたは*NOは、ジョブ変更(CHGJOB)コマンドに指定した値より優先されます。

***JOB** 実行中のCLプログラムの中のコマンドのロギングは、ジョブのロギング・フラグの状況によって決まります (ジョブ変更(CHGJOB)コマンドのLOGCLPGMパラメーターを参照してください)。

***YES** すべての場合にコマンドがログに記録されます。

***NO** コマンドはログに記録されません。

トップ

RTVCLSRC可能 (ALWRTVSRC)

CLプログラムのソース仕様をプログラムと一緒に保管するかどうかを指定します。保管したソース仕様は、CLソース・ステートメント検索(RTVCLSRC)コマンドを使用して検索することができます。

***YES** CLプログラムのソース仕様がプログラムと一緒に保管されます。

***NO** CLプログラムのソース仕様をプログラムとともに保管しません。

トップ

プログラムの置き換え (REPLACE)

指定したライブラリーの中に同名の既存のプログラムがある場合に、その既存のプログラムを置き換えるかどうかを指定します。

注:

1. 実行中のCLプログラムがREPLACEパラメーターに*YESを指定して再コンパイルされた場合には、実行中のCLプログラムでメッセージ待ち行列エラーが起こる可能性があります。
2. このパラメーターに*YESを指定すると、**ユーザー・プロファイル (USRPRF)**パラメーターと**権限 (AUT)**パラメーターの値は無視されます。権限の情報源として既存のプログラムが使用され、ユーザー・プロファイル属性は既存のプログラムから新しいプログラムにコピーされます。ユーザー・プロファイルを変更するためにはプログラム変更(CHGPGM)コマンドを使用し、プログラムの権限を変更するためにはオブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)またはオブジェクト権限取り消し(RVKOBJAUT)コマンドを使用してください。

***YES** 既存のプログラムをQRPLOBJライブラリーに移動して、これを置き換えます。

***NO** 指定したライブラリーの中にある同名の既存のプログラムを置き換えません。

トップ

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成中のオブジェクトの使用を計画しているオペレーティング・システムのリリースを指定します。

ターゲット・リリースを指定するときは、形式VXRXXMXでリリースを指定します。ここで、VXはバージョン、RXはリリース、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V5R3M0はバージョン5,リリース3,モディフィケーション0です。

有効な値は、オペレーティング・システムの現在のバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルで異なり、リリースが新しくなるたびに変わります。このコマンド・パラメーターのプロンプト時にF4を押して、有効なターゲット・リリースの値のリストを表示することができます。

***CURRENT**

オブジェクトは、現在ユーザーのシステムで実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

***PRV** オブジェクトは、オペレーティング・システムのモディフィケーション・レベルが0の、前のリリースで使用されます。オブジェクトは、後続のリリースのオペレーティング・システムが導入されたシステムでも使用することもできます。

文字値 リリースをVXRXXMXの形式で指定してください。オブジェクトは、指定したリリースまたはそれ以降のオペレーティング・システムが導入されているシステムで使用することができます。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトの特定権限をもたず、権限リストにも入っておらず、またこのオブジェクトの特定権限をもたないユーザー・グループに属しているユーザーに対して認可しようとしている権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTL)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載

っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

注: REPLACE(*YES)が指定されている時には、このパラメーターは無視されます。

[トップ](#)

分類順序 (SRTSEQ)

このCLプログラムのストリングの比較に使用される分類順序テーブルを指定します。この分類順序値は、使用する分類順序テーブルを決定するためにジョブの言語IDおよびコード化文字セットIDと一緒に使用されます。

単一値

***HEX** 分類順序テーブルは使用されません。分類順序を決定するために、文字の16進数値が使用されません。

***JOB** 使用される分類順序は、CLプログラムの作成時にジョブと対応したSRTSEQです。

*JOBRUN

使用される分類順序は、CLプログラムの実行時にジョブと対応したSRTSEQです。

*LANGIDUNQ

分類順序テーブルでは、各文字ごとに固有の重みを使用され、これは、LANGIDパラメーターに指定された言語の順位別分類テーブルです。

*LANGIDSHR

分類順序テーブルは、複数の文字に同じ重みを使用する、LANGIDパラメーターに指定された言語に関連付けられた同順位分類順序テーブルです。

修飾子1: 分類順序

名前 このCLプログラムで使用される分類順序テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

言語識別コード (LANGID)

SRTSEQ(*LANGIDUNQ)またはSRTSEQ(*LANGIDSHR)が指定されている時に使用される言語IDを指定します。

*JOBRUN

使用される言語IDは、CLプログラムの実行時にジョブと対応するLANGIDです。

***JOB** 使用される言語IDは、CLプログラムの作成時にジョブと対応するLANGIDです。

言語ID

ジョブによって使用される言語IDを指定してください。

トップ

例

例1:任意のシステム・ユーザーが実行するプログラムの作成

```
CRTCLPGM  PAYROLL TEXT('給与計算プログラム')
```

このコマンドは、CLコンパイラーを呼び出して、PAYROLLという名前のプログラムを作成します。CLプロシージャー・ソースは、省略時のソース・ファイルQCLSRCのメンバーPAYROLLに入っています。コンパイラー・リストが作成されます。プログラムは、プログラム・ユーザーのユーザー・プロファイルのもとで処理され、任意のシステム・ユーザーが実行できます。

例2:許可ユーザーが実行するプログラムの作成

```
CRTCLPGM  PGM(PARTS) SRCFILE(MYLIB/PARTDATA) AUT(*EXCLUDE)
          TEXT('このプログラムはすべての部品データを表示します')
```

このコマンドは、PARTSという名前のCLプログラムを作成して、現行ライブラリーに保管します。このプログラムのソースは、ライブラリーMYLIBにあるソース・ファイルPARTDATAのPARTSメンバーに入っています。コンパイラー・リストが作成されます。このプログラムは、このプログラムを実行するユーザーのプロファイルのもとで処理することができます。このユーザーは、所有者であるか、所有者がオブジェクト権限認可(GRTOBJAUT)コマンドで名前によって特定の権限を付与した別のユーザーです。

例3:前のリリース・システムで実行するプログラムの作成

```
CRTCLPGM  PGM(MYPGM) SRCFILE(MYLIB/MYDATA) TGTRLS(*PRV)
```

このコマンドは、前のリリース・システム用に保管でき、そのシステムで復元でき、そのシステムで実行できるCLプログラムを作成します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0C33

ターゲット・リリース&1が正しくない。

CPF0C35

ターゲット・リリース&1はサポートされているリリースではない。

CPF0801

プログラム&1は作成されなかった。

CPF0804

組み込み関数のオペランドが正しくない。理由コードは&1です。

CPF0807

コンパイラー印刷出力を含むファイルがオープンされなかった。

CPF0808

コンパイラ作成のコードにエラー。

CPF0814

ライセンス・プログラム5769-SS1のオプション9が導入されていない。

CPF0815

&2のCLプログラム&1を前のリリース用に作成することはできない。

CPF0816

%SWITCHマスク&1が正しくない。

CPF0849

アドレス空間のアドレス指定の違反。

CPF3202

ライブラリー&2のファイル&1は使用中である。

CPF3203

&2のファイル&1のオブジェクトを割り振ることができない。

CPF3224

ファイル&1に対する操作の実行は認可されていない。

EVF3140

プログラムのデバッグ情報は作成されていない。

[トップ](#)

クラス作成 (CRTCLS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラス作成コマンドは、クラス・オブジェクトを作成し、そのクラスに含まれる属性を指定します。クラスはそのクラスを使用するジョブの処理属性を定義します。ジョブによって使用されるクラスは、そのジョブを開始するために使用されるサブシステム記述ルーティング項目に指定されています。ジョブが複数のルーティング・ステップから成っている場合には、後続の各ルーティング・ステップによって使用されるクラスはそのルーティング・ステップを開始するために使用されるルーティング項目に指定されています。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLS	クラス	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: クラス	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
RUNPTY	実行優先順位	1-99, 50	オプション
TIMESLICE	タイム・スライス	0-9999999, 2000	オプション
PURGE	除去適格	*YES, *NO	オプション
DFTWAIT	省略時の待ち時間	0-9999999, 30 , *NOMAX	オプション
CPUTIME	最大CPU時間	1-9999999, *NOMAX	オプション
MAXTMPSTG	最大一時記憶域	1-2147483647, *NOMAX	オプション
MAXTHD	最大スレッド数	1-32767, *NOMAX	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

[トップ](#)

クラス (CLS)

クラス名に使用する名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: クラス

名前 クラスの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

クラスは、スレッドの現行ライブラリーに作成されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 クラスが作成されるライブラリーを指定します。

[トップ](#)

実行優先順位 (RUNPTY)

クラスを使用するジョブの実行優先順位を指定します。実行優先順位は1（最高の優先順位）から99（最低の優先順位）の範囲の値であり、同時に活動状態である他のジョブに関連した処理装置をジョブが競合する時の優先順位を表します。マルチスレッド・ジョブの場合には、実行優先順位はジョブ内のスレッドに許される最高の実行優先順位でもあります。ジョブ内の個々のスレッドはこれより低い優先順位をもつことができます。

この値はジョブの相対的な重要度を表し、絶対的な重要度ではありません。たとえば、実行優先順位が25のジョブは実行優先順位が50のジョブの2倍重要であるということではありません。

50 このクラスを使用するジョブは、実行優先順位が50になります。

1から99

このクラスを使用するジョブの実行優先順位を指定してください。

[トップ](#)

タイム・スライス (TIMESLICE)

このジョブの他のスレッドまたは他のジョブに実行の機会が与えられるまでに、このクラスを使用するジョブの各スレッドに与えられる最大プロセッサ時間（ミリ秒）を指定します。タイム・スライスは、意味のある量の処理を行うためにジョブ内のスレッドに必要な時間の量を確立します。タイム・スライスの終わりにスレッドを非活動状態にすると、他のスレッドを記憶域プール内で活動状態にできます。

2000 各スレッドが処理できるようになるたびに、そのスレッドに2000ミリ秒という最大実行時間が割り振られます。

0から9999999

このクラスを使用するジョブ内の各スレッドが処理時間を与えられた時に実行できる最大時間（ミリ秒）を指定してください。

注：8より小さい値を指定することができますが、システムは処理を実行するのに最小でも8ミリ秒を要します。ジョブの実行属性を表示する場合には、タイム・スライス値が8以下になることはありません。

[トップ](#)

除去適格 (PURGE)

タイム・スライスの終了時または長時間待機（たとえば、ワークステーション・ユーザーの応答の待機）がある時に、このジョブが主記憶域から取り出して補助記憶域に移すのに適格となるかどうかを指示します。オペレーティング・システムは、すでにこのパラメーターを使用しません。

***YES** ジョブは、主記憶域から取り出され、補助記憶装置に入れられるのに適格となります。ただし、複数のスレッドをもつジョブが主記憶域から除去されることはありません。

***NO** ジョブは主記憶域から取り出して補助記憶域に入れるには適格ではありません。ただし、主記憶域が必要な時には、このジョブ内のスレッドに属するページを補助記憶域に移動できます。その後、このジョブ内のスレッドが再び実行される時に、そのページは必要に応じて主記憶域に戻されます。

トップ

省略時の待ち時間 (DFTWAIT)

ジョブ中のスレッドが資源を獲得するためにシステム命令(LOCKマシン・インターフェース(MI)命令など)を待機する省略時の最大時間(秒数)を指定します。この省略時の待機時間は、与えられた状況下で他に待機時間が指定されていない時に使用されます。通常、この時間は、要求が終了するまでにシステム・ユーザーがシステムを待機する時間の量となります。ある1つの命令の待機時間を超えた場合には、エラー・メッセージを表示するか、メッセージ・モニター(MONMSG)コマンドによって自動的に処理することができます。

30 1つの命令が、完了するまでの待ち時間として最大30秒を与えられます。

***NOMAX**

最大待ち時間はありません。

0から9999999

命令が資源を獲得するまでシステムが待機する最大時間(秒数)を指定します。

トップ

最大CPU時間 (CPUTIME)

ジョブが使用できる最大処理装置時間(ミリ秒)を指定します。ジョブが複数のルーティング・ステップから成っている場合には、各ルーティング・ステップでこの処理装置時間を使用できます。最大時間を超えた場合には、ジョブは終了します。

***NOMAX**

使用する処理装置時間に制限はありません。

1から9999999

使用できる最大処理装置時間(ミリ秒)を指定してください。

トップ

最大一時記憶域 (MAXTMPSTG)

ジョブが使用できる最大一時(補助)記憶域の容量(キロバイト数)を指定します。ジョブに複数のルーティング・ステップがある場合には、これはルーティング・ステップが使用できる最大一時記憶域となります。この一時記憶域は、プログラム自身に必要な記憶域用、またはジョブをサポートするために使用する暗黙に作成された内部システム・オブジェクトに必要な記憶域用に使用されます。これには、QTEMPライブラリー中の記憶域は含まれません。最大一時記憶域を超えた場合には、ジョブは終了します。このパラメーターは、ユーザー・プロファイルによって制御される永続記憶域の使用には適用されません。

***NOMAX**

システムの最大値が使用されます。

1から2147483647

使用できる一時記憶域の最大容量（キロバイト数）を指定します。

注：値はキロバイトで指定しますが、指定された値は最も近いメガバイトに四捨五入してクラスに記憶されます。

トップ

最大スレッド数 (MAXTHD)

このクラスを使用するジョブが任意の時に実行できるスレッドの最大数を指定します。マルチスレッドが同時に開始された場合には、この値を超えることがあります。この最大値を超えた場合には、正常に完了するまで余分なスレッドを実行することが許されています。追加のスレッドの開始は、ジョブ内のスレッドの最大数がこの最大値より低くなるまで禁止されます。

***NOMAX**

スレッドの最大数はありません。

1から32767

ジョブのスレッドの最大数を指定します。

注：スレッドによって使用される資源およびシステム上の使用可能な資源によって異なりますが、この最大値に達する前に追加のスレッドの開始が禁止されることがあります。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトに対する権限は、オブジェクトが作成されるライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値から取られます。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のどのオブジェクトにも影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェ

クト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限に使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTCLS CLS(CLASS1) RUNPTY(60) TIMESLICE(900)
        TEXT('THIS CLASS FOR ALL BATCH JOBS FROM DEPT 4836')
```

このコマンドは、CLASS1と呼ばれるクラスを作成します。このクラスは、ジョブに指定された現行ライブラリーに保管されます。ユーザー・テキスト'THIS CLASS FOR ALL BATCH JOBS FROM DEPT 4836'がクラスを記述します。このクラスの属性は、実行優先順位60と900ミリ秒のタイム・スライスを提供します。ジョブの実行がこのタイム・スライスの終了時に終了しなかった場合には、別のタイム・スライスが割り振られるまで、そのジョブが主記憶域から移すのに適格となります。他のパラメーターについては省略時の値と見なされます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1027

ライブラリー&1に対する権限がない。

CPF1039

クラス・ライブラリー&1が見つからない。

CPF1064

クラス&1がライブラリー&2に存在している。

CPF1067

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

クラスターの作成 (CRTCLU)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター作成(CRTCLU)コマンドは、1つ以上のノードから成る新規クラスターを作成するために使用されます。ノード・パラメーターに指定された各ノードはクラスター・メンバーシップ・リストに入ります。

開始の標識 (START)パラメーター値が*NOの場合には、追加しようとする各ノードの状況は「新規」になり、クラスター資源サービスはどのノードでも開始されません。クラスター資源サービスを開始するためには、CRTCLUコマンドを実行したノードでクラスター・ノード開始(STRCLUNOD)コマンドを呼び出す必要があります。STRCLUNODコマンドは、クラスター・メンバーシップ・リスト中のノードで開始するために使用することができます。

STARTパラメーター値が*YESである場合は、そのクラスターに入れることができるノードは1つだけです。クラスター資源サービスは、定義しようとするノードで開始されます。クラスター資源サービスが正常に開始されない場合は、そのノードの状況は「新規」のままです。

NODE0100形式を選択した場合は、現行のクラスター・バージョンは要求元ノードの潜在的ノード・バージョンと等しく設定されます。

クラスター資源サービスを元のノードで開始した後で、追加ノードは、クラスター・ノード開始(STRCLUNOD)コマンドを元のノードで呼び出すことによってしか開始することはできません。クラスター資源サービスが複数のノードで活動状態になっている場合は、追加ノードは、クラスター・ノード開始(STRCLUNOD)コマンドを状況が「活動状態」になっている任意のノードで呼び出すことにより開始することができます。

クラスターが作成されてしまうと、クラスター・ノード項目追加(ADDCLUNODE)コマンドを使用して、追加ノードをクラスター・メンバーシップ・リストに追加することができます。ADDCLUNODEコマンドは、状況が「活動状態」になっているクラスター内の任意のノードで、あるいはクラスターが最初に作成されたノードから起動することができます。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
2. このコマンドは、クラスター資源グループの出口プログラムから呼び出すことはできません。
3. ノードはただ1つのクラスターのメンバーにすることができます。
4. コマンドが出されるシステムをクラスター・メンバーシップ・リストに含めなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1

キーワード	記述	選択項目	注
NODE	ノード・リスト	値 (最大 128 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: ノードID	名前	
	要素 2: IPアドレス	値 (最大 2 回の繰り返し): 文字値	
START	開始の標識	*YES, *NO	オプション
VERSION	ターゲット・クラスター・バージョン	*CUR, *PRV	オプション

トップ

クラスター (CLUSTER)

作成されるクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 作成するクラスターの名前を指定してください。

トップ

ノードID (NODE)

クラスター・メンバーシップ・リストに入れられるクラスターおよびノードのリストに関する情報を指定します。クラスター内のノードは最大128個とすることができます。

これは必須パラメーターです。

要素1: ノードID

名前 そのノードを一意的に識別するシステムの名前を指定してください。

要素2: IPアドレス

クラスター・インターフェース・アドレスは、そのクラスター内の他のノードと通信するためにクラスター資源サービスにより使用されるIPアドレスです。ノード当たり最大2つのインターフェース・アドレスを指定することができます。

文字値 クラスター内の他のノードと通信するために使用されるIPアドレスを指定してください。このアドレスはドット10進形式です。

トップ

開始の標識 (START)

クラスター資源サービスを、定義しようとするノードで開始するかどうかを指定します。

***YES** クラスター資源サービスをノードで開始します。

***NO** クラスター資源サービスをどのノードでも開始しません。

トップ

ターゲット・クラスター・バージョン (VERSION)

クラスターがクラスター内の他のノードとの会話で使用するバージョンを指定します。また、これにより、クラスターを結合する許容されるノードの潜在的なノード・バージョンも判別されます。考えられる次の値は要求を出したノードをベースにしています。

- *CUR** クラスターは要求側ノードの潜在ノード・バージョンで通信します。さらに、要求側ノードより小さい潜在ノード・バージョンになっているノードは、クラスターを結合することは許可されません。
- *PRV** クラスターは要求側ノードの潜在ノード・バージョン-1で通信します。これにより、直前の潜在ノード・バージョンのノードがそのクラスターと結合することができます。ただし、すべてのノードが最新のクラスター・バージョンをもつまでは、新規のクラスター機能は使用できません。

[トップ](#)

例

```
CRTCLU CLUSTER(MYCLUSTER)
        NODE((NODE01 ('9.5.13.187')) (NODE02 ('9.5.13.193'))))
        START(*NO) VERSION(*PRV)
```

このコマンドは、クラスターMYCLUSTERを作成します。クラスター・メンバーシップ・リストはNODE01およびNODE02です。ノードNODE01との通信には、インターフェース・アドレス9.5.13.187が使用されます。ノードNODE02との通信には、インターフェース・アドレス9.5.13.193が使用されます。クラスター通信は、ノードの潜在バージョン・レベルを要求する前に、クラスター・バージョンを使用します。クラスター資源サービスはノード上では開始されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

[トップ](#)

コマンド作成 (CRTCMD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンド作成(CRTCMD)コマンドは、弊社提供コマンドによって使用されるのと同じコマンド処理サポートを使用できる新しいユーザー定義コマンド（すなわちコマンド定義）を作成します。コマンド定義とは、汎用ライブラリー(QGPL)またはユーザー・ライブラリーに記憶できるオブジェクトです。既存のコマンドを更新する（たとえば1つのパラメーター・キーワードの名前を変更する）ためには、まずコマンド削除(DLTCMD)コマンドによって既存のコマンドを削除してから、コマンド作成(CRTCMD)コマンドで作成し直さなければなりません。ただし、値の中には、コマンド変更(CHGCMD)コマンドによって変更できるものもあります。

コマンドを作成するためには、一連のコマンド定義ステートメントをソース・ファイルに入力します。次に、コマンド作成(CRTCMD)コマンドを用いてそのソース・ファイルが処理され、コマンド定義オブジェクトが作成されます。次のコマンド定義ステートメントは必要に応じて使用されます。

- コマンド・ステートメント(CMD): 定義中の各コマンドに対して1つのCMDステートメントが必要です。
- パラメーター・ステートメント(PARM): 定義中の各コマンド・パラメーターに対して1つのPARMステートメントが必要です。これは、コマンド処理プログラム(CPP)に渡されるパラメーターを定義します。
- 要素ステートメント(ELEM): ELEMステートメントは値のリストにあるパラメーターをさらに詳細に定義します。リストの使用可能な各要素に対して1つのステートメントが必要です。
- 修飾子ステートメント(QUAL): QUALステートメントは、パラメーター（PARM ステートメントに定義される）または値のリストの要素(ELEM要素に定義される）で受け入れ可能な修飾された名前の各部分を記述するために必要です。
- 従属ステートメント(DEP): DEPステートメントはどのパラメーターが相互依存であるかを示します。
- プロンプト制御ステートメント(PMTCTL): PMTCTLステートメントは、プロンプトのパラメーターを選択するために使用する条件を記述します。

コマンド定義ステートメントの説明は、ISERIES INFORMATION CENTER (URL [HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))のプログラミング・カテゴリーの制御言語(CL)トピックにあります。

制約事項: CRTCMDコマンドを使用できるのは、実際のCLコマンドのコマンド定義を作成する場合だけです。すなわち、コマンド定義ステートメントそれ自体などの、ステートメントの定義の作成には使用できません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: コマンド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
PGM	コマンドを処理するプログラム	単一値: *REXX その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: コマンドを処理するプログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QCMSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *CMD	オプション, 定位置 4
REXSRCFILE	REXXソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: REXXソース・ファイル	名前, QREXSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
REXSRCMBR	REXXソース・メンバー	名前, *CMD	オプション
REXCMDENV	REXXコマンド環境	単一値: *COMMAND, *CPICOMM, *EXECSQL その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: REXXコマンド環境	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
REXEXITPGM	REXX出口プログラム	単一値: *NONE その他の値 (最大 8 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: プログラム	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: 出口コード	2, 3, 4, 5, 7, 8, 9, 10	
THDSAFE	スレッド・セーフ	*YES, *NO, *COND	オプション
MLTTHDACN	マルチスレッド・ジョブの処置	*SYSVAL, *RUN, *MSG, *NORUN	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT, *CMDPMT, *BLANK	オプション
VLDCKR	妥当性検査プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 妥当性検査プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MODE	有効なモード	単一値: *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *PROD, *DEBUG, *SERVICE	オプション
ALLOW	実行可能な環境	単一値: *ALL その他の値 (最大 9 回の繰り返し): *BATCH, *INTERACT, *BPGM, *IPGM, *BREXX, *IREXX, *EXEC, *BMOD, *IMOD	オプション
ALWLMTUSR	制限ユーザー可能	*NO, *YES	オプション
MAXPOS	最大定位置パラメーター数	0-75, *NOMAX	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
PMTFILE	プロンプト・テキスト用メッセージ・ファイル	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: プロンプト・テキスト用メッセージ・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前, <u>QCPFMSG</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
HLPSELF	ヘルプ・ブックシェルフ	単純名, <u>*NONE</u> , *LIST	オプション
HLPNLGRP	ヘルプ・パネル・グループ	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ヘルプ・パネル・グループ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
HLPID	ヘルプ識別コード	文字値, *CMD, <u>*NONE</u>	オプション
HLPCHIDX	ヘルプ検索見出し	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ヘルプ検索見出し	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
CURLIB	現行ライブラリー	名前, <u>*NOCHG</u> , *CRTDFT	オプション
PRDLIB	実行ライブラリー	名前, <u>*NOCHG</u> , *NONE	オプション
PMTOVRPGM	プロンプト一時変更プログラム	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: プロンプト一時変更プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *USE, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE	オプション
REPLACE	コマンドの置き換え	<u>*YES</u> , *NO	オプション
ENBGUI	GUI使用可能	<u>*YES</u> , *NO	オプション

トップ

コマンド (CMD)

作成するコマンドを指定します。

修飾子1: コマンド

名前 作成するコマンドの名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

コマンドは、ジョブの現行ライブラリーに作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 コマンドを探し出すライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

コマンドを処理するプログラム (PGM)

コマンドの処理に使用されるコマンド処理プログラム(CPP)の名前およびライブラリーを指定します。コマンド処理プログラムはコマンドの実行時まで必要ありません。

コマンド処理プログラムに渡されるパラメーターは、**ソース・ファイル (SRCFILE)**パラメーターに指定されたソース・ファイル中のコマンド定義ステートメントによって定義されたものです。

これは必須パラメーターです。

単一値

*REXX

このコマンドのCPPは、**REXX**ソース・メンバー (**REXSRCMBR**)パラメーターで識別されるREXXプロシージャです。

修飾子1: コマンドを処理するプログラム

名前 コマンドを処理するCPPの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

コマンド定義ステートメントが入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: ソース・ファイル

QCMDSRC

QCMDSRCという名前のソース・ファイルには、コマンド定義ステートメントが入っています。

名前 作成されるコマンドのコマンド定義ステートメントが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 作成されるコマンドのコマンド定義ステートメントが入っているソース・ファイルのライブラリー名を指定してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー (SRCMBR)

コマンドを作成するために使用されるコマンド定義ステートメントが入っているソース・ファイル・メンバーを指定します。

***CMD** **ソース・ファイル (SRCFILE)**パラメーターに指定されたファイルがデータベース・ファイルである場合には、ソース・ファイルのメンバーの名前は、このコマンドの**コマンド (CMD)**パラメーターに指定した名前です。

名前 SRCFILEパラメーターに指定されたソース・ファイル中のメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

REXXソース・ファイル (REXSRCFILE)

REXXコマンド処理プログラム(CPP)が入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: REXXソース・ファイル

QREXSRC

QREXSRCという名前のファイルにはREXX CPPソース・ファイルが入ります。

名前 使用するソース・メンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 REXXソース・ファイルを探し出すために使用するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

REXXソース・メンバー (REXSRCMBR)

見かけ上のコマンド処理プログラム(CPP)として機能するREXXプロシージャーが入っているソース・ファイル・メンバーを指定します。

***CMD** 省略時のメンバー名は、このコマンドの**コマンド (CMD)**パラメーターに指定された名前です。

名前 見かけ上のコマンド処理プログラムとして機能するREXXプロシージャーが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定してください。

REXXコマンド環境 (REXCMDENV)

REXXコマンド処理プログラム(CPP)が実行を開始する時に活動状態であるコマンド環境を指定します。システムの制御言語(CL)環境が使用されない場合には、REXXプロシージャーで見つかるコマンドを処理するためのプログラムを指定することができます。REXX解釈プログラムは、プロシージャーに組み込まれているコマンドを処理するために、このプログラムを呼び出します。この環境はREXX ADDRESS命令によって変更することができます。

単一値

*COMMAND

制御言語(CL)コマンド環境が使用されます。

*CPICOMM

通信コマンド環境用の共通プログラミング・インターフェース(CPI)が使用されます。CPICOMMは、REXXプロシージャー内に組み込まれたCLコマンドで使用されるコマンド環境です。

*EXECSQL

構造化照会言語(SQL)コマンド環境が使用されます。EXECSQLは、SQLプロシージャーに組み込まれたCLコマンドに使用されるコマンド環境です。

修飾子1: REXXコマンド環境

名前 REXXプロシージャーに組み込まれているコマンドを処理するために呼び出すプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

REXX出口プログラム (REXEXITPGM)

REXXコマンド処理プログラム(CPP)を開始する時に使用する出口プログラムを指定します。プログラムと出口コードの組合わせを最大8組まで指定することができます。

単一値

*NONE

REXX CPPには出口プログラムがありません。

要素1: プログラム

修飾子1: プログラム

名前 出口プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: 出口コード

- 2 外部関数またはサブルーチンがREXXプログラムによって呼び出された時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。その後で、要求されたルーチンの検出および呼び出しは出口プログラムの責任となります。
- 3 解釈プログラムがコマンドを呼び出そうとしている時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。コマンド・ストリングおよび現行の環境名を指定するコマンドの検出および呼び出しは出口プログラムの責任となります。
- 4 REXX命令または関数がREXX外部データ待ち行列に対する操作を試みた時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。
- 5 セッション入出力操作が試みられた時には、常に関連したプログラムが呼び出されます。
- 7 REXXプロシージャの各文節を停止する必要があるかどうかを判別するために、これの実行の後に、関連したプログラムが呼び出されます。
- 8 トレースをオンまたはオフにする必要があるかどうかを検査するために、REXXプログラムの各文節の実行後に、関連したプログラムが呼び出されます。
- 9 REXXプロシージャ（外部関数およびサブルーチンとして呼び出されるREXXプロシージャを含む）の最初の命令を解釈する前に、関連したプログラムが呼び出されます。
- 10 REXXプロシージャ（外部関数およびサブルーチンとして呼び出されるREXXプロシージャを含む）の最後の命令を解釈した後に、関連したプログラムが呼び出されます。

トップ

スレッド・セーフ (THDSAFE)

コマンドがスレッド・セーフかどうかと、複数のスレッドがあるジョブで安全に使用できるかどうかを指定します。

***NO** コマンドはスレッド・セーフでなく、複数のスレッドがあるジョブで使用してはいけません。

***YES** コマンドはスレッド・セーフで、複数のスレッドがあるジョブで安全に使用することができます。

***COND**

コマンドは一定の条件付きでスレッド・セーフです。コマンドがスレッド・セーフとなる条件を判別するためには、そのコマンドのオンライン・ヘルプまたはその他の文書を参照してください。

トップ

マルチスレッド・ジョブの処置 (MLTTHDACN)

このコマンドのマルチスレッド・ジョブの処置を指定します。マルチスレッド・ジョブで取る処置が分からない場合には、省略時の値*SYSVALを使用してください。

***SYSVAL**

QMLTTHDACNシステム値で指定されたマルチスレッド・ジョブの処置が使用されます。

***RUN** コマンドを実行します。

***MSG** コマンドを実行し、診断メッセージを送ります。

***NORUN**

コマンドを実行しません。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

テキストは、CLコマンドを作成するために使用されるソース・ファイル・メンバーから取られます。

***CMDPMT**

テキストは、コマンド定義ソースのCMDステートメントのPROMPTキーワードに定義されたテキストから取られます。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

妥当性検査プログラム (VLDCKR)

作成されるコマンドのパラメーターで追加のユーザー定義妥当性検査を実行するプログラムを指定します。また、コマンド処理プログラム(CPP)に渡すのと同じパラメーターが妥当性検査プログラムにも渡されます。妥当性検査プログラムは、ソース・ファイル中のコマンド定義ステートメントによって指定されたものを超えて、さらに通常の制御言語構文検査を超えて追加のパラメーター検査を実行します。妥当性検査の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CL」情報にあります。

単一値

***NONE**

このコマンドに対して別個の妥当性検査プログラムはありません。すべての妥当性検査は、コマンド分析プログラムおよびコマンド処理プログラムによって実行されます。妥当性検査でコマンドが処理または検査される時には常に、指定された変数および式は使用されません。

修飾子1: 妥当性検査プログラム

名前 コマンドの妥当性を検査する妥当性検査プログラムの名前およびライブラリーを指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 妥当性検査プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

有効なモード (MODE)

新しく定義するコマンドに適用する操作環境のモードを指定します。

単一値

***ALL** コマンドは実行、デバッグ、および保守のすべてのタイプのモードで有効です。

その他の値 (最大3個指定可能)

***PROD**

コマンドは、実行モードの操作で有効です。

***DEBUG**

コマンドは、デバッグ・モードの操作で有効です。

***SERVICE**

コマンドは、保守モードの操作で有効です。

トップ

実行可能な環境 (ALLOW)

コマンドを処理できる環境を指定します。

単一値

***ALL** コマンドは、バッチ入力ストリーム、CLプログラム、REXXプロシージャ、またはCL ILEモジュール中で処理するか、あるいは対話式に処理することができます。また、処理のためにシステム・プログラムQCMDEXC (またはQCAEXEC)に渡すことができます。

その他の値 (最大9個指定可能)

***BATCH**

コマンドは、コンパイルされたCLプログラムの外部でバッチ入力ストリーム中で処理することができます。

***INTERACT**

コマンドは、コンパイルされたCLプログラムの外部で対話式に処理することができます。

***BPGM**

コマンドは、バッチ入力から呼び出されるコンパイル済みCLプログラムの中で処理することができます。

***IPGM**

コマンドは、対話式入力から呼び出されるコンパイル済みCLプログラムの中で処理することができます。

***BREXX**

コマンドは、バッチ・ジョブで実行されるREXXプロシージャ中で使用することができます。

***IREXX**

コマンドは、対話式ジョブで実行されるREXXプロシージャ中で使用することができます。

***BMOD**

コマンドは、バッチCL ILEプログラムでのみ使用することができます。

***IMOD**

コマンドは、対話式CL ILEプログラムでのみ使用することができます。

***EXEC**

コマンドは、CALLコマンドのパラメーターとして使用することができ、システム・プログラム QCMDXEC (またはQCAEXEC)に文字ストリングの形で渡して処理することができます。*EXECを指定した場合には、*BATCHまたは*INTERACTも指定しなければなりません。

トップ

制限ユーザー可能 (ALWLMTUSR)

プロファイルで権限が制限されているユーザーが、メニューのコマンド入力行にコマンドを入力してそのコマンドを使用可能にできるかどうかを指定します。

***NO** プロファイルで権限が制限されているユーザーは、このコマンドをメニューのコマンド入力行に入力することはできません。

***YES** プロファイルで権限が制限されているユーザーでも、このコマンドをメニューのコマンド入力行に入力することができます。

トップ

最大定位置パラメーター数 (MAXPOS)

このコマンドに対して定位置に (パラメーター・キーワードなしで) 指定できるパラメーターの最大数を指定します。このパラメーター値は非定数の必須パラメーター数より大きく、非定数パラメーターの合計数より小さくなければなりません。TYPE(*ZEROELEM)のパラメーター、CONSTANT属性のパラメーター、およびそのELEMおよびQUALにCONSTANT属性があるリストおよび修飾名、あるいはTYPE(*ZEROELEM)のパラメーターは、このコマンドに定位置コーディングできるパラメーター数に含まれません。

*NOMAX

このコマンドには定位置コーディングの最大限界値の指定はありません。

0から75

定位置パラメーターの最大数を指定します。

トップ

プロンプト・テキスト用メッセージ・ファイル (PMTFILE)

コマンドのプロンプト・テキストを検索するためのメッセージ・ファイルを指定します。

単一値

*NONE

プロンプト・テキストにメッセージ・ファイルは必要ありません。テキストが必要な場合には、コマンドを定義する定義ステートメントで提供されます。

修飾子1: プロンプト・テキスト用メッセージ・ファイル

名前 メッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

メッセージ・ファイル (MSGF)

依存関係(DEP)コマンド定義ステートメントで識別されたメッセージの検索元のメッセージ・ファイルを指定します。DEPステートメント上の**メッセージ識別コード (MSGID)**パラメーターによって、パラメーター構文エラーが検出されると送信するメッセージIDを指定することができます。'CPF'以外の3文字の接頭部付きのメッセージ識別の場合は、このパラメーターに指定されたメッセージ・ファイルが使用されます。接頭部'CPF'付きのメッセージでは、QCPFMSGがメッセージ・ファイルとして常に使用されます。

修飾子1: メッセージ・ファイル

QCPFMSG

メッセージ・ファイルQCPFMSGが、DEPエラー・メッセージの検索元のファイルです。

名前 DEPエラー・メッセージの検索元のメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ヘルプ・ブックシェルフ (HLPSHELF)

このパラメーターはもはやサポートされていません。

[トップ](#)

ヘルプ・パネル・グループ (HLPPNLGRP)

このコマンドのヘルプ・パネル・グループを指定します。

単一値

*NONE

ヘルプ・パネル・グループは指定されません。

修飾子1: ヘルプ・パネル・グループ

名前 このコマンド用のヘルプ・パネル・グループの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

パネル・グループを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 パネル・グループが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ヘルプ識別コード (HLPID)

このコマンドに対するヘルプ・セクションIDのすべてのルート名を指定します。このコマンドと関連したヘルプ・パネル・グループ内のすべてのヘルプ・セクションがこの名前が始まります。

*NONE

ヘルプIDは指定されません。パネル・グループ名をヘルプ・パネル・グループ (HLPPNLGRP)パラメーターに指定すると、*NONEは許されません。

***CMD** コマンドの名前は、ヘルプ・パネル・グループ内のヘルプ・セクションIDのルートとして使用するためのものです。

名前 このコマンドに対するヘルプ・セクションIDのすべてのルート名を指定してください。

ヘルプ検索見出し (HLPSCHIDX)

ヘルプ画面から検索索引検索機能キーが押された時に使用されるヘルプ検索索引を指定します。

単一値

*NONE

このコマンドと関連したヘルプ検索索引はありません。

修飾子1: ヘルプ検索見出し

名前 見出し検索機能キーが押された時に使用される検索見出しの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

検索見出しを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索見出しが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

現行ライブラリー (CURLIB)

実行中のジョブと関連した現行ライブラリーの名前を指定します。

注: また、このライブラリーは、コマンドの妥当性検査プログラム（ある場合）が処理される時の現行ライブラリーでもあります。

*NOCHG

現行ライブラリーは、このコマンドの処理のために変更されません。コマンドの処理中に現行ライブラリーが変更された場合には、そのコマンドの処理が完了した後もその変更は有効となります。

***CRTDFT**

コマンドの処理中に活動状態の現行ライブラリーはありません。コマンド処理の開始前に活動状態であった現行ライブラリーが処理完了時に復元されます。

このコマンドの単一値または特殊値に、あるいは活動状態の現行のライブラリーがない時に処理されるコマンドに置き換え値として***CURLIB**が指定された場合には、現行ライブラリーとしてQGPLライブラリーが使用されます。

名前 現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。コマンドの作成時にはライブラリーの存在は必要ありませんが、コマンドの処理時には存在しなければなりません。コマンド処理が完了すると、現行ライブラリーがその前の値に復元されます。ライブラリー・リスト変更(CHGLIBL) コマンドまたは現行ライブラリー変更(CHGCURLIB)コマンドによってコマンドの処理中に現行ライブラリーが変更された場合には、その変更が有効となるのは、そのコマンドが処理されるまでです。現行ライブラリーにQTEMPを指定することはできません。

実行ライブラリー (PRDLIB)

コマンドの処理時に有効にするプロダクト・ライブラリーを指定します。

注: コマンドまたはメニューのプロダクト・ライブラリーは、コマンドまたはメニューが活動状態の間、別のコマンドまたはメニューでそのプロダクト・ライブラリーが変更されない限り、ライブラリー・リスト内に残されます。プロダクト・ライブラリーを変更したコマンドまたはメニューが終了すると、プロダクト・ライブラリーはそのコマンドまたはメニューを開始した時のものに復元されます。

***NOCHG**

コマンドの処理が開始される時点ではプロダクト・ライブラリーは変更されません。コマンドの処理中にプロダクト・ライブラリーが変更された場合には、その変更は、そのコマンド処理が完了した後も有効となります。

***NONE**

ジョブのライブラリー・リストにはプロダクト・ライブラリーがありません。プロダクト・ライブラリーはそのコマンド処理が完了した時にその前の値に復元されます。

名前 コマンドの処理時にプロダクト・ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。コマンドの作成時にはライブラリーの存在は必要ありませんが、コマンドの処理時には存在しなければなりません。コマンド処理が完了すると、プロダクト・ライブラリーがその前の値に復元されます。プロダクト・ライブラリーにQTEMP を指定することはできません。

トップ

プロンプト一時変更プログラム (PMTOVRPGM)

省略時の値をパラメーターに指定された現行の実際の値で（プロンプト画面で）置き換えるプロンプト一時変更プログラム(POP)の名前およびライブラリーを指定します。POPを指定した場合には、（コマンド定義ソース中のPARMステートメントでKEYPARM(*YES)として指定された）キー・パラメーターが初期プロンプト画面で見ることのできる唯一のパラメーターになります。値がキー・パラメーターに対する入力である時には、残りのパラメーターは省略時の値ではなく実際の値で画面に表示されます。

***NONE**

プロンプト一時変更プログラムは指定されません。

注: コマンド定義ソース中にキー・パラメーターが存在している（すなわち、PARMステートメントでKEYPARM(*YES)を指定している）時に*NONEを指定した場合には、コマンドの作成時に警告メッセージが出され、すべてのパラメーターについてKEYPARM(*NO)と見なされます。

名前 コマンドのプロンプト一時変更プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プロンプト一時変更プログラムを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プロンプト一時変更プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を変更した場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

コマンドの置き換え (REPLACE)

作成されるコマンドと同じ名前、同じライブラリーにある既存のコマンド・オブジェクトを置き換えるかどうかを指定します。

*YESを指定した場合、同じ名前のコマンド・オブジェクトが同じライブラリーにすでに存在していると、既存のコマンドは名前変更されてライブラリーQRPLOBJに移動され、次回にオペレーティング・システムのIPLが行われると削除されます。

- *YES** 作成の命令が正常に実行された場合には、既存のコマンドは同じコマンドの新しいバージョンで置き換えられます。
- *NO** 既存のコマンドは置き換えられないで、既存のコマンドと同じ名前、タイプ、およびライブラリーの新しいコマンドを作成することはできません。

トップ

GUI使用可能 (ENBGUI)

コマンド・プロンプト・パネルを図形ユーザー・インターフェースへの変換に使用できるかどうかを指定します。

- *NO** コマンド・プロンプト・パネルは、図形ユーザー・インターフェースへの変換には使用できなくなります。
- *YES** パネルの内容に関する情報を5250データ・ストリームに組み込むことによって、コマンド・プロンプト・パネルを図形ユーザー・インターフェースへの変換に使用できるようになります。

トップ

例

```
CRTCMD  CMD(PAYROLL) PGM(PAY076) SRCFILE(PAYSOURCE)
        AUT(*EXCLUDE)
```

PAYROLLという名前のコマンドはソース・ファイルPAYSOURCEから作成されます。このコマンドは専用であり、PAY076という名前のコマンド処理プログラム(CPP)を呼び出します。バッチ入力ストリームに入力された場合、制御言語プログラムでコンパイルされた場合、対話式に入力された場合、またはQCMDEXECプログラムに渡された場合は、これは有効なコマンドです。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0201

コマンド&2はライブラリー&3に作成されなかった。

CPF0210

印刷装置ファイルをオープンすることができない。

CPF0212

ソース・ファイルをオープンすることができない。

トップ

サービス・クラス記述作成 (CRTCOSD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・クラス記述作成(CRTCOSD)コマンドは、サービス・クラス記述を作成します。サービス・クラス記述は、拡張プログラム間通信機能(APPC)または拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)に組み込むことができるノードおよび伝送グループを決定します。サービス・クラスの詳細については、[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERにあるAPPNサポート情報およびAS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
COSD	サービス・クラス記述	通信名	必須, 定位置 1
TMSPTY	送信優先順位	*LOW, * <u>MED</u> , *HIGH	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
ROWILINE	回線の1行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>30</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, <u>4M</u> , 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>0</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>255</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>0</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>255</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>0</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>255</u>		
ROWINODE	ノードの1行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>5</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>0</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>31</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	*LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	*LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	注
ROW2LINE	回線の2行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>60</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000 , 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>0</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>255</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>0</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>255</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>0</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>255</u>		
ROW2NODE	ノードの2行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>10</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>0</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>63</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	*LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	*LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	注
ROW3LINE	回線の3行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>90</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200 , 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>0</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>255</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>0</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>255</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>0</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>255</u>		
ROW3NODE	ノードの3行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>20</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>0</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>95</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	*LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	*LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	注
ROW4LINE	回線の4行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>120</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600 , 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>0</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>255</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>0</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>255</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>0</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>255</u>		
ROW4NODE	ノードの4行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>40</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>0</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>127</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	*LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	*LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	注
ROWSLINE	回線の5行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>150</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200 , 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>0</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>255</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>0</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>255</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>0</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>255</u>		
ROWSNODE	ノードの5行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>80</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>0</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>159</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	*LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	*LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	注
ROW6LINE	回線の6行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>180</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600 , 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>128</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>128</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>0</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>255</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>0</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>255</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>0</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>255</u>		
ROW6NODE	ノードの6行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>100</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>0</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>191</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	*LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	*LOW, *HIGH	

キーワード	記述	選択項目	注
ROW7LINE	回線の7行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, 210	
	要素 2: 最小リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800 , 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 3: 最大リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, 0	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, 196	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, 0	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, 196	
	要素 8: 回線用最小機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 9: 回線用最大機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
	要素 10: 最小伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 11: 最大伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, 0	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, 255	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, 0	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, 255	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, 0	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, 255		
ROW7NODE	ノードの7行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, 120	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, 0	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, 223	
	要素 4: ノードの最小渋滞	*LOW, *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	*HIGH, *LOW	

キーワード	記述	選択項目	注
ROW8LINE	回線の8行目	要素リスト	オプション
	要素 1: 回線行の重み	0-255, <u>240</u>	
	要素 2: 最小リンク速度	* <u>MIN</u> , 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, * <u>MAX</u>	
	要素 3: 最大リンク速度	* <u>MIN</u> , 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, * <u>MAX</u>	
	要素 4: 最低コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 5: 最高コスト/接続時間	0-255, <u>255</u>	
	要素 6: 最低コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 7: 最高コスト/バイト	0-255, <u>255</u>	
	要素 8: 回線用最小機密保護	* <u>NONSECURE</u> , *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, * <u>SECURECND</u> , *GUARDCND, *ENCRYPTED, * <u>MAX</u>	
	要素 9: 回線用最大機密保護	* <u>NONSECURE</u> , *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, * <u>SECURECND</u> , *GUARDCND, *ENCRYPTED, * <u>MAX</u>	
	要素 10: 最小伝搬遅延	* <u>MIN</u> , *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, * <u>MAX</u>	
	要素 11: 最大伝搬遅延	* <u>MIN</u> , *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, * <u>MAX</u>	
	要素 12: 最小ユーザー定義1	0-255, <u>0</u>	
	要素 13: 最大ユーザー定義1	0-255, <u>255</u>	
	要素 14: 最小ユーザー定義2	0-255, <u>0</u>	
	要素 15: 最大ユーザー定義2	0-255, <u>255</u>	
	要素 16: 最小ユーザー定義3	0-255, <u>0</u>	
要素 17: 最大ユーザー定義3	0-255, <u>255</u>		
ROW8NODE	ノードの8行目	要素リスト	オプション
	要素 1: ノード行の重み	0-255, <u>150</u>	
	要素 2: 最小経路追加抵抗	0-255, <u>0</u>	
	要素 3: 最大経路追加抵抗	0-255, <u>255</u>	
	要素 4: ノードの最小渋滞	* <u>LOW</u> , *HIGH	
	要素 5: ノードの最大渋滞	* <u>HIGH</u> , *LOW	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, * <u>BLANK</u>	オプション
AUT	権限	名前, * <u>CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

サービス・クラス記述 (COSD)

サービス・クラス記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

この名前の桁数は1から8桁です。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

送信優先順位 (TMSPTY)

このサービス・クラス記述の送信優先順位を指定します。

***LOW** このサービス・クラス記述には、最低の送信優先順位が使用されます。

***MED** このサービス・クラス記述には、中位の送信優先順位が使用されます。

***HIGH**

このサービス・クラス記述には、最高の送信優先順位が使用されます。

[トップ](#)

回線の1行目 (ROW1LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPN ネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

[トップ](#)

ノードの1行目 (ROW1NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

[トップ](#)

回線の2行目 (ROW2LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)

- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

[トップ](#)

ノードの2行目 (ROW2NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

[トップ](#)

回線の3行目 (ROW3LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPN ネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE（機密保護なし）
- *PKTSWTNET（パケット交換網）
- *UNDGRDCBL（地下ケーブル）

- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

[トップ](#)

ノードの3行目 (ROW3NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

[トップ](#)

回線の4行目 (ROW4LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

[トップ](#)

ノードの4行目 (ROW4NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

[トップ](#)

回線の5行目 (ROW5LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)

- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

[トップ](#)

ノードの5行目 (ROW5NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

[トップ](#)

回線の6行目 (ROW6LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPN ネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

トップ

ノードの6行目 (ROW6NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

[トップ](#)

回線の7行目 (ROW7LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

トップ

ノードの7行目 (ROW7NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPNネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW (低負荷過剰レベル) または*HIGH (高負荷過剰レベル) です。

トップ

回線の8行目 (ROW8LINE)

サービス・クラス記述の1から8行目に使用される回線に関する基準のリストを指定します。各行は、APPNネットワークにおける2つのノード間の回線接続の属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

行の重み係数

回線接続のためのこの行の相対的な重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましい回線接続に低位の重みを割り当てます。

最小リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最小リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最大リンク速度

この回線行基準によって受け入れられる回線接続のための最大リンク速度を指定します。有効な値は、*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M,または*MAX BPSです。

最少コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／接続時間

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／接続時間を指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最少コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最少相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最高コスト／バイト

この回線行基準によって受け入れられる最高相対コスト／バイトを指定します。有効なコストの範囲は0から255です。0は低コストを意味し、255は高コストを意味します。

最小機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最小機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)
- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最大機密保護

この回線行基準によって受け入れられる最大機密保護レベルを指定します。有効な値は最小保護から最大保護の順になっています。

- *NONSECURE (機密保護なし)
- *PKTSWTNET (パケット交換網)
- *UNDGRDCBL (地下ケーブル)

- *SECURECND (保護配管)
- *GUARDCND (防護配管)
- *ENCRYPTED (暗号化回線)
- *MAX (物理的および電磁波の傍受から保護された配管)

最小伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最小伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

最大伝搬遅延

この回線行基準によって受け入れられる最大伝搬遅延を指定します。有効な値は最小遅延から最大遅延の順になっています。

- *MIN (最小伝搬遅延)
- *LAN (ローカル・エリア・ネットワークを使用した伝搬遅延)
- *TELEPHONE (電話回線を使用した伝搬遅延)
- *PKTSWTNET (パケット交換網を使用した伝搬遅延)
- *SATELLITE (衛星通信を使用した伝搬遅延)
- *MAX (最大伝搬遅延)

ユーザー定義のフィールド

ユーザー自身の回線接続基準を3つのユーザー定義のフィールドを使用して指定してください (各フィールドに最小および最大の範囲を指定して)。有効な値は0から255 です。

[トップ](#)

ノードの8行目 (ROW8NODE)

サービス・クラス記述の1から8行に使用されるノードに関する基準のリストを指定します。この行はAPPN ネットワークのノードの属性を記述します。ネットワーク経路指定パスを定義するために、1から8行目の順序で行が検査されます。このリストは次の各要素ごとに値を表示します。

ノード重み係数

ノードに対するこの行の相対的重みを指定します。重みの範囲は0から255です。より好ましいノードに低位の重みを割り当てます。

経路追加負荷係数最小値

このノード行基準によって受け入れられる最小経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

経路追加負荷係数最大値

このノード行基準によって受け入れられる最大経路追加負荷係数を指定します。有効な値の範囲は0から255です。0は低負荷係数を意味し、255は高負荷係数を意味します。

負荷過剰最小値

このノード基準によって受け入れられる最小負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

負荷過剰最大値

このノード基準によって受け入れられる最大負荷過剰レベルを指定します。有効な値は*LOW（低負荷過剰レベル）または*HIGH（高負荷過剰レベル）です。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。
*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載

っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

例

```
CRTCOSD  COSD(COSD1)
          ROWILINE(15 9600 19200 20 30
                   50 75 *SECURECND *GUARDCND
                   *PKTSWTNET *SATELLITE 100 200 50 100 25 50)
          TEXT('CUSTOMIZED ROWILINE')
```

このコマンドはCOSD1を作成します。ROWILINEにはすべての値が指定され、他のすべての行には省略時の値が受け入れられます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26CB

サービス・クラス記述&1がエラーのために作成されなかった。

CPF2610

パラメーターが正しくない。

CPF2660

サービス・クラス記述&1はすでに存在している。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

[トップ](#)

クラスター資源グループの作成 (CRTCRG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター資源グループ作成(CRTCRG)コマンドは、クラスター資源グループ・オブジェクトを作成します。クラスター資源グループは、弾力的な資源のコレクションの制御オブジェクトとしての役割を果たします。これは、回復で役割を果たすクラスター内の1セットのノードである回復ドメインを識別します。資源固有の処理を実行するために呼び出される出口プログラムなどの、クラスター資源グループの追加特性。出口プログラムがクラスター資源グループ用に指定されている場合は、そのクラスター資源グループ出口プログラムは、各グループが回復ドメイン内の各ノードで作成された後で、アクション・コード「初期化」を使用して呼び出されます。このコマンドが正常に完了すると、新規のジョブがQSYSWRKサブシステムで開始される結果になります。このジョブは、作成しているクラスター資源グループの名前と同じ名前になります。

クラスター資源グループの属性を変更するには、クラスター資源グループ変更(CHGCRG)コマンドを使用してください。

このコマンドは次のことを行います。

- 回復ドメイン内のすべてのノードでクラスター資源グループ・オブジェクトを作成します。クラスター資源グループは、クラスター内の任意のノード上でクラスター資源グループ・コマンドを実行してアクセスすることができます。
- クラスター資源グループ・オブジェクトの単一システム・イメージをユーザーに提供します。すなわち、クラスター資源グループに対して行った変更は、回復ドメイン中のすべてのノードでも行われます。
- 出口プログラムがクラスター資源グループ用に指定されている場合は、そのクラスター資源グループ出口プログラムは、クラスター資源グループが回復ドメイン内の各ノードで作成された後で、アクション・コード「初期化」を使用して呼び出されます。クラスター資源グループの状況は「初期化保留」に設定されます。出口プログラムが失敗した場合は、クラスター資源グループ・オブジェクトは回復ドメイン内のすべてのノードから削除されます。
- 出口プログラムが成功すると、クラスター資源グループの状況は「非活動状態」に設定されます。クラスター資源グループの状況を「活動状態」に変更するには、クラスター資源グループ開始(STRCRG)コマンドを使用してください。
- 出口プログラムを呼び出した後、このコマンドは、情報配布(QCSTDISTRIBUTEINFORMATION) APIで使用される待ち行列が指定された場合は、それが存在すること(CRGMSGUSRQパラメーター) をチェックします。分散情報ユーザー待ち行列は、ポインター可能メッセージを使用不可にして作成しなければなりません。これは、メッセージの内容にポインターが許可されないことを意味します。
- 出口プログラムを呼び出した後、このコマンドは、フェイルオーバー・メッセージ待ち行列およびライブラリーが指定された場合は、それがすべての回復ドメイン・ノード上に存在することをチェックします。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
2. このコマンドは、クラスター資源グループの出口プログラムから呼び出すことはできません。
3. クラスター資源グループ名はQCSTで始めることはできません。

4. クラスター資源サービスは、要求を処理中のノードで活動状態になっていなければなりません。
5. 回復ドメイン内の全ノードが状況が「活動状態」のクラスター内になければなりません。
6. クラスター資源グループ出口プログラムは、出口プログラムが指定されている場合は、回復ドメイン内の全ノードに存在していなければなりません。これには同じ名前が必要であり、各ノードで同じライブラリーに入っていなければなりません。
7. 各ノードは回復ドメイン内で一度しか指定することができません。
8. クラスター資源グループ名は、クラスター内の任意のノード上に既存のクラスター資源グループにより使用することはできません。
9. アプリケーション・クラスター資源グループの場合は、以下の制約事項が指定される引き継ぎIPアドレスに適用されます。
 - a. クラスター資源サービスが引き継ぎIPアドレスを構成する場合は、回復ドメイン内の全ノードは同じサブネット（ネットワーク・アドレス）および回復ドメイン内の全ノードで定義されたサブネット内になければなりません。
 - b. 引き継ぎIPアドレスは固有でなければなりません。引き継ぎIPアドレスがクラスター資源サービスの責任で構成される場合は、それは回復ドメイン内の各ノードに追加されます。
 - c. 引き継ぎIPアドレスは、回復ドメイン内のノードのどれかで活動状態になってはなりません。
10. 装置クラスター資源グループの場合は、次の通りです。
 - a. サポートされるのは補助記憶域プールだけです。
 - b. 回復ドメイン内の全ノードは同じ装置ドメインに属していなければなりません。
 - c. クラスター資源グループに指定された装置の装置記述などの構成オブジェクトは、回復ドメイン内の全ノードに存在していなければならず、構成オブジェクト中に指定された資源名は回復ドメイン内の全ノードで同じでなければなりません。
 - d. サイト名を指定した場合は、データ・ポートIPアドレスも指定しなければなりません。この逆も適用されるので、データ・ポートIPアドレスが指定された場合は、サイト名も指定しなければなりません。
 - e. データベースが構成オブジェクトに指定されていた場合は、それは回復ドメイン内のすべてのノードで同じでなければなりません。
 - f. サーバー引き継ぎIPアドレスは固有でなければなりません。1次補助記憶域プールと関連付けることができるのは1つだけです。
 - g. 同じ構成オブジェクトを複数のクラスター資源グループに指定することはできません。
 - h. 同一の入出力プロセッサ（IOP）または高速リンク入出力ブリッジに接続された装置は、ただ1つのクラスター資源グループにしか指定することができません。
 - i. 異なるIOPまたは高速リンク入出力ブリッジに接続された装置が補助記憶域プールなどにグループ分けされている場合は、影響を受けたIOPまたは高速リンク入出力ブリッジの全装置が同一のクラスター資源グループ内で指定されていなければなりません。
 - j. クラスター資源グループ内に指定された装置を制御しているIOPまたは高速リンク入出力ブリッジは、クラスター資源グループの回復ドメイン内の全ノードによりアクセス可能でなければなりません。全ノードが新規ハードウェアを認識するように、十分なハードウェア構成が実行された場合は、これが検査されます。ハードウェア構成が不完全である場合は、クラスター資源グループ開始（STRCRG）コマンドの呼び出し時に、これが検査されます。
 - k. 構成オブジェクトが指定されていて、1次ノードが現在その装置を所有していない場合は、このコマンドはエラー・メッセージにより失敗します。

- l. クラスター資源グループは装置項目なしで作成することができます。装置項目は、クラスター資源グループが開始される前に、クラスター資源グループ装置項目追加(ADDCRGDEVE)コマンドを使用して追加しなければなりません。
- m. クラスター資源グループに補助記憶域プールのメンバーが含まれている場合は、クラスター資源グループを開始する前に、これに**すべての**メンバーが含まれていなければなりません。クラスター資源グループを作成する時には、すべてのメンバーを指定する必要はありません。追加のメンバーは、クラスター資源グループ装置項目追加(ADDCRGDEVE)コマンドを使用して追加することができます。補助記憶域プール・グループが存在していて、クラスタリングでグループ中のメンバーを判別できる場合は、特定のメンバーが指定されなかった場合には、警告メッセージが送信されません。
- n. 指定された構成オブジェクトがリモートの独立補助記憶域プールのミラーリング用の場合には、回復ドメイン中の各ノードは、1つのサイト名と、最大4個のデータ・ポートIPアドレスをもつことができます。ノード間では、存在できるサイト名は多くても2個です。サイト名を指定した場合は、少なくとも1つのデータ・ポートIPアドレスを指定しなければなりません。この逆も真となります。1つまたは複数のデータ・ポートIPアドレスが指定された場合は、サイト名も指定しなければなりません。
- o. CPFBB5Fメッセージが受け取られた場合には、サイト名フィールドを指定するときには、クラスターのバージョンが4であり、3でないことを確認してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
CRG	クラスター資源グループ	名前	必須, 定位置 2
CRGTYPE	クラスター資源グループ・タイプ	*DATA, *APP, *DEV, *PEER	必須, 定位置 3
EXITPGM	CRG出口プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 4
	修飾子 1: CRG出口プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
USRPRF	ユーザー・プロファイル	単純名, *NONE	必須, 定位置 5
RCYDMN	回復ドメイン・ノード・リスト	値 (最大 128 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 6
	要素 1: ノードID	名前	
	要素 2: ノードの役割	*CRGTYPE, *PRIMARY, *BACKUP, *REPLICATE, *PEER	
	要素 3: バックアップ順序番号	整数, *LAST	
	要素 4: サイト名	名前, *NONE	
	要素 5: データ・ポートIPアドレス	単一値: *NONE その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	
TKVINTNETA	引き継ぎIPアドレス	文字値	オプション, 定位置 7
EXITPGMFMT	出口プログラムの形式名	<u>EXTP0100</u> , EXTP0200	オプション
EXITPGMDTA	出口プログラム・データ	文字値, *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CRGMSGUSRQ	配布情報ユーザー待ち行列	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 配布情報ユーザー待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
CFGINTNETA	引き継ぎIPアドレスの構成	単一値: <u>*CRS</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 責任	<u>*USR</u>	
	要素 2: 活動状態IPアドレスの許可	<u>*NO</u> , *YES	
JOB	ジョブ	名前, <u>*JOBID</u>	オプション
ALWRESTART	アプリケーション再始動の許可	<u>*NO</u> , *YES	オプション
NBRRESTART	アプリケーション再始動数	0-3, <u>*NONE</u>	オプション
CFGOBJ	構成オブジェクト・リスト	値 (最大 256 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 構成オブジェクト	名前, <u>*NONE</u>	
	要素 2: 構成オブジェクト・タイプ	<u>*DEV</u>	
	要素 3: 構成オブジェクト・オンライン	<u>*OFFLINE</u> , *ONLINE, *PRIMARY	
	要素 4: サーバー引き継ぎIPアドレス	文字値, <u>*NONE</u>	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
FLVMSGQ	フェールオーバー・メッセージ待ち行列	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: フェールオーバー・メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
FLVWAITTIM	フェールオーバー待ち時間	整数, <u>*NOWAIT</u> , *NOMAX	オプション
FLVDFTACN	フェールオーバー省略時処置	<u>*PROCEED</u> , *CANCEL	オプション
APPID	適用業務識別コード	文字値, <u>*NONE</u>	オプション

トップ

クラスター (CLUSTER)

作成されるクラスター資源グループが含まれているクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスターの名前を指定してください。

トップ

クラスター資源グループ (CRG)

作成するクラスター資源グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスタ資源グループの名前を指定してください。

トップ

クラスタ資源グループ・タイプ (CRGTYPE)

作成するクラスタ資源グループのタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*DATA

クラスタ資源グループはデータ・クラスタ資源グループです。

***APP** クラスタ資源グループはアプリケーション・クラスタ資源グループです。

***DEV** クラスタ資源グループは装置クラスタ資源グループです。

*PEER

クラスタ資源グループは、ピア・クラスタ資源グループです。

トップ

CRG出口プログラム (EXITPGM)

クラスタ資源グループでの操作のために、渡されるアクション・コードの処理に使用される出口プログラムを指定します。この出口プログラムは独立補助記憶域プールに入れることはできません。アクション・コードは、API解説(英文)のクラスタ資源グループの出口プログラムについての項に説明されています。

これは必須パラメーターです。

単一値

*NONE

クラスタ資源グループには出口プログラムがありません。これが有効なのは、装置クラスタ資源グループの場合だけです。

修飾子1: CRG出口プログラム

名前 出口プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 出口プログラムが存在しているライブラリーの名前を指定してください。QTEMPは有効なライブラリー名ではありません。

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

出口プログラムを実行する時の元になるユーザー・プロファイルを指定します。ユーザー・プロファイルは、回復ドメイン内の全ノードに存在していなければなりません。

出口プログラムが指定されていない場合は、このパラメーターの値は*NONEでなければなりません。

以下のユーザー・プロファイルは無効です。

- QDBSHR
- QDOC
- QDTFOWN
- QRJE
- QLPAUTO
- QLPINSTALL
- QSECOFR
- QSPL
- QSYS
- QTSTRQS

これは必須パラメーターです。

*NONE

出口プログラムがないので、ユーザー・プロファイルは不要です。

単純名 出口プログラムを実行するために使用するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

回復ドメイン・ノード・リスト (RCYDMN)

回復ドメインを構成するノードのリストを指定します。役割は回復ドメイン内のノードごとに定義されていなければなりません。回復ドメイン内のノードは固有でなければなりません。

回復ドメインには、最大128個のノードを指定することができます。

これは必須パラメーターです。

要素1: ノードID

このクラスター資源グループによって表現される弾力的な資源の回復に関与する活動状態のクラスター・ノードを指定します。

名前 そのノードを一意的に識別するシステムの名前を指定してください。

要素2: ノードの役割

クラスター資源グループの回復ドメイン内のノードの役割を指定してください。1次バックアップ・モデルのクラスター資源グループの場合、ノードは「1次」、「バックアップ」、「複製」という3つの役割のうち

の1つを持ちます。1次として指定できるノードは1つだけです。ピア・モデルのクラスター資源グループの場合、ノードは「ピア」、「複製」という2つの役割のうちの1つを持ちます。ノードをいくつでもピアまたは複製として指定することができます。

***CRGTYPE**

ノードの役割は、クラスター資源グループのタイプに基づいて設定されます。クラスター資源グループのタイプが*PEERである場合には、ノードの省略時の役割は*PEERとなります。その他のタイプのクラスター資源グループの場合、省略時値は*BACKUPとなります。

***PRIMARY**

ノードは1次ノードとして設定されます。回復ドメイン内の1つのノードが*PRIMARYの役割をもっていなければなりません。このノードは、クラスター資源の活動アクセス・ポイントとなることができます。

***BACKUP**

ノードはバックアップ・ノードとして設定されます。ノードは、クラスター資源のアクセス・ポイントとして引き継ぎます。

***REPLICATE**

新規ノードを複製として追加します。役割をクラスター資源グループ・タイプに正しい値に変更しない限り、複製ノードは順序付けられず、アクセス・ポイントとなることはできません。

***PEER**

新規ノードはピアとして追加されます。ピア・ノードは順序付けられません。このノードは、クラスター資源の活動アクセス・ポイントとなることができます。

要素3: バックアップ順序番号

*BACKUPの役割をもつノードのバックアップ順序を指定します。要求の完了時に、バックアップの役割をもつノードは、その最初のバックアップから最後まで番号が順次再番号付けされます。最初のバックアップは常に1でなければなりません。

***LAST**

ノードは回復ドメイン内の最終バックアップとして追加されます。*LASTが複数のノードに指定された場合には、*LASTが最初に指定されたノードが最後のバックアップ・ノードとなり、2番目に指定されたノードは最後から2番目のバックアップ・ノードなど、となります。

整数 バックアップ・順序実行を指定してください。

要素4: サイト名

回復ドメイン・ノードのサイト名を指定します。これが有効となるのは、バージョン4のクラスターであり、装置クラスター資源グループ（特に、地理的ミラーリング）の場合だけです。サイトには、同じ物理位置に回復ドメイン・ノードのサブセットが含まれています。サイトのすべてのノードは補助記憶域プールの同じコピーへのアクセスをもっています。その装置に対するアクセスが必要となるのは、サイト名をもつノードだけです。

***NONE**

回復ドメイン・ノードはサイト名をもっていません。

名前 回復ドメイン・ノードのサイト名を指定します。

要素5: データ・ポートIPアドレス

回復ドメイン・ノードのデータ・ポートIPアドレスを指定します。これが有効となるのは、装置クラスター資源グループ（特に、地理的ミラーリング）の、バージョン4以降のクラスター内だけです。データ・ポー

トIPアドレスを使用して、補助記憶域プールの生産コピーを所有するソース・ノードから、補助記憶域プールのミラー・コピーを所有するターゲット・ノードに更新を送信します。データ・ポートIPアドレスを構成して、開始/終了するのは、ユーザーの責任です。データ・ポートIPアドレスは、指定されたノードにすでに存在していなければなりません。これはドット10進形式で表現されていなければなりません。

単一値

*NONE

回復ドメイン・ノードはデータ・ポートIPアドレスを持っていません。

その他の値 (最大4個指定可能)

文字値 回復ドメイン・ノードのデータ・ポートIPアドレスを指定します。

[トップ](#)

引き継ぎIPアドレス (TKVINTNETA)

アプリケーションと関連付けられるインターネット・インターフェース・アドレスを指定します。これは、システム間で切り替えられる引き継ぎIPアドレスです。このフィールドはドット10進形式で表されていなければなりません。

注: クラスタ資源グループ・タイプ (CRGTYPE)パラメーターに*APPを指定した場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。

文字値 アプリケーション・クラスタ資源グループの引き継ぎIPアドレスを指定してください。

[トップ](#)

出口プログラムの形式名 (EXITPGMFMT)

CRG出口プログラムを呼び出す時に、ユーザーに渡される情報で使用する必要がある形式を指定します。

EXTP0100

EXTP0100形式に定義された出口プログラム情報がユーザーに渡されます。

EXTP0200

EXTP0200形式に定義された出口プログラム情報がユーザーに渡されます。各ノードのサイト名やデータ・ポートIPアドレスなどの追加情報が出口プログラムに渡されます。ピア・クラスタ資源グループの場合、この形式は使用できません。

[トップ](#)

出口プログラム・データ (EXITPGMDTA)

クラスタ資源グループ出口プログラムの呼び出し時にその出口プログラムに渡される最大256バイトのデータを指定します。このパラメーターには、ポインタを除く任意のスカラー・データを入れることができます。たとえば、状態情報を提供するために使用することができます。このデータは指定されたクラスタ資源グループとともに保管され、回復ドメイン内の全ノードにコピーされます。このエリア内のポインタは全ノードで正しく解決されないため、データに入れる必要はありません。

*NONE

出口プログラム・データはありません。

文字 クラスタ資源グループ出口プログラムに渡される最大256バイトのデータを指定してください。

トップ

配布情報ユーザー待ち行列 (CRGMSGUSRQ)

情報配布(QCSTDISTRIBUTEINFORMATION) APIからの配布情報を受け取るユーザー待ち行列を指定します。ユーザーが、情報配布(QCSTDISTRIBUTEINFORMATION) APIを使用してこのクラスタ資源グループによってクラスタ全体の情報を配布したい場合は、このパラメーターは*NONE以外の値に設定されていなければなりません。このフィールドを設定する場合は、指定されたユーザー待ち行列は、出口プログラムの完了後に、回復ドメイン内の全ノードで存在していなければなりません。クラスタ資源グループが作成されてからこのフィールドの値を変更するただ1つの方法は、そのクラスタ資源グループを削除して再作成することです。

単一値

*NONE

QCSTDISTRIBUTEINFORMATION (QCSTDISTRIBUTEINFORMATION) APIは、このクラスタ資源グループによる情報の配布には使用されません。

修飾子1: 配布情報ユーザー待ち行列

名前 分散情報を受け取るユーザー待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 分散情報を受け取るユーザー待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。ライブラリー名をQTEMPにすることはできません。

トップ

引き継ぎIPアドレスの構成 (CFGINTNETA)

引き継ぎIPアドレスを誰の責任で構成（追加および除去）するかを指定します。これは引き継ぎIPアドレスの開始と終了には影響を及ぼさず、クラスタ資源サービスがこの機能を実行します。

単一値

*CRS 引き継ぎIPアドレスはクラスタ資源サービスの責任で構成されます。この引き継ぎIPアドレスが、クラスタ資源グループの作成前に、回復ドメイン内のノードのいずれかに存在してはなりません。クラスタ資源グループが削除されると、この引き継ぎIPアドレスは除去されます。

要素1: 責任

*USR 引き継ぎIPアドレスはユーザーの責任で構成されます。この引き継ぎIPアドレスが、クラスタ資源グループの開始前に、複製を除く回復ドメイン内の全ノードに追加されていなければなりません。別のサブネット内に回復ドメインがあるアプリケーション・クラスタ資源グループの引き継ぎIPアドレスの構成について詳しくは、ISERIES INFORMATION CENTERのクラスタ化トピックの項の「構成」を表示してください。このINFORMATION CENTERには、ISERIES

INFORMATION CENTERのCD-ROMまたはISERIES INFORMATION CENTER
(HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)を参照からアクセスできます。

要素2: 活動状態IPアドレスの許可

アプリケーション・クラスター資源グループを開始するときに、引き継ぎIPアドレスが活動状態となるかどうかを指定します。

***NO** CRGを開始するときに、引き継ぎIPアドレスを前もって活動状態にすることはできません。

***YES** CRGを開始するときに、引き継ぎIPアドレスを前もって活動状態にすることができます。

トップ

ジョブ (JOB)

クラスター資源グループにより投入されるバッチ・ジョブに付ける名前を指定します。このジョブは、使用されるコマンドにより生成されたアクション・コードを使用してクラスター資源グループ出口プログラムを呼び出します。このフィールドがブランクの場合は、ジョブ名は、出口プログラムの実行のために指定されたユーザー・プロファイルにあるジョブ記述中の値となります。

***JOB**

指定されるユーザー・プロファイルのジョブ記述中のジョブ名が使用されます。

名前 出口プログラムを実行するために投入されるバッチ・ジョブに付ける名前を指定してください。

トップ

アプリケーション再始動の許可 (ALWRESTART)

クラスター資源グループ出口プログラムが失敗すると、アプリケーションを再始動するかどうかを指定します。

***NO** アプリケーションを再始動しようとしません。クラスター資源グループ出口プログラムは、アクション・コード「フェイルオーバー」を使用して呼び出されます。

***YES** 同一ノードでアプリケーションを再始動しようとしています。クラスター資源グループ出口プログラムは、アクション・コード「再始動」を使用して呼び出されます。アプリケーションが指定された最大試行回数の範囲内で再始動できない場合は、クラスター資源グループ出口プログラムが、アクション・コード「フェイルオーバー」を使用して呼び出されます。

トップ

アプリケーション再始動数 (NBRRESTART)

障害が起こる前に、クラスター資源グループ出口プログラムを同一ノードで呼び出すことができる回数を指定します。最大試行回数は3です。クラスター資源グループが現在は活動状態であると、フェイルオーバーが行われるか、あるいはクラスター資源グループ出口プログラム・ジョブが終了するまで、どの変更も有効にはなりません。

***NONE**

フェイルオーバーが開始される前の再始動の試行はありません。

0から3 フェイルオーバーを実行する前に、再始動を試行する回数を指定してください。

トップ

構成オブジェクト・リスト (CFGOBJ)

クラスター資源グループに追加する弾力的な装置に関する詳細情報を指定します。

このパラメーターには、256個までの装置を指定することができます。

要素1: 構成オブジェクト

回復ドメイン内のノード間で切り替えできる補助記憶域プールの装置記述オブジェクトの名前。補助記憶域プールの装置記述は、1つのクラスター資源グループ中にのみ指定することができます。

***NONE**

このクラスター資源グループ用に定義された構成はありません。

名前 構成オブジェクトの名前を指定してください。

要素2: 構成オブジェクト・タイプ

構成オブジェクト名とともに指定される構成オブジェクトのタイプを指定します。

***DEV**

タイプ装置記述の構成オブジェクト。

要素3: 構成オブジェクト・オンライン

クラスター資源グループがバックアップ・ノードに切り替えられる時あるいは失敗した時に、バックアップ・ノードで行われる構成処置の内容を指定します。構成オブジェクトをオンに変更して、サーバー引き継ぎIPアドレスを開始するか、あるいはその装置の所有権が別のノードに移動された時に構成オブジェクトをオフのままにして、サーバー引き継ぎIPアドレスを非活動状態のままにします。この属性は、クラスター資源グループを開始または終了する時に、装置をオンまたはオフに切り替えません。

***OFFLINE**

構成オブジェクトをオンに変更しないで、サーバー引き継ぎIPアドレスを開始しません。

***ONLINE**

構成オブジェクトをオンに変更し、サーバー引き継ぎIPアドレスを開始します。

***PRIMARY**

これは2次ASPです。オンに変更処理は、このASPグループの対応している1次ASPにより判別されます。

要素4: サーバー引き継ぎIPアドレス

補助記憶域プール用の装置記述中のリレーショナル・データベースと関連付けられたサーバーの引き継ぎIPアドレスを指定します。この要素はオプションであり、1次補助記憶域プールにしか指定できません。指定する場合は、このアドレスはドット10進形式で表されていなければなりません。クラスター資源グループが活動状態である場合は、指定されたアドレスは回復ドメイン内の全ノードで存在していなければなりません。指定されていないか、あるいは2次またはUDFS補助記憶域プールの場合は、この要素は*NONEに設定されていなければなりません。

***NONE**

補助記憶域プール用の装置記述中のリレーショナル・データベースと関連付けられたサーバーの引き継ぎIPアドレスはありません。

文字値 リレーショナル・データベース名と関連したサーバーの引き継ぎIPアドレスを指定します。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

クラスター資源グループ・オブジェクトを簡単に説明するために使用されるテキストを指定します。

***BLANK**

クラスター資源グループを説明しているテキストはありません。

文字値 クラスター資源グループ・オブジェクトを説明するための50文字までのテキストを指定します。

トップ

フェイルオーバー・メッセージ待ち行列 (FLVMSGQ)

フェイルオーバーを取り扱っているメッセージ(CPABB01)を受け取るメッセージ待ち行列を指定します。ユーザーがフェイルオーバー実行前に通知を受け取りたい場合は、このパラメーターを*NONE以外の値に設定しなければなりません。このフィールドを設定する場合は、指定されたメッセージ待ち行列は、出口プログラムの完了後に、回復ドメイン内の全ノードで存在していなければなりません。このメッセージ待ち行列は独立補助記憶域プールに入れることはできません。

単一値

***NONE**

このクラスター資源グループのフェイルオーバーが起こってもメッセージを送信しません。

修飾子1: フェイルオーバー・メッセージ待ち行列

名前 フェイルオーバー・メッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 フェイルオーバー・メッセージを受け取るメッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。このライブラリー名は*CURLIB, QTEMP,または*LIBLとすることはできません。

トップ

フェイルオーバー待ち時間 (FLVWAITTIM)

フェイルオーバー・メッセージ待ち行列に入れられたフェイルオーバー・メッセージへの応答を待つ分数を指定します。

***NOWAIT**

フェイルオーバーはユーザー介入なしで続行されます。V5R1M0以前のリリースと同じに動作します。

***NOMAX**

応答がフェイルオーバー照会メッセージに与えられるまで、無期限に待ちます。

整数 フェイルオーバー照会メッセージへの応答を待つ分数を指定してください。応答を指定された分数以内に受け取らないと、続行する方法を判断するために「フェイルオーバーの省略時の処置」フィールドが調べられます。

トップ

フェイルオーバー省略時処置 (FLVDFTACN)

フェイルオーバー・メッセージ待ち行列への応答をフェイルオーバー待機時間以内に受け取らない場合に取られる省略時の処置を指定します。

***PROCEED**

フェイルオーバーを続行します。

***CANCEL**

フェイルオーバーしようとしません。

トップ

適用業務識別コード (APPID)

アプリケーションIDを指定します。これは、クラスター資源グループの目的を識別します。

***NONE**

アプリケーションIDはありません。

名前 ピア・クラスター資源グループを提供したアプリケーションの名前を指定してください。名前は、最大20文字にすることができます。推奨される形式は「VENDOR-ID.NAME」です。VENDOR-IDは、クラスター資源グループを作成するベンダーのIDで、NAMEはアプリケーション名です。たとえば、QIBM.EXAMPLEPEERは、IBMがEXAMPLEPEER用に提供した名前であることを示します。クラスター資源グループがIBMによって提供されたものでない限り、QIBMを使用しないようにお勧めします。

トップ

例

例1: 2つのノードの回復ドメインをもつCRGの作成

```
CRTCRCG CLUSTER(MYCLUSTER) CRG(MYCRG) CRGTYPE(*DEV)
EXITPGM(TEST/EXITPGM) USRPRF(USER1)
RCYDMN((NODE01 *PRIMARY) (NODE02 *BACKUP *LAST))
CFGOBJL(*NONE) TEXT('IASP FOR APPLICATION 17')
```

このコマンドは、MYCLUSTERと呼ばれるクラスター中のMYCRGと呼ばれる装置クラスター資源グループを作成します。回復ドメインは2つのノードで構成されています。NODE01が1次であり、NODE02はバックアップ専用です。構成オブジェクトのリストはこのコマンド上には指定されません。この情報を追加するには、CRG装置項目追加(ADDCRGDEVE)コマンドを使用することができます。

例2: 単一ノードの回復ドメインをもつCRGの作成

```
CRTCRG CLUSTER(MYCLUSTER) CRG(MYCRG) CRGTYPE(*DEV)
EXITPGM(TEST/EXITPGM) USRPRF(USER1)
RCYDMN((NODE01 *PRIMARY *LAST MYSITE ('1.1.1.1'
                                         '2.2.2.2'))))
EXITPGMFMT(EXTP0200)
TEXT('IASP FOR APPLICATION 17')
```

このコマンドは、MYCLUSTERと呼ばれるクラスター中のMYCRGと呼ばれる装置クラスター資源グループを作成します。回復ドメインは1つのノードNODE01で構成されています。回復ドメインは、サイトMYSITEの1次ノードとしてNODE01を設定し、2つのデータ・ポートIPアドレスの1.1.1.1と2.2.2.2をもちます。

例3: 2つのノードからなる回復ドメインをもつピアCRGの作成

```
CRTCRG CLUSTER(MYCLUSTER) CRG(MYPEER) CRGTYPE(*PEER)
EXITPGM(TEST/EXITPGM) USRPRF(USER1)
RCYDMN((NODE01 *PEER) (NODE02 *PEER))
APPID(COMPANYNAME.EXPEER)
TEXT('PEER FOR EXAMPLEPEER APPLICATION')
```

このコマンドは、MYCLUSTERという名前のクラスターにMYPEERという名前のピア・クラスター資源グループを作成します。回復ドメインはNODE01とNODE02という2つのノードから構成されます。このクラスター資源グループは、EXAMPLEPEERという名前のIBM発送アプリケーション用です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

[トップ](#)

CRQ記述の作成 (CRTCRQD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

変更要求記述作成(CRTCRQD)コマンドは、変更要求記述を作成するために使用することができます。変更要求記述には、指定した変更を完了するために実行される活動のリストが入っています。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CRQD	要求記述の変更	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 要求記述の変更	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
USRPRF	ユーザー・プロファイル	<u>*SBM</u> , *OWNER	オプション
PRBID	問題識別コード	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
PRBORG	問題の起点	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク識別コード	通信名, <u>*NETATR</u>	
	要素 2: 制御点名	通信名, <u>*NETATR</u>	
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
AUT	権限	名前, <u>*EXCLUDE</u> , *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE	オプション

[トップ](#)

要求記述の変更 (CRQD)

作成する変更要求記述の名前およびライブラリーを指定します。

変更要求記述の名前は、次のライブラリーの値の1つによって修飾することができます。

*CURLIB

変更要求記述は、ジョブの現行ライブラリーに作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

変更要求記述が作成されるライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

変更要求記述名

作成する変更要求記述の名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

権限検査（この変更要求の実行時に行なわれる）が、変更要求記述を投入したユーザーを基準に行なわれるか、変更要求記述の所有者を基準に行なわれるかを指定します。変更要求を実行し変更要求で使用可能なオブジェクトを制御するためには、ユーザー・プロファイルが使用されます。

考えられる値は次の通りです。

***SBM** 変更要求の実行時に、投入元のユーザー・プロファイルが使用されます。

***OWNER**

変更要求の実行時に、変更要求記述所有者のユーザー・プロファイルが使用されます。

注: これは、プログラムの所有者とプログラムのユーザー・プロファイルが使用される、その所有者のプロファイルの下で実行されるプログラムとは違います。この値が指定された場合には、所有者のプロファイルだけが使用されます。

[トップ](#)

問題識別コード (PRBID)

この変更要求記述に対応する問題のIDを指定します。別の起点システムの問題が同じIDを持つことがあります。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

問題IDは指定されません。

問題ID

変更要求記述に対応する問題のIDを指定してください。問題IDが見つからない場合には、診断メッセージが出されます。

[トップ](#)

問題の起点 (PRBORG)

問題IDの起点システムを指定します。

使用できるネットワークIDの値は次の通りです。

***NETATR**

ネットワークIDは、このシステムのネットワーク属性で定義されたものと同じです。

ネットワークID

ネットワークIDを指定してください。

使用できる制御点名の値は次の通りです。

***NETATR**

制御点名は、このシステムのネットワーク属性で定義されたローカル制御点名と同じです。

制御点名

制御点名を指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトについて簡単に説明するテキストを指定します。このパラメーターの詳細はAS/400 CL（制御言語）解説書(SC88-5339)の付録Aにあります。

考えられる値は次の通りです。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 最大50文字をアポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

権限 (AUT)

オブジェクトに対する特定権限をもっていないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのユーザー・グループがオブジェクトに対する特定権限をもっていないユーザーに与えられる権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***EXCLUDE**

ユーザーはオブジェクトにアクセスすることはできません。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトの共通認可は、ターゲット・ライブラリー（オブジェクトを入れるライブラリー）のCRTAUTパラメーターの値から取られます。共通認可は、オブジェクトの作成時に決定されます。オブジェクトの作成後にライブラリーのCRTAUT値が変更された場合に、新しい値は既存のオブジェクトに影響を与えません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定された操作またはオブジェクト存在権限およびオブジェクト管理権限によって制御される操作以外のすべての操作をオブジェクトに対して実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。

注: *CHANGE権限を持つユーザーは、ユーザー・プロファイルの値(USRPRF)を変更することはできません。ユーザー・プロファイルの値を変更するためには、ユーザーが所有者であるか、あるいは*ALLOBJおよび*SECADM権限を持っていない必要があります。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される以外のすべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。ユーザーは、オブジェクトの所有権も変更することができます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を

実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

権限リスト名

その権限が使用される権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1:固有のライブラリーでの変更要求記述の作成

```
CRTCRQD CRQD(MYLIB/CHG001)
```

このコマンドは、名前CHG001とテキスト記述と共にMYLIBの変更要求記述を作成します。

例2:別の個人プロファイルで実行される変更要求記述の作成

```
CRTCRQD CRQD(CHG222) USRPRF(*SBM)
```

このコマンドは、投入するユーザー・プロファイルで実行するCHG222と呼ばれる変更要求記述を作成します。

例3:変更要求記述の作成およびそれとの問題の関連付け

```
CRTCRQD CRQD(CHG999) PRBID(1234567890) PRBORG(*NETATR STORE101)
```

このコマンドは、問題ID 1234567890と関連したCHG999と呼ばれる*CURLIBに変更要求記述を作成します。問題起点ネットワークIDはローカル・システムと同じです。制御点名はSTORE101です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF969A

変更要求記述が作成されたが警告が存在する。

[トップ](#)

通信サイド情報の作成 (CRTCSI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信サイド情報の作成(CRTCSI)コマンドは、サイド情報オブジェクトを特定のライブラリーに作成します。サイド情報オブジェクト名は、そのサイド情報オブジェクトを作成するライブラリーの中で固有としなければなりません。システムがRMTLOCNAME, DEV, LCLLOCNAME,およびRMTNETIDパラメーターを使用して、APPC装置記述を選択する方法の詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)に説明があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CSI	サイド情報	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サイド情報	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	オプション
TNSPGM	トランザクション・プログラム	文字値	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
DEV	装置	通信名, *LOC	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *LOC, *NETATR	オプション
MODE	モード	通信名, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *LOC, *NETATR, *NONE	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

[トップ](#)

サイド情報 (CSI)

作成するサイド情報オブジェクト名を指定します。オブジェクト名を指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

サイド情報名

所要のサイド情報オブジェクトが含まれることになるオブジェクトの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

サイド情報オブジェクトは現行ライブラリーに作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

サイド情報オブジェクトを作成するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

ユーザー・プログラムが通信するリモート・ロケーションの名前を指定します。リモート・プログラムのリモート論理装置は、リモート・ネットワークIDとリモート・ロケーションから成る共通プログラミング・インターフェース(CPI)通信パートナーLU名によって決定されます。

これは必須パラメーターです。

トップ

トランザクション・プログラム (TNSPGM)

開始するリモート・システム上のトランザクション・プログラムの名前（最大64桁）を指定します。

注: SNAサービス・トランザクション・プログラム名を指定するためには、サービス・トランザクション・プログラム名の16進表現を入力してください。たとえば、16進表現が21F0F0F1であるサービス・トランザクション・プログラム名を指定するためには、X'21F0F0F1'を入力することになります。

SNAサービス・トランザクション・プログラム名の詳細は、SNA TRANSACTION PROGRAMMER'S REFERENCE MANUAL FOR LU TYPE 6.2にあります。

これは必須パラメーターです。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

装置 (DEV)

リモート・システムに使用される装置記述の名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***LOC**

装置名 装置はシステムによって決定されます。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***LOC** ローカル・ロケーション名はシステムによって判別されます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ユーザーのロケーションの名前を指定してください。リモート・ロケーションに対して特定のロケーション名を指示したい場合には、ローカル・ロケーションを指定してください。

[トップ](#)

モード (MODE)

セッションの制御に使用されるモードを指定します。この名前は共通プログラミング・インターフェース (CPI)の通信モード名と同じです。

考えられる値は次の通りです。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

BLANK

8つの空白文字が使用されます。

モード名

リモート・ロケーションのモード名を指定してください。

注: SNASVCMGおよびCPSVCMG値は使用できません。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ロケーションで使用されるリモート・ネットワークIDを指定します。リモート・プログラムのリモート論理装置は、リモート・ネットワークIDとリモート・ロケーションから成る共通プログラミング・インターフェース(CPI)通信パートナーLU名によって決定されます。

考えられる値は次の通りです。

***LOC** リモート・ロケーションのリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたりリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークは名前がありません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークIDを指定してください。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトの共通権限は、指定したライブラリーのCRTAUTパラメーターから取られます。この値は作成時に判別されます。オブジェクトが作成された後に、ライブラリーのCRTAUT値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響を与えません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト

サイド情報用に使用する権限の権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
CRTCSI  CSI(QGPL/SIDEOBJ) RMTLOCNAME(APPC2)
        TNSPGM(TESTNOP)  AUT(*CHANGE)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPL中にSIDEOBJという名前の通信サイド情報オブジェクトを作成します。リモート・ロケーション名はAPPC2に、トランザクション・プログラム名はTESTNOPに設定されています。オブジェクトに対する権限は*CHANGEです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF3B82

通信サイド情報オブジェクト&1はすでにライブラリー&2に存在している。

CPF3B83

通信サイド情報オブジェクト&1がライブラリー&2に作成されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の作成(APPC) (CRTCTLAPPC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

APPC制御装置記述作成(CRTCTLAPPC)コマンドは、拡張プログラム間通信(APPC)制御装置の制御装置記述を作成します。このコマンドの詳細については、AS/400通信構成 (SD88-5011)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
LINKTYPE	リンク・タイプ	*ANYNW, *FAX, *FR, *HPRIP, *ILAN, *LAN, *LOCAL, *OPC, *SDLC, *TDLC, *VRTAPPN, *X25	必須, キー, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
SWITCHED	交換接続	*NO, *YES	オプション
SHM	短期保留モード	*NO, *YES	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
APPN	APPN可能	*YES, *NO	オプション
RMTINTNETA	リモート・インターネット・アドレス	文字値	オプション
LCLINTNETA	ローカル・インターネット・アドレス	文字値, *SYS	オプション
LDLCTMR	LDLCタイマー	要素リスト	オプション
	要素 1: LDLC再試行カウン ト	0-255, <u>3</u>	
	要素 2: LDLC再試行タイマ ー	0-65535, <u>15</u>	
	要素 3: LDLC活性タイマー	0-65535, <u>10</u>	
LDLCLNKSPD	LDLCリンク速度	1200-603979776000, *CAMPUS, *WAN, 4M, 10M, 16M, 100M, *MIN, *MAX	オプション
LDLCTMSGRP	LDLC送信グループ	要素リスト	オプション
	要素 1: コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	
	要素 2: コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	
	要素 3: 機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	
要素 4: 伝搬遅延	*LAN, *MIN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX		
TYPE	制御装置のタイプ	*BLANK, *FBSS, 3174, 3274, 3651, 3684, 3694, 4680, 4684, 4701, 4702, 4730, 4731, 4732, 4736	オプション
LINE	接続される非交換回線	名前	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-16393, 256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 1496, 1994, 2048, 2057, 4060, 4096, 8156, 16393, *LINKTYPE	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク識別コード	通信名, *NETATR, *NONE, *ANY	オプション
RMTCPNAME	リモート制御点	通信名, *ANY	オプション
RMTSYSNAME	リモート・システム名	文字値	オプション
EXCHID	交換識別コード	00000000-FFFFFFFF	オプション
INLCNN	初期接続	*DIAL, *ANS	オプション
DIALINIT	ダイヤル開始	*LINKTYPE, *IMMED, *DELAY	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, *DC, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	*CANNBR, *ANY	オプション
CNNLSTOUT	発信接続リスト	名前	オプション
CNNLSTOUTE	接続リスト項目	名前	オプション
ROLE	データ・リンクの役割	*NEG, *PRI, *SEC	オプション
SHMDSCLMT	SHM切断限界	1-254, 10, *NOMAX	オプション
SHMDSCTMR	SHM切断タイマー	2-3000, 50	オプション
STNADR	端末アドレス	00-FE	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	000000000001-FFFFFFFFFFFF	オプション
DSAP	LAN DSAP	04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
SSAP	LAN SSAP	04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	1980, 1984, 1988	オプション
LINKPCL	X.25 リンク・レベル・プロトコル	文字値, *QLLC, *ELLC, *LLC2	オプション
LGLCHLID	X.25論理チャネルID	文字値	オプション
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, X''	オプション
CPSSN	APPN CPセッション・サポート	*YES, *NO	オプション
NODETYPE	リモートAPPNノードのタイプ	*ENDNODE, *LENNODE, *NETNODE, *CALC	オプション
BEXROLE	分岐拡張の役割	*NETNODE, *ENDNODE	オプション
HPR	APPN/HPR使用可能	*YES, *NO	オプション
HPRPTHSWT	HPRパス・スイッチ	*NO, *YES	オプション
TMSGRPNBR	APPN伝送グループ番号	1-20, 1, *CALC	オプション
MINSWTSTS	APPN最小交換状況	*VRYONPND, *VRYON	オプション
AUTOCRTDEV	装置の自動作成	*ALL, *NONE	オプション
AUTODLTDEV	自動装置削除	1-10000, 1440, *NO	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, *LIND	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, *LIND	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, *LIND	オプション
MDLCTL	モデル制御装置記述	*NO, *YES	オプション
CNNNETID	接続ネットワークID	通信名, *NETATR, *NONE	オプション
CNNCPNAME	接続ネットワークCP	通信名	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	接続されている装置	値 (最大 254 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	*EBCDIC, *ASCII	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	000000000001-FFFFFFFFFFFFFF	オプション
IDLCWDWSIZ	IDLCウィンドウ・サイズ	1-31, *LIND	オプション
IDLCFRMRTY	IDLCフレーム再試行	0-100, *LIND	オプション
IDLCRSPTMR	IDLC応答タイマー	10-100, *LIND	オプション
IDLCCNNRTY	IDLC接続再試行	1-100, *LIND, *NOMAX	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>6</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>120</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>2</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	*YES, *NO	オプション
DSCTMR	切断タイマー	要素リスト	オプション
	要素 1: 最小接続タイマー	0-65535, <u>170</u>	
	要素 2: 切断遅延タイマー	0-65535, <u>30</u>	
POLLPTY	SDLCポーリング優先順位	*NO, *YES	オプション
POLLMT	SDLCポーリング限界	0-4, <u>0</u>	オプション
OUTLMT	SDLC出力限界	*POLLMT, 0, 1, 2, 3, 4	オプション
CNNPOLLRTY	SDLC接続ポーリング再試行	0-65534, *CALC, *NOMAX	オプション
NDMPOLLTMR	SDLC NDMポーリング・タイマー	0-3000, *CALC	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, *CALC	オプション
LANCNNRTY	LAN接続再試行	0-254, *CALC	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, *CALC	オプション
LANCNTMR	LAN接続タイマー	0-254, *CALC	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, *CALC	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, *CALC	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, *CALC	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, *CALC	オプション
LANACPTY	LANアクセス優先順位	0-3, *CALC	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, *NONE	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	*FIRST, *CALC	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	*LIND, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	*LIND, *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, *LIND	
	要素 2: 受信値	1-15, *LIND, *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	*NONE, *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
X25CNNRTY	X.25接続再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, <u>300</u>	オプション
X25CNTMR	X.25接続タイマー	1-2550, <u>300</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
X25DLYTMR	X.25遅延接続タイマー	1-32767, <u>*CALC</u>	オプション
X25ACKTMR	X.25肯定応答タイマー	0-2550, <u>20</u>	オプション
X25INACTMR	X.25非活動タイマー	1-2550, <u>1050</u>	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, <u>*CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

トップ

リンク・タイプ (LINKTYPE)

この制御装置が接続された回線のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*ANYNW

この制御装置は、直接には回線に接続されていません。これは、固有のトランスポート(SNA)以外のトランスポートを介してAPPCアプリケーションを実行するために使用されています。*ANYNWを指定した時には、RMTCPNAMEおよびRMTNETIDが必要です。次のパラメーターを使用することができます。

- RMTNETID (リモート・ネットワークID)
- ONLINE (IPL時にオンライン)
- RMTCPNAME (リモートCP名)
- USRDFN1 (ユーザー定義1)
- USRDFN2 (ユーザー定義2)
- USRDFN3 (ユーザー定義3)
- テキスト
- AUT (権限)
- CMNRCYLMT (通信回復限界)

*FAX

この制御装置はローカルFAX回線に接続されます。*FAXを指定した場合には、次の選択基準が満たされなければなりません。

- 次のパラメーターを指定することができます。IPL時にオンライン(ONLINE), 接続装置(DEV), 権限(AUT), テキスト記述(TEXT), 接続非交換回線(LINE)
- SWITCHEDおよびAPPNパラメーターは指定してはならず, *NOでなければなりません。
- APPNサポートは提供されません。したがって接続されたすべての装置にはAPPN(*NO) を指定しなければなりません。

*FR

この制御装置はフレーム・リレー回線に接続されています。

*HPRIP

この制御装置によって、HPR（ハイパフォーマンス・ルーティング）はリンク・レイヤーとしてインターネットを使用することができ、HPRデータをインターネット・ネットワークを通して転送することができます。

注: *HPRIPを指定する場合には、RMTINTNETAパラメーターに値を指定しなければなりません。

*ILAN

すべての通信がシステム内で行われるため、この制御装置は通信回線を使用しません。このリンク・タイプでは、複数のオペレーティング・システム(1つの物理システムで稼働)が物理通信リンクを使用しなくても通信することができます。

注: LINKTYPE(*ILAN)を指定した場合には、NODETYPEに指定する値は*LENNODEまたは*NETNODEでなければならず、SSAPパラメーターに指定する値はDSAPパラメーターに指定された値と異ならないければなりません。

*LAN

この制御装置は、分散データ・インターフェース(DDI), ETHERNET,またはトークンリング・ローカル・エリア・ネットワーク回線に接続されています。

*LOCAL

すべての通信がローカルであるために、この制御装置は通信回線を使用しません。*LOCALを指定する場合には、次の基準が満たされなければなりません。

- SWITCHED, SNBU,およびAPPNは指定しないか, *NOでなければなりません。
- LINE, MAXFRAME, RMTNETID, RMTCPNAME, EXCHID, CPSSN, NODETYPE, TMSGPNBR, SSCPID,およびROLEの各パラメーターは指定しないでください。
- SDLC, X.21短期保留モード, X.25,またはLAN構成に関連したパラメーターを指定してはいけません。
- LINKTYPE(*LOCAL)制御装置にはAPPN(*NO)が指定されていないからなので、接続されたどの装置にもAPPN(*NO)を指定しなければなりません。

*OPC

この制御装置は、光バス(OPTICONNECT)に接続されます。

*SDLC

この制御装置は、同期データ・リンク制御(SDLC)回線に接続されます。

***TDLC**

この制御装置は、平衡型データ・リンク制御(TDLC)回線に接続されます。

***VRTAPPN**

この制御装置はAPPN通信用に使用されます。これは、特定の通信回線に接続されていません。*VRTAPPNを指定した場合には、次の基準が満たされなければなりません。

- SWITCHEDはSNBUは指定しないでおくか、*NOでなければなりません。
- APPN(*YES)を指定しなければなりません。
- LINE, MAXFRAME, RMTNETID, RMTCPNAME, EXCHID, CPSSN, NODETYPE, TMSGRPNBR, SSCPID,およびROLEの各パラメーターは指定しないでください。
- SDLC, X.21短期保留モード, X.25,またはLAN構成に関連したパラメーターを指定してはいけません。
- LINKTYPE(*VRTAPPN)制御装置はAPPN通信をサポートするためのものであるため、接続されたどの装置にもAPPN(*YES)を指定しなければなりません。

***X25**

この制御装置はX.25回線に接続されます。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***YES**

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

[トップ](#)

交換接続 (SWITCHED)

この制御装置が交換回線に接続されているか、トークンリング・ネットワークに接続されているか、ETHERNET LANに接続されているか、あるいはX.25 スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続されているかを指定します。TDLC回線に接続されたAPPC 制御装置の場合には、*NOを指定しなければなりません。

***NO**

この制御装置は非交換回線に接続されています。X.25パーマナント・バーチャル・サーキット(PVC)回線に接続する制御装置の場合には、この値を指定してください。

***YES**

この制御装置は交換回線に接続されます。X.25スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続された制御装置の場合には、この値を指定してください。ローカル・エリア・ネットワークに接続された制御装置の場合にも、この値を指定してください。

注: LINKTYPEが*LANである場合には、SWITCHEDパラメーター値は*YESでなければならないか、あるいは指定してはいけません。

トップ

短期保留モード (SHM)

この制御装置がX.21短期保留モード用に使用されるかどうかを指定します。*YESを指定するには、リンク・タイプ(LINKTYPE)パラメーターに*SDLC、交換接続(SWITCHED)パラメーターに*YESも指定しなければなりません。

***NO**

この制御装置は、X.21短期保留モードには使用されません。

***YES**

この制御装置は、X.21短期保留モードに使用されます。

トップ

交換網バックアップ (SNBU)

リモート・システム・モデムに交換網バックアップ(SNBU)機構があるかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換(専用回線)接続をバイパスするために使用されます。SNBUを活動化するためには、交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YESを指定することによってモデムの制御装置記述を非交換から交換に変更しなければなりません。

注: 使用しているモデム型式がIBM 386X, 586X, または786Xである場合には、制御装置記述を変更してはいけません。その代わりにモデムを手操作で非交換モードに切り替えて、手操作で接続をダイヤル呼び出ししてください。

有効な活動化を実行するためには、ローカル・モデムとリモート・モデムの両方がSNBU機能をサポートしていなければなりません。

***NO** リモート・システム・モデムにSNBU機構がありません。

***YES**

リモート・システムのモデムにはSNBU機能があります。

トップ

APPN可能 (APPN)

ローカル・システムがこの制御装置と通信する時に拡張対等通信ネットワーキング(APPN)機能を使用するかどうかを指定します。TDL回線に接続されたAPPC制御装置の場合には*YESを指定しなければなりません。

*YES

この制御装置はAPPN用です。

*NO

この制御装置はAPPN用ではありません。

[トップ](#)

リモート・インターネット・アドレス (RMTINTNETA)

制御装置が応答するリモートIPアドレスを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに*HPRIPが指定されている場合だけです。

文字値

インターネット・アドレスは、NNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定します。ここで、NNNは0から255の範囲の10進数です。小数点付き10進数のIPアドレスの各パートの先行ゼロは無効となり、除去されることとなります。インターネット・アドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分がすべて2進数の1にまたは0になっている場合には正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

[トップ](#)

ローカル・インターネット・アドレス (LCLINTNETA)

リモート・システムとの通信に使用されるTCP/IPインターフェースを示します。

注: このパラメーターが有効なのは、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに*HPRIPが指定されている場合だけです。

*SYS

システムは、使用するローカルIPアドレスを選択します。

文字値

インターネット・アドレスは、NNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定します。ここで、NNNは0から255の範囲の10進数です。小数点付き10進数のIPアドレスの各パートの先行ゼロは無効となり、除去されることとなります。インターネット・アドレスは、そのアドレスのネットワークID (ID)部分またはホストID部分がすべて2進数の1にまたは0になっている場合には正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

別名

別名は、ADDTCPIFCおよびCHGTCPIFCコマンド(ALIASNAMEパラメーター)で指定したのと同じ値です。

トップ

LDLCタイマー (LDLCTMR)

LDLC (論理データリンク制御) タイマーおよび再試行回数を指定します。LDLC再試行回数およびLDLC再試行タイマーは、結合で使用されます。コマンドまたは要求が最初にリンクを通して伝送された時に、LDLC再試行回数およびLDLC再試行タイマーは初期化されます。応答を受信する前にLDLC再試行タイマーが満了した場合には、コマンドまたは要求が再伝送され、LDLC再試行回数が減らされ、LDLC再試行タイマーが再開します。LDLC再試行回数がゼロの時点でタイマーが満了した場合には、リンクは操作不可能とみなされます。LDLC活性タイマーは、RTP (高速トランスポート・プロトコル) 接続のその他のエンドポイントとそのエンドポイント間のパスの両方が非活動期間後にもまだ操作可能であることを確認するのに使用されます。

詳細については、HIGH PERFORMANCE ROUTING ARCHITECTURE REFERENCE (SV40-1018)を参照してください。

[HTTP://PUBLIBZ.BOULDER.IBM.COM/CGI-BIN/BOOKMGR_OS390/BOOKS/D50H6003/CCONTENTS](http://PUBLIBZ.BOULDER.IBM.COM/CGI-BIN/BOOKMGR_OS390/BOOKS/D50H6003/CCONTENTS)

注: このパラメーターが有効なのは、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに*HPRIPが指定されている場合だけです。

要素1: LDLC再試行カウント

3 LDLC再試行回数は3です。

再試行回数

LDLC再試行カウンターを指定します。有効な値の範囲は0から255です。

要素2: LDLC再試行タイマー

15 LDLC再試行タイマーは15秒に設定されます。

再試行タイマー

LDLC再試行タイマー間隔を指定します。有効な値の範囲は0から65535秒です。

要素3: LDLC活性タイマー

10 LDLC活性タイマーは10に設定されます。

活性タイマー

LDLC活性タイマーを指定します。有効な値の範囲は0から65535秒です。

トップ

LDLCリンク速度 (LDLCLNKSPD)

LDLC (論理データリンク制御) リンク速度をビット/秒で指定します。

詳細については、HIGH PERFORMANCE ROUTING ARCHITECTURE REFERENCE (SV40-1018)を参照してください。

[HTTP://PUBLIBZ.BOULDER.IBM.COM/CGI-BIN/BOOKMGR_OS390/BOOKS/D50H6003/CCONTENTS](http://PUBLIBZ.BOULDER.IBM.COM/CGI-BIN/BOOKMGR_OS390/BOOKS/D50H6003/CCONTENTS)

注: このパラメーターが有効なのは、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに*HPRIPが指定されている場合だけです。

***CAMPUS**

使用されるキャンパス環境の省略時APPNリンク特性のセットを指定します。

***WAN**

使用される広域ネットワーク環境の省略時APPNリンク特性のセットを指定します。

4M

リンク速度は秒当たり400万ビットです。

10M

リンク速度は秒当たり1000万ビットです。

16M

リンク速度は秒当たり1600万ビットです。

100M

リンク速度は秒当たり1億ビットです。

***MIN**

秒当たり1200ビットより小さいリンク速度が使用されます。

***MAX**

秒当たり100メガ・ビットより速いリンク速度が使用されます。

***LDLC*リンク速度**

LDLCリンク速度を指定します。

有効な値の範囲は1200から603979776000です。

[トップ](#)

LDLC送信グループ (LDLCTMSGRP)

コスト/接続時間、コスト/バイト、機密保護、および伝搬遅延のLDLC（論理データリンク制御）伝送グループ特性を指定します。

詳細については、HIGH PERFORMANCE ROUTING ARCHITECTURE REFERENCE (SV40-1018)を参照してください。

[HTTP://PUBLIBZ.BOULDER.IBM.COM/CGI-BIN/BOOKMGR_OS390/BOOKS/D50H6003/CCONTENTS](http://PUBLIBZ.BOULDER.IBM.COM/CGI-BIN/BOOKMGR_OS390/BOOKS/D50H6003/CCONTENTS)

注: このパラメーターが有効なのは、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに*HPRIPが指定されている場合だけです。

要素1: コスト/接続時間

接続時間当たりのコストは、リンクを通して接続されている相対コストを指定します。

0 接続時間当たりのコストはゼロです。

接続時間当たりのコスト

接続時間当たりのコストを指定してください。有効な値の範囲は0から255です。

要素2: コスト/バイト

バイト当たりのコストは、リンクを通してデータを送信および受信する相対コストを指定します。

0 バイト当たりのコストはゼロです。

バイト当たりのコスト

バイト当たりのコストを指定してください。有効な値の範囲は0から255です。

要素3: 機密保護

機密保護は、リンクを通した機密保護を指定します。

*NONSECURE

リンクを通した機密保護はありません。

*PKTSWTNET

これはパケット交換ネットワークなので、ネットワークを通じてデータが必ずしも同じパスを使用しないという点で機密保護機能があります。

*UNDGRDCBL

これは、地下ケーブルの機密保護機能のある配管です。

*SECURECND

これは機密保護機能のある配管ですが、保護されていません。

*GUARDCND

リンクは保護された配管で、物理的な傍受から保護されています。

*ENCRYPTED

データ・フローは、暗号化されます。

***MAX** これは保護された配管で、直接接続および間接接続による盗聴配線から保護されています。

要素4: 伝搬遅延

伝搬遅延は、信号がリンクの一端からもう一端へと移動するのに必要な時間を指定します。

***LAN** ローカル・エリア・ネットワーク遅延を指定します(0.48ミリ秒未満)。

***MIN** 最小遅延を指定します。

*TELEPHONE

.48ミリ秒から49.152ミリ秒の遅延を持つテレホン・ネットワークを指定します。

*PKTSWTNET

49.152ミリ秒から245.76ミリ秒の遅延を持つパケット交換ネットワークを指定します。

***SATELLITE**

サテライト遅延を指定します(245.76ミリ秒を超える)。

***MAX** 最大遅延を指定します。

[トップ](#)

制御装置のタイプ (TYPE)

この記述の制御装置のタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、APPN パラメーターに*NOを指定した場合だけです。

***BLANK**

T2.0制御装置が指定されていません。

***FBSS**

この記述は、金融機関支店システム・サービス(FBSS)制御装置を表します。

3174

この記述は3174制御装置を表します。

3274

この記述は3274制御装置を表します。

3651

この記述は3651制御装置を表します。

3684

この記述は3684制御装置を表します。

3694

この記述は3694検査プロセッサを表します。

4680

この記述は4680制御装置を表します。

4684

この記述は4684制御装置を表します。

4701

この記述は4701金融機関用制御装置を表します。

4702

この記述は4702金融機関用制御装置を表します。

4730

この記述は4730個人用銀行端末を表します。

4731

この記述は4731個人用銀行端末を表します。

4732

この記述は4732個人用銀行端末を表します。

4736

この記述4736セルフサービス・トランザクション・マシンを表します。

[トップ](#)

接続される非交換回線 (LINE)

この制御装置が接続された非交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。

注: このコマンドを入力する前に、関連の回線をオフに構成変更しなければなりません。X.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に接続する制御装置の場合には、このパラメーターを指定してください。

[トップ](#)

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

*交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

[トップ](#)

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム (パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位 (RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズはIDの交換時に折衝されるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

*LINKTYPE

各種タイプでは次の値が使用されます。*LAN - 16393, *SDLC - 521, *TDLC - 4105, *IDLC - 2048, *X25- 1024, *FR - 1590,または*HPRIP - 1461。

最大フレーム・サイズ

制御装置のフレーム・サイズを指定してください。使用できるフレーム・サイズは、使用中の回線のタイプによります。各回線タイプに有効なフレーム・サイズは次の通りです。*FRの場合、265から8182の範囲の

値を指定してください。*IDLCの場合、265から8196の範囲の値を指定してください。*LANの場合、265から16393 (DDI LAN では265から4444)の範囲の値を指定してください。*SDLCの場合、265, 521, 1033, または2057を指定してください。*X25の場合、256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 2048,または4096を指定してください。

注: *LINKTYPEにリストされた数値が有効なのは、制御装置の作成時にTYPE(*BLANK)が指定されている場合だけです。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

隣接した制御点があるリモート・ネットワークの名前を指定します。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークID (ID)は使用されません。

***ANY**

システムが使用されるリモート・ネットワークIDを決定します。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークIDを指定してください。

[トップ](#)

リモート制御点 (RMTCPNAME)

リモート・システムの制御点名を指定します。

***ANY**

システムが使用されるリモート制御点の名前を決定します。

リモート制御点名

リモート制御点名を指定してください。

[トップ](#)

リモート・システム名 (RMTSYSNAME)

OPTICONNECTバス接続があるリモート・システムの名前を指定します。リモート・システムの現行システム名は、そのシステムに対してDSPNETAを使用して判別することができます。

注: このパラメーターが有効なのは、LINKTYPE(*OPC)が指定されている場合だけです

[トップ](#)

交換識別コード (EXCHID)

この制御装置のリモート交換IDを指定します。制御装置は、接続の確立時に別のロケーションにそのIDを送信（交換）します。8桁の16進のIDには、ブロック番号用の3桁および特定制御装置用の5桁が含まれています。

注：次の場合には、SDLC交換回線およびSNBU回線の両方でこのパラメーターが必要です。

- APPN(*YES)およびNODETYPE(*LENNODE)の両方が指定された場合。
- APPN(*NO)が指定されて、RMTCPNAMEが指定されない場合。

交換IDのブロック番号は制御装置と関連しています。

制御装置

ブロック番号

3174, 3274

001から0FE

3601 * 016 (* 3601は4701として構成される)

3651, 3684

005

3694 02F

4680 04D

4684 005

4702, 4702

057

5251 020

5294 045

5394 05F

5494 073

ISERIES

056

ディスプレイライター

03A

システム/36

03E

システム/38

022

5251, 5394,および5294制御装置の場合には、最後の5桁の数字は000で開始しなければなりません。5494制御装置の場合には、最後の5桁の数字は000NN（この場合のNNは5494制御装置の端末アドレス）であるか、あるいは製造番号がXIで開始する時には、5494製造番号の最後の5桁のいずれかとなります。

[トップ](#)

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

*ANS

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにISERIESシステムが応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

[トップ](#)

ダイヤル開始 (DIALINIT)

システムとリモート制御装置の間の交換回線で最初にダイヤルを行うために使用される方式を指定します。

*LINKTYPE

開始する接続のタイプはLINKTYPEパラメーターに指定します。LANまたはSDLC ダイヤル短期保留モード接続の場合には、省略時の値で制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちに接続のダイヤル呼び出しが行われます。他のすべてのリンク・タイプの場合、省略時の値ではダイヤル呼び出しが遅延されます。

*IMMED

制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちにダイヤル接続が開始されます。

*DELAY

ダイヤル接続は、リモート制御装置資源の使用を要求するジョブが開始されるまで遅延されます。

[トップ](#)

接続番号 (C>NNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

*DC

X.21交換接続ネットワークで直接呼び出しが使用されています。

***ANY** システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

接続番号を指定してください。

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

*CNNNBR

CNNNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

*ANY

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

トップ

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

発信接続リスト (CNLSTOUT)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへのダイヤル呼び出し操作のISDN割り当て番号が入っている接続リスト・オブジェクトの名前を指定します。

リスト・オブジェクト

接続リスト・オブジェクトの名前を指定してください。

トップ

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続リスト項目 (CNLSTOUTE)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへの呼び出しを行うために使用する接続リストからの項目名を指定します。この接続リストは、**発信接続リスト(CNLSTOUT)**パラメーターで識別されていなければなりません。

項目名

項目名を指定してください。

トップ

データ・リンクの役割 (ROLE)

この接続でリモート制御装置が担うデータ・リンクの役割を指定します。1次端末は制御端末で、2次端末は応答端末です。1次端末は、2次端末にコマンドを送信することによりデータ・リンクを制御し、2次端末はコマンドに応答します。

*NEG

ローカル・システムとリモート・システムは、どのコンピューターが1次であるかを折衝します。

***PRI**

リモート・システムは、この通信回線上の1次端末です。

***SEC**

リモート・システムは、この通信回線上の2次端末です。

[トップ](#)

SHM切断限界 (SHMDSCLMT)

このX.21短期保留モード接続に対して接続を保留できるようになる前に、リモート端末から要求される連続的な非生産的応答の数を指定します。このパラメーターは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに*YES、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合にだけ使用します。

10

接続を中断できるようになるためには、その前に10個の非生産的応答が受信されなければなりません。

***NOMAX**

切断限界はありません。

SHM切断限界

接続を中断できるようになるために、その前に受信されなければならない連続した非生産的応答の数を示す1から254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)

このX.21短期保留モード制御装置の場合に、1次システムがリモート・システムとの接続を維持する最短時間を1/10秒単位で指定します。このパラメーターが有効なのは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに*YES、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合だけです。

50

基本システムは、リモート・システムとの接続状態を最小5秒間維持します。

SHM切断タイマー

0.1秒間隔の単位で2から3000の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00からFEです。

注: 00は、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: ROLEパラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。ROLEパラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

[トップ](#)

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFFFFまでです。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

[トップ](#)

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

注: *OPC制御装置は、このフィールドに上記の値を使用します。RMTSYSNAMEとDSAPの組み合わせで固有の制御装置が定義されます。これにより、2つのシステム間で複数の制御装置が存在できるようになります。

04

宛先サービス・アクセス・ポイントは省略時の04です。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分 (たとえば04, 08, 0C, 10)で指定してください。

[トップ](#)

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)に割り当てられている値と一致しなければなりません。

04

システムは04の論理アドレスを使用します。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10)で指定してください。

[トップ](#)

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。たとえば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

[トップ](#)

X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)

この制御装置と通信するためにX.25ネットワークで使用されるリンク・レベル・プロトコルを指定します。

***QLLC**

修飾論理リンク制御(QLLC)プロトコルが使用されます。

***ELLC**

拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコルが使用されます。

[トップ](#)

X.25論理チャネルID (LGLCHLID)

この制御装置へのX.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に使用される論理チャネルIDを指定します。有効な項目はXY Yです。ここで、

- Xは、ご使用のネットワーク・サブスクリプションに由来する論理グループ番号です。
- YYは、サブスクリプションから導き出された論理チャネル番号。論理チャネルIDはX.25回線記述で定義されたPVC論理チャネルIDの1つでなければなりません。このパラメータには省略時の値がありません。

トップ

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメータは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワードを使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりにブランクが埋め込まれます。全桁ブランクのパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。たとえば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有のIDとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40からFFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

トップ

APPN CPセッション・サポート (CPSSN)

この制御装置が制御点相互間のセッションをサポートするかどうかを指定します。

*YES

この制御装置は制御点間のセッションをサポートします。

*NO

この制御装置は、制御点間のセッションをサポートしません。

リモートAPPNノードのタイプ (NODETYPE)

この制御装置が表すAPPNノードのタイプを指定します。

*ENDNODE

このノードは、APPNネットワーク中のエンド・ノードです。

*LENNODE

このノードは、APPNネットワーク中のローエントリー・ネットワークング・ノードです。

*NETNODE

このノードは、APPNネットワーク中のネットワーク・ノードです。

*CALC

システムがこの制御装置で表されるノードのタイプを決定します。

トップ

分岐拡張の役割 (BEXROLE)

構成するリモート制御装置のAPPNネットワークで、ローカル・システムの役割を指定します。このパラメータは、*BEXNODEに設定されるネットワーク属性でNODETYPEパラメータを介して、ローカル・システムが分岐拡張機能を使用できるようになった時にだけ使用されます。

*NETNODE

ローカル・システムは、リモート制御装置に対してネットワーク・ノードの役割をもちます。

*ENDNODE

ローカル・システムは、リモート制御装置のエンド・ノードの役割をもちます。

トップ

APPN/HPR使用可能 (HPR)

この制御装置との通信時に、ローカル・システムがAPPNハイ・パフォーマンス・ルーティング(HPR)を使用できるかどうかを指定します。HPRを使用できるようにするためには、制御装置記述にAPPN(*YES)を指定しなければなりません。HPR(*YES)を指定する場合には、交換回線リストによって指定された回線のMAXFRAMEパラメータの値が768より大きいか等しくなければなりません。そうでない場合には、この接続についてHPRは使用可能となりません。

*YES

ローカル・システムはHPRを使用することができ、HPRフローはこの制御装置で定義されたリンク上で進行することができます。

*NO

ローカル・システムはHPRを使用することができず、HPRフローはこの制御装置の省略時のリンク上で進行することはできません。

[トップ](#)

HPRパス・スイッチ (HPRPTHSWT)

この制御装置がオフに構成変更された時点でこの制御装置と関連したHPR接続のパスを切り替える試みが行なわれるかどうかを指定します。パス・スイッチが試みられなかったり、あるいは使用可能なその他のパスがなかった場合には、HPR接続と関連したジョブは終了されます。詳細については、[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERにあるAPPNサポート情報を参照してください。

***NO**

この制御装置がオフに構成変更されると、この制御装置に関連したHPR接続に経路切り換えは行われません。HPR接続と関連したジョブは終了されます。

***YES**

この制御装置がオフに構成変更されると、この制御装置に関連したHPR接続の経路切り換えが試みられます。

[トップ](#)

APPN伝送グループ番号 (TMSGRPNBR)

この制御装置の伝送グループ番号を指定します。

1

省略時の伝送グループは1です。

***CALC**

システムが伝送グループ番号の値を指定します。

伝送グループ番号

伝送グループ番号として1から20の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

APPN最小交換状況 (MINSWTSTS)

APPNが経路指定に使用可能な制御装置と見なすように、交換接続の最小状況を指定します。

***VRYONPND**

状況が「オンに構成変更保留中」、 「オンに構成変更」、 または「活動状態」である場合にのみ、APPNは制御装置を経路指定用に使用可能と見なします。

***VRYON**

状況が「オンに構成変更」または「活動状態」である場合にのみ、APPNは制御装置を経路指定用に使用可能と見なします。

[トップ](#)

装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)

この制御装置記述で装置記述を自動的に作成できるかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、APPC装置の自動作成には適用されません。このパラメーターは、この制御装置の従属装置にのみ適用されます。

***ALL**

この制御装置に自動的に作成可能なすべての従属装置は、APPC装置を除いて自動的に作成されます。

***NONE**

この制御装置の従属装置は自動的に作成されることはありません。

[トップ](#)

自動装置削除 (AUTODLTDEV)

自動的に作成された装置がアイドル状態になっていられる（その装置に対して活動状態の会話がない時）時間（分数）を指定します。この時間が経過すると、システムはその装置記述を自動的にオフに構成変更し、削除します。

1440

1440分(24時間)経過すると、システムは、自動構成されたアイドルの装置記述を自動的にオフに構成変更して、削除します。

***NO**

システムは、アイドル状態の自動構成装置記述を自動的にオフに構成変更して、削除することはありません。

待機時間

この制御装置のアイドルの自動構成装置記述を削除するまでに、待機する分数を指定してください。有効な値の範囲は1から10,000です。

[トップ](#)

ユーザー定義1 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

***LIND**

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0から255の範囲の値を指定してください。

トップ

ユーザー定義2 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*LIND

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0から255の範囲の値を指定してください。

トップ

ユーザー定義3 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*LIND

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0から255の範囲の値を指定してください。

トップ

モデル制御装置記述 (MDLCTL)

この制御装置が自動的に作成される制御装置記述の「モデル」であるかどうかを示します。リモート・システムとの通信が開始されるときに自動的に作成および構成される新しい制御装置記述には、タイマー遅延、再試行限界、フレーム・サイズなどのモデル記述の値が使用されます。新しい制御装置は、モデル制御装置の交換回線リスト(SWTLINLSTパラメーター)中のSINGLE回線記述の1つに接続しなければなりません。

モデル制御装置記述はどの装置にも接続されず、各回線記述には1つの制御装置記述しかオンに構成変更することができません。

モデル制御装置の詳細については、[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERにあるAPPNサポート情報を参照してください。

注: このパラメーターが有効なのは、パラメーターLINKTYPEが*LANである場合だけです。

*NO

この制御装置はモデル制御装置ではありません。

***YES**

この制御装置はモデル制御装置です。

[トップ](#)

接続ネットワークID (CNNNETID)

この制御装置記述の接続ネットワークIDを指定します。このパラメーター（他になし）に値が指定されている場合には、この制御装置記述は、接続ネットワークに対する接続を表します。

注: システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

***NONE**

接続ネットワークIDはありません。

接続ネットワークNETID

ネットワークに対してこの制御装置記述を表す接続ネットワークIDを指定してください。

[トップ](#)

接続ネットワークCP (CNNCPNAME)

接続ネットワークの制御点の名前を指定します。

接続ネットワークは、着信または発信接続で制御装置記述を自動的に作成できるように定義されます。このパラメーターが有効なのは、MDLCTL(*YES)が指定された場合だけです。すなわち、CNNNETIDが指定された場合には必要です。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

この制御装置には最大254の装置を接続することができます。

[トップ](#)

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*EBCDIC

拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

[トップ](#)

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点IDを指定します。

システム・サービス制御点ID

システム・サービス制御点IDを12桁の16進値として指定してください。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)

IDLC回線に接続された制御装置と送受するためのウィンドウ・サイズを指定します。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

ウィンドウ・サイズ

ウィンドウ・サイズを指定してください。有効な値の範囲は1から31です。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)

エラーを報告する前にフレームの送信を試みる最大試行回数を指定します。

*LIND

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

*IDLC*フレーム再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0から100です。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)

肯定応答が受信されない場合にフレームの再送信までの待機時間を1/10秒単位で指定します。

*LIND

回線記述に指定された時間が使用されます。

*IDLC*応答タイマー

時間の長さを指定してください。有効な値の範囲は10分の1秒単位で10から100です。たとえば、1秒の10分の100秒は10秒と等しくなります。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC接続再試行 (IDLCCNNRTY)

接続時に再送信を試みる回数を指定します。

*LIND

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

*NOMAX

正常な送信が行われるまで続行することを指示します。

接続再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は1から100です。

[トップ](#)

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PRELDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で) を指定します。

注: このパラメーターは、SWITCHEDかSNBUのいずれかのパラメーターに*YESを指定し、LINKTYPE(*SDLC)とSHM(*NO)の両方を指定した場合にのみ指定することができます。

6

6という省略時の値では3秒の遅延が提供されます。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

注: このパラメーターは、SWITCHEDかSNBUのいずれかのパラメーターに*YESを指定し、LINKTYPE(*SDLC)とSHM(*NO)の両方を指定した場合にのみ指定することができます。

120 省略時の値の120では60秒の遅延となります。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

注: このパラメーターは、SWITCHEDかSNBUのいずれかのパラメーターに*YESを指定し、LINKTYPE(*SDLC)とSHM(*NO)の両方を指定した場合にのみ指定することができます。

2 省略時の試行回数は2です。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

***NO**

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

***YES**

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

[トップ](#)

切断タイマー (DSCTMR)

活動のない接続が除去されるまでの時間（秒数）、または自動切断を遅延させる時間量を制御するオプションを指定します。回線を除去したくない場合には、SWTDSCパラメーターに*NOを指定してください。

要素1:最小接続タイマー

170

接続は、170秒間非活動状態になっていると切断されます。

切断タイマー

切断前の待機時間を指定してください。有効な値の範囲は0から65535秒です。

要素2:切断遅延タイマー

30

切断は30秒間遅延されます。

切断遅延タイマー

制御装置で最後のセッションが停止された後で、リンク解放を遅延する値を指定してください。有効な値の範囲は0から65535秒です。

注: V2R1M1以前のシステムから移行されたオブジェクトの場合、切断遅延タイマーはゼロという値をもちます。この値は、システムによって30秒として解釈されます。

[トップ](#)

SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)

この制御装置がポーリング時に優先権をもつかどうかを指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

***NO**

この制御装置にはポーリング優先順位はありません。

***YES**

この制御装置はポーリング優先順位をもちます。

[トップ](#)

SDLCポーリング限界 (POLLLMT)

SDLC 2次制御装置または折衝可能制御装置の場合には、ポーリングでフレームが受信されたときに、同じ制御装置に対して連続してポーリングを行う回数を指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

0

ポーリングの省略時の回数はゼロです。

ポーリング限界

ポーリング回数を指定してください。有効な値の範囲は0から4です。

[トップ](#)

SDLC出力限界 (OUTLMT)

別の端末への送信を認める前に、SDLCで端末へ最大フレーム数を送信できる連続回数を指定します。

*POLLLMT

値は、SDLCポーリング限界(POLLLMT)パラメーターに指定されたものと同じです。

アウト限界

0から4の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)

エラーを報告する前に、制御装置との接続をやり直す回数を指定します。

*CALC

再試行回数は、制御装置が交換の場合には7で、制御装置が非交換の場合には*NOMAXです。

*NOMAX

システムは、無制限に再試行します。

ポーリング接続再試行

再試行回数として0から65534の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SDLC NDMポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)

1次端末から2次端末へのポーリング（通常切断モード(NDM)）によって適切な応答が受信されない場合に、2次端末がポーリングされる最小間隔を指定します。

このパラメーターは、リンク・タイプが*SDLCで、制御装置の役割が2次または折衝可能で、SHMパラメーターに*NOが指定されている場合のみ有効です。

*CALC

ポーリング間隔は、システムによって計算されます。

NDMポーリング・タイマー

1から3000の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

*CALC

システムが制御装置に接続された回線のタイプに基づいてLANフレーム再試行値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0から254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LAN接続再試行 (LANCNRRTY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

*CALC

システムがLAN接続再試行値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0から254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがLAN応答タイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1から254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN接続タイマー (LANCNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがLAN接続タイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

*CALC

システムがLAN肯定応答タイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKFRQパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがLAN値非活動タイマーを決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から255の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0から127の範囲の値を指定してください。 **LAN肯定応答タイマー(LANACKTMR)** パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

リモート制御装置にアクセスするために使用される優先順位を指定します。数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。このパラメーターは、制御装置がTRLANに接続されている場合にのみ使用されます。

*CALC

システムがLANアクセス優先順位値を決定します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0から3の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター(LANウィンドウ・ステップ)は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やすことができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーターに指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

*NONE

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

*FIRST

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

*CALC

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

[トップ](#)

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

要素1:送信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096 です。

要素2:受信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

*TRANSMIT

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096 です。

[トップ](#)

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素1:送信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素2:受信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

[トップ](#)

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00から99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

[トップ](#)

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

*NONE

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

***REQUEST**

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

***ACCEPT**

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

***BOTH**

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

[トップ](#)

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

7

伝送の最大回数の省略時の値は7です。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25接続再試行 (X25CNNRTY)

この制御装置に接続する時に、接続応答タイマーが切れた後で論理リンク制御(LLC) プロトコル・データ単位が送信される最大回数を指定します。

7

伝送の最大回数の省略時の値は7です。

X.25接続再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

300

肯定応答を戻すのに許された時間は30秒です。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

[トップ](#)

X.25接続タイマー (X25CNNTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

300

省略時の時間は30秒です。

接続タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

[トップ](#)

X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)

制御装置への接続を確立するための試行の時間間隔を指定します。

*CALC

接続の確立を試みる頻度および回数を決定するためには、**X.25接続タイマー(X25CNNTMR)**パラメーターおよび**X.25接続再試行(X25CNNRTY)**パラメーターに指定する値を使用してください。

X.25遅延タイマー

1から32767の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。接続の試みはこの時間間隔で無制限に反復されます。

[トップ](#)

X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)

受信したフレームへの肯定応答の送信を遅らせる時間の長さを指定します。

20

肯定応答の送信遅延に許された時間は2秒です。

X.25肯定応答タイマー

有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。0は、遅延がないことを示します。

[トップ](#)

X.25非活動タイマー (X25INACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。有効な値は、0.1秒単位の1から2550です。

1440

制御装置の非活動状態を判別するために使用される時間間隔は10.5秒です。

[トップ](#)

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

2

指定された間隔内に回復が2回試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

5

指定された回数の回復の試みが5分の間隔内に行われます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

***SYSVAL**

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

このコマンドの使用の詳細については、COMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)を参照してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)

コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

例1:リンク・タイプ*SDLCをもつAPPC制御装置の作成

```
CRTCTLAPPC  CTLD(OUTLAND) LINKTYPE(*SDLC)
             APPN(*NO) LINE(OUTLINE)
             RMTNETID(*NONE) STNADR(C1)
```

このコマンドは、非交換SDLC回線に接続され、C1という端末アドレスをもつAPPC制御装置記述を構成します。

例2:リンク・タイプ*HRPIPをもつAPPC制御装置の作成

```
CRTCTLAPPC  CTLD(GRIFFIN) LINKTYPE(*HRPIP)
             RMTINTNETA('9.5.5.1') RMTCPNAME(CJP)
```

このコマンドは、*HRPIPのリンク・タイプ、9.5.5.1のIPアドレス、およびCJPのリモート制御ポイントをもつGRIFFINという名前のAPPC制御装置記述を構成します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の作成（非同期）(CRTCTLASC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

非同期制御装置記述の作成(CRTCTLASC)コマンドにより、非同期制御装置の制御装置記述が作成されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
LINKTYPE	リンク・タイプ	*ASYNC, *X25	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
SWITCHED	交換接続	*NO, *YES	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
LINE	接続される非交換回線	名前	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
INLCNN	初期接続	*DIAL, *ANS	オプション
CNNBR	接続番号	文字値, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	*CNNBR, *ANY	オプション
LGLCHLID	X.25論理チャンネルID	文字値	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
DEV	接続されている装置	名前	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>6</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>120</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>2</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	*NO, *YES	オプション
ACKTMR	ファイル転送肯定応答タイマー	16-65535, <u>16</u>	オプション
RETRY	ファイル転送再試行	1-255, <u>7</u>	オプション
RMTVfy	リモート検査	*NO, *YES	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	名前	オプション
LCLID	ローカル識別コード	名前	オプション
PADEML	PADエミュレーション	*NO, *YES	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	*FIRST, *CALC	オプション
DFTPFSIZE	X.25省略時のバケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	*LIND, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	*LIND, *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	

キーワード	記述	選択項目	注
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, * <u>LIND</u>	
	要素 2: 受信値	1-15, * <u>LIND</u> , *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	* <u>NONE</u> , *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: * <u>SYSVAL</u> , *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, * <u>CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

トップ

リンク・タイプ (LINKTYPE)

この制御装置が接続された回線のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*ASYNC

この制御装置は非同期回線に接続されています。

*X25

この制御装置はX.25回線に接続されます。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

トップ

交換接続 (SWITCHED)

この制御装置が交換回線に接続されているか、トークンリング・ネットワークに接続されているか、ETHERNET LANに接続されているか、あるいはX.25 スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続されているかを指定します。TDLC回線に接続されたAPPC 制御装置の場合には、*NOを指定しなければなりません。

*NO

この制御装置は非交換回線に接続されています。X.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)回線に接続する制御装置の場合には、この値を指定してください。

*YES

この制御装置は交換回線に接続されます。X.25スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続された制御装置の場合には、この値を指定してください。ローカル・エリア・ネットワークに接続された制御装置の場合にも、この値を指定してください。

注: LINKTYPEが*LANである場合には、SWITCHEDパラメーター値は*YESでなければならないか、あるいは指定してはいけません。

トップ

交換網バックアップ (SNBU)

リモート・システム・モデムに交換網バックアップ(SNBU)機構があるかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換(専用回線)接続をバイパスするために使用されます。SNBUを活動化するためには、交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YESを指定することによってモデムの制御装置記述を非交換から交換に変更しなければなりません。

注: 使用しているモデム型式がIBM 386X, 586X,または786Xである場合には、制御装置記述を変更してはいけません。その代わりにモデムを手操作で非交換モードに切り替えて、手操作で接続をダイヤル呼び出ししてください。

有効な活動化を実行するためには、ローカル・モデムとリモート・モデムの両方がSNBU機能をサポートしていなければなりません。

*NO リモート・システム・モデムにSNBU機構がありません。

*YES

リモート・システムのモデムにはSNBU機能があります。

トップ

接続される非交換回線 (LINE)

この制御装置が接続された非交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。

注: このコマンドを入力する前に、関連の回線をオフに構成変更しなければなりません。X.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に接続する制御装置の場合には、このパラメーターを指定してください。

トップ

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

*交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

トップ

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

*ANS

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにISERIESシステムが応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

トップ

接続番号 (C>NNNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

これは、制御装置が接続されている回線のタイプにより、電話番号、ネットワーク・アドレスまたはX.21接続番号のいずれかになります。

***ANY** システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

この制御装置を呼び出すために使用される接続番号を指定してください。これは電話番号またはX.25ネットワーク・アドレスとすることができます。

[トップ](#)

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

***C>NNNBR**

C>NNNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

***ANY**

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

[トップ](#)

X.25論理チャネルID (LGLCHLID)

この制御装置へのX.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に使用される論理チャネルIDを指定します。有効な項目はXY Yです。ここで、

- Xは、ご使用のネットワーク・サブスクリプションに由来する論理グループ番号です。
- YYは、サブスクリプションから導き出された論理チャネル番号。論理チャネルIDはX.25回線記述で定義されたPVC論理チャネルIDの1つでなければなりません。このパラメーターには省略時の値がありません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

接続されている装置 (DEV)

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

非同期通信の場合には、各制御装置に1つの装置しか接続することはできません。装置名は、関連の装置記述が作成された時に指定された名前と同じでなければなりません。装置記述は前もって存在していなければなりません。

トップ

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

注: このパラメーターは、交換回線または交換網バックアップが*YESで、リンク・タイプが非同期制御装置を表す*ASYNCである場合にのみ指定することができます。

6

6という省略時の値では3秒の遅延が提供されます。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

トップ

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

注: このパラメーターは、交換回線または交換網バックアップが*YESで、リンク・タイプが非同期制御装置を表す*ASYNCである場合にのみ指定することができます。

120 省略時の値の120では60秒の遅延となります。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

トップ

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

注: このパラメーターは、交換回線または交換網バックアップが*YESで、リンク・タイプが非同期制御装置を表す*ASYNCである場合にのみ指定することができます。

2 省略時の試行回数は2です。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*NO

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

*YES

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

[トップ](#)

ファイル転送肯定応答タイマー (ACKTMR)

ファイル転送サポートを使用している時、肯定応答のために使用できる時間を指定します。

有効な値は16から65535の範囲で、1秒間隔です。

[トップ](#)

ファイル転送再試行 (RETRY)

ファイル転送サポートを使用している時に、再試行回数を指定します。

有効な値の範囲は1から255です。

7

7は、再試行回数の省略時の値です。

[トップ](#)

リモート検査 (RMTVfy)

リモート・システムがローカル・ロケーション名およびローカルIDの妥当性検査を必要とするかどうかを指定します。総称の制御装置および装置がX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しを受け入れるように構成されている場合には、リモート・システムは妥当性検査を必要とします。

*NO

リモート・システムは、ローカル・ロケーション名およびローカルIDの妥当性検査を必要としません。

*YES

リモート・システムは、ローカル・ロケーション名およびローカルIDの妥当性検査を必要とします。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカルIDと結合している時に、リモート・システムに対するユーザーの制御装置を識別する名前を指定します。この名前は、リモート・システムによってそのリモート・ロケーション・リストに指定された名前と同じでなければなりません。

[トップ](#)

ローカル識別コード (LCLID)

ローカル・ロケーション名と結合している時に、リモート・システムにこの制御装置を識別するIDを指定します。このIDは、リモート・システムによってそのリモート・ロケーション・リストに指定されたIDと同じでなければなりません。

[トップ](#)

PADエミュレーション (PADEML)

この制御装置がX.25パケット・アセンブラー／逆アセンブラー(PAD)をエミュレートするかどうかを指定します。このPADエミュレーションはX.3,X.28,およびX.29のCCITT勧告に従います。このパラメーターは、リンク・タイプ(LINKTYPE)パラメーターに*X25が指定され、SWITCHEDが*YESで、初期接続(INLCNN)が*DIALに設定されている場合にだけ有効です。

*NO

この制御装置は、X.25パケット・アセンブラー／逆アセンブラー(PAD)をエミュレートしません。

*YES

この制御装置は、X.25パケット・アセンブラー／逆アセンブラー(PAD)をエミュレートします。

[トップ](#)

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

*FIRST

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

*CALC

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

[トップ](#)

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPCKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

要素1:送信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096 です。

要素2:受信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

*TRANSMIT

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096 です。

[トップ](#)

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素1:送信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素2:受信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

[トップ](#)

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00から99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

[トップ](#)

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

*NONE

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

*REQUEST

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

*ACCEPT

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

*BOTH

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

[トップ](#)

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

注: このフィールドに入力する値は、ネットワーク・サブスクリプションの提供者によって決定されています。パケット・サイズ、ウィンドウ・サイズ、ユーザー・グループID、およびコレクトコールのキーワードを介して示される機能は指定しないでください。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

2

指定された間隔内に回復が2回試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

5

指定された回数の回復の試みが5分の間隔内に行われます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

このコマンドの使用の詳細については、COMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)を参照してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

CRTCTLASC CTLD(ASCCTL) LINKTYPE(*ASYN) LINE(ASCLIN)

このコマンドは、非交換非同期回線に接続される非同期制御装置を作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の作成(BSC) (CRTCTLBSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BSC制御装置記述の作成(CRTCTLBSC)コマンドは、2進データ同期通信(BSC) 制御装置の制御装置記述を作成します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CNN	接続タイプ	*NONSWTPP, *SWTPP, *MPTRIB	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
LINE	接続される非交換回線	名前	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
APPTYPE	適用業務タイプ	*PGM, *RJE, *EML	オプション
INLCNN	初期接続	*DIAL, *ANS	オプション
CNNBR	接続番号	文字値	オプション
LCLID	ローカル識別コード	文字値, *NOID	オプション
RMTID	リモート識別コード	値 (最大 64 回の繰り返し): 文字値, *ANY, *NOID	オプション
RJEHOST	RJEホスト・タイプ	*RES, *JES2, *JES3, *RSCS	オプション
RJELOGON	RJE ホスト・サインオン/ログオン	文字値	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
DEV	接続されている装置	値 (最大 32 回の繰り返し): 名前	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>6</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>120</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>2</u>	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

[トップ](#)

接続タイプ (CNN)

このBSC制御装置が使用されている接続のタイプを指定します。

注: この値は、CRTLINBSCコマンドのCNNパラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

NONSWTPP

非交換POINT-TO-POINT接続。

*SWTPP

交換POINT-TO-POINT接続。

*MPTRIB

マルチポイント従属接続。

[トップ](#)

交換網バックアップ (SNBU)

リモート・システム・モデムに交換網バックアップ(SNBU)機構があるかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換（専用回線）接続をバイパスするために使用されます。SNBUを活動化するためには、**交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)**パラメーターに*YESを指定することによってモデムの制御装置記述を非交換から交換に変更しなければなりません。

注: 使用しているモデム型式がIBM 386X, 586X,または786Xである場合には、制御装置記述を変更してはいけません。その代わりにモデムを手操作で非交換モードに切り替えて、手操作で接続をダイヤル呼び出ししてください。

有効な活動化を実行するためには、ローカル・モデムとリモート・モデムの両方がSNBU機能をサポートしていなければなりません。

***NO** リモート・システム・モデムにSNBU機構がありません。

***YES**

リモート・システムのモデムにはSNBU機能があります。

[トップ](#)

接続される非交換回線 (LINE)

この制御装置が接続された非交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。

注: このコマンドを入力する前に、関連の回線をオフに構成変更しなければなりません。X.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に接続する制御装置の場合には、このパラメーターを指定してください。

[トップ](#)

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

***交換回線名**

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

[トップ](#)

適用業務タイプ (APPTYPE)

この装置によって使用されるアプリケーション・タイプを指定します。

注: この値は、CRTLINBSCコマンドのAPPTYPEパラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

***PGM**

アプリケーションはユーザー作成プログラムです。

***RJE**

アプリケーションはBSCリモート・ジョブ入力(RJE)です。

***EML**

アプリケーションはBSC 3270装置エミュレーションです。

[トップ](#)

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

***DIAL**

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

***ANS**

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにISERIESシステムが応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

[トップ](#)

接続番号 (C>NNNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

接続番号

接続番号を指定してください。

[トップ](#)

ローカル識別コード (LCLID)

リモート制御装置に対してローカル・システムを識別するために使用されるローカルIDを指定します。

***NOID**

ローカル・システムは、制御装置と通信する時にヌルのIDを送信します。

LOCAL-ID

2から30桁の16進数で、偶数の文字を含むローカルIDを指定してください。IDにはBSC制御文字を入れることはできません。

正しいBSC制御装置に電話接続が行われるように、次の指針に従われるようにお奨めします。

- ローカルIDは少なくとも4文字でなければなりません。
- このIDが4文字だけの場合には、最初の2文字と最後の2文字が同じでなければなりません（たとえばF3F3や8484など）。

[トップ](#)

リモート識別コード (RMTID)

リモートBSC制御装置のIDを指定します。最大64個のリモート制御装置IDを指定することができます。

*ANY

システムは、リモート制御装置が送信したどのIDでも受け入れます。

注: この値は、最後に指定された値であるか、あるいは指定された唯一の値である場合にのみ有効です。

*NOID

ローカル・システムは、リモート・システムが送信したヌルのIDを受け入れます。

リモートID

2から30桁の長さの16進数で、偶数の文字を含むリモート制御装置IDを指定してください。IDにはBSC制御文字を入れることはできません。

正しいBSC制御装置に電話接続が行われるように、次の指針に従われるようにお奨めします。

- リモートIDは少なくとも4文字でなければなりません。
- このIDが4文字だけの場合には、最初の2文字と最後の2文字が同じでなければなりません（たとえばF1F1や8585など）。

[トップ](#)

RJEホスト・タイプ (RJEHOST)

RJEが接続されているホストのサブシステム・タイプを指定します。

*RES

ホストはRES (リモート入力システム) です。

*JES2

ホストはJES2 (ジョブ入力サブシステム2)です。

*JES3

ホストはJES3 (ジョブ入力サブシステム3)です。

*RSCS

ホストはRSCS (リモート・スプーリング通信システム) です。

[トップ](#)

RJE ホスト・サインオン/ログオン (RJELOGON)

RJEホスト・システムのサインオン・テキストとして使用される最大80文字のテキストをアポストロフィで囲んで指定してください。このパラメーターが必要なのは、APPTYPE(*RJE)を指定した場合だけです。ホスト・システムが必要とするサインオン情報を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

この制御装置に接続できる装置の最大数は、CNNが*MPTRIBの場合には32、APPTYPEが*RJEの場合には24、他のすべての場合には1です。

[トップ](#)

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

6

6という省略時の値では3秒の遅延が提供されます。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

120 省略時の値の120では60秒の遅延となります。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

2 省略時の試行回数は2です。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

2

指定された間隔内に回復が2回試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

5

指定された回数の回復の試みが5分の間隔内に行われます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェ

クト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTCTLBSC  CTLD(BSC1)  CNN(*SWTPP)
           CNNNBR(1234567)  LCLID(020202)
           RMTID(*ANY)  SWTLINLST(BSC1)  INLCNN(*ANS)
```

このコマンドは、交換回線上でいずれのリモート・ロケーションからの呼び出しも受け入れるBSC制御装置を作成します。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の作成-金融機関 (CRTCTLFNC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

金融機関制御装置記述作成(CRTCTLFNC)コマンドは、金融機関用制御装置の制御装置記述を作成します。
このコマンドの使用の詳細については、AS/400通信構成 (SD88-5011)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
TYPE	制御装置のタイプ	*FBSS, 3694, 4701, 4702, 4730, 4731, 4732, 4736	必須, 定位置 2
MODEL	制御機構型式	0	必須, 定位置 3
LINKTYPE	リンク・タイプ	*LAN, *SDLC, *X25	必須, 定位置 4
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
SWITCHED	交換接続	*NO, *YES	オプション
SHM	短期保留モード	*NO, *YES	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
LINE	接続される非交換回線	名前	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-1033, 256, 265, 512, 521, 1033, *LINKTYPE	オプション
EXCHID	交換識別コード	00000000-FFFFFFFF	オプション
INLCNN	初期接続	*DIAL, *ANS	オプション
CNNBR	接続番号	文字値, *DC, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	*CNNBR, *ANY	オプション
SHMDSCLMT	SHM切断限界	1-254, 10, *NOMAX	オプション
SHMDSCTMR	SHM切断タイマー	2-3000, 50	オプション
STNADR	端末アドレス	01-FE	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	000000000001-FFFFFFFFFFFF	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	1980, 1984, 1988	オプション
LINKPCL	X.25 リンク・レベル・プロトコル	*QLLC, *ELLC	オプション
LGLCHLID	X.25論理チャネルID	文字値	オプション
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, X''	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
DEV	接続されている装置	値 (最大 255 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	*EBCDIC, *ASCII	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	000000000001-FFFFFFFFFFFF, 050000000000	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, 6	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, 120	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>2</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*YES</u> , *NO	オプション
POLLPTY	SDLCポーリング優先順位	<u>*NO</u> , *YES	オプション
POLLMT	SDLCポーリング限界	0-4, <u>0</u>	オプション
OUTLMT	SDLC出力限界	<u>*POLLMT</u> , 0, 1, 2, 3, 4	オプション
CNNPOLLRTY	SDLC接続ポーリング再試行	0-65534, <u>*CALC</u> , *NOMAX	オプション
NDMPOLLTMR	SDLC NDMポーリング・タイマー	0-3000, <u>*CALC</u>	オプション
DSAP	LAN DSAP	<u>04</u> , 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
SSAP	LAN SSAP	<u>04</u> , 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANCNRRTY	LAN接続再試行	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANCNTMR	LAN接続タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, <u>*CALC</u>	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, <u>*CALC</u>	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, <u>*CALC</u>	オプション
LANACPTY	LANアクセス優先順位	0-3, <u>*CALC</u>	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, <u>*NONE</u>	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	<u>*FIRST</u> , *CALC	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	<u>*LIND</u> , 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	<u>*LIND</u> , *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, <u>*LIND</u>	
	要素 2: 受信値	1-15, <u>*LIND</u> , *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	<u>*NONE</u> , *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
X25CNRRTY	X.25接続再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, <u>100</u>	オプション
X25CNTMR	X.25接続タイマー	1-2550, <u>100</u>	オプション
X25DLYTMR	X.25遅延接続タイマー	1-32767, <u>*CALC</u>	オプション
X25ACKTMR	X.25肯定応答タイマー	0-2550, <u>20</u>	オプション
X25INACTMR	X.25非活動タイマー	1-2550, <u>350</u>	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

トップ

制御装置のタイプ (TYPE)

これは必須パラメーターです。

この記述の制御装置のタイプを指定します。

*FBSS

この記述は、金融機関支店システム・サービス(FBSS)制御装置を表します。

3694

この記述は3694検査プロセッサを表します。

4701

この記述は4701金融機関用制御装置を表します。

4702

この記述は4702金融機関用制御装置を表します。

4730

この記述は4730個人用銀行端末を表します。

4731

この記述は4731個人用銀行端末を表します。

4732

この記述は4732個人用銀行端末を表します。

4736

この記述4736セルフサービス・トランザクション・マシンを表します。

制御機構型式 (MODEL)

これは必須パラメーターです。

記述される制御装置の型式番号を指定します。この番号により、システムは制御装置に備わっている機能を判別します。

トップ

リンク・タイプ (LINKTYPE)

この制御装置が接続された回線のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*LAN

この制御装置はローカル・エリア・ネットワーク(LAN)に接続されています。

*SDLC

この制御装置は、同期データ・リンク制御(SDLC)回線に接続されます。

*X25

この制御装置はX.25回線に接続されます。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

トップ

交換接続 (SWITCHED)

この制御装置が交換回線に接続されているか、トークンリング・ネットワークに接続されているか、ETHERNET LANに接続されているか、あるいはX.25 スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続されているかを指定します。TDLC回線に接続されたAPPC 制御装置の場合には、*NOを指定しなければなりません。

***NO**

この制御装置は非交換回線に接続されています。X.25パーマナント・バーチャル・サーキット(PVC)回線に接続する制御装置の場合には、この値を指定してください。

***YES**

この制御装置は交換回線に接続されます。X.25スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続された制御装置の場合には、この値を指定してください。ローカル・エリア・ネットワークに接続された制御装置の場合にも、この値を指定してください。

注: LINKTYPEが*LANである場合には、SWITCHEDパラメーター値は*YESでなければならないか、あるいは指定してはいけません。

[トップ](#)

短期保留モード (SHM)

この制御装置がX.21短期保留モード用に使用されるかどうかを指定します。*YESを指定するには、リンク・タイプ(LINKTYPE)パラメーターに*SDLC、交換接続(SWITCHED)パラメーターに*YESも指定しなければなりません。

***NO**

この制御装置は、X.21短期保留モードには使用されません。

***YES**

この制御装置は、X.21短期保留モードに使用されます。

[トップ](#)

交換網バックアップ (SNBU)

リモート・システム・モデムに交換網バックアップ(SNBU)機構があるかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換(専用回線)接続をバイパスするために使用されます。SNBUを活動化するためには、交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YESを指定することによってモデムの制御装置記述を非交換から交換に変更しなければなりません。

注: 使用しているモデム型式がIBM 386X, 586X,または786Xである場合には、制御装置記述を変更してはいけません。その代わりにモデムを手操作で非交換モードに切り替えて、手操作で接続をダイヤル呼び出ししてください。

有効な活動化を実行するためには、ローカル・モデムとリモート・モデムの両方がSNBU機能をサポートしていなければなりません。

***NO** リモート・システム・モデムにSNBU機構がありません。

***YES**

リモート・システムのモデムにはSNBU機能があります。

[トップ](#)

接続される非交換回線 (LINE)

この制御装置が接続された非交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。

注: このコマンドを入力する前に、関連の回線をオフに構成変更しなければなりません。X.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に接続する制御装置の場合には、このパラメーターを指定してください。

[トップ](#)

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

*交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

[トップ](#)

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム (パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位 (RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズはIDの交換時に折衝されるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

*LINKTYPE

各種リンク・タイプでは次の値が使用されます。*LAN - 521, *SDLC - 265, *X25 - 256。

256

*X25のフレーム・サイズ。

265

*SDLC, *LAN,または*X25のフレーム・サイズ。

512

*X25のフレーム・サイズ。

521

*SDLC, *LAN,または*X25のフレーム・サイズ。

1033

*SDLCのフレーム・サイズ。

フレーム・サイズ

フレーム・サイズを指定してください。*LANの場合、265から521の範囲の値を指定してください。*SDLCの場合、265、521、または1033を指定してください。*X25の場合、256、265、512、または521を指定してください。

注: 4730、4731、4732、4736、または3694制御装置の場合には、*LINKTYPEまたは265を指定することができません。

[トップ](#)

交換識別コード (EXCHID)

この制御装置の交換IDを指定します。制御装置は、接続を確立する時に、別のロケーションにそのIDを送信します(IDを交換します)。8桁の16進のIDには、ブロック番号用の3桁および特定制御装置用の5桁が含まれています。

制御装置	ブロック 番号	16進 ID
3694	02F	XXXXX
4701	057	XXXXX
4702	057	XXXXX
4730	043	XXXXX
4731	043	XXXXX
4732	043	XXXXX
4736	043	XXXXX
*FBSS	000-FFF	XXXXX
3601 (4701と して構成)	016	XXXXX

[トップ](#)

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

*ANS

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにISERIESシステムが応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH)、接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

[トップ](#)

接続番号 (C>NNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

*DC

X.21交換接続ネットワークで直接呼び出しが使用されています。

*ANY システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

接続番号を指定してください。

[トップ](#)

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

*C>NNBR

C>NNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

*ANY

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

[トップ](#)

SHM切断限界 (SHMDSCLMT)

このX.21短期保留モード接続に対して接続を保留できるようになる前に、リモート端末から要求される連続的な非生産的応答の数を指定します。このパラメーターは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに*YES、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合にだけ使用します。

10

接続を中断できるようになるためには、その前に10個の非生産的応答が受信されなければなりません。

*NOMAX

切断限界はありません。

SHM切断限界

接続を中断できるようになるために、その前に受信されなければならない連続した非生産的応答の数を示す1から254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)

このX.21短期保留モード制御装置の場合に、1次システムがリモート・システムとの接続を維持する最短時間を1/10秒単位で指定します。このパラメーターが有効なのは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに*YES、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合だけです。

50

基本システムは、リモート・システムとの接続状態を最小5秒間維持します。

SHM切断タイマー

0.1秒間隔の単位で2から3000の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00からFEです。

注: 00は、**リンク・タイプ (LINKTYPE)**パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: ROLEパラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。ROLEパラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

[トップ](#)

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFFFFまでです。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

[トップ](#)

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。たとえば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

[トップ](#)

X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)

この制御装置と通信するためにX.25ネットワークで使用されるリンク・レベル・プロトコルを指定します。

*QLLC

修飾論理リンク制御(QLLC)プロトコルが使用されます。

*ELLC

拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコルが使用されます。

[トップ](#)

X.25論理チャネルID (LGLCHLID)

この制御装置へのX.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に使用される論理チャネルIDを指定します。有効な項目はXYYです。ここで、

- Xは、ご使用のネットワーク・サブスクリプションに由来する論理グループ番号です。
- YYは、サブスクリプションから導き出された論理チャネル番号。論理チャネルIDはX.25回線記述で定義されたPVC論理チャネルIDの1つでなければなりません。このパラメーターには省略時の値がありません。

[トップ](#)

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワード使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりにブランクが埋め込まれます。全桁ブランクのパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。たとえば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有のIDとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40からFFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

この制御装置に接続できる装置の最大数は、4701または4702制御装置の場合には255、4730の場合には3、4731、4732、または4736制御装置の場合には2、*FBSS制御装置の場合には255、3694検査プロセッサの場合には4です。

[トップ](#)

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*EBCDIC

拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

[トップ](#)

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点IDを指定します。

050000000000

システム・サービス制御点IDの省略時の値。

システム・サービス制御点ID

システム・サービス制御点IDを12桁の16進値として指定してください。

[トップ](#)

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

6

6という省略時の値では3秒の遅延が提供されます。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

120 省略時の値の120では60秒の遅延となります。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

2 省略時の試行回数は2です。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*YES

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

*NO

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

[トップ](#)

SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)

この制御装置がポーリング時に優先権をもつかどうかを指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*NO

この制御装置にはポーリング優先順位はありません。

*YES

この制御装置はポーリング優先順位をもちます。

[トップ](#)

SDLCポーリング限界 (POLLMT)

SDLC 2次制御装置または折衝可能制御装置の場合には、ポーリングでフレームが受信されたときに、同じ制御装置に対して連続してポーリングを行う回数を指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

0

ポーリングの省略時の回数はゼロです。

ポーリング限界

ポーリング回数を指定してください。有効な値の範囲は0から4です。

[トップ](#)

SDLC出力限界 (OUTLMT)

別の端末への送信を認める前に、SDLCで端末へ最大フレーム数を送信できる連続回数を指定します。

*POLLMT

値は、SDLCポーリング限界(POLLMT)パラメーターに指定されたものと同じです。

アウト限界

0から4の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)

エラーを報告する前に、制御装置との接続をやり直す回数を指定します。

*CALC

再試行回数は、制御装置が交換の場合には7で、制御装置が非交換の場合には*NOMAXです。

*NOMAX

システムは、無制限に再試行します。

ポーリング接続再試行

再試行回数として0から65534の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SDLC NDMポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)

1次端末から2次端末へのポーリング（通常切断モード(NDM)）によって適切な応答が受信されない場合に、2次端末がポーリングされる最小間隔を指定します。

このパラメーターは、リンク・タイプが*SDLCで、制御装置の役割が2次または折衝可能で、SHMパラメーターに*NOが指定されている場合のみ有効です。

*CALC

ポーリング間隔は、システムによって計算されます。

NDMポーリング・タイマー

1から3000の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP) パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

注: *OPC制御装置は、このフィールドに上記の値を使用します。RMTSYSNAMEとDSAP の組み合わせで固有の制御装置が定義されます。これにより、2つのシステム間で複数の制御装置が存在できるようになります。

04

宛先サービス・アクセス・ポイントは省略時の04です。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

[トップ](#)

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)に割り当てられている値と一致しなければなりません。

04

システムは04の論理アドレスを使用します。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

[トップ](#)

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

*CALC

システムが制御装置に接続された回線のタイプに基づいてLANフレーム再試行値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0から254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LAN接続再試行 (LANCNRTRY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

*CALC

システムがLAN接続再試行値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0から254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがLAN応答タイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1から254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN接続タイマー (LANCNNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがLAN接続タイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

*CALC

システムがLAN肯定応答タイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。 **LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKFRQパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがLAN値非活動タイマーを決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から255の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0から127の範囲の値を指定してください。 **LAN肯定応答タイマー(LANACKTMR)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

リモート制御装置にアクセスするために使用される優先順位を指定します。数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。このパラメーターは、制御装置がTRLANに接続されている場合のみ使用されます。

*CALC

システムがLANアクセス優先順位値を決定します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0から3の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター(LANウィンドウ・ステップ)は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やすことができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーターに指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

*NONE

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

*FIRST

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

*CALC

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

[トップ](#)

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPFSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

要素1:送信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096 です。

要素2:受信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

*TRANSMIT

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096 です。

[トップ](#)

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWFSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素1:送信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。スイッチド・パーチャール・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素2:受信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

[トップ](#)

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00から99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

[トップ](#)

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

*NONE

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

*REQUEST

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

*ACCEPT

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

*BOTH

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

[トップ](#)

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

7

伝送の最大回数の省略時の値は7です。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

X.25接続再試行 (X25CNNRTY)

この制御装置に接続する時に、接続応答タイマーが切れた後で論理リンク制御(LLC) プロトコル・データ単位が送信される最大回数を指定します。

7

伝送の最大回数の省略時の値は7です。

X.25接続再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

トップ

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

100

省略時の時間は10秒です。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

トップ

X.25接続タイマー (X25CNNTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

100

省略時の時間は10秒です。

接続タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

トップ

X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)

制御装置への接続を確立するための試行の時間間隔を指定します。

*CALC

接続の確立を試みる頻度および回数を決定するためには、**X.25接続タイマー(X25CNNTMR)**パラメーターおよび**X.25接続再試行(X25CNNRTY)**パラメーターに指定する値を使用してください。

X.25遅延タイマー

1から32767の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。接続の試みはこの時間間隔で無制限に反復されます。

[トップ](#)

X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)

受信したフレームへの肯定応答の送信を遅らせる時間の長さを指定します。

20

肯定応答の送信遅延に許された時間は2秒です。

X.25肯定応答タイマー

有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。0は、遅延がないことを示します。

[トップ](#)

X.25非活動タイマー (X25INACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。有効な値は、0.1秒単位の1から2550です。

350

制御装置の非活動状態を判別するために使用される時間間隔は3.5秒です。

[トップ](#)

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

2

指定された間隔内に回復が2回試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

5

指定された回数の回復の試みが5分の間隔内に行われます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載

っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

例

```
CRTCTLFNC CTLD(FNC1) TYPE(4701) MODEL(0) LINKTYPE(*SDLC)
          LINE(FNCLINE) STNADR(C1)
```

このコマンドは、非交換SDLC回線に接続され、C1という端末アドレスをもつ4701金融機関用制御装置を構成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の作成(SNA ホスト) (CRTCTLHOST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNAホスト制御装置記述作成(CRTCTLHOST)コマンドは、システム・ネットワーク体系(SNA)ホスト制御装置の制御装置記述を作成します。このコマンドの使用の詳細については、AS/400通信構成 (SD88-5011)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
LINKTYPE	リンク・タイプ	*DLUR, *FR, *LAN, *SDLC, *X25	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
SWITCHED	交換接続	*NO, *YES	オプション
SHM	短期保留モード	*NO, *YES	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
APPN	APPN可能	*YES, *NO	オプション
LINE	接続される非交換回線	名前	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-16393, 256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 1994, 2048, 2057, 4060, 4096, 8156, 16393, *LINKTYPE	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *NETATR, *NONE, *ANY	オプション
RMTCPCNAME	リモート制御点	通信名, *ANY	オプション
ADJLNKSTN	隣接リンク端末	通信名, *NONE, *ANY	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	050000000000-05FFFFFFFF	オプション
LCLEXCHID	ローカル交換識別コード	05600000-056FFFFF, *LIND	オプション
INLCNN	初期接続	*DIAL, *ANS	オプション
DIALINIT	ダイヤル開始	*LINKTYPE, *IMMED, *DELAY	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, *DC, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	*CNNNBR, *ANY	オプション
CNNLSTOUT	発信接続リスト	名前	オプション
CNNLSTOUTE	接続リスト項目	名前	オプション
STNADR	端末アドレス	01-FE	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	000000000001-FFFFFFFF	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	1980, 1984, 1988	オプション
LINKPCL	X.25 リンク・レベル・プロトコル	*QLLC, *ELLC	オプション
LGLCHLID	X.25論理チャンネルID	文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, <u>X</u> ”	オプション
CPSSN	APPN CPセッション・サポート	* <u>YES</u> , *NO	オプション
NODETYPE	リモートAPPNノードのタイプ	* <u>ENDNODE</u> , *LENNODE, *NETNODE, *CALC	オプション
BEXROLE	分岐拡張の役割	* <u>NETNODE</u> , *ENDNODE	オプション
HPR	APPN/HPR使用可能	* <u>YES</u> , *NO	オプション
HPRPHTSWT	HPRパス・スイッチ	* <u>NO</u> , *YES	オプション
TMSGRPNBR	APPN伝送グループ番号	1-20, <u>1</u> , *CALC	オプション
MINSWTSTS	APPN最小交換状況	* <u>VRYPND</u> , *VRYON	オプション
AUTOCRTDEV	装置の自動作成	* <u>ALL</u> , *DEVINIT, *NONE	オプション
AUTODLTDEV	自動装置削除	1-10000, <u>1440</u> , *NO	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, * <u>LIND</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, * <u>LIND</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, * <u>LIND</u>	オプション
RECONTACT	オフへの構成変更の再接続	* <u>YES</u> , *NO	オプション
TEXT	テキスト‘記述’	文字値, * <u>BLANK</u>	オプション
PRIDLUS	1次DLUS名	単一値: * <u>NONE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 制御点名	通信名	
	要素 2: ネットワーク識別コード	通信名, * <u>NETATR</u>	
BKUDLUS	バックアップDLUS名	単一値: * <u>NONE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 制御点名	通信名	
	要素 2: ネットワーク識別コード	通信名, * <u>NETATR</u>	
DEPPUNAME	従属PU名	通信名, * <u>NONE</u>	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	30-2550, <u>170</u>	オプション
RECNTTMR	切断/再接続タイマー(T309)	1-2550, <u>170</u>	オプション
DEV	接続されている装置	値 (最大 254 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	* <u>EBCDIC</u> , *ASCII	オプション
IDLCWDSIZ	IDLCウィンドウ・サイズ	1-31, * <u>LIND</u>	オプション
IDLCFRMRTY	IDLCフレーム再試行	0-100, * <u>LIND</u>	オプション
IDLCRSPTMR	IDLC応答タイマー	10-100, * <u>LIND</u>	オプション
IDLCCNNRTY	IDLC接続再試行	1-100, * <u>LIND</u> , *NOMAX	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>6</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>120</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>2</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	* <u>NO</u> , *YES	オプション
DSCTMR	切断タイマー	要素リスト	オプション
	要素 1: 最小接続タイマー	0-65535, <u>170</u>	
	要素 2: 切断遅延タイマー	0-65535, <u>30</u>	
DSAP	LAN DSAP	<u>04</u> , 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SSAP	LAN SSAP	04 , 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, *CALC	オプション
LANCNNRTY	LAN接続再試行	0-254, *CALC	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, *CALC	オプション
LANCNNTMR	LAN接続タイマー	0-254, *CALC	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, *CALC	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, *CALC	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, *CALC	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, *CALC	オプション
LANACPTY	LANアクセス優先順位	0-3, *CALC	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, *NONE	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	*FIRST , *CALC	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	*LIND , 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	*LIND , *TRANSMIT , 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, *LIND	
	要素 2: 受信値	1-15, *LIND , *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	*NONE , *REQUEST , *ACCEPT , *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, 7	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, 300	オプション
X25ACKTMR	X.25肯定応答タイマー	0-2550, 20	オプション
X25INACTMR	X.25非活動タイマー	1-2550, 1050	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, 2	
	要素 2: 時間間隔	0-120, 5	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SYSVAL , *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, *CHANGE , *ALL , *USE , *EXCLUDE , *LIBCRTAUT	オプション

トップ

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

リンク・タイプ (LINKTYPE)

この制御装置が接続された回線のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*FR

この制御装置はフレーム・リレー回線に接続されています。

*LAN

この制御装置は、DDI, ETHERNET,またはトークンリング・ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)回線に接続されています。

*SDLC

この制御装置は、同期データ・リンク制御(SDLC)回線に接続されます。

*X25

この制御装置はX.25回線に接続されます。

*DLUR

この制御装置は従属LU要求元端末(DLUR)機能に使用され、回線が接続されません。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

[トップ](#)

交換接続 (SWITCHED)

この制御装置が交換回線に接続されているか、トークンリング・ネットワークに接続されているか、ETHERNET LANに接続されているか、あるいはX.25 スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続されているかを指定します。TDLC回線に接続されたAPPC 制御装置の場合には、*NOを指定しなければなりません。

*NO

この制御装置は非交換回線に接続されています。X.25パーマナント・バーチャル・サーキット(PVC)回線に接続する制御装置の場合には、この値を指定してください。

*YES

この制御装置は交換回線に接続されます。X.25スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続された制御装置の場合には、この値を指定してください。ローカル・エリア・ネットワークに接続された制御装置の場合にも、この値を指定してください。

注: LINKTYPEが*LANである場合には、SWITCHEDパラメーター値は*YESでなければならないか、あるいは指定してはいけません。

トップ

短期保留モード (SHM)

この制御装置がX.21短期保留モード用に使用されるかどうかを指定します。*YESを指定するには、リンク・タイプ(LINKTYPE)パラメーターに*SDLC、交換接続(SWITCHED)パラメーターに*YESも指定しなければなりません。

*NO

この制御装置は、X.21短期保留モードには使用されません。

*YES

この制御装置は、X.21短期保留モードに使用されます。

トップ

交換網バックアップ (SNBU)

リモート・システム・モデムに交換網バックアップ(SNBU)機構があるかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換（専用回線）接続をバイパスするために使用されます。SNBUを活動化するためには、交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)パラメーターに*YESを指定することによってモデムの制御装置記述を非交換から交換に変更しなければなりません。

注: 使用しているモデム型式がIBM 386X, 586X,または786Xである場合には、制御装置記述を変更してはいけません。その代わりにモデムを手操作で非交換モードに切り替えて、手操作で接続をダイヤル呼び出ししてください。

有効な活動化を実行するためには、ローカル・モデムとリモート・モデムの両方がSNBU機能をサポートしていなければなりません。

***NO** リモート・システム・モデムにSNBU機構がありません。

***YES**

リモート・システムのモデムにはSNBU機能があります。

[トップ](#)

APPN可能 (APPN)

ローカル・システムがこの制御装置と通信する時に拡張対等通信ネットワークング(APPN)機能を使用するかどうかを指定します。TDL回線に接続されたAPPC制御装置の場合には*YESを指定しなければなりません。

***YES**

この制御装置はAPPN用です。

***NO**

この制御装置はAPPN用ではありません。

[トップ](#)

接続される非交換回線 (LINE)

この制御装置が接続された非交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。

注: このコマンドを入力する前に、関連の回線をオフに構成変更しなければなりません。X.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に接続する制御装置の場合には、このパラメーターを指定してください。

[トップ](#)

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

***交換回線名**

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

[トップ](#)

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム（パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位 (RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズはIDの交換時に折衝されるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

*LINKTYPE

各種タイプでは次の値が使用されます。

- *FR - 1590
- *IDLC - 2048
- *LAN - 16393
- *SDLC - 521
- *X25 - 1024

最大フレーム・サイズ

制御装置のフレーム・サイズを指定してください。使用できるフレーム・サイズは、使用中の回線のタイプによります。各回線タイプに有効なフレーム・サイズは次の通りです。*FRの場合、265から8182の範囲の値を指定してください。*IDLCの場合、265から8196の範囲の値を指定してください。*LANの場合、265から16393 (DDI LAN では265から4444)の範囲の値を指定してください。*SDLCの場合、265, 521, 1033, または2057を指定してください。*X25の場合、256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 2048,または4096を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

隣接した制御点があるリモート・ネットワークの名前を指定します。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

*NONE

リモート・ネットワークID (ID)は使用されません。

*ANY

システムが使用されるリモート・ネットワークIDを決定します。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークIDを指定してください。

[トップ](#)

リモート制御点 (RMTCPNAME)

リモート・システムの制御点名を指定します。

***ANY**

システムが使用されるリモート制御点の名前を決定します。

リモート制御点名

リモート制御点名を指定してください。

[トップ](#)

隣接リンク端末 (ADJLNKSTN)

隣接したリンク端末の名前を指定します。この名前は、ホストS/370システムとのリンクを確立するのに使用されるISERIESシステム上の交換制御装置記述を識別するために、システムによって使用されます。ISERIESシステムの隣接したリンク端末名がリンクの活動化中にホスト・システムで指定された名前と一致していなければなりません。

***NONE**

隣接リンク端末名は指定されません。

***ANY**

システムが使用される隣接リンク端末を決定します。

隣接リンク端末名

隣接リンク端末名を指定してください。

[トップ](#)

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点IDを指定します。

注: システム・サービス制御点ID (SSCPID)は12桁の16進値で、最初の2桁は16進数05です。APPN(*YES)およびNODETYPE(*LENNODE)を指定した場合、あるいはAPPN(*NO)を指定したが、RMTCPNAMEを指定していない場合には、SDLC交換およびSNBUではこのパラメーターは必須です。SHM(*YES)を指定した場合には、このパラメーターも指定しなければなりません。

システム・サービス制御点ID

システム・サービス制御点IDを12桁の16進値として指定してください。

[トップ](#)

ローカル交換識別コード (LCLEXCHID)

リモート・システムに対してローカル・システムを識別するために使用される番号を指定します。注:

このパラメーターは次の条件のいずれかの場合に必要です。

1. ISERIESシステムとSNAホスト・システムの間で並行接続が必要な場合。
2. 従属型物理装置名(DEPPUNAME)パラメーターが指定されていない場合に、従属型LU要求元(DLUR)のサポート(LINKTYPE(*DLUR))用とする。

*LIND

システムは、この制御装置記述に関連したEXCHIDパラメーターの回線記述に指定された交換IDを使用します。

ローカル交換ID

ローカル交換IDを指定してください。この8桁の16進数の最初の3桁はブロック番号を識別し、残り5桁はシステムを識別します。

[トップ](#)

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

*ANS

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにISERIESシステムが応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

[トップ](#)

ダイヤル開始 (DIALINIT)

システムとリモート制御装置の間の交換回線で最初にダイヤルを行うために使用される方式を指定します。

*LINKTYPE

開始する接続のタイプはLINKTYPEパラメーターに指定します。LANまたはSDLC ダイヤル短期保留モード接続の場合には、省略時の値で制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちに接続のダイヤル呼び出しが行われます。他のすべてのリンク・タイプの場合、省略時の値ではダイヤル呼び出しが遅延されます。

*IMMED

制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちにダイヤル接続が開始されます。

***DELAY**

ダイヤル接続は、リモート制御装置資源の使用を要求するジョブが開始されるまで遅延されます。

[トップ](#)

接続番号 (C>NNNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

***DC**

X.21交換接続ネットワークで直接呼び出しが使用されています。

***ANY** システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

接続番号を指定してください。

[トップ](#)

返答番号 (AN)SNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

***C>NNNBR**

C>NNNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

***ANY**

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

発信接続リスト (CN)NLSTOUT)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへのダイヤル呼び出し操作のISDN割り当て番号が入っている接続リスト・オブジェクトの名前を指定します。

リスト・オブジェクト

接続リスト・オブジェクトの名前を指定してください。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続リスト項目 (CNLSTOUTE)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへの呼び出しを行うために使用する接続リストからの項目名を指定します。この接続リストは、**発信接続リスト(CNLSTOUT)**パラメーターで識別されていなければなりません。

項目名

項目名を指定してください。

トップ

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00からFEです。

注: 00は、**リンク・タイプ (LINKTYPE)**パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: **ROLE**パラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。**ROLE**パラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

トップ

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFまでです。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

トップ

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。たとえば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988標準が使用されます。

[トップ](#)

X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)

この制御装置と通信するためにX.25ネットワークで使用されるリンク・レベル・プロトコルを指定します。

*QLLC

修飾論理リンク制御(QLLC)プロトコルが使用されます。

*ELLC

拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコルが使用されます。

[トップ](#)

X.25論理チャネルID (LGLCHLID)

この制御装置へのX.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に使用される論理チャネルIDを指定します。有効な項目はXYYです。ここで、

- Xは、ご使用のネットワーク・サブスクリプションに由来する論理グループ番号です。
- YYは、サブスクリプションから導き出された論理チャネル番号。論理チャネルIDはX.25回線記述で定義されたPVC論理チャネルIDの1つでなければなりません。このパラメーターには省略時の値がありません。

[トップ](#)

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワード使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりに空白が埋め込まれます。全桁空白のパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。たとえば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この

拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有のIDとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40からFFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

[トップ](#)

APPN CPセッション・サポート (CPSSN)

この制御装置が制御点相互間のセッションをサポートするかどうかを指定します。

*YES

この制御装置は制御点間のセッションをサポートします。

*NO

この制御装置は、制御点間のセッションをサポートしません。

[トップ](#)

リモートAPPNノードのタイプ (NODETYPE)

この制御装置が表すAPPNノードのタイプを指定します。

*ENDNODE

このノードは、APPNネットワーク中のエンド・ノードです。

*LENNODE

このノードは、APPNネットワーク中のローエントリー・ネットワークング・ノードです。

*NETNODE

このノードは、APPNネットワーク中のネットワーク・ノードです。

*CALC

システムがこの制御装置で表されるノードのタイプを決定します。

[トップ](#)

分岐拡張の役割 (BEXROLE)

構成するリモート制御装置のAPPNネットワークで、ローカル・システムの役割を指定します。このパラメーターは、*BEXNODEに設定されるネットワーク属性でNODETYPEパラメーターを介して、ローカル・システムが分岐拡張機能を使用できるようになった時にだけ使用されます。

*NETNODE

ローカル・システムは、リモート制御装置に対してネットワーク・ノードの役割をもちます。

***ENDNODE**

ローカル・システムは、リモート制御装置のエンド・ノードの役割をもちます。

トップ

APPN/HPR使用可能 (HPR)

この制御装置との通信時に、ローカル・システムがAPPNハイ・パフォーマンス・ルーティング(HPR) を使用できるかどうかを指定します。HPRを使用できるようにするためには、制御装置記述にAPPN(*YES) を指定しなければなりません。HPR(*YES)を指定する場合には、交換回線リストによって指定された回線のMAXFRAMEパラメーターの値が768より大きいか等しくなければなりません。そうでない場合には、この接続についてHPRは使用可能となりません。

***YES**

ローカル・システムはHPRを使用することができ、HPRフローはこの制御装置で定義されたリンク上で進行することができます。

***NO**

ローカル・システムはHPRを使用することができず、HPRフローはこの制御装置の省略時のリンク上で進行することはできません。

トップ

HPRパス・スイッチ (HPRPTHSWT)

この制御装置がオフに構成変更された時点でこの制御装置と関連したHPR接続のパスを切り替える試みが行なわれるかどうかを指定します。パス・スイッチが試みられなかったり、あるいは使用可能なその他のパスがなかった場合には、HPR接続と関連したジョブは終了されます。詳細については、[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERにあるAPPNサポート情報を参照してください。

***NO**

この制御装置がオフに構成変更されると、この制御装置に関連したHPR接続に経路切り換えは行われません。HPR接続と関連したジョブは終了されます。

***YES**

この制御装置がオフに構成変更されると、この制御装置に関連したHPR接続の経路切り換えが試みられません。

トップ

APPN伝送グループ番号 (TMSGRPNBR)

この制御装置の伝送グループ番号を指定します。

1

省略時の伝送グループは1です。

***CALC**

システムが伝送グループ番号の値を指定します。

伝送グループ番号

伝送グループ番号として1から20の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

APPN最小交換状況 (MINSWTSTS)

APPNが経路指定に使用可能な制御装置と見なすように、交換接続の最小状況を指定します。

***VRYONPND**

状況が「オンに構成変更保留中」、**「オンに構成変更」**、または**「活動状態」**である場合にのみ、APPNは制御装置を経路指定用に使用可能と見なします。

***VRYON**

状況が**「オンに構成変更」**または**「活動状態」**である場合にのみ、APPNは制御装置を経路指定用に使用可能と見なします。

[トップ](#)

装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)

この制御装置記述で装置記述を自動的に作成できるかどうかを指定します。

***ALL**

この制御装置に自動的に作成可能なすべての従属装置は、APPC装置を除いて自動的に作成されます。

***DEVINIT**

セッション印刷装置およびSNAホスト制御装置によって開始された（装置開始）表示装置だけが自動的に作成されます。

***NONE**

この制御装置の従属装置は自動的に作成されることはありません。

[トップ](#)

自動装置削除 (AUTODLTDEV)

自動的に作成された装置がアイドル状態になっていられる（その装置に対して活動状態の会話がないうち）時間（分数）を指定します。この時間が経過すると、システムはその装置記述を自動的にオフに構成変更し、削除します。

1440

1440分(24時間) 経過すると、システムは、自動構成されたアイドルの装置記述を自動的にオフに構成変更して、削除します。

***NO**

システムは、アイドル状態の自動構成装置記述を自動的にオフに構成変更して、削除することはありません。

待機時間

この制御装置のアイドルの自動構成装置記述を削除するまでに、待機する分数を指定してください。有効な値の範囲は1から10,000です。

[トップ](#)

ユーザー定義1 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*LIND

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義2 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*LIND

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義3 (USRDFN)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*LIND

回線記述に指定されたユーザー定義値が使用されます。

ユーザー定義

0から255の範囲の値を指定してください。

トップ

オフへの構成変更の再接続 (RECONTACT)

ISERIES制御装置記述の通常のオフへの構成変更が実行された時に、ホスト・システムに再接続の要求を送るかどうかを指定します。

注: このパラメーターはX.25およびSDLC専用回線の場合にのみ有効です(LINKTYPEパラメーターに*X.25または*SDLCを指定し、SWITCHEDパラメーターに*NOを指定した場合)。

*YES

リモート・システムへの再接続要求が送信されます。

*NO

リモート・システムへの再接続要求は送信されません。この値を指定すると、リモート・システムに対して非活動状態の状況が示されます。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

1次DLUS名 (PRIDLUS)

1次従属LUサーバー(DLUS)名およびネットワークIDを指定します。

名前はXXXXXXXX YYYYYYYYの形式です。これは、CP名となる接頭部とリモートDLUSが常駐するAPPNネットワーク（サブネット）のネットワークIDとなる接尾部からなります。DLUSがISERIESシステムと同じネットワークにある場合には、ユーザーはCP名を定義するだけです。使用される省略時のネットワークIDは、ネットワーク属性に指定されたローカル・ネットワークIDです。

ISERIES DLURホスト制御装置が優先的に通信するリモートDLUSシステム・サービス制御点(SSCP)のネットワークで修飾したCP名。このパラメーターを指定し、ISERIES DLUR制御装置が初期接続*DIALとして構成されている場合には、ISERIESはまず活動化要求をこのDLUSに送信します。

省略時の値は*NONEですが、初期接続が*DIAL INLCNN(*DIAL)である場合には、このパラメーターは必須パラメーターとなります。

要素1: 1次DLUS名

*NONE

1次CP名は指定されません。

1次DLUS名

1次従属LUサーバーの名前を指定してください。

要素2: ネットワークID

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

ネットワークID

従属LUサーバーのネットワークIDを指定してください。

[トップ](#)

バックアップDLUS名 (BKUDLUS)

バックアップ従属LUサーバー(DLUS)名およびネットワークIDを指定します。

名前はXXXXXXXX YYYYYYYYの形式です。これは、CP名となる接頭部とリモートDLUSが常駐するAPPNネットワーク（サブネット）のネットワークIDとなる接尾部からなります。DLUSがISERIESシステムと同じネットワークにある場合には、ユーザーはCP名を定義するだけです。使用される省略時のネットワークIDは、ネットワーク属性に指定されたローカル・ネットワークIDです。

ISERIES DLURホスト制御装置が優先的に通信するリモートDLUSシステム・サービス制御点(SSCP)のネットワークで修飾したCP名。このパラメーターを指定し、ISERIES DLUR制御装置が初期接続*DIALとして構成されている場合には、ISERIESはまず活動化要求をこのDLUSに送信します。

省略時の値は*NONEですが、初期接続が*DIAL INLCNN(*DIAL)である場合には、このパラメーターは必須パラメーターとなります。

要素1: バックアップDLUS名

*NONE

バックアップCP名は指定されません。

バックアップDLUS名

バックアップ従属LUサーバーの名前を指定してください。

要素2:ネットワークID

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

ネットワークID

バックアップ従属LUサーバーのネットワークIDを指定してください。

[トップ](#)

従属PU名 (DEPPUNAME)

接続用の追加の機密保護を提供している、DLURで使用される従属型物理装置(PU) 名を指定します。

この名前が指定されている場合には、DLUSノードからの活動化要求(SNA ACTPU) はこの名前を参照しなければなりません。さもないと、拒否されます。

ISERIES DLURノードがリモートDLUSノードとのセッションを開始すると(INLCNN(*DIAL)), 従属PU名がDLUSに送られ、DLUSはACTPU要求時にその名前を戻します。

リモートDLUSノードがそのDLUSノード上の事前定義の活動化によってISERIES DLURホスト制御装置とのセッションを開始した場合には、従属PU名とDLUSに指定されたPU名についての精密な調整が必要となります。

このパラメーターが指定されなかった場合には、制御装置のローカル交換IDおよびリモートCP名パラメーターの検査が行われます。

***NONE**

ロケーション名は定義されません。

従属PU名

DLURアプリケーションに使用される従属PU名を指定してください。

[トップ](#)

30-2550 (秒) (ACTTMR)

このタイマーは、システムがリモートDLUSノード (初期接続*DIAL)とのセッションの活動化を試みる時に使用されます。これは、システムがリモートDLUSからの応答を待機する時間です。

このパラメーターは、回復限界(CMNRCYLMT)のカウンタ限界およびタイマー間隔と一緒に使用されます。各試みごとに (カウンタ限界まで), 活動化要求 (活動化タイマーで時間設定) が行われます。試みと試みの間に、システムは新しい活動化要求を試みる前に、タイマー間隔の間待機します (システムが、再試行エラー・メッセージを受信する前にタイムアウトになるものと仮定した場合)。

1次DLUSに対する試みで3つのパラメーターが使用され、カウント限界を超えると、システムはリセットして、バックアップDLUS（構成されている場合）に対して同じ再試行限界カウントを試みます。構成されたすべてのDLUSノードに対する再試行限界カウントが使い果たされると、エラー・メッセージがQSYSOPRメッセージ・ログに送られますが、このメッセージには活動化手順全体をやり直すためのオプションがあります。

170

170秒という省略時の値が使用されます。

活動タイマー値

30から2550（秒数）の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

切断／再接続タイマー(T309) (RECNNTMR)

このタイマーは、リモートDLUSノードに対するセッションで障害が起こった時に使用されます。これは、DLUSノードが活動化要求をホスト・システムに送り戻すのをホスト・システムDLURサポートが待機する時間です。このタイマーが切れると、ホスト・システムは次のことを行ないます。

- ISERIES DLURホスト制御装置がINLCNN(*DIAL)に構成されている場合：
 1. DLURサポートは、セッション障害が起こった時点でシステムが接続されていたDLUSノードとのセッションの活動化を1回試みます。
 2. この試みが失敗した場合には、再試行オプションのあるQSYSOPRメッセージ・ログ中のエラー・メッセージが表示されます。再試行を選択した場合には、構成された1次／バックアップDLUSを介してもう一度活動化要求が送られます。
- ISERIES DLURホスト制御装置がINLCNN(*ANS)に構成されている場合：
 1. DLUR制御装置はDLUSノードからの活動化の試みを待機します。

170

170秒という省略時の値が使用されます。

再接続タイマー値

30から2550（秒数）の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

この制御装置には最大254の装置を接続することができます。

[トップ](#)

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*EBCDIC

拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)

IDLC回線に接続された制御装置と送受するためのウィンドウ・サイズを指定します。

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

ウィンドウ・サイズ

ウィンドウ・サイズを指定してください。有効な値の範囲は1から31です。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)

エラーを報告する前にフレームの送信を試みる最大試行回数を指定します。

*LIND

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

IDLCフレーム再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0から100です。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)

肯定応答が受信されない場合にフレームの再送信までの待機時間を1/10秒単位で指定します。

*LIND

回線記述に指定された時間が使用されます。

IDLC応答タイマー

時間の長さを指定してください。有効な値の範囲は10分の1秒単位で10から100です。たとえば、1秒の10分の100秒は10秒と等しくなります。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC接続再試行 (IDLCCNNRTY)

接続時に再送信を試みる回数を指定します。

*LIND

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

*NOMAX

正常な送信が行われるまで続行することを指示します。

接続再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は1から100です。

[トップ](#)

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

6

6という省略時の値では3秒の遅延が提供されます。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

120 省略時の値の120では60秒の遅延となります。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

2 省略時の試行回数は2です。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*NO

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

*YES

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

[トップ](#)

切断タイマー (DSCTMR)

活動のない接続が除去されるまでの時間（秒数）、または自動切断を遅延させる時間量を制御するオプションを指定します。回線を除去したくない場合には、SWTDSCパラメーターに*NOを指定してください。

要素1:最小接続タイマー

170

接続は、170秒間非活動状態になっていると切断されます。

切断タイマー

切断前の待機時間を指定してください。有効な値の範囲は0から65535秒です。

要素2:切断遅延タイマー

30

切断は30秒間遅延されます。

切断遅延タイマー

制御装置で最後のセッションが停止された後で、リンク解放を遅延する値を指定してください。有効な値の範囲は0から65535秒です。

注: V2R1M1以前のシステムから移行されたオブジェクトの場合、切断遅延タイマーはゼロという値をもちます。この値は、システムによって30秒として解釈されます。

[トップ](#)

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP) パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

注: *OPC制御装置は、このフィールドに上記の値を使用します。RMTSYSNAMEとDSAP の組み合わせで固有の制御装置が定義されます。これにより、2つのシステム間で複数の制御装置が存在できるようになります。

04

宛先サービス・アクセス・ポイントは省略時の04です。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

[トップ](#)

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP) に割り当てられている値と一致しなければなりません。

04

システムは04の論理アドレスを使用します。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

*CALC

システムが制御装置に接続された回線のタイプに基づいてLANフレーム再試行値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0から254の範囲の値を指定してください。

トップ

LAN接続再試行 (LANCNRRTY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

*CALC

システムがLAN接続再試行値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0から254の範囲の値を指定してください。

トップ

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがLAN応答タイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1から254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

トップ

LAN接続タイマー (LANCNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがLAN接続タイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

*CALC

システムがLAN肯定応答タイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKFRQパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがLAN値非活動タイマーを決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から255の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0から127の範囲の値を指定してください。 **LAN肯定応答タイマー(LANACKTMR)** パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。

LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

リモート制御装置にアクセスするために使用される優先順位を指定します。数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。このパラメーターは、制御装置がTRLANに接続されている場合にのみ使用されます。

*CALC

システムがLANアクセス優先順位値を決定します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0から3の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター(LANウィンドウ・ステップ)は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やすことができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーターに指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

*NONE

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

*FIRST

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

*CALC

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

[トップ](#)

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

要素1:送信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096 です。

要素2:受信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

*TRANSMIT

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

[トップ](#)

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素1:送信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素2:受信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

[トップ](#)

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00から99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

[トップ](#)

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

*NONE

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

*REQUEST

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

*ACCEPT

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

*BOTH

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

[トップ](#)

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

7

伝送の最大回数の省略時の値は7です。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

300

肯定応答を戻すのに許された時間は30秒です。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

[トップ](#)

X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)

受信したフレームへの肯定応答の送信を遅らせる時間の長さを指定します。

20

肯定応答の送信遅延に許された時間は2秒です。

X.25肯定応答タイマー

有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。0は、遅延がないことを示します。

[トップ](#)

X.25非活動タイマー (X25INACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。有効な値は、0.1秒単位の1から2550です。

1440

制御装置の非活動状態を判別するために使用される時間間隔は10.5秒です。

[トップ](#)

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

2

指定された間隔内に回復が2回試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

5

指定された回数の回復の試みが5分の間隔内に行われます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

このコマンドの使用の詳細については、COMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)を参照してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を

実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTCTLHOST  CTLD(HOST1)  LINKTYPE(*LAN)  SWTLINLST(LAN1)
              RMTCPNAME(CPX)  ADPTADR(056000000011)
```

このコマンドは、ローカル・エリア・ネットワーク上にホスト制御装置を作成します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の作成(ローカル WS) (CRTCTLLWS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ローカル・ワークステーション制御装置記述の作成(CRTCTLLWS)コマンドにより、ローカル・ワークステーション制御装置の制御装置記述が作成されます。

注: 拡張無線制御装置構成データは、それぞれINZFILEおよびINZMBRパラメーターで指定したソース・ファイルおよびメンバーに入っています。制御装置をオンに構成変更すると、この構成データが無線アダプターにダウンロードされます。INZPGM(QZXCINZ)およびINZFILE(QEWC SRC)を使用し、INZMBRパラメーターに有効な値を指定することをお勧めします。拡張無線制御装置構成データのダウンロードの詳細については、AS/400 LAN,フレームおよびATMサポート (SD88-5012)を参照してください。

このコマンドの使用法の詳細は、AS/400装置構成 (SD88-5003)にあります。

制約事項:このコマンドを使用するには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
TYPE	制御装置のタイプ	文字値	必須, 定位置 2
MODEL	制御機構型式	文字値, 1, 0001, 2, 0002	必須, 定位置 3
RSRCNAME	資源名	名前	必須, 定位置 4
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前, *NONE	オプション
INZPGM	初期設定プログラム	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 初期設定プログラム	名前, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
DEV	接続されている装置	値 (最大 120 回の繰り返し): 名前	オプション
DEVWAITMR	入出力装置待ちタイマー	2-600, 10	オプション
AUTOCFG	自動構成制御装置	*NO, *YES	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	

[トップ](#)

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

制御装置のタイプ (TYPE)

これは必須パラメーターです。

この記述の制御装置のタイプを指定します。

2637

9402システム上のASCIIローカル・ワークステーション制御装置。

2638

9402システム上の平衡型ローカル・ワークステーション制御装置

2661

9402システム上の平衡型ローカル・ワークステーション制御装置

266A

無線装置のローカル・ワークステーション制御装置が使用されます。

266C

ローカル・ワークステーション制御装置。

2722

ローカル・ワークステーション制御装置。

2746

平衡型ワークステーション制御装置。

2747

平衡型ワークステーション制御装置。

6040

378 IBM Systems - iSeries: i5/OS コマンド CPYIGCTBL (DBCS フォント・テーブルのコピー) での開始

9406システム上の平衡型ローカル・ワークステーション制御装置。

6041

9406システム上のASCIIローカル・ワークステーション制御装置。

6050

9402, 9404,または9406システム上の平衡型ローカル・ワークステーション制御装置。

6054

9402, 9404,または9406システム上の平衡型ローカル・ワークステーション制御装置。

6055

9402, 9404,または9406システム上の平衡型ローカル・ワークステーション制御装置。

6056

9402, 9404,または9406システム上の平衡型ローカル・ワークステーション制御装置。

6140

9404システム上の平衡型ローカル・ワークステーション制御装置。

6141

9404システム上のASCIIローカル・ワークステーション制御装置。

6180

ローカル・ワークステーション制御装置。

6A58

9401, 9402, 9404,または9406システム上のローカル・ワークステーション制御装置。

6A59

9401, 9402, 9404,または9406システム上のローカル・ワークステーション制御装置。

915A

9406-3XXシステムのローカル・ワークステーション制御装置が使用されます。

916A

9406-3XXシステムのローカル・ワークステーション制御装置が使用されます。

9173

9402-2XXシステムのLOCALTALKワークステーション・アダプターが使用されます。

[トップ](#)

制御機構型式 (MODEL)

これは必須パラメーターです。

ワークステーション制御装置のモデルを指定します。制御装置タイプ6A58および6A59の場合には、モデル0001はローカル・ワークステーション制御装置で、モデル0002はオペレーション・コンソール用です。他のすべての制御装置タイプはモデル0001のみを使用します。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

[トップ](#)

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

構成初期設定データが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

注: このコマンドの説明の始めで説明したように拡張無線制御装置構成データを無線アダプターにダウンロードする時には、INZFILEおよびINZMBRパラメーターが必要です。

*NONE

初期設定ファイル名は指定されません。

初期設定ファイルの名前は、次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

初期設定ファイル名

初期設定データが入っているソース・ファイルの名前を指定します。このパラメーターには*NONEの値が受け入れられます。この制御装置記述をオンに構成変更する前にソース・ファイル名が追加されていない場合には、現行のIOPの省略時の値が初期設定に使用されます。

[トップ](#)

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

構成初期設定データが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します(266A制御装置の場合のみ)。

注: このコマンドの説明の始めて説明したように拡張無線制御装置構成データを無線アダプターにダウンロードする時には、INZFILEおよびINZMBRパラメーターが必要です。

*NONE

ソース・ファイル・メンバーは指定されません。

初期設定メンバー名

初期設定データが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このパラメーターには*NONEの値が受け入れられます。この制御装置記述をオンに構成変更する前にソース・メンバー名が追加されていない場合には、現行のIOPの省略時の値が使用されます。

[トップ](#)

初期設定プログラム (INZPGM)

構成の初期設定データを管理するプログラムの名前を指定します。

注: 2663無線アダプターの場合は、INZPGM(QZXCINZ)を指定されるようお奨めします。INZFILEおよびINZMBRの値の結果は、回線がオンに構成変更された時に、拡張無線回線メンバーの変更(CHGEWLM)コマンドに渡されます。

*NONE

初期設定プログラム名は指定されません。

初期設定プログラムの名前は、次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

初期設定プログラム名

構成初期設定データを管理するプログラムの名前を指定してください。プログラム名を指定した場合には、この制御装置記述が作成される時に、このプログラムが呼び出されます。構成初期設定データを含むソース・ファイルおよびメンバーの名前がパラメーターとしてこのプログラムに渡されます。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

次のリストには各制御装置に接続できる装置記述の最大数および各制御装置で活動状態にできる装置の数を示しています。

制御装置

装置記述／活動装置

2661	120/40
266A	56/56
2637	24/24
2638	56/24
6040	56/40
6041	36/18
6050	120/40
6054	56/56
6055	56/56
6056	56/56
6140	56/40
6141	36/18
6A58	1/1
6A59	1/1
915A	56/40
916A	56/40

入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)

装置待機タイムアウト値を指定します。この値を用いて、サブシステムがワークステーション入出力の完了に要する見込み時間の長さを限定します。各装置に使用されるタイムアウト値は、オンに構成変更された時点で、接続している制御装置から得られます。このパラメーター値を変更すると、接続装置が次にオンに構成変更された時点で影響が出ます。

10

ローカル制御装置の場合、サブシステムはこの制御装置に接続された各ワークステーションの入出力の完了を最大10秒待機します。

装置待ちタイマー

サブシステムがこの制御装置に接続されたすべてのワークステーションでワークステーション入出力の完了を待機する最大秒数を指定する2から600の範囲の値を指定してください。

このパラメーターに値を選択する時には、制御装置に接続される装置のタイプを考慮してください。ローカルに接続されるワークステーションでは、このパラメーターは低い値(10秒以下) にしてください。

トップ

自動構成制御装置 (AUTOCFG)

この制御装置記述が装置の自動構成時に、その装置が接続される記述であるかどうかを指定します。各制御装置には複数の制御装置記述が存在することができますが、自動構成制御装置となることができるのは1つの記述だけです。その制御装置で新しい装置が自動的に構成されると、その装置は自動構成制御装置記述に追加されます。

*NO

これは、自動構成制御装置ではありません。

*YES

これは自動構成制御装置です。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

このコマンドの使用の詳細については、COMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)を参照してください。

トップ

例

```
CRTCTLLWS  CTLD(MYCTLR)  TYPE(6050)  MODEL(1)  RSRcname(CTL02)
            INZFILE(*LIBL/MYFILE)  INZMBR(MBR2)
```

このコマンドは、名前がMYCTLRで、資源名がCTL02の6050-1型ローカル・ワークステーション制御装置記述を作成します。ソース・ファイルMYFILE中のソース・メンバーMBR2に構成初期設定データが入れられます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPD2761

型式がこの制御装置タイプに対して正しくない。

CPD2787

この制御装置タイプには、接続装置が多すぎる。

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の作成(ネットワーク) (CRTCTLNET)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク制御装置記述の作成(CRTCTLNET)コマンドは、ネットワーク制御装置の制御装置記述を作成します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*YES</u> , *NO	オプション
LINE	接続回線	名前	オプション
CNNRSPTMR	応答タイマーの接続	1-3600, <u>170</u>	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
DEV	接続されている装置	値 (最大 255 回の繰り返し); 名前	オプション
AUT	権限	名前, <u>*CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

[トップ](#)

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

接続回線 (LINE)

この制御装置が接続された非交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。

トップ

応答タイマーの接続 (CNNRSPTMR)

システムが送られてきた接続要求に応答する前に待つ時間の長さを指定します。

170

システムは、着信接続要求に応答するまで170秒間待機します。

接続応答タイマー

システムが着信接続要求に応答する前に待機する時間の長さを指定してください。有効な値の範囲は1から3600秒です。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される最大255の装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTCTLNET  CTLD(CTL0A)  LINE(LIN01)
```

このコマンドは、名前がCTL0Aのネットワーク制御装置記述を作成します。既存の回線LIN01が制御装置のネットワーク回線として指定されています。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の作成（小売業）(CRTCTLRTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

小売業制御装置記述の作成(CRTCTLRTL)コマンドは小売業制御装置の制御装置記述を作成します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
TYPE	制御装置のタイプ	3651, 3684, 4680, 4684	必須, 定位置 2
MODEL	制御機構型式	0	必須, 定位置 3
LINKTYPE	リンク・タイプ	*SDLC, *X25, *LAN	必須, 定位置 4
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
SWITCHED	交換接続	*NO, *YES	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
LINE	接続される非交換回線	名前	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-1994, 256, 265, 512, 521, 1024, 1033, 1994, *LINKTYPE	オプション
EXCHID	交換識別コード	00100000-FFFFFFF	オプション
INLCNN	初期接続	*DIAL, *ANS	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	*CNNNBR, *ANY	オプション
STNADR	端末アドレス	01-FE	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	000000000001-FFFFFFFF	オプション
DSAP	LAN DSAP	04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
SSAP	LAN SSAP	04, 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	1980, 1984, 1988	オプション
LGLCHLID	X.25論理チャネルID	文字値	オプション
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, *X'	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
DEV	接続されている装置	値 (最大 254 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	*EBCDIC, *ASCII	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	000000000001-FFFFFFFF, 050000000000	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, 6	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>120</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>2</u>	オプション
SWTDSC	交換回線切断	*YES, *NO	オプション
POLLPTY	SDLCポーリング優先順位	*NO, *YES	オプション
POLLMT	SDLCポーリング限界	0-4, <u>0</u>	オプション
OUTLMT	SDLC出力限界	*POLLMT, 0, 1, 2, 3, 4	オプション
CNNPOLLRTY	SDLC接続ポーリング再試行	0-65534, *CALC, *NOMAX	オプション
NDMPOLLTMR	SDLC NDMポーリング・タイマー	0-3000, *CALC	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, *CALC	オプション
LANCNRRTY	LAN接続再試行	0-254, *CALC	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, *CALC	オプション
LANCNTMR	LAN接続タイマー	0-254, *CALC	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, *CALC	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, *CALC	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, *CALC	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, *CALC	オプション
LANACPTY	LANアクセス優先順位	0-3, *CALC	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, *NONE	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	*FIRST, *CALC	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	*LIND, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	*LIND, *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, *LIND	
	要素 2: 受信値	1-15, *LIND, *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	*NONE, *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
X25CNRRTY	X.25接続再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, <u>100</u>	オプション
X25CNTMR	X.25接続タイマー	1-2550, <u>100</u>	オプション
X25DLYTMR	X.25遅延接続タイマー	1-32767, *CALC	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

制御装置のタイプ (TYPE)

これは必須パラメーターです。

この記述の制御装置のタイプを指定します。

3651

この記述は3651制御装置を表します。

3684

この記述は3684制御装置を表します。

4680

この記述は4680制御装置を表します。

4684

この記述は4684制御装置を表します。

注: 4690の場合には、制御装置タイプとして4680を指定してください。

[トップ](#)

制御機構型式 (MODEL)

これは必須パラメーターです。

記述される制御装置の型式番号を指定します。この番号により、システムは制御装置に備わっている機能を判別します。

[トップ](#)

リンク・タイプ (LINKTYPE)

この制御装置が接続された回線のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

*SDLC

この制御装置は、同期データ・リンク制御(SDLC)回線に接続されます。

*X25

この制御装置はX.25回線に接続されます。

***LAN**

この制御装置は、分散データ・インターフェース(DDI), ETHERNET,またはトークンリング・ローカル・エリア・ネットワーク回線に接続されています。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***YES**

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

[トップ](#)

交換接続 (SWITCHED)

この制御装置が交換回線に接続されているか、トークンリング・ネットワークに接続されているか、ETHERNET LANに接続されているか、あるいはX.25 スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続されているかを指定します。TDL回線に接続されたAPPC 制御装置の場合には、*NOを指定しなければなりません。

***NO**

この制御装置は非交換回線に接続されています。X.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)回線に接続する制御装置の場合には、この値を指定してください。

***YES**

この制御装置は交換回線に接続されます。X.25スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続された制御装置の場合には、この値を指定してください。ローカル・エリア・ネットワークに接続された制御装置の場合にも、この値を指定してください。

注: LINKTYPEが*LANである場合には、SWITCHEDパラメーター値は*YESでなければならないか、あるいは指定してはいけません。

[トップ](#)

交換網バックアップ (SNBU)

リモート・システム・モデムに交換網バックアップ(SNBU)機構があるかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換(専用回線)接続をバイパスするために使用されます。SNBUを活動化するためには、交換網バックアップ活動化(ACTSNBU)パラメーターに*YESを指定することによってモデムの制御装置記述を非交換から交換に変更しなければなりません。

注: 使用しているモデム型式がIBM 386X, 586X, または786Xである場合には, 制御装置記述を変更してはいけません。その代わりにモデムを手操作で非交換モードに切り替えて, 手操作で接続をダイヤル呼び出ししてください。

有効な活動化を実行するためには, ローカル・モデムとリモート・モデムの両方がSNBU機能をサポートしていなければなりません。

***NO** リモート・システム・モデムにSNBU機構がありません。

***YES**

リモート・システムのモデムにはSNBU機能があります。

[トップ](#)

接続される非交換回線 (LINE)

この制御装置が接続された非交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。

注: このコマンドを入力する前に, 関連の回線をオフに構成変更しなければなりません。X.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に接続する制御装置の場合には, このパラメーターを指定してください。

[トップ](#)

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

***交換回線名**

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

[トップ](#)

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム (パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は, 要求単位(RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズはIDの交換時に折衝されるので, 実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

***LINKTYPE**

フレーム・サイズは*SDLCでは521バイト, *X25では1024バイト, *LANでは1994バイトです。

最大フレーム・サイズ

この制御装置の最大フレーム・サイズとして521, 1033,または1994バイトを指定してください。リンク・タイプが*X25の場合には, 1024だけを指定してください。リンク・タイプが*LANの場合には, 1994だけを指定してください。

[トップ](#)

交換識別コード (EXCHID)

この制御装置の交換IDを指定します。制御装置は, 接続を確立する時に, 別のロケーションにそのIDを送信します(IDを交換します)。8桁の16進のIDには, ブロック番号用の3桁および特定制御装置用の5桁が含まれています。

制御装置	ブロック 番号	16進 ID
3694	02F	XXXXX
4701	057	XXXXX
4702	057	XXXXX
4730	043	XXXXX
4731	043	XXXXX
4732	043	XXXXX
4736	043	XXXXX
*FBSS	000-FFF	XXXXX
3601 (4701と して構成)	016	XXXXX

[トップ](#)

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

*DIAL

システムは発信呼び出しを開始し, 着信呼び出しに応答します。

*ANS

接続は, この制御装置からの着信呼び出しにISERIESシステムが応答した時に, そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され, 必要なすべての条件が満たされると, システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には, 制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は, X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

[トップ](#)

接続番号 (CNNBR)

この制御装置と接続するためには, ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

*ANY システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

***CNNNBR**

CNNNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

***ANY**

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

トップ

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00からFEです。

注: 00は、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに対して*TDLGが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: ROLEパラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。ROLEパラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

トップ

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFまでです。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

トップ

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

04

宛先サービス・アクセス・ポイントは省略時の04です。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

[トップ](#)

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP) に割り当てられている値と一致しなければなりません。

04

システムは04の論理アドレスを使用します。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

[トップ](#)

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。たとえば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

[トップ](#)

X.25論理チャネルID (LGLCHLID)

この制御装置へのX.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に使用される論理チャネルIDを指定します。有効な項目はXYYYです。ここで、

- Xは、ご使用のネットワーク・サブスクリプションに由来する論理グループ番号です。
- YYは、サブスクリプションから導き出された論理チャネル番号。論理チャネルIDはX.25回線記述で定義されたPVC論理チャネルIDの1つでなければなりません。このパラメーターには省略時の値がありません。

トップ

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワード使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりにブランクが埋め込まれます。全桁ブランクのパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。たとえば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有のIDとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40からFFの範囲の16進値で表されるどの英数字からでも構成することができます。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

この制御装置に接続できる装置の最大数は、3651制御装置の場合は14、3684制御装置の場合は2、4680制御装置の場合は84、4684制御装置の場合は254です。

活動状態にできる装置の最大数は、3651制御装置の場合は14、3684制御装置の場合は2、4680制御装置の場合は40、4684制御装置の場合は16です。

トップ

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*EBCDIC

拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

トップ

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点IDを指定します。

050000000000

システム・サービス制御点IDの省略時の値。

システム・サービス制御点ID

システム・サービス制御点IDを12桁の16進値として指定してください。

トップ

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

6

6という省略時の値では3秒の遅延が提供されます。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

120 省略時の値の120では60秒の遅延となります。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

トップ

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

2 省略時の試行回数は2です。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

トップ

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*NO

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

*YES

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

トップ

SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)

この制御装置がポーリング時に優先権をもつかどうかを指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*NO

この制御装置にはポーリング優先順位はありません。

*YES

この制御装置はポーリング優先順位をもちます。

[トップ](#)

SDLCポーリング限界 (POLLLMT)

SDLC 2次制御装置または折衝可能制御装置の場合には、ポーリングでフレームが受信されたときに、同じ制御装置に対して連続してポーリングを行う回数を指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

0

ポーリングの省略時の回数はゼロです。

ポーリング限界

ポーリング回数を指定してください。有効な値の範囲は0から4です。

[トップ](#)

SDLC出力限界 (OUTLMT)

別の端末への送信を認める前に、SDLCで端末へ最大フレーム数を送信できる連続回数を指定します。

*POLLLMT

値は、SDLCポーリング限界(POLLLMT)パラメーターに指定されたものと同じです。

アウト限界

0から4の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)

エラーを報告する前に、制御装置との接続をやり直す回数を指定します。

*CALC

再試行回数は、制御装置が交換の場合には7で、制御装置が非交換の場合には*NOMAXです。

*NOMAX

システムは、無制限に再試行します。

ポーリング接続再試行

再試行回数として0から65534の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SDLC NDMポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)

1次端末から2次端末へのポーリング（通常切断モード(NDM)）によって適切な応答が受信されない場合に、2次端末がポーリングされる最小間隔を指定します。

このパラメーターは、リンク・タイプが*SDLCで、制御装置の役割が2次または折衝可能で、SHMパラメーターに*NOが指定されている場合のみ有効です。

*CALC

ポーリング間隔は、システムによって計算されます。

NDMポーリング・タイマー

1から3000の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

*CALC

システムが制御装置に接続された回線のタイプに基づいてLANフレーム再試行値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0から254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LAN接続再試行 (LANCNRRTY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

*CALC

システムがLAN接続再試行値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0から254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがLAN応答タイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1から254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN接続タイマー (LANCNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがLAN接続タイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

*CALC

システムがLAN肯定応答タイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。 **LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)**パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKFRQパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがLAN値非活動タイマーを決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から255の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0から127の範囲の値を指定してください。 **LAN肯定応答タイマー(LANACKTMR)** パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

フレームを送信するために送信側システムに与えられる優先順位を指定します。数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0から3の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター(LANウィンドウ・ステップ)は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やすことができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーターに指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

*NONE

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

*FIRST

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

*CALC

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

[トップ](#)

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

要素1:送信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096 です。

要素2:受信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

***TRANSMIT**

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096 です。

[トップ](#)

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素1:送信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。スイッチド・パーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素2:受信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

***TRANSMIT**

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

[トップ](#)

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・パーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00から99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

[トップ](#)

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

*NONE

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

*REQUEST

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

*ACCEPT

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

*BOTH

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

[トップ](#)

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

7

伝送の最大回数の省略時の値は7です。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25接続再試行 (X25CNNRTY)

この制御装置に接続する時に、接続応答タイマーが切れた後で論理リンク制御(LLC) プロトコル・データ単位が送信される最大回数を指定します。

7

伝送の最大回数の省略時の値は7です。

X.25接続再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

100

省略時の時間は10秒です。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

[トップ](#)

X.25接続タイマー (X25CNNTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

100

省略時の時間は10秒です。

接続タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

[トップ](#)

X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)

制御装置への接続を確立するための試行の時間間隔を指定します。

*CALC

接続の確立を試みる頻度および回数を決定するためには、**X.25接続タイマー(X25CNNTMR)**パラメーターおよび**X.25接続再試行(X25CNNRTY)**パラメーターに指定する値を使用してください。

X.25遅延タイマー

1から32767の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。接続の試みはこの時間間隔で無制限に反復されます。

[トップ](#)

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

2

指定された間隔内に回復が2回試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

5

指定された回数の回復の試みが5分の間隔内に行われます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTCTLRTL  CTLD(CTLR05)  TYPE(3651)  MODEL(0)  LINKTYPE(*SDLC)
            SWITCHED(*YES)  SWTLINLST(SWITCHED1)
            EXCHID(00500005)
            INLCNN(*ANS)  STNADR(E1)  CNNNBR(2553217)
```

このコマンドは、CTLR05という名前の3651-0型小売業制御装置記述を作成します。この制御装置は、SDLC交換回線上に電話番号255-3217で存在しています。制御装置への接続は、ISERIES 400への着信呼び出しで開始されます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の作成(リモート WS) (CRTCTLRWS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・ワークステーション制御装置記述作成(CRTCTLRWS)コマンドは、リモート・ワークステーション制御装置の制御装置記述を作成します。このコマンドの使用の詳細については、AS/400通信構成(SD88-5011)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
TYPE	制御装置のタイプ	3174, 3274, 5251, 5294, 5394, 5494, 5594	必須, 定位置 2
MODEL	制御機構型式	0, 1, 0001, 2, 0002, 12, 0012, K01	必須, 定位置 3
LINKTYPE	リンク・タイプ	*LAN, *NONE, *SDLC, *X25	必須, 定位置 4
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
SWITCHED	交換接続	*NO, *YES	オプション
SHM	短期保留モード	*NO, *YES	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
LINE	接続される非交換回線	名前	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-1994, 256, 261, 265, 512, 517, 521, 1033, 1994, *LINKTYPE	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *NETATR, *NONE	オプション
EXCHID	交換識別コード	00100000-FFFFFFFF	オプション
INLCNN	初期接続	*DIAL, *ANS	オプション
DIALINIT	ダイヤル開始	*LINKTYPE, *IMMED, *DELAY	オプション
CNNNBR	接続番号	文字値, *DC, *ANY	オプション
ANSNBR	返答番号	*CNNNBR, *ANY	オプション
CNNLSTOUT	発信接続リスト	名前	オプション
CNNLSTOUTE	接続リスト項目	名前	オプション
SHMDSCLMT	SHM切断限界	1-254, 10, *NOMAX	オプション
SHMDSCTMR	SHM切断タイマー	2-3000, 50	オプション
STNADR	端末アドレス	01-FE	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	000000000001-FFFFFFFFFFFFFF	オプション
NETLVL	X.25ネットワーク・レベル	1980, 1984, 1988	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
LINKPCL	X.25 リンク・レベル・プロトコル	<u>*QLLC</u> , *ELLC	オプション
LGLCHLID	X.25論理チャンネルID	文字値	オプション
CNNPWD	X.25接続パスワード	文字値, <u>X</u> '	オプション
AUTOCRTDEV	装置の自動作成	<u>*ALL</u> , *NONE	オプション
SWTDSC	交換回線切断	<u>*YES</u> , *NO	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
DEV	接続されている装置	値 (最大 254 回の繰り返し): 名前	オプション
CODE	文字コード	<u>*EBCDIC</u> , *ASCII	オプション
DEWAITTMR	入出力装置待ちタイマー	2-600, <u>120</u>	オプション
SSCPID	SSCP識別コード	000000000001-FFFFFFFFFFFF, <u>050000000000</u>	オプション
IDLCWDSIZ	IDLCウィンドウ・サイズ	1-31, <u>*LIND</u>	オプション
IDLCFRMRTY	IDLCフレーム再試行	0-100, <u>*LIND</u>	オプション
IDLCRSPTMR	IDLC応答タイマー	10-100, <u>*LIND</u>	オプション
IDLCCNNRTY	IDLC接続再試行	1-100, <u>*LIND</u> , *NOMAX	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>6</u>	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, <u>120</u>	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, <u>2</u>	オプション
POLLPTY	SDLCポーリング優先順位	<u>*NO</u> , *YES	オプション
POLLMT	SDLCポーリング限界	0-4, <u>0</u>	オプション
OUTLMT	SDLC出力限界	<u>*POLLMT</u> , 0, 1, 2, 3, 4	オプション
CNPOLLRTY	SDLC接続ポーリング再試行	0-65534, <u>*CALC</u> , *NOMAX	オプション
NDMPOLLTMR	SDLC NDMポーリング・タイマー	0-3000, <u>*CALC</u>	オプション
DSAP	LAN DSAP	<u>04</u> , 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
SSAP	LAN SSAP	<u>04</u> , 08, 0C, 10, 14, 18, 1C, 20, 24, 28, 2C, 30, 34, 38, 3C, 40, 44, 48, 4C, 50, 54, 58, 5C, 60, 64, 68, 6C, 70, 74, 78, 7C, 80, 84, 88, 8C, 90, 94, 98, 9C	オプション
LANFRMRTY	LANフレーム再試行	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANCNNRTY	LAN接続再試行	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANRSPTMR	LAN応答タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANCNTMR	LAN接続タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANACKTMR	LAN肯定応答タイマー	0-254, <u>*CALC</u>	オプション
LANINACTMR	LAN非活動タイマー	0-255, <u>*CALC</u>	オプション
LANACKFRQ	LAN肯定応答頻度	0-127, <u>*CALC</u>	オプション
LANMAXOUT	LAN最大未処理フレーム数	1-127, <u>*CALC</u>	オプション
LANACPTY	LANアクセス優先順位	0-3, <u>*CALC</u>	オプション
LANWDWSTP	LANウィンドウ・ステップ	1-127, <u>*NONE</u>	オプション
SWTLINSLCT	X.25交換回線選択	<u>*FIRST</u> , *CALC	オプション
DFTPKTSIZE	X.25省略時のバケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	<u>*LIND</u> , 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	<u>*LIND</u> , *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	

キーワード	記述	選択項目	注
DFTWDWSIZE	X.25省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, * <u>LIND</u>	
	要素 2: 受信値	1-15, * <u>LIND</u> , *TRANSMIT	
USRGRPID	X.25 ユーザー・グループ識別コード	文字値	オプション
RVSCRG	X.25着信課金	* <u>NONE</u> , *REQUEST, *ACCEPT, *BOTH	オプション
X25FRMRTY	X.25フレーム再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
X25CNNRTY	X.25接続再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
X25RSPTMR	X.25応答タイマー	1-2550, <u>100</u>	オプション
X25CNNTMR	X.25接続タイマー	1-2550, <u>100</u>	オプション
X25DLTYMR	X.25遅延接続タイマー	1-32767, * <u>CALC</u>	オプション
X25ACKTMR	X.25肯定応答タイマー	0-2550, <u>20</u>	オプション
X25INACTMR	X.25非活動タイマー	1-2550, <u>350</u>	オプション
USRFCL	ユーザー機能	文字値	オプション
ALCRTYTMR	割り振り再試行タイマー	1-9999, <u>180</u>	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: * <u>SYSVAL</u> , *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, * <u>CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

トップ

制御装置のタイプ (TYPE)

これは必須パラメーターです。

この記述の制御装置のタイプを指定します。

3174

この記述は3174制御装置を表します。

3274

この記述は3274制御装置を表します。

5251

この記述は5251制御装置を表します。

5294

この記述は5294制御装置を表します。

5394

この記述は5394制御装置を表します。

5494

この記述は5494制御装置を表します。

[トップ](#)

制御機構型式 (MODEL)

これは必須パラメーターです。

記述される制御装置の型式番号を指定します。この番号により、システムは制御装置に備わっている機能を判別します。

0

3174または3274制御装置の型式番号。

1

5294, 5394, または5494-1型制御装置の型式番号。

2

5394または5494-2型制御装置の型式番号。

12

5251-12型制御装置の型式番号。

K01

5294-K01型制御装置の型式番号。

[トップ](#)

リンク・タイプ (LINKTYPE)

この制御装置が接続された回線のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

***LAN**

この制御装置はローカル・エリア・ネットワーク(LAN)に接続されています。

***NONE**

この制御装置記述は回線に接続されません。

***SDLC**

この制御装置は、同期データ・リンク制御(SDLC)回線に接続されます。

***X25**

この制御装置はX.25回線に接続されます。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***YES**

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

[トップ](#)

交換接続 (SWITCHED)

この制御装置が交換回線に接続されているか、トークンリング・ネットワークに接続されているか、ETHERNET LANに接続されているか、あるいはX.25 スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続されているかを指定します。TDLC回線に接続されたAPPC 制御装置の場合には、*NOを指定しなければなりません。

***NO**

この制御装置は非交換回線に接続されています。X.25パーマメント・バーチャル・サーキット(PVC)回線に接続する制御装置の場合には、この値を指定してください。

***YES**

この制御装置は交換回線に接続されます。X.25スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)回線に接続された制御装置の場合には、この値を指定してください。ローカル・エリア・ネットワークに接続された制御装置の場合にも、この値を指定してください。

注: LINKTYPEが*LANである場合には、SWITCHEDパラメーター値は*YESでなければならないか、あるいは指定してはいけません。

[トップ](#)

短期保留モード (SHM)

この制御装置がX.21短期保留モード用に使用されるかどうかを指定します。*YESを指定するには、リンク・タイプ(LINKTYPE)パラメーターに*SDLC、交換接続(SWITCHED)パラメーターに*YESも指定しなければなりません。

*NO

この制御装置は、X.21短期保留モードには使用されません。

*YES

この制御装置は、X.21短期保留モードに使用されます。

[トップ](#)

交換網バックアップ (SNBU)

リモート・システム・モデムに交換網バックアップ(SNBU)機構があるかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換（専用回線）接続をバイパスするために使用されます。SNBUを活動化するためには、交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)パラメーターに*YESを指定することによってモデムの制御装置記述を非交換から交換に変更しなければなりません。

注: 使用しているモデム型式がIBM 386X, 586X,または786Xである場合には、制御装置記述を変更してはいけません。その代わりにモデムを手操作で非交換モードに切り替えて、手操作で接続をダイヤル呼び出ししてください。

有効な活動化を実行するためには、ローカル・モデムとリモート・モデムの両方がSNBU機能をサポートしていなければなりません。

*NO リモート・システム・モデムにSNBU機構がありません。

*YES

リモート・システムのモデムにはSNBU機能があります。

[トップ](#)

接続される非交換回線 (LINE)

この制御装置が接続された非交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。

注: このコマンドを入力する前に、関連の回線をオフに構成変更しなければなりません。X.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に接続する制御装置の場合には、このパラメーターを指定してください。

[トップ](#)

交換回線リスト (SWTLINLST)

この制御装置が接続している交換回線の名前を指定します。回線記述はすでに存在していなければなりません。最高64の交換回線名を指定することができます。

*交換回線名

この制御装置に接続される最大64の回線の名前を指定してください。同じ回線名を複数回使用することができます。指定された各回線名にはその名前の回線記述が前もって存在していなければなりません。

[トップ](#)

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送受信できる最大フレーム（パス情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は、要求単位(RU)サイズを計算するために使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズはIDの交換時に折衝されるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

*LINKTYPE

リンク・タイプが*ISDNの3174制御装置の場合、521という値が使用されます。リンク・タイプが*LANの3174制御装置の場合、1994という値が使用されます。リンク・タイプが*SDLCの3174制御装置の場合、265という値が使用されます。リンク・タイプが*X25の3174制御装置の場合、256という値が使用されます。リンク・タイプが*X25の5394制御装置の場合、512という値が使用されます。リンク・タイプが*SDLCの5394制御装置の場合、517という値が使用されます。

最大フレーム・サイズ

リンク・タイプが*SDLCまたは*X25である3174制御装置の場合、265の値を指定してください。リンク・タイプが*X25回線である5394制御装置の場合、265 または521を指定してください。リンク・タイプが*SDLCである5394制御装置の場合、261または517を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

リモート・システムに関連したリモート・ロケーションの名前を指定します。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

*NETATR

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ローカル・システムがリモート・システムに識別されるために使用される名前（最大8文字）を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

隣接した制御点があるリモート・ネットワークの名前を指定します。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークID (ID)は使用されません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークIDを指定してください。

[トップ](#)

交換識別コード (EXCHID)

制御装置の交換IDを指定します。制御装置は、接続を確立する時に、別のロケーションにそのIDを送信します(IDを交換します)。8桁の16進のIDには、ブロック番号用の3桁および特定制御装置用の5桁が含まれています。

[トップ](#)

初期接続 (INLCNN)

この制御装置との接続を確立するために使用する方式を指定します。

***DIAL**

システムは発信呼び出しを開始し、着信呼び出しに応答します。

***ANS**

接続は、この制御装置からの着信呼び出しにISERIESシステムが応答した時に、そのISERIESシステムによって確立されます。リモート制御装置から呼び出しが受信され、必要なすべての条件が満たされると、システムは着信呼び出しに応答します。

X.25接続の場合には、制御装置が接続された回線でタイプOUTまたはBOTHのLGLCHLEパラメーターでスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が構成されていない限り(*SVCOUTまたは*SVCBOTH),接続は成功しません。

回線は、X.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用して変更することができます。

[トップ](#)

ダイヤル開始 (DIALINIT)

システムとリモート制御装置の間の交換回線で最初にダイヤルを行うために使用される方式を指定します。

*LINKTYPE

開始する接続のタイプはLINKTYPEパラメーターに指定します。LANまたはSDLC ダイヤル短期保留モード接続の場合には、省略時の値で制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちに接続のダイヤル呼び出しが行われます。他のすべてのリンク・タイプの場合、省略時の値ではダイヤル呼び出しが遅延されます。

*IMMED

制御装置記述がオンに構成変更されると、ただちにダイヤル接続が開始されます。

*DELAY

ダイヤル接続は、リモート制御装置資源の使用を要求するジョブが開始されるまで遅延されます。

[トップ](#)

接続番号 (CANNBR)

この制御装置と接続するためには、ダイヤル呼び出しする電話番号を指定します。

*DC

X.21交換接続ネットワークで直接呼び出しが使用されています。

***ANY** システムはどのネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れます。

接続番号

接続番号を指定してください。

[トップ](#)

返答番号 (ANSNBR)

そこからの呼び出しが受け入れられるX.25ネットワーク・アドレスを指定します。

*CANNBR

CANNBRパラメーターに指定されたX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しが受け入れられます。

*ANY

どのX.25ネットワーク・アドレスからの呼び出しでも受け入れられます。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

発信接続リスト (CNLSTOUT)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへのダイヤル呼び出し操作のISDN割り当て番号が入っている接続リスト・オブジェクトの名前を指定します。

リスト・オブジェクト

接続リスト・オブジェクトの名前を指定してください。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続リスト項目 (CNLSTOUTE)

ISDN交換接続の場合には、ISDNへの呼び出しを行うために使用する接続リストからの項目名を指定します。この接続リストは、**発信接続リスト(CNLSTOUT)**パラメーターで識別されていなければなりません。

項目名

項目名を指定してください。

[トップ](#)

SHM切断限界 (SHMDSCLMT)

このX.21短期保留モード接続に対して接続を保留できるようになる前に、リモート端末から要求される連続的な非生産的応答の数を指定します。このパラメーターは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに*YES、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合にだけ使用します。

10

接続を中断できるようになるためには、その前に10個の非生産的応答が受信されなければなりません。

*NOMAX

切断限界はありません。

SHM切断限界

接続を中断できるようになるために、その前に受信されなければならない連続した非生産的応答の数を示す1から254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SHM切断タイマー (SHMDSCTMR)

このX.21短期保留モード制御装置の場合に、1次システムがリモート・システムとの接続を維持する最短時間を1/10秒単位で指定します。このパラメーターが有効なのは、**短期保留モード(SHM)**パラメーターに*YES、**データ・リンクの役割(ROLE)**パラメーターに*NEGまたは*SECを指定した場合だけです。

50

基本システムは、リモート・システムとの接続状態を最小5秒間維持します。

SHM切断タイマー

0.1秒間隔の単位で2から3000の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

端末アドレス (STNADR)

制御装置と通信する時に使用される端末アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00からFEです。

注: 00は、リンク・タイプ (LINKTYPE)パラメーターに対して*TDLCが指定されている時のAPPC制御装置の場合にだけ指定することができます。

注: ROLEパラメーターに*SECを指定した場合には、これはリモート制御装置の端末アドレスです。ROLEパラメーターに*PRIまたは*NEGを指定した場合には、これはローカル端末アドレスです。

[トップ](#)

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

リモート制御装置の12文字のアダプター・アドレスを指定します。これは、システムがリモート制御装置と通信する時にシステムがデータを送信するアドレスです。この値は、リモート制御装置の構成レコードから獲得することができます。有効な値の範囲は、16進数000000000001から16進数FFFFFFFFFまでです。

アダプター・アドレス

リモート制御装置のアダプター・アドレスを指定してください。

[トップ](#)

X.25ネットワーク・レベル (NETLVL)

この制御装置にアクセスするために使用されるX.25ネットワークのレベルを指定します。レベルは、X.25ネットワークが何年版の標準を使用するかを指定します。

注: リモートDTEまたはネットワーク・レベルには低い値を使用するようにお奨めします。たとえば、リモートDTEがCCITT標準の1980およびネットワーク1984を使用している場合には、このパラメーターに1980を指定してください。

1980

1980標準が使用されます。

1984

1984標準が使用されます。

1988

1988標準が使用されます。

[トップ](#)

X.25 リンク・レベル・プロトコル (LINKPCL)

この制御装置と通信するためにX.25ネットワークで使用されるリンク・レベル・プロトコルを指定します。

*QLLC

修飾論理リンク制御(QLLC)プロトコルが使用されます。

*ELLC

拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコルが使用されます。

[トップ](#)

X.25論理チャネルID (LGLCHLID)

この制御装置へのX.25パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)に使用される論理チャネルIDを指定します。有効な項目はXYYです。ここで、

- Xは、ご使用のネットワーク・サブスクリプションに由来する論理グループ番号です。
- YYは、サブスクリプションから導き出された論理チャネル番号。論理チャネルIDはX.25回線記述で定義されたPVC論理チャネルIDの1つでなければなりません。このパラメーターには省略時の値がありません。

[トップ](#)

X.25接続パスワード (CNNPWD)

X.24呼び出し要求および着信呼び出しパケット（呼び出しユーザー・データ・フィールド）とのパスワード交換に使用されるX.25ネットワーク・パスワードを指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。

16進数値が40以下の文字から構成される接続パスワード使用したい場合には、そのパスワードを16進数値として指定しなければなりません。8バイト未満を指定すると、パスワード・フィールドの終わりに空白が埋め込まれます。全桁空白のパスワードは無効です。接続を確立するためには、すべての着信呼び出し要求がこのパスワードと一致しなければなりません。

16進数パスワードを指定するためには、その桁数が2の倍数で、16桁以下の長さで、アポストロフィで囲み、Xが先行するものを指定しなければなりません。たとえば、X'0102030405'は有効な16進数パスワードです。

注: スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)上の拡張論理リンク制御(ELLC)プロトコル LINKPCL(*ELLC) によって稼働する制御装置の場合には、この接続パスワードを強くお奨めします。この拡張プロトコルは、切断信号で回線を切断するネットワーク・エラーが起こった後の回線接続の再接続をサポートします。しかし、この再接続は、制御装置の固有のIDとして使用されるパスワード妥当性検査手順なしでは実行することはできません。

X.25接続パスワード

接続パスワードを指定してください。各制御装置のパスワードは、40からFFの範囲の16進値で表されるものの英数字からでも構成することができます。

[トップ](#)

装置の自動作成 (AUTOCRTDEV)

この制御装置記述で装置記述を自動的に作成できるかどうかを指定します。

*ALL

この制御装置に自動的に作成可能なすべての従属装置は、APPC装置を除いて自動的に作成されます。

*NONE

この制御装置の従属装置は自動的に作成されることはありません。

[トップ](#)

交換回線切断 (SWTDSC)

最後の装置がオフに構成変更された時に、この制御装置に対する交換接続を除去するかどうかを指定します。

*NO

最後の装置がオフに構成変更されても、交換接続が切断されません。

*YES

最後の装置がオフに構成変更されると、交換接続がオフに構成変更されます。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

接続されている装置 (DEV)

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

指定できる装置の最大数は64ですが、制御装置のタイプによって変わります。

制御装置

装置の最大数

5251 9

5294 8

5494 56

[トップ](#)

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*EBCDIC

拡張2進化10進コード(EBCDIC)文字コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

[トップ](#)

入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)

装置待ちタイムアウト値を指定します。この値を用いて、サブシステムがワークステーション入出力の完了に要する見込み時間の長さを限定します。各装置に使用されるタイムアウト値は、オンに構成変更された時点で、接続している制御装置から得られます。このパラメーター値を変更すると、接続装置が次にオンに構成変更された時点で影響が出ます。

10

ローカル制御装置の場合、サブシステムはこの制御装置に接続された各ワークステーションの入出力の完了を最大10秒待機します。

装置待ちタイマー

サブシステムがこの制御装置に接続されたすべてのワークステーションでワークステーション入出力の完了を待機する最大秒数を指定する2から600の範囲の値を指定してください。

このパラメーターに値を選択する時には、制御装置に接続される装置のタイプを考慮してください。ローカルに接続されるワークステーションでは、このパラメーターは低い値(10秒以下)にしてください。

[トップ](#)

SSCP識別コード (SSCPID)

ホスト・システムのシステム・サービス制御点IDを指定します。

050000000000

システム・サービス制御点IDの省略時の値。

システム・サービス制御点ID

システム・サービス制御点IDを12桁の16進値として指定してください。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCウィンドウ・サイズ (IDLCWDWSIZ)

IDLC回線に接続された制御装置と送受するためのウィンドウ・サイズを指定します。

***LIND**

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

ウィンドウ・サイズ

ウィンドウ・サイズを指定してください。有効な値の範囲は1から31です。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLCフレーム再試行 (IDLCFRMRTY)

エラーを報告する前にフレームの送信を試みる最大試行回数を指定します。

***LIND**

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

IDLCフレーム再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は0から100です。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC応答タイマー (IDLCRSPTMR)

肯定応答が受信されない場合にフレームの再送信までの待機時間を1/10秒単位で指定します。

*LIND

回線記述に指定された時間が使用されます。

*IDLC*応答タイマー

時間の長さを指定してください。有効な値の範囲は10分の1秒単位で10から100です。たとえば、1秒の10分の100秒は10秒と等しくなります。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

IDLC接続再試行 (IDLCCNNRTY)

接続時に再送信を試みる回数を指定します。

*LIND

回線記述に指定された試行回数が使用されます。

*NOMAX

正常な送信が行われるまで続行することを指示します。

接続再試行

試行回数を指定してください。有効な値の範囲は1から100です。

[トップ](#)

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号をダイヤル呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

6

6という省略時の値では3秒の遅延が提供されます。

ダイヤル前遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

120 省略時の値の120では60秒の遅延となります。

再ダイヤル遅延

0から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

2 省略時の試行回数は2です。

ダイヤル呼び出し再試行

ダイヤル呼び出しが試みられる回数として0.5秒間隔の単位で0から254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SDLCポーリング優先順位 (POLLPTY)

この制御装置がポーリング時に優先権をもつかどうかを指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

*NO

この制御装置にはポーリング優先順位はありません。

*YES

この制御装置はポーリング優先順位をもちます。

[トップ](#)

SDLCポーリング限界 (POLLMT)

SDLC 2次制御装置または折衝可能制御装置の場合には、ポーリングでフレームが受信されたときに、同じ制御装置に対して連続してポーリングを行う回数を指定します。このパラメーターを指定できるのは、SHMが*NOの場合だけです。

0

ポーリングの省略時の回数はゼロです。

ポーリング限界

ポーリング回数を指定してください。有効な値の範囲は0から4です。

[トップ](#)

SDLC出力限界 (OUTLMT)

別の端末への送信を認める前に、SDLCで端末へ最大フレーム数を送信できる連続回数を指定します。

*POLLMT

値は、SDLCポーリング限界(POLLMT)パラメーターに指定されたものと同じです。

アウト限界

0から4の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SDLC接続ポーリング再試行 (CNNPOLLRTY)

エラーを報告する前に、制御装置との接続をやり直す回数を指定します。

*CALC

再試行回数は、制御装置が交換の場合には7で、制御装置が非交換の場合には*NOMAXです。

*NOMAX

システムは、無制限に再試行します。

ポーリング接続再試行

再試行回数として0から65534の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

SDLC NDMポーリング・タイマー (NDMPOLLTMR)

1次端末から2次端末へのポーリング（通常切断モード(NDM)）によって適切な応答が受信されない場合に、2次端末がポーリングされる最小間隔を指定します。

このパラメーターは、リンク・タイプが*SDLCで、制御装置の役割が2次または折衝可能で、SHMパラメーターに*NOが指定されている場合のみ有効です。

*CALC

ポーリング間隔は、システムによって計算されます。

NDMポーリング・タイマー

1から3000の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN DSAP (DSAP)

宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)を指定します。これは、このシステムがリモート制御装置と通信する時に送る論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はこのシステムからのデータを適切に経路指定することができます。宛先サービス・アクセス・ポイントの省略時の値は04です。

値は、リモート制御装置の構成レコードのソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP) パラメーターに指定された値と一致しなければなりません。

注: *OPC制御装置は、このフィールドに上記の値を使用します。RMTSYSNAMEとDSAP の組み合わせで固有の制御装置が定義されます。これにより、2つのシステム間で複数の制御装置が存在できるようになります。

04

宛先サービス・アクセス・ポイントは省略時の04です。

宛先サービス・アクセス・ポイント

宛先サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

[トップ](#)

LAN SSAP (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ローカル・システムがデータをリモート制御装置に送信する時に使用する論理アドレスです。このアドレスによって、制御装置はローカル・システムからのデータを適切に経路指定することができます。ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)の省略時の値は04です。

これは、リモート制御装置の構成レコード中で宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP) に割り当てられている値と一致しなければなりません。

04

システムは04の論理アドレスを使用します。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

ソース・サービス・アクセス・ポイントを表す04から9Cの範囲の16進値を4の増分（たとえば04, 08, 0C, 10）で指定してください。

[トップ](#)

LANフレーム再試行 (LANFRMRTY)

LANRSPTMRパラメーターで指定された時間枠内にリモート制御装置からの肯定応答がなかったときに、送信が再試行される回数を指定します。この値が使用されるのは、接続が正常に行われた後だけです。

*CALC

システムが制御装置に接続された回線のタイプに基づいてLANフレーム再試行値を決定します。

LANフレーム再試行

肯定応答が受信されるまでフレームが送信される回数として0から254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LAN接続再試行 (LANCNRRTY)

肯定応答が受信されるまで、送信が試みられる回数を指定します。この値は接続時に使用されます（接続が確立された後で使用されるLANFRMRTYとは異なります）。

*CALC

システムがLAN接続再試行値を決定します。

LAN接続再試行

肯定応答が受信される前に試みられる伝送回数として0から254の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LAN応答タイマー (LANRSPTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがLAN応答タイマー値を決定します。

LAN応答タイマー

1から254の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN接続タイマー (LANCNNTMR)

接続時にリンクの作動不可条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがLAN接続タイマー値を決定します。

LAN接続タイマー

非操作状態が起こるまでシステムが待機する時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から254の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN肯定応答タイマー (LANACKTMR)

受信したフレームに対する肯定応答の送信を延期する時間間隔を指定します。

*CALC

システムがLAN肯定応答タイマー値を決定します。

LAN肯定応答タイマー

1から254の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。LAN肯定応答頻度(LANACKFRQ)パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKFRQパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

LAN非活動タイマー (LANINACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。

*CALC

システムがLAN値非活動タイマーを決定します。

LAN非活動タイマー

制御装置の非操作状態の有無を判別するために使用される時間の長さとして0.1秒間隔の単位で1から255の範囲の値を指定してください。タイマーなしを指示するためには、0を指定してください。

[トップ](#)

LAN肯定応答頻度 (LANACKFRQ)

制御装置に肯定応答を送る前に受け取るフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN肯定応答頻度値を決定します。

LAN肯定応答頻度

受信フレームの数として0から127の範囲の値を指定してください。LAN肯定応答タイマー(LANACKTMR)パラメーターに0を指定した場合には、このパラメーターにも0を指定しなければなりません。LANACKTMRパラメーターにゼロ以外の数値を指定した場合には、このパラメーターにもゼロ以外の値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

LAN最大未処理フレーム数 (LANMAXOUT)

リモート・システムから肯定応答が受信されるまでに、送信できるフレームの最大数を指定します。

*CALC

システムがLAN最大未処理フレーム数値を決定します。

LAN最大未処理フレーム数

肯定応答が受信されるまでに送信できるフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LANアクセス優先順位 (LANACCPTY)

リモート制御装置にアクセスするために使用される優先順位を指定します。数字が大きくなるほどこの制御装置の優先順位は高くなります。このパラメーターは、制御装置がTRLANに接続されている場合のみ使用されます。

*CALC

システムがLANアクセス優先順位値を決定します。

LANアクセス優先順位

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上のこの制御装置のアクセス優先順位として0から3の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

LANウィンドウ・ステップ (LANWDWSTP)

ネットワーク負荷過剰の間にリモート・システムに対する未処理のフレームの最大数を1に減らすかどうかを指定します。このパラメーター(LANウィンドウ・ステップ)は、未処理フレームの最大数を1ずつ増やすことができるようになる前に、リモート・システムから正常に受け取られていなければならないフレームの数を指示します。未処理フレームの最大数がLAN最大未処理フレーム数(LANMAXOUT)パラメーターに指定された値に達するまで、このような増加が続きます。

*NONE

ネットワーク負荷過剰の時に未処理フレーム数が削減されません。

LANウィンドウ・ステップ

未処理フレームの最大数が1増えるまでに、リモート・システムによって正常に受信されなければならないフレームの数として1から127の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25交換回線選択 (SWTLINSLCT)

X.25交換回線リストから回線を選択するために使用する方法を指定します。

*FIRST

交換回線リスト中の最初の回線から回線が選択されていきます。

*CALC

システムが交換回線リスト中の選択される回線を決定します。

[トップ](#)

X.25省略時のパケット・サイズ (DFTPCKTSIZE)

X.25ネットワークで送受信に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。

要素1:送信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

送信パケット・サイズ

送信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096 です。

要素2:受信パケット・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時の値です。

*TRANSMIT

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

受信用の省略時のパケット・サイズを指定してください。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048,および4096 です。

[トップ](#)

X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

送信および受信用の省略時のウィンドウ・サイズを指定します。

要素1:送信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)着信呼び出しの場合には、システムは、着信呼び出しパケット機能フィールドで示されたウィンドウ・サイズを受け入れます。

要素2:受信ウィンドウ・サイズ

*LIND

回線記述に指定された値が省略時のウィンドウ・サイズとして使用されます。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されます。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

[トップ](#)

X.25 ユーザー・グループ識別コード (USRGRPID)

X.25ネットワークのスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)制御装置用の閉域接続グループIDを指定します。

ネットワーク・サブスクリプションによって提供される00から99の2桁の10進数値を指定します。パーマネント・バーチャル・サーキット(PVC)接続の場合には、このパラメーターは無効です。これが有効となるのはSVC回線発信呼び出し操作の場合だけであり、SVC着信呼び出し接続の場合は無視されます。

[トップ](#)

X.25着信課金 (RVSCRG)

この制御装置と接続する時にコレクトコールを受け入れるかまたは要求するかどうかを指定します。

*NONE

ネットワーク料金請求のコレクトコールは受け入れられません。

*REQUEST

発信呼び出し要求パケットで課金が要求されます。

*ACCEPT

着信要求でネットワーク料金請求のコレクトコールが受け入れられます。

*BOTH

着信と発信の両方の要求が受け入れられます。

[トップ](#)

X.25フレーム再試行 (X25FRMRTY)

この制御装置に接続する時に、応答タイマーが切れた後でフレームが送信される最大回数を指定します。このパラメーターの値は、ネットワークによって提供されるサービス品質およびそのネットワークへの接続形態によります。すなわちそれは、リンク・プロトコル・データ単位が失われる頻度によります。

7

伝送の最大回数の省略時の値は7です。

X.25フレーム再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25接続再試行 (X25CNNRTY)

この制御装置に接続する時に、接続応答タイマーが切れた後で論理リンク制御(LLC) プロトコル・データ単位が送信される最大回数を指定します。

7

伝送の最大回数の省略時の値は7です。

X.25接続再試行

フレームの送信回数として0から21の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

X.25応答タイマー (X25RSPTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

300

肯定応答を戻すのに許された時間は30秒です。

X.25応答タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

[トップ](#)

X.25接続タイマー (X25CNNTMR)

この制御装置に接続中でLLCプロトコル・データ装置を送る時に、肯定応答を戻すことのできる時間を指定します。

100

省略時の時間は10秒です。

接続タイマー

時間の長さを0.1秒単位で指定してください。有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。

[トップ](#)

X.25遅延接続タイマー (X25DLYTMR)

制御装置への接続を確立するための試行の時間間隔を指定します。

*CALC

接続の確立を試みる頻度および回数を決定するためには、**X.25接続タイマー(X25CNNTMR)**パラメーターおよび **X.25接続再試行(X25CNNRTY)**パラメーターに指定する値を使用してください。

X.25遅延タイマー

1から32767の範囲の単位数値を指定してください。各単位は0.1秒を表します。接続の試みはこの時間間隔で無制限に反復されます。

[トップ](#)

X.25肯定応答タイマー (X25ACKTMR)

受信したフレームへの肯定応答の送信を遅らせる時間の長さを指定します。

20

肯定応答の送信遅延に許された時間は2秒です。

X.25肯定応答タイマー

有効な値の範囲は0.1秒間隔の単位で1から2550です。0は、遅延がないことを示します。

[トップ](#)

X.25非活動タイマー (X25INACTMR)

制御装置の非活動条件を判別するために使用する時間を指定します。有効な値は、0.1秒単位の1から2550です。

350

制御装置の非活動状態を判別するために使用される時間間隔は3.5秒です。

[トップ](#)

ユーザー機能 (USRFCL)

追加のサービスを要求するためには、X.25ネットワークに送信する16進文字のストリングを指定します。システムでは最高218桁の16進文字を使用することができます。

[トップ](#)

割り振り再試行タイマー (ALCRITYTMR)

LU6.2セッションの接続を試行してから次に試行するまでシステムが待機する時間の長さを秒数で指定します。

180

システムは、試行間で180秒間待機します。

1から9999

1から9999秒の範囲の時間の長さを指定してください。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

要素1:最大回復限界

2

指定された間隔内に回復が2回試みられます。

***SYSVAL**

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

行なわれる第2レベルの回復処置の試行回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

要素2:回復時間間隔

5

指定された回数の回復の試みが5分の間隔内に行われます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

通信回復の詳細はCOMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)にあります。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

***SYSVAL**

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

このコマンドの使用の詳細については、COMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)を参照してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTCTLRWS  CTLD(CTL005)  TYPE(5294)  MODEL(1)  LINKTYPE(*SDLC)
            SWITCHED(*YES)  EXCHID(04500003)
            INLCNN(*ANS)  STNADR(03)
            CNNBR(5551234)  TEXT('CHICAGO BRANCH')
```

このコマンドは、CTL005という名前の5294-1型リモート制御装置記述を作成します。この制御装置は、SDLC交換回線上に電話番号555-1234で存在しています。制御装置への接続は、ISERIES 400への着信呼び出しで開始されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の作成 (テープ) (CRTCTLTAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ制御装置記述の作成(CRTCTLTAP)コマンドは、テープ制御装置の制御装置記述を作成します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
TYPE	制御装置のタイプ	文字値, <u>*RSRCNAME</u>	オプション, キー, 定位置 2
MODEL	制御機構型式	文字値, <u>*RSRCNAME</u>	オプション, キー, 定位置 3
RSRCNAME	資源名	名前, <u>*NONE</u>	オプション, キー, 定位置 4
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*YES</u> , *NO	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
DEV	接続されている装置	値 (最大 8 回の繰り返し): 名前	オプション
AUTOCFG	自動構成制御装置	<u>*NO</u> , *YES	オプション
AUT	権限	名前, <u>*CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

[トップ](#)

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

制御装置のタイプ (TYPE)

これは必須パラメーターです。

この記述の制御装置のタイプを指定します。

*RSRCNAME

装置型式は資源名パラメーターによって決定されます。

注: このパラメーターは無視されますが、従来のバージョンのコマンドとの互換性の維持のために指定することができます。

[トップ](#)

制御機構型式 (MODEL)

これは必須パラメーターです。

記述される制御装置の型式番号を指定します。この番号により、システムは制御装置に備わっている機能を判別します。

*RSRCNAME

装置型式は資源名パラメーターによって決定されます。

注: このパラメーターは無視されますが、従来のバージョンのコマンドとの互換性の維持のために指定することができます。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

*NONE

この時点では資源名は指定されません。装置をオンに構成変更する前に資源名を指定しなければなりません。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

この制御装置に接続できる装置の最大数は3422または3430制御装置の場合には4、3480または3490制御装置の場合には8です。

[トップ](#)

自動構成制御装置 (AUTOCFG)

この制御装置記述が装置の自動構成時に、その装置が接続される記述であるかどうかを指定します。各制御装置には複数の制御装置記述が存在することができますが、自動構成制御装置となることができるのは1つの記述だけです。その制御装置で新しい装置が自動的に構成されると、その装置は自動構成制御装置記述に追加されます。

*NO

これは、自動構成制御装置ではありません。

*YES

これは自動構成制御装置です。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェ

クト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTCTLTAP CTLD(TAP01) TYPE(3422) MODEL(A01) SRCNAME(TAP01)
```

このコマンドは、3422テープ制御装置用のTAP01という名前の制御装置記述を作成します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

[トップ](#)

制御装置記述の作成 (仮想WS) (CRTCTLVWS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

仮想ワークステーション制御装置記述作成(CRTCTLVWS)コマンドは、仮想ワークステーション (パススルー) 制御装置の制御装置記述を作成します。このコマンドの使用の詳細については、AS/400通信構成 (SD88-5011)を参照してください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
DEV	接続されている装置	値 (最大 255 回の繰り返し): 名前	オプション
DEVWAITMR	入出力装置待ちタイマー	2-120, 20	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

[トップ](#)

制御装置記述 (CTLD)

これは必須パラメーターです。

制御装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES

制御装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO**

制御装置は、IPL時に自動的に構成変更されることはありません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値

50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

接続されている装置 (DEV)

この制御装置に接続される装置の名前を指定します。装置記述はすでに存在していなければなりません。

最大255の装置を指定することができます。

[トップ](#)

入出力装置待ちタイマー (DEVWAITTMR)

装置待機タイムアウト値を指定します。この値を用いて、サブシステムがワークステーション入出力の完了に要する見込み時間の長さを限定します。各装置に使用されるタイムアウト値は、オンに構成変更された時点で、接続している制御装置から得られます。このパラメーター値を変更すると、接続装置が次にオンに構成変更された時点で影響が出ます。

10

ローカル制御装置の場合、サブシステムはこの制御装置に接続された各ワークステーションの入出力の完了を最大10秒待機します。

装置待ちタイマー

サブシステムがこの制御装置に接続されたすべてのワークステーションでワークステーション入出力の完了を待機する最大秒数を指定する2から600の範囲の値を指定してください。

このパラメーターに値を選択する時には、制御装置に接続される装置のタイプを考慮してください。ローカルに接続されるワークステーションでは、このパラメーターは低い値(10秒以下) にしてください。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SYSVAL

メッセージは、QCFGMSGQシステム値に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

このコマンドの使用の詳細については、COMMUNICATIONS MANAGEMENT (SC41-5406)を参照してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載

っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

例

```
CRTCTLVWS CTLD(VRTCTL325) TEXT('S/325 VIRTUAL CONTROLLER')
```

このコマンドは、VRTCTL325という名前の制御装置記述を作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26BB

拡張無線制御装置メンバーは変更されなかった。

CPF26BC

拡張無線制御装置メンバーは表示されなかった。

CPF26BD

拡張無線制御装置メンバーからバーコード・グループの項目が除去されなかった。

CPF26BE

拡張無線制御装置メンバーからPTCグループの項目が除去されなかった。

CPF26BF

プログラムQZXCINZが異常終了した。前のメッセージを参照してください。

CPF26B3

拡張無線回線メンバーは追加されなかった。

CPF26B4

拡張無線回線メンバーは変更されなかった。

CPF26B5

拡張無線回線メンバーは表示されなかった。

CPF26B8

拡張無線制御装置メンバーは追加されなかった。

CPF2716

制御装置記述&1が作成されなかった。

[トップ](#)

DDMファイル作成 (CRTDDMF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

分散データ管理ファイル作成(CRTDDMF)コマンドは、分散データ管理機能(DDM)ファイルを作成します。

DDMファイルは、分散データ管理機能ネットワーク内のリモート（ターゲット）システムにあるファイルにアクセスするために、参照ファイルとして使用されます。ローカル・システムのDDMファイルには、リモート・ファイルの名前およびリモート・システムを識別する情報が入っています。このDDMファイルはまた、リモート・ファイルのレコードのアクセスに使用する方法も指定します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	DDMファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: DDMファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
RMTFILE	リモート・ファイル	要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: ファイル	単一値: *NONSTD その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: 標準外ファイル'名'	文字値	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	単一値: *RDB その他の値: 要素リスト	必須, 定位置 3
	要素 1: 名前またはアドレス	文字値	
	要素 2: タイプ	*SNA, *IP	
RDB	リレーショナル・データベース	名前	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
DEV	装置	要素リスト	オプション
	要素 1: APPC装置記述	名前, *LOC	
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *LOC, *NETATR	オプション
MODE	モード	通信名, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *LOC, *NETATR, *NONE	オプション
PORT	ポート番号	1-65535, *DRDA	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
ACCMTH	アクセス方式	単一値: <u>*RMTFILE</u> , *COMBINED その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: リモート・ファイル属性	<u>*KEYED</u> , *ARRIVAL	
	要素 2: ローカル・アクセス方式	<u>*BOTH</u> , *RANDOM, *SEQUENTIAL	
SHARE	オープン・データ・パス共用	<u>*NO</u> , *YES	オプション
PTCCNV	保護された会話	<u>*NO</u> , *YES	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	<u>*RMTFILE</u> , *NO	オプション
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *USE	オプション
REPLACE	ファイルの置き換え	<u>*YES</u> , *NO	オプション

トップ

DDMファイル (FILE)

作成するDDMファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: DDMファイル

名前 作成するDDMファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

DDMファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとして現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 DDMファイルが入っているライブラリー名を指定します。

トップ

リモート・ファイル (RMTFILE)

ターゲット・システムでコーディングされているリモート・ファイルの名前を指定します。このファイル名はコード・ページ500に指定しなければなりません。分散データ管理機能(DDM)ファイルを作成するときには、リモート・ファイルが存在する必要はありません。

これは必須パラメーターです。

要素1: ファイル

単一値

*NONSTD

リモート・ファイル名は標準のISERIESファイル名ではありません。このパラメーターの2番目の要素にアポストロフィで囲んで完全なファイル名を指定してください。

修飾子1: ファイル

名前 リモート・システムで認識されているリモート・ファイルの名前を指定してください。リモート・システムがISERIESシステムの場合には、ファイル名を指定してください。このファイル名は最大10桁の長さとすることができます。リモート・システムがシステム/36である場合には、ファイル名はそのシステム/36ファイル・ラベルと同じです。このファイル名は最大8桁の長さとすることができます。リモート・システムがシステム/38である場合には、単純（修飾されていない）ファイル名を指定することができます。このファイル名は最大10桁の長さとすることができます。他のすべてのリモート・システムのラベル（システム/38の修飾ファイル名を含む）は、*NONSTDの後にアポストロフィで囲んだリモート・ファイル名を続けて使用する必要があります。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルが入っているライブラリーを指定します。

注: ライブラリー名が使用されるのは、ターゲット・システムがISERIESシステムの場合だけです。*CURLIBが指定されている場合には、ファイルを見つけるために、ターゲット・システム上の呼び出されたジョブの中の現行ライブラリーが検索されます。*LIBLが指定されている場合には、ファイルを見つけるためにターゲット・システムで呼び出されたジョブのライブラリー・リストが検索されます。

要素2: 標準外ファイル'名'

文字値 ISERIESシステムおよびシステム/36で使用されている以外の命名規則を使用できるターゲット・システムで、修飾システム/38ファイル名を指定するとき、およびリモートISERIESシステムまたはシステム/38 ファイルのメンバー名を指定するときには、アクセスするリモート・ファイルの名前として最大255文字を指定してください。この名前はターゲット・システムが必要とする形式でコーディングしなければなりません。この名前は常にアポストロフィで囲まなければならないので、小文字、空白、ピリオド、または他の任意の特殊文字を含むことができます。

ISERIESシステム、システム/38,およびシステム/36の名前は、大文字でなければならない、空白を使用することはできません。

ターゲット・システムがISERIESシステムまたはシステム/38の場合には、ファイル名、ライブラリー名、およびメンバー名のすべてを指定することができます。メンバー名を指定する場合には、完全なファイル名をアポストロフィで囲んで値*NONSTD の後に続けなければならない、メンバー名は括弧で囲んで、スペースなしでライブラリー名（システム/38）またはファイル名（ISERIES）のいずれかの直後に続ける必要があります。

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

分散データ管理機能(DDM)ファイルで使用されるリモート（ターゲット）システムのロケーション名またはアドレスを指定します。リモート・ロケーション名またはアドレスは、DDMファイルの作成前に定義する必要はありませんが、DDMファイルのオープン前には定義する必要があります。複数のDDMファイルがターゲット・システムと同じリモート・ロケーションを使用できます。

これは必須パラメーターです。

単一値

***RDB** リモート・システムを判別するために、**リレーショナル・データベース (RDB)**パラメーターに指定されたリレーショナル・データベース項目からのリモート・ロケーション情報が使用されます。

要素1: 名前またはアドレス

文字値 ターゲット・システムと関連したリモート・ロケーションの名前またはアドレスを指定してください。ターゲット・システムのアクセスで使用されるリモート・ロケーションは、DDMファイルが作成される時には存在している必要はありませんが、DDMファイルがオープンされる時には存在していなければなりません。リモート・ロケーションは、次のいくつかの形式を取ることができます。

- **SNA**リモート・ロケーション名(LU名)。最大8文字のリモート・ロケーション名を指定してください。この形式を使用する場合には、このパラメーターのアドレス・タイプは*SNA（省略時の値）でなければなりません。
- **ピリオドで区切ったSNA**リモート・ネットワークIDおよびリモート・ロケーション名。最大8文字のリモート・ロケーション名および最大8文字のリモート・ネットワークIDを指定してください。この形式のパラメーターを使用する場合は、このパラメーターのアドレス・タイプは*SNA（省略時値）でなければならず、RMTNETIDパラメーターに指定する値と一致する必要があります。RMTNETIDパラメーターが指定されていない場合には、RMTLOCNAMEパラメーターと一致するようにRMTNETID値が設定されます。
- **ドット10進数形式のIP**アドレス。インターネット・プロトコル・アドレスをNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定してください。NNNは0-255の範囲の数値です。この形式を使用する場合には、このパラメーターのアドレス・タイプは*IPとして指定しなければなりません。
- **IP**ホスト・ドメイン名。最大254文字の長さでインターネット・ホスト・ドメイン名を指定してください。この形式を使用する場合には、このパラメーターのアドレス・タイプは*IPとして指定しなければなりません。

アドレス・タイプに*IPを指定した場合には、リモート・ロケーションのDDMサーバーは、TCP/IPの使用をサポートしなければならず、DEV, LCLLOCNAME, RMTNETID,およびMODEの各パラメーターは無視されます。

*IPを指定しない場合には、DDMサーバーは、SNA接続をサポートしていなければならず、PORTパラメーターは無視されます。

要素2: タイプ

***SNA** リモート・ロケーションは、システム・ネットワーク体系(SNA)のアドレス・タイプをもちます。

***IP** リモート・ロケーションは、インターネット・プロトコル(IP)のアドレス・タイプをもちます。

リモート・ロケーションの詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

トップ

リレーショナル・データベース (RDB)

DDMファイルのリモート・ロケーション情報の判別に使用するリレーショナル・データベース項目を指定します。

名前 ターゲット・システムまたはターゲット補助記憶域プール(ASP)グループを識別するリレーショナル・データベース項目の名前を指定してください。リレーショナル・データベース名は、リモート・システム上で構成されて使用できるリモート・システムまたはASPグループを参照できます。リレーショナル・データベース項目は、DDMファイルの作成時に存在している必要はありませんが、DDMファイルのオープン時には存在している必要があります。**リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)**パラメーターに*RDBが指定されている場合には、このパラメーターは必須です。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

装置 (DEV)

この分散データ管理機能(DDM)ファイルと一緒に使用されるソース・システムの通信装置名を指定します。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに*IPが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***LOC** リモート・ロケーションと関連した通信装置が使用されます。複数の装置をリモート・ロケーションと関連付けることができる場合には、システムがどの装置を使用するかを決定します。

名前 リモート・ロケーションと関連した通信装置の名前を指定してください。装置名がリモート・ロケーションには正しくない場合には、DDMファイルがオープンされると、エスケープ・メッセージが送られます。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに*IPが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***LOC** リモート・ロケーションに指定したリモート・ロケーション名が使用されます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

通信名 リモート・ロケーション名と一緒に使用されるローカル・ロケーション名を指定します。ローカル・ロケーション名は、リモート・ロケーションに対して特定のローカル・ロケーションを指示するためにだけ指定されます。

ローカル・ロケーション名の詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

トップ

モード (MODE)

リモート (ターゲット) システムと通信するためにリモート・ロケーション名と一緒に使用されるモード名を指定します。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに*IPが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***NETATR**

ネットワーク属性のモードが使用されます。

BLANK

8桁のブランク文字からなるモード名が使用されます。

通信名 モードの名前を指定してください。

モード名の詳細はAS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

トップ

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ロケーションが存在するリモート・ネットワークのID (ID) を指定します。このIDは、リモート (ターゲット) システムと通信するために使用されます。

このパラメーターが指定されている場合には、リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターはこのRMTNETIDパラメーターと一致していなければなりません。RMTLOCNAMEパラメーターにネットワークIDを指定する場合は、このパラメーターと一致しなければなりません (そうでないとエラー・メッセージが出されます)。RMTLOCNAMEパラメーターにいずれのネットワークIDも指定しない場合は、このパラメーターとの矛盾が存在する可能性はありません。

RMTLOCNAMEパラメーターに*IPが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

***LOC** リモート・ロケーションに指定されたりリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたりリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークIDは使用されません。

通信名 リモート・ロケーション名と一緒に使用されるリモート・ネットワークIDを指定してください。リモート・ネットワークIDは、リモート・ロケーションに対して特定のIDを指示するためにだけ指定されます。

リモート・ネットワークIDの詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

[トップ](#)

ポート番号 (PORT)

リモート・ファイルのあるシステムと通信するために、リモート・ロケーションで使用されるTCP/IPポートを指定します。

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに*SNAが指定されている場合には、このパラメーターは無視されます。

*DRDA

446という既知のDRDAポートが使用されます。これは、ISERIES DDM TCP/IPサーバーがLISTENするポートです。

1から65535

使用するポート番号を指定してください。

[トップ](#)

アクセス方式 (ACCMTH)

リモート・ファイルをオープンしてそのレコードをアクセスするために使用されるDDMアクセス方式を指定します。リモート (ターゲット) システムがシステム/38またはISERIESシステムの場合には、このパラメーターは無視されます。

*RMFILE

指定したリモート・ファイルおよびそのファイルについてリモート (ターゲット) システムによってサポートされるアクセス方式の両方と矛盾しないアクセス方式を、ソース・システムが選択します。ISERIESシステムおよびシステム/38ターゲット・システム以外のシステムで、この値が使用されて、ソース・システムがファイルのオープン時にアクセス方式を選択できない場合には、プログラム・ユーザーにメッセージが送られます。この場合、ファイルに対する適切なアクセス方式について、ターゲット・システムの誰かに接続した後で、CHGDMMFコマンドを使用して、このパラメーターに別の値を指定しなければなりません。

*COMBINED

DDM入出力共用アクセス方式がリモート・ファイルに対して使用されます。このアクセス方式は、キーによる結合(*KEYED *BOTH)とレコード番号による結合(*ARRIVAL *BOTH)アクセス方式の両方のファイル処理機能を結合します。レコードはキー値またはレコード番号によって選択することができます。それでキー値またはレコード番号で相対的にまたはランダムに位置を設定することができます。ファイル中に重複キーがある場合には、それらは、各ターゲット・システムのDDMアーキテクチャーの実行によって定義された順序で処理されます。

要素1: リモート・ファイル属性

*KEYED

リモート・ファイルはキー付きファイルです。

*ARRIVAL

リモート・ファイルは非キー付きファイルです。

要素2: ローカル・アクセス方式

***BOTH**

リモート・ファイルは順次とランダム両方のレコード・アクセスができます。

***RANDOM**

リモート・ファイルはランダム・レコード・アクセスができます。

***SEQUENTIAL**

リモート・ファイルは順次レコード・アクセスができます。

アクセス方式の決定

このパラメーターの2つの要素は、リモート・ファイルへのアクセスに使用されるアクセス方式を指示します。次の表に、ACCMTHパラメーターの値の組み合わせを示します。リモート・ファイル属性（左端のカラム）は、ターゲット・システム上のファイルのタイプを示します。ローカル・アクセス方式（最後の3カラム）は、ソースISERIESプログラムがリモート・ファイルのレコードにアクセスしようとする方法を参照しています。

表 1. 図: 値のアクセス方式の組み合わせ

リモート ファイル 属性	ローカル・アクセス方式		
	*SEQUENTIAL	*RANDOM	*BOTH
*ARRIVAL	レコード番号 での相対	レコード番号 でのランダム	レコード番号 での組み合わせ
*KEYED	キーによる 相対	キーによる ランダム	キーによる 組み合わせ

レコード番号での相対アクセス方式(*ARRIVAL *SEQUENTIAL):

この方式では、レコード番号順の現行位置に対してアクセスできます。レコードの識別にレコード番号は指定されません。

レコード番号でのランダム・アクセス方式(*ARRIVAL *RANDOM):

この方式では、要求元が決定したランダム・シーケンスでレコード番号を指定して、レコードにアクセスできます。

レコード番号での組み合わせアクセス方式(*ARRIVAL *BOTH):

この方式は、レコード番号での相対およびレコード番号でのランダム・アクセス方式の機能を組み合わせます。

キーによる相対アクセス方式(*KEYED *SEQUENTIAL):

この方式では、キー値の順序でキー付きファイルのレコードにアクセスできます。レコードには、現行レコードからキー・シーケンスで前方または後方に移動してアクセスできます。レコードの識別にキー値は指定されません。

キーによるランダム・アクセス方式(*KEYED *RANDOM):

この方式では、ランダム・シーケンスでキー付きファイルのレコードにアクセスできます。レコードは、ファイル内の位置でなく、そのキー値によって選択されます。

キーによる組み合わせアクセス方式(*KEYED *BOTH):

この方式は、キーによる相対およびキーによるランダム・アクセス方式の機能を組み合わせます。

トップ

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

- *NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。
- *YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

トップ

保護された会話 (PTCCNV)

DDMファイルに対して開始されるDDM会話が保護会話であるかどうかを指定します。**保護会話**とは、障害が起こった場合でもリモート・システムで行われた更新が他のリモート資源またはローカル資源に対する更新と同期することを保証するために、2フェーズ・コミット・プロトコルを使用する会話のことです。DDMで2フェーズ・コミットメント制御を使用するには、保護会話が必要です。DDMによる2フェーズ・コミットメント制御の使用の詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「分散管理」情報にあります。**リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)**パラメーターに*IPが指定されている場合には、PTCCNV(*NO)を指定しなければなりません。

- *NO** このDDMファイルを使用して開始されるDDM会話は保護会話ではありません。
- *YES** このDDMファイルを使用して開始されるDDM会話は保護会話です。このDDMファイルで2フェーズ・コミットメント制御を使用することができます。

トップ

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

DDMファイルがプログラムによってオープンされる時に、リモート・ファイルのレコード様式のレベルIDを検査するかどうかを指定します。検査される場合には、プログラム内のレコード様式IDがリモート・ファイルのものと一致していなければなりません。一致していない場合には、エラー・メッセージが要求元プログラムに送られ、DDMファイルも関連したリモート・ファイルもオープンされません。オープン中にエラーがあったファイルは、自動的にクローズします。このパラメーターは、リモート・ファイルをオープンする前にデータベース・ファイル一時変更(OVRDBF)コマンドによって一時変更することができます。

***RMTFILE**

DDMファイルのオープン時に、リモート・ファイル (RMTFILEパラメーターで識別される) のレコード様式のレベルIDが検査されます。

ターゲット・システムがISERIESシステムでなくシステム/38でない場合には、ソースISERIESシステムは、リモート・ファイルのレコード長およびそこで使用されるキー・フィールドに基づいてレベル検査値を作成します。作成された値はプログラム中の値と比較され、それらが一致しなければ、リモート・ファイルをオープンすることができません。これにより、間違ったファイルが選択される危険性が減ります。

注: ISERIESシステムまたはシステム/38以外のシステムでこれを実行する前に、プログラムはDDMファイルを使用してコンパイル（または再コンパイル）する必要があります。コンパイル中に、DDMファイルを使用してターゲット・システムとの通信が確立され、ターゲット・システムからリモート・ファイルの属性が取得されて、レベルIDの値が生成されます。そして、後からのレベル検査のためにそれらがコンパイル済みプログラムに組み込まれます。

*NO ファイルのオープン時にレベルIDは検査されません。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

注: ターゲット・システムでは、リモート・ファイルにアクセスするために必要な権限も、ターゲット・システムで開始されたジョブのユーザー・プロファイルを使用して検査されます。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB)で作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、オブジェクトの権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更されても、その新しい値は既存のオブジェクトに影響を与えません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

トップ

ファイルの置き換え (REPLACE)

保管またはデータベース・ファイル以外の既存のファイルを置き換えるかどうかを指定します。

- *YES** 同じ名前およびライブラリーの新しいDDMファイルが正常に作成された場合には、既存のファイルが置き換えられます。
- *NO** 同じ名前およびライブラリーの既存のファイルがある場合には、新しいDDMファイルを作成することはできません。

トップ

例

次の例では、DDMファイルの作成について説明します。

例1: 別のISERIES 400でファイルにアクセスするためのDDMファイルの作成

```
CRTDDMF FILE(SOURCE/SALES) RMTFILE(REMOTE/SALES)
        RMTLOCNAME(NEWYORK)
```

このコマンドは、SALESという名前のDDMファイルを作成して、これをソース・システムのSOURCEライブラリーに保管します。このDDMファイルは、NEWYORKという名前のリモート・ロケーションを使用して、ニューヨークのISERIES 400のREMOTEライブラリーに保管されているSALESという名前のリモート・ファイルにアクセスします。

例2: 別のIBM ISERIES 400でファイル・メンバーにアクセスするためのDDMファイルの作成

```
CRTDDMF FILE(SOURCE/SALES) RMTLOCNAME(NEWYORK)
        RMTFILE(*NONSTD 'REMOTE/SALES(APRIL)')
```

このコマンドは、前の例と同じファイルを作成します。ただし、今度はリモートSALESファイルの特定のメンバーにアクセスします。そのメンバーはAPRILという名前です。

例3: システム/38のファイルにアクセスするためのDDMファイルの作成

```
CRTDDMF FILE(OTHER/SALES) RMTLOCNAME(CHICAGO)
        RMTFILE(*NONSTD 'PAYROLL.REMOTE')
```

このコマンドは、SALESという名前のDDMファイルを作成して、これをソース・システムのライブラリーOTHERに保管します。システム/38のライブラリーREMOTEのPAYROLLという名前のリモート・ファイルにアクセスするために、DDMファイルによってリモート・ロケーションCHICAGOが使用されます。

例4: システム/38でファイルにアクセスするためのDDMファイルの作成

```
CRTDDMF FILE(OTHER/SALES) RMTFILE(PAYROLL)
        RMTLOCNAME(DENVER) LVLCHK(*NO)
```

このコマンドは、SALESという名前のDDMファイルを作成して、これをソース・システムのライブラリーOTHERに保管します。デンバーのシステム/38のPAYROLLという名前のリモート・ファイルにアクセスするために、DDMファイルによってリモート・ロケーションDENVERが使用されます。PAYROLLファイルとそれにアクセスするアプリケーション・プログラムの間で、レベル検査は実行されません。ACCMTHパラメーターが指定されていないので、ターゲット・システムのアクセス方式は、DDMファイルがオープンされてリモート・ファイルにアクセスするときにソース・システムによって選択されます。

例5: TCP/IPを介してファイルにアクセスするためのDDMファイルの作成

```
CRTDDMF FILE(OTHER/SALES) RMTFILE(PAYROLL)
        RMTLOCNAME(ROCHESTER.XYZ.COM *IP) PORT(*DRDA)
```

このコマンドは、SALESという名前のDDMファイルを作成して、これをソース・システムのライブラリー OTHERに保管します。ROCHESTER.XYZ.COMのドメイン名を持つTCP/IPホストでPAYROLL という名前のリモート・ファイルにアクセスするために、DDM ファイルによってリモート・ロケーション ROCHESTER.XYZ.COM が使用されます。このホストは標準DRDAポート446 でLISTENします>(*DRDA は省略時のポートであるため、この場合には、PORTパラメーターは実際には必要ありません。)

例6: ドット10進IPアドレスと数値ポート番号を使用してTCP/IP経由でファイルにアクセスするためのDDMファイルの作成

```
CRTDDMF FILE(OTHER/SALES) RMTFILE(PAYROLL)
        RMTLOCNAME('9.5.36.17' *IP) PORT(5021)
```

このコマンドは、SALESという名前のDDMファイルを作成して、これをソース・システムのライブラリー OTHERに保管します。9.5.36.17のIPアドレスを持つTCP/IPホストでPAYROLLという名前のリモート・ファイルにアクセスするために、DDMファイルによってリモート・ロケーション9.5.36.17が使用されます。このホストはポート5021をLISTENします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

[トップ](#)

装置記述の作成(APPC) (CRTDEVAPPC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

APPC装置記述の作成(CRTDEVAPPC)コマンドは、拡張プログラム間通信機能(APPC)装置の装置記述を作成します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVD	装置記述	名前	必須, 定位置 1
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *NETATR, *NONE	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
MODE	モード	値 (最大 14 回の繰り返し): 通信名, *NETATR	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *CTLD, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前, <u>QSYSOPR</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
APPN	APPN可能	*YES, *NO	オプション
SNGSSN	単一セッション	単一値: *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 単一セッション可能	*YES	
	要素 2: 会話の数	1-512, <u>10</u>	
LCLCTLSSN	ローカル制御セッション	*NO, *YES	オプション
PREESTSSN	事前確立セッション	*NO, *YES	オプション
LOCPWD	ロケーション・パスワード	文字値, *NONE	オプション
SECURELOC	保護ロケーション	*NO, *YES, *VFYENCPWD	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	00-FF, <u>00</u>	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

ユーザー・プログラムが通信するリモート・ロケーションの名前を指定します。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

リモート装置に対してローカル・システムを識別する固有のロケーション名を指定します。この名前をリモート・ロケーション (RMTLOCNAME)パラメーターに指定された名前と同じにすることはできません。リモート・ネットワークIDおよびローカル・ネットワークIDパラメーターで指定された値が同じである場合には、LCLLOCNAMEパラメーターとRMTLOCNAMEパラメーターに指定された名前の組み合わせは、同じ制御装置に接続されたそれぞれの装置記述に対して固有でなければなりません。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

省略時のローカル・ロケーション名を判別するためには、ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドを使用してください。

ローカル・ロケーション名

名前（リモート装置がローカル・システムを識別する最大8桁の文字）を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ネットワークの名前を指定します。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたりモート・ネットワークIDが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワーク名はX'40'です。

リモート・ネットワークID

8桁のリモート・ネットワーク名を指定します。

[トップ](#)

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

[トップ](#)

モード (MODE)

この装置のセッションを定義するモード名を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*NETATR

ネットワーク属性に指定されたりリモート・ネットワークIDが使用されます。

モード名

この装置が使用するモード記述の名前を指定してください。モード名は、CPSVCMG または SNASVCMG であってはなりません。これらの名前はシステムで使用するために予約されます。

モード名を最大14個指定してください。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*CTLD

メッセージは、接続される制御装置に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。メッセージ待ち行列は、装置がオンに構成変更された時に決定されます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

APPN可能 (APPN)

この装置が拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)用であるかどうかを指定します。

- *YES この装置はAPPN用です。
- *NO この装置はAPPN用ではありません。

トップ

単一セッション (SNGSSN)

リモート・ロケーションで単一または多重のセッションを使用するかどうかを指定します。単一セッションが使用される場合には、会話の数を指定しなければなりません。

単一値

- *NO 複数のセッションが使用されます。

要素1:単一セッション可能

- *YES 単一セッションが使用されます。

要素2:会話数

- 10 省略時の会話の数は10です。

会話数 会話の数として1から512の範囲内で有効な値を指定してください。

トップ

ローカル制御セッション (LCLCTLSSN)

セッションがローカル制御セッションであるかどうかを指定します。

- *NO 単一セッションはリモートで制御されます。
- *YES 単一セッションはローカルで制御されます。

トップ

事前確立セッション (PREESTSSN)

リモート・システムとの接続が確立される時に、セッションが確立されるかどうかを指定します。

- *NO 接続時にセッションは自動的に確立されません。
- *YES 接続時にセッションが自動的に確立されます。

トップ

ロケーション・パスワード (LOCPWD)

接続の妥当性を検査するために使用するパスワードを指定します。

*NONE

パスワードはありません。

ロケーション・パスワード

パスワードを16進文字のストリングとして指定してください。

[トップ](#)

保護ロケーション (SECURELOC)

リモート・システムから受け取られたプログラム開始要求で機密保護情報がどのように扱われるかを指定します。セッションが確立された時に、この値がリモート・システムに送られます。これは、割り振りまたは呼び出し要求の作成方法を決定する時に使用されます。この値は、SECURITY(SAME)レベルの機密保護で開始された会話にのみ適用されます。

***NO** リモート・システムは保護ロケーションではありません。リモート・システムによって行なわれる機密保護の妥当性検査は受け入れられません。SECURITY(SAME)会話はSECURITY(NONE)として扱われます。割り振りまたは呼び出し要求で機密保護情報は送られません。

***YES** リモート・システムは保護ロケーションで、ローカル・システムはリモート・システムによって行なわれる機密保護妥当性検査を受け入れます。SECURITY(SAME)会話の場合には、ローカル・システムによって、リモート・システムはユーザー・パスワードを検査することができます。リモート・システムでは、ユーザーIDは機密保護管理者から入手されます。次に、ユーザーIDは、割り振りですでに検査済みの標識と一緒に送信されるか、要求を呼び出します。

*VFYENCPWD

リモート・システムは保護ロケーションではありません。SECURITY(SAME)会話の場合には、リモート・システムは検査済み標識を送ることはできません。リモート・システムでは、ユーザーIDおよびパスワードは機密保護管理者から入手されます。次に、パスワードは暗号化され、ローカル・システムによって検査するために、割り振り時のユーザーIDと一緒に送信されるか、要求を呼び出します。この値は、リモート・システムがV3R2M0オペレーティング・システム以降を使用している場合にのみ使用してください。リモート・システムがパスワード保護をサポートしていない場合には、セッション確立は許可されないことになります。パスワード保護をサポートしているが、暗号化されたパスワードの検証(VFYENCPWD)をサポートしていないリモート・システムの場合には、会話はSECURITY(NONE)として取り扱われることになります。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

指定可能な値は00からFFまでです。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTL)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

例

```
CRTDEVAPP  DEVD(APPC1) LOCADR(00) RMTLOCNAME(CHICAGO)
            CTL(CTLAPPC01) SNGSSN(*YES)
```

このコマンドは、APPC1という名前のAPPC通信装置の装置記述を作成します。この装置はX'00'というロケーション・アドレスをもち、シカゴにあり、制御装置CTLAPPC01に接続されています。この装置は、一度に1つのセッションに制限されています。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

CPF2654

装置記述&1が作成されたが、使用できないと考えられる。

CPF34D7

エラーのために&2中の出力待ち行列&1が変更されなかった。

装置記述の作成（非同期）(CRTDEVASC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

非同期装置記述の作成(CRTDEVASC)コマンドは、非同期(ASYNC)装置の装置記述を作成します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV D	装置記述	名前	必須, 定位置 1
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名, *NONE	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEV D)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

ユーザー・プログラムが通信するリモート・ロケーションの名前を指定します。

*NONE

リモート・ロケーション名はありません。この装置は任意のリモート・ロケーションを表すことができます。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーションの名前を指定してください。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTDEVASC  DEVD(ASC001)  RMTLOCNAME(NYC)  CTL(CTLASCNYC)
```

このコマンドは、非同期通信装置を作成します。この装置はニューヨーク市にあって、制御装置CTLASCNYCに接続されています。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

トップ

装置記述の作成(ASP) (CRTDEVASP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述作成(ASP) (CRTDEVASP)コマンドは、補助記憶域プール(ASP)装置の装置記述を作成します。

独立ディスク・プールの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER
([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))を参照を参照してください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前	必須, キー, 定位置 2
RDB	リレーショナル・データベース	名前, *GEN	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEVVD)

作成する装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

ディスクの集合が認識される補助記憶域プール(ASP)を識別する資源名を指定します。

資源名 ディスクの集合が認識されるASPを識別する名前を指定してください。

[トップ](#)

リレーショナル・データベース (RDB)

補助記憶域プール(ASP)装置と関連するリレーショナル・データベース(RDB)名を指定します。

***GEN** 装置を正常にオンに変更すると、オペレーティング・システムによってRDB名が生成されます。装置がASPグループの1次ASPである場合は、RDB名は装置名と同じになります。ASP装置が2次ASPの場合、あるいはユーザー定義のファイル・システム(UDFS) ASPの場合は、RDB名はブランクに設定されます。

リレーショナル・データベース名

ASP装置と関連するRDB名を指定してください。ASP装置記述が2次ASPまたはUDFS ASPの場合には、指定されたRDB名は使用されません。ASP装置記述がASPグループの1次ASPの場合に、ASPグループをオンに変更すると、指定されたRDB名はこのシステムとこのシステムに接続する他のシステム上でリレーショナル・データベースが認識されている名前になります。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

修飾名として使用できるものは次の通りです。

***SYSOPR**

メッセージがQSYSのQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

例1:独立ASP装置の作成

```
CRTDEVASP  DEVD(COMPANY1)  RSRcname(COMPANY1)
```

このコマンドは、COMPANY1という名前の独立ASPの装置記述を作成します。装置記述の資源名もCOMPANY1です。独立ASP COMPANY1の操作上のメッセージは、ライブラリーQSYS中のメッセージ待ち行列QSYSOPRに送られます。

例2: 1次ASP装置の作成

```
CRTDEVASP  DEVD(WAREHOUSE2)  RSRcname(WAREHOUSE2)
           RDB(WAREHOUSE_NUMBER_2)  MSGQ(INVENTORY/WH2)
```

このコマンドは、WAREHOUSE2という名前の1次ASPの装置記述を作成します。装置記述の資源名もWAREHOUSE2です。この1次ASP装置がオンに構成変更される時にASPグループと関連付けられるリレーシ

ヨナル・データベース(RDB)名はWAREHOUSE_NUMBER_2です。独立ASP WAREHOUSE2の操作上のメッセージはライブラリーINVENTORY中のメッセージ待ち行列WH2に送られます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

装置記述の作成(BSC) (CRTDEVBSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BSC装置記述の作成(CRTDEVBSC)コマンドにより、2進データ同期通信(BSC) 装置の装置記述が作成されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV D	装置記述	名前	必須, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	00-FE	必須, 定位置 2
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 3
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
CNN	接続タイプ	*PP, *MPTRIB	オプション
APPTYPE	適用業務タイプ	*BSCCEL, *RJE, *EML, *BSC38, *RPGT	オプション
CTNWIN	回線争奪解消による回線獲得側	*SEC, *PRI	オプション
BLOCK	ブロック化のタイプ	*NONE, *ITB, *IRS, *NOSEP, *USER, *SEP	オプション
SEPCHAR	区切り文字	00, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 0A, 0B, 0C, 0D, 0E, 0F, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 1A, 1B, 1C, <u>1E</u> , 20, 21, 22, 23, 24, 25, 27, 28, 29, 2A, 2B, 2C, 2E, 2F, 30, 31, 33, 34, 35, 36, 38, 39, 3A, 3B, 3C, 3E, 3F, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 4A, 4B, 4C, 4D, 4E, 4F, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 5A, 5B, 5C, 5D, 5E, 5F, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69, 6A, 6B, 6C, 6D, 6E, 6F, 70, 71, 72, 73, 74, 75, 76, 77, 78, 79, 7A, 7B, 7C, 7D, 7E, 7F, 80, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 8A, 8B, 8C, 8D, 8E, 8F, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 9A, 9B, 9C, 9D, 9E, 9F, A0, A1, A2, A3, A4, A5, A6, A7, A8, A9, AA, AB, AC, AD, AE, AF, B0, B1, B2, B3, B4, B5, B6, B7, B8, B9, BA, BB, BC, BD, BE, BF, C0, C1, C2, C3, C4, C5, C6, C7, C8, C9, CA, CB, CC, CD, CE, CF, D0, D1, D2, D3, D4, D5, D6, D7, D8, D9, DA, DB, DC, DD, DE, DF, E0, E1, E2, E3, E4, E5, E6, E7, E8, E9, EA, EB, EC, ED, EE, EF, F0, F1, F2, F3, F4, F5, F6, F7, F8, F9, FA, FB, FC, FD, FE, FF	オプション
RMTBSCCEL	リモートBSCCEL	*NO, *YES	オプション
RCDLEN	レコード長	1-8192, <u>512</u>	オプション
BLKLEN	ブロックの長さ	1-8192, <u>512</u>	オプション
TRNSPY	透過モード伝送	*NO, *YES	オプション
DTACPR	データの圧縮と圧縮解除	*NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
TRUNC	後書きブランクの切り捨て	<u>*NO</u> , *YES	オプション
GRPSEP	グループ区切りのタイプ	<u>*EOT</u> , *OFCSYS, *DEV3740	オプション
EMLDEV	エミュレートされる入出力装置	<u>3278</u> , 3284, 3286, 3287, 3288, 3289	オプション
EMLKBD	エミュレートされるキーボード	<u>*UPPER</u> , *LOWER	オプション
EMLNUMLCK	エミュレートされる数字ロック	<u>*NO</u> , *YES	オプション
EMLWRKSTN	エミュレーション・ワークステーション	名前, <u>*ANY</u>	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
AUT	権限	名前, <u>*CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

装置記述 (DEV D)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

有効な値の範囲は00からFEです。

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

ユーザー・プログラムが通信するリモート・ロケーションの名前を指定します。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

*YES この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

*NO この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

トップ

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

トップ

接続タイプ (CNN)

この装置の接続タイプを指定します。

***PP** POINT-TO-POINT接続タイプが使用されます。

***MPTRIB**

マルチポイント従属接続タイプが使用されます。

トップ

適用業務タイプ (APPTYPE)

この装置によって使用されるアプリケーション・タイプを指定します。

***BSCCL**

アプリケーションは2進データ同期通信同等リンク(BSCCL)です。このパラメーターを指定すると、この装置がサポートする他のBSCシステムまたは装置と通信することができます。

***RJE** アプリケーションはBSCリモート・ジョブ入力(RJE)です。

***EML** アプリケーション・プログラムは、システム/38環境によって提供される3270エミュレーション・ユーティリティまたは3270プログラム・インターフェース・サポートを用いた3270エミュレーションです。

***BSC38**

アプリケーション・プログラムは、システム/38環境プログラムです。このパラメーターは、アプリケーション・プログラムがシステム/38環境で使用されるBSC装置ファイルまたは混合装置ファイルを使用する時に、他のBSCシステムまたは装置と通信する装置に指定されます。

***RPGT**

このパラメーターは、システム/36環境のRPG IIリモート通信(BSCA)を使用するアプリケーション・プログラムに指定されます。

注: また、アプリケーションがICFサポートを使用する時には、この値も指定されますが、呼び出し機能またはプログラム開始要求機能は不要です。この値が指定された場合には、**リモートBSCCL (RMTBSCCL)**パラメーターの値は自動的に*NOに設定されます。アプリケーションがICFを使用する場合には、この値を使用しようとする前に、呼び出しまたはプログラム開始要求サポートが必要ないことを確認してください。そうでないと、予期しない結果になることがあります。

トップ

回線争奪解消による回線獲得側 (CTNWIN)

回線争奪が発生した時点で制御を得るBSC端末を指定します。

- *SEC** ローカル・システムが2次端末であることを指定します。これは、回線争奪が起こった場合に他の端末に譲歩します。
- *PRI** ローカル・システムは1次端末であることを指定します。回線争奪が発生した場合には、この端末が制御を取ります。

トップ

ブロック化のタイプ (BLOCK)

システムまたはユーティリティーが伝送されたレコードをブロック化および非ブロック化するかどうかを指定します。

- *NONE** システムは、ブロック化または非ブロック化を行いません。
- *ITB** レコードは、中間テキスト・ブロック(ITB)制御文字のロケーションに基づいて、ブロック化または非ブロック化されます。
- *IRS** レコードは、レコード間分離(IRS)文字のロケーションに基づいてブロック化または非ブロック化されます。
- *NOSEP** 装置との間を送受信される伝送ブロック内にはレコード分離文字はありません。システムは、DDS様式使用に指定された通りに、固定レコード長によりレコードのブロック化および非ブロック化を行いません。
- *USER** ユーザー・プログラムは、レコード分離文字、BSCフレーム指示文字、透過伝送文字、およびレコードの送信に必要なその他のすべての文字を含めて、すべての制御文字を提供します。
- *SEP** レコードは、ユーザー指定のレコード分離文字のロケーションに基づいてブロック化または非ブロック化されます。

トップ

区切り文字 (SEPCHAR)

固有の1バイトのレコード分離文字を指定します。

有効な値の範囲は00からFFです。BSC制御文字は使用できません。

トップ

リモートBSCEL (RMTBSCEL)

リモート・システムとのBSCELセッションのタイプを指定します。

- *NO** リモート・システムまたは装置がBSCELコマンドを認識できません。ICF操作および戻りコードが使用されます。

***YES** リモート・システムがBSCCEL開始コマンドおよび終了コマンド、ならびにBSCCEL オンライン・メッセージを認識することができます。

[トップ](#)

レコード長 (RCDLEN)

この装置との通信時に使用できる最大レコード長を指定します。

値は少なくとも、送信される最も大きいレコードのサイズでなければなりません。この装置が接続される回線記述に指定されたバッファ・サイズ(MAXBUFFERパラメーター)を超えてはいけません。

[トップ](#)

ブロックの長さ (BLKLEN)

この装置との通信時に使用できる最大ブロック長を指定します。

値は少なくとも、送信される最も大きいレコードのサイズでなければなりません。この装置が接続される回線記述に指定されたバッファ・サイズ(MAXBUFFERパラメーター)を超えてはいけません。

512 レコード長は512です。

注: このパラメーターが有効となるのは、APPTYPE(*BSCCEL)またはAPPTYPE(*RPGT)が指定された場合だけです。

ブロック長

送信されるレコードの最大ブロック長 (バイト数) を指定します。この値は、少なくとも送信される最大レコード・サイズでなければなりません。有効な値の範囲は1から32767です。

[トップ](#)

透過モード伝送 (TRNSPY)

ブロック化されたレコードの送信時に、テキスト透過伝送機能を使用するかどうかを指定します。この機能により、256個のすべてのEBCDIC文字コードを伝送することができます。パックまたは2進データ・フィールドを伝送する場合には、この機能を使用しなければなりません。

***NO** テキスト透過伝送機能は使用されません。

***YES** 256個のすべてのEBCDIC文字コードを伝送することのできるテキスト透過伝送機能が使用されます。

[トップ](#)

データの圧縮と圧縮解除 (DTACPR)

データ圧縮を実行するかどうかを指定します。

注: TRNSPY(*YES)またはTRUNC(*YES)を指定した場合には、DTACPR(*YES)を指定することはできません。このパラメーターが有効となるのは、APPTYPE(*BSCSEL)またはAPPTYPE(*RPGT)が指定された場合だけです。

***NO** データの圧縮または圧縮解除は行われません。

***YES** データは出力の場合には圧縮され、入力の場合には圧縮解除されます。

[トップ](#)

後書きブランクの切り捨て (TRUNC)

後書きブランクを出力レコードから除去するかどうかを指定します。

***NO** 後書きブランクは出力レコードから除去されません。

***YES** 後書きブランクは出力レコードから除去されます。

[トップ](#)

グループ区切りのタイプ (GRPSEP)

データ・セットおよび文書などのデータのグループに対する区切り文字を指定します。

***EOT** 伝送終結(EOT)制御文字が使用されます。

***OFCSYS**

テキスト終結(ETX)制御文字を用いた伝送ブロック終了が使用されます。

***DEV3740**

ヌル・レコード(STX ETX)が使用されます。

[トップ](#)

エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)

このプログラム装置項目を使用して3270データ・ストリームを送信および受信することを指定します。エミュレーション装置パラメーターは、エミュレーション装置タイプおよびエミュレーション装置データ形式から構成されています。エミュレーション装置データ形式は、送受信されるタイプ3270のデータ・ストリームの形式を指定します。タイプ3270コマンドとデータ・フロー情報が入っている20バイトまたは32バイトの共通ヘッダーは、タイプ3270データ・ストリームを送受信しようとしている入出力バッファの先頭にありません。このパラメーターが適用されるのは、SNUF通信の場合だけです。このパラメーターは、2つの値（要素）のリストとしてまたは単一値(*NONE)として指定できます。

3278 この装置は、3278表示装置をエミュレートするために使用されます。

3284 この装置は、3284印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3286 この装置は、3286印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3287 この装置は、3287印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3288 この装置は、3288印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3289 この装置は、3289印刷装置をエミュレートするために使用されます。

エミュレートされるキーボード (EMLKBD)

エミュレートされる3278表示装置キーボードのタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターに*EMLが指定されている場合だけです。

*UPPER

3270表示装置キーボードは、大文字だけを使用してエミュレートされます。

*LOWER

3270表示装置キーボードは、大文字および小文字を使用してエミュレートされます。

トップ

エミュレートされる数字ロック (EMLNUMLCK)

数字入力フィールドが5250キーボードの数字データにだけ使用できるかどうかを指定します。このパラメーターに値を指定できるのは、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターに*EMLが指定されている場合だけです。

*NO 3270エミュレーションによって、データを数字入力フィールドに入力することができます。

*YES 3270エミュレーションによって、数字データだけを数字入力フィールドに入力することができます。有効な数字データには、0から9の数字、記号+-、. およびブランクが入れられます。

トップ

エミュレーション・ワークステーション (EMLWRKSTN)

エミュレーション・ワークステーションは、エミュレーション装置を次の表示装置または印刷装置と関連付けます。装置アドレスは、そのワークステーション専用予約されます。装置が指定されないか、あるいは*ANYが指定された場合には、任意のワークステーションがエミュレーション装置を使用することができます。

*ANY ワークステーションはエミュレーション装置を使用することができます。

ワークステーション

このエミュレーション装置を使用するワークステーションの名前を指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTDEVBSC  DEVD(BSC001)  LOCADR(27)  RMTLOCNAME(BSC001LC)
             CTL(CTLBSC001)  CNN(*PP)  APPTYPE(*RJE)
```

このコマンドは、BSC001という名前の2進データ同期通信装置を作成します。そのアドレスはX'27'で、制御装置CTLBSC001に接続されています。装置の接続タイプは*PPで、RJEアプリケーションを使用します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

装置記述作成（暗号）(CRTDEVCRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述（暗号）作成(CRTDEVCRP)コマンドは、暗号装置の装置記述を作成します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *NONE	必須, キー, 定位置 2
APPTYPE	適用業務タイプ	*CCA, *CCAUDX, *NONE	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*NO, *YES	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PKAKEYFILE	PKAキー保管ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: PKAキー保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DESKEYFILE	DESキー保管ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: DESキー保管ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEVVD)

作成する装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

***NONE**

資源名は指定されません。装置をオンに構成変更する前に資源名を指定しなければなりません。

資源名 システム上の暗号装置ハードウェアを識別する名前を指定してください。

注: 資源名を判別するためには、TYPE(*CRP)を指定してハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用してください。

[トップ](#)

適用業務タイプ (APPTYPE)

暗号装置でセキュア・コンピューティング環境の内側で実行するアプリケーションを指定します。

***CCA** 暗号装置のフラッシュ・メモリーは、共通暗号アーキテクチャー(CCA)アプリケーションによって初期化されます。

注: この値が有効なのは、4758および4764装置タイプの場合だけです。

***CCAUDX**

暗号装置のフラッシュ・メモリーが初期化されるのは、システムが装置のフラッシュ・メモリー内にCCAアプリケーションまたはCCAユーザー定義拡張(UDX)を検出していない場合だけです。

注: この値が有効なのは、4758および4764装置タイプの場合だけです。

***NONE**

暗号装置は、フラッシュ・メモリー・アプリケーションをサポートしません。

注: この値が有効なのは、2058装置タイプの場合だけです。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

メッセージが送られるメッセージ待ち行列の修飾名を指定します。

修飾名として使用できるものは次の通りです。

***SYSVAL**

メッセージがシステム値によって指定されたメッセージ待ち行列に送られます。

***SYSOPR**

メッセージがQSYSのQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

PKAキー保管ファイル (PKAKEYFILE)

PKA (共通キー・アルゴリズム) キーが入っているデータベース・ファイルの名前を指定します。

単一値

***NONE**

省略時のPKA鍵データベースは使用されません。

その他の値

PKA鍵保管ファイル名

省略時のPKA鍵データベースの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

DESキー保管ファイル (DESKEYFILE)

この装置に使用されるDES (データ暗号化標準) が入っているデータベース・ファイルの名前を指定します。

単一値

***NONE**

省略時のDES鍵データベースは使用されません。

その他の値

DES鍵保管ファイル名

省略時のDES鍵データベースの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

例

```
CRTDEVCRP  DEVD(CRP01)  RSRNAME(CRP01)
```

このコマンドは、CRP01という名前の暗号装置の装置記述を作成します。装置タイプは資源名から決定されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

装置記述の作成（表示装置）(CRTDEV DSP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

表示装置記述の作成(CRTDEV DSP)コマンドにより、表示装置の装置記述が作成されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV D	装置記述	名前	必須, 定位置 1
DEVCLS	装置クラス	*LCL, *RMT, *VRT, *SNPT	必須, 定位置 2
TYPE	装置タイプ	3101, 3151, 3161, 3162, 3163, 3164, 3179, 3180, 3196, 3197, 3277, 3278, 3279, 3476, 3477, 3486, 3487, 5150, 5251, 5291, 5292, 5555, D220, T910, T925, T955, V100, V220, W30, W50, W60, *CALC, *NVT	必須, 定位置 3
MODEL	装置型式	0, 1, 2, 4, 5, 11, 3, 12, 23, 31, 32, 41, *ASCII, *DHCF, A1, A2, B1, B2, BA, B01, C01, E01, F01, G01, G02, C1, C2, D1, D2, EA, FA, FC, FD, EC, FE, FG, FW, HC, HG, HA, HW, W1, W2, 0000, 0001, 0002, 0004, 0005, 0011, 0003, 0012, 0023, 0031, 0032, 0041	必須, 定位置 4
EMLDEV	エミュレートされる平衡型装置	3196A2, 3197D2, <u>*TYPE</u>	オプション
PORT	ポート番号	0-17	オプション
SWTSET	スイッチの設定値	0, 1, 2, 3, 4, 5, 6	オプション
SHRSSNBR	共用セッション番号	<u>0</u> , 1, 2, 3	オプション
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	00-FE	オプション
EMLASCII	ASCII装置のエミュレート	<u>*NO</u> , *YES	オプション
ATTACH	物理的接続	*DIRECT, *PTT, *MODEM, *WIRE3, *WIRE4, *EIA422	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*YES</u> , *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
KBDTYPE	キーボード言語タイプ	<u>*SYSVAL</u> , AGB, AGE, AGI, AGM, ALI, ALM, BGB, BGE, BLI, BLM, BRB, BRE, CAB, CAE, CAI, CAM, CLB, CLE, CSB, CSE, CYB, DMB, DME, DMI, DMM, ESB, FAB, FAE, FAI, FAM, FNB, FNE, FNI, FNM, FQB, FQI, GKB, GNB, GNE, HIB, HNB, HNE, ICB, ICE, ICI, ICM, INB, INI, IRB, ITB, ITE, ITI, ITM, JEB, JEI, JKB, JPB, JPE, JUB, KAB, KOB, LAB, LAE, LTB, LVB, MKB, MKE, NCB, NCE, NEB, NEE, NEI, NEM, NWB, NWE, NWI, NWM, PLB, PLE, PKB, PKE, PRB, PRE, PRI, PRM, RCB, RMB, RME, ROB, ROE, RUB, RUE, SFI, SFM, SGI, SGM, SKB, SKE, SPB, SPE, SPI, SPM, SQB, SQE, SSB, SSE, SSM, SSI, SWB, SWE, SWI, SWM, TAB, THB, THE, TKB, TKE, TRB, TRE, UAB, UAE, UKB, UKE, UKI, UKM, USB, USE, USI, USM, VNB, VNE, YGI, YGM	オプション
DROP	サインオフ時の回線切断	<u>*YES</u> , *NO	オプション
ALWBLN	カーソル明滅可能	<u>*YES</u> , *NO	オプション
AUXDEV	補助装置	値 (最大 31 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 補助装置のタイプ	6180, 6182, 6184, 6185, 6186M1, 6186M2, 7371, 7372	
	要素 2: 補助装置アドレス	1-31	
PRINTER	印刷装置	名前	オプション
MAXLENRU	要求単位の最大長	<u>*CALC</u> , 241, 245, 247, 256	オプション
APPTYPE	適用業務タイプ	<u>*NONE</u> , *NRF, *CTLSSN, *DEVINIT, *APPINIT	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, <u>170</u>	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1-30, <u>*ATTACH</u> , *NOMAX, *SEC15, *SEC30	オプション
SNPTDEV	SNAバススルー装置記述	名前, <u>*NONE</u>	オプション
SNPTGRP	SNAバススルー・グループ名	名前, <u>*NONE</u>	オプション
LOGON	ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
LINESPEED	回線速度	<u>*TYPE</u> , *CALC, 150, 300, 600, 1200, 1800, 2400, 3600, 4800, 7200, 9600, 19200, 38400	オプション
WORDLEN	語の長さ	<u>*TYPE</u> , *CALC, 7, 8	オプション
PARITY	パリティのタイプ	<u>*TYPE</u> , *CALC, *EVEN, *ODD, *NONE, *MARK, *SPACE	オプション
STOPBITS	停止ビット	<u>*TYPE</u> , 1, 2	オプション
MAXOUT	最大未処理フレーム数	1-7, <u>7</u>	オプション
IDLTMR	アイドル・タイマー	10-250, <u>40</u>	オプション
NRMPOLLTMR	NRMポーリング・タイマー	2-100, <u>3</u>	オプション
FRAMERTY	フレーム再試行	5-64, <u>15</u>	オプション
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, <u>*NETATR</u>	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク識別コード	通信名, <u>*NETATR</u> , *NONE	オプション
IGCFEAT	DBCS機能	要素リスト	オプション
	要素 1: 装置の機構	文字値	
	要素 2: 最終コード・ポイント	4141-FFFE	
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
DEPLOCNAME	従属ロケーション名	通信名, <u>*NONE</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CHRID	文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *KBDTYPE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	1-32767	
	要素 2: コード・ページ	1-32767	
PRTDEV	印刷装置	名前, *SYSVAL	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *DEV その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
PRTFILE	印刷出力ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 印刷出力ファイル	名前, QSYSPRT	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

装置クラス (DEVCLS)

この表示装置または印刷装置の装置クラスを指定します。

***LCL** この装置記述はローカル・ワークステーション制御装置に接続された装置用です。

***RMT** この装置記述はリモート・ワークステーション制御装置に接続された装置用です。

***VRT** この装置記述は仮想表示装置用です。仮想表示装置を通して、ユーザーはリモート・システムからユーザー自身のシステムをアクセス（パススルー）することができます。仮想表示装置によって、リモート・システムまたはパーソナル・コンピューターがユーザー自身のシステムのインターフェースをエミュレートすることができます。

***SNPT**

この装置記述は、SNAパススルー拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続された表示装置用です。SNAパススルー・サポートによって、ユーザーはホスト論理装置(LU)タイプ0から3のアプリケーションとこの表示装置を接続することができます。

注: ASCII装置は装置クラス*LCLで構成しなければなりません (モデムを介して接続するASCII装置を含む)。ASCII表示装置を仮想装置として使用するためには、ASCII表示装置をエミュレートする平衡型表示装置タイプで仮想装置記述を作成します (たとえば、ASCII表示装置の場合は装置タイプ3196の仮想装置)。

[トップ](#)

装置タイプ (TYPE)

記述が表す装置のタイプを指定します。

- 3179
- 3180
- 3196
- 3197
- 3277
- 3278
- 3279
- 3476
- 3477
- 3486
- 3487
- 5150 (TDLCリンクによって接続する任意の表示装置)
- 5251
- 5291
- 5292
- 5555 (2バイト文字セット)
- *NVT (ネットワーク仮想端末)

ASCII装置には次のタイプ・コードが有効です。

- 3101
- 3151
- 3161
- 3162
- 3163
- 3164
- *CALC

注: *CALCを指定することにより、ASCII装置でポートの共用が可能になります。ASCIIポートの共用により、異なる装置タイプが異なる物理パラメーターを使用して、ポートを手操作で再構成しなくても (さまざまな時点で) 同じポートを使用することができます。このパラメーターに*CALCを指定した場合には、このポートに接続されている表示装置の装置タイプをシステムが自動的に判断します。

ASCIIポート共用の詳細については、AS/400装置構成 (SD88-5003)またはASCII WORK STATION REFERENCE, (SA41-3130)を参照してください。

次のものは、DATA GENERAL、TELEVIDEO、DEC、WYSEの登録商標であり、ASCII装置に対して有効です。

タイプ 説明

D220	DATA GENERAL DASHER D220
T910	TELEVIDEO 910
T925	TELEVIDEO 925
T955	TELEVIDEO 955
V100	DEC VT-100
V220	DEC VT-220
W30	WYSE WY30
W50	WYSE WY50
W60	WYSE WY60

[トップ](#)

装置型式 (MODEL)

この記述の装置の型式番号を指定します。

これは必須パラメーターです。

各装置タイプの装置型式の有効な値は次の通りです。

タイプ 型式

3179	2
3180	2
3196	A1, A2, B1, B2
3197	C1, C2, D1, D2, W1, W2
3277	0, *DHCF
3278	0, 4, 5, *DHCF
3279	0, 5, *DHCF
3476	EA, EC
3477	FA, FC, FD, FE, FG, FW
3486	BA
3487	HA, HC, HG, HW
5150	1, 2, 3, 4, A1
5251	11
5291	1, 2
5292	1, 2
5555	B01, E01, C01, F01, G01, G02

*NVT 0000

ASCII装置の場合のみ。

***ASCII**

この表示装置に対して型式番号が容易に判別できない場合には、この値を指定してください。システムが型式番号を割り当てます（装置に型式番号がある場合）。システムによって割り当てられた型式番号が使用する表示装置の実際の型式番号でない場合には、次の表から*ASCIIによって割り当てられる型式番号を判別してください。可能な場合には、使用する表示装置の型式番号をユーザーが判別し、その番号を入力してください。

使用できる選択項目は次の通りです。

タイプ 型式

- 3101** 23 (*ASCII)
- 3151** 11 (*ASCII), 31, 41
- 3161** 11 (*ASCII), 12
- 3162** 11 (*ASCII), 12, 31, 32
- 3163** 11 (*ASCII), 12
- 3164** 11 (*ASCII), 12

***CALC**

(*ASCII)

次の装置は、DATA GENERAL, TELEVIDEO, DEC, WYSE社による商標であり、指定された*ASCIIの型式番号を必要とします。

タイプ 説明

- D220** DATA GENERAL DASHER D220
- T910** TELEVIDEO 910
- T925** TELEVIDEO 925
- T955** TELEVIDEO 955
- V100** DEC VT-100
- V220** DEC VT-220
- W30** WYSE WY30
- W50** WYSE WY50
- W60** WYSE WY60

トップ

エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)

IBM 3151またはIBM 3162表示装置によって使用される平衡型装置エミュレーションを指定します。使用可能なエミュレーションは3196A2 (80桁画面を使用できる) および3197D2 (132桁画面を使用できる) です。

注: IBM 3151 - 31/41型の3197D2エミュレーションでは、このパラメーターを適切にセットした上で、さらに「拡張用のカートリッジ」(部品番号81X5575)の導入が必要です。

***TYPE**

このパラメーターの省略時の値は3196A2です。

3196A2

80桁画面が使用されます。

3197D2

132桁画面が使用されます。

[トップ](#)

ポート番号 (PORT)

ローカル装置のポート番号を指定します。

平衡型装置の場合: 指定できる値の範囲は0から7です。

ASCII装置の場合: 指定できる値の範囲は0から17で、この装置が接続されるASCIIワークステーションのポートを示します。12ポート拡張機構がない場合には、ポート0から5が有効です。12ポート拡張機能がある場合には、ポート6から17が追加されます。

[トップ](#)

スイッチの設定値 (SWTSET)

ローカル平衡型装置のスイッチの設定値を指定します。

有効な値の範囲は0から6です。

[トップ](#)

共用セッション番号 (SHRSSNNBR)

平衡型表示装置の共用セッション番号を指定します。このパラメーターが適用されるのは、3486および3487構成済み装置タイプだけです。

注: 共用セッション・アドレスを付けることができるのは、2661, 6050, 9146,または915Aローカル・ワークステーション制御装置か、あるいは5494リモート・ワークステーション制御装置の場合だけであることを表示します。

- 0** 共用セッション番号は0です。
- 1** 共用セッション番号は1です。
- 2** 共用セッション番号は2です。
- 3** 共用セッション番号は3です。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

使用できる値の範囲は00からFEです。装置を接続する制御装置のタイプによって、有効な値が決まります。

制御装置

有効な値

5251 00, 02-09

5294 00-1B

5394 00-14

5494 00-37

3174 02-41

3274 02-41

SNAホスト

01-FE

4701 02-FE

4702 02-FE

4680 02-54

4684 02-FE

FBSS 02-FE

[トップ](#)

ASCII装置のエミュレート (EMLASCII)

ASCII装置の場合には、構成された装置がサポートされているASCII装置タイプ(TYPEパラメーター) をエミュレートしているかどうかを指定します。ASCII装置が構成されている時には、次のパラメーターの選択項目はその装置の有効範囲に制限されます。

- ATTACH (物理的接続機構)
- LINESPEED (回線速度)
- WORDLEN (語の長さ)
- PARITY (パリティのタイプ)
- STOPBITS (停止ビットの数)

サポートされるASCII装置タイプをエミュレートしているASCII装置の場合には、これらの制約事項は適用されないことがあります (エミュレートを行う装置は、エミュレートされるASCII装置より、これらのパラメーターに対するより広い範囲の選択項目をもっている場合があります)。EMLASCII(*YES)が指定された時には、これらのパラメーターには制約事項はありません。ユーザーはこれらのパラメーターに、範囲いっぱいの値を入力することができますが、同時に、選択された値が構成中の装置に対して有効であることを確認する責任があります。

***NO** 構成しようとしている装置が**装置タイプ (TYPE)**パラメーターのサポートされているASCII装置タ

タイプの1つであり、物理的接続機構、回線速度、語の長さ、パリティのタイプ、および停止ビットの各パラメーターの装置特有の制約事項が適用されることを示します。

- *YES** 構成される装置が、サポートされているASCII装置タイプ(TYPEパラメーター)の1つをエミュレートしていること、および物理的接続機構、回線速度、語の長さ、パリティのタイプ、および停止ビットの各パラメーターに対して装置固有の制約事項が適用されないことを指定します。

トップ

物理的接続 (ATTACH)

ASCII表示装置の場合に、ASCIIワークステーション制御機構に対する表示装置の物理的接続機構を指定します。

***EIA422**

EIA-422接続機構を使用します(3101, 3151, 3161, 3162, 3163,および3164の場合にのみ有効)。

***DIRECT**

EIA-232直接接続機構を指定します。

***MODEM**

EIA-232モデム接続機構を指定します。

- *PTT** 郵便電話電信(PTT)接続機構を指定します。

***WIRE3**

EIA-232 3線接続機構を指定します。

***WIRE4**

EIA-232 4線接続機構を指定します。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

- *YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

- *NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

注: コンソールまたは代替コンソール記述で指定された時には、このパラメーターは無視されます。

トップ

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

トップ

キーボード言語タイプ (KBDTYPE)

この表示装置の国別キーボード言語IDを指定します。

注:

1. DEVCLS(*RMT)が指定されていて、TYPE(3277)、TYPE(3278)、またはTYPE(3279)が指定されている時には、次の値を指定することができます。*SYSVAL、AGI、ALI、BGB、BLI、CAI、CSB、DMI、FNI、FAI、HNB、IRB、ITI、JPB、MKB、NWI、PLB、PRI、RMB、RUB、SKB、SPI、SQB、SSI、SWI、TRB、USB、USI、またはYGI。その他の場合には、DEVCLS(*RMT)が指定されている時は、このパラメーターは無効です。
2. TYPE(3486)またはTYPE(3487)が指定されている時には、次の値を指定することができます。*SYSVAL、AGB、AGI、ALI、BGB、BLI、CAB、CAI、CLB、CSB、DMB、DMI、FAB、FAI、FNB、FNI、GNB (またはGKB)、HNB、ICB、ICI、IRB、ITB、ITI、JPB、KAB、MKB、NCB、NEB、NEI、NWB、PLB、PRB、PRI、RMB、RUB、SFI、SGI、SKB、SPB、SPI、SQB、SSB、SSI、SWB、SWI、TKB、TRB、UKB、UKI、USB、USI、またはYGI。
3. このパラメーターは、DEVCLS(*LCL)とTYPE(5150)の組み合わせの場合には任意指定となります。

*SYSVAL

システムにQKBDTYPEシステム値を使用するよう命令します。

キーボード言語タイプ

この表示装置の3文字の国別ID (EBCDICおよびASCIIに使用される) を指定してください。

このパラメーターの適切な値を確認するか、あるいは指定された言語で使用できるASCII表示装置を判別するためには、次の2つのテーブルを使用することができます。

- キーボード・マッピング・テーブルには、有効な国別ID、各IDによって表される言語、および各言語のASCII装置グループ (適用できる場合) が表示されます。
- ASCII表示装置および装置グループ・テーブルには、有効な表示装置とそれに関連したASCII装置グループが表示されます。

たとえば、ユーザーが3101表示装置を作成したいものとし、ASCII表示装置および装置グループ・テーブルは、3101表示装置がASCII装置グループAをサポートしていることを示しています。キーボード・マッピング・テーブルは、装置グループAで使用できる有効な言語IDにAGB、AGI、CAB、CAI、FAB、FAI、ITB、ITI、UKB、UKI、USB、およびUSIが含まれていることを示しています。

次のキーボードは、カスタマイズしているオブジェクトも使用される場合にのみASCII表示装置によって指定することができます。ALI、BGB、CSB、ESB、HNB、LTB、LVB、MKB、PKB、PLB、RMB、RUB、SKB、SQB、TRB、UAB、およびYGI。

ID 言語 (国) - ASCII装置グループ

ALI アルバニア

ALM アルバニア・ユーロ通貨

CLB アラビア語X/BASIC - D*

CLE アラブX/BASICユーロ通貨

AGB オーストリア/ドイツ- A, B

AGE オーストリア/ドイツ・ユーロ通貨

AGI オーストリア/ドイツ各国間- A, B

AGM オーストリア／ドイツ各国間ユーロ通貨
BLI ベルギー各国間- B
BLM ベルギー各国間ユーロ通貨
BRB ブラジル・ポルトガル語
BRE ブラジル・ポルトガル語ユーロ通貨
BGB ブルガリア
BGE ブルガリア・ユーロ通貨
CAB カナダ・フランス語- A, B
CAE カナダ・フランス語ユーロ通貨
CAI カナダ・フランス語各国間- A, B
CAM カナダ・フランス各国間ユーロ通貨
SPB カタロニア語
RCB 中国語（簡体字）
TAB 中国語（繁体字）
YGI クロアチア
YGM クロアチア・ユーロ通貨
CYB キリル
CSB チェコ共和国
CSE チェコ共和国ユーロ通貨
DMB デンマーク- B
DME デンマーク・ユーロ通貨
DMI デンマーク各国間- B
DMM デンマーク各国間ユーロ通貨
ESB エストニア
FNB フィンランド／スウェーデン- B
FNE フィンランド／スウェーデン・ユーロ通貨
FNI フィンランド／スウェーデン各国間- B
FNM フィンランド／スウェーデン各国間ユーロ通貨
FAB フランス(AZERTY) - A, B
FAE フランス(AZERTY)ユーロ通貨
FAI フランス(AZERTY)各国間- A, B
FAM フランス(AZERTY)各国間ユーロ通貨
FQB フランス(QWERTY)
FQI フランス(QWERTY)国際
GNB ギリシャ語（注を参照）
GNE ギリシャ語ユーロ通貨

NCB ヘブライ語- D*

NCE ヘブライ語ユーロ通貨

HIB ヒンディ語

HNB ハンガリー

HNE ハンガリー・ユーロ通貨

ICB アイスランド

ICE アイスランド・ユーロ通貨

ICI アイスランド各国間

ICM アイスランド各国間ユーロ通貨

INB 国際

INI 国際各国間

IRB イラン (ペルシア語)

ITB イタリア- A, B

ITE イタリア・ユーロ通貨

ITI イタリア各国間- A, B

ITM イタリア各国間ユーロ通貨

JEB 日本 (英語)

JEI 日本 (英語) 各国間

JKB 日本語漢字

JPB 日本ラテン語拡張

JPE 日本ラテン語拡張ユーロ通貨

JUB 日本米国英語基本

KAB 日本 (カタカナ)

KOB 韓国

LAB ラオス人民民主共和国

LAE ラオス人民民主主義共和国ユーロ通貨

ROB ローマ字-2/ROECE (中欧, 東欧)

ROE ラテン語-2/ROECEユーロ通貨

LVB ラトビア

LTB リトアニア

MKB FYRマケドニア (前ユーゴスラビア連邦)

MKE FYRマケドニア・ユーロ通貨

NEB オランダ

NEE オランダ・ユーロ通貨

NEI オランダ各国間

NEM オランダ各国間ユーロ通貨

NWB ノルウェー- B
NWE ノルウェー・ユーロ通貨
NWI ノルウェー各国間- B
NWM ノルウェー各国間ユーロ通貨
PLB ポーランド
PLE ポーランド・ユーロ通貨
PRB ポルトガル- B
PRE ポルトガル・ユーロ通貨
PRI ポルトガル各国間- B
PRM ポルトガル各国間ユーロ通貨
RMB ルーマニア
RME ルーマニア・ユーロ通貨
RUB ロシア
RUE ロシア・ユーロ通貨
SQB セルビア (キリル語)
SQE セルビア (キリル) ユーロ通貨
YGI セルビア (ラテン文字)
YGM セルビア (ラテン語) ユーロ通貨
SKB スロバキア
SKE スロバキア・ユーロ通貨
YGI スロベニア
YGM スロベニア・ユーロ通貨
SPB スペイン- B
SPE スペイン・ユーロ通貨
SPI スペイン各国間- B
SPM スペイン各国間ユーロ通貨
SSB スペイン語圏- B
SSE スペイン語圏ユーロ通貨
SSI スペイン語圏各国間- B
SSM スペイン語圏各国ユーロ通貨
SWB スウェーデン- B
SWE スウェーデン・ユーロ通貨
SWI スウェーデン各国間- B
SWM スウェーデン各国間ユーロ通貨
SFI スイス／フランス語各国間- B
SFM スイス／フランス各国ユーロ通貨

SGI	スイス/ドイツ語各国間- B
THB	タイ
THE	タイ・ユーロ通貨
TKB	トルコ(QWERTY)
TKE	トルコ(QWERTY)ユーロ通貨
TRB	トルコ(F)
TRE	トルコ(F)ユーロ通貨
UAB	ウクライナ
UAE	ウクライナ・ユーロ通貨
UKB	英国- A, B
UKE	英国ユーロ通貨
UKI	英国各国間- A, B
UKM	英国各国間ユーロ通貨
USB	米国/カナダ- A, B, C
USE	米国/カナダ・ユーロ通貨
USI	米国/カナダ各国間- A, B, C
USM	米国/カナダ各国間ユーロ通貨
PKB	ウルドゥー語
PKE	ウルドゥー語ユーロ通貨
VNB	ベトナム
VNE	ベトナム・ユーロ通貨
YGI	前ユーゴスラビアの言語
YGM	前ユーゴスラビア言語ユーロ通貨

注: GNBコードはギリシャの現在のIDです。GKBコードはV2R1以前に使用されたもので引き続きサポートされますが、推奨されるGNBコードより文字数が少なくなっています。

ASCII装置および装置グループ

表示装置

ASCII装置グループ

3101	A
3151	B
3161	B
3162	B
3163	B
3164	B

次の装置は、TELEVIDEO、DEC、またはWYSEの商標であり、ASCII装置グループCまたはDの言語だけを指定しなければなりません。

510 IBM Systems - iSeries: i5/OS コマンド CPYIGCTBL (DBCS フォント・テーブルのコピー) での開始

表示装置

説明

D220	DATA GENERAL DASHER D220
T910	TELEVIDEO 910
T925	TELEVIDEO 925
T955	TELEVIDEO 955
V100	DEC VT-100
V220	DEC VT-220 (ASCII装置グループDおよびCをサポートする)
W30	WYSE WY30
W50	WYSE WY50
W60	WYSE WY60

[トップ](#)

サインオフ時の回線切断 (DROP)

リモート表示装置の場合に、回線上のすべての装置が使用されなくなった時に、システムによって回線が切断されるかどうかを指定します。

ユーザーがSIGNOFFコマンドでサインオフ時の回線切断 (DROP)パラメーターを指定している場合には、装置記述に指定されている値は、ユーザーがその装置でサインオフすることによって指定変更できます。

- *YES** この装置および他のすべての接続装置が使用中でなくなったときに、この装置が接続している制御装置への交換回線が切断されます。
- *NO** 制御装置のすべての接続装置が使用中でなくなったときに、交換回線は制御装置からは切断されません。

[トップ](#)

カーソル明滅可能 (ALWBLN)

(プログラム制御の) 明滅カーソルが抑制されるかどうかを指定します。

注: 明滅カーソルの属性を変更することのできるキーボード・セットアップ機能をもつ表示装置によって、このパラメーターに指定されている値を一時変更することができます。

- *YES** 3179, 3180, 3196, 3197, 3476, 3477, 3486, 3487, 5251, 5291, および5292表示装置の場合には、カーソルを明滅させることができます。
- *NO** カーソルの明滅は行われません。

[トップ](#)

補助装置 (AUXDEV)

5292-2型装置のIEEE-488ポートに接続される追加の装置の装置タイプおよびアドレス（ある場合）を指定します。5292-2型の同じIEEE-488 AUXDEVポートには最大31のプロッターを接続することができますが、異なったIEEE-488アドレスとなります。有効な追加装置タイプは、7371 (IBM 7371作図装置)、7372 (IBM 7372作図装置)、6180 (IBM 6180作図装置)、6182 (IBM 6182作図装置)、6184 (IBM 6184作図装置)、6185 (IBM 6185作図装置)、6186M1 (IBM 6186M1作図装置)、および6186M2 (IBM 6186M2作図装置)です。有効な追加装置アドレスは1から31の数値です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

[トップ](#)

印刷装置 (PRINTER)

リモート表示装置の場合に、表示装置に対応する印刷装置の装置名を指定します。このパラメーターに指定されているワークステーション印刷装置の装置記述は、すでに作成されて現在システム上に存在していなければなりません。印刷装置および表示装置は両方とも同じ制御装置に接続しなければなりません。

[トップ](#)

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

リモート表示装置と印刷装置の場合には、使用可能な最大要求単位(RU)の長さ（バイト数）を指定します。

*CALC

システムが使用に最も適した値を決定します。*CALCの値はX.25ネットワークに接続されていない装置に対して指定しなければなりません。*CALCはX.25ネットワークに接続された装置に対して指定することができます。すべての場合に*CALCが推奨値です。

最大長要求単位

241または247を指定します。この値が有効なのは、X.25ネットワークに接続された装置の場合だけです。推奨値*CALCを指定しない場合には、ELLCに241を使用し、QLLCに247を使用されるようお奨めします。245および256の値を指定できますが、この結果は*CALCを指定したのと同じです。

[トップ](#)

適用業務タイプ (APPTYPE)

この装置によって使用されるアプリケーション・タイプを指定します。

*NONE

装置はすべてのアプリケーションに使用されません。

***NRF** 装置はネットワーク経路指定機能(NRF)アプリケーションに使用されます。

*CTLSSN

この装置は*DEVINIT装置とのセッションを制御します。

*DEVINIT

この装置はセッションを開始します。

*APPINIT

アプリケーション・プログラムがセッションを開始します。

[トップ](#)

活動化タイマー (ACTTMR)

交換接続の場合には、SNAパススルー・サポートがホストISERIESシステムからの活動化要求を装置が応答するのを待機する時間（秒数）を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

このパラメーターを使用できるのは、DEVCLSパラメーターに対して*SNPTが指定されている場合だけです。

170 170秒の活動化時間が指定されます。

活動化時間

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する1から2550の範囲の数値を指定してください。

[トップ](#)

非活動タイマー (INACTTMR)

表示装置の非活動タイマー（タイムアウト）値を指定します。また、このパラメーターはこのタイムアウト値を超えた時にどんなことが起こるかについても指定しますが、何が起こるかは当該装置のその他の属性によって異なります。

- ASCIIワークステーション制御装置に接続された表示装置の場合には、タイムアウト値を超える時間の間、表示装置が非活動状態（データが送信も受信もされない状態）であると、ユーザーのジョブが取り消されます。表示装置は自動的にオフに構成変更され、再びオンに構成変更されて、新しいサインオン画面が表示されます。
- SNAパススルー(SNPT)サポートを使用して接続されている表示装置の場合には、装置がホスト・アプリケーションに結合されていない時間がタイムアウト値を超えると、QSYSOPR へのメッセージによってユーザーに通知され、セッションが終了します。ユーザーは接続およびセッションを再確立しなければなりません。
- アプリケーション・タイプ値が*APPINIT, *DEVINIT,または*NRFである表示装置の場合には、タイムアウト値を超える時間の間、装置が非活動状態（装置に対してオープンされたファイルがクローズされ、装置に対するファイルのオープン要求が以後受け取られていない状態）であると、セッションが終了します。

注: サブシステムは装置に対してオープンされているファイルを常にもっているため、このタイマーはサブシステムに割り振られた装置によっては使用されません（通常の対話式使用）。このタイマーは、装置に対してファイルをオープンおよびクローズするバッチ・ジョブによって使用されます。

SNAパススルー(*SNPT)装置クラス・サポートを使用している接続の場合には、*ATTACHの省略時の値が*NOMAXにマップされます。

アプリケーション・タイプ値が*APPINIT, *CLTSSN, *DEVINIT,または*NRFである装置の場合には、*ATTACHの省略時の値が1分にマップされます。

郵便電話電信(*PTT)接続機構の場合には、有効な非活動タイマーの値は*SEC15 (15秒) , *SEC30 (30秒) , および1から10分です。*ATTACHの省略時の値は*SEC30 (30秒) にマップされます。

その他の接続機構の場合には、有効な非活動タイマーの値は1から30分および*NOMAX です。*ATTACHの省略時の値はこれらの接続機構の*NOMAXにマップされます。

***ATTACH**

この値は、**物理的接続 (ATTACH)**パラメーターで指定された値と、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターおよび**装置クラス (DEVCLS)**パラメーターの一定の値によって変化します。

***NOMAX**

最大非活動時間は追跡されません (非活動タイマーは実施されません)。

***SEC15**

15秒のタイムアウト期間が使用されます。

***SEC30**

30秒のタイムアウト期間が使用されます。

非活動タイマー

タイムアウト値 (分) を指定します。

[トップ](#)

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNA パススルー装置の名前を指定します。

***NONE**

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リストのホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

***NONE**

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

[トップ](#)

ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド (LOGON)

サインオン (ログオン) テキストを指定します。このパラメーターは、DEVCLS(*SNPT)または APPTYPE(*NRF)を指定した場合に使用することができます。APPTYPE(*NRF)は、セッションの確立が要求された時にホスト・システムに送信されるログオン・ストリングを指定します。DEVCLS(*SNPT)は、SNA パスルー・サポートを開始した後にホスト・システムに送信されるサインオン・テキストを指定します。

このパラメーターは、ファイルが*NRF用にオープンされた時にホスト・ネットワークでシステム・サービス制御点(SSCP)に送信されるログオン・ストリングも指定します。

*NONE

テキストがホスト・システムに送信されません。

ホスト・ログオン・コマンド

ホスト・システムに送信するテキストを指定してください。テキストにブランクまたは他の特殊文字が入っている場合には、そのテキストをアポストロフィで囲まなければなりません。テキスト中のすべてのアポストロフィは、2つのアポストロフィとして表す必要があります。最大256文字まで指定できます。

トップ

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

*TYPE

システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。*TYPEはすべての表示装置に対して19200ビット/秒を選択しますが、3101表示装置は例外で、9600ビット/秒が選択されます。5150 A1装置または装置タイプ*CALCの場合には、*TYPEは1200ビット/秒を選択します。

*CALC

システムは、このポートに接続された表示装置の回線速度を自動的に計算します。*CALCが指定されている場合には、**パリティのタイプ (PARITY)**パラメーターおよび**語の長さ (WORDLEN)**パラメーターも指定しなければなりません。

注: *CALCを指定することにより、ASCII装置でポートの共用が可能になります。ASCIIポートの共用により、異なる装置タイプが異なる物理パラメーターを使用して、ポートを手操作で再構成しなくても (さまざまな時点で) 同じポートを使用することができます。

ASCIIポート共用の詳細については、AS/400装置構成 (SD88-5003)またはASCII WORK STATION REFERENCE, (SA41-3130)を参照してください。

回線速度

回線速度を指定してください。有効な値は150, 300, 600, 1200, 1800, 2400, 3600, 4800, 7200, 9600, 19200,または38400です。

トップ

語の長さ (WORDLEN)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用される語の長さ（ビット／文字）を指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT)接続機構の場合には、語の長さはそのモデムに対して選択された語の長さと同じでなければなりません。表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、語の長さはその表示装置の装置記述に指定された語の長さと同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべてのワード長をサポートしていないものもあります。使用したいワード長を入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

***TYPE**

システムはこの装置タイプに推奨された設定値を使用します。*TYPEは、7ビットのワード長を選択する3101およびD220表示装置以外のすべての表示装置に8ビットのワード長を選択します。

- 7 7ビット・ワード長を指定します。
- 8 8ビット・ワード長を指定します。

***CALC**

ポートの共用を指定します。*CALCを指定した場合には、このポートに接続されている表示装置の語の長さをシステムが自動的に判断します。

ASCIIポート共用の詳細については、AS/400装置構成 (SD88-5003)またはASCII WORK STATION REFERENCE, (SA41-3130)を参照してください。

トップ

パリティのタイプ (PARITY)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用されるパリティのタイプを指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT) 接続機構の場合には、パリティのタイプはそのモデムに対して選択したタイプと同じでなければなりません。また、表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、パリティのタイプは表示装置の装置記述に指定したタイプと同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべてのタイプのパリティをサポートしないものもあります。使用したいタイプのパリティを入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

***TYPE**

システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。*TYPEは、*MARKを選択するD220以外のすべての表示装置用に*EVEN（偶数パリティ）を選択します。5150 A1装置の場合には、*TYPEは8ビットの語の長さには*NONEおよび7ビットの語の長さには*EVENを選択します。装置タイプ (TYPE)パラメーターに*CALCが指定されている場合には、*TYPEは*NONEを選択します。

***CALC**

ポートの共用を指定します。*CALCを指定した場合には、このポートに接続されている表示装置のパリティをシステムが自動的に判断します。

***EVEN**

偶数パリティが使用されます。

***ODD** 奇数パリティが使用されます。

***NONE**

パリティ・ビットを使用しないことを指定します。

***MARK**

マーク・パリティ（パリティに1が使用される）が使用されます。

***SPACE**

スペース・パリティ（パリティに0が使用される）が使用されます。

ASCIIポート共用の詳細については、AS/400装置構成 (SD88-5003) およびASCII WORK STATION REFERENCE, (SA41-3130)を参照してください。

[トップ](#)

停止ビット (STOPBITS)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用される停止ビットの数を指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT)接続機構の場合には、停止ビットの数はそのモデムに対して選択された停止ビットの数と同じでなければなりません。表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、停止ビットの数はその表示装置の装置記述に指定された停止ビットの数と同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべての停止ビットの数をサポートしないものもあります。使用したい停止ビットの数を入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

***TYPE**

システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。*TYPEを指定すると、2停止ビットの設定値が選択されるDEC VT-100表示装置を除いて、すべての表示装置に対して1停止ビットが選択されます。

1 1停止ビットを指定します。

2 2停止ビットを指定します。

[トップ](#)

最大未処理フレーム数 (MAXOUT)

リモート・システム(5150ワークステーション)が応答する前にそのリモート・システムに逐次的に送られるフレームの最大数を指定します。フレームの最大数は1から7でなければなりません。このパラメーターが有効なのは、装置タイプ (TYPE)パラメーターに5150が指定され、装置型式 (MODEL)パラメーターにA1が指定されているか、ASCIIポート共用が使用される場合だけです。

7 送信される省略時のフレーム数は7です。

最大未処理フレーム数

フレーム数として1から7の値を指定してください。

[トップ](#)

アイドル・タイマー (IDLTMR)

システムが応答を待機する時間(0.1秒間隔で)を指定します。指定した時間内に応答を受け取らない場合には、エラー回復手順が開始されます。このパラメーターは、数値が10から250の間にある場合、**装置タイプ (TYPE)**パラメーターに5150が指定され、**装置型式 (MODEL)**パラメーターにA1が指定されている場合、あるいはASCIIポートの共用を使用している場合にだけ、有効です。

40 省略時の値は4.0秒です。

遊休タイマー

10から250の値を0.1秒間隔で指定してください。

[トップ](#)

NRMポーリング・タイマー (NRMPOLLTMR)

通常応答モード(NRM)の時にこの装置のポーリングの間隔(0.1秒間隔で)を指定します。このパラメーターが有効なのは、**装置タイプ (TYPE)**パラメーターに5150が指定されて、**装置型式 (MODEL)**パラメーターにA1が指定された場合、あるいはASCIIポートの共用を使用している場合だけです。

3 省略時の値は0.3秒です。

NRMポーリング・タイマー

0.1秒間隔で2から100の値を指定します。

[トップ](#)

フレーム再試行 (FRAMERTY)

応答されていないコマンド・フレームまたは肯定応答されていない情報フレームに対する再試行回数を指定します。このパラメーターが有効なのは、**装置タイプ (TYPE)**パラメーターに5150が指定され、**装置型式 (MODEL)**パラメーターにA1が指定されているか、ASCIIポート共用が使用される場合だけです。

15 省略時の再試行回数は15です。

フレーム再試行

再試行回数として5から64の値を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

このオブジェクトが通信するシステムのリモート・ロケーション名を指定します。

注: APPTYPE(*APPINIT)装置にはこのパラメーターが必要です。APPTYPE(*APPINIT)装置のリモート・ロケーション名は、物理入出力装置のVTAM/NCP (仮想リモート通信アクセス方式/ネットワーク制御プログラム) 名です。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。このパラメーターがAPPTYPE(*CTLSSN) または APPTYPE(*APPINIT)と一緒に指定されている時には、リモート・ロケーション名はネットワーク制御プログラム(NCP)中の独立論理装置(LU)の名前となります。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ローカル・ロケーション名を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ネットワークID (ID)の名前を指定します。APPTYPE(*APPINIT)装置に対してこのパラメーターを指定することができます。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたRMTNETID値が使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークID (ID)は使用されません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークIDの名前を指定してください。

[トップ](#)

DBCS機能 (IGCFEAT)

装置の機構および最終コード・ポイントの値を示すためにDBCSフィーチャー・コード形式で使用される2バイト文字セット(DBCS)テーブルを指定します。このパラメーター記述の終わりにあるテーブルには、漢字使用可能の装置の有効な装置機構および最終コード・ポイント値が示されています。

注: このパラメーターが有効なのは、漢字使用可能の装置の場合だけです。

要素1: DBCS使用可能装置の機能

装置の機構

SSSSLRの形式を使用して、装置の文字解像度、言語、および相対バッファ・サイズの装置の機構を指定します。この場合:

SSSS =

文字の解像度 (作成するために使用される行列点の数)。たとえば、2424は、文字を公式化するために使用可能な24行列点の高さと24行列点の幅です。

L = 言語コード。現在サポートされている4つの言語コードは次の通りです。

- J =日本語
- K =韓国語
- C =中国語 (繁体字)
- S =中国語 (簡体字)

R = 相対バッファ・サイズ。有効な値は0, 1, 2,および4です。

要素2:最終コード・ポイント

最終コード・ポイント

最後の漢字の4桁のコード・ポイントを指定してください。この値はブランクとすることができません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)

従属LU要求元(DLUR)で使用される従属ローカル・ロケーション名を指定します。同時に、接続用の追加の機密保護が提供されます。この名前を指定する場合には、従属LUサーバー(DLUS)ノードからの活動化要求(SNA ACTLU)がこの名前を参照しなければなりません。さもないと拒否されます。

リモートDLUSノードは、任意選択でDLUSノードのLUの自動定義のためにISERIESからの非送信請求応答PSID (プロダクト・セットID)を受け入れることができます。その場合には、応答PSIDでこの名前がDLUSノードに送られ、ACTLU要求で戻されます。

非送信請求応答PSIDがDLUSノードによってサポートされていない場合には、両方のシステムでPU名定義の精密な調整が必要です。

*NONE

ロケーション名は定義されません。

従属ロケーション名

DLURアプリケーションに使用される従属ロケーション名を指定してください。

[トップ](#)

文字識別コード (CHRID)

ワークステーション表示装置がサポートする文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。

*KBDTYPE

システムは、**キーボード言語タイプ (KBDTYPE)**パラメーターに指定された国別キーボード言語ID値に対応する図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

図形文字セットコード・ページ

この表示装置の属性に一致する図形文字セットおよびコード・ページの値を指定してください。図形文字セットおよびコード・ページの値は、1から32767の範囲内の数値でなければなりません。

[トップ](#)

印刷装置 (PRTDEV)

このワークステーションの省略時の印刷装置の修飾名を指定します。出力を作成するために使用される印刷装置ファイルでファイルをスプールするように指定している場合には、スプール・ファイルが装置の出力待ち行列に入れられます。この出力待ち行列の名前は装置と同じです。

注: これは、省略時の値が印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションのOUTQパラメーターに指定されると見なされます。

***SYSVAL**

システム値QPRTDEVに指定されている省略時のシステム印刷装置が使用されます。

印刷装置名

出力を印刷するために使用する印刷装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

出力待ち行列 (OUTQ)

出力待ち行列(*OUTQ)オブジェクトを指定します。

指定できる出力待ち行列名の値は次の通りです。

***DEV** 印刷装置ファイルのDEVパラメーターで指定された印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。出力待ち行列は印刷装置と同じ名前をもちます。(印刷装置ファイルのDEVパラメーターはCRTPRTF, CHGPRTF,またはOVRPRTFコマンドによって判別されます。)

注: これは、省略時の値が印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションのOUTQパラメーターに指定されていると見なされます。

出力待ち行列名

出力待ち行列の名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

出力待ち行列を見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

印刷出力ファイル (PRTFILE)

この表示装置のページ印刷キーの処理のために代替印刷装置ファイルの使用を指定します。

印刷出力ファイルは、その修飾名（ライブラリー名／印刷ファイル名）で指定されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)

作成するワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの修飾名を指定します。

*NONE

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトは指定されません。

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定してください。

注: WSCSTパラメーターにワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定した場合には、ASCII装置にFQB, FQI, INB, INI, JEB, JEI, JKB, JUB, KAB, KOB, RCB,およびTABを除くすべての国別キーボードIDを使用することができます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTDEV DSP DEVD(DSP4) TYPE(3180) MODEL(2)
        DEVCLS(*LCL) PORT(0)
        SWTSET(4) CTL(CTL01) KBDTYPE(USB)
```

このコマンドは、DSP4という名前の3180-2型ローカル装置記述を作成します。表示装置はローカル・ワークステーション制御装置CTL01のポート0にあります。装置には4というアドレスがあり、米国/カナダ用のキーボードが備わっています。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

CPF2631

装置タイプ&2が正しくない。

[トップ](#)

装置記述の作成（金融機関）(CRTDEVFNC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

金融機関装置記述の作成(CRTDEVFNC)コマンドにより、金融機関用装置の装置記述が作成されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV D	装置記述	名前	必須, 定位置 1
TYPE	装置タイプ	3624, 3694, 4704, *FNCICF	必須, 定位置 2
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	01-FF	必須, 定位置 3
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
MAXLENRU	要求単位の最大長	8-4096, *CALC	オプション
DEVCLS	装置クラス	*NONE, *SNPT	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, 170	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1-30, *NOMAX, *SEC15, *SEC30	オプション
SNPTDEV	SNAパススルー装置記述	名前, *NONE	オプション
SNPTGRP	SNAパススルー・グループ名	名前, *NONE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEV D)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

装置タイプ (TYPE)

この記述が表す装置のタイプを指定します。

TYPEコード

説明

- 3624 自動取引装置 (システム/38互換金融機関サブシステム)
- 3694 書類読取処理装置 (システム/38互換金融機関サブシステム)
- 4704 金融機関表示装置 (システム/38互換金融機関サブシステム)

*FNCICF

金融機関サブシステムICF (互換性のあるICF)

[トップ](#)

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

装置を接続する制御装置のタイプによって、有効な値が決まります。

制御装置

有効な値

- FBSS 01からFF
- 4701 01からFF
- 4702 01からFF
- 3694 01から04
- 4730 01から03
- 4731 01から02
- 4732 01から02
- 4736 01から02

LOCADR 01が使用されるのはシステム・モニター・セッションとの通信だけで、これが有効なのは**装置タイプ (TYPE)**パラメーターに*FNCICFが指定されている場合だけです。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

この装置が通信するリモート・システムに対応したリモート・ロケーションの名前を指定します。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

トップ

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

使用できる要求単位(RU)の最大長を指定します。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

最大長要求単位

着信要求単位の最大長として8から4096バイトの範囲内の値を指定してください。

注: 3624, 3694,または4704装置タイプの場合には、*CALCが唯一の使用可能な値です。装置タイプ (TYPE) パラメーターに*FNCFが指定されていて、3694, 4730, 4731, 4732,または4736制御装置に接続されている場合には、使用可能な値は*CALCまたは256だけです。

トップ

装置クラス (DEVCLS)

この装置に使用する装置クラスを指定します。

*NONE

この装置記述はSNAパススルー・サポートを使用しません。

*SNPT

この装置記述は、SNAパススルー拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続された表示装置用です。SNAパススルー・サポートによって、ユーザーはホスト論理装置(LU)タイプ0から3のアプリケーションとこの表示装置を接続することができます。

トップ

活動化タイマー (ACTTMR)

交換回線の場合には、SNAパススルー・サポートがホストISERIESシステムからの活動化要求に装置が応答するのを待機する時間を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

このパラメーターを使用できるのは、DEVCLSパラメーターに対して*SNPTが指定されている場合だけです。

170 170秒の活動化時間が指定されます。

活動化タイマー

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する1から2550の範囲の数値を指定してください。

[トップ](#)

非活動タイマー (INACTTMR)

SNAパススルー・サポートを使用して接続された装置の場合には、装置がホスト・アプリケーションに制限されていない時間を測るタイムアウト値を指定します。タイムアウト値を超えた時に、セッションは終了します。

*NOMAX

最大非活動時間は追跡されません（非活動タイマーは実施されません）。

*SEC15

15秒のタイムアウト期間が使用されます。

*SEC30

30秒のタイムアウト期間が使用されます。

非活動タイマー

タイムアウト値を分単位で指定します。

[トップ](#)

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNA パススルー装置の名前を指定します。

このパラメーターを使用できるのは、DEVCLSパラメーターに対して*SNPTが指定されている場合だけです。

*NONE

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リスト中のホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します(CRTCFLGコマンドを参照してください)。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

このパラメーターを使用できるのは、DEVCLSパラメーターに対して*SNPTが指定されている場合だけです。

***NONE**

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに与える権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

例

例1:金融機関用装置記述の変更

```
CHGDEVFNC  DEVD(FNCDSP1)  ONLINE(*YES)
```

このコマンドは、金融機関用装置FNCDSP1の装置記述を、装置がIPL時にオンに構成変更されるように変更します。

例2: 金融機関用装置記述の作成

```
CRTDEVFNC  DEVD(FNCDSP1)  TYPE(*FNCICF)  LOCADR(01)  
CTL(FNCCTL1)
```

このコマンドは、FNCDSP1という名前の金融機関用装置記述を作成します。これは、アドレスがX'01'のICF金融機関用装置です。金融機関用制御装置FNCCTL1に接続されています。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

装置記述の作成(SNA ホスト) (CRTDEVHOST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNAホスト装置記述の作成(CRTDEVHOST)コマンドにより、システム・ネットワーク体系(SNAホストシステム装置)の装置記述が作成されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVVD	装置記述	名前	必須, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	01-FF	必須, 定位置 2
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 3
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
APPTYPE	適用業務タイプ	*RJE, *EML, *PGM	オプション
MAXLENRU	要求単位の最大長	*CALC, 241, 245, 247, 256, 497, 501, 503, 512, 768, 1009, 1015, 1024, 1280, 1536, 1792, 2048, 2304, 2560, 2816, 3072, 3328, 3584, 3840, 4096	オプション
EMLDEV	エミュレートされる入出力装置	3278, 3284, 3286, 3287, 3288, 3289	オプション
EMLKBD	エミュレートされるキーボード	*UPPER, *LOWER	オプション
EMLNUMLCK	エミュレートされる数字ロック	*NO, *YES	オプション
EMLWRKSTN	エミュレーション・ワークステーション	名前, *ANY	オプション
ENDSSNHOST	ホストとのセッション終了	*UNBIND, *RSHUTD	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
DEPLOCNAME	従属ロケーション名	通信名, *NONE	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

装置記述 (DEVVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

有効な値の範囲は01からFFです。

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

ユーザー・プログラムが通信するリモート・ロケーションの名前を指定します。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

トップ

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

トップ

適用業務タイプ (APPTYPE)

この装置が使用するアプリケーション・タイプを指定します。

***RJE** この装置はリモート・ジョブ入力(RJE)によって使用されます。

***EML** この装置は3270エミュレーションによって使用されます。

***PGM** この装置はプログラム間通信によって使用されます。

トップ

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

使用できる要求単位(RU)の最大長を指定します。

*CALC

システムが使用に最も適した値を決定します。これは推奨値です。

最大長要求単位

着信要求単位の最大長として使用される値(256から4096)を256の増分値で指定してください。241, 247, 497, 503, 1009, および1015の値を指定することもできますが、これらは装置がX.25ネットワークに接続されている場合にだけ有効です。

[トップ](#)

エミュレートされる入出力装置 (EMLDEV)

このプログラム装置項目を使用して3270データ・ストリームを送信および受信することを指定します。エミュレーション装置パラメーターは、エミュレーション装置タイプおよびエミュレーション装置データ形式から構成されています。エミュレーション装置データ形式は、送受信されるタイプ3270のデータ・ストリームの形式を指定します。タイプ3270コマンドとデータ・フロー情報が入っている20バイトまたは32バイトの共通ヘッダーは、タイプ3270データ・ストリームを送受信しようとしている入出力バッファの先頭にあります。このパラメーターが適用されるのは、SNUF通信の場合だけです。このパラメーターは、2つの値(要素)のリストとしてまたは単一値(*NONE)として指定できます。

3278 この装置は、3278表示装置をエミュレートするために使用されます。

3284 この装置は、3284印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3286 この装置は、3286印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3287 この装置は、3287印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3288 この装置は、3288印刷装置をエミュレートするために使用されます。

3289 この装置は、3289印刷装置をエミュレートするために使用されます。

[トップ](#)

エミュレートされるキーボード (EMLKBD)

エミュレートされる3270表示装置キーボードのタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターに*EMLが指定されている場合だけです。

*UPPER

3270表示装置キーボードは、大文字だけを使用してエミュレートされます。

*LOWER

3270表示装置キーボードは、大文字および小文字を使用してエミュレートされます。

[トップ](#)

エミュレートされる数字ロック (EMLNUMLCK)

数字入力フィールドが5250キーボードの数字データにだけ使用できるかどうかを指定します。このパラメーターに値を指定できるのは、**適用業務タイプ (APPTYPE)**パラメーターに*EMLが指定されている場合だけです。

***NO** 3270エミュレーションによって、データを数字入力フィールドに入力することができます。

***YES** 3270エミュレーションによって、数字データだけを数字入力フィールドに入力することができます。有効な数字データには、0から9の数字、記号+-、. およびブランクが入れられます。

トップ

エミュレーション・ワークステーション (EMLWRKSTN)

エミュレーション・ワークステーションは、エミュレーション装置を実の表示装置または印刷装置と関連付けます。装置アドレスは、そのワークステーション専用予約されます。装置が指定されないか、あるいは*ANYが指定された場合には、任意のワークステーションがエミュレーション装置を使用することができます。

***ANY** ワークステーションはエミュレーション装置を使用することができます。

ワークステーション

このエミュレーション装置を使用するワークステーションの名前を指定してください。

トップ

ホストとのセッション終了 (ENDSSNHOST)

ホスト装置がホスト・システムとのセッションをどのように終了するかを指定します。

*UNBIND

ホスト装置は、ISERIESシステムがセッションを終了するように要求するSNAコマンドを送信します。

*RSHUTD

ホスト装置は、ホスト・システムがセッションを終了するよう要求するSNAコマンドを送信します。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)

従属LU要求元(DLUR)で使用される従属ローカル・ロケーション名を指定します。同時に、接続用の追加の機密保護が提供されます。この名前を指定する場合には、従属LUサーバー(DLUS)ノードからの活動化要求(SNA ACTLU)がこの名前を参照しなければなりません。さもないと拒否されます。

リモートDLUSノードは、任意選択でDLUSノードのLUの自動定義のためにISERIESからの非送信請求応答PSID (プロダクト・セットID)を受け入れることができます。その場合には、応答PSIDでこの名前がDLUSノードに送られ、ACTLU要求で戻されます。

非送信請求応答PSIDがDLUSノードによってサポートされていない場合には、両方のシステムでPU名定義の精密な調整が必要です。

*NONE

ロケーション名は定義されません。

従属ロケーション名

DLURアプリケーションに使用される従属ロケーション名を指定してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載

っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

例

```
CRTDEVHOST  DEVD(COMMDSP1)  LOCADR(FE)
              RMTLOCNAME(SYS) CTL(HOSTCTL001)
              APPTYPE(*EML)  EMLDEV(3284)
```

このコマンドは、COMMDSP1という名前のSNAホスト通信装置の装置記述を作成します。装置のアドレスはX'FE'です。制御装置HOSTCTL001に接続されていて、SYSと通信します。この装置は、3270エミュレーションを使用して3284印刷装置をエミュレートします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

装置記述の作成(INTRA) (CRTDEVINTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム内通信装置記述の作成(CRTDEVINTR)コマンドは、2つのプログラムが伝送プロトコル(TP)回線を通じて通信しているかのように同じシステム内で相互に通信することを可能にするシステム内通信(INTRA)装置を作成します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV D	装置記述	名前	必須, 定位置 1
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SAME, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEV D)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

ユーザー・プログラムが通信するリモート・ロケーションの名前を指定します。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTDEVINTR  DEVD(INTRALOC)  RMTLOCNAME(INTRARMT)
```

このコマンドは、INTRARMTという名前のリモート・ロケーションとのシステム内通信用にINTRALOCという名前の装置記述を作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

装置記述作成 (媒体ライブラリー) (CRTDEVMLB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述 (媒体ライブラリー) 作成(CRTDEVMLB)コマンドは、媒体ライブラリー装置の装置記述を作成します。

最初に、このシステムで使用するために、この装置記述に関連付けられたすべてのテープ・ドライブ資源が割り振られます。テープ・ライブラリーの中のドライブ資源の割り振りを変更するためには、媒体ライブラリーの状況処理(WRKMLBSTS)コマンドまたは構成変更(VRYCFG)コマンドを使用してください。

注: ドライブの割り振りを使用できるのは、DEVCLS(*TAP)が指定されている場合だけです。

このコマンドの使用法の詳細は、AS/400装置構成 (SD88-5003)にあります。

制約事項: このコマンドのユーザーには*IOSYSCFG権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
DEVCLS	装置クラス	*OPT, *TAP	必須, キー, 定位置 2
RSRCNAME	資源名	名前, *NONE	必須, キー, 定位置 3
TYPE	装置タイプ	文字値, <u>*RSRCNAME</u>	オプション, キー
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*YES</u> , *NO	オプション
UNLOADWAIT	アンロード待機時間	文字値, <u>*SYSGEN</u>	オプション
MAXDEVTIME	装置待機最大時間	文字値, <u>*SYSGEN</u>	オプション
RSCALCPTY	資源割り振り優先順位	文字値, <u>*JOB</u>	オプション
INLMNTWAIT	初期マウント待機時間	文字値, <u>*JOB</u> , *IMMED, *NOMAX	オプション
EOVMNTWAIT	ボリューム・マウント終了待機時間	文字値, <u>*JOB</u> , *IMMED, *NOMAX	オプション
GENCTGID	カートリッジID生成	<u>*VOLID</u> , *SYSGEN	オプション
ROBOTDEV	ロボット装置記述	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 2 回の繰り返し): 名前	オプション
ROBOTHOST	ロボット・ホスト	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 2 回の繰り返し): 文字値	オプション
LCLINTNETA	ローカル・インターネット・アドレス	文字値, <u>*NONE</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE , *ALL , *USE , *EXCLUDE , *LIBCRTAUT	オプション

トップ

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

装置クラス (DEVCLS)

作成する媒体ライブラリーのクラスを指定します。

***OPT** 装置は光ディスク媒体ライブラリーです。

***TAP** 装置はテープ媒体ライブラリーです。

トップ

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。装置をオンに構成変更する前に資源名を指定しなければなりません。

***NONE**

この時点では資源名は指定されません。

資源名 システムの媒体ライブラリー装置ハードウェアを識別する名前を指定してください。

注: 資源名を確認するためには、TYPE(***STG**)を指定したハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用してください。

トップ

装置タイプ (TYPE)

この記述が表す装置のタイプを指定します。

注: 装置タイプは、このコマンドのプロンプトをサポートするために使用されます。値は装置記述の一部としては保管されません。

***RSRCNAME**

装置タイプは資源名パラメーターによって決定されます。

数字順にリストされた次の装置タイプを使用することができます。

- 3494
- 3495
- 3570
- 3590
- 3995
- 399F
- 9427
- 9429

注: 装置タイプ3995および399Fが有効なのは、DEVCLS(*OPT)が指定されている場合だけです。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

アンロード待機時間 (UNLOADWAIT)

使用可能なドライブに対する未処理の要求がある場合に、ボリュームをアンロードする前にシステムがマウントされたボリュームを使用する別の要求を待機する時間を指定します。

注: このパラメーターが有効となるのは、DEVCLS(*OPT)が指定された場合だけです。

***SYSGEN**

システムの省略時の値が使用されます。

アンロード待機時間

待機する秒数を指定してください。有効な値の範囲は1から120です。

[トップ](#)

装置待機最大時間 (MAXDEVTIME)

他のボリュームに対する要求がある場合に、ボリュームを内部装置にマウントしたままにしておくことができる最大分数を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*OPT)が指定された場合だけで、DEVCLS(*TAP)の場合は無視されます。

***SYSGEN**

システムの省略時の値が使用されます。これにより、ライブラリー装置のユーザーごとに同じ値を指定するのではなく、ライブラリー装置ユーザーごとに装置最大待機時間を指定することができます。

***NOMAX**

要求は、テープ資源が使用可能になるまで待機します。

注: このパラメーターは、テープ装置の場合にのみ有効です。

最大装置時間

光ディスク装置の場合に、ボリュームをマウントしたままにしておくことができる時間 (分数) を指定してください。有効な値の範囲は1から60です。テープ装置の場合に、要求でテープ資源の割り振りが待機される時間 (分数) を指定してください。有効な値の範囲は1から600です。

[トップ](#)

資源割り振り優先順位 (RSCALCPTY)

資源割り振りの優先順位を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*TAP)が指定された場合だけです。

***JOB** 資源割り振りの優先順位としてジョブの優先順位が使用されます。

資源割り振り優先順位

資源の要求時にこのジョブが指定される優先順位を指定してください。有効な値の範囲は1 (最高) から99 (最低) までです。

[トップ](#)

初期マウント待機時間 (INLMNTWAIT)

要求が初期マウントのテープ資源の割り振りを待機する最大時間を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*TAP)が指定された場合だけです。

***JOB** 割り振り待機時間は、割り振りを要求しているジョブの省略時の待機時間属性によって判別され、分単位に切り上げられます。

***IMMED**

この要求はテープ資源が使用可能になるのを待機しません。

***NOMAX**

この要求はテープ資源が使用可能になるまで待機します。

初期マウント待機時間

要求がテープ資源の割り振りを待機する分数を指定してください。有効な値の範囲は1から600分です。

[トップ](#)

ボリューム・マウント終了待機時間 (EOVMNTWAIT)

要求が、ボリュームのマウントが終わるまでの間、テープ資源の割り振りを待機する最大時間を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、DEVCLS(*TAP)が指定された場合だけです。

***JOB** 割り振り待機時間は、割り振りを要求しているジョブの省略時の待機時間属性によって判別され、分単位に切り上げられます。

***IMMED**

この要求はテープ資源が使用可能になるのを待機しません。

***NOMAX**

この要求はテープ資源が使用可能になるまで待機します。

ボリューム・マウント待機時間の終わり

要求がテープ資源の割り振りを待機する分数を指定してください。有効な値の範囲は1から600分です。

[トップ](#)

カートリッジID生成 (GENCTGID)

バー・コード読み取り機能なしでテープ・ライブラリーのそれぞれのボリュームにカートリッジIDを割り当てる方法を指定します。

***VOLID**

カートリッジIDとしてボリュームIDが使用されます。カートリッジIDは、それぞれのボリュームをマウントしてボリュームIDを読み取ることによって割り当てることができます。

***SYSGEN**

システムがそれぞれのボリュームのカートリッジIDを生成します。システム生成のIDを使用する場合には、テープ操作に生成されたカートリッジIDを使用しなければなりません。カートリッジIDは、SLT001, SLT002, SLT003などの形式で順次に割り当てられます。

[トップ](#)

ロボット装置記述 (ROBOTDEV)

別のロボットでライブラリー装置のロボットを表す装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

ロボット・ホスト (ROBOTHOST)

TCP/IPホスト名またはロボット・ライブラリー・マネージャーのIPアドレスを指定します。最大2つまでのロボット・ライブラリー・マネージャーを指定できます。

***NONE**

この時点ではロボット・ホストは指定されません。

ホスト名

指定されたロボット・ライブラリー・マネージャーの名前。ロボット・ホスト名またはドメイン修飾ロボット・ホスト名を入力することによって、ロボット・ホスト名が入力されます。ドメイン修飾ロボット・ホスト名には、255バイトまで入力できます。

ホスト・インターネット・アドレス

指定されたロボット・ライブラリー・マネージャーのアドレス。インターネット・アドレスは、DDD.DDD.DDD.DDDの形式でなければなりません。ここでDDDは0から255の範囲の10進数です。この10進数には、先行ゼロを入れないでください。ホストIPアドレスをコマンド行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲む必要があります。

トップ

ローカル・インターネット・アドレス (LCLINTNETA)

ロボット・ライブラリー・マネージャーに接続しているインターフェースのローカル・インターネット・アドレスを指定します。これは、テープ媒体ライブラリーを使用するためにTCP/IPを開始する必要があるときにオペレーティング・システムが開始するインターフェースです。

*NONE

この時点ではTCP/IPアドレスは指定されません。

ローカルIPアドレス

開始するローカルIPアドレスを指定してください。インターネット・アドレスは、DDD.DDD.DDD.DDDの形式でなければなりません。ここでDDDは0から255の範囲の10進数です。この10進数には、先行ゼロを入れないでください。ローカルIPアドレスをコマンド行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

メッセージが送られるメッセージ待ち行列の修飾名を指定します。

修飾名として使用できるものは次の通りです。

*SYSOPR

メッセージはQSYSライブラリーのQSYSOPRメッセージ待ち行列に送信されます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロフィールまたは補足グループ・プロフィールがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTDEVMLB  DEVD(LIB01)  DEVCLS(*OPT)
           RSRNAME(LIB01)  ONLINE(*YES)
```

このコマンドは、LIB01という名前の媒体ライブラリー装置の装置記述を作成します。ライブラリーは光ディスク・ライブラリーで、物理資源名はLIB01です。この装置記述はIPL時にオンに構成変更されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

CPF67B0

テープ資源&2が指定されたライブラリー装置にない。

CPF67D1

ライブラリー装置記述が作成されなかった。

[トップ](#)

装置記述の作成(ネットワーク) (CRTDEVNET)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク装置記述の作成(CRTDEVNET)コマンドは、ネットワーク装置の装置記述を作成します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVN	装置記述	名前	必須, 定位置 1
TYPE	装置タイプ	*TCPIP, *USRDFN	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEVN)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

タイプ (TYPE)

記述が表すネットワークのタイプを指定します。

*TCPIP

*TCPIP -伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル

*USRDFN

この装置は、ユーザー定義の通信アプリケーションのプログラム・インターフェースを使用してプログラムでサポートされているネットワークに接続されます。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTDEVNET  DEVD(NETDEV02)  TYPE(*TCP/IP)
```

このコマンドは、NETDEV02という名前のネットワーク装置の装置記述を作成します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

トップ

装置記述の作成(NWSH) (CRTDEVNWSH)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

装置記述の作成(NWSH) (CRTDEVNWSH)コマンドは、ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター (NWSH)装置の装置記述を作成します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前	必須, キー, 定位置 2
LCLIFC	ローカル・インターフェース	要素リスト	必須, 定位置 3
	要素 1: サブネット・マスク	文字値	
	要素 2: ポート速度	<u>*AUTO</u>	
	要素 3: 二重	<u>*AUTO</u>	
	要素 4: ローカル SCSI インターフェース	要素リスト	
	要素 1: インターネット・アドレス	文字値	
	要素 2: ゲートウェイ・アドレス	文字値	
	要素 3: SCSI TCPポート	1024-65535, <u>3260</u> , 860	
	要素 5: ローカル LAN インターフェース	要素リスト	
	要素 1: インターネット・アドレス	文字値	
	要素 2: ゲートウェイ・アドレス	文字値	
	要素 3: 仮想イーサネット基本UDP ポート	1024-65471, <u>8801</u>	
	ONLINE	IPL時のオンライン	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: <u>*SYSOPR</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

装置記述 (DEVD)

作成する装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。資源名を決定するには、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。

これは必須パラメーターです。

名前 ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプターの資源名を指定してください。

トップ

ローカル・インターフェース (LCLIFC)

ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプターのローカル・インターフェースを指定します。これは、サブネット・マスク、ポート速度、両面印刷、ローカルSMALL COMPUTER SYSTEM INTERFACE (SCSI)構成およびローカルのローカル・エリア・ネットワーク(LAN)構成から構成されています。

これは必須パラメーターです。

要素1: サブネット・マスク

文字値 ローカル・インターフェースと関連したサブネット・マスクを指定してください。サブネットの概要については、*TCP/IP FASTPATH SETUP*ブックを参照してください。

サブネット化は、インターネット・ドメインを区分する機能を提供します。サブネットを定義するIPアドレスのネットワーク・サブネット・フィールドおよびホスト・アドレス・フィールドのマスクを指定してください。サブネット・マスクはNNN.NNN.NNN.NNNという形式です。ここで、NNNは、0から255の範囲の10進数です。サブネット・マスクは、IPアドレスのネットワーク・クラスのネットワークID部分のすべてのビットをオフでマスクしなければなりません。たとえば、サブネット・マスク255.255.255.0は、IPアドレス（これは指定されます）のネットワーク部分のすべてのピ

ットおよびIPアドレスの3バイト目のすべてのビットから構成される、クラスBサブネットを定義します。サブネット・マスクをコマンド入力行から入力する場合には、これをアポストロフィで囲まなければなりません。

要素2: ポート速度

このローカル・インターフェースによって示される物理ポートの速度を指定します。

*AUTO

ハードウェアは自動的にポート速度を決定します。

要素3: 二重

このローカル・インターフェースによって示される物理ポートによって使用される両面印刷モードを指定します。

*AUTO

ハードウェアは自動的に両面印刷を決定します。

要素4: ローカル SCSI インターフェース

ローカルSCSIインターフェース構成を指定します。

要素1: インターネット・アドレス

文字値 ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター上のSCSIインターフェースが応答する先のローカルIPアドレスを指定してください。インターネット・アドレスは、*NNN.NNN.NNN.NNN*の形式で指定します。ここで、*NNN*は0から255の範囲の10進数です。ネットワークID (ID)部分またはホストID部分がすべて1またはすべて0の2進数値であるIPアドレスは無効です。選択するIPアドレスは、I5/OS TCP/IP構成に渡って固有でなければなりません。ローカルIPアドレスをコマンド行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

要素2: ゲートウェイ・アドレス

文字値 SCSIインターフェースと関連したIPアドレスの省略時ゲートウェイ・アドレスを*DDD.DDD.DDD.DDD*の形式で指定してください。ここで、*DDD*は0から255の範囲の10進数です。コマンド入力行からゲートウェイ・アドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

要素3: SCSI TCPポート

3260 ポート3260がローカルSCSI TCPポートとして使用されます。

ポート番号

ローカルSCSIインターフェースがiSCSIトラフィックでLISTENするローカルSCSI TCPポートを指定します。ローカルSCSIインターフェースIPアドレスおよびTCPポートがともにiSCSIターゲット・ポータルを定義します。INTERNET ASSIGNED NUMBERS AUTHORITY (IANA)によって割り当てられたiSCSI接続の既知のTCPポート番号は3260であ

り、これが省略時のISCSIポート番号です。ISCSIシステム・ポートとしてIANAによって割り当てられたTCPポートは860です。有効な値は860で、範囲は1024から65535です。

要素5: ローカル LAN インターフェース

ローカルLANインターフェース構成を指定します。

要素1: インターネット・アドレス

文字値 ネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター上のLANインターフェースが応答する先のローカルIPアドレスを指定してください。インターネット・アドレスは、*NNN.NNN.NNN.NNN*の形式で指定します。ここで、*NNN*は0から255の範囲の10進数です。ネットワークID (ID)部分またはホストID部分がすべて1またはすべて0の2進数値であるIPアドレスは無効です。選択するIPアドレスは、i5/OS TCP/IP構成に渡って固有でなければなりません。ローカルIPアドレスをコマンド行から入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

要素2: ゲートウェイ・アドレス

文字値 LANインターフェースと関連したIPアドレスの省略時ゲートウェイ・アドレスを*DDD.DDD.DDD.DDD*の形式で指定してください。ここで、*DDD*は0から255の範囲の10進数です。コマンド入力行からゲートウェイ・アドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

要素3: 仮想イーサネット基本UDP ポート

8801 ポート8801が仮想イーサネット基本UDPポートとして使用されます。

1024から65471

ローカルLANインターフェースがリモート・サーバーとの仮想イーサネット通信で使用する、最も小さい番号が付いたユーザー・データグラム・プロトコル(UDP)ポートを指定します。仮想イーサネット通信は、UDPパケットにカプセル化されます。各仮想イーサネット・アダプターは、指定した基本ポート番号から基本ポート番号に構成済み仮想イーサネット・アダプターの数を足した数値までの範囲から、自動的にUDPポートが割り当てられます。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

*YES この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

単一値

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

この装置記述で使用する通信回復限界を指定します。

単一値

*SYSVAL

システム値QCMNRCYLMTに指定された回復限界が使用されます。

要素1: カウント限界

2 指定された時間間隔内に2回の回復が試みられます。

0から99

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。

要素2: 時間間隔

5 5分間の間隔で指定された回数の回復が試みられます。

0から120

回復の試みが行なわれるまでの時間 (分数) を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTDEVNWSH  DEVD(DEVNWSH)  RSRNAME(LIN03)
              LCLIFC('255.255.255.128' *AUTO *AUTO
                    ('9.5.149.241' '9.5.149.129' 3260)
                    ('9.5.149.245' '9.5.149.122' 8801) )
```


このコマンドは、DEVNWSHという名前のネットワーク・サーバー・ホスト・アダプター記述を作成します。DEVNWSHは、LIN03という名前の関連資源をもっています。ローカルSCSIおよびローカルLANインターフェースには、指定したTCP/IP IPアドレスが割り当てられます。ローカルSCSIインターフェースは、省略時TCPポート値を使用します。これは、IANAにより割り当てられたISCSI接続の既知のユーザーTCPポート番号です。ローカルLANインターフェースは、省略時の仮想イーサネット基本UDPポート値を使用します。ハードウェアは、ポート速度および両面印刷を決定します。DEVNWSHは、IPL時に自動的にオンに構成変更されることはありません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

装置記述作成 (光ディスク) (CRTDEVOPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述 (光ディスク) 作成(CRTDEVOPT)コマンドは、光ディスク装置の装置記述を作成します。このコマンドの使用法の詳細は、AS/400装置構成 (SD88-5003)にあります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *NONE, *VRT	必須, キー, 定位置 2
TYPE	装置タイプ	文字値, *RSRCNAME, 6320, 6321, 632A, 632B, 6330, 6336	オプション, キー
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEVD)

作成する装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

*NONE

資源名は指定されません。装置をオンに構成変更する前に資源名を指定しなければなりません。

***VRT** 資源名は、装置記述の作成時にオペレーティング・システムによって生成されます。資源名は仮想

(物理ではない) ハードウェアを表します。ISERIESが仮想ハードウェア資源の最大数を作成すると、装置記述には最後に作成された資源が使用されます。

注: 装置記述が削除されても資源名は除去されません。資源を名前指定して、既存の資源の新しい装置記述を作成することができます。

資源名 システムの光ディスク装置ハードウェアを識別する名前を指定してください。

注: 資源名を確認するためには、TYPE(*STG)を指定したハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用してください。

[トップ](#)

装置タイプ (TYPE)

この記述が表す装置のタイプを指定します。

注: 指定されたタイプ(TYPE)パラメーターが指定された資源名(RSRCNAME)パラメーターに有効でない場合には、OSはTYPEパラメーターを自動的に構成します。

*RSRCNAME

装置タイプは、資源名(RSRCNAME)パラメーターによって決定されます。

- 6320** 装置タイプはCD-ROMドライブです。
- 6321** 装置タイプはCD-ROMドライブです。
- 632A** 装置タイプは一般(IBM以外)の光ディスク・ドライブです。
- 632B** 装置タイプは仮想光ディスク・ドライブです。
- 6330** 装置タイプはDVD-RAMドライブです。
- 6336** 装置タイプはDVD-ROMドライブです。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

修飾名として使用できるものは次の通りです。

*SYSOPR

メッセージがQSYSのQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)

コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

例1:光ディスク装置記述の作成

```
CRTDEVOPT DEVD(OPT01) RSRNAME(*OPT01) TYPE(*RSRCNAME)
```

このコマンドは、OPT01という名前の光ディスク装置の装置記述を作成します。装置タイプは資源名から決定されます。

例2:仮想光ディスク装置記述の作成

```
CRTDEVOPT DEVD(VRTOPT01) RSRNAME(*VRT) TYPE(*RSRCNAME)
```

このコマンドは、VRTOPT01という名前の仮想光ディスク装置の装置記述を作成します。装置タイプは資源名から決定されます。すべての仮想光ディスク装置には632Bという**TYPE**値が割り当てられます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

トップ

装置記述の作成（印刷装置）(CRTDEVPRT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述の作成（印刷装置）(CRTDEVPRT)コマンドにより、印刷装置の装置記述が作成されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
DEVCLS	装置クラス	*LCL, *RMT, *VRT, *SNPT, *LAN	必須, キー, 定位置 2
TYPE	装置タイプ	3287, 3812, 4019, 4201, 4202, 4207, 4208, 4214, 4216, 4224, 4234, 4245, 4247, 5204, 5219, 5224, 5225, 5256, 5262, 5553, 5583, 6252, 6404, 6408, 6412, *IPDS	必須, キー, 定位置 3
MODEL	装置型式	0, 1, 2, 3, 4, 10, 13, 200, 301, 302, 3E3, *ASCII, *POST, AS8, B01, CTA, D1, D2, T08, T12, T20, *IPDS, *LU3, 0000, 0001, 0002, 0003, 0004, 0010, 0013, 0200, 0301, 0302	必須, キー, 定位置 4
LANATTACH	LAN接続機構	*LEXLINK, *IP, *USRDFN	オプション
SWTLINLST	交換回線リスト	値 (最大 8 回の繰り返し): 名前	オプション
ADPTADR	LAN リモート・アダプター・アドレス	000000000001-FFFFFFFFFFFF	オプション
ADPTTYPE	アダプター・タイプ	*INTERNAL, *EXTERNAL	オプション
ADPTCNNTYP	アダプター接続タイプ	*PARALLEL, *SERIAL	オプション
EMLDEV	エミュレートされる平衡型装置	3812, 5219, 5224, 5256	オプション
AFP	拡張機能の印刷	*NO, *YES	オプション
AFPATTACH	AFP接続機構	*WSC, *APPC	オプション
PORT	ポート番号	0-65535	オプション
SWTSET	スイッチの設定値	0, 1, 2, 3, 4, 5, 6	オプション
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	00-FE	オプション
AUXPRT	補助印刷装置	*YES, *NO	オプション
EMLASCII	ASCII装置のエミュレート	*NO, *YES	オプション
ATTACH	物理的接続	*DIRECT, *PTT, *MODEM, *WIRE3, *WIRE4, *EIA422	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
LNGTYPE	言語タイプ	*SYSVAL, AGB, AGI, ALI, BGB, BLI, BRB, CAB, CAI, CLB, CSB, CYB, DMB, DMI, ESB, FAB, FAI, FNB, FNI, GKB, GNB, HNB, ICB, ICI, IRB, ITB, ITI, JPB, LTB, LVB, MKB, NCB, NEB, NEI, NWB, NWI, PKB, PLB, PRB, PRI, RMB, ROB, RUB, SFI, SGI, SKB, SPB, SPI, SQB, SSB, SSI, SWB, SWI, THB, TKB, TRB, UAB, UKB, UKI, USB, USI, YGI	オプション
PRTQLTY	印刷品質	*STD, *DRAFT, *NLQ	オプション
FONT	フォント	要素リスト	オプション
	要素 1: 識別コード	文字値, 2, 3, 5, 8, 10, 11, 12, 13, 18, 19, 20, 21, 25, 26, 30, 31, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 46, 49, 50, 51, 52, 55, 61, 62, 63, 66, 68, 69, 70, 71, 72, 74, 75, 76, 80, 84, 85, 86, 87, 91, 92, 95, 96, 98, 99, 101, 102, 103, 109, 110, 111, 112, 154, 155, 157, 158, 159, 160, 162, 163, 164, 167, 168, 173, 174, 175, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 194, 195, 204, 205, 211, 212, 221, 222, 223, 225, 226, 229, 230, 232, 233, 234, 244, 245, 247, 248, 249, 252, 253, 254, 255, 256, 258, 259, 279, 281, 282, 285, 290, 300, 400, 434, 435, 751, 752, 753, 754, 755, 756, 757, 758, 759, 760, 761, 762, 763, 764, 765, 1051, 1053, 1056, 1351, 1653, 1803, 2103, 4407, 4427, 4535, 4919, 4939, 5047, 5067, 5687, 5707, 5815, 5835, 5943, 6199, 6219, 6327, 6347, 8503, 8523, 8631, 8651, 8759, 8779, 8887, 8907, 12855, 12875, 16951, 16971, 17079, 17099, 33335, 33355, 33463, 33483, 33591, 33601, 33719, 33729, 34103, 34123, 34231, 34251, 37431, 41783, 41803	
	要素 2: ポイント・サイズ	0.1-999.9, *NONE	
FORMFEED	用紙送り	*TYPE, *CONT, *CONT2, *CUT, *AUTOCUT	オプション
SEPDRAWER	区切り用紙入れ	1-255, *FILE	オプション
SEPPGM	セパレーター・プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: セパレーター・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
NBRDRAWER	用紙入れの数	1, 2, 3	オプション
PRTRMSG	印刷装置エラー・メッセージ	*INQ, *INFO	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *CTLD, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前, <u>QSYSOPR</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MAXLENRU	要求単位の最大長	*CALC, 241, 245, 247, 256	オプション
APPTYPE	適用業務タイプ	*NONE, *NRF, *DEVINIT, *APPINIT	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, <u>170</u> , *NOMAX	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1-30, *ATTACH, *NOMAX, *SEC15, *SEC30	オプション
SNPTDEV	SNAパススルー装置記述	名前, *NONE	オプション
SNPTGRP	SNAパススルー・グループ名	名前, *NONE	オプション
LOGON	ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド	文字値, *NONE	オプション
PACING	ペーシング	1-7, <u>7</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
LINESPEED	回線速度	* <u>TYPE</u> , 150, 300, 600, 1200, 1800, 2400, 3600, 4800, 7200, 9600, 19200, 38400	オプション
WORDLEN	語の長さ	* <u>TYPE</u> , 7, 8	オプション
PARITY	パリティのタイプ	* <u>TYPE</u> , *EVEN, *ODD, *NONE, *MARK, *SPACE	オプション
STOPBITS	停止ビット	* <u>TYPE</u> , 1, 2	オプション
TRANSFORM	ホスト印刷の変換	* <u>NO</u> , *YES	オプション
MFRTYPMDL	メーカー・タイプ, 型式	文字値	オプション
PPSRC1	用紙入れ 1	* <u>MFRTYPMDL</u> , *LETTER, *LEGAL, *EXECUTIVE, *LEDGER, *A3, *A4, *A5, *B4, *B5, *CONT80, *CONT132, *NONE	オプション
PPSRC2	用紙入れ 2	* <u>MFRTYPMDL</u> , *LETTER, *LEGAL, *EXECUTIVE, *LEDGER, *A3, *A4, *A5, *B4, *B5, *CONT80, *CONT132, *NONE	オプション
ENVELOPE	エンベロープ・ソース	* <u>MFRTYPMDL</u> , *MONARCH, *NUMBER9, *NUMBER10, *B5, *C5, *DL, *NONE	オプション
ASCH899	ASCII コード・ページ 899 サポート	* <u>NO</u> , *YES	オプション
IMGCFG	イメージ構成	文字値, * <u>NONE</u>	オプション
MAXPNDRQS	保留中要求の最大数	1-31, <u>6</u>	オプション
PRTCVT	変換中の印刷	* <u>NO</u> , * <u>YES</u>	オプション
PRTRQSTMR	印刷要求タイマー	1-3600, * <u>NOMAX</u>	オプション
FORMDF	用紙定義	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 用紙定義	名前, <u>FIC10110</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	
CHRID	文字識別コード	単一値: * <u>SYSVAL</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	1-32767	
	要素 2: コード・ページ	1-32767	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	要素リスト	オプション
	要素 1: 名前またはアドレス	文字値	
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, * <u>NETATR</u>	オプション
MODE	モード	通信名, * <u>QSPWTR</u> , *NETATR	オプション
IGCFEAT	DBCS機能	要素リスト	オプション
	要素 1: 装置の機構	文字値	
	要素 2: 最終コード・ポイント	4141-FFFE	
USRDFNOPT	ユーザー定義オプション	単一値: * <u>NONE</u> その他の値 (最大 4 回の繰り返し): 文字値	オプション
USRDFNOBJ	ユーザー定義オブジェクト	単一値: * <u>NONE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*DTAARA, *DTAQ, *FILE, *USRIDX, *PSFCFG, *USRQ, *USRSPC	

キーワード	記述	選択項目	注
USRDTATFM	データ変換プログラム	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: データ変換プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
USRDRVPGM	ユーザー定義ドライバー・プログラム	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー定義ドライバー・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
SYSDRVPGM	システム・ドライバー・プログラム	文字値, *HPPJLDRV, *IBMPJLDRV, *NETSTNDRV, *IBMSNMPDRV, *IBMIPDRV	オプション
SECURECNN	保護接続	<u>*NO</u> , *YES	オプション
VLDL	妥当性検査リスト	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 妥当性検査リスト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
PUBLISHINF	出版情報	要素リスト	オプション
	要素 1: 両面印刷のサポート	<u>*UNKNOWN</u> , *SIMPLEX, *DUPLEX	
	要素 2: サポート・カラー	<u>*UNKNOWN</u> , *NOCOLOR, *COLOR	
	要素 3: 分当たりページ数, 黒	1-32767, <u>*UNKNOWN</u>	
	要素 4: 分当たりページ数, カラー	1-32767, <u>*UNKNOWN</u>	
	要素 5: ロケーション	文字値, <u>*BLANK</u> , X''	
	要素 6: サポートのデータ・ストリーム	単一値: <u>*UNKNOWN</u> その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *PCL, *PS, *PDF, *IPDS, *SCS	
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
DEPLOCNAME	従属ロケーション名	通信名, <u>*NONE</u>	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク識別コード	通信名, <u>*NETATR</u> , *NONE	オプション
WSCST	ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
AUT	権限	名前, <u>*CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

装置クラス (DEVCLS)

この表示装置または印刷装置の装置クラスを指定します。

***LCL** この装置記述はローカル・ワークステーション制御装置に接続された装置用です。

***RMT** この装置記述はリモート・ワークステーション制御装置に接続された装置用です。

***VRT** この装置記述は仮想装置用です。

***SNPT**

この装置記述はSNAパススルー拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続された表示装置用です。SNAパススルー・サポートによって、ユーザーはホスト論理装置(LU)タイプ0から3のアプリケーションとこの印刷装置を接続することができます。

***LAN** 装置記述がローカル・エリア・ネットワーク(LAN)に直接接続された印刷装置用です。

トップ

装置タイプ (TYPE)

この装置記述が表す印刷装置のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

有効な値は次の通りです。

- 3287
- 3812
- 4214
- 4234
- 4245
- 4247
- 5219
- 5224
- 5225
- 5256
- 5262
- 5553 (2バイト文字セット印刷装置)
- 5583 (2バイト文字セット印刷装置)
- 6252
- 6404
- 6408
- 6412
- *IPDS

ASCII装置の場合のみ次の装置タイプが、さらに一般的な説明付きでリストされます。

タイプ 説明

- 4019 IBMレーザー・プリンター
- 4201 IBM PROPRINTER II
- 4202 IBM PROPRINTER XL
- 4207 IBM PROPRINTER X24
- 4208 IBM PROPRINTER XL24
- 4216 IBMパーソナル・ページ印刷装置
- 4224 IBM 4224印刷装置
- 4234 IBM 4234印刷装置
- 5204 IBM QUICKWRITER
- 6252 IBM IMPACTWRITER

注: PROPRINTER, QUICKWRITERおよびIMPACTWRITERはIBM社の登録商標です。

[トップ](#)

装置型式 (MODEL)

装置の型式番号を指定します。

タイプ 型式

- 3287 0
- 3812 1
- 4214 2
- 4234 2
- 4245 T12, T20
- 4247 CTA
- 5219 D1, D2
- 5224 1, 2
- 5225 1, 2, 3, 4
- 5256 1, 2, 3
- 5262 1
- 5553 B01
- 5583 200
- 6252 T08
- *IPDS 0
- 6404 CTA
- 6408 CTA
- 570 IBM Systems - iSeries: i5/OS コマンド CPYIGCTBL (DBCS フォント・テーブルのコピー) での開始

ASCII装置の場合のみ。

*ASCII

この印刷装置に対して型式番号が容易に判別できない場合には、この値を指定してください。システムが型式番号を割り当てます（装置に型式番号がある場合）。システムによって割り当てられた型式番号が使用する印刷装置の実際の型式番号でない場合があります。その場合には、次の表から*ASCIIによって割り当てられる型式番号を判別してください。可能な場合には、使用する印刷装置の型式番号をユーザーが判別し、その番号を入力してください。

使用できる選択項目は次の通りです。

タイプ 型式

4019	1 (*ASCII)
4201	2 (*ASCII), 3
4202	1 (*ASCII), 2, 3
4207	1 (*ASCII), 2
4208	1 (*ASCII), 2
4216	10 (*ASCII)
4224	301 (*ASCII), 302, 3E3
4234	13 (*ASCII)
5204	1 (*ASCII)
6252	AS8 (*ASCII)

トップ

LAN接続機構 (LANATTACH)

DEVCLS(*LAN)を指定した時に、印刷装置の接続形態を指定します。

*LEXLINK

印刷装置はLEXLINKに接続されます。

*IP 印刷装置はTCP/IPに接続されます。

*USRDFN

印刷装置接続は、LEXLINKまたはTCP/IPのいずれかでユーザー定義です。

トップ

交換回線リスト (SWTLINLST)

DEVCLS(*LAN)およびLANATTACH(*LEXLINK)またはLANATTACH(*USRDFN)が指定されている時に印刷装置が関連付けられる交換回線の名前を指定します。この印刷装置と関連付けることのできる交換回線のタイプは、直接フレーム・リレー、トークンリング、イーサネットIEEE 802.3,およびすべての標準が指定されたイーサネットです。最大8本の交換回線を指定することができます。

LAN リモート・アダプター・アドレス (ADPTADR)

DEVCLS(*LAN)およびLANATTACH(*LEXLINK)またはLANATTACH(*USRDFN)が指定されている時のリモート印刷装置の12桁の16進数LANアドレスを指定します。有効な値の範囲は000000000001からFFFFFFFFFFFFEです。

トップ

アダプター・タイプ (ADPTTYPE)

DEVCLS(*LAN)およびLANATTACH(*LEXLINK)またはLANATTACH(*USRDFN)が指定されている時に使用されるLAN印刷装置アダプターのタイプを指定します。

*INTERNAL

印刷装置は内部LANアダプターをもっています。

*EXTERNAL

印刷装置は外部LANアダプターをもっています。

トップ

アダプター接続タイプ (ADPTCNTYP)

DEVCLS(*LAN)およびADPTTYPE(*EXTERNAL)が指定された時に、外部LAN印刷装置アダプターによってサポートされているポートのタイプを指定します。

注: ADPTTYPE(*INTERNAL)を指定した時には、このパラメーターは無視されます。

*PARALLEL

LAN印刷装置アダプターは1つまたは複数の並行ポートをサポートしています。

*SERIAL

LAN印刷装置アダプターは1つまたは複数のシリアル・ポートをサポートしています。

トップ

エミュレートされる平衡型装置 (EMLDEV)

ASCII印刷装置の場合に、ASCII印刷装置がエミュレートする平衡型印刷装置のタイプを指定します。

3812 ASCII印刷装置4019, 4216,および5204には、3812-1型エミュレーションが有効です。

5219 4201, 4202,および4234以外のすべてのASCII印刷装置には、5219-D2型エミュレーションが有効です。

5224 すべてのASCII印刷装置の場合に、5224-1型エミュレーションが有効です。

5256 すべてのASCII印刷装置の場合に、5256-3型印刷装置が有効です。

トップ

拡張機能の印刷 (AFP)

この印刷装置が高機能印刷を行うかどうかを指定します。たいていのIPDS印刷装置は、AFP(*YES)またはAFP(*NO)のどちらでも構成できます。たいていの非IPDS印刷装置は、構成できるのはAFP(*NO)だけです。このパラメーターが使用されるのは、**装置クラス (DEVCLS)**パラメーターで*LCL, *RMT,または*LANが指定され、**装置タイプ (TYPE)**で*IPDSが指定されている場合だけです。

***NO** この印刷装置は拡張機能の印刷に使用されません。

***YES** この印刷装置は拡張機能の印刷に使用されます。

[トップ](#)

AFP接続機構 (AFPATTACH)

印刷装置に使用される接続機構のタイプを指定します。このパラメーターが使用されるのは、**拡張機能の印刷 (AFP)**パラメーターに*YESが指定されている場合だけです。

***WSC** 3812または3816印刷装置が、ローカルまたはリモート・ワークステーション制御機構に接続されます。

***APPC**

3820, 3825, 3827,および3835印刷装置は、APPC/APPNを使用してLU 6.2によって接続されます。

[トップ](#)

ポート番号 (PORT)

印刷装置のポート番号を指定します。有効な値の範囲は0から65535です。印刷装置によっては、有効な値の範囲はさらに制限される場合があります。

平衡型接続印刷装置の場合:有効な値の範囲は0から7です。

TCP/IPネットワークに接続された印刷装置の場合は、DEVCLS(*LAN), TYPE(3812),およびLANATTACH(*IP)は次のように指定されます。

注: 装置がSIMPLE NETWORK MANAGEMENT PROTOCOL (SNMP), SYSDRVPGM(*IBMSNMPDRV)またはHP印刷装置ジョブ言語(PJL), SYSDRVPGM(*IBMPJLDRV)をサポートしている場合には、装置の資料を参照するか、あるいはポート番号の判別を装置メーカーに依頼してください。

装置がINTERNET PRINTING PROTOCOL (IPP), SYSDRVPGM(*IBMIPPDRV)をサポートしている場合には、周知のポート番号は631です。

ASCII端末制御装置に接続する印刷装置の場合: 有効な値は0から17の範囲であり、印刷装置が接続されるASCII端末制御装置のポートを示します。12ポート拡張機能がないと、ポート0から5だけが有効です。12ポート拡張機能がある場合には、ポート6から17が追加されます。

LANに接続された印刷装置の場合は、DEVCLS(*LAN) TYPE(3812),およびLANATTACH(*LEXLINK)またはLANATTACH(*USRDFN)は次のように指定されます。

注: ADPTTYPE(*EXTERNAL)が指定される場合は、使用するパラレル・ポートまたはシリアル・ポートのポート番号値を示します (外部LANアダプターに複数ポートがあるとき)。有効な値の範囲は0から17です。

ADPTTYPE(*INTERNAL)が指定される場合は、ポート番号は不要です。

[トップ](#)

スイッチの設定値 (SWTSET)

ローカル平衡型装置のスイッチの設定値を指定します。

有効な値の範囲は0から6です。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

使用できる値の範囲は00からFEです。装置を接続する制御装置のタイプによって、有効な値が決まります。

制御装置

有効な値

5251 00, 02-09

5294 00-1B

5394 00-14

5494 00-37

3174 02-41

3274 02-41

SNAホスト

01-FE

4701 02-FE

4702 02-FE

4680 02-54

4684 02-FE

FBSS 02-FE

[トップ](#)

補助印刷装置 (AUXPRT)

ASCII印刷装置の場合に、この印刷装置記述が補助印刷装置用のものであるかどうかを指定します。補助印刷装置は、ASCIIワークステーション制御機構に物理的にケーブル接続されるのではなく、ASCII表示装置に接続されます。印刷装置に送られたすべてのデータは表示装置を通過します。

***YES** この印刷装置をASCII表示装置の補助ポートに接続するよう指定します。

***NO** この印刷装置がASCIIワークステーション制御装置に物理的にケーブル接続されることを指定します。

補助印刷装置の場合には、次のパラメーターが、この印刷装置が接続されるASCII表示装置に指定されるパラメーターと一致しなければなりません。

- ATTACH (物理的接続機構)
- LINESPEED (回線速度)
- WORDLEN (語の長さ)
- PARITY (パリティのタイプ)
- STOPBITS (停止ビットの数)

トップ

ASCII装置のエミュレート (EMLASCII)

ASCII装置の場合には、構成された装置がサポートされているASCII装置タイプ(TYPEパラメーター)をエミュレートしているかどうかを指定します。ASCII装置が構成されている時には、次のパラメーターの選択項目はその装置の有効範囲に制限されます。

- ATTACH (物理的接続機構)
- LINESPEED (回線速度)
- WORDLEN (語の長さ)
- PARITY (パリティのタイプ)
- STOPBITS (停止ビットの数)

サポートされるASCII装置タイプをエミュレートしているASCII装置の場合には、これらの制約事項は適用されないことがあります(エミュレートを行う装置は、エミュレートされるASCII装置より、これらのパラメーターに対するより広い範囲の選択項目をもっている場合があります)。EMLASCII(*YES)が指定された時には、これらのパラメーターには制約事項はありません。ユーザーはこれらのパラメーターに、範囲いっぴいの値を入力することができますが、同時に、選択された値が構成中の装置に対して有効であることを確認する責任があります。

***NO** 構成しようとしている装置が**装置タイプ (TYPE)**パラメーターのサポートされているASCII装置タイプの1つであり、物理的接続機構、回線速度、語の長さ、パリティのタイプ、および停止ビットの各パラメーターの装置特有の制約事項が適用されることを示します。

***YES** 構成される装置が、サポートされているASCII装置タイプ(TYPEパラメーター)の1つをエミュレートしていること、および物理的接続機構、回線速度、語の長さ、パリティのタイプ、および停止ビットの各パラメーターに対して装置固有の制約事項が適用されないことを指定します。

トップ

物理的接続 (ATTACH)

ASCII印刷装置では、ASCIIワークステーション制御装置への印刷装置の物理的接続機構を指定します。

***EIA422**

EIA-422接続機構を指定します(すべての補助印刷装置および次の非補助印刷装置に対して4201-3, 4202-3, 4207-2, 4208-2, 4224, 4234が有効)。

***DIRECT**

EIA-232直接接続機構を指定します。

***MODEM**

EIA-232モデム接続機構を指定します（補助印刷装置に対してのみ有効）。

***PTT** 郵便電話電信(PTT)接続機構を指定します（補助印刷装置に対してのみ有効）。

***WIRE3**

EIA-232 3線接続機構を指定します。

***WIRE4**

EIA-232 4線接続機構を指定します。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

[トップ](#)

言語タイプ (LNGTYPE)

ASCII印刷装置では、この印刷装置の省略時の国別キーボード言語IDを記述します。

次の言語は、ホスト印刷変換かワークステーション・カスタマイズのいずれかが使用されている場合にのみASCII装置で使用することができます。ALI, BGB, CSB, ESB, HNB, IRB, JPB, LTB, LVB, MKB, PKB, PLB, RMB, RUB, SKB, SQB, TRB, UAB,およびYGI。

***SYSVAL**

システムはQKBDTYPEシステム値を使用します。

言語タイプ

次のテーブルからこの印刷装置に正しい国別キーボード言語IDを指定してください。

ID 言語 (国) - ASCII装置グループ

ALI アルバニア

CLB アラビア語X/BASIC - D*

AGB オーストリア／ドイツ- A, B
AGI オーストリア／ドイツ各国間- A, B
BLI ベルギー各国間- B
BRB ブラジル・ポルトガル語
BGB ブルガリア
CAB カナダ・フランス語- A, B
CAI カナダ・フランス語各国間- A, B
SPB カタロニア語
YGI クロアチア／セルビア（ローマ字）／スロベニア
CYB キリル
CSB チェコ共和国
DMB デンマーク- B
DMI デンマーク各国間- B
ESB エストニア
FNB フィンランド／スウェーデン- B
FNI フィンランド／スウェーデン各国間- B
FAB フランス(AZERTY) - A, B
FAI フランス(AZERTY)各国間- A, B
GNB ギリシャ語（注を参照）
NCB ヘブライ語- D*
HNB ハンガリー
ICB アイスランド
ICI アイスランド各国間
IRB イラン（ペルシア語）
ITB イタリア- A, B
ITI イタリア各国間- A, B
JPB 日本ラテン語拡張
ROB ローマ字-2/ROECE（中欧，東欧）
LVB ラトビア
LTB リトアニア
MKB FYRマケドニア（前ユーゴスラビア連邦）
NEB オランダ
NEI オランダ各国間
NWB ノルウェー- B
NWI ノルウェー各国間- B
PLB ポーランド

PRB	ポルトガル- B
PRI	ポルトガル各国間- B
RMB	ルーマニア
RUB	ロシア
SQB	セルビア (キリル語)
SKB	スロバキア
SPB	スペイン- B
SPI	スペイン各国間- B
SSB	スペイン語圏- B
SSI	スペイン語圏各国間- B
SWB	スウェーデン- B
SWI	スウェーデン各国間- B
SFI	スイス/フランス語各国間- B
SGI	スイス/ドイツ語各国間- B
THB	タイ
TKB	トルコ(QWERTY)
TRB	トルコ(F)
UAB	ウクライナ
UKB	英国- A, B
UKI	英国各国間- A, B
USB	米国/カナダ- A, B, C
USI	米国/カナダ各国間- A, B, C
PKB	ウルドゥー語
YGI	前ユーゴスラビアの言語

注: GNBコードはギリシャの現在のIDです。GKBコードはV2R1以前に使用されたもので引き続きサポートされますが、推奨されるGNBコードより文字数が少なくなっています。

[トップ](#)

印刷品質 (PRTQLTY)

ASCII印刷装置の省略時の印刷品質を下位品質から最上品質の順に、ドラフト(*DRAFT)、標準(*STD)、または近英字品質(*NLQ)のいずれにするかを指定します。すべてのASCII印刷装置のタイプ (すべてのエミュレーション) はこのパラメーターでサポートします。印刷装置が5219をエミュレートしている(EMLDEVパラメーター) 場合は、この品質はこの印刷装置の送り先の個別印刷ファイルによって一時変更します。

注: すべての平衡型印刷装置エミュレーションがこのパラメーターをサポートします。ASCII印刷装置が5219平衡型印刷装置をエミュレートしている場合には、この印刷品質設定値は、この印刷装置に送信される個々の印刷ファイルによって一時変更されます。

***STD** 標準品質設定値を指定します。

***DRAFT**

ドラフト品質設定値を指定します。

***NLQ** 近英字品質の設定値を指定します。

トップ

フォント識別コード (FONT)

3812, 3816, 5219印刷装置(5219印刷装置をエミュレートするASCII印刷装置を含む) , およびIPDS印刷装置で使用されるフォントIDおよびポイント・サイズを指定します。フォントID (10桁まで) は、この印刷装置で使用されます。各フォントIDには暗黙の1インチ当たり文字数(CPI)があります。IDまたはポイント・サイズが指定されていない場合には、システムにより自動的に設定されます。

注: いくつかのフォントは印刷装置によって置き換えられることがあります。詳細については、各印刷装置の手引き書を参照してください。

要素1:フォントID

ID この印刷装置に関連したフォントIDを指定してください。

要素2:ポイント・サイズ

***NONE**

ポイント・サイズはシステムによって指定され、指定されたフォントIDによって決定されます。

ポイント・サイズ

0.1から999.9の範囲のポイント・サイズを指定してください。

トップ

用紙送り (FORMFEED)

このスプール・ファイルに使用される用紙送り接続機構を指定します。このパラメーターは、印刷装置への用紙の送り方を決定します。すべての印刷装置がこのパラメーターをサポートするわけではありません。このパラメーターがサポートされているかどうかを判別するには、印刷装置ファイル作成(CRTPRTE)コマンドを参照してください。

注: ホスト印刷変換機能が使用可能になった時に、FORMFEEDパラメーターはPPRSRC1パラメーターに指定された値によって一時変更されます。

***TYPE**

用紙送りの値は、印刷装置タイプに基づいてシステムによって判別されます。MODEL(*IPDS)の場合には、この値を正確に判別できません。*CONT, *CONT2, *CUT,または*AUTOCUTから印刷装置に適切な値を選択する必要があります。

***CONT**

印刷装置で連続用紙が使用されます。一部の印刷装置(3812, 4216)には、連続用紙送り接続機構が備わっていません (これらは実際には連続用紙をサポートしない)。しかし、場合によっては、エミュレートされる平衡型印刷装置のサポートと合わせるために、*CONTを指定しなければなりません。

*CONT2

印刷装置で連続用紙が使用されます。用紙は2次連続用紙送り機構から送られます。印刷装置に2次連続用紙送り機構が必要です。この値は4214, 4234, 4247,および*IPDS印刷装置に使用できます。

***CUT** 印刷装置で単票用紙が使用されます。単票用紙の場合には、用紙位置決めのメッセージは送信されません。この値は、SCS 5219印刷装置をエミュレートしている4216印刷装置を除き、すべてのASCII印刷装置に有効です。

*AUTOCUT

単票用紙が自動的に印刷装置に送り込まれます。この印刷装置には、用紙送り接続機構が備わっていないなければなりません。*AUTOCUT機能は、5219印刷装置をエミュレートしている4207, 4208, 4216, 4224,および5204印刷装置に対して有効です。

[トップ](#)

区切り用紙入れ (SEPDRAWER)

分離ページを印刷するためにどの用紙入れを選択するかを指定します。

***FILE** 分離ページは、残りのスプール・ファイルと同じ用紙入れからの用紙に印刷されます。

分離ページ用紙入れ

分離ページを印刷する用紙入れを指示する1から255の範囲の値を指定してください。

注: 一部の印刷装置の場合には、SEPDRAWER(3)は封筒引き出しを暗黙のうちに指定します。

[トップ](#)

セパレーター・プログラム (SEPPGM)

ジョブおよびファイル区切り文字の印刷時にユーザーがユーザー出口プログラムを呼び出せるようにすることによって、分離ページのスタイルを指定します。

*NONE

分離ページは変更されません。

出口プログラム名

出口プログラム名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

出口プログラムを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

出口プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

用紙入れの数 (NBRDRAWER)

*AUTOCUTを使用して用紙送り(FORMFEEDパラメーター)に定義したASCII印刷装置の場合に、印刷装置の用紙送り接続機構がサポートする用紙入れは1台なのか、2台なのか、あるいは3台なのかを指定します。用紙送りが*CONTまたは*CUTの場合には、このパラメーターは適用されません。

注: 用紙入れ数のパラメーターは、印刷装置が用紙をどの用紙入れから選択するかではなく、物理的にサポートする用紙入れの数を指定します。どの用紙入れを選択するかは、印刷装置に送信される個々の印刷装置ファイルによって指示されます。

- 1 1つの用紙入れが物理的にサポートされます。
- 2 2つの用紙入れが物理的にサポートされます。
- 3 3つの用紙入れが物理的にサポートされます。

FORMFEED(*AUTOCUT)をサポートする印刷装置では、次の数の用紙入れがサポートされます。

1. 4207-1および4208印刷装置で有効なのは、NBRDRAWER(1)だけです。
2. 4224印刷装置で有効なのは、NBRDRAWER(3)だけです。
3. 4207-2, 4216, および5204印刷装置では、1, 2, および3のNBRDRAWER値がサポートされます。

注: NBRDRAWER(3)は、2つの用紙入れおよび封筒入れが使用されます。

[トップ](#)

印刷装置エラー・メッセージ (PRTERMSG)

回復可能エラーに対して、装置が照会メッセージまたは通知メッセージのどちらを受け取るのかを指定します。このパラメーターは、ASCIIワークステーション制御装置に接続された印刷装置には適用されません。

***INQ** 回復可能エラーに対して、照会メッセージが送信されます。

***INFO** 回復可能エラーに対して、通知メッセージが送信されます。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

***CTLD**

メッセージは、接続される制御装置に定義されたメッセージ待ち行列に送られます。メッセージ待ち行列は、装置がオンに構成変更された時に決定されます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

リモート表示装置と印刷装置の場合には、使用可能な最大要求単位(RU)の長さ (バイト数) を指定します。

***CALC**

システムが使用に最も適した値を決定します。*CALCの値はX.25ネットワークに接続されていない装置に対して指定しなければなりません。*CALCはX.25ネットワークに接続された装置に対して指定することができます。すべての場合に*CALCが推奨値です。

最大長要求単位

241または247を指定します。この値が有効なのは、X.25ネットワークに接続された装置の場合だけです。推奨値*CALCを指定しない場合には、ELLCに241を使用し、QLLCに247を使用されるようお奨めします。245および256の値を指定できますが、この結果は*CALCを指定したのと同じです。

[トップ](#)

適用業務タイプ (APPTYPE)

この装置によって使用されるアプリケーション・タイプを指定します。

***NONE**

装置はすべてのアプリケーションに使用されません。

***NRF** 装置はネットワーク経路指定機能(NRF)アプリケーションに使用されます。

***DEVINIT**

この装置はセッションを開始します。

***APPINIT**

アプリケーション・プログラムがセッションを開始します。

[トップ](#)

活動化タイマー (ACTTMR)

ホストISERIESシステムからの活動化要求に装置が応答するのを待機する時間 (秒数) を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

170 装置は170秒待機します。

***NOMAX**

装置は無制限に待機します。

注: *NOMAXは、DEVCLS(*LAN)とAFP(*YES)の時、あるいはそれらが指定された時にのみ有効です。

活動化タイマー

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する数値を指定してください。

注: LANATTACHが*LEXLINKであり、指定された秒数を経過した場合には、照会メッセージが出されます。

トップ

非活動タイマー (INACTTMR)

非活動タイマー (タイムアウト) 値を指定します。このパラメーターは、装置の他の属性に基づいて、タイムアウト値を超えた時に何が起こるのかも指定します。

- SNAパススルー(SNPT)サポートを使用して接続された装置の場合には、ユーザーはQSYSOPRに対するメッセージによって通知され、セッションは、装置がホスト・アプリケーションに結合されていない時間がタイムアウト値を超えた時に終了します。ユーザーは接続およびセッションを再確立しなければなりません。
- アプリケーション・タイプの値が*APPINIT, *DEVINIT,または*NRFである装置の場合には、セッションは、タイムアウト値を超える時間の間装置が非活動状態になった (装置に対してオープンされたファイルがクローズされ、その装置についてファイルをオープンするための追加要求を受け取らなかった) 時に終了します。

注: サブシステムは常に装置に対してオープンされたファイルをもっているため、このタイマーはサブシステムに割り振られた装置では使用されません (通常の対話式使用)。このタイマーは、装置に対してファイルをオープンおよびクローズするバッチ・ジョブによって使用されます。

その他の接続機構の場合には、有効な値の範囲は1から30分です。

***ATTACH**

この値は、物理的接続機構(ATTACHパラメーター)の値と、装置クラス(DEVCLS)およびアプリケーション・タイプ(APPTYPE)パラメーター上の一定の値によって変化します。

1. DEVCLS(*SNPT)またはAPPTYPE(*DEVINIT)のサポートでは、*ATTACHは*NOMAX にマップします。
2. DEVCLS(*LAN)では、*ATTACHは*SEC15にマップします。
3. APPTYPE(*NRF)およびAPPTYPE(*APPINIT)のサポートでは、*ATTACHは1分にマップします。

***NOMAX**

最大非活動時間は追跡されません。

***SEC15**

15秒のタイムアウト期間が使用されます。

***SEC30**

30秒のタイムアウト期間が使用されます。

非活動タイマー

タイムアウト値を指定してください。

トップ

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNA パススルー装置の名前を指定します。

*NONE

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リストのホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

*NONE

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

[トップ](#)

ホスト・サイン・オン/ログオン・コマンド (LOGON)

サインオン (ログオン) テキストを指定します。このパラメーターは、DEVCLS(*SNPT)または APPTYPE(*NRF)を指定した場合に使用することができます。APPTYPE(*NRF)は、セッションの確立が要求された時にホスト・システムに送信されるログオン・ストリングを指定します。DEVCLS(*SNPT)は、SNA パススルー・サポートを開始した後にホスト・システムに送信されるサインオン・テキストを指定します。

ファイルのオープン時にホスト・ネットワークでシステム・サービス制御点(SSCP) に送信されるログオン・ストリングを指定します。

*NONE

テキストがホスト・システムに送信されません。

ホスト・ログオン・コマンド

ホスト・システムに送信するテキストを指定してください。テキストにブランクまたは他の特殊文字が入っている場合には、そのテキストをアポストロフィで囲まなければなりません。テキスト中のすべてのアポストロフィは、2つのアポストロフィとして表す必要があります。最大256文字まで指定できます。

[トップ](#)

ペーシング値 (PACING)

要求/応答単位(RU)に使用されるSNAペーシング値を指定します。

7 RUペーシング値に7の値が使用されます。

ペーシング値

1から7の範囲内の値を指定してください。

トップ

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

*TYPE

システムはこの装置タイプに推奨された設定値を使用します。*TYPEはすべての印刷装置に19200ビット/秒を選択します。

回線速度

有効な値は次の通りです。150, 300, 600, 1200, 1800, 2400, 3600, 4800, 7200, 9600, 19200,および38400ビット/秒。

トップ

語の長さ (WORDLEN)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用される語の長さ(ビット/文字)を指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT)接続機構の場合には、語の長さはそのモデムに対して選択された語の長さと同じでなければなりません。表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、語の長さはその表示装置の装置記述に指定された語の長さと同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべてのワード長をサポートしていないものもあります。使用したいワード長を入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

*TYPE

システムはこの装置タイプに推奨された設定値を使用します。*TYPEはすべての印刷装置に8ビットのワード長を選択します。

- 7 7ビット・ワード長を指定します。
- 8 8ビット・ワード長を指定します。

トップ

パリティのタイプ (PARITY)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用されるパリティのタイプを指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT)接続機構の場合には、パリティのタイプはそのモデムに対して選択したタイプと同じでなければなりません。また、表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、パリティのタイプは表示装置の装置記述に指定したタイプと同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべてのタイプのパリティをサポートしないものもあります。使用したいタイプのパリティを入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

***TYPE**

システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。*TYPEは、すべての印刷装置に対して*EVEN（偶数パリティ）を選択します。

***EVEN**

偶数パリティを指定します。

***ODD** 奇数パリティを指定します。

***NONE**

パリティ・ビットを使用しないことを指定します。

***MARK**

マーク・パリティ（パリティでは1を使用する）を指定します。

***SPACE**

スペース・パリティ（パリティでは0を使用する）を指定します。

トップ

停止ビット (STOPBITS)

ASCII装置の場合には、ASCIIワークステーション制御装置と装置間の接続を介した通信に使用される停止ビットの数を指定します。モデムおよび郵便電話電信(PTT)接続機構の場合には、停止ビットの数はそのモデムに対して選択された停止ビットの数と同じでなければなりません。表示装置の補助ポートに接続された補助印刷装置の場合には、停止ビットの数はその表示装置の装置記述に指定された停止ビットの数と同じでなければなりません。

入出力装置によっては、すべての停止ビットの数をサポートしないものもあります。使用したい停止ビットの数を入出力装置がサポートしているかどうか確認してください。

***TYPE**

システムは、この装置タイプに指定された設定値を使用します。*TYPEは、すべての印刷装置に対して1停止ビットを選択します。

1 1停止ビットを指定します。

2 2停止ビットを指定します。

トップ

ホスト印刷の変換 (TRANSFORM)

印刷装置がホスト印刷変換サポートを使用するかどうかを指定します。

***NO** 印刷装置はホスト印刷変換サポートを使用しません。

***YES** 印刷装置はホスト印刷変換サポートを使用します。

トップ

メーカー・タイプ、型式 (MFRTYPMDL)

ホスト印刷変換機能を使用している印刷装置のメーカー、タイプ、および型式を指定します。

文字値 印刷装置の対応するメーカー、タイプ、および型式を指定します。

次のリストには、使用している装置に指定された値が示されています。

注: MFRTYPMDLに*WSCSTXXXが指定されている場合には、ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定しなければなりません。

メーカー、タイプ、および型式テーブル

*IBM2380	IBM 2380パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2380プラス・プリンター
*IBM2381	IBM 2381パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2381プラス・プリンター
*IBM2390	IBM 2390パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2390プラス・プリンター
*IBM2391	IBM 2391パーソナル・プリンター・シリーズII IBM 2391プラス・プリンター
*IBM3112	IBM 3112ページ印刷装置
*IBM3116	IBM 3116ページ印刷装置
*IBM3130	IBM 3130拡張印刷装置
*IBM3812	IBM 3812ページ印刷装置
*IBM3816	IBM 3816ページ印刷装置
*IBM3912HP	IBM 3912ページ印刷装置 (HPモード)
*IBM3916HP	IBM 3916ページ印刷装置 (HPモード)
*IBM39302	IBM 39302 IBM 3930-02Sページ印刷装置 IBM 39302 IBM 3930-02Dページ印刷装置
*IBM39303	IBM 39303 IBM 3930-03Sページ印刷装置 IBM 39303 IBM 3930-03Dページ印刷装置
*IBM4019	IBM 4019レーザー・プリンター IBM 4019Eレーザー・プリンターE
*IBM4019HP	IBM 4019レーザー・プリンター (HPモード) IBM 4019Eレーザー・プリンターE (HPモード)
*IBM4029	IBM 4029-010レーザー・プリンター5E IBM 4029-020レーザー・プリンター6 IBM 4029-030レーザー・プリンター10 IBM 4029-040レーザー・プリンター10L
*IBM4029HP	IBM 4029-010レーザー・プリンター5E (HPモード) IBM 4029-020レーザー・プリンター6 (HPモード) IBM 4029-030レーザー・プリンター10 (HPモード) IBM 4029-040レーザー・プリンター10L (HPモード)
*IBM4037	IBM 4037 5E印刷装置
*IBM4039HP	IBM 4039レーザー・プリンター10D (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター10Dプラス (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター10R (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター10Rプラス (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター12R (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター12Rプラス (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター12L (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター12Lプラス (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター16L (HPモード) IBM 4039レーザー・プリンター16Lプラス (HPモード)
*IBM4070	IBM 4070 IJ (IBMモード)
*IBM4070EP	IBM 4070 IJ (EPSONモード)
*IBM4072	IBM 4072 EXECJET
*IBM4076	IBM 4076 EXECJET II印刷装置 (HPモード)
*IBM42011	IBM 4201-1 PROPRINTER
*IBM42012	IBM 4201-2 PROPRINTER II
*IBM42013	IBM 4201-3 PROPRINTER III
*IBM42021	IBM 4202-1 PROPRINTER XL
*IBM42022	IBM 4202-2 PROPRINTER II XL

*IBM42023	IBM 4202-3 PROPRINTER III XL
*IBM42071	IBM 4207-1 PROPRINTER X24
*IBM42072	IBM 4207-2 PROPRINTER X24E
*IBM42081	IBM 4208-1 PROPRINTER XL24
*IBM42082	IBM 4208-2 PROPRINTER XL24E
*IBM4212	IBM 4212 PROPRINTER 24P
*IBM4216	IBM 4216-10パーソナル・ページ・プリンター
*IBM4226	IBM 4226-302印刷装置
*IBM4230	IBM 4230-4S3印刷装置(IBMモード)
	IBM 4230-4I3印刷装置(IBMモード)
*IBM4232	IBM 4232-302印刷装置(IBMモード)
*IBM4244ASF	IBM 4244印刷装置 (単一トラクター送りおよびASF)
*IBM4244DUAL	IBM 4244印刷装置 (複式連続用紙送り機構)
*IBM4244MAN	IBM 4244印刷装置 (単一用紙送りまたは手動選択)
*IBM4247ASF	IBM 4247印刷装置 (単一トラクター送りおよびASF)
*IBM4247DUAL	IBM 4247印刷装置 (複式連続用紙送り機構)
*IBM4247MAN	IBM 4247印刷装置 (単一用紙送りまたは手動選択)
*IBM4308	IBM INFOPRINTカラー8
*IBM4312	IBMネットワーク印刷装置12
*IBM4317	IBMネットワーク印刷装置17
*IBM4320	IBM INFOPRINT 20
*IBM4322	IBM INFOPRINT 21
*IBM4324	IBM ネットワーク印刷装置24
*IBM4332	IBM INFOPRINT 32
*IBM4340	IBM INFOPRINT 40
*IBM47121	IBM 4712-1トランザクション印刷装置
*IBM47122	IBM 4712-2トランザクション印刷装置
*IBM47221	IBM 4722-1文書印刷装置
*IBM47222	IBM 4722-2文書印刷装置
*IBM4770	IBM 4770インクジェット・トランザクション印刷装置
*IBM4912	IBM INFOPRINT 12
*IBM5152	IBM 5152グラフィック印刷装置
*IBM5201	IBM 5201-2 QUIETWRITER
*IBM5202	IBM 5202-1 QUIETWRITER III
*IBM5204	IBM 5204-1 QUICKWRITER
*IBM5216	IBM 5216 WHEELPRINTER
*IBM5575	IBM 5579-H02型印刷装置
	IBM 5579-K02型印刷装置
	IBM 5577-T02型印刷装置
	IBM 5579-S02型印刷装置
	IBM 5577-K02型印刷装置
	IBM 5577-J02型印刷装置
	IBM 5577-G02型印刷装置
	IBM 5577-H02型印刷装置
	IBM 5577-F02型印刷装置
	IBM 5577-B02型印刷装置
	IBM 5575-H02型印刷装置
	IBM 5575-F02型印刷装置(SBCSカートリッジ付き)
	IBM 5575-B02型印刷装置(SBCSカートリッジ付き)
	IBM 5573-K02型印刷装置
	IBM 5573-J02型印刷装置
	IBM 5573-H02型印刷装置
	IBM 5573-G02型印刷装置
	IBM 5572-B02型印刷装置
	IBM 5417-011型印刷装置
	IBM 5407-011型印刷装置
	IBM 5327-011型印刷装置
	IBM 4208-502型印刷装置
*IBM6400	IBM 6400印刷装置(IBMモード)
*IBM6400EP	IBM 6400印刷装置(EPSONモード)
*IBM6404	IBM 6404印刷装置(IBMモード)
*IBM6404EP	IBM 6404印刷装置(EPSONモード)
*IBM6408	IBM 6408-A00印刷装置(IBMモード)
	IBM 6408-CTA印刷装置(IBMモード)
*IBM6408EP	IBM 6408-A00印刷装置(EPSONモード)
	IBM 6408-CTA印刷装置(EPSONモード)
*IBM6412	IBM 6412-A00印刷装置(IBMモード)

	IBM 6412-CTA印刷装置(IBMモード)
*IBM6412EP	IBM 6412-A00印刷装置(EPSONモード)
	IBM 6412-CTA印刷装置(EPSONモード)
*IBMPAGES	IBM 5589-H01印刷装置
	IBM 5588-H02印刷装置
	IBM 5587-H01印刷装置
	IBM 5586-H02印刷装置
	IBM 5585-H01印刷装置
	IBM 5584-H02印刷装置
	IBM 5584-G02印刷装置
*IBMPAGESNPB	*IBMPAGESと同じだが、非印刷枠のテキスト位置調整なし
*IBMPAGES300	IBMネットワーク・プリンター12 (PAGES機構付き)
	IBMネットワーク・プリンター17 (PAGES機構付き)
	IBMネットワーク・プリンター24 (PAGES機構付き)
	IBM INFOPRINT 20 (PAGESフィーチャーなし)
	IBM INFOPRINT 32 (PAGESフィーチャーあり)
	IBM INFOPRINT 40 (PAGESフィーチャーあり)
*IBMPAGES300NPB	*IBMPAGES300と同じだが非印刷枠のテキスト位置調整なし
*INFOPRINT8C	IBM INFOPRINTカラー8
*INFOPRINT12	IBM INFOPRINT 12
*INFOPRINT20	IBM INFOPRINT 20
*INFOPRINT21	IBM INFOPRINT 21
*INFOPRINT32	IBM INFOPRINT 32
*INFOPRINT40	IBM INFOPRINT 40
*INFOPRINT70	IBM INFOPRINT 70
*INFOPRINT85	IBM INFOPRINT 2085
*INFOPRINT105	IBM INFOPRINT 2105
*INFOPRINT1116	IBM INFOPRINT 1116
*INFOPRINT1120	IBM INFOPRINT 1120
*INFOPRINT1125	IBM INFOPRINT 1125
*INFOPRINT1130	IBM INFOPRINT 1130
*INFOPRINT1140	IBM INFOPRINT 1140
*INFOPRINT1145	IBM INFOPRINT 1145
*INFOPRINT1220C	IBM INFOPRINTカラー1220
*INFOPRINT1222	IBM INFOPRINT 1222
*INFOPRINT1226	IBM INFOPRINT 1226
*INFOPRINT1228C	IBM INFOPRINTカラー1228
*INFOPRINT1312	IBM INFOPRINT 1312
*INFOPRINT1332	IBM INFOPRINT 1332
*INFOPRINT1334C	IBM INFOPRINTカラー1334
*INFOPRINT1352	IBM INFOPRINT 1352
*INFOPRINT1354C	IBM INFOPRINTカラー1354
*INFOPRINT1357C	IBM INFOPRINTカラー1357
*INFOPRINT1372	IBM INFOPRINT 1372
*INFOPRINT1400C	IBM INFOPRINTカラー14XXシリーズ印刷装置
*INFOPRINT1410	IBM INFOPRINT 1410 MFP
*INFOPRINT1412	IBM INFOPRINT 1412
*INFOPRINT1422	IBM INFOPRINT 1422
*INFOPRINT2000	IBM INFOPRINT 2000
*INFOPRINT2085	IBM INFOPRINT 2085
*INFOPRINT2105	IBM INFOPRINT 2105
*INFOPRINT2705	IBM INFOPRINT 2105
*INFOPRINT2706	IBM INFOPRINT 2105ES
*INFOPRINT2761	IBM INFOPRINT 2060ES
*INFOPRINT2775	IBM INFOPRINT 2075ES
*INFOPRINT2785	IBM INFOPRINT 2085
*INFOPRINT2790	IBM INFOPRINT 2090ES
*CANLIPS3	CANON LIPS3 DBCS印刷装置
*CANLIPS3NPB	*CANLIPS3と同じだが、非印刷枠のテキスト位置調整なし
*CPQPM15	COMPAQ PAGEMARK 15 (HPモード)
*CPQPM20	COMPAQ PAGEMARK 20 (HPモード)
*EPAP2250	EPSON ACTIONPRINTER 2250
*EPAP3250	EPSON ACTIONPRINTER 3250
*EPAP5000	EPSON ACTIONPRINTER 5000
*EPAP5500	EPSON ACTIONPRINTER 5500
*EPDFX5000	EPSON DFX-5000
*EPDFX8000	EPSON DFX-8000

*EPEPL7000	EPSON EPL-7000
*EPEPL8000	EPSON EPL-8000
*EPFX850	EPSON FX-850
*EPFX870	EPSON FX-870
*EPFX1170	EPSON FX-1170
*EPLQ510	EPSON LQ-510
*EPLQ570	EPSON LQ-570
*EPLQ860	EPSON LQ-860
*EPLQ870	EPSON LQ-870
*EPLQ1070	EPSON LQ-1070
*EPLQ1170	EPSON LQ-1170
*EPLQ2550	EPSON LQ-2550
*EPLX810	EPSON LX-810
*EPSQ870	EPSON SQ-870
*EPSQ1170	EPSON SQ-1170
*ESCPDBCS	EPSON ESC/P DBCS印刷装置
*HP II	HP LASERJETシリーズII
*HP IID	HP LASERJET IID
*HP IIP	HP LASERJET IIP
*HP III	HP LASERJET III
*HP IIID	HP LASERJET IIID
*HP IIIP	HP LASERJET IIIP
*HP IIISI	HP LASERJET IIISI
*HP4	HP LASERJET 4
*HP5	HP LASERJET 5シリーズ
*HP5SI	HP LASERJET 5SI
*HP6	HP LASERJET 6シリーズ
*HP310	HP DESKJET 310
*HP320	HP DESKJET 320
*HP500	HP DESKJET 500
*HP520	HP DESKJET 520
*HP540	HP DESKJET 540
*HP550C	HP DESKJET 550C
*HP560C	HP DESKJET 560C
*HP1100	HP LASERJET 1100シリーズ
*HP1200C	HP DESKJET 1200C
*HP1600C	HP DESKJET 1600C
*HP4000	HP LASERJET 4000シリーズ
*HP5000	HP LASERJET 5000シリーズ
*HP8000	HP LASERJET 8000シリーズ
*HPCOLORLJ	HP COLOR LASERJET 5
*HPDBCS	HP LASERJET互換印刷装置DBCS入力用
*HPPAINT	HP PAINTJET
	HP PAINTJET XL
	HP PAINTJET XL300
*LEX2380	LEXMARK用紙印刷装置2380プラス
*LEX2381	LEXMARK用紙印刷装置2381プラス
*LEX2390	LEXMARK用紙印刷装置2390プラス
*LEX2391	LEXMARK用紙印刷装置2391プラス
*LEX4227	LEXMARK 4227用紙印刷装置
*LEXMARKC	LEXMARK Cシリーズ印刷装置
*LEXMARKC510	LEXMARK C510カラー印刷装置
*LEXMARKC750	LEXMARK C750カラー印刷装置
*LEXMARKC752	LEXMARK C752カラー印刷装置
*LEXMARKC910	LEXMARK C910カラー印刷装置
*LEXMARKC912	LEXMARK C912カラー印刷装置
*LEXMARKE	LEXMARK Eシリーズ印刷装置
*LEXMARKE322	LEXMARK E322印刷装置
*LEXMARKE323	LEXMARK E323印刷装置
*LEXMARKE330	LEXMARK E330印刷装置
	LEXMARK E332N印刷装置
*LEXMARKT	LEXMARK Tシリーズ印刷装置
*LEXMARKT420	LEXMARK T420印刷装置
*LEXMARKT520	LEXMARK T520印刷装置
*LEXMARKT522	LEXMARK T522印刷装置
*LEXMARKT620	LEXMARK T620印刷装置
*LEXMARKT622	LEXMARK T622印刷装置

*LEXMARKT630	LEXMARK T630印刷装置
*LEXMARKT632	LEXMARK T632印刷装置
*LEXMARKT634	LEXMARK T634印刷装置
*LEXMARKW	LEXMARK Wシリーズ印刷装置
*LEXMARKW812	LEXMARK W812印刷装置
*LEXMARKW820	LEXMARK W820印刷装置
*LEXMARKX422	LEXMARK X422 MFP
*LEXOPTRA	LEXMARK OPTRA FAMILY (HPモード)
*LEXOPTRAC	LEXMARK OPTRA Cカラー印刷装置
*LEXOPTRAN	LEXMARK OPTRA N印刷装置
*LEXOPTRAS	LEXMARK OPTRA S印刷装置ファミリー
*LEXOPTRASC	LEXMARK OPTRA SCカラー印刷装置
	LEXMARK OPTRAカラー1200印刷装置
*LEXOPTRAT	LEXMARK OPTRA T印刷装置シリーズ
*LEXOPTRAW	LEXMARK OPTRA W印刷装置シリーズ
*NECP2	NEC P2 PINWRITER
*NECP2200	NEC P2200 PINWRITER
*NECP2200XE	NEC P2200 XE PINWRITER
*NECP5200	NEC P5200 PINWRITER
*NECP5300	NEC P5300 PINWRITER
*NECP6200	NEC P6200 PINWRITER
*NECP6300	NEC P6300 PINWRITER
*NEPCPR201	NEC PC-PR101 DBCS印刷装置
	NEC PC-PR201 DBCS印刷装置
*NONE	印刷装置は、CVTIMG APIによって生成された ページ記述子言語をサポートします。 注: 装置タイプが*SCSまたは*AFPDSの スプール・ファイルは、これらの印刷装置 のホスト印刷変換機能では処理できま せん。
*OKI184IBM	OKIDATA MICROLINE 184 TURBO (IBMモード)
*OKI320IBM	OKIDATA MICROLINE 320 (IBMモード)
*OKI321IBM	OKIDATA MICROLINE 321 (IBMモード)
*OKI390IBM	OKIDATA MICROLINE 390 PLUS (IBMモード)
*OKI391IBM	OKIDATA MICROLINE 391 PLUS (IBMモード)
*OKI393IBM	OKIDATA MICROLINE 393 PLUS (IBMモード)
*OKI590IBM	OKIDATA MICROLINE 590 (IBMモード)
*OKI591IBM	OKIDATA MICROLINE 591 (IBMモード)
*OKI400	OKIDATA OL400 LEDページ印刷装置
*OKI800	OKIDATA OL800 LEDページ印刷装置
*OKI810	OKIDATA OL810 LEDページ印刷装置
*OKI820	OKIDATA OL820 LEDページ印刷装置
*OKI3410	OKIDATA PACEMARK 3410
*PAN1123EP	PANASONIC KX-P1123 (EPSONモード)
*PAN1124EP	PANASONIC KX-P1124 (EPSONモード)
*PAN1124IEP	PANASONIC KX-P1124I (EPSONモード)
*PAN1180EP	PANASONIC KX-P1180 (EPSONモード)
*PAN1180IEP	PANASONIC KX-P1180I (EPSONモード)
*PAN1191EP	PANASONIC KX-P1191 (EPSONモード)
*PAN1624EP	PANASONIC KX-P1624 (EPSONモード)
*PAN1654EP	PANASONIC KX-P1654 (EPSONモード)
*PAN1695EP	PANASONIC KX-P1695 (EPSONモード)
*PAN2123EP	PANASONIC KX-P2123 (EPSONモード)
*PAN2124EP	PANASONIC KX-P2124 (EPSONモード)
*PAN2180EP	PANASONIC KX-P2180 (EPSONモード)
*PAN2624EP	PANASONIC KX-P2624 (EPSONモード)
*PAN4410HP	PANASONIC KX-P4410 (HPモード)
*PAN4420HP	PANASONIC KX-P4420 (HPモード)
*PAN4430HP	PANASONIC KX-P4430 (HPモード)
*PAN4450IHP	PANASONIC KX-P4450I (HPモード)
*PAN4451HP	PANASONIC KX-P4451 (HPモード)
*PANASONIC2310	PANASONIC DP-2310印刷装置
*PANASONIC3010	PANASONIC DP-3010印刷装置
*PANASONIC3510	PANASONIC DP-3510印刷装置
*PANASONIC3520	PANASONIC DP-3520印刷装置
*PANASONIC4510	PANASONIC DP-4510印刷装置
*PANASONIC4520	PANASONIC DP-4520印刷装置

*PANASONIC6010 PANASONIC DP-6010印刷装置
 *PANASONIC6020 PANASONIC DP-6020印刷装置
 *RICOH1515 RICOH AFICIO 1515印刷装置シリーズ
 *RICOH2015 RICOH AFICIO 2015印刷装置シリーズ
 *RICOH2018 RICOH AFICIO 2018印刷装置シリーズ
 *RICOH2022 RICOH AFICIO 2022印刷装置シリーズ
 *RICOH2027 RICOH AFICIO 2027印刷装置シリーズ
 *RICOH2032 RICOH AFICIO 2032印刷装置シリーズ
 *RICOH2035 RICOH AFICIO 2035印刷装置シリーズ
 *RICOH2045 RICOH AFICIO 2045印刷装置シリーズ
 *RICOHAP400 RICOH AFICIO AP400印刷装置シリーズ
 *RICOHAP600N RICOH AFICIO AP600N印刷装置シリーズ
 *RICOHAP900 RICOH AFICIO AP900印刷装置シリーズ
 *RICOHAP3200 RICOH AFICIO AP3200印刷装置シリーズ
 *RICOHAP4510 RICOH AFICIO AP4510印刷装置シリーズ
 *RICOHCL2000 RICOH AFICIO CL2000カラー印刷装置シリーズ
 *RICOHCL3100 RICOH AFICIO CL3000Eカラー印刷装置シリーズ
 RICOH AFICIO CL3100Nカラー印刷装置シリーズ
 *RICOHCL4000 RICOH AFICIO CL4000カラー印刷装置シリーズ
 *RICOHCL5000 RICOH AFICIO CL5000カラー印刷装置シリーズ
 *RICOHCL7000 RICOH AFICIO CL7000カラー印刷装置シリーズ
 *RICOHCL7100 RICOH AFICIO CL7100カラー印刷装置シリーズ
 *WORKIO_BL PANASONIC WORKIO DP-23XXシリーズ印刷装置
 PANASONIC WORKIO DP-30XXシリーズ印刷装置
 *WORKIO_BM PANASONIC WORKIO DP-35XXシリーズ印刷装置
 *WORKIO_CR PANASONIC WORKIO DP-CXXXシリーズ・カラー印刷装置
 *XR4215MRP XEROX 4215/MRP (HPモード)
 *XR4219MRP XEROX 4219/MRP (HPモード)
 *XR4220MRP XEROX 4220/MRP (HPモード)
 *XR4230MRP XEROX 4230/MRP (HPモード)
 *XR4235 XEROX 4235 LASERPRINTING (HPモード)
 *XR4700II XEROX 4700 IIカラー文書印刷装置(HPモード)
 *WSCSTA3 印刷装置はリストされていない(A3サイズ用紙)
 *WSCSTA4 印刷装置はリストされていない(A4サイズ用紙)
 *WSCSTA5 印刷装置はリストされていない(A5サイズ用紙)
 *WSCSTB4 印刷装置はリストされていない(B4サイズ用紙)
 *WSCSTB5 印刷装置はリストされていない(B5サイズ用紙)
 *WSCSTCONT80 印刷装置はリストされていない(8インチ連続用紙)
 *WSCSTCONT132 印刷装置はリストされていない(13.2インチ連続用紙)
 *WSCSTEXECUTIVE 印刷装置はリストされていない(エグゼクティブ・サイズ用紙)
 *WSCSTLEDGER 印刷装置はリストされていない(レジャー・サイズ用紙)
 *WSCSTLEGAL 印刷装置はリストされていない(リーガル・サイズ用紙)
 *WSCSTLETTER 印刷装置はリストされていない(レター・サイズ用紙)
 *WSCSTNONE 印刷装置はリストされていない(用紙サイズ未指定)
 *WSCST 印刷装置はリストされていない

トップ

用紙入れ 1 (PPRSRC1)

用紙入れ1で使用される用紙のタイプを指定します。

*MFRTPMDL

システムはこの印刷装置の推奨設定値を使用します。

*LETTER

この用紙入れの用紙はレター・サイズ(8.5 X 11インチ)です。

*LEGAL

この用紙入れの用紙は規格サイズ(8.5 X 14インチ)です。

*LEDGER

この用紙入れの用紙は元帳サイズ(11 X 17インチ)です。

***EXECUTIVE**

この用紙入れの用紙はエグゼクティブ・サイズ(7.25 X 10.5インチ) です。

***A3** この用紙入れの用紙はA3サイズ(297MM X 420MM)です。

***A4** この用紙入れの用紙はA4サイズ(210MM X 297MM)です。

***A5** この用紙入れの用紙はA5サイズ(148 X 210MM)です。

***B4** この用紙入れの用紙はB4サイズ(257 X 364MM)です。

***B5** この用紙入れの用紙はB5サイズ(182 X 257MM)です。

***CONT80**

この用紙入れの用紙は連続用紙(8.0インチ) です。

***CONT132**

この用紙入れの用紙は連続用紙(13.2インチ) です。

***NONE**

用紙入れ番号1は指定されていません。

トップ

用紙入れ 2 (PPRSRC2)

用紙入れ2で使用される用紙のタイプを指定します。

***MFRTYPMDL**

システムはこの印刷装置の推奨設定値を使用します。

***LETTER**

この用紙入れの用紙はレター・サイズ(8.5 X 11インチ) です。

***LEGAL**

この用紙入れの用紙は規格サイズ(8.5 X 14インチ) です。

***LEDGER**

この用紙入れの用紙は元帳サイズ(11 X 17インチ) です。

***EXECUTIVE**

この用紙入れの用紙はエグゼクティブ・サイズ(7.25 X 10.5インチ) です。

***A3** この用紙入れの用紙はA3サイズ(297MM X 420MM)です。

***A4** この用紙入れの用紙はA4サイズ(210MM X 297MM)です。

***A5** この用紙入れの用紙はA5サイズ(148 X 210MM)です。

***B4** この用紙入れの用紙はB4サイズ(257 X 364MM)です。

***B5** この用紙入れの用紙はB5サイズ(182 X 257MM)です。

***NONE**

用紙入れ番号2は指定されていません。

トップ

エンベロープ・ソース (ENVELOPE)

3番目の用紙入力で使用される封筒のタイプを指定します。

*MFRTPMDL

システムはこの印刷装置の推奨設定値を使用します。

*MONARCH

この用紙入れの封筒はモナーク・サイズ(3.875 X 7.5インチ)です。

*NUMBER9

この用紙入れの封筒は9番サイズ(3.875 X 8.875インチ)です。

*NUMBER10

この用紙入れの封筒は10番サイズ(4.125 X 9.5インチ)です。

*B5 この用紙入れの封筒はB5サイズ(176 X 250MM)です。

*C5 この用紙入れの封筒はC5サイズ(162MM X 229MM)です。

*DL この用紙入れの封筒はDLサイズ(110MM X 220MM)です。

*NONE

封筒用紙入れは指定されていません。

[トップ](#)

ASCII コード・ページ 899 サポート (ASCII899)

印刷装置にASCIIコード・ページ899が導入されているかどうかを指定します。

*NO 印刷装置にASCIIコード・ページ899は導入されていません。

*YES 印刷装置にASCIIコード・ページ899が導入されています。

[トップ](#)

イメージ構成 (IMGCFG)

この印刷装置のイメージ構成を指定します。イメージ構成オブジェクトは、各種のイメージおよび印刷データ・ストリーム形式に対する変換サービスを提供します。

*NONE

イメージ構成は指定されません。

イメージ構成

印刷装置用のイメージ構成を指定してください。

次のリストには、提供されているイメージ構成オブジェクトと普及している多くの印刷装置に推奨されるイメージ構成オブジェクトが含まれています。

イメージ構成オブジェクト・テーブル

```
----- HP PCLデータ・ストリーム-----  
*IMGA01 PCL 300-DPI印刷装置  
*IMGA02 PCL 600-DPI印刷装置  
*IMGA03 PCL 1200-DPI印刷装置  
*IMGA04 PCL 300-DPIカラー印刷装置  
*IMGA05 PCL 600-DPIカラー印刷装置
```

*IMGA06 PCL 1200-DPIカラー印刷装置
 *IMGA07 PCL 75-DPI印刷装置 (圧縮なし)
 *IMGA08 PCL 600-DPI カラー印刷装置
 (より大きな印刷余白付き)
 *IMGA09 PCL 300-DPI印刷装置 (圧縮なし)
 -----ポストスクリプト・データ・ストリーム-----
 *IMGB01 ポストスクリプト300-DPI印刷装置
 *IMGB02 ポストスクリプト600-DPI印刷装置
 *IMGB03 ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
 *IMGB04 ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置
 *IMGB05 ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
 *IMGB06 ポストスクリプト1200-DPIカラー印刷装置
 *IMGB07 ポストスクリプト600X300-DPIカラー印刷装置
 *IMGB08 ポストスクリプト1200X300-DPIカラー印刷装置
 *IMGB09 ポストスクリプト360-DPIカラー印刷装置
 *IMGB10 ポストスクリプト720-DPIカラー印刷装置
 *IMGB11 ポストスクリプト1440X720-DPIカラー印刷装置
 *IMGB12 ポストスクリプト400-DPI印刷装置
 *IMGB13 ポストスクリプト800-DPIカラー印刷装置
 *IMGB14 ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
 (より大きな印刷余白付き)
 *IMGB15 ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置
 (より大きな印刷余白付き)
 ----- IPDSデータ・ストリーム-----
 *IMGC01 IPDS 240-DPI印刷装置
 *IMGC02 IPDS 300-DPI印刷装置
 *IMGC03 IPDS 600-DPI印刷装置
 *IMGC04 IPDS 1200-DPI印刷装置
 *IMGC05 IPDS 240-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
 *IMGC06 IPDS 300-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
 *IMGC07 IPDS 600-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
 *IMGC08 IPDS 1200-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
 *IMGC09 IPDS 240-DPI印刷装置 (IM/1イメージのみ)
 *IMGC10 IPDS 240-DPI印刷装置 (印刷余白付き)
 (IM/1イメージのみ)
 *IMGC11 IPDS 240-DPI印刷装置 (CCITT G4圧縮)
 ----- PCLおよびポストスクリプト・データ・ストリーム-----
 *IMGD01 PCL/ポストスクリプト300-DPI印刷装置
 *IMGD02 PCL/ポストスクリプト600-DPI印刷装置
 *IMGD03 PCL/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
 *IMGD04 PCL/ポストスクリプト300-DPIカラー印刷装置
 *IMGD05 PCL/ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
 *IMGD06 PCL/ポストスクリプト1200-DPIカラー印刷装置
 *IMGD07 PCL 300-DPI/ポストスクリプト600-DPI印刷装置
 *IMGD08 PCL 300-DPI/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
 *IMGD09 PCL 600-DPI/ポストスクリプト300-DPI印刷装置
 *IMGD10 PCL 600-DPI/ポストスクリプト1200-DPI印刷装置
 *IMGD11 PCL/ポストスクリプト600-DPIカラー印刷装置
 (より大きな印刷余白付き)

印刷装置テーブルによる、推奨されるイメージ構成オブジェクト

COMPAQ PAGEMARC 20	*IMGD01
EPSON EPCL-4印刷装置	*IMGA01
EPSON EPCL-5印刷装置	*IMGA02
EPSON STYLUS PHOTO (ポストスクリプト付き)	*IMGB10
EPSON STYLUS COLOR 600, 800 (ポストスクリプト付き)	*IMGB11
HP COLOR LASERJET 5	*IMGA04
HP COLOR LASERJET 5M	*IMGD04
HP DESKJET 560C, 820C, 1200C	*IMGA04
HP DESKJET 500, 600, 1200	*IMGA01
HP DESKJET 1600C, 1600CN	*IMGA04
HP DESKJET 1600CM	*IMGD04
HP LASERJET II, IID, IIP	*IMGA09
HP LASERJET II, IID, IIP (ポストスクリプト付き)	*IMGB01
HP LASERJET III, IIID, IIISI, 4L	*IMGA01
HP LASERJET III, IIID, IIISI, 4L (ポストスクリプト付き)	*IMGD01

HP LASERJET 4, 4P, 4V, 4SI, 4 PLUS	*IMGA02
HP LASERJET 4M, 4MP, 4MV, 4SI MX, 4M PLUS	*IMGD02
HP LASERJET 5, 5P, 5SI	*IMGA02
HP LASERJET 5M, 5MP, 5SI MX	*IMGD02
HP LASERJET 6, 6P, 6L	*IMGA02
HP LASERJET 6M, 6MP	*IMGD02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置(IPDS機構付き)	*IMGD02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置(ASCII/LAN)	*IMGA02
IBM 3112, 3116ページ印刷装置 (ポストスクリプト付き)	*IMGD02
IBM 3130, 3160-1 AF印刷装置(240画素モード)	*IMGC01
IBM 3130 AF印刷装置(300画素モード)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 20 (IPDS機構付き)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 20 (ASCII)	*IMGA02
IBM INFOPRINT 32 (IPDS機構付き)	*IMGC02
IBM INFOPRINT 32 (ASCII)	*IMGA02
IBM INFOPRINT 60	*IMGC03
IBM INFOPRINT 62モデル2	*IMGC05
IBM INFOPRINT 62モデル3	*IMGC06
IBM INFOCOLOR 70	*IMGB05
IBM INFOPRINT 4000	*IMGC05
IBM INFOPRINT 4000 (高解像度)	*IMGC06
IBM 3825, 3827, 3828 AF印刷装置	*IMGC09
IBM 3825, 3827, 3828 AF印刷装置(AFIG付き)	*IMGC01
IBM 3829 AF印刷装置	*IMGC01
IBM 3835-001 AF印刷装置	*IMGC10
IBM 3835-001 AF印刷装置(AFIG付き)	*IMGC05
IBM 3835-002, 3900 AF印刷装置	*IMGC10
IBM 3912, 3916ページ印刷装置(ASCII/LAN)	*IMGC10
IBM 3912, 3916ページ印刷装置(IPDS機構付き) (平衡型)	*IMGC06
IBM 3930-02ページ印刷装置(IPDSディスク)	*IMGC01
IBM 3930-03ページ印刷装置	*IMGA01
IBM 3930-03ページ印刷装置 (ポストスクリプト付き)	*IMGD01
IBM 3935 AF印刷装置	*IMGC02
IBM 4019レーザー・プリンター(HPモード)	*IMGA09
IBM 4019レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGB01
IBM 4028レーザー・プリンター	*IMGC06
IBM 4029レーザー・プリンター	*IMGA01
IBM 4029レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGB02
IBM 4039レーザー・プリンター	*IMGA01
IBM 4039レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGD07
IBM 4049レーザー・プリンター	*IMGA02
IBM 4049レーザー・プリンター (ポストスクリプト付き)	*IMGD02
IBM 4079カラー・ジェット・プリンターPS	*IMGB09
IBM 4303ネットワーク・カラー・プリンター	*IMGB05
IBM 4312, 4317, 4324 NP (IPDS機構付き) (平衡型)	*IMGC06
IBM 4312, 4317, 4324 NP (IPDS機構付き) (LAN)	*IMGC06
IBM 4312, 4317, 4324 NP (ASCII/LAN)	*IMGA02
IBM 4312, 4317, 4324 NP (ポストスクリプト付き) (ASCII/LAN)	*IMGD02
LEXMARK 4039PLUS	*IMGB02
LEXMARK OPTRA Cカラー・プリンター	*IMGD11
LEXMARK OPTRA E, E+	*IMGA02
LEXMARK OPTRA N	*IMGD02
LEXMARK OPTRA R+, RX+, LX+, LXN+	*IMGD02
LEXMARK OPTRA S印刷装置	*IMGD02
LEXMARK OPTRA SCカラー印刷装置	*IMGD05
OKIDATA OL400 LEDページ印刷装置	*IMGA01
OKIDATA OL800, OL810 LEDページ印刷装置	*IMGA02
QMS 2025, 3225	*IMGB12
QMS MAGICOLOR CX	*IMGD04
TEKTRONIX PHASER 140	*IMGB09
TEKTRONIX PHASER 300	*IMGB04
TEKTRONIX PHASER 400	*IMGB05
TEKTRONIX PHASER 540, 550	*IMGB05
TEKTRONIX PHASER 560	*IMGB06
XEROX 4219/MRP	*IMGA01
XEROX 4220/MRP	*IMGA02
XEROX 4230 DOCUPRINTER	*IMGA02

XEROX 4512, 4517ネットワーク・プリンター
XEROX 4520MP印刷装置
XEROX 4700 IIカラー文書印刷装置
XEROX 4915カラー・レーザー・プリンター
XEROX 4920, 4925カラー・レーザー・プリンター

*IMGA02
*IMGB13
*IMGD04
*IMGB08
*IMGB05

[トップ](#)

保留中要求の最大数 (MAXPNDRQS)

印刷装置の待ち行列に入れることのできる印刷要求の最大数を指定します。このパラメーターが使用されるのは、**拡張機能の印刷 (AFP)**パラメーターに*YESが指定されている場合だけです。

6 最大6つまでの印刷要求を待ち行列に入れることができます。

最大印刷要求数

待ち行列に入れることのできる印刷要求の最大数を示す1から31の数値を指定してください。

[トップ](#)

変換中の印刷 (PRTCVT)

AFPを使用するファイルがIPDSに完全に変換される前に印刷を始めるかどうかを指定します。

***YES** IPDS変換を完了する前に印刷が開始されます。

***NO** IPDS変換を完了する前に印刷は開始されません。

[トップ](#)

印刷要求タイマー (PRTRQSTMR)

印刷要求が連続用紙を使用する印刷装置に送信されてから、出力の最後のページが印刷装置から用紙スタッカーに入れられるまでの間に、待機する秒数を指定します。このパラメーターが使用されるのは、**拡張機能の印刷 (AFP)**パラメーターに*YESが指定され、**用紙送り (FORMFEED)**パラメーターに*CONTが指定されている場合だけです。

*NOMAX

タイマーは使用されません。

印刷要求タイマー

印刷要求が送られてから、出力の最後のページを印刷装置から出すまでに待機する秒数(1から3600)を指定してください。

[トップ](#)

用紙定義 (FORMDF)

印刷要求に対する他の書式定義仕様がなかった時に使用される書式定義の名前を指定します。このパラメーターが使用されるのは、**拡張機能の印刷 (AFP)**パラメーターに*YESが指定されている場合だけです。

F1C10110

書式定義F1C10110を使用してください。

書式定義名

使用する書式定義の名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

書式定義を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリーが存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

書式定義が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

文字識別コード (CHRID)

印刷装置の場合に、分離ページ・フォントが明示的に指定されていない時にジョブおよびファイル分離ページを印刷するのに使用するフォントを示す文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。このパラメーターは、**拡張機能の印刷 (AFP)**パラメーターに*YESを指定した場合、および **AFP接続機構 (AFPATTACH)**パラメーターに*APPCを指定した場合、または**ホスト印刷の変換 (TRANSFORM)**パラメーターに*YESを指定した場合にだけ、使用されます。

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

要素1:文字セット

図形文字セット

この印刷装置の属性と一致する図形文字セットの値を指定します。有効な値の範囲は1から32767です。

要素2:コード・ページ

コード・ページ

印刷装置の属性と一致するコード・ページ・セット値を指定します。有効な値の範囲は1から32767です。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

印刷装置のリモート・ロケーション名を指定します。この値はSNAネットワークIDと制御点名、インターネット・プロトコル(IP)ホスト名、またはIPアドレスとすることができます。

SNAリモート・ロケーション名は、NNNNNNNN.CCCCCCCCという形式を使用して指定します。NNNNNNNNはネットワークIDで、CCCCCCCCは制御点名です。制御点名のみを指定した場合には、ネットワークIDの値としてRMTNETIDパラメーター値が使用されます。

IPリモート・ロケーション名は1から255文字の長さでなければなりません。

注: このパラメーターはAFP(*YES)とAFPATTACH(*APPC)の両方を指定した場合、あるいはLANATTACH(*IP)またはLANATTACH(*USRDFN)を指定した場合に有効です。APPTYPE(*APPINIT)を指定した時には、このパラメーターは必須です。APPTYPE(*APPINIT)装置のリモート・ロケーション名は、物理装置の仮想記憶通信アクセス方式/IBMネットワーク制御プログラム(VTAM/NCP)名です。

リモート・ロケーション名

リモート・ロケーション名、リモート・システム名、またはIPアドレスを指定してください。

トップ

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。このパラメーターが有効なのは、AFP(*YES)およびAFPATTACH(*APPC)が指定されているか、あるいはAPPTYPE(*APPINIT)が指定されている場合だけです。APPTYPE(*APPINIT)装置のローカル・ロケーション名は、IBMネットワーク制御プログラム(NCP)中の独立論理装置(LU)の名前です。

*NETATR

システム・ネットワーク属性で指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

ローカル・ロケーション名

ローカル・ロケーション名を指定してください。

トップ

モード (MODE)

この装置のセッション限界およびセッション特性の定義に使用されるモードの名前を指定します。

QSPWTR

印刷装置で特に使用するために存在するモード。

*NETATR

ネットワーク属性のモードが使用されます。

モード名

この装置によって使用されるモード記述の名前を指定してください。

トップ

DBCS機能 (IGCFEAT)

装置の機構および最終コード・ポイントの値を示すためにDBCSフィーチャー・コード形式で使用される2バイト文字セット(DBCS)テーブルを指定します。このパラメーター記述の終わりにあるテーブルには、漢字使用可能の装置の有効な装置機構および最終コード・ポイント値が示されています。

注: このパラメーターが有効なのは、漢字使用可能の装置の場合だけです。

要素1: DBCS使用可能装置の機能

装置の機構

SSSSLRの形式を使用して、装置の文字解像度、言語、および相対バッファ・サイズの装置の機構を指定します。この場合：

SSSS =

文字の解像度（作成するために使用される行列点の数）。たとえば、2424は、文字を公式化するために使用可能な24行列点の高さと24行列点の幅です。

L = 言語コード。現在サポートされている4つの言語コードは次の通りです。

- J =日本語
- K =韓国語
- C =中国語（繁体字）
- S =中国語（簡体字）

R = 相対バッファ・サイズ。有効な値は0, 1, 2,および4です。

要素2:最終コード・ポイント

最終コード・ポイント

最後の漢字の4桁のコード・ポイントを指定してください。この値はblankとすることができます。

[トップ](#)

ユーザー定義オプション (USRDFNOPT)

スプール出力の場合にのみ、スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定プログラムによって使用される1つまたは複数のユーザー定義オプションを指定します。最大4つのユーザー定義オプションを指定することができます。

*NONE

ユーザー定義のオプションは指定しません。

ユーザー定義オプション

スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションによって使用されるユーザー定義オプションを指定してください。すべての文字が受け入れ可能です。

[トップ](#)

ユーザー定義オブジェクト (USRDFNOBJ)

スプール出力の場合のみ、スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定プログラムによって使用されるユーザー定義オブジェクトを指定します。

ユーザー定義オブジェクト名として指定できる値は次の通りです。

*NONE

ユーザー定義オブジェクト名は指定されません。

ユーザー定義オブジェクト名

スプール・ファイルを処理する、ユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定のプログラムで使用されるユーザー定義のオブジェクトの名前を指定してください。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

名前 ユーザー定義オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

オブジェクト・タイプ

ユーザー・オブジェクト・タイプは次のいずれかとすることができます。

- *DTAARA (データ域)
- *DTAQ (データ待ち行列)
- *FILE (ファイル)
- *PSFCFG (PSF構成)
- *USRIDX (ユーザー索引)
- *USRQ (ユーザー待ち行列)
- *USRSPC (ユーザー・スペース)

[トップ](#)

データ変換プログラム (USRDTATFM)

スプール・ファイル・データの変換に使用されるユーザー定義データ・プログラムを指定します。

*NONE

ユーザー定義のデータ変換プログラムは指定しません。

ユーザー定義データ変換プログラム名

ユーザー定義データ変換プログラムの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義ドライバー・プログラム (USRDRVPGM)

ユーザー定義のドライバー・プログラムの修飾名を指定します。

注: このパラメーターは、AFP(*YES)が指定されているか、あるいはDEVCLS(*LAN), TYPE(3812)およびLANATTACH(*IP)が指定されている時には無効です。

***NONE**

ユーザー定義のドライバー・プログラムは指定しません。

ユーザー定義のドライバー・プログラム名

ユーザー定義のドライバー・プログラム名を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

システム・ドライバー・プログラム (SYSDRVPGM)

ISERIES印刷装置出力をTCP/IPネットワーク経由で接続されている印刷装置に送る機能を提供するシステム定義ドライバー・プログラムの名前を指定します。

注: このパラメーターは、DEVCLS(*LAN), TYPE(3812)およびLANATTACH(*IP)が指定されている時のみ有効です。

***HPPJLDRV**

HP互換印刷装置ドライバー・プログラムが使用されます。

***IBMPJLDRV**

IBMネットワーク印刷装置ドライバー・プログラムが使用されます。

***NETSTNDRV**

ネットワーク端末のドライバー・プログラムが使用されます。

***IBMSNMPDRV**

IBM SNMP印刷装置ドライバー・プログラムが使用されます。

*IBMIPDRV

IBM IPP印刷装置ドライバー・プログラムが使用されます。

[トップ](#)

保護接続 (SECURECONN)

印刷装置に保護接続を確立するかどうかを指定します。保護接続は暗号化された通信セッションを提供し、接続を介して渡す印刷データが専用のままであることを保障します。

注: このパラメーターが有効であるのは、SYSDRVPGM(*IBMIPDRV)が指定されているときだけです。

***NO** 印刷装置との接続は保護されません。

***YES** 印刷装置との接続が保護されます。印刷装置はSSL (SECURE SOCKETS LAYER)またはTLS (TRANSPORT LAYER SECURITY)をサポートし、システム・デジタル証明書をもっている必要があります。保護接続の詳細については、印刷装置プログラミングの資料を参照してください。

[トップ](#)

妥当性検査リスト (VLDL)

印刷装置が認証を要求する場合に使用される妥当性検査リストを指定します。妥当性検査リストでは、スプール・ファイルを作成するユーザーの名前、印刷装置の名前、またはシステムの名前について検査されます。名前と関連した認証情報が印刷装置に戻されます。妥当性検査リストの構築に関する詳細については、印刷装置プログラミングの資料を参照してください。

注: このパラメーターが有効であるのは、SYSDRVPGM(*IBMIPDRV)が指定されているときだけです。

***NONE** 妥当性検査リストが指定されません。

妥当性検査リスト名

認証情報が入っている妥当性検査リストの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

LIGHTWEIGHT DIRECTORY ACCESS PROTOCOL (LDAP)ディレクトリーに公開できる印刷装置に関する情報を指定します。

要素1:両面印刷のサポート

印刷装置が用紙の両面への印刷をサポートしているかどうかを指定します。

***UNKNOWN**

このフィールドの値は不明です。

***SIMPLEX**

印刷装置は用紙の片面への印刷のみをサポートします。

***DUPLEX**

印刷装置は用紙の両面への印刷をサポートします。

要素2:カラーのサポート

印刷装置がカラー・インク印刷をサポートしているかどうかを指定します。

***UNKNOWN**

このフィールドの値は不明です。

***COLOR**

印刷装置はカラー・インク印刷をサポートします。

***NOCOLOR**

印刷装置はカラー・インク印刷をサポートしません。

要素3: 1分当たりの黒インク印刷ページ数

印刷装置が黒インクで1分当たりに印刷できるページ数。

***UNKNOWN**

このフィールドの値は不明です。

黒インク印刷ページ数

印刷装置が黒インクで1分当たりに印刷できるページ数。このフィールドは1から32767の範囲内の整数値です。

要素4: 1分当たりのカラー・インク印刷ページ数

印刷装置がカラー・インクで1分当たりに印刷できるページ数。

注: 1分当たりのカラー・インク印刷ページ数は、要素2で*COLORが指定されたときにのみ有効です。

***UNKNOWN**

このフィールドの値は不明です。

カラーのページ・カウント

印刷装置がカラー・インクで1分当たりに印刷できるページ数。このフィールドは1から32767の範囲内の整数値です。

要素5:設置場所

印刷装置の設置場所を手短に説明します。

***BLANK**

印刷装置の設置場所は指定されていません。

場所 印刷装置が設置されている場所を説明する30文字以内のテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

要素6:サポートされているデータ・ストリーム

印刷装置にサポートされているデータ・ストリーム・フォーマットを指定します。

***UNKNOWN**

このフィールドの値は不明です。

***PCL** 印刷装置はPCL (印刷装置コマンド言語) をサポートします。

***PS** 印刷装置はPOSTSCRIPTをサポートします。

***PDF** 印刷装置はPDF (PORTABLE DOCUMENT FORMAT)をサポートします。

***IPDS** 印刷装置はIPDS (高性能印刷装置データ・ストリーム) をサポートします。

***SCS** 印刷装置はSCS (SNA文字ストリング) をサポートします。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)

従属LU要求元(DLUR)で使用される従属ローカル・ロケーション名を指定します。同時に、接続用の追加の機密保護が提供されます。この名前を指定する場合には、従属LUサーバー(DLUS)ノードからの活動化要求(SNA ACTLU)がこの名前を参照しなければなりません。さもないと拒否されます。

リモートDLUSノードは、任意選択でDLUSノードのLUの自動定義のためにISERIESからの非送信請求応答PSID (プロダクト・セットID)を受け入れることができます。その場合には、応答PSIDでこの名前がDLUSノードに送られ、ACTLU要求で戻されます。

非送信請求応答PSIDがDLUSノードによってサポートされていない場合には、両方のシステムでPU名定義の精密な調整が必要です。

***NONE**

ロケーション名は定義されません。

従属ロケーション名

DLURアプリケーションに使用される従属ロケーション名を指定してください。

トップ

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ネットワークのID (ID)を指定します。AFP(*YES)およびAFPATTACH(*APPC)が指定されている時、またはAPPTYPE(*APPINIT)が指定されている時に、このパラメーターは必須パラメーターです。

***NETATR**

ネットワーク属性に指定されたりリモート・ネットワークIDが使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークIDは使用されません。

リモート・ネットワークID

リモート・ネットワークのIDを指定してください。

トップ

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト (WSCST)

作成するワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトの修飾名を指定します。

注: このパラメーターは、AFP(*YES)が指定された場合には無視されます。

***NONE**

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトは指定されません。

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクト

ワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定してください。WSCSTパラメーターにワークステーション・カスタマイズ・オブジェクトを指定した場合には、ASCII装置にFQB, FQI, INB, INI, JEB, JEI, JKB, JUB, KAB, KOB, RCB,およびTABを除くすべての国別キーボードIDを使用することができます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理され

る以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

例1:ローカル印刷装置記述の作成

```
CRTDEVPRT  DEVD(PRT1)  TYPE(5219)  DEVCLS(*LCL)
            MODEL(D1)  PORT(0)
            SWTSET(1)  CTL(CTL01)  FONT(011)
```

このコマンドは、PRT1という名前のローカル印刷装置の装置記述を作成します。これは、CTL01のポート0に接続された5219-D1型印刷装置です。1というアドレスをもち、COURIERフォントを使用します。

例2:LAN印刷装置記述の作成

```
CRTDEVPRT  DEVD(PRT2)  DEVCLS(*LAN)  TYPE(3812)  MODEL(1)
            ADPTADR(999999999999)  FONT(011)
            MFRTYPMDL(*IBM3812)
```

このコマンドは、PRT2という名前のLAN印刷装置の装置記述を作成します。これは、IBM 3812ページ・プリンターに接続された3812-1型印刷装置です。999999999999というアドレスをもち、COURIERフォントを使用します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPDB12C

リモート・ロケーション名&2が正しい形式になっていない。

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

CPF2631

装置タイプ&2が正しくない。

CPDB1B8

パラメーターの組み合わせが無効です。理由コードは&2です。

[トップ](#)

装置記述の作成（小売業）(CRTDEVRTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

小売業装置記述の作成(CRTDEVRTL)コマンドは、小売業装置の装置記述を作成します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV D	装置記述	名前	必須, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	01-FE	必須, 定位置 2
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 3
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
PACING	ペーシング値	0-7, 7	オプション
MAXLENRU	要求単位の最大長	*CALC, 247, 256, 503, 512, 1015, 1024	オプション
APPTYPE	適用業務タイプ	*OTHER, *RCMS, *SBMRTLPGM	オプション
DEVCLS	装置クラス	*NONE, *SNPT	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, 170	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	1-30, *NOMAX, *SEC15, *SEC30	オプション
SNPTDEV	SNAパススルー装置記述	名前, *NONE	オプション
SNPTGRP	SNAパススルー・グループ名	名前, *NONE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEV D)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

有効な値の範囲は01からFEです。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

ユーザー・プログラムが通信するリモート・ロケーションの名前を指定します。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

[トップ](#)

ペーシング値 (PACING)

要求/応答単位(RU)に使用されるSNAペーシング値を指定します。

7 RUペーシング値に7の値が使用されます。

ペーシング値

1から7の範囲内の値を指定してください。

[トップ](#)

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

使用できる要求単位(RU)の最大長を指定します。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

最大長要求単位

着信要求単位の最大長として247, 256, 503, 512, 1015,または1024バイトを指定します。

[トップ](#)

適用業務タイプ (APPTYPE)

この装置によって使用されるアプリケーション・タイプを指定します。

*OTHER

この装置は、HCP (ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)パラメーターに01が指定されている場合) または制御装置のアプリケーションのいずれかと通信します。LOCADRパラメーターに01が指定されている場合には、常に*OTHERを指定する必要があります。4684制御装置の場合に、LOCADRパラメーターの値が01以外のときは、このパラメーターを指定してはいけません。

*RCMS

この装置はリモート変更管理機能サーバー(RCMS)と通信します。*RCMSは、4680または4684制御装置の場合にだけ指定してください。4684制御装置の場合に、LOCADRパラメーターの値が01以外のときは、*RCMSを指定する必要があります。

*SBMRTLPGM

この装置は、ADCS SUP (ユーザー・プログラム開始) サポートを使用して小売業制御装置でプログラムを開始するために、小売業プログラム投入(SBMRTLPGM)コマンドで使用されます。この値が有効となるのは、制御装置に小売業POS通信機能ライセンス・プログラムが使用されている場合だけです。4684制御装置に*SBMRTLPGMを指定してはいけません。

[トップ](#)

装置クラス (DEVCLS)

この装置に使用する装置クラスを指定します。

*NONE

この装置記述はSNAパススルー・サポートを使用しません。

*SNPT

この装置記述はSNAパススルー拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続された表示装置用です。SNAパススルー・サポートによって、ユーザーはホスト論理装置(LU)タイプ0から3のアプリケーションとこの表示装置を接続することができます。

[トップ](#)

活動化タイマー (ACTTMR)

交換回線の場合には、SNAパススルー・サポートがホストISERIESシステムからの活動化要求に装置が応答するのを待機する時間(秒数)を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

このパラメーターを使用できるのは、DEVCLSパラメーターに対して*SNPTが指定されている場合だけです。

170 170秒の活動化時間が指定されます。

活動化時間

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する1から2550の範囲の数値を指定してください。

[トップ](#)

非活動タイマー (INACTTMR)

SNAパススルー・サポートを使用して接続された装置の場合には、装置がホスト・アプリケーションに制限されていない時間を測るタイムアウト値を指定します。タイムアウト値を超えた時に、セッションは終了します。

有効な値の範囲は1から30分です。

***NOMAX**

最大非活動時間は追跡されません（非活動タイマーは実施されません）。

***SEC15**

15秒のタイムアウト期間が使用されます。

***SEC30**

30秒のタイムアウト期間が使用されます。

非活動タイマー

タイムアウト値を分単位で指定します。

[トップ](#)

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNA パススルー装置の名前を指定します。

***NONE**

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リストのホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

***NONE**

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。
*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

例

```
CRTDEVRTL  DEVD(RTL1)  LOCADR(05)  
            RMTLOCNAME(DETROIT) CTL(CTL4)
```

このコマンドは、RTL1という名前の小売業装置記述を作成します。この小売り業装置のロケーション・アドレスはX'05'です。リモート・ロケーション名はDETROITで、装置は小売業制御装置CTL4に接続されています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

装置記述の作成(SNPT) (CRTDEVSNT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述の作成(SNAパススルー) (CRTDEVSNT)コマンドは、SNAパススルー装置の装置記述を作成します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV D	装置記述	名前	必須, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	00-FE	必須, 定位置 2
SNPTCLS	SNAパススルー・クラス	*UP, *DOWN	必須, 定位置 3
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション, 定位置 4
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
ACTTMR	活動化タイマー	1-2550, <u>170</u>	オプション
SNPTDEV	SNAパススルー装置記述	名前, *NONE	オプション
SNPTGRP	SNAパススルー・グループ名	名前, *NONE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
DEPLOCNAME	従属ロケーション名	通信名, *NONE	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEV D)

装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

このSNAパススルー装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。01からFFの範囲の値の2桁の16進文字を指定してください。

[トップ](#)

SNAパススルー・クラス (SNPTCLS)

この装置をSNAパススルー・ホスト制御装置またはSNAパススルー・ダウンストリーム(APPC)制御装置に接続するかどうかを指定します。

***UP** SNAパススルー・ホスト制御装置に接続する装置を指定します。

***DOWN**

SNAパススルー・ダウンストリーム(APPC)制御装置に接続する装置を指定します。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***YES** 装置は初期プログラム・ロード(IPL)時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

接続される制御装置 (CTL)

このオブジェクトが接続される制御装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

活動化タイマー (ACTTMR)

交換接続の場合には、SNAパススルー・サポートがホストISERIESシステムからの活動化要求を装置が応答するのを待機する時間(秒数)を指定します。この時間内に装置が応答しない場合には、利用不能であると見なされます。

170 170秒の活動化時間が指定されます。

活動化タイマー

装置が使用不能であると見なされる前の秒数を指示する1から2550の範囲の数値を指定してください。

[トップ](#)

SNAパススルー装置記述 (SNPTDEV)

ホストまたは拡張プログラム間通信機能(APPC)制御装置に接続する関連したSNAパススルー装置の名前を指定します。

***NONE**

名前は指定されません。

関連装置名

ホストまたはこの装置に関連したAPPC制御装置に接続する装置の名前を指定してください。

SNAパススルー・グループ名 (SNPTGRP)

構成リストのホスト装置のグループに対して構成された名前を指定します。これは、この装置が使用可能なグループの任意の装置と関連していることを指示します。

*NONE

名前は指定されません。

グループ名

この装置と関連していなければならないホスト装置のグループに対して構成された名前を指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)

従属LU要求元(DLUR)で使用される従属ローカル・ロケーション名を指定します。同時に、接続用の追加の機密保護が提供されます。この名前を指定する場合には、従属LUサーバー(DLUS)ノードからの活動化要求(SNA ACTLU)がこの名前を参照しなければなりません。さもないと拒否されます。

リモートDLUSノードは、任意選択でDLUSノードのLUの自動定義のためにISERIESからの非送信請求応答PSID (プロダクト・セットID)を受け入れることができます。その場合には、応答PSIDでこの名前がDLUSノードに送られ、ACTLU要求で戻されます。

非送信請求応答PSIDがDLUSノードによってサポートされていない場合には、両方のシステムでPU名定義の精密な調整が必要です。

*NONE

ロケーション名は定義されません。

従属ロケーション名

DLURアプリケーションに使用される従属ロケーション名を指定してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTDEVSNPT  DEVD(SNPTDEV1)  LOCADR(05) SNPTCLS(*UP)
              CTL(MYCTL)    SNPTDEV(DOWNDEV1)
```

このコマンドは、SNPTDEV1という名前のSNAパススルー装置記述を作成します。装置のロケーション・アドレスはX'05'です。装置は制御装置MYCTLに接続されています。SNAパススルー・クラスは*UPで、この装置と関連した装置名はDOWNDEV1です。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

CPF2654

装置記述&1が作成されたが、使用できないと考えられる。

[トップ](#)

装置記述の作成(SNUF) (CRTDEVSNUF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述の作成(SNUF)(CRTDEVSNUF)コマンドは、システム・ネットワーク体系アップライン機能(SNUF)装置の装置記述を作成します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV D	装置記述	名前	必須, 定位置 1
LOCADR	ローカル・ロケーション・アドレス	01-FF	必須, 定位置 2
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 3
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
PGMSTRRQS	プログラム開始要求可能	*NO, *YES	オプション
SPCHOSTAPP	特別なホスト適用業務	*NONE, *FLASH	オプション
APPID	適用業務識別コード	名前	オプション
HOST	ホスト・タイプ	*CICS, *IMS, *IMSRTR, *ADCS	オプション
RCDLEN	レコード長	1-32767, <u>512</u>	オプション
BLKLEN	ブロックの長さ	1-32767, <u>512</u>	オプション
DFTPGM	省略時のプログラム	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 省略時のプログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
HCP EML	HCPエミュレーション	文字値, *STRUSRPGM, 3651, 3684, <u>4680</u> , 4684	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
DEPLOCNAME	従属ロケーション名	通信名, *NONE	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEV D)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション・アドレス (LOCADR)

この装置のローカル・ロケーション・アドレスを指定します。

有効な値の範囲は01からFFです。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

ユーザー・プログラムが通信するリモート・ロケーションの名前を指定します。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注: ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには、LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

[トップ](#)

プログラム開始要求可能 (PGMSTRRQS)

プログラム開始要求(PSR)を通じたホスト・システム呼び出しのために、この装置を予約するかどうかを指定します。

***NO** この装置は、PSR要求用に予約されません。

***YES** この装置は、PSR要求用に予約されます。

[トップ](#)

特別なホスト適用業務 (SPCHOSTAPP)

SNUFが、顧客情報管理システム／仮想記憶(CICS/VS)または情報管理システム／仮想記憶(IMS/VS)応用層以外の特殊なホスト・アプリケーション用のサポートをカスタマイズしているかどうかを指定します。

***NONE**

SNUFは、特殊なホスト・アプリケーションに対するサポートをカスタマイズしていません。

***FLASH**

SNUFは、連邦準備フラッシュ・アプリケーションに対するサポートをカスタマイズしています。

[トップ](#)

適用業務識別コード (APPID)

ログオン・メッセージとともに送信されるVTAMアプリケーションIDを指定します。

[トップ](#)

ホスト・タイプ (HOST)

装置が通信を行うホスト・システムのタイプを指定します。

***CICS** ホスト・システム・タイプがCICS/VSです。

***IMS** ホスト・システム・タイプがIMS/VSです。

***IMSRTR**

情報管理システムはホスト・システムです。RTR（使用可能状態復帰）コマンドはホスト・システムとの通信に使用されます。

***ADCS**

ストア用拡張データ通信は、ホスト・システムです。

[トップ](#)

レコード長 (RCDLEN)

この装置との通信時に使用できる最大レコード長を指定します。

有効な値の範囲は1から32767です。

値は少なくとも、送信される最も大きいレコードのサイズでなければなりません。この装置が接続される回線記述に指定されたバッファ・サイズ(MAXBUFFERパラメーター)を超えてはいけません。

[トップ](#)

ブロックの長さ (BLKLEN)

この装置との通信時に使用できる最大ブロック長を指定します。

指定可能な値は1から32767までです。

値は少なくとも、送信される最も大きいレコードのサイズでなければなりません。この装置が接続される回線記述に指定されたバッファ・サイズ(MAXBUFFERパラメーター)を超えてはいけません。

[トップ](#)

省略時のプログラム (DFTPGM)

プログラム開始要求が受信されたが、プログラムが指定されていない場合に呼び出されるプログラム名を指定します。

プログラムは、その修飾名（ライブラリー名／プログラム名）で指定されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

HCPエミュレーション (HCPEML)

実行したいホスト・コマンド・プロセッサ(HCP)エミュレーションを指定します。

3651 ホストはADCSを実行中であり、3651 HCPエミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

3684 ホストはADCSを実行中であり、3684 HCPエミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

4680 ホストはADCSを実行中であり、4680 HCPエミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

4684 ホストはADCSを実行中であり、4684 HCPエミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

***STRUSRPGM**

ホストはADCSを実行中であり、ユーザー・プログラム開始(SUP)エミュレート・セッションにこの装置記述を使用します。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

従属ロケーション名 (DEPLOCNAME)

従属LU要求元(DLUR)で使用される従属ローカル・ロケーション名を指定します。同時に、接続用の追加の機密保護が提供されます。この名前を指定する場合には、従属LUサーバー(DLUS)ノードからの活動化要求(SNA ACTLU)がこの名前を参照しなければなりません。さもないと拒否されます。

リモートDLUSノードは、任意選択でDLUSノードのLUの自動定義のためにISERIESからの非送信請求応答PSID (プロダクト・セットID)を受け入れることができます。その場合には、応答PSIDでこの名前がDLUSノードに送られ、ACTLU要求で戻されます。

非送信請求応答PSIDがDLUSノードによってサポートされていない場合には、両方のシステムでPU名定義の精密な調整が必要です。

*NONE

ロケーション名は定義されません。

従属ロケーション名

DLURアプリケーションに使用される従属ロケーション名を指定してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載

っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

例

```
CRTDEVSNUF  DEVD(SNUFDEV02)  LOCADR(FE)  RMTLOCNAME(DETROI)
              CTL(SNUFCTL01)  PGMSTRRQS(*YES)  DFTPGM(PAYROLL)
```

このコマンドは、SNUFDEV02という名前のSNUF通信装置の装置記述を作成します。この装置はデトロイトの通信制御装置SNUFCTL01に接続されていて、ロケーション・アドレスX'FE'にあります。装置はプログラム開始要求が可能で、その省略時のプログラムはPAYROLLです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

装置記述の作成 (テープ) (CRTDEVTAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ装置記述の作成(CRTDEVTAP)コマンドにより、テープ装置の装置記述が作成されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVD	装置記述	名前	必須, キー, 定位置 1
TYPE	装置タイプ	文字値, <u>*RSRCNAME</u>	オプション, キー, 定位置 2
MODEL	装置型式	文字値, <u>*RSRCNAME</u>	オプション, キー, 定位置 3
RSRCNAME	資源名	名前, <u>*NONE</u> , *VRT	オプション, キー, 定位置 4
SWTSET	スイッチの設定値	文字値	オプション
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*YES</u> , *NO	オプション
CTL	接続される制御装置	名前	オプション
ASSIGN	オンに構成変更時の装置割当て	<u>*YES</u> , *NO	オプション
UNLOAD	オフに構成変更時の装置アンロード	<u>*YES</u> , *NO	オプション
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: <u>*SYSOPR</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
AUT	権限	名前, <u>*CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

[トップ](#)

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

装置タイプ (TYPE)

この記述が表す装置のタイプを指定します。

*RSRCNAME

装置タイプは資源名パラメーターによって決定されます。

注: *RSRCNAMEを使用する場合には、資源名は既存のテープ資源でなければなりません。

このパラメーターに有効な装置タイプのリストを表示するためには、TYPEプロンプトからF4（プロンプト）を押してください。

[トップ](#)

装置型式 (MODEL)

この記述の装置の型式番号を指定します。

注: このパラメーターは無視されますが、このコマンドの以前のバージョンに対応させるために指定することができます。

*RSRCNAME

装置型式は資源名パラメーターによって決定されます。

装置型式

この記述の装置型式を指定してください。

[トップ](#)

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表す仮想または物理ハードウェアを識別する資源名を指定します。物理ハードウェア資源の場合には、WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

*NONE

この時点では資源は指定されません。装置をオンに構成変更する前に資源名を指定しなければなりません。

***VRT** オペレーティング・システムは、新規に作成された装置記述に使用するハードウェア資源名を生成します。いったん仮想ハードウェア資源名の最大数が生成されると、作成される追加の装置記述は最後に生成された仮想ハードウェア資源名を割り当てられます。

注: 装置記述が削除されても資源名は除去されません。資源を名前指定して、既存の資源の新しい装置記述を作成することができます。

資源名 システム上の仮想または物理装置を識別するための名前を指定してください。

[トップ](#)

スイッチの設定値 (SWTSET)

テープ装置のスイッチの設定を指定します。

3422, 3480, および3490テープ装置の場合には, 使用可能な値は0からFです。

3430テープ装置の場合には, 使用可能な値は0から3です。

注: このパラメータはすでに有効ではありません。すべてのテープ装置にRSRCNAME パラメータを指定してください。SWTSETパラメータは, このコマンドの以前のバージョンに対応させるために提供されるものです。指定すると, SWTSET パラメータはシステムによって資源名に変換されます。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトを自動的にオンに構成変更するかどうかを指定します。

***YES** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この装置はIPL時に自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

接続される制御装置 (CTL)

この装置が接続される制御装置記述名を指定します。

注:

ローカル・ロケーションと同じシステム上にあるリモート・ロケーションとの通信にこの装置を使用するためには, LINKTYPE(*LOCAL)を指定して作成された制御装置記述を指定します。

RSRCNAME(*VRT)が指定されていると, このパラメータは無効です。

[トップ](#)

オンに構成変更時の装置割当て (ASSIGN)

テープ駆動機構をオンに構成変更する時に, これをシステムに割り当てるかどうかを指定します。

***YES** テープ駆動機構は, 装置のオンへの構成変更時に割り当てられます。

***NO** 装置のオンへの構成変更時に, テープ駆動機構は割り当てられません。

[トップ](#)

オフに構成変更時の装置アンロード (UNLOAD)

装置がオフに構成変更された時に, テープ駆動機構がアンロードされるかどうかを指定します。

***YES** 装置がオフに構成変更された時に, テープ駆動機構はアンロードされます。

***NO** 装置がオフに構成変更された時に、テープ駆動機構はアンロードされません。テープは巻き戻されますが、テープの始めマーカールを超えることはありません。

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

この装置に対する操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

修飾名として使用できるものは次の通りです。

***SYSOPR**

メッセージがQSYSのQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

メッセージ待ち行列名

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

***CHANGE**権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理され

る以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

例

例1:仮想テープ装置記述の作成

```
CRTDEVTAP DEVD(VIRTAP01) RSRCTYPE(*VRT)
```

このコマンドは、VIRTAP01という名前の仮想テープ装置の装置記述を作成します。装置タイプは資源名から決定されます。すべての仮想テープ装置は、63B0という**TYPE**値および001という**MODEL**値が割り当てられます。

例2: 資源名を持つテープ装置記述の作成

```
CRTDEVTAP DEVD(TAPDEV01) RSRCTYPE(TAPERSRC)
```

このコマンドは、資源TAPERSRCをもつTAPDEV01という名前のテープ装置の装置記述を作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261A

エラーのために、装置記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

ディレクトリーの作成 (CRTDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリーの作成 (CRTDIR)コマンドは、新しいディレクトリーをシステムに追加します。

ディレクトリーは、他のオブジェクトの名前を含むオブジェクトです。ライブラリーおよびフォルダーはディレクトリーの1つのタイプです。ディレクトリーが作成されると、リンクがディレクトリーの接頭部に追加されます。オブジェクトをディレクトリーに入れる前に、そのディレクトリーが作成されていなければなりません。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- MD
- MKDIR

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. 作成されるディレクトリーがQSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIB ファイル・システムのライブラリーであるか、“ルート” (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のディレクトリーの場合には、次の制約事項が適用されます。
 - オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)パラメーターで*SYSVAL以外の値を指定する場合には、監査(*AUDIT)特殊権限が必要です。
2. 作成されるディレクトリーがQDLSの既存のフォルダー中のフォルダーである場合には、次の制約事項が適用されます。
 - 既存のフォルダーの変更(*CHANGE)権限が必要です。
3. パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
4. “ルート” (/), QOPENSYSまたはユーザー定義ファイル・システム内にディレクトリーを作成する場合には、新しいディレクトリーを入れるディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。
5. ディレクトリーを作成している場合には、所有者ID (UID)がそのディレクトリーを作成中のユーザーです。

ディレクトリーが“ルート” (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システム内に作成される場合には、以下が適用されます。親ディレクトリーのS_ISGIDビットがオフの場合は、グループID (GID)はそのディレクトリーを作成するスレッドの有効なGIDに設定されます。親ディレクトリーのS_ISGIDビットがオンの場合には、新規ディレクトリーのグループID (GID)は親ディレクトリーのGIDに設定されません。

ディレクトリーがQSYS.LIBまたは独立ASP QSYS.LIBファイル・システム内に作成される場合には、1次ユーザー・プロファイルからGIDが取得されます。その他のファイル・システムについては、GIDは親ディレクトリーから取得されます。

6. オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)パラメーターに*PARENT以外の値を指定するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)および機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1
DTAAUT	データの共通認可	名前, *INDIR, *RWX, *RW, *RX, *WX, *R, *W, *X, *EXCLUDE, *NONE	オプション
OBJAUT	オブジェクトの共通認可	単一値: *INDIR, *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, *OBJREF	オプション
CRTOBJAUD	オブジェクトの値の監査	*SYSVAL, *NONE, *USRPRF, *CHANGE, *ALL	オプション
CRTOBJSCAN	オブジェクトのオプションをスキャン中	*PARENT, *YES, *NO, *CHGONLY	オプション
RSTDRNMUNL	制限付き名前変更とリンク解除	*NO, *YES	オプション

トップ

ディレクトリー (DIR)

作成するディレクトリーのパス名を指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

注: 文字Qで始まる名前は使用しないでください。システムは、そのような名前のライブラリーまたはディレクトリーをシステム・ライブラリーまたはシステム・ディレクトリーと見なします。

トップ

データの共通認可 (DTAAUT)

ディレクトリーに対してユーザーに与えられる共通データ権限を指定するか、あるいは作成されたディレクトリーからすべての権限を継承するように指定します。

*INDIR

作成するディレクトリーの権限は、作成されたディレクトリーによって決定されます。新しいディレクトリーの直前のディレクトリーが権限を決定します。"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システムに作成されたディレクトリーには、それが作成されたディレクトリーと同じ共通、専用、および1次グループ権限、権限リスト、および1次グループが割り当てられます。QDLSフォルダーについて作成されたディレクトリーの省略時の値として、第1レベルのフォルダーの*EXCLUDEが使用されます。第2レベル以上で作成された場合には、前のレベルの権限が使用されます。QOPENSYS,および"ルート" (/)ファイル・システムは、親ディレクトリーのデータ権限の

値を使用します。値*INDIRがオブジェクトの共通認可 (OBJAUT)パラメーターまたはDTAAUTパラメーターのいずれかに指定されている場合には、両方のパラメーターに*INDIRを指定する必要があります。

- *RWX** 所有者に限定されているか、オブジェクト存在(*OBJEXIST),オブジェクト管理(*OBJMGT),オブジェクト変更(*OBJALTER),およびオブジェクト参照(*OBJREF)権限によって制御されている場合を除き、オブジェクトを変更し、オブジェクトに基本的な機能を実行することができます。読み取り、書き込み、実行(*RWX)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)および全データ権限を提供します。
- *RW** オブジェクトの内容を表示および変更することができます。読み取り、書き込み(*RW)権限は、*OBJOPRおよびデータ読み取り(*READ),追加(*ADD),更新(*UPD),削除(*DLT)権限を提供します。
- *RX** プログラムの実行またはファイルの内容の表示など、オブジェクトに対して基本的な操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更することができません。読み取り、実行(*RX)権限は、*OBJOPRおよびデータ*READ,実行(*EXECUTE)権限を提供します。
- *WX** オブジェクトの内容を変更してプログラムを実行するか、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索することができます。書き込み、実行(*WX)権限は、*OBJOPRおよびデータ*ADD,*UPD,*DLT,*EXECUTE権限を提供します。
- *R** オブジェクトの内容を検討することができます。読み取り(*R)権限は、*OBJOPRおよびデータ*READ権限を提供します。
- *W** ユーザーはオブジェクトの内容を変更することができます。書き込み(*W)権限は、*OBJOPRおよびデータ*ADD,*UPD,*DLT権限を提供します。
- *X** プログラムを実行するか、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索することができます。実行(*X)権限は、*OBJOPRおよびデータ*EXECUTE権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値は*NONEでなければなりません。

***NONE**

オブジェクトに対するデータ権限は与えられません。この値を*NONEのOBJAUT値と一緒に使用することはできません。

権限リスト名

使用する権限リストの名前を指定してください。権限リスト名の形式は、現行の10文字形式のままです。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値は*NONEでなければなりません。

トップ

オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)

ディレクトリーのユーザーに与えられる共通オブジェクト認可を指定するか、あるいはそれが作成されるディレクトリーからすべての権限が継承されるように指定します。

***INDIR**

オブジェクト権限は、このディレクトリーが作成されるディレクトリーに対する権限に基づきます。“ルート” (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システムに作成されたディレクトリーには、それが作成されたディレクトリーと同じ共通、専用、および1次グループ権限、権限リスト、および1次グループが割り当てられます。OBJAUTパラメーターまたはデータの共通認可 (DTAAUT)パラメーターのいずれかに値*INDIRを指定した場合には、両方のパラメーターに*INDIRを指定しなければなりません。

***NONE**

その他のオブジェクトの権限(*OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER,または*OBJREF)は、いずれもユーザーに与えられません。DTAAUTパラメーターに*EXCLUDEまたは権限リストを指定した場合には、*NONEを指定しなければなりません。この値を*NONEのDTAAUT値と一緒に使用することはできません。

***ALL** その他のオブジェクトの権限(*OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER,または*OBJREF)は、すべてユーザーに与えられます。

次の値の最大4つまでを指定できます。

***OBJEXIST**

オブジェクトに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限が与えられます。ユーザーはオブジェクトの削除、オブジェクトの記憶域の解放、オブジェクトの保管および復元操作の実行、およびオブジェクトの所有権の転送が行えます。

***OBJMGT**

オブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が与えられます。この権限により、オブジェクトの機密保護、オブジェクトの移動または名前変更を指定し、データベース・ファイルにメンバーを追加することができます。

***OBJALTER**

オブジェクトに対するオブジェクト変更(*OBJALTER)権限が与えられます。オブジェクトの属性を変更することができます。データベース・ファイルについて、トリガーを追加および除去し、参照および固有の制約を追加および除去して、データベース・ファイルの属性を変更することができます。SQLパッケージについてこの権限があれば、SQLパッケージの属性を変更することができます。現在、この権限が使用されるのはデータベース・ファイルおよびSQLパッケージの場合だけです。

***OBJREF**

オブジェクトに対するオブジェクト参照(*OBJREF)権限が与えられます。データベース・ファイルについてのみ使用されるもので、そのオブジェクトに対する操作が他のオブジェクトによって制約される可能性がある別のオブジェクトから、そのオブジェクトを参照することができます。物理ファイルの場合には、その物理ファイルの親へ参照の制約を追加することができます。

トップ

オブジェクトの値の監査 (CRTOBJAUD)

このディレクトリーに作成されるオブジェクトの監査値を指定します。

*SYSVAL以外のこのパラメーターの値は、一部のファイル・システムではサポートされないことがあります。

***SYSVAL**

ディレクトリー内のオブジェクトのオブジェクト監査値は、オブジェクト作成監査(QCRTOBJAUD)システム値によって決まります。

***NONE**

このオブジェクトを使用しあるいは変更しても、監査項目は機密保護ジャーナルに送られません。

***USRPRF**

このオブジェクトにアクセスするユーザーのユーザー・プロファイルを使用して、このアクセスに

についての監査レコードを送るかどうかを決定します。ユーザー監査の変更 (CHGUSRAUD) コマンドのOBJAUDパラメーターは、特定ユーザーに対する監査を変更するために使用されます。

***CHANGE**

すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更アクセスが記録されます。

***ALL** すべてのユーザーによるこのオブジェクトへのすべての変更または読み取りアクセスが記録され
ます。

トップ

オブジェクトのオプションをスキャン中 (CRTOBJSCAN)

出口プログラムが統合ファイル・システムのスキャン関連出口点で登録されるときに、ディレクトリーに作成されたオブジェクトがスキャンされるかどうかを指定します。

統合ファイル・システムの走査関連出口点は、以下のとおりです。

- QIBM_QPOL_SCAN_OPEN -オープン出口プログラムでの統合ファイル・システム走査
- QIBM_QPOL_SCAN_CLOSE -クローズ出口プログラムでの統合ファイル・システム走査

これらの出口点の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト
[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説（英文）を参照してください。

この属性を指定できるのは、“ルート” (/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムに作成されたディレクトリーの場合だけです。その他のファイル・システムの場合には、*PARENTを指定する必要があります。これは無視されます。この属性は*TYPE1および*TYPE2ディレクトリーに設定できますが、この属性に設定されている値に関係なく、実際には*TYPE2ディレクトリーにあるオブジェクトだけがスキャンされます。

***PARENT**

このディレクトリーの作成オブジェクト・スキャン属性の値は、親ディレクトリーの作成オブジェクト・スキャン属性の値からコピーされます。

***YES** ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、オブジェクトが変更されているかあるいは最後にオブジェクトがスキャンされた後でスキャン・ソフトウェアが更新されている場合には、そのオブジェクトはスキャン関連出口プログラムで記述されている規則に従ってスキャンされます。

***NO** ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、そのオブジェクトはスキャン関連出口プログラムによってスキャンされません。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御 (QSCANFSCTL) 値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

***CHGONLY**

ディレクトリーにオブジェクトが作成された後で、最後のオブジェクトのスキャン以降にオブジェクトが変更されている場合に限り、オブジェクトは、スキャン関連の出口プログラムに記述された規則に従ってスキャンされます。スキャン・ソフトウェアが更新されても、オブジェクトはスキャンされません。この属性が有効となるのは、スキャン・ファイル・システム制御(QSCANFSCTL)システム値に*USEOCOATRが指定されている場合だけです。そうでない場合には、属性が*YESの場合と同様に処理されます。

注: この属性を持つオブジェクトが復元されたときにスキャン・ファイル・システム制御 (QSCANFSCTL)値*NOPOSTRSTが指定されていない場合には、オブジェクトは復元後に少なくとも1回スキャンされます。

[トップ](#)

制限付き名前変更とリンク解除 (RSTDRNMUNL)

ディレクトリー内のオブジェクトに対して実行される名前変更およびリンク解除操作に、特別な制約が適用されるかどうかを指定します。この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じで、ネットワーク・ファイル・システム(NFS), QFILESVR.400, "ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のディレクトリーにしか設定できません。NFSとQFILESVR.400の両方のファイル・システムは、属性をサーバーに渡し、呼び出し元に示すことによって、この属性をサポートします。

***NO** このディレクトリーからのオブジェクトの名前変更またはリンク解除についての追加の制約はありません。

***YES** このディレクトリー内のオブジェクトを名前変更またはリンク解除できるのは、操作を実行するユーザーに対して次の1つ以上が真である場合だけです。

1. ユーザーがオブジェクトの所有者である。
2. ユーザーがディレクトリーの所有者である。
3. ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。

[トップ](#)

例

例1: ディレクトリーの作成

```
CRTDIR DIR('MYDIR')
```

このコマンドは、ディレクトリーMYDIRを作成して、これを現行ディレクトリーに追加します。残りのパラメーターには省略時の値が使用されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA089

パス名にパターンは使用できない。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A0

オブジェクトはすでに存在しています。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A6

リンクの数がファイル・システムに使用可能な最大数を超えている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

[トップ](#)

文書作成 (CRTDOC)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

THE CREATE DOCUMENT (CRTDOC) COMMAND ALLOWS YOU TO CREATE A NEW DOCUMENT WHEN USING OFFICEVISION/400.

FIRST THE CREATE DOCUMENT DETAILS DISPLAY IS SHOWN. THEN, IF THE ENTER KEY IS PRESSED ON THIS DISPLAY, THE EDIT DISPLAY IS SHOWN.

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DOC	文書	文字値	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *PRV	オプション, 定位置 2
TEXTPRF	テキスト・プロファイル	名前, *DFT, *SYSTEM	オプション, 定位置 3
TEXT	文書記述	文字値, *DFT	オプション, 定位置 4
DETAILS	文書明細	*YES, *NO	オプション, 定位置 5
EDIT	文書の編集	*YES, *NO	オプション, 定位置 6
EXITPNL	出口表示画面	*YES, *NO	オプション, 定位置 7

トップ

文書 (DOC)

SPECIFIES THE NAME OF THE DOCUMENT TO BE CREATED. A MAXIMUM OF 12 CHARACTERS CAN BE SPECIFIED IN THE REQUIRED FORMAT (DOCUMENT.EXT).

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

トップ

フォルダー (FLR)

SPECIFIES THE NAME OF THE FOLDER THAT WILL CONTAIN THE DOCUMENT BEING CREATED.

***PRV** THE NAME OF THE FOLDER USED IN YOUR LAST SESSION WILL CONTAIN THE DOCUMENT.

FOLDER-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE FOLDER THAT WILL CONTAIN THE DOCUMENT BEING CREATED.

[トップ](#)

テキスト・プロファイル (TXTPRF)

SPECIFIES THE TEXT PROFILE USED AS THE BASE FOR THE DOCUMENT.

***DFT** THE DEFAULT TEXT PROFILE IS USED.

***SYSTEM**

THE SYSTEM TEXT PROFILE IS USED.

PROFILE-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE TEXT PROFILE TO USE. A MAXIMUM OF 12 CHARACTERS CAN BE SPECIFIED.

[トップ](#)

文書記述 (TEXT)

SPECIFIES THE DOCUMENT DESCRIPTION.

***DFT** A DEFAULT DESCRIPTION IS SPECIFIED FOR THE DOCUMENT.

DESCRIPTION

SPECIFY A MAXIMUM OF 44 CHARACTERS, ENCLOSED IN APOSTROPHES.

[トップ](#)

文書明細 (DETAILS)

SPECIFIES WHETHER TO REQUEST OR BYPASS THE DOCUMENT DETAILS DISPLAY.

***YES** THE DOCUMENT DETAILS DISPLAY IS SHOWN.

***NO** THE DOCUMENT DETAILS DISPLAY IS NOT SHOWN.

[トップ](#)

文書の編集 (EDIT)

SPECIES WHETHER DOCUMENT EDITING IS BYPASSED.

***YES** THE DOCUMENT IS EDITED AFTER BEING CREATED.

***NO** THE DOCUMENT IS NOT EDITED AFTER BEING CREATED.

[トップ](#)

出口表示画面 (EXITPNL)

SPECIFIES WHETHER THE EXIT DOCUMENT DISPLAY IS SHOWN WHEN F3(EXIT) OR F12(CANCEL) IS PRESSED TO END THE EDITING.

***YES** THE EXIT DOCUMENT DISPLAY IS SHOWN WHEN F3(EXIT) OR F12(CANCEL) IS PRESSED TO END THE EDITING.

***NO** THE EXIT DOCUMENT DISPLAY IS NOT SHOWN WHEN F3(EXIT) OR F12(CANCEL) IS PRESSED TO END THE EDITING.

トップ

例

CRTDOC DOC(NEWDOC) FLR(MYFLR)

THIS COMMAND CREATES A NEW DOCUMENT CALLED NEWDOC IN FOLDER MYFLR.

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

OFCFFFC

ユーザーの記憶容量を超えた。

OFCFFFD

損傷のあるオブジェクトが見つかった。

OFC8EA3

OFFICEVISION AS/400用エディターは、画面に展開するために使用可能でない。

OFC80B5

OS/400用OFFICEVISIONエディターがシステムで使用可能でない。

OFC800A

フォルダーは使用中である。

OFC800E

&1は、文書またはフォルダーとしてすでに存在している。

OFC800F

表示装置はテキストをサポートしていない。

OFC8006

フォルダーが見つからない。

OFC8008

フォルダーについての要求は認められない。

OFC801D

最大数のテキスト・セッションが活動状態である。

OFC801E

DWエディターまたはテキスト援助機能をロードすることができない。

OFC8017

フォルダー・ディレクトリーがいっぱいである。

OFC8019

必要なモジュールがシステム上にない。

OFC802E

PCエディターの要求が正常に実行されなかった。

OFC821B

文書&1を再利用する必要がある。

OFC9811

フォルダーを再利用する必要がある。

[トップ](#)

表示装置ファイル作成 (CRTDSPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

表示装置ファイル作成(CRTDSPF)コマンドは表示装置ファイルを作成します。装置ファイルには、使用される装置を識別したり、任意指定として装置によって使用されるレコード様式を識別（データ記述仕様(DDS)に指定されている場合）するファイル記述が入っています。装置ファイルにはデータは入っていません。表示装置ファイルは、装置ファイルに関連した1つまたは複数の表示装置にレコードを送信したり、表示装置からレコードを受信したりします。

ファイル記述表示には、次の2つの場所で指定されている情報が入っています。(1) DDS（使用する場合）が入っているソース・ファイル、(2) CRTDSPFコマンドの中。DDSには、装置ファイル中の各レコード様式の仕様、および各レコード様式中のフィールドの仕様が入っています。

表示装置ファイル記述に指定されているパラメーター値を変更または一時変更するためには、プログラム中で表示装置ファイル変更(CHGDSPF)または表示装置ファイル一時変更(OVRDSPF)コマンドを使用します。一時変更コマンドは、表示装置ファイルがプログラムによってオープンされる前に実行しなければなりません。一時変更される値は、そのプログラムが実行中の場合にのみ変更されます。プログラムが終了すると、表示装置ファイルに指定されている元のパラメーター値が使用されます。

注: アプリケーション・プログラムが交換回線上でワークステーションのセッション確立を試みた場合に、回線接続が切られているか、確立されていない場合には、アプリケーション・プログラムは、接続が確立されるまで、いつまでも待ちます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *FILE	オプション, 定位置 3
GENLVL	生成重大度レベル	0-30, 20	オプション
FLAG	フラグづけ重大度レベル	0-30, 0	オプション
DEV	表示装置	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 名前, *REQUESTER	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション
IGCEXNCHR	外字	*YES, *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SRCMBRTXT</u> , *BLANK	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 4 回の繰り返し): *SRC, *NOSRC, *SOURCE, *NOSOURCE, *LIST, *NOLIST, *SECLVL, *NOSECLVL, *EVENTF, *NOEVENTF	オプション, 位置 4
MAXDEV	装置の最大数	1-256, <u>1</u>	オプション
ENHDSP	拡張表示	<u>*YES</u> , *NO	オプション
RSTDSP	画面復元	<u>*NO</u> , *YES	オプション
DFRWRT	書き出し据え置き	<u>*YES</u> , *NO	オプション
CHRID	文字識別コード	単一値: <u>*DEVD</u> , *SYSVAL, *JOBCCSID, *CHRIDCTL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	
DECfmt	10進数形式	*FILE, <u>*JOB</u>	オプション
SFLENDTXT	SFLENDテキスト	*FILE, <u>*MSG</u>	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, <u>*IMMED</u> , *CLS	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	整数, <u>*NOMAX</u> , *IMMED	オプション
DTAQ	データ待ち行列名	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: データ待ち行列名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
SHARE	オープン・データ・パス共用	<u>*NO</u> , *YES	オプション
SRTSEQ	分類順序	単一値: <u>*JOB</u> , *LANGIDSHR, *LANGIDUNQ, *HEX その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, <u>*JOB</u>	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	<u>*YES</u> , *NO	オプション
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *USE	オプション
REPLACE	ファイルの置き換え	<u>*YES</u> , *NO	オプション

トップ

ファイル (FILE)

作成する表示装置ファイルを指定します。

表示装置ファイルを高水準言語プログラムで使用する場合には、ファイル名はその言語の命名規則に従うものでなければなりません。そうでない場合には、プログラムの中でファイル名を変更しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 作成する表示装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

表示装置ファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 表示装置ファイルが作成されたライブラリーを指定します。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

表示装置ファイルの作成に使用されるデータ記述仕様(DDS) ソースが入っているソース・ファイル（指定されている場合）を指定します。

単一値

***NONE**

この表示装置ファイル用のDDSはありません。

修飾子1: ソース・ファイル

名前 表示装置ファイルを作成するために使用されるDDSが入っているソース・ファイル名を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルが入っているライブラリーを指定します。

[トップ](#)

ソース・メンバー(SRCMBR)

作成する表示装置ファイルのDDSソースが入っているソース・ファイル・メンバーを指定します。

***FILE** ソース・ファイルのメンバー名は、**ファイル (FILE)**パラメーターに指定された名前と同じです。

名前 ソース・ファイル中のメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

生成重大度レベル (GENLVL)

ファイルが作成されない原因となるデータ記述仕様(DDS)メッセージの重大度レベルを指定します。このパラメーターが適用されるのは、ソースDDSファイルの処理中に作成されたメッセージに対してだけです。

20 DDSソース・ファイルの処理中に重大度レベルが20より大きいか等しいエラーが起こった場合には、ファイルは作成されません。

0から30

所要の重大度レベル値を指定してください。0を指定した場合には、ファイルは作成されません。指定する値は、**フラグづけ重大度レベル (FLAG)**パラメーターに指定された値に等しいかそれより大きくなければなりません。

[トップ](#)

フラグづけ重大度レベル (FLAG)

リストするメッセージの最小重大度レベルを指定します。

0 すべてのメッセージがリストされます。

0から30

リストするメッセージの最小重大度を示す数値を指定してください。指定する値は、**生成重大度レベル (GENLVL)**パラメーターに指定された値に等しいかそれ以下でなければなりません。

[トップ](#)

表示装置 (DEV)

表示装置のユーザーとそのジョブとの間でデータ・レコードを受け渡しするために、この表示装置ファイルで 사용되는1つまたは複数の表示装置名を指定します。

単一値

*NONE

表示装置名は指定されません。表示装置の名前は、表示装置ファイル変更 (CHGDSPF)コマンドまたは表示装置ファイル一時変更(OVRDSPF)コマンド、あるいはファイルをオープンする高水準言語プログラムに後から指定しなければなりません。

その他の値 (最大50個指定可能)

*REQUESTER

プログラムが呼び出される表示装置は、ファイルのオープン時に割り当てられた装置です。

名前 1つまたは複数の表示装置の名前を指定してください。名前の1つとして*REQUESTERを指定することができます。最大50の装置名(*REQUESTERを含む)を指定できますが、合計数はファイルのオープン時に**装置の最大数 (MAXDEV)**パラメーターに指定された数を超えることはできません。

[トップ](#)

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

プログラム記述ファイルの場合には、ファイルが2バイト文字セット(DBCS)データを処理するかどうかを指定します。外部記述ファイルの場合には、ファイルのDBCS 属性を指定します。

プログラム記述ファイルの場合

***NO** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理しません。

***YES** ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理します。

外部記述ファイルの場合

***NO** ファイルの2バイト文字セット(DBCS)属性だけが、データ記述仕様(DDS)に指定されたものです。

***YES** DBCS属性には、DDSに指定される属性のほかに、(1)代替データ・タイプのDDSキーワード(IGCALTTYP)を有効にするもの、および(2)フィールド、値、またはメッセージのDBCS属性を識別するものがあります。

トップ

外字 (IGCEXNCHR)

システムが2バイト文字セット(DBCS)の外字を処理するかどうかを指定します。DBCS外字を処理するときには、装置にはシステムの援助が必要です。システムが文字の外観を装置に指示しなければ、装置は文字を表示または印刷できません。外字は、DBCS装置ではなくDBCSフォント・テーブルに記憶されます。外字処理は、DBCS装置に使用可能なDBCSフォント・テーブルに記憶される文字を作成するために必要なオペレーティング・システムの機能です。

***YES** システムはDBCS外字を処理します。

***NO** システムは外字を処理しません。外字は未定義文字として表示されます。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

ソース・ファイルがデータベース・ファイルの場合には、テキストはファイルの作成に使用されたソース・ファイル・メンバーから取られます。ソース・ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルの場合には、テキストはブランクです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

ソース・リスト・オプション (OPTION)

ファイルの作成時に生成される出力のタイプを指定します。このパラメーターには、以下の値を4つまで任意の順序で指定することができます。オプションに両方の値を指定した場合、あるいはいずれの値も指定しなかった場合には、そのオプションにリストされている最初の値が使用されます。

注: 各オプションの最初の値は似ていますが、実際には省略時の値ではなく、したがってCHGCMDDFT (コマンド省略時値変更) コマンドによって変更することはできません。

ソース・リスト・オプション

***SRCまたは*SOURCE**

ソース・ステートメントの印刷出力 (エラーのリストを含む) が作成されます。

***NOSRCまたは*NOSOURCE**

エラーが検出されない限り、ソース・ステートメントの印刷出力は作成されません。エラーが検出されると、エラーがそのエラーの原因となったキーワードまたはレコード様式と一緒にリストされます。

プログラム・リスト・オプション

***LIST** ファイル仕様および他のファイル記述への参照の明細リストを示す拡張ソース印刷出力が作成されます。

***NOLIST**

展開ソース印刷出力は作成されません。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

***NOSECLVL**

データ記述仕様(DDS)印刷出力のメッセージ・セクションには、DDSの処理中に出されたメッセージのオンライン・ヘルプ情報は入っていません。

***SECLVL**

オンライン・ヘルプ情報がDDS印刷出力に現れます。

イベント・ファイル作成オプション

***NOEVENTF**

コンパイラーは、COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT FOR ISERIES (CODE FOR ISERIES)プロダクトのイベント・ファイルを作成しません。

***EVENTF**

コンパイラーは、CODE FOR ISERIESプロダクトで使用できるイベント・ファイルを作成します。イベント・ファイルは、オブジェクト・ライブラリーのファイルEVFEVENTの中にメンバーとして作成されます。CODE FOR ISERIESプロダクトは、このファイルを使用して、CODE FOR ISERIESエディターによって統合されたエラー・フィードバックを提供します。通常、この値はユーザーのために CODE FOR ISERIESプロダクトによって指定されます。

トップ

装置の最大数 (MAXDEV)

ファイルがオープンされている時に、表示装置ファイルに同時に接続することのできる表示装置の最大数を指定します。

1 この表示装置ファイルでは、ただ1つの装置名または*REQUESTERを指定することができます。

1から256

同時に表示装置ファイルに接続できる装置の最大数を指定してください。

トップ

拡張表示 (ENHDSP)

この表示装置ファイルによって表示装置に表示されるデータがその表示装置で使用可能な拡張機能を使用しているかどうかを指定します。

- *YES** 表示装置ファイルのデータは、表示装置で使用可能な拡張機能を使用して表示されます。この機能には、略語、選択カーソル、および図形ウィンドウ枠を含めることができます。
- *NO** この表示装置ファイルのデータは、5250表示装置上にある場合と同じように表示されます。略語、選択カーソル、または図形ウィンドウ枠など、この表示装置で使用可能な拡張機能は使用されません。この値は通常、すべての表示装置相互間の文字を基礎とした対話を維持するために使用されません。

トップ

画面復元 (RSTDSP)

同じ表示装置で異なる表示装置ファイルが異なるデータを表示できるように、この表示装置ファイルが保留される（一時的に非活動状態にされる）時に、表示されているデータを保管するかどうかを指定します。このファイルのデータを保管した場合には、そのファイルを再び使用する時に、そのデータが装置の画面に復元されます。

- *NO** ファイルが保留されていると、このファイルによって表示中のデータは保管されません。
- *YES** このファイルが保留される時に表示されているデータは保管され、ファイルが再び使用された時に表示装置に復元されます。

トップ

書き出し据え置き (DFRWRT)

読み取り要求が行われた時に、他のデータと一緒に書き出されるまで、データの書き出しを遅延するかどうかを指定します。データを受信した直後に制御権がプログラムに戻されます。

- *YES** プログラムが書き出し要求を出した場合には、バッファの処理後に制御権が戻されます。これにより、パフォーマンスが向上することがあります。
- *NO** 書き出し操作の後、ユーザー・プログラムは入出力の完了まで制御権を受け取りません。

トップ

文字識別コード (CHRID)

表示装置ファイルに対して行うことができる文字変換のタイプを指定します。必要な場合には、システムは装置との間で送受信する文字データを変換します。これにより、文字の正しい16進バイト値が装置に送信され、アプリケーション・プログラムに戻されます。

単一値

***DEVD**

CHRID DDSキーワードが指定されたすべての名前付きフィールドのフィールド・データのCCSIDを表すために装置のCHRIDが使用されることを指定します。フィールド・データのCCSIDは常に装置のCHRIDと同じなので、変換が行われることはありません。

***SYSVAL**

CHRID DDSキーワードが指定されたすべての名前付きフィールドのフィールド・データのCCSID

を表すためにQCHRIDシステム値が使用されることを指定します。フィールド・データのCCSIDが装置のCHRIDと異なっている時にだけ、これらの特定フィールドの変換が行われます。

***JOBCCSID**

装置のCHRID,ジョブのCCSID,または表示装置ファイルのCCSID値の間に相違がある場合に、文字変換を行うことを指定してください。入力時に、必要な場合は、文字データが装置のCHRIDからジョブのCCSIDに変換されます。出力時に、必要な場合は、文字データがジョブのCCSIDから装置のCHRIDに変換されます。出力時に、必要な場合は、表示装置ファイルの固定文字データが表示装置ファイルのCCSIDから装置のCHRIDに変換されます。

注: CHRIDコマンド・パラメーターに*CHRIDCTL特殊値が指定されているときにCHRIDコマンド・パラメーターまたはCHRIDCTLジョブ属性のいずれかで直接指定された*JOBCCSID特殊値は、ファイルがV2R3M0より前のリリース・レベルのシステムで作成されている場合には使用できません。V2R3M0より前に作成されたファイルにはCCSIDによるタグが付けられず、*JOBCCSIDサポートとの組み合わせで使用することはできません。

***CHRIDCTL**

この表示装置ファイルに対するCHRIDコマンド・パラメーターで特殊値*JOBCCSIDを使用するか*DEV Dを使用するかを判別するために、システムがCHRIDCTL ジョブ属性を検査することを指定します。

要素1: グラフィック文字セット

整数 使用する図形文字セットの番号を指定してください。有効な値の範囲は1から32767です。

要素2: コード・ページ

整数 使用するコード・ページの番号を指定してください。有効な値の範囲は1から32767です。

注: 図形文字セットとコード・ページは、CHRID DDSキーワードが指定されたすべての名前付きフィールドのフィールド・データのCCSIDを表すために使用される値を指定します。フィールド・データのCCSIDが装置のCHRIDと異なっている時にだけ、これらの特定フィールドの変換が行われます。

トップ

10進数形式 (DECFMT)

EDTCDE DDSキーワードで数字フィールドを編集する時に使用する10進数形式を指定します。10進数形式の値は、小数点としてのコンマおよびピリオドの使用、および編集済みフィールドにおける3桁の定位置区切り記号を決定します。

***JOB** ファイルのオープン時にDECFMTジョブ属性からの10進数形式の値を使用します。

***FILE** ファイルの作成時にそのファイルと一緒に記憶された10進数形式の値を使用します。

トップ

SFLENDテキスト (SFLENDTXT)

サブファイルを表示する場合に、「続く...」および「終わり」というテキストが検索される場所を指定します。「続く...」および「終わり」というテキストは、サブファイル制御レコードにSFLEND(*MORE) DDSキーワードが指定されている時にサブファイル中に表示されます。

***MSG** ファイルがオープンされた時にシステムの現行活動言語に存在するメッセージCPX6AB1およびCPX6AB2から検索された「続く...」および「終わり」というテキストを使用します。

***FILE** ファイルの作成時にファイルに記憶された「続く...」および「終わり」というテキストを使用します。このテキストは、ファイルが作成された時にシステムの活動言語に存在するメッセージCPX6AB1およびCPX6AB2から検索されます。

トップ

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略時待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1から32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

トップ

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

高水準言語プログラムの複数装置ファイルに対する送信勧誘された装置からの読み取り操作の完了を、プログラムが待機する秒数を指定します。どんなときにファイルが複数装置ファイルとして取り扱われるかを判別するには、高水準言語解説書を参照してください。読み取り操作を実行しているプログラムは、現在ファイルにアクセス中のすべての送信勧誘済み装置からの入力を待ちます。送信勧誘されたプログラム装置のいずれからも指定された時間内にレコードが戻されなかった場合には、通知メッセージがプログラムに送られます。このパラメーターは、単一装置に対して指示された入力操作では何の効果もありません。

***NOMAX**

システムが操作の完了を待機する時間に制限はありません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。送信勧誘された装置からの読み取り操作が実行された時にレコードが使用可能でない場合には、プログラムに通知メッセージが送られます。

整数 プログラムが待機する最大秒数を指定してください。有効な値の範囲は1から32767秒です。

トップ

データ待ち行列名 (DTAQ)

項目を入れるデータ待ち行列を指定します。指定するデータ待ち行列は最小長80桁でなければなりません。ファイルを使用するまでこのパラメーターに指定された名前が評価されないので、表示装置ファイルが作成される時にデータ待ち行列が存在している必要はありません。

注: このパラメーターにキー順データ待ち行列は使用できません。キー順データ待ち行列が指定された場合には、実行時エラーが起こります。しかし、コマンドが出される時にデータ待ち行列が存在している必要はないため、このエラーにフラグは付けられません。

単一値

***NONE**

データ待ち行列は指定されません。

修飾子1: データ待ち行列名

名前 項目を入れるデータ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データ待ち行列を見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 データ待ち行列を見つけるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

***NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

[トップ](#)

分類順序 (SRTSEQ)

このユーザー・プロファイルに使用される分類順序を指定します。この分類順序とLANGIDパラメーターと一緒に使用されて、使用される分類順序テーブルが決まります。

単一値

***JOB** ジョブ属性で指定されたSRTSEQ値が使用されます。

***LANGIDSHR**

分類順序テーブルは複数の文字について同じ重みを含むことができるもので、LANGIDパラメーターで指定された言語と関連した共用重み付きテーブルです。

*LANGIDUNQ

分類順序テーブルには、コード・ページのそれぞれの文字に対して固有の重みが入っていません。

*HEX 分類順序テーブルは使用されず、分類順序を決定するために文字の16進数値が使用されます。

修飾子1: 分類順序

名前 使用するソート・シーケンス・テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

言語識別コード (LANGID)

分類順序 (SRTSEQ)パラメーターに*LANGIDSHRまたは*LANGIDUNQが指定された時に使用される言語IDを指定します。この言語IDとSRTSEQパラメーターと一緒に使用されて、ファイルが使用する分類順序テーブルが決められます。

*JOB ジョブに指定された言語IDが使用されます。

文字値 言語IDを指定してください。このコマンドについてプロンプトを出す時にIDの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト)を押します。

[トップ](#)

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

プログラムのオープン時に、表示装置ファイルのレコード様式のレベルID を検索するかどうかを指定します。

*YES レコード様式のレベルIDが検査されます。レベルIDがすべて一致しない場合には、オープン・エラー・メッセージがオープン操作の要求元のプログラムに送られます。

*NO ファイルのオープン時にレベルIDは検査されません。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUT パラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE 権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

ファイルの置き換え (REPLACE)

保管またはデータベース・ファイル以外の既存のファイルを置き換えるかどうかを指定します。

注: 既存のファイルをこのジョブまたは別のジョブが使用中であった場合には、それを置き換えることはできません。

注: ファイルに対する権限値はユーザーのユーザー・プロファイルによって決められます。既存のファイルが置き換えられる場合には、新しいファイルに対する権限値は置き換えられたファイルからコピーされます。

***YES** 同じ名前およびライブラリーの新しい表示装置ファイルが正常に作成された場合には、既存のファイルが置き換えられます。

***NO** 同じ名前およびライブラリーの既存のファイルがある場合には、新しい表示装置ファイルを作成することはできません。

トップ

例

例1: 省略時の任意指定パラメーターの指定

```
CRTDSPF FILE(DSPHIST) SRCFILE(PRSNNL/JOBHIST)
```

このコマンドは、PRSNLライブラリーに保管されているJOBHISTという名前のソース・ファイルを使用して、現行ライブラリーに保管されるDSPHISTという名前の表示装置ファイルを作成します。他のパラメーターはすべて省略時値が使用されます。装置ファイルに割り当てられるのは、この装置ファイルを使用するプログラム（すなわち、*REQUESTER）を要求する装置だけです。ファイルのオープン時にレコード様式のレベルIDが検査されます。ユーザーは、装置ファイルのオブジェクト操作権限だけを持ちます。

例2: DBCSデータ処理の指定

```
CRTDSPF FILE(IGCDSP) SRCFILE(IGCLIB/IGCSRC) IGCDA(*YES)
```

このコマンドは、ライブラリーIGCLIBのソース・ファイルIGCSRCから表示装置ファイルIGCDSPを作成します。ファイルは2バイト文字セット(DBCS)データを処理します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

[トップ](#)

配布リスト作成 (CRTDSTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布リスト作成(CRTDSTL)コマンドによって、配布ディレクトリーの項目のリストである新しい配布リストを作成することができます。配布リストは、ローカル・ユーザー、リモート・ユーザー、間接ユーザー、およびプログラム式ワークステーション・ユーザーの項目を含むことができます。またリモート配布リストを含むことができますが、ローカル配布リストは含むことはできません。配布リスト作成(CRTDSTL)コマンドは、項目のない配布リストを作成します。配布リストに項目を追加するためには、配布リスト項目追加(ADDDSTLE)コマンドが使用されます。

制約事項:リストID (ID)は、ディレクトリー内の他のリストIDに対してだけでなく、すべてのローカル・ユーザーIDに対しても固有としなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LSTID	リスト識別コード	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: リスト識別コード	文字値	
	要素 2: リスト識別コード修飾子	文字値	
LSTD	リスト記述	文字値	必須, 定位置 2
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

[トップ](#)

リスト識別コード (LSTID)

配布リストの2つの部分から成る固有のリストIDを指定します。ユーザーIDおよびアドレスに適用されているものと同じ規則および制約が、配布リストにも適用されます。各部分に、最大8文字まで指定することができます。

これは必須パラメーターです。

小文字が指定された場合には、システムはそれを大文字に変更し、大文字として記憶します。

[トップ](#)

リスト記述 (LSTD)

配布リストを詳しく識別するための配布リストの記述を指定します。最大50文字まで指定することができます。

[トップ](#)

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス, システム名およびグループ, およびX.400 O/Rパラメーターだけが, このパラメーターで指定された図形文字セットID (GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて, 入力されたままの状態記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には, 表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には, 省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって, これらの値を一時変更することができます。

単一値

*SYSVAL

システムは, QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEVVD

システムは, このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは, 対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には, エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

[トップ](#)

例

```
CRTDSTL  LSTID(DEPT48K DLIST)
          LSTD('部門48K配布リスト')
```

このコマンドは, 部門48Kのメンバーが入っている配布リストを作成します。このリストIDが固有である場合は, 配布リストが作成されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9088

リスト&1 &2はディレクトリーに作成されなかった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

データ域作成 (CRTDTAARA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ域作成 (CRTDTAARA)コマンドは、データ域を作成し、それを指定されたライブラリーに保管します。また、データの属性も指定します。データ域は、特定の値に初期設定することもできます。

データ域は、ジョブの中でかまたはジョブの間で複数のプログラムによって使用されるデータを伝え、記憶するために使用されます。プログラムでは、データ域検索 (RTVDTAARA)コマンドを使用してデータ域の値を使用することができます。

データ域は、同時に複数のジョブで使用されていない場合には、明示的に適切なジョブに割り振ることができます。データ域が同時に複数のジョブで使用されている場合には、異なる複数のジョブから同時に変更されることがないように、データ域が保護されます。データ域は、データ域変更 (CHGDTAARA)コマンドを使用して変更されます。システムでは、2つのコマンドが同時に同じデータ域を変更することは許されません。

データ域は、変更されるたびに補助記憶域で更新されます。これによって、プログラムまたはシステムに障害が起こった場合でも、変更は、失われずに確実に保管されます。

CRTDTAARAコマンドでは、分散データ管理機能(DDM)データ域を任意に作成することができます。これは、TYPEパラメーターに*DDMを指定することによって行われます。DDMデータ域は、DDMネットワーク中のリモート（ターゲット）システムにあるデータ域にアクセスするために、プログラムによって参照データ域として使用されます。ローカル（ソース）システムのプログラムは、リモート・データ域の名前ではなく、DDMデータ域の名前でリモート・データ域を参照します。DDMデータ域名はリモート・データ域名と同じにすることができます。

ソース・システムのDDMデータ域には、リモート・データ域の名前およびそのリモート・データ域があるリモート（ターゲット）システムの名前が入っています。

DDMデータ域は、リモート・システム上のデータ域を検索および更新するためにRTVDTAARAコマンドおよびCHGDTAARAコマンドで使用できます。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、データ域があるライブラリーに対するオブジェクト操作権および追加権限がユーザーに必要です。
2. このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。次の制約事項が適用されます。
 - a. マルチスレッドを使用できるジョブのDDMデータ域の作成はスレッド・セーフではありません。
 - b. DDMデータ域の作成は、ジョブで複数のスレッドが活動状態の時には正常に実行されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTAARA	データ域	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データ域	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
TYPE	タイプ	*DEC, *CHAR, *LGL, *DDM	必須, 定位置 2
LEN	長さ	要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 長さ	1-2000	
	要素 2: 小数点以下の桁数	0-9	
VALUE	初期値	無制限	オプション, 定位置 4
RMTDTAARA	リモート・データ域	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: リモート・データ域	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名, *RDB	オプション
RDB	リレーショナル・データベース	名前	オプション
DEV	APPC装置記述	名前, <u>*LOC</u>	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, <u>*LOC</u> , *NETATR	オプション
MODE	モード	通信名, <u>*NETATR</u>	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, <u>*LOC</u> , *NETATR, *NONE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

トップ

データ域 (DTAARA)

作成したいデータ域の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データ域

名前 作成されるデータ域の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

データ域は、スレッドの現行ライブラリーに作成されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 データ域が作成されるライブラリーを指定します。

トップ

タイプ (TYPE)

作成されるデータ域に入る値のタイプを指定します。タイプは、文字値、10進数値、または論理値（1または0）とすることができます。あるいは、分散データ管理機能(DDM)データ域を作成することができます。

これは必須パラメーターです。

***DEC** データ域には10進数値が入ります。

***CHAR**

データ域には、文字ストリング値が入ります。

***LGL** このデータ域には、オン/オフ、真/偽、あるいは、YES/NOなどの2つの対立する条件を表すために使用できる1(1)またはゼロ(0)の論理値が入ります。

***DDM** 作成されるデータ域はDDMデータ域です。このデータ域には、アクセスされるリモート・データ域の名前およびそのデータ域が入っているリモート（ターゲット）システムの名前が入っています。

トップ

長さ (LEN)

作成されるデータ域の長さを指定します。10進数データ域の場合には、小数点の右に任意に桁数を指定することができます。データ域の値に可能な最大長および長さを指定しなかった時に使用される省略時の長さは、データ域のタイプによって決定されます。3つのタイプのそれぞれの最大長および省略時の値は次の通りです。

- 10進数
 - 最大— 24桁で、小数点以下の桁数は9桁
 - 省略時の値— 15桁で、小数点以下の桁数は5桁
- 文字
 - 最大— 2000文字
 - 省略時の値— 32文字
- 論理値—最大値および省略時値のいずれも1文字

注: 文字タイプの場合に、**初期値 (VALUE)**パラメーターに指定する場合には、省略時の長さは初期値の長さと同じです。

要素1: 長さ

1から2000

このデータ域が持つことのできる値の長さを指定します。このデータ域の値の長さには、値の小数点以下の桁数が含まれます。10進数値の最大長は24桁で、小数点以下の桁数は9桁を超えることはできません。CLプログラム中でこのデータ域を使用するためには、合計の長さを15桁に制限しなければなりません。

要素2: 小数点以下の桁数

0から9 **10進数(*DEC)**データ域の小数点の右側の桁数を指定します。これが指定されない場合には、0の値と見なされます。

トップ

初期値 (VALUE)

作成時にデータ域に割り当てられる初期値を指定します。この値は、このコマンドの**タイプ (TYPE)**パラメーターに指定されたタイプでなければなりません。値が指定されない場合には、文字データ域は空白に初期設定され、10進数データ域は0の値に初期設定され、また、論理データ域は0に初期設定されます。

非制限値

データ域の初期値を指定します。

トップ

リモート・データ域 (RMTDTAARA)

ターゲット・システムのリモート・データ域の名前を指定します。DDMデータ域を作成する時には、このデータ域が存在している必要はありません。

修飾子1: リモート・データ域

名前 リモート・データ域の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** データ域を見つけるために、ターゲット・システムで呼び出されたスレッドのライブラリー・リストが検索されます。

*CURLIB

データ域を見つけるために、ターゲット・システムで呼び出されたスレッドの現行ライブラリーが検索されます。呼び出されたスレッドに現行ライブラリーがない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 リモート・データ域があるライブラリーを指定します。

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

このオブジェクトで使用されるリモート・ロケーションの名前を指定します。

注: 複数のDDMデータ域がターゲット・システムに同じリモート・ロケーションを使用することができません。使用されるリモート・ロケーションは、リモート・データ域をサポートするオペレーティング・システムのリリースにあるシステムを示す必要があります。

***RDB** リモート・システムの判別には、**リレーショナル・データベース (RDB)**パラメーターに指定されたリレーショナル・データベース項目からのリモート・ロケーション情報が使用されます。

通信名 ターゲット・システムと関連したリモート・ロケーションの名前を指定してください。DDMデータ域が作成される時には、ターゲット・システムにアクセスする時に使用されるリモート・ロケーションが存在している必要はありませんが、DDMデータ域がアクセスされる時には存在していなければなりません。

リモート・ロケーションの詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

トップ

リレーショナル・データベース (RDB)

DDMデータ域に関するリモート・ロケーション情報を判別するために使用されるリレーショナル・データベース項目を指定します。

通信名 ターゲット・システムまたはターゲットASPグループを識別するリレーショナル・データベース項目の名前を指定します。リレーショナル・データベース名は、リモート・システム上で構成されて使用できるリモート・システムまたはASPグループを参照できます。リレーショナル・データベース項目は、DDMデータ域の作成時に存在している必要はありませんが、DDMデータ域のオープン時には存在している必要があります。このパラメーターは、**リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)**パラメーターに*RDBを指定した場合は必須です。

トップ

APPC装置記述 (DEV)

このDDMデータ域で使用されるソース・システムのAPPC装置記述の名前を指定します。DDMデータ域が作成される時には、この装置記述が存在している必要はありません。

***LOC** リモート・ロケーションと関連した装置が使用されます。複数の装置がリモート・ロケーションと関連付けられている場合には、どの装置を使用するかをシステムが決定します。

名前 リモート・ロケーションと関連した通信装置の名前を指定してください。装置名がリモート・ロケーションに正しくない場合には、プログラム装置項目が獲得される時にメッセージが送られます。装置名の詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

トップ

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

***LOC** リモート・ロケーションと関連した装置が使用されます。複数の装置がリモート・ロケーションと関連付けられている場合には、どの装置を使用するかをシステムが決定します。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定された**省略時ローカル・ロケーション名 (LCLLOCNAME)**が使用されます。

通信名 リモート・ロケーションと関連したローカル・ロケーションの名前を指定してください。ローカル・ロケーション名は、ユーザーがリモート・ロケーションに対して特定のローカル・ロケーションを指示する場合にだけ指定されます。リモート・ロケーションに対してローカル・ロケーション名が正しくない場合には、DDMデータ域がアクセスされる時に、エスケープ・メッセージが送られます。ローカル・ロケーション名の詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

トップ

モード (MODE)

ターゲット・システムと通信するためにリモート・ロケーション名で使用されるモード名を指定します。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定された**省略時モード (DFTMODE)**が使用されます。

通信名 使用されるモードの名前を指定してください。リモート・ロケーションとローカル・ロケーションの組み合わせにモード名が正しくない場合には、DDMデータ域がアクセスされる時にエスケープ・メッセージが送られます。

モード名の詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

トップ

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

ターゲット・システムと通信するために使用されるリモート・ロケーションがあるリモート・ネットワークID (ID)を指定します。

***LOC** リモート・ロケーションと関連付けられているリモート・ネットワークIDが使用されます。リモート・ロケーションに複数のリモート・ネットワークIDが関連付けられている場合には、どのリモート・ネットワークIDを使用するかをシステムが決定します。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定された**ローカル・ネットワークID (LCLNETID)**が使用されません。

***NONE**

リモート・ネットワークIDは使用されません。

通信名 リモート・ロケーションと関連したリモート・ネットワークIDを指定してください。リモート・ネットワークIDは、ユーザーがリモート・ロケーションに対して特定のリモート・ネットワークIDを指示する場合にだけ指定されます。リモート・ロケーションに対してリモート・ネットワークIDが正しくない場合には、DDMデータ域がアクセスされる時に、エスケープ・メッセージが送られます。

リモート・ネットワークIDの詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

オブジェクトに対する権限は、オブジェクトが作成されるライブラリーの作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値から取られます。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のどのオブジェクトにも影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限に使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

トップ

例

例1:ゼロの値を持つデータ域の作成

```
CRTDTAARA  DTAARA(TOTSALES) TYPE(*DEC) LEN(15 2)
           VALUE(0) TEXT('TOTAL SALES ACCUMULATOR')
```

このコマンドは、TOTSALESという名前のデータ域を作成し、それをスレッドに指定された現行ライブラリーに保管します。TOTSALESには次の属性があります。これは、小数部分が2桁で、初期値が0の15桁の数値データ域です。

例2:ブランクに初期設定されるデータ域の作成

```
CRTDTAARA  DTAARA(CUSTOMER) TYPE(*CHAR) LEN(148)
           TEXT('CUSTOMER NAME AREA')
```

このコマンドは、CUSTOMERという名前のデータ域を作成します。このデータ域には、148文字までの長さの文字ストリングを入れることができます。初期値は指定されないため、データ域は空白に初期設定されます。

例3:別のシステムのデータ域にアクセスするDDMデータ域の作成

```
CRTDTAARA DTAARA(SOURCE/SALES) TYPE(*DDM)
          RMTDTAARA(REMOTE/SALES) RMTLOCNAME(NEWYORK)
```

このコマンドは、SALESという名前のDDMデータ域を作成し、それをソース・システム上のSOURCEライブラリーに保管します。このDDMデータ域は、NEWYORKという名前のリモート・ロケーションを使用して、ニューヨークのシステムのREMOTEライブラリーに保管されているSALESという名前のリモート・データ域にアクセスします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1008

データ域&2は作成されなかった。

CPF1015

&2にデータ域&1が見つからない。

CPF1021

データ域&2のライブラリー&1が見つからない。

CPF1022

ライブラリー&1データ域&2に対する権限がない。

CPF1023

データ域&1が&2に存在している。

CPF1024

TYPEパラメーターとVALUEパラメーターが矛盾している。

CPF1025

LENパラメーターとVALUEパラメーターが矛盾している。

CPF1026

VALUEパラメーターは'0'または'1'でなければならない。

CPF1047

&2のデータ域&1の長さが正しくない。

CPF1062

文字値として、ヌル・ストリングは正しくない。

CPF1092

ライブラリー&1にデータ域&2を作成することができない。

CPF180B

機能&1は使用できない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

[トップ](#)

データ・ディクショナリー作成 (CRTDTADCT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ・ディクショナリー作成(CRTDTADCT)コマンドは、データ・ディクショナリーを作成します。ユーザーが対話式データ定義ユーティリティ(DDU)を使用してデータベース・ファイルを記述し、作成できるようになるためには、データ・ディクショナリーを作成しなければなりません。ユーザーはDDUまたはCRTDTADCTコマンドを使用して、データ・ディクショナリーを作成することができます。詳細は、IDDU USE (SC41-5704)にあります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTADCT	データ・ディクショナリー	名前	必須, 定位置 1
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

[トップ](#)

データ・ディクショナリー (DTADCT)

データ・ディクショナリーが作成される時に割り当てられる名前を指定します。ディクショナリー名は作成されたライブラリー名と同じでなければなりません。また、ライブラリーはすでに存在しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' アポストロフィで囲んで最大50文字までのテキストを指定します。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*LIBCRTAUT

作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド(CRTLIB)で**作成権限**プロンプト(CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限をシステムが決定します。**作成権限**プロンプト(CRTAUT)パラメーターに指定された値を変更した場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

トップ

例

例1: データ・ディクショナリーの作成およびUSE権限の認可

```
CRTDTADCT  DTADCT(DEPT547) AUT(*USE)
           TEXT('DEPT547 DICTIONARY')
```

このコマンドは、ライブラリーDEPT547にDEPT547という名前のデータ・ディクショナリーを作成します。他のユーザーに対するディクショナリーに指定された権限は*USEです。

例2:制限付きデータ・ディクショナリーの作成

```
CRTDTADCT DTADCT(DEPT245) AUT(MYLIST)  
          TEXT('RESTRICTED DICTIONARY')
```

このコマンドは、ライブラリーDEPT245にDEPT245という名前の制限付きデータ・ディクショナリーを作成します。ユーザーに対してディクショナリーに指定された権限は、MYLISTという名前の許可リストからのものです。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2DAB

権限リスト&1が見つからなかった。

CPF2D71

ディクショナリー名を&1とすることはできない。

CPF2F04

ディクショナリー&1はすでに存在している。

CPF2F07

ディクショナリー&1にエラーがある。

CPF2F11

ディクショナリー&1は作成されなかった。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

データ待ち行列作成 (CRTDTAQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ待ち行列作成(CRTDTAQ)コマンドでは、データ待ち行列を作成し、それを指定したライブラリーに記憶します。

OS/400システム・オブジェクトの1つのタイプであるデータ待ち行列は、ジョブの中でかまたはジョブの間で複数のプログラムによって使用されるデータを伝え、記憶するために使用されます。単一の待ち行列との間で複数のジョブがデータを送受信することができます。

出力待ち行列上のデータ待ち行列の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「印刷の基本」情報を参照してください。

データ待ち行列作成(CRTDTAQ)コマンドでは、TYPE(*DDM)が指定された場合に、任意選択で分散データ管理機能(DDM)データ待ち行列が作成されます。DDMデータ待ち行列は、DDMネットワーク内のリモート（ターゲット）システムにあるデータ待ち行列にアクセスするために、プログラムによって参照データ待ち行列として使用されます。ローカル（ソース）システムのプログラムは、リモート・データ待ち行列の名前ではなく、DDMデータ待ち行列の名前によってリモート・データ待ち行列を参照します。しかし、DDMデータ待ち行列名をリモート・データ待ち行列名と同じにすることができます。

ソース・システムのDDMデータ待ち行列には、リモート・データ待ち行列の名前と、そのリモート・データ待ち行列が置かれているリモート（ターゲット）システムの名前が入れられます。

制約事項:このコマンドのユーザーは、データ待ち行列が入っているライブラリーに対する追加(*ADD)権限を持っていることが必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTAQ	データ待ち行列名	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データ待ち行列名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TYPE	タイプ	*STD, *DDM	オプション
MAXLEN	最大項目長	1-64512	オプション, 定位置 2
FORCE	補助記憶域への強制書き込み	*NO, *YES	オプション
SEQ	順序	*FIFO, *LIFO, *KEYED	オプション
KEYLEN	キーの長さ	1-256	オプション
SENDERID	送信元IDの組み込み	*NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SIZE	待ち行列サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 最大項目数	整数, *MAX16MB, *MAX2GB	
	要素 2: 初期項目数	整数, 16	
AUTORCL	自動再利用	*NO, *YES	オプション
RMTDTAQ	リモート・データ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: リモート・データ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名, *RDB	オプション
RDB	リレーショナル・データベース	名前	オプション
DEV	APPC装置記述	名前, *LOC	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション	通信名, *LOC, *NETATR	オプション
MODE	モード	通信名, *NETATR	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク識別コード	通信名, *LOC, *NETATR, *NONE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

トップ

データ待ち行列名 (DTAQ)

作成するデータ待ち行列を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データ待ち行列名

名前 データ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

データ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

名前 データ待ち行列を見つけるライブラリーを指定してください。

トップ

タイプ (TYPE)

作成されるデータ待ち行列のタイプを指定します。標準データ待ち行列または分散データ管理機能(DDM)データ待ち行列を作成することができます。

***STD** 標準データ待ち行列が作成されます。この値の使用には、MAXLENパラメーターが必要です。

***DDM** DDMデータ待ち行列が作成されます。この値には、アクセスされるリモート・データ待ち行列の名

前(RMTDTAQパラメーター) とそのデータ待ち行列が入っているリモート (ターゲット) システムの名前(RMTLOCNAMEパラメーター) が必要です。

[トップ](#)

最大項目長 (MAXLEN)

データ待ち行列に送られる項目の最大長を指定します。

注:

1. データ待ち行列を出力待ち行列と関連付ける場合には、最大長値が少なくとも128 が必要です。
2. このパラメーターは、TYPE(*STD)が指定された場合にだけ有効です。

1から64512

最大項目長を指定します。有効なのは1から64512の範囲内の値です。

[トップ](#)

補助記憶域への強制書き込み (FORCE)

データ待ち行列は、このデータ待ち行列に関して項目が送受信された時に補助記憶装置に強制記憶されるかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、TYPE(*STD)が指定された場合にだけ有効です。

***NO** 送受信命令はすぐには補助記憶装置に強制記憶されません。

***YES** 送受信命令はただちに補助記憶装置に強制記憶されます。これにより、プログラムまたはシステムに障害が起こった場合でも、確実に変更は失われません。これには、追加のシステム・オーバーヘッドが必要です。

[トップ](#)

順序 (SEQ)

項目がデータ待ち行列から受け取られる順序を指定します。

注:

1. データ待ち行列を出力待ち行列と関連付ける場合には、順序値が*FIFOまたは*LIFOである必要があります。
2. このパラメーターは、TYPE(*STD)が指定された場合にだけ有効です。

***FIFO** データ待ち行列項目は先入れ先出し順序で受け取られます。

***LIFO** データ待ち行列項目は後入れ先出し順序で受け取られます。

*KEYED

データ待ち行列項目はキーによって受け取られます。キーは、その送信元によって項目に追加された接頭部です。

[トップ](#)

キーの長さ (KEYLEN)

キーの文字数を指定します。

注: このパラメーターは、**SEQ(*KEYED)**および**TYPE(*STD)**が指定された場合にだけ有効です。

1から256

キーの長さを指定します。有効な値の範囲は1から256です。

[トップ](#)

送信元IDの組み込み (SENDERID)

データ待ち行列に送られる各メッセージに付けられる送信元IDを指定します。このIDには、ジョブ名および送信元の現在のユーザー・プロファイルが入っています。

注: このパラメーターは、**TYPE(*STD)**が指定された場合にだけ有効です。

***NO** 送信済みメッセージには送信元IDが組み込まれません。

***YES** 送信済みメッセージには送信元IDが組み込まれます。

[トップ](#)

待ち行列サイズ (SIZE)

データ待ち行列用に割り振られる記憶域の容量を指定します。パラメーター要素は、データ待ち行列の最大項目数および初期項目数から構成されます。

注: このパラメーターは、**TYPE(*STD)**が指定された場合にだけ有効です。

要素1: 最大項目数

データ待ち行列に追加できる最大項目数を指定するために、次のいずれかが使用されます。

***MAX16MB**

システムは待ち行列に追加できる最大項目数を計算し、約16メガバイト(MB)の最大サイズまで拡張することができます。1 MBは1,048,576バイトと等しくなります。この値は初期項目数16を持ち、バージョン4リリース5モディフィケーション0 (V4R5M0)より前のオペレーティング・システムのリリースとの互換性を提供します。

***MAX2GB**

システムは、データ待ち行列に追加できる最大項目数を計算します。データ待ち行列は約2ギガバイト(GB)の最大サイズまで拡張することができます。1 GBは1,073,741,824バイトと等しくなります。

項目数 データ待ち行列には、少なくともこの項目数を保持することができます。マシンによって使用される拡張サイズを基にして、データ待ち行列の最大項目数は指定された値よりわずかに大きい場合があります。指定する値は0より大きくしなければなりません。

要素2: 初期項目数

データ待ち行列に最初に割り振られる記憶域の容量を指定します。待ち行列は、最大項目長の初期項目数を保持するように作成されます。

16 最初に、記憶域は16項目の最大項目長が保持されるように割り振られます。

初期項目数

データ待ち行列に保持できる初期項目数の値を指定してください。この値は0より大きくしなければなりません。

トップ

自動再利用 (AUTORCL)

データ待ち行列が空になっている時に、データ待ち行列用に割り振られた記憶域が自動的に再利用（解放）されるかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、TYPE(*STD)が指定された場合にだけ有効です。

***NO** データ待ち行列が空になっている時に、データ待ち行列用に割り振られた記憶域は解放されません。

***YES** データ待ち行列が空になっている時に、データ待ち行列用に割り振られた記憶域が解放されます。初期項目数のための記憶域が割り振られたままになります。

トップ

リモート・データ待ち行列 (RMTDTAQ)

ターゲット・システム上のリモート・データ待ち行列を指定します。このデータ待ち行列は、DDMデータ待ち行列の作成時に存在している必要はありません。

修飾子1: リモート・データ待ち行列

名前 アクセスされるリモート・データ待ち行列を識別するデータ待ち行列の名前を指定してください。名前が10文字を超えることはできません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

- ***LIBL** (省略時のライブラリー修飾子) とみなされるかまたはそれが指定された場合には、データ待ち行列を見つけるために、ターゲット・システム上の呼び出されたジョブのライブラリー・リストが検索されます。
- ***CURLIB**が指定された場合には、データ待ち行列を見つけるために、ターゲット・システム上の呼び出されたジョブの現行ライブラリーが検索されます。

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

このオブジェクトで使用されるリモート・ロケーションの名前を指定します。

注: 複数のDDMデータ待ち行列で、ターゲット・システムに対して同じリモート・ロケーションを使用することができます。使用されるリモート・ロケーションは、リモート・データ待ち行列をサポートするOS/400のリリースにあるISERIESシステムを指し示していなければなりません。

***RDB** リモート・システムを判別するために、**リレーショナル・データベース (RDB)**パラメーターに指定されたリレーショナル・データベース項目からのリモート・ロケーション情報が使用されます。

名前 ターゲット・システムと関連付けられるリモート・ロケーションの名前を指定してください。DDMデータ待ち行列が作成される場合には、ターゲット・システムのアクセスに使用されるリモート・ロケーションが存在している必要はありませんが、DDMデータ待ち行列がアクセスされる場合には、それが存在していなければなりません。

リモート・ロケーションの詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)を参照してください。

トップ

リレーショナル・データベース (RDB)

DDMデータ待ち行列のリモート・ロケーション情報の判別に使用されるリレーショナル・データベース項目を指定します。

通信名 ターゲット・システムまたはターゲットASPグループを識別するリレーショナル・データベース項目の名前を指定してください。リレーショナル・データベース名は、リモート・システム上で構成されて使用できるリモート・システムまたはASPグループを参照できます。リレーショナル・データベース項目は、DDMデータ待ち行列の作成時に存在している必要はありませんが、DDMデータ待ち行列の使用時には存在している必要があります。**リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)**パラメーターに***RDB**が指定されている場合には、このパラメーターは必須です。

トップ

APPC装置記述 (DEV)

このDDMデータ待ち行列で使用されるソース・システム上のAPPC装置記述の名前を指定します。DDMデータ待ち行列が作成される場合には、この装置記述が存在している必要はありません。

***LOC** リモート・ロケーションと関連した装置が使用されます。複数の装置がリモート・ロケーションと関連付けられている場合には、どの装置を使用するかをシステムが決定します。

名前 リモート・ロケーションと関連した通信装置の名前を指定してください。その装置名がリモート・ロケーションに対して有効でない場合には、プログラム装置項目が必要とされた時にメッセージが送られます。装置名の詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

トップ

ローカル・ロケーション (LCLLOCNAME)

ローカル・ロケーション名を指定します。

***LOC** リモート・ロケーションと関連した装置が使用されます。複数の装置がリモート・ロケーションと関連付けられている場合には、どの装置を使用するかをシステムが決定します。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLLOCNAME値が使用されます。

名前 リモート・ロケーションと関連付けられるローカル・ロケーションの名前を指定してください。ローカル・ロケーション名は、ユーザーがリモート・ロケーションに対して特定のローカル・ロケーションを指示する場合にだけ指定されます。ローカル・ロケーション名がリモート・ロケーションに対して有効でない場合には、DDMデータ待ち行列がアクセスされた時にエスケープ・メッセージが送られます。

ローカル・ロケーション名の詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

トップ

モード (MODE)

ターゲット・システムと通信するためにリモート・ロケーション名で 사용되는モード名を指定します。

***NETATR**

ネットワーク属性で指定されたモード名が使用されます。

名前 リモート・システムと通信をするために使用されるモードの名前を指定してください。モード名がリモート・ロケーションとローカル・ロケーションのどの組み合わせに対しても有効でない場合には、DDMデータ待ち行列がアクセスされた時にエスケープ・メッセージが送られます。

モード名の詳細はAS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

トップ

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

リモート・ロケーションが置かれており、ターゲット・システムとの通信に使用されるリモート・ネットワークID (ID)を指定します。

***LOC** リモート・ロケーションと関連したリモート・ネットワークIDが使用されます。複数のリモート・ネットワークIDがリモート・ロケーションと関連付けられている場合には、どのリモート・ネットワークIDを使用するかをシステムが決定します。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたRMTNETID値が使用されます。

***NONE**

リモート・ネットワークIDは使用されません。

リモート・ネットワークID

リモート・ロケーションと関連付けられるリモート・ネットワークIDを指定してください。リモート・ネットワークIDは、ユーザーがリモート・ロケーションに対して特定のリモート・ネットワークIDを指示する場合にだけ指定されます。リモート・ネットワークIDがリモート・ロケーションに対して有効でない場合には、DDMデータ待ち行列がアクセスされた時にエスケープ・メッセージが送られます。

リモート・ネットワークIDの詳細は、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)にあります。

テキスト'記述' (TEXT)

データ待ち行列を簡単に説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字以下をアポストロフィで囲んで指定します。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUT パラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE 権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

例1:標準データ待ち行列の作成

```
CRTDTAQ  DTAQ(DEPTADTA) MAXLEN(100) AUT(*EXCLUDE)
          TEXT('SPECIAL DATA + FILES FOR DEPTA')
```

このコマンドは、DEPTADTAという名前のデータ待ち行列を作成し、それを現行ライブラリーに書き込みます。最大長項目は100です。AUT(*EXCLUDE)が指定されているので、このデータ待ち行列は、待ち行列を作成したユーザーおよび特殊権限の与えられたユーザーだけが使用し、制御することができます。部門Aのユーザーには、オブジェクト権限認可(GTROBJAUT)コマンドを使用して、このデータ待ち行列を使用する権限を与えることができます。

例2:別のISERIES 400のデータ待ち行列にアクセスするためのDDMデータ待ち行列の作成

```
CRTDTAQ  DTAQ(SOURCE/SALES) TYPE(*DDM)
          RMTDTAQ(REMOTE/SALES) RMTLOCNAME(NEWYORK)
```

このコマンドは、SALESという名前のDDMデータ待ち行列を作成し、それをソース・システムのSOURCEライブラリーに保管します。このDDMデータ待ち行列は、NEWYORKという名前のリモート・ロケーションを使用して、ニューヨークのISERIES 400のREMOTEライブラリーに保管されているSALESという名前のリモート・データ待ち行列にアクセスします。

例3:サイズ属性および自動再利用を指定したデータ待ち行列の作成

```
CRTDTAQ  DTAQ(MYLIB/MYDTAQ) MAXLEN(80)
          SIZE(*MAX2GB 100) AUTORCL(*YES)
```

このコマンドは、MYDTAQという名前のデータ待ち行列を作成し、それをMYLIBライブラリーに保管します。最大項目長は80バイトであり、待ち行列項目は先入れ先出し(FIFO)順で受け取られます。このデータ待ち行列には、最初は100項目を保留するための記憶域が割り振られます。データ待ち行列は約2ギガバイトの最大サイズまで拡張することができます。すべての待ち行列項目が受け取られた場合には、このデータ待ち行列用の記憶域が自動的に再利用されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2108

オブジェクト&1タイプ*&3はライブラリー&2に追加されませんでした。

CPF2109

OBJパラメーターが*ALLまたは総称名の場合は、NEWOBJの値は*SAMEでなければならない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2116

DATA (*YES)が指定されたが、*ALLまたは*FILEがOBJTYPEリストにない。

CPF2122

ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。

CPF2123

指定した名前またはタイプのオブジェクトはライブラリー&2に存在していない。

CPF2130

&1個のオブジェクトが複製された。&2個のオブジェクトが複製されていません。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2152

タイプ*&1のオブジェクトをQTEMPの中に作成することはできない。

CPF2162

ライブラリー&1のすべてのオブジェクトを複製することはできない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2185

TOLIB, TOASPDEV,またはNEWOBJパラメーターが正しくない。

CPF2186

オブジェクト&1をライブラリー&2に作成することができない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF327E

ファイル&1の代替名は使用できない。

CPF6565

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9827

オブジェクト&1を作成したり&2に移動することはできない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9870

タイプ*&5のオブジェクト&2はライブラリー&3にすでに存在している。

[トップ](#)

複製オブジェクト作成 (CRTDUPOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト複製(CRTDUPOBJ)コマンドは、単一または1グループのオブジェクトをコピーします。ファイルをそっくりそのまま複製するわけではありません。新しく作成されたオブジェクトが元のオブジェクトと同じライブラリーに保管される場合には、その名前を変更しなければなりません。元のオブジェクトが入っているライブラリー以外のライブラリーに保管される場合には、元のオブジェクトの名前を保存することができます。総称オブジェクト名および新しく作成されたオブジェクトが保管されるライブラリーを指定すれば、関連オブジェクトのグループをコピーすることができます。また、物理ファイル内のデータまたは保管ファイル内のデータがコピーされるかどうかを指定することもできます。

注: ライブラリー作成(CRTLIB)コマンドの作成権限(CRTAUT)パラメーターでコピー先ライブラリーについて指定された値は、重複オブジェクトには使用されません。重複オブジェクトの共通および専用権限は、元のオブジェクトと同じになります。重複オブジェクトの所有者は、コマンドを出すユーザーのユーザー・プロファイルであるか、コマンドを出すユーザーのユーザー・プロファイルが所有者としてグループを指定しているメンバー・ユーザー・プロファイルである場合には、グループ・プロファイルです。

CRTDUPOBJコマンドを使用してファイルを複写する時には、**オブジェクト(OBJ)**パラメーターに指定された既存のファイルの形式は、**新しいオブジェクト(NEWOBJ)**パラメーターに指定された新しく作成されるファイルと共用されます。同じ形式を共用するファイル・オブジェクトの最大数（およそ32K）に達した場合には、FROMファイルの形式を共用する代わりに、新規作成ファイルによって新しい形式が作成されます。

注: 同じ形式を共用するすべてのファイルは関連していると見なされ、保管操作が実行された時には、同じ保管リストにまとめてグループ化されます。

論理ファイルが別のライブラリーにコピーされる時には、そのファイルの基礎を決めるのに次の2つの場合があります。

1. 論理ファイルとその基礎になっている物理ファイルの両方がもともと同じライブラリーに入っている場合には、論理ファイルの複製が作成される前に、物理ファイルの複製が新しいライブラリーに作成されていなければなりません。この2つの複製が作成された後、新しい物理ファイルが新しい論理ファイルの基礎になります。
2. 論理ファイルとその基礎になっている物理ファイルがもともと別のライブラリーに入っている場合には、論理ファイルを複製する前に物理ファイルを複製する必要はありません。この場合には、元の論理ファイルの基礎になっていた同じ物理ファイルが複製論理ファイルの基礎になります。第1の場合と異なり、論理ファイルが複写される前に物理ファイルが新しいライブラリーに複写された場合でも、複製物理ファイルではなく元の物理ファイルが複製論理ファイルの基礎になります。

CRTDUPOBJコマンドによってデータベース物理ファイルを作成する時には、**重複制約 (CST)**パラメーターを使用して、既存のファイルと関連した制約を新規作成のファイルと関連付けるかどうかを指定することができます。同様に、**重複トリガー (TRG)**パラメーターを使用して、既存のファイルと関連したトリガーを新規作成のファイルと関連付けるかどうかを指定できます。トリガーの複写に関しては、特別な考慮事項があることに注意してください。たとえば、複写では、既存のファイルと関連したトリガー・プログラムが既存のファイルと同じライブラリー中に入ったかどうかによって異なります。

注: 詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「データベース」情報を参照してください。

複写するオブジェクトのオブジェクト・タイプがジャーナル処理できるオブジェクト・タイプである場合は、複写先ライブラリー中のQDFTJRNという名前のデータ域の存在および内容により、ジャーナル処理を新規作成のオブジェクトで開始するかどうかを決定します。

注: ジャーナル処理に関する詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。

制約事項:

1. 既存のオブジェクトに対する使用(*USE)およびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限が必要です。
2. 新しいオブジェクトのライブラリーに対する使用(*USE)および追加(*ADD)権限が必要です。
3. オブジェクトが権限リストである場合には、権限リスト管理(*AUTLMGT)権限が必要です。
4. 重複した保管ファイルを作成するためには、保管ファイル作成(CRTSAVF)コマンドに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)権限が必要です。データの複写(DATA)パラメーターに*YESが指定されていると、保管ファイルの内容が複製されます。
5. オブジェクトが複製される場合には、その複製は作成先ライブラリーと同じ補助記憶域プール(ASP)に作成されます。
6. CRTDUPOBJコマンドを使用してファイルのコピーを作成する時に、データの複写(DATA)パラメーターに*YESを指定した場合には、アクセスを不可能にするために、データ・コピー中には新しい重複ファイル・オブジェクトが占有されます (タイムアウトなしの*EXCLロックと類似したもの)。データ・コピーが進行中に新しい重複ファイル・オブジェクトを参照する機能を使用しようとする、そのデータ・コピーが完了するまで、そのワークステーションをロックする結果となります。データ・コピーが完了するまで、新しい重複ファイル・オブジェクトで使用してはいけない機能の例は次の通りです。
 - WRKACTJOB (オプション11-ロック; オプション8-WRKOBJLCK)
 - DSPDBR
 - DSPFD
 - DSPFFD
 - DSPJOB (オプション12-ロック; F10-ジョブ・レコード・ロック; オプション14-ファイルのオープン)
 - DSPLIB (新しい重複ファイルが入っているライブラリー)
 - DSPOBJD
 - WRKOBJLCK
 - DSPRCDLCK
 - 新しい重複ファイルを参照するその他のすべての機能
7. データベース・ファイルまたは保管ファイルを複製する時に、複製元ライブラリーの記憶域が1次または2次補助記憶域プール(ASP)から割り振られる場合には、複製先ライブラリーの記憶域は、複製元ライブラリーの記憶域と同じASPグループ内のASPから割り振られるか、またはシステムASP (ASP 1)あるいは基本ユーザーASP (ASP 2から32)から割り振られなければなりません。データベース・ファイルまたは保管ファイルのあるASPグループから別のASPグループに重複することは、サポートされていません。
8. *GSS, *FNTRSC, *FORMDF, *OVL, *CSI, *PAGDFN,または*PAGSEGのタイプの重複オブジェクトの作成時には、新しいオブジェクトの名前の長さは8桁を超えてはいけません。

9. ユーザー空間(*USRSPC)およびユーザー見出し(*USRIDX)のユーザー定義域オブジェクトをコピーできるのは、システム値QALWUSRDMN（ライブラリーでユーザー定義域オブジェクトが使用できる）で使用できるライブラリーに対してだけです。しかし、ユーザー・オブジェクトがシステム・ドメイン・オブジェクトとして作成された場合には、制約はありません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1
FROMLIB	FROMライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 2
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 57 回の繰り返し): *ALRTBL, *AUTL, *BNDDIR, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *DTAARA, *FCT, *FILE, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *JOBQ, *JOBQ, *LOCALE, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDL0D, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *SBSD, *SCHIDX, *SRVPGM, *SSND, *TBL, *USRIDX, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 3
TOLIB	TOライブラリー	名前, *FROMLIB, *SAME, *CURLIB	オプション, 定位置 4
NEWOBJ	新しいオブジェクト	名前, *OBJ, *SAME	オプション, 定位置 5
ASPDEV	複写元ASP装置	名前, *, *CURASPGRP, *SYSBAS	オプション
TOASPDEV	宛先ASP装置	名前, *ASPDEV, *, *CURASPGRP, *SYSBAS	オプション
DATA	データの複写	*NO, *YES	オプション
CST	重複制約	*YES, *NO	オプション
TRG	重複トリガー	*YES, *NO	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

複製される1つまたは複数のオブジェクトを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** 指定されたライブラリー中で、権限があり、**オブジェクト・タイプ(OBJTYPE)**パラメーターに指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトが複製されます。

総称名 指定されたライブラリー内で複製されるオブジェクトのグループを指定してください。総称オブジェクト名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*) が続いた文字ストリングとして指定します。たとえば、ABC*です。総称名は、総称オブジェクト名と同じ接頭部で始まり、適切な権限のあるすべてのオブジェクトを指定します。

名前 複製の対象となる特定のオブジェクトの名前を指定してください。

トップ

FROMライブラリー (FROMLIB)

複製されるオブジェクトが入っているライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

注: *LIBLは、特定オブジェクトおよび単一の特定オブジェクト・タイプに指定することができます。

*CURLIB

複製されるオブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 複製されるオブジェクトを見つけるために検索されるライブラリーの名前を指定してください。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

複製されるオブジェクトのタイプを指定します。このパラメーターは、単一値として指定することも、1つまたは複数のオブジェクト・タイプのリストとして指定することもできます。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4（プロンプト）を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** 指定されたライブラリー内において指定された名前をもつオブジェクト・タイプのうち、権限のあるものがすべて複製されます。オブジェクト(OBJ)パラメーターに*ALLも指定された場合には、指定されたライブラリー内にあるもののうち、権限があり、しかも複製可能なタイプであるすべてのオブジェクトが複製されます。

その他の値

オブジェクト・タイプ

複製されるオブジェクトのタイプに対する1つまたは複数の値を指定してください。

トップ

TOライブラリー (TOLIB)

重複オブジェクトが作成されるライブラリーを指定します。

注: ライブラリーが補助記憶域プール(ASP)内にある場合には、複製するオブジェクトは、ASP内に存在できる有効なオブジェクト・タイプでなければなりません。このオブジェクト・タイプがASPに存在できる有効なタイプでない場合には、エラー・メッセージが送られます。

*FROMLIB

新しいオブジェクトを含むライブラリーは、元のライブラリーを含むライブラリーと同じ名前を持つこととなります。これは必ずしも元のオブジェクトを含むライブラリーと同じライブラリーとは限らないので、注意してください。複製元ASP装置(ASPDEV)パラメーターと宛先ASP装置(TOASPDEV)パラメーターが同じ補助記憶域プール(ASP)装置を記述している場合には、これは同じライブラリーです。同じライブラリーである場合には、新しいオブジェクト(NEWOBJ)パラメーターを使用して、元のオブジェクトの名前と異なる名前を新しいオブジェクトに割り当てなければなりません。ASPDEVパラメーターとTOASPDEVパラメーターが異なるASP装置を記述している場合には、異なるASP装置上にある異なるライブラリー（ライブラリー名は同じ）です。

*SAME

上記の*FROMLIBを参照してください。*SAMEと*FROMLIBは同じ意味を持っています。

*CURLIB

新しいオブジェクトはスレッドの現行ライブラリーに入れられます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。このパラメーターに*CURLIBを指定した場合には、宛先ASP装置(TOASPDEV)パラメーターが*でなければならぬか、TOASPDEVパラメーターが*ASPDEVで、複製元ASP装置(ASPDEV)パラメーターが*でなければなりません。

名前 新しいオブジェクトを入れるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

新しいオブジェクト (NEWOBJ)

新しいオブジェクトの名前を指定します。TOライブラリー(TOLIB)パラメーターに*SAMEまたは*FROMLIBを指定し、複製元ASP装置(ASPDEV)パラメーターと宛先ASP装置(TOASPDEV)パラメーターの両方に同じ補助記憶域プール装置を指定した場合には、名前をここに指定しなければなりません。複製されるデータベース・ファイル中のメンバーの名前は、新しいファイルでも同じままです。

*OBJ 新しいオブジェクトは、元のオブジェクトと同じ名前をもちます。これを指定する場合には、新しいオブジェクトと元のオブジェクトが異なるライブラリーになければなりません。

*SAME

上記の*OBJを参照してください。*SAMEと*OBJは同じ意味を持っています。

名前 新しいオブジェクトの名前を指定してください。

[トップ](#)

複写元ASP装置 (ASPDEV)

複製されるオブジェクトが入っているライブラリー（ **FROM**ライブラリー(**FROMLIB**)パラメーター）に対して記憶域が割り振られる補助記憶域プール(ASP)装置の名前を指定します。このライブラリーがスレッドのライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、必ず正しいオブジェクトが複製されるようにするために、このパラメーターを指定しなければなりません。FROMLIBパラメーターに*LIBLまたは*CURLIBを指定した時にこのパラメーターを使用する場合には、*が唯一の有効な値です。

* 現在、スレッドのライブラリー名スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。

*CURASGRP

スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ中の1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドにASPグループがあっても、1次または2次ASPは検索されません。

名前 ライブラリーを見つけるために検索される1次または2次ASP装置の名前を指定してください。この1次または2次ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに変更することによって)、「使用可能」の状況になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)と定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。

注: 特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、ASPグループ中の各ASP装置に対する使用(*USE)権限が必要です。

[トップ](#)

宛先ASP装置 (TOASPDEV)

新しいオブジェクトが入るライブラリー（ **TO**ライブラリー(**TOLIB**)パラメーター）に対して記憶域が割り振られる補助記憶域プール(ASP)装置の名前を指定します。このライブラリーがスレッドのライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、必ずそのオブジェクトが正しいライブラリーに複製されるようにするために、このパラメーターを指定しなければなりません。TOLIBパラメーターに*CURLIBを指定した時に、このパラメーターを使用する場合には、TOASPDEV(*)を指定しなければならないか、TOASPDEV(*ASPDEV)を指定して、**複写元ASP装置(ASPDEV)**パラメーターを*にしなければなりません。

*ASPDEV

ASPDEVパラメーターに指定されたASP装置がライブラリーを見つけるために検索されます。

* 現在、スレッドのライブラリー・ネーム・スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32),およびスレッドのASPグループ内の1次および2次ASP（スレッドがASPグループを持っている場合）が含まれます。

*CURASGRP

スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ中の1次および2次ASPがライブ

ラリイを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が、ライブラリイを見つけるために検索されます。スレッドにASPグループがあっても、1次または2次ASPは検索されません。

名前 ライブラリイを見つけるために検索される1次または2次ASP装置の名前。この1次または2次ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに変更することによって)、「使用可能」の状況になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)と定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。

注: 特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、ASPグループ中の各ASP装置に対する使用(*USE)権限が必要です。

トップ

データの複写 (DATA)

データベース物理ファイルまたは保管ファイル内のデータ・レコードを、新しいオブジェクトにコピーするかどうかを指定します。中に入っているデータがコピーされるかどうかにかかわらず、データベース物理ファイルのメンバーがコピーされます。

***NO** データベース物理ファイルまたは保管ファイルのメンバー内のデータ・レコードは、新しいオブジェクトにコピーされません。

***YES** データベース物理ファイルまたは保管ファイルのメンバー内のデータ・レコードが新しいオブジェクトにコピーされます。

注:

1. 別のジョブが更新のために使用中であるファイルは複製できません。
2. 新しいファイルの相対レコード番号は元のファイルと同じです。

トップ

重複制約 (CST)

既存のデータベース物理ファイルと関連した制約を、新規作成のファイルにコピーするかどうかを指定します。データベース物理ファイルではないオブジェクトでは、指定された値は使用されません。

***YES** 既存のデータベース物理ファイルと関連した制約が新規作成のファイルにコピーされます。

***NO** 既存のデータベース物理ファイルと関連した制約が新規作成のファイルにコピーされません。

トップ

重複トリガー (TRG)

既存のデータベース物理ファイルと関連したトリガーを、新規作成のファイルにコピーするかどうかを指定します。データベース物理ファイルではないオブジェクトでは、指定された値は使用されません。

注: トリガーの複写に関して注意する必要がある特別な考慮事項があります。たとえば、複写では、既存のファイルと関連したトリガー・プログラムが既存のファイルと同じライブラリー中にあったかどうかによって異なります。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「データベース」情報を参照してください。

***YES** 既存のデータベース物理ファイルと関連したトリガーが新規作成のファイルにコピーされます。

***NO** 既存のデータベース物理ファイルと関連したトリガーが新規作成のファイルにコピーされません。

トップ

例

例1: データ・レコード、制約、およびトリガーを含むファイルの複写

```
CRTDUPOBJ OBJ(FILEA) FROMLIB(LIB1) OBJTYPE(*FILE)
          TOLIB(LIB2) DATA(*YES)
```

ライブラリーLIB1中のFILEAという名前のファイルは複製されて、ライブラリーLIB2に入れられます。FILEAで認可されていた権限がLIB2中の新しいFILEAに対して認可されます。ライブラリーLIB1中のFILEAと関連したデータ・レコード、制約、およびトリガーがLIB2中のFILEAにコピーされます。

例2: データ・レコード、制約、およびトリガーを含まないファイルの複写

```
CRTDUPOBJ OBJ(FILEB) FROMLIB(LIB3) OBJTYPE(*FILE)
          NEWOBJ(FILEDUP) DATA(*NO) CST(*NO) TRG(*NO)
```

ライブラリーLIB3中のFILEBの名前のファイルがライブラリーLIB3中にFILEDUPとして複写されます。FILEBで認可されていた権限がLIB3中の新しいFILEDUPに対して認可されます。ライブラリーLIB3中のFILEBと関連したデータ・レコード、制約、およびトリガーはLIB3中のFILEDUPにコピーされません。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

CPF2105

&2に、タイプ*&3のオブジェクト&1が見つからない。

CPF2109

OBJパラメーターが*ALLまたは総称名の場合は、NEWOBJの値は*SAMEでなければならない。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2116

DATA (*YES)が指定されたが、*ALLまたは*FILEがOBJTYPEリストにない。

- CPF2122**
ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。
- CPF2123**
指定した名前またはタイプのオブジェクトはライブラリー&2に存在していない。
- CPF2130**
&1個のオブジェクトが複製された。&2個のオブジェクトが複製されていません。
- CPF2151**
&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。
- CPF2152**
タイプ*&1のオブジェクトをQTEMPの中に作成することはできない。
- CPF2155**
FROMLIBには*LIBLを指定することはできない。
- CPF216C**
TOLIB(*CURLIB)にはTOASPDEV値は無効である。
- CPF216D**
TOLIB, NEWOBJ,またはTOASPDEVパラメーターが正しくない。
- CPF2160**
オブジェクト・タイプ*&1は、要求された機能に適切でない。
- CPF2162**
ライブラリー&1のすべてのオブジェクトを複製することはできない。
- CPF2173**
ライブラリーの特殊値にはASPDEVの値は無効である。
- CPF2176**
ライブラリー&1に損傷がある。
- CPF218C**
&1は1次または2次ASPではない。
- CPF2182**
ライブラリー&1の使用は認可されていない。
- CPF2185**
TOLIB, TOASPDEV,またはNEWOBJパラメーターが正しくない。
- CPF2186**
オブジェクト&1をライブラリー&2に作成することができない。
- CPF9806**
ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。
- CPF9814**
装置&1が見つかりません。
- CPF9825**
装置&1は認可されていない。
- CPF9827**
オブジェクト&1を作成したり&2に移動することはできない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

[トップ](#)

編集記述作成 (CRTEDTD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

編集記述作成(CRTEDTD)コマンドは、指定された編集記述の編集マスクを定義し、それをQSYSライブラリーに入れます。ユーザーは、5つまでの編集記述を定義することができます。これらの各編集記述のバージョンは、QSYSライブラリーに提供されています。弊社提供のバージョンの詳細は、APPLICATION DISPLAY PROGRAMMING (SC41-5715)にあります。新しいバージョンを作成するためには、最初に編集記述削除(DLTEDTD)コマンドで弊社提供のバージョンを削除しなければなりません。

編集記述は、数値フィールドを編集するために、データ記述仕様および高水準言語プログラムで使用することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EDTD	編集記述	5, 6, 7, 8, 9	必須, 定位置 1
INTMASK	整数マスク	文字値, *NONE	オプション
DECPNT	小数点文字	文字値, '.', *NONE	オプション
FRACMASK	小数マスク	文字値, *NONE	オプション
FILLCHAR	充てん文字	文字値, *BLANK	オプション
CURSYM	通貨記号	文字値, *NONE	オプション
ZEROBAL	ゼロ値の編集	*YES, *NO	オプション
NEGSTS	否定状況文字	文字値, *NONE	オプション
POSSTS	肯定状況文字	文字値, *NONE	オプション
LFTCNS	左の定数文字	文字値, *NONE	オプション
RGTCNS	右の定数文字	文字値, *NONE	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

[トップ](#)

編集記述 (EDTD)

作成されるユーザー定義の編集記述を識別するための1桁の数字のコード(5, 6, 7, 8, または9)を指定します。作成されたオブジェクト(QSYSライブラリーに記憶される) の実際の名前は、**QEDITN**であり、**N**はこのパラメーターで指定される1桁の数字の編集コードです。

これは必須パラメーターです。

整数マスク (INTMASK)

10進数フィールドの整数部分の編集を記述する文字ストリング（マスク）を指定します。ブランク、ゼロ、アンパーサンド(&)以外の文字は、編集処理では定数として取り扱われます。ブランク、ゼロ、アンパーサンドの意味は、次のとおりです。

- ブランク： 各ブランクは、充填文字またはゼロ消去が終わっている場合には編集される値の数字で置き換えられます。
- ゼロ(0)： 最も左のゼロは、数字置き換え文字であり、ゼロ消去を終了させるためにも用いられます。整数マスク中のその他のすべてのゼロは、定数として扱われます。
- アンパーサンド(&)：ブランクに置き換えられます。

注： CRTEDTDコマンドにはINTMASK(*NONE)とFRACMASK(*NONE)の両方を指定することはできません。その代わりに、INTMASKとFRACMASKにブランクを指定し、印刷装置ファイル作成(CRTPRTF)コマンドまたは表示装置ファイル作成(CRTDSPF)コマンドにGENLVL(30)を指定してください。これにより、ファイルを作成することができますが、編集コード・キーワードは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

編集マスクは10進数フィールドの整数部分で使用されません。

'整数マスク'

10進フィールドの整数部分の編集マスクとして使用する文字ストリングを指定します。整数マスクには、アポストロフィで囲まれた最大31文字を使用することができます。

小数点文字 (DECPNT)

10進フィールドの場合に、編集結果の整数(INTMASK)部分と小数(FRACMASK)部分を区切る小数点として使用する単一文字を指定します。フィールドに小数点以下の桁数がない場合には、この文字は使用されず、編集結果の長さにおいては考慮されません。

注： DECPNTに指定された区切り文字がINTMASKパラメーターでも使用されている場合には、それは整数マスクでは特殊な意味をもちません。これは、定数としてのみ扱われるか、整数マスクの数字置き換え文字として扱われます。

考えられる値は次の通りです。

',' (ピリオド)

ピリオド（または小数点）は区切り文字です。指定する場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。

*NONE

区切り文字は指定されません。編集結果に小数点が必要な場合です。

'区切り文字'

小数点として使用するコンマ(,)などの区切り文字を指定します。英数字または特殊文字を使用することができますが、特殊文字の場合はアポストロフィで囲まなければなりません。

小数マスク (FRACMASK)

10進フィールドの小数部分（小数点の右側の部分）の編集を記述する文字ストリング（マスク）を指定します。文字の意味は、**整数マスクプロンプト**（INTMASKパラメーター）で説明した通りです。例外として、ゼロはすべて定数として処理され、空白は、充填文字で置き換えられません。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

編集マスクは、10進フィールドの小数部分では使用しません。

'小数マスク'

10進フィールドの小数部分の編集マスクとして使用する文字ストリングを指定します。小数マスクには、アポストロフィで囲まれた最大31文字を使用することができます。

トップ

充てん文字 (FILLCHAR)

ゼロ消去の結果の各桁に使用する文字を指定します。指定した文字で、整数マスクの最初の有効桁の左にあるすべての先行ゼロ（または置き換えゼロ）が置き換えられます。

考えられる値は次の通りです。

***BLANK**

充てん文字は空白です。

'充填文字'

充填文字として使用される文字を指定してください。英数字または特殊文字を使用することができますが、特殊文字の場合はアポストロフィで囲まなければなりません。

トップ

通貨記号 (CURSYM)

浮動通貨記号として使用する文字ストリングを指定します。指定した文字ストリングは、最初の有効桁（または定数）のすぐ左に現われます。最初の有効桁がゼロ（ゼロ消去の終了桁に現われる）の場合には、文字ストリングは、該当のゼロが位置する桁で終わります。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

浮動通貨記号は指定しません。編集結果には不要です。

'浮動通貨記号'

金額フィールドの浮動通貨記号として使用される文字ストリングを指定してください。最大15桁の英数字および特殊文字をアポストロフィで囲んで指定することができます。

トップ

ゼロ値の編集 (ZEROBAL)

ゼロの値に対する編集処置を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***YES** 通常の編集規則に従います。編集規則の詳細については、AS/400 CL (制御言語) 解説書 (SC88-5339)の編集記述作成(CRTEDTD)コマンドの説明を参照してください。

***NO** 編集されるフィールドにゼロの値がある場合には、フィールドの全体 (整数部, 小数点, 小数部) が、編集マスク中の定数を含めて充填文字で置き換えられます。

トップ

否定状況文字 (NEGSTS)

フィールドが負の値の場合に、編集結果の直後に続く文字ストリングを指定します。フィールドが正の場合には、ストリングの長さに合わせて空白が用いられます。これは、肯定状況文字プロンプト(POSSTSパラメーター) に値が指定されていない場合に限り行われます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

文字ストリングは指定されません。編集結果のフィールドの右側に空白が使用されます。

'負の状況文字ストリング'

フィールドの値が負の場合に、編集済みフィールドの直後に続く文字ストリングを指定します。負の状況の文字ストリングとして、アポストロフィで囲まれた最大31文字を指定することができます。

トップ

肯定状況文字 (POSSTS)

フィールドが正またはゼロの場合に、編集結果の直後に続く文字ストリングを指定します。フィールドが負の場合には、ストリングの長さに合わせて空白が用いられます。これは、否定状況文字プロンプト(NEGSTSパラメーター) に値が指定されていない場合に限り行われます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

文字ストリングは指定されません。編集結果のフィールドの右側に空白が使用されます。

'正の状況文字ストリング'

フィールドの値が正の場合に、編集済みフィールドの直後に続く文字ストリングを指定します。正の状況の文字ストリングとして、アポストロフィで囲まれた最大31文字を指定することができます。

トップ

左の定数文字 (LFTCNS)

編集結果の最左端に常に現われる文字ストリング定数を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

編集済みフィールドの左側に固定情報は現われません。

'左固定情報'

編集済みフィールドの左側に常に現われる文字ストリングを指定します。アポストロフィで囲まれた最大31文字を指定することができます。

[トップ](#)

右の定数文字 (RGTCNS)

編集結果の最右端に常に現われる文字ストリング定数を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*NONE

編集済みフィールドの右側に固定情報は現われません。

'右固定情報'

編集済みフィールドの右側に常に現われる文字ストリングを指定します。アポストロフィで囲まれた最大31文字を指定することができます。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*LIBCRTAUT

オブジェクトに対する権限は、QSYSの作成権限と同じです。QSYSの作成権限はライブラリー記述

表示(DSPLIBD) コマンドを使用して表示することができます。ライブラリー変更(CHGLIB)コマンドによって作成権限を変更しても、新しい権限は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

トップ

例

この例は、以下を前提としています。

FIELD A

値001234をもつ6桁(4個の整数と2個の小数部の桁)

FIELD B

FIELD Aと同じ、ただし負の値をもつ(-001234)

FIELD C

FIELD Aと同じ、ただしゼロ値をもつ(000000)

DATE 値091878をもつ6桁 (小数部の桁をもたない)

ブランク・スペースを表すのに、文字**B**が使用されます。

例1:編集記述5の作成

```
CRTE DTD  EDTD(5)  INTMASK(' , , 0')  FRACMASK(' ')
          NEGSTS('DB ')  POSSTS('CREDIT')
          LFTCNS('¥')  RGT CNS(' **')
```


FIELDA

論理マスクは負の値の場合には'¥B,BB0.BBDBBBBB B**'であり、正の値の場合には'¥B,BB0.BB CREDIT B**'です

編集の結果は¥BBB12.34CREDITB**です

FIELDB

論理マスクは同じです

編集の結果は¥BBB12.34DBBBBBB**です

FIELD C

論理マスクは同じです

編集の結果は¥BBBBB.00CREDITB**,あるいはZEROBAL(*NO)が指定されている場合には ¥BBBBBBBBBCREDITB**です

例2:編集記述6の作成

```
CRTE DTD  EDTD(6) INTMASK(' . 0 ') DECPNT(',')
          FRACMASK(' ') CURSYM('DM') NEGSTS('- **')
```

FIELDA

論理マスクは浮動DM付きの'BBB.B0B,BB-B**'です

編集の結果はBBBDM12,34BBBBです

FIELDB

論理マスクは同じです

編集の結果はBBBDM12,34-B**です

FIELD C

論理マスクは同じです

編集の結果はBBBBDM0,00BBBB,あるいはZEROBAL(*NO)が指定されている場合には BBBBBBBBBBBBBBBBです

例3:編集記述7の作成

```
CRTE DTD  EDTD(7) INTMASK('0 MONTH DAY YEAR')
          LFTCNS('DATE IS ')
```

日付 論理マスクはINTMASKパラメーター値と同等です

編集の結果はDATEBISBB9MONTH18DAYB78YEARです

例4:編集記述9の作成

```
CRTE DTD  EDTD(9) INTMASK(' , 0') DECPNT('.')
          FRACMASK(' ') FILLCHAR('*') NEGSTS(' ERROR **')
```

FIELDA

論理マスクは'B,BB0.BBBBBBBBBBBB'または'B,BB0.BBBERRORB**'です (どちらも*を充てん文字として使用しています)

編集の結果は***12.34BBBBBBBBBBBです

FIELDB

論理マスクは同じです

編集の結果は***12.34BERRORB**です

FIELD C

論理マスクは同じです

編集の結果は*****.00BBBBBBBBB,あるいはZEROBAL(*NO)が指定されている場合には
*****BBBBBBBBBです

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9805

ライブラリー&3のオブジェクト&2が壊れている。

[トップ](#)

フォルダー作成 (CRTFLR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォルダー作成(CRTFLR)コマンドによって、フォルダーを作成することができます。このフォルダーは、文書およびその他のフォルダーを編成するために使用されます。

制約事項:

既存のフォルダーにフォルダーを作成する場合には、既存のそのフォルダーに対して変更(*CHANGE)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FLR	フォルダー	文字値	必須, 定位置 1
INFLR	フォルダー中	文字値, *NONE	オプション, 定位置 2
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *FLR	オプション
AUT	権限	名前, *INFLR, *EXCLUDE, *ALL, *CHANGE, *USE	オプション
ASP	補助記憶域プールID	1-32, *INFLR	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

作成中のフォルダーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 作成中のフォルダーの名前（1から12桁の範囲で、任意指定のエクステンションも含まれる）を指定してください。エクステンションが含まれない場合には、文書またはフォルダー名は最大8桁までとすることができます。エクステンションが含まれる場合には、エクステンションはピリオドで始まり、最大3桁まで追加することができます。フォルダー名のエクステンションによって、システム上のフォルダーの選択的リストを行うのに役立つ特定の情報を使用して、フォルダーを識別することができます。

フォルダー中 (INFLR)

作成中のフォルダーを入れるフォルダーの名前を指定します。

*NONE

フォルダーは別のフォルダー内に作成されません。すなわち、これは第1レベルのフォルダーと見なされます。

名前 新しく作成されるフォルダーを入れるフォルダーの名前(1から63桁の範囲)を指定します。

フォルダーを他のフォルダーに入れることができ、特定のフォルダー名はそれを含むフォルダー内でだけ固有であればよいために、フォルダーを識別するために、いくつかのフォルダー名をつなぐことが必要になることがあります。これは一般にフォルダー内のオブジェクトへのパスと呼ばれます。フォルダーのパスは次の通りです。

- 1つまたは複数のフォルダー名。複数のフォルダー名の場合には、それぞれをスラッシュ(/)で区切ります。2つのフォルダー名の例はFOLDERA/FOLDERBです。
- 合計桁数が63桁を超えないもの

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***FLR** テキストは**フォルダー (FLR)**パラメーターに指定されたフォルダー名です。

文字 最大44桁までをアポストロフィで囲んで指定します。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*INFLR

フォルダーが第1レベルのフォルダーである場合には、その権限は*EXCLUDEです。フォルダーが第1レベルのフォルダーでない場合には、その権限は**フォルダー中 (INFLR)**パラメーターに指定されたフォルダーからコピーされます。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

名前 権限リストの名前を指定してください。共通認可は*AUTLに設定され、権限リストは作成されたフォルダーに結び付けられます。

トップ

補助記憶域プールID (ASP)

フォルダーを作成する補助記憶域プール(ASP)のIDを指定します。このパラメーターは、INFLR(*NONE)が指定された時（第1レベルのフォルダーを作成する時）しか指定することができません。

***INFLR**

フォルダーはその親フォルダーのASPに作成されます。INFLR(*NONE)が指定された時には、これはシステムASPです。

1から32

フォルダーを作成するASPのID (ID)を指定してください。この値は、システムに構成されているASPを指定しなければなりません。ASPの構成については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)を参照してください。

トップ

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値（テキスト'記述' (TEXT)パラメーターに適用される）として入力しているデータの文字ID（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。文字IDは、コマンドの入力に使用された表示装置と関連しています。

単一値

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEVD**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

[トップ](#)

例

例1:フォルダーの別のフォルダー内での作成

```
CRTFLR  FLR(QTR1)  INFLR('PAYROLL/1987')  AUT(*CHANGE)
          TEXT('第1四半期の給与計算')
```

このコマンドは、フォルダーQTR1をフォルダーPAYROLL/1987内に作成します。共通はフォルダーに対する*CHANGE権限（文書をフォルダーに追加し、フォルダー記述を変更し、あるいはフォルダーの内容を表示することができる）が認可されています。フォルダー1987は、第1レベル・フォルダーであるPAYROLLフォルダー内にあります。

例2:フォルダーのASP内での作成

```
CRTFLR  FLR(MANFCTNG)  INFLR(*NONE)  ASP(2)  AUT(*USE)
          TEXT('製造')
```

このコマンドは、フォルダーMANFCTNGを第1レベル・フォルダーとして、システム上に以前に構成済みの、ユーザー補助記憶域プール(ASP) 2内に作成します。共通はフォルダーに対する*USE権限（フォルダーの記述または内容を表示することができる）が認可されています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8A18

フォルダー&1は作成されなかった。

[トップ](#)

フォント資源の作成 (CRTFNTRSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント資源作成(CRTFNTRSC)コマンドは、物理ファイルからフォント資源オブジェクトを作成します。物理ファイルには、フォント資源情報が入っています。たとえば、フォント資源情報は、S/370ホスト・システムから受け取ることができ、システム・アプリケーション体系(SAA)形式になっていてかまいません。CRTFNTRSCコマンドによって処理される情報のタイプに応じ、その結果はフォント文字セット、コード・ページ、またはコード化フォントのいずれかです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FNTRSC	フォント資源	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フォント資源	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FNTRSC	オプション, 定位置 3
FNTCAPTURE	フォント取り込み	*FILE, *NO, *YES	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *MBRTXT, *BLANK	オプション
REPLACE	フォント資源の置き換え	*YES, *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

[トップ](#)

フォント資源 (FNTRSC)

作成されるフォント資源を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: フォント資源

名前 フォント資源の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

フォント資源を記憶するためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 フォント資源を記憶したいライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (FILE)

このシステムに送られたフォント資源が入っているファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: フォント資源

名前 使用するファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイル名が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル・メンバー (MBR)

フォント資源レコードが入っているファイル・メンバーを指定します。

***FNTRSC**

ファイル・メンバーの名前は、このコマンドのフォント資源 (FNTRSC)パラメーターに指定されます。

名前 ソース・ファイル (FILE)パラメーターによって指定されたファイル中のメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

フォント取り込み (FNTCAPTURE)

フォント文字セットまたはコード・ページをフォント収集に適格としてマークを付けるかどうかを指定します。FNTCAPTURE(*YES)のマークがあるフォントおよびコード・ページは、フォントの取り込みをサポートする印刷装置でのダウンロード後に取り込むことができます。これにより、フォントの取り込みをサポートするIPDS印刷装置は、フォントの取り込みに*YESのマークがつけられてダウンロードされたフォントを動的に取り込んだり、ホストでキャッシュ処理することができます。取り込まれたフォントは、その後、印刷装置の電源がオフにされ、再びオンにされた後も、PSFでは印刷装置常駐フォントであるかのようにみなされ、印刷装置に留まります。印刷装置へのフォントの順次ダウンロードが取り除かれることにより、印刷

のパフォーマンスは向上します。機密保護の重要なフォントにFNTCAPTURE(*YES)としてのマークをつける際には注意が必要です。LAN接続の印刷装置の場合には、印刷装置に取り込まれたフォントに、他のユーザーが同じシステムの別の印刷ジョブまたは別のシステムの別の印刷ジョブからアクセスできる可能性が存在します。印刷ジョブで参照されるホスト・フォントを使用するためには、そのフォントが印刷装置に取り込まれているかどうかにかかわらず、フォント・オブジェクトおよびそのライブラリーに対する権限が必要です。フォント文字セットおよびコード・ページのマーク付けに加えて、使用中の印刷装置でフォントの取り込みを活動化することも必要です。IPDS印刷装置でフォントの取り込みを活動化するためには、CRTSPFCFGまたはCHGPSFCFGコマンドにFNTCAPTURE(*YES)を指定しなければなりません。

注:

- 取り込みに適格なものとしてマークされたフォント文字セットとコード・ページの対は、フォントの取り込みをサポートしない印刷装置にもダウンロードされます。
- コード化フォントのマーク付けはサポートされていません。コード化フォントにマークをつけようとしても、変更は有効となりません。

***FILE** フォント・ソース仕様に記憶されたフォント取り込み情報がフォントのマーク付けに使用されません。情報が見つからない場合には、*NOとみなされます。

***YES** 印刷装置にダウンロードした後で、フォント文字セットまたはコード・ページは収集に適格となります。印刷装置がフォント収集をサポートしていない場合には、この情報は無視されて、フォントがダウンロードされます。

***NO** フォント文字セットまたはコード・ページはフォント収集に適格ではありません。また、これは印刷装置にダウンロードされることとなります。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***MBRTXT**

テキストは、フォント資源を作成するために使用するファイル・メンバーから取り出されます。ソース・ステートメント入力ユーティリティ(STRSEU)コマンドを使用して、あるいは物理ファイル・メンバー追加(ADDPFM)コマンドまたは物理ファイル・メンバー変更(CHGPFM)コマンドのいずれかを使用して、データベースソース・メンバーに対してテキストを追加または変更することができます。ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルの場合には、テキストはブランクです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

フォント資源の置き換え (REPLACE)

作成中のフォント資源と同じ名前をもつ既存のフォント資源を置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存のフォント資源は置き換えられます。

- *NO 同じ名前のフォント資源がシステムに存在している場合には、作成操作は正常に実行されません。既存のフォント資源は置き換えられません。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を変更した場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTFNTRSC  FNTRSC(MYLIB/GOTHIC12) FILE(*LIBL/FONTRSCS)
           MBR(*FNTRSC) AUT(*USE)
           TEXT('GOTHIC FONT 12 PITCH')
```

このコマンドは、MYLIBにフォント資源GOTHIC12を作成します。ユーザーのライブラリー・リスト中にあるソース・ファイルFONTRSCSがメンバーGOTHIC12と共に入力データとして使用されます。AUTパラメーターに*USEを指定することにより、その他のユーザーがGOTHIC12にアクセスできますが、変更はできません。テキストはフォント資源を記述しています。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF8056

&2のファイル&1が物理ファイルでない。

CPF88C1

印刷装置資源タイプ&1 &2がライブラリー&3に作成されなかった。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9870

タイプ*&5のオブジェクト&2はライブラリー&3にすでに存在している。

フォント・テーブルの作成 (CRTFNNTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント・テーブル作成(CRTFNNTBL)コマンドによって、印刷サービス機能(PSF)で使用するフォント・マッピング・テーブルを作成することができます。これらのテーブルにより、以下を制御するフォント・テーブルの項目を変更、追加、および除去することができます。

1. ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのマッピング
2. 印刷装置常駐からホスト常駐フォント文字セットへのマッピング
3. ホスト常駐から印刷装置常駐コード・ページへのマッピング
4. 印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング
5. 印刷装置常駐から印刷装置常駐フォント置き換えへのマッピング

印刷装置からホストへのフォント・マッピングおよびホストから印刷装置へのフォント・マッピング（上記の最初の4つのテーブル）の実行では、ユーザー・テーブルが最初に一致を検索されます。一致が見つからない場合には、次にシステム・フォント・テーブルまたはコード・ページ・テーブルが検索されます。

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルの場合には、システムによって次の処理が実行されます。

- 印刷ジョブで指定された印刷装置常駐フォントがその印刷装置によってサポートされている場合には、それが使用されます。印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルは検索されません。
- 印刷ジョブで指定された印刷装置常駐フォントが印刷装置によってサポートされていない場合には、印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルが検索されます。
 - 一致する項目が印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで見つかり、その項目が印刷装置によってサポートされている場合には、印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで指定された置き換えフォントが使用されます。
 - 一致する項目が印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで見つからない場合、または指定された置き換えフォントが印刷装置によってサポートされていない場合には、システムはその内部フォント置き換えテーブルを使用してフォント置き換えを実行します。

フォント・マッピング・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、PSF機能が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FNTTBL	フォント・テーブル	単一値: *PHFCS, *HPFCS, *PHCP, *HPCP その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フォント・テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

トップ

フォント・テーブル (FNTTBL)

作成するフォント・テーブルの名前を指定します。このパラメーターで許可されている単一値ごとにシステムで作成できるフォント・マッピング・テーブルは1個だけです。これらの値の1つを指定すると、フォント・マッピング・テーブルがライブラリーQUSRSYSに以下の名前の1つで作成されます。

単一値	フォント・テーブル
-----	-----
*PHFCS	QPHFCS
*PHCP	QPHCP
*HPFCS	QHPFCS
*HPCP	QHPCP

また、印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルを作成することができます。複数の印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルをシステムに作成することができます。

単一値

*PHFCS

印刷装置常駐からホスト常駐へのフォント文字セット・マッピング・テーブルが作成されます。このテーブルを作成する時には、QPHFCSという名前が使用されてライブラリーQUSRSYSに作成されます。このテーブルは、アプリケーションが印刷装置常駐フォントを参照し、印刷装置(3827, 3825, 3820, 3900-1型など)が常駐フォントをサポートしていない時に使用されます。印刷サービス機能(PSF)は、印刷装置常駐フォントからホスト常駐フォントに参照をマップしてそれをダウンロードしなければなりません。

*PHCP

印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが作成されます。このテーブルが作成される場合には、QPHCPという名前が使用されてライブラリーQUSRSYSに作成されます。このテーブルはQPHFCSテーブルのように、アプリケーションが印刷装置常駐コード・ページを参照し、使用される印刷装置が印刷装置常駐コード・ページをサポートしていない時に使用されます。印刷装置常駐コード・ページがホスト常駐コード・ページにマップされて、PSFによって印刷装置にダウンロードされなければなりません。

*HPFCS

ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのマッピング・テーブルが作成されます。このテーブルが作成される場合には、QHPFCSという名前が使用されてライブラリーQUSRSYSに作成されます。このテーブルは、アプリケーションがホスト常駐フォント(フォント文字セットおよびコ

ード・ページ)を参照し、印刷装置(4224, 4234, 4230, 64XXなど)がホスト常駐フォントのダウンロードをサポートしていない時に使用されます。PSFは、ホスト常駐フォントから印刷装置常駐フォントへの参照をマップしなければなりません。

***HPCP**

ホスト常駐から印刷装置常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが作成されます。このテーブルが作成される場合には、QHPCPという名前が使用されてライブラリーQUSRSYSに作成されます。このテーブルはQHPFCSのように、アプリケーションがホスト常駐コード・ページを参照し、使用される印刷装置がホスト常駐コード・ページをサポートしていない時に使用されます。ホスト常駐コード・ページが印刷装置常駐コード・ページにマップされて、PSFによって印刷装置にダウンロードされなければなりません。

修飾子1: フォント・テーブル

名前 作成する印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルの名前を指定します。

フォント・テーブルの名前は、印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルを作成する時に指定しなければなりません。この印刷装置常駐フォント置き換えテーブルは、次の3つの条件がすべて存在している時に使用してください。

- PSF接続印刷装置に印刷している。
- 使用している印刷装置によってサポートされていない印刷装置常駐フォントを、アプリケーションが指定している。
- システムによって選択されたものと異なる置き換え印刷装置常駐フォントを指定したい。

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルを特定のPSF印刷装置で使用するには、PSF構成の作成(CRTPSF CFG)コマンドまたはPSF構成の変更(CHGPSFCFG)コマンドのFNNTBLパラメーターでフォント・テーブルの名前を指定する必要があります。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

フォント・テーブルの保管に現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 フォント・テーブルを保管したいライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

フォント・テーブルについて簡単に説明したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'文字値'

50桁を超えないアポストロフィで囲まれたテキストを指定します。

[トップ](#)

権限 (AUT)

オブジェクトに対して特定権限をもたないユーザー、権限リスト上にないユーザー、およびそのグループ・プロファイルがオブジェクトに対して特定権限をもたないユーザーに与える権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーのライブラリー作成(CRTLIB)コマンドのCRTAUTパラメーターに指定された値を使用して、そのオブジェクトの権限を判別します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更されても、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

変更権限によって、ユーザーはオブジェクトに対して基本的な機能を変更し実行することができます。変更権限は、オブジェクト操作権限およびすべてのデータ権限を提供します。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理権限によって制御される操作を除いて、すべての操作を実行することができます。ユーザーは、オブジェクトの存在を制御、オブジェクトの機密保護を指定、オブジェクトを変更、オブジェクトに対して基本的な機能を実行、またオブジェクトの所有権を変更することができます。

***USE** 使用権限は、オブジェクト操作権、読み取り権限、および実行権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはオブジェクトをアクセスすることはできません。

名前 オブジェクトに対する権限について使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれるユーザーは、そのリストに指定されたオブジェクトに対して権限が認可されます。オブジェクトの作成時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTFNTTBL  FNTTBL(*PHFCS)
            TEXT('PRINTER TO HOST FONT MAPPING TABLE')
```

このコマンドは、印刷装置からホストへのフォント・マッピング・テーブルを作成します。このテーブルはQPHFCSと名前が付けられ、ライブラリーQUSRSYS中に作成されます。テーブルは項目なしで作成されます。フォント・テーブル項目追加(ADDFNTTBLE)およびフォント・テーブル項目変更(CHGFNTTBLE)コマンドを実行することによって、項目を追加または変更することができます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

PQT0121

ライブラリー&2にフォント・テーブル&1が作成されなかった。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

[トップ](#)

用紙定義の作成 (CRTFORMDF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

書式定義作成(CRTFORMDF)コマンドは、物理ファイルから書式定義を作成します。物理ファイルには、書式定義情報が入っています。たとえば、書式定義情報は、S/370*ホスト・システムから受け取ることができ、システム・アプリケーション体系(SAA)形式になっていてかまいません。

制約事項: スプール・ファイルのシステム/370*システムへのネットワークの場合には、書式定義名の先頭2文字は'F1'でなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FORMDF	用紙定義	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 用紙定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FORMDF	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, *MBRTXT, *BLANK	オプション
REPLACE	用紙定義の置き換え	*YES, *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

トップ

用紙定義 (FORMDF)

作成される書式定義を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 用紙定義

名前 書式定義の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

書式定義を保管するためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 書式定義を記憶したいライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (FILE)

このシステムに送られた書式定義レコードが入っているファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 書式定義レコードが入っているファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

[トップ](#)

ソース・ファイル・メンバー (MBR)

書式定義レコードが入っているファイル・メンバーを指定します。

***FORMDF**

ファイル・メンバーの名前は、このコマンドの**用紙定義 (FORMDF)**パラメーターに指定されます。

名前 ソース・ファイル (**FILE**)パラメーターによって指定されたファイル中のメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***MBRTXT**

テキストは、書式定義を作成するために使用するファイル・メンバーから取り出されます。ソース・ステートメント入力キューティリティー(**STRSEU**)コマンドを使用して、あるいは物理ファイル・メンバー追加(**ADDPFM**)コマンドまたは物理ファイル・メンバー変更(**CHGPFM**)コマンドのいずれ

かを使用して、データベースソース・メンバーに対してテキストを追加または変更することができます。ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルの場合には、テキストは空白です。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

用紙定義の置き換え (REPLACE)

作成中の書式定義と同じ名前をもつ既存の書式定義を置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 既存の書式定義は置き換えられます。

***NO** 同じ名前の書式定義がシステムに存在している場合には、作成操作は正常に実行されません。既存の書式定義は置き換えられません。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB)で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を変更した場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

***CHANGE**権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

[トップ](#)

例

```
CRTFORMDF  FORMDF(*CURLIB/FORMDF1)
            FILE(*CURLIB/FORMDF)  MBR(F1A01238)
            AUT(*EXCLUDE)
            TEXT('DEFAULT FORM DEFINITION FOR AFP PRINTERS')
```

このコマンドは、現行ライブラリーまたはQGPLライブラリー（現行ライブラリーがない場合）に書式定義FORMDF1を作成します。入力データは、現行ライブラリーのメンバーF1A01238があるソース・ファイルFORMDFから取られます。権限に*EXCLUDEを指定すると、所有者に対するオブジェクトの使用法が制限されます。テキストは、表示されている書式定義について記述しています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF8056

&2のファイル&1が物理ファイルでない。

CPF88C1

印刷装置資源タイプ&1 &2がライブラリー&3に作成されなかった。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9870

タイプ*&5のオブジェクト&2はライブラリー&3にすでに存在している。

[トップ](#)

フィルターの作成 (CRTFTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フィルターの作成(CRTFTR)コマンドでは、指定したタイプのフィルター・オブジェクトが作成されます。フィルターには、選択項目と処置項目が入っています。フィルターによって、ユーザーはデータをグループに分類して、それぞれのグループに適用する特別な処置を指定することができます。この代表的なユーザーは、システム・プログラマーあるいはシステムの管理を担当するオペレーターです。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*CURLIB</u>	
TYPE	タイプ	*ALR, *PRB	必須, 定位置 2
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

[トップ](#)

フィルター (FILTER)

作成されるフィルターの修飾名を指定します。

指定されたライブラリーは*SYSLIB (1次システムASP)上になければなりません。CRTFTRではIASPがサポートされないため、独立補助記憶域プール(IASP)上のライブラリーは指定できません。考えられるライブラリーの値は次の通りです。

*CURLIB

フィルターを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

フィルターが入っているライブラリーの名前を指定してください。

フィルター名

作成するフィルターの名前を指定してください。

[トップ](#)

タイプ (TYPE)

作成されるフィルターのタイプを指定します。フィルターのタイプは、フィルターを使用できるアプリケーションおよびフィルターに入れることができる項目のタイプを決定します。

- ***ALR** フィルターは警報フィルターです。I5/OS警報管理機能は、受信または生成する警報についてこのフィルターを使用することができます。
- ***PRB** フィルターは問題フィルターです。I5/OS問題管理機能は、作成、変更、または削除される問題項目にこのフィルターを使用することができます。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトについて簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

- ***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

- ***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTFTR  FILTER(MYLIB/MYFILTER)  TYPE(*ALR)  AUT(*CHANGE)
        TEXT('ユーザー・フィルター')
```

このコマンドは、MYFILTERという名前の警報フィルターをライブラリーMYLIB内に作成します。タイプは*ALRであり、共通には「ユーザー・フィルター」と説明されているフィルターに対する*CHANGE権限があります。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2108

オブジェクト&1タイプ*&3はライブラリー&2に追加されませんでした。

CPF2112

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

トップ

図形記号セット作成 (CRTGSS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

グラフィックス・シンボル・セット作成(CRTGSS)コマンドは、シンボル・セットが入っている物理ファイルからグラフィックス・シンボル・セット・オブジェクトを作成します。ファイルの内容に応じて、CRTGSSコマンドは、ベクトル・シンボル・セット（モード3図形文字）またはイメージ・シンボル・セット（モード2図形文字）のいずれかを作成します。

シンボル・セット・オブジェクトは、図形データ表示管理プログラム(GDDM*)または図形表示ルーチン(PGR)グラフィックス・アプリケーション・プログラム、あるいはビジネス・グラフィックス・ユーティリティ図表で弊社提供のグラフィックス・シンボル・セットの代りとして使用することができます。ビジネス・グラフィックス・ユーティリティの詳細は、AS/400ユーティリティ：ビジネス・グラフィックス・ユーティリティ(BGU)使用者の手引きと参照 (N:SC09-1408)に説明があります。

制約事項：このコマンドで使用する物理ファイルには、80バイト以上で400バイト以下のレコードが入っていなければなりませんし、ソース・ファイルには92バイト以上で412バイト以下のレコードが入っていなければなりません。ファイルの内容はシンボル・セットの形式となっていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
GSS	図形記号セット	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 図形記号セット	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *GSS	オプション, 定位置 3
TEXT	テキスト記述	文字値, *MBRTXT, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

トップ

図形記号セット (GSS)

作成するグラフィックス・シンボル・セットの名前およびライブラリー名を指定します。ライブラリー名が指定されないと、グラフィックス・シンボル・セットはライブラリー***CURLIB** に入れます。グラフィックス・シンボル・セット名は、最大8桁の長さとすることができます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

ファイル (FILE)

シンボル・セットの作成に使用するソース・データ・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーを使用して、グラフィックス・シンボル・セットが記憶されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**が使用されます。

ライブラリー名

グラフィックス・シンボル・セットが入るライブラリーを指定します。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

シンボル・セットの作成に使用するファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***GSS** 入力データの入るファイル・メンバーの名前は、作成されるシンボル・セットと同じ名前になります。

メンバー名

シンボル・セット入力データの入るファイル・メンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***MBRTXT**

テキストは、シンボル・セットの作成に使用されるファイル・メンバーから取り出されます。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'**記述**' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*LIBCRTAUT

作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド(CRTLIB)で**作成権限**プロンプト(CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限をシステムが決定します。**作成権限**プロンプト(CRTAUT)パラメーターに指定された値を変更した場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

例

例1:ソース・ファイルと同じ名前のセットの作成

```
CRTGSS  GSS(GSSLIB/ADMVARP) FILE(GSSLIB/ADMVARP)
```

このコマンドは、ソース・ファイルと同じ名前のシンボル・セットを同じライブラリーに作成します。

例2:別のライブラリーからのセットの作成

```
CRTGSS  GSS(*CURLIB/VECTOR1) FILE(GSSLIB/QDATASRC)
        MBR(SCHEM) AUT(*ALL) TEXT('SCHEMATIC VECTOR SYMBOLS')
```

このコマンドは、ライブラリーGSSLIBのファイルQDATASRCにあるメンバーSCHEMからQGPLライブラリーにVECTOR1という名前のシンボル・セットを作成します。公開にはシンボル・セット上に完全な権限があります。シンボル・セット・データはソース物理ファイルQDATASRCに保管されていることは事実ですが、シンボル・セット・データの内容の一部が表示できないので、ソース入力ユーティリティー(SEU)によって編集または表示できません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8660

記号セット&1がライブラリー&2に作成されなかった。

[トップ](#)

ICFファイル作成 (CRTICFF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム間通信機能ファイル作成(CRTICFF)コマンドは、このコマンドに指定された情報およびソース・ファイルに入っているデータ記述仕様(DDS)からシステム間通信機能(ICF)ファイルを作成します。

ICFファイルは、通信装置との入出力操作を行うために使用されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QDDSSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *FILE	オプション, 定位置 3
GENLVL	生成重大度レベル	0-30, 20	オプション
FLAG	フラグづけ重大度レベル	0-30, 0	オプション
ACQPGMDEV	獲得するプログラム装置	文字値, *NONE	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *SRCMBRTXT, *BLANK	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 3 回の繰り返し): *SRC, *NOSRC, *SOURCE, *NOSOURCE, *LIST, *NOLIST, *SECLVL, *NOSECLVL	オプション, 定位置 4
MAXPGMDEV	プログラム装置の最大数	1-256, 1	オプション
MAXRCLEN	最大レコード長	1-32767, *CALC	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	1-32767, *IMMED, *CLS	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	1-32767, *NOMAX, *IMMED	オプション
DTAQ	データ待ち行列名	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: データ待ち行列名	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SHARE	オープン・データ・パス共用	*NO, *YES	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	*YES, *NO	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *USE	オプション
REPLACE	ファイルの置き換え	*YES, *NO	オプション

トップ

ファイル (FILE)

作成するシステム間通信機能(ICF)ファイルを指定します。

ファイルが高水準言語プログラムで使用される場合には、ファイル名はその言語の命名規則に従うものでなければなりません。そうでない場合には、プログラムの中でファイル名を変更しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ICF通信ファイル

名前 ICFファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

ICFファイルを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ICFファイルを入れるライブラリー名を指定してください。

[トップ](#)

ソース・ファイル (SRCFILE)

ICFファイルの作成に使用されるデータ記述仕様(DDS)ソースが入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: ソース・ファイル

QDDSSRC

QDDSSRCという名前のソース・ファイルには、ICFファイルの作成に使用されるDDSソースが入っています。

名前 ソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ソース・メンバー(SRCMBR)

作成されるICFファイルのデータ記述仕様(DDS)ソースが入っているソース・ファイル・メンバーを指定します。

***FILE** ソース・ファイルのメンバー名は、**ICF通信ファイル (FILE)**パラメーターに指定されたICFファイル名と同じです。

名前 ソース・ファイル中のメンバーの名前を指定してください。

トップ

生成重大度レベル (GENLVL)

ファイルが作成されない原因となるデータ記述仕様(DDS)メッセージの重大度レベルを指定します。このパラメーターが適用されるのは、ソースDDSファイルの処理中に作成されたメッセージに対してだけです。

20 DDSソース・ファイルの処理中に重大度レベルが20より大きいか等しいエラーが起こった場合には、ファイルは作成されません。

0から30

所要の重大度レベル値を指定してください。0を指定した場合には、ファイルは作成されません。指定する値は、**フラグづけ重大度レベル (FLAG)**パラメーターに指定された値に等しいかそれより大きくなければなりません。

トップ

フラグづけ重大度レベル (FLAG)

リストするメッセージの最小重大度レベルを指定します。

0 すべてのメッセージがリストされます。

0から30

リストするメッセージの最小重大度を示す数値を指定してください。指定する値は、**生成重大度レベル (GENLVL)**パラメーターに指定された値に等しいかそれより大きくなければなりません。

トップ

獲得するプログラム装置 (ACQPGMDEV)

ファイルのオープン時にファイルで使用するために獲得されるプログラム装置を指定します。

***NONE**

プログラム装置が獲得されずにファイルがオープンされます。このファイルで使用されるプログラム装置で入出力を開始するためには、前もってそれらのプログラム装置のすべてを明示的に獲得しておかなければなりません。

文字値 ファイルのオープン時に獲得される最初のプログラム装置の名前を指定してください。プログラム装置はファイルがオープンされる前にファイルに追加しなければなりません。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

ソース・ファイルがデータベース・ファイルの場合には、テキストはファイルの作成に使用されるソース・ファイル・メンバーからとられます。ソース・ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルの場合には、テキストはブランクです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

ソース・リスト・オプション (OPTION)

ファイルの作成時に生成される印刷出力のタイプを指定します。このパラメーターには、次の値を最大3つまで任意の順に指定できます。オプションに両方の値を指定した場合、あるいはいずれの値も指定しなかった場合には、そのオプションにリストされている最初の値が使用されます。

注: 各オプションの最初の値は似ていますが、実際には省略時の値ではなく、したがってCHGCMDDFT (コマンド省略時値変更) コマンドによって変更することはできません。

プログラム作成オプション

SRCまたはSOURCE****

ファイルの作成に使用されたソース・ステートメントおよび起こったエラーの印刷出力が作成されます。

NOSRC**またはNOSOURCE**

エラーが検出されない限り、ソース・ステートメントの印刷出力は作成されません。エラーが検出された場合には、エラーを含むレコード様式と一緒にソース・ステートメントがリストされます。

ソース・リスト・オプション

***LIST** ソース・ステートメントおよび他のフィールド記述の参照から得られるファイル仕様の詳細リストを示す展開ソース印刷出力が作成されます。

***NOLIST**

展開ソース印刷出力は作成されません。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

***NOSECLVL**

DDS印刷出力のメッセージ・セクションは、DDSの処理中に見つかったエラーの第2レベル・メッセージ・テキストを含みません。

***SECLVL**

第2レベル・メッセージ・テキストがソース・リストに組み込まれます。

トップ

プログラム装置の最大数 (MAXPGMDEV)

ICFファイルに追加できるプログラム装置項目の最大数を指定します。プログラム装置項目の追加は、システム間通信機能装置項目追加(ADDICFDEVE)コマンドを使用して行います。

1 1つのプログラム装置項目または*REQUESTERだけをこのICFファイルに追加することができます。

1から256

このICFファイルに対して定義されているか、あるいはこのICFファイルに追加できるプログラム装置項目の最大数を指定してください。

トップ

最大レコード長 (MAXRCLEN)

ファイルのオープン時に使用されるレコード長の最大バイト数を指定します。

***CALC**

ファイル中の最大のレコードについて計算した長さが、ファイルのオープン時に使用されます。

1から32767

最大レコード長を指定してください。このレコード長がファイル中の最も大きなレコードに対して計算された長さより小さい場合には、計算された値が使用されます。

トップ

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略時待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1から32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

トップ

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

高水準言語プログラムの複数装置ファイルに対する送信勧誘された装置からの読み取り操作の完了を、プログラムが待機する秒数を指定します。どんなときにファイルが複数装置ファイルとして取り扱われるかを判別するには、高水準言語解説書を参照してください。読み取り操作を実行しているプログラムは、現在ファイルにアクセス中のすべての送信勧誘済み装置からの入力を待ちます。送信勧誘されたプログラム装置のいずれからも指定された時間内にレコードが戻されなかった場合には、通知メッセージがプログラムに送られます。このパラメーターは、単一装置に対して指示された入力操作では何の効果もありません。

***NOMAX**

システムが操作の完了を待機する時間に制限はありません。

***IMMED**

プログラムは待機しません。送信勧誘された装置からの読み取り操作が実行された時にレコードが使用可能でない場合には、プログラムに通知メッセージが送られます。

整数 プログラムが待機する最大秒数を指定してください。有効な値の範囲は1から32767秒です。

[トップ](#)

データ待ち行列名 (DTAQ)

項目を入れるデータ待ち行列を指定します。指定するデータ待ち行列は最小長80桁でなければなりません。ファイルを使用するまでこのパラメーターに指定された名前が評価されないで、表示装置ファイルが作成される時にデータ待ち行列が存在している必要はありません。

注: このパラメーターにキー順データ待ち行列は使用できません。キー順データ待ち行列が指定された場合には、実行時エラーが起こります。しかし、コマンドが出される時にデータ待ち行列が存在している必要はないため、このエラーにフラグは付けられません。

単一値

***NONE**

データ待ち行列は指定されません。

修飾子1: データ待ち行列名

名前 項目を入れるデータ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データ待ち行列を見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 データ待ち行列を見つけるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

***NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

[トップ](#)

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

ファイルがプログラムによってオープンされる時に、ICF装置ファイルのレコード様式のレベルIDを検査するかどうかを指定します。

- *YES** レコード様式のレベルIDが検査されます。一致しないレベルIDがある場合には、ファイルをオープンしようとしたプログラムにオープン・エラー・メッセージが送られます。
- *NO** ファイルのオープン時にレベルIDは検査されません。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB)で作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

ファイルの置き換え (REPLACE)

保管またはデータベース・ファイル以外の既存のファイルを置き換えるかどうかを指定します。

***YES** 新しいICFファイルが正常に作成された場合には、同じ名前およびライブラリーの既存のファイルが置き換えられます。

***NO** 同じ名前およびライブラリーの既存のファイルがある場合には、新しいICFファイルを作成することはできません。

[トップ](#)

例

```
CRTICFF FILE(QGPL/ICFTEST) SRCFILE(QGPL/QDDSSRC)
        MAXPGMDEV(5) ACQPGMDEV(DENVER)
```

このコマンドは、QGPLライブラリーにファイルICFTESTを作成します。このファイルの作成に使用されるDDSソースは、QGPLライブラリーのファイルQDDSSRCからのメンバーICFTESTに入っています。このファイルは最大5つのプログラム装置で使用できます。ファイルのオープン時には、プログラム装置DENVERが取得されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

[トップ](#)

DBCS変換辞書作成 (CRTIGCDCT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DBCS変換辞書作成(CRTIGCDCT)コマンドにより、指定した2バイト文字セット(DBCS)変換辞書が作成され、その辞書が指定したライブラリーに保管されます。この辞書には、英数字項目とそれらに関連したDBCSの語句が入っています。システムは、DBCS変換を行なう場合にDBCS変換辞書を参照します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IGCDCT	DBCS変換辞書	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: DBCS変換辞書	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	要素リスト	オプション
	要素 1:	文字値, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	

トップ

DBCS変換辞書 (IGCDCT)

作成される2バイト文字セット(DBCS)変換辞書の名前および辞書が保管されるライブラリーの名前を指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、辞書はジョブの現行ライブラリーに保管されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

これは必須パラメーターです。

注: ユーザー作成のDBCS変換辞書にはどのような名前でも付けることができますが、QUSRIGCDCTと名付けられた場合にのみ、その辞書はDBCS変換に使用されます。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成されるオブジェクトが入るライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB)の作成権限(CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。作成権限(CRTAUT)パラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

権限リスト名

権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

例

```
CRTIGCDCT IGCDCT(DBCSLIB/QUSRIGCDCT)
```

このコマンドは、ライブラリーDBCSLIBに保管されるQUSRIGCDCTという名前のDBCS変換辞書を作成します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8431

DBCS変換辞書&2はライブラリー&3に作成されなかった。

イメージ・カタログの作成 (CRTIMGCLG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イメージ・カタログ作成(CRTIMGCLG)コマンドは、イメージ・カタログ・オブジェクト(*IMGCLG)をライブラリーQUSRSYSに作成して、そのイメージ・カタログをターゲット・ディレクトリーと関連付けるために使用します。イメージ・カタログは仮想光ディスク装置または仮想磁気テープ装置と関連付けることができます。

イメージ・カタログには、イメージ・カタログ項目追加(ADDIMGCLGE)コマンドを使用してイメージ・カタログに追加されたイメージに関する情報が含まれています。イメージ・カタログには、次の情報が入っています。

ディレクトリー名

イメージ・ファイルが常駐するディレクトリー。

装置名 イメージ・カタログと関連した仮想装置の装置名。

カタログ状況

イメージ・カタログの現況と仮想装置とのその関連付け。

イメージ・カタログには、各項目に次の情報が入っています。

イメージ・ファイル名

イメージ・ファイルの名前。

ボリュームIDまたは名前

イメージ・ファイルを表す光ディスクまたはテープ・ボリュームのフォーマットされた名前。

索引番号

イメージ・カタログ中のこのイメージの順序。

イメージ・ファイル状況

仮想装置中のイメージの状況。

テキスト

イメージの簡略説明。

制約事項:

- このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
- イメージ・カタログを作成するには、次の権限が必要です。
 1. QUSRSYSライブラリーに対する読み取り(*READ)および追加(*ADD)権限。
 2. イメージ・カタログ・パス名の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限。
 3. REFIMGCLGパラメーターが指定された場合には、次の追加権限が必要です。
 - a. 参照イメージ・カタログに対する*USE権限。
 - b. ライブラリーQUSRSYSに対する*EXECUTE権限。
- ディレクトリーと関連付けることができるイメージ・カタログは1つだけです。

- DIR(*REFIMGCLG)が指定された場合には、REFIMGCLGパラメーターによって定義されたカタログは作動可能な状況であってはいけません。
- イメージ・カタログ・ディレクトリーでは、次のファイル・システムがサポートされています。
 1. "ルート" (/)
 2. QOPENSYS
 3. *TYPE2ファイルをサポートするユーザー定義ファイル・システム。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	必須, 定位置 1
DIR	ディレクトリー	パス名, *REFIMGCLG	必須, 定位置 2
TYPE	イメージ・カタログ・タイプ	*OPT, *TAP	オプション, 定位置 3
CRTDIR	ディレクトリーの作成	*YES, *NO	オプション
REFIMGCLG	参照イメージ・カタログ	名前	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE	オプション

トップ

イメージ・カタログ (IMGCLG)

作成するイメージ・カタログを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 イメージ・カタログの名前を指定します。

トップ

ディレクトリー (DIR)

このイメージ・カタログと関連したディレクトリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

パス名 イメージ・カタログのディレクトリーのパス名を指定します。シンボリック・リンクがパス名中に存在しない場合には、リンクが解決されて、絶対パスが使用されます。

*REFIMGCLG

新規イメージ・カタログでの参照として別のイメージ・カタログの名前を指定します。

注: 制限およびサポートされる使用に関しては、*REFIMGCLGパラメーターを使用して作成されるカタログの要件は複雑です。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)の「記憶域の解決」トピックを参照してください。

トップ

イメージ・カタログ・タイプ (TYPE)

作成するイメージ・カタログのタイプを指定します。

***OPT** 光ディスク・タイプのイメージ・カタログを作成するように指定します。このタイプのカタログで使用できるのは、光ディスク・イメージ・カタログの項目だけです。

***TAP** テープ・タイプのイメージ・カタログを作成するように指定します。このタイプのカタログで使用できるのは、テープ・イメージ・カタログの項目だけです。

トップ

ディレクトリーの作成 (CRTDIR)

ディレクトリー(DIRパラメーター)が存在しない場合に、それを作成する必要があるかどうかを指定します。

***YES** ディレクトリーが存在しない場合には、それが作成されます。作成されるディレクトリーは次の省略時の権限を持ちます。

ユーザー	データ 権限	オブジェクト権限			
		存在	MGT	ALTER	REF
*PUBLIC 所有者	*EXCLUDE *RWX	X	X	X	X

他のすべての属性については、CRTDIRコマンドで供給される省略時の値が選択されます。

***NO** ディレクトリーは作成されません。

トップ

参照イメージ・カタログ (REFIMGCLG)

新規イメージ・カタログの参照としてイメージ・カタログの名前を指定します。新規の従属イメージ・カタログには、従属イメージ・カタログの作成時に参照イメージ・カタログ中に存在するイメージ・カタログの項目が含まれます。参照イメージ・カタログに対する追加の変更は従属イメージ・カタログ中には反映されません。

このパラメーターが有効なのは、DIR(*REFIMGCLG)が指定された場合だけです。

名前 参照イメージ・カタログの名前を指定します。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

作成しているイメージ・カタログを簡単に記述するテキストを指定します。

*BLANK

テキスト記述はブランクとなります。

文字値 このイメージ・カタログの最大50文字までのテキストを指定します。

トップ

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB)で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のどのオブジェクトにも影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

例1:イメージ・カタログを作成

```
CRTIMGCLG  IMGCLG(MYCLG)  DIR('/MYDIR')
```


このコマンドは、光ディスク・タイプ・イメージ・カタログ**MYCLG**をライブラリー**QUSRSYS**に作成し、これにディレクトリー**MYDIR**を関連付けします。

例2:参照イメージ・カタログを使用したイメージ・カタログの作成

```
CRTIMGCLG  IMGCLG(MYCLG)  DIR(*REFIMGCLG) REFIMGCLG(MYCLG2)
```

このコマンドは、イメージ・カタログ**MYCLG2**に基づいて光ディスク・タイプ・イメージ・カタログ**MYCLG**をライブラリー**QUSRSYS**に作成し、これにイメージ・カタログ**MYCLG2**で指定されたディレクトリーを関連付けします。

例3:テープ・タイプ・イメージ・カタログの作成

```
CRTIMGCLG  IMGCLG(TAPECLG)  DIR('/TAPEDIR') TYPE(*TAP)
```

このコマンドは、テープ・タイプ・イメージ・カタログ**TAPECLG**をライブラリー**QUSRSYS**に作成し、これにディレクトリー**TAPEDIR**を関連付けします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPFBC02

イメージ・カタログ&1がライブラリー&2に作成されなかった。

CPFBC45

イメージ・カタログ&1が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

[トップ](#)

ジョブ記述作成 (CRTJOBBD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ記述作成 (CRTJOBBD)コマンドは、1つ以上のジョブで使用できるジョブ関連属性の特定セットを入れるジョブ記述オブジェクトを作成します。この属性によって、各ジョブがシステム上でどのように実行されるかが決まります。同じジョブ記述を複数のジョブで使用することができます。ジョブ記述中の値は、通常、バッチ・ジョブ (BCHJOB) およびジョブ投入 (SBMJOB)コマンドのパラメーターが指定されない場合に、それらの対応するパラメーターの省略時の値として使用されます。

ジョブ記述中の値は、BCHJOBおよびSBMJOBコマンドに指定した値によって一時変更することができます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - ジョブ記述を作成するライブラリーに対する読み取り(*READ)および追加(*ADD)権限。
 - ユーザー (USER)パラメーターに指定されたユーザー・プロファイルに対する使用(*USE)権限。
- *USRPRF以外の会計コードによってジョブ記述を作成するには、会計コード変更 (CHGACGCDE)コマンドに対する*USE権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOBBD	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前, QBATCH	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOBPTY	ジョブ優先順位(JOBQでの)	1-9, 5	オプション
OUTPTY	出力優先順位(OUTQでの)	1-9, 5	オプション
PRTDEV	印刷装置	名前, *USRPRF, *SYSVAL, *WRKSTN	オプション
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *USRPRF, *DEV, *WRKSTN その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
USER	ユーザー	名前, *RQD	オプション, 定位置 2
ACGCDE	会計コード	文字値, *USRPRF, *BLANK	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
PRTTXT	印刷テキスト	文字値, *SYSVAL, *BLANK	オプション
RTGDTA	経路指定データ	文字値, QCMDI, *RQSDTA	オプション
RQSDTA	要求データまたはコマンド	文字値, *NONE, *RTGDTA	オプション
INLLIBL	初期ライブラリー・リスト	単一値: *SYSVAL, *NONE その他の値 (最大 250 回の繰り返し): 名前	オプション
INLASGRP	初期ASPグループ	名前, *NONE	オプション
LOG	メッセージのロギング	要素リスト	オプション
	要素 1: レベル	0-4, <u>4</u>	
	要素 2: 重大度	0-99, <u>0</u>	
	要素 3: テキスト	*NOLIST, *MSG, *SECLVL	
LOGCLPGM	CL プログラム・コマンドのログ	*NO, *YES	オプション
LOGOUTPUT	ジョブ・ログ出力	*SYSVAL, *JOBLOGSVR, *JOBEND, *PND	オプション
JOBMSGQMX	ジョブ・メッセージ待ち行列最大サイズ	2-64, *SYSVAL	オプション
JOBMSGQFL	ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処置	*SYSVAL, *NOWRAP, *WRAP, *PRTWRAP	オプション
SYNTAX	CL構文検査	0-99, *NOCHK	オプション
ENDSEV	終了重大度	0-99, <u>30</u>	オプション
INQMSGRPY	照会メッセージ応答	*RQD, *DFT, *SYSRPYL	オプション
HOLD	ジョブ待ち行列上での保留	*NO, *YES	オプション
DATE	ジョブ日付	日付, *SYSVAL	オプション
SWS	ジョブ・スイッチ	文字値, <u>00000000</u>	オプション
DEVRCYACN	装置回復処置	*SYSVAL, *MSG, *DSCMSG, *DSCENDRQS, *ENDJOB, *ENDJOBNOLIST	オプション
TSEPOOL	タイム・スライス終了プール	*SYSVAL, *NONE, *BASE	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
ALWMLTTHD	マルチスレッド使用可能	*NO, *YES	オプション
SPLFACN	スプール・ファイル・アクション	*SYSVAL, *KEEP, *DETACH	オプション
DDMCNV	DDM会話	*KEEP, *DROP	オプション

トップ

ジョブ記述 (JOB D)

作成するジョブ記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ記述

名前 ジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドのライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、ライブラリーQGPLが使用されます。

名前 オブジェクトが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

このジョブ記述を使用する投入ジョブが入れられる省略時のジョブ待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。

修飾子1: ジョブ待ち行列

QBATCH

QBATCHジョブ待ち行列が、ジョブを入れる待ち行列となります。

名前 ジョブ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

注: ジョブ記述の作成時にジョブ待ち行列が存在していない場合には、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません (修飾されたジョブ待ち行列の名前がジョブ記述に保管されるため)。

[トップ](#)

ジョブ優先順位(JOBQでの) (JOBPTY)

このジョブ記述を使用するジョブに使用されるジョブ待ち行列スケジューリング優先順位を指定します。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

5 このジョブ記述を使用するジョブのスケジューリング優先順位は5です。

1から9 このジョブ記述を使用するジョブのスケジューリング優先順位を指定します。

[トップ](#)

出力優先順位(OUTQでの) (OUTPTY)

このジョブ記述を使用するジョブによって作成されるスプール出力ファイルの出力優先順位を指定します。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

5 このジョブ記述を使用して作成されるスプール・ファイルの出力優先順位は5です。

1から9 このジョブ記述を使用するジョブによって作成されるスプール出力ファイルの出力優先順位の値を1から9の範囲で指定してください。最高の優先順位は1で、最低の優先順位は9です。

トップ

印刷装置 (PRTDEV)

このジョブの省略時の印刷装置の修飾名を指定します。出力を作成するために使用される印刷装置ファイルでファイルをスプールするように指定している場合には、スプール・ファイルが装置の出力待ち行列に入れます。この出力待ち行列の名前は装置と同じです。

注: これは、省略時の値が印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションの出力待ち行列 (OUTQ)パラメーターに指定されているものとみなしています。

*USRPRF

このジョブ記述を使用するジョブの印刷装置名は、ジョブが開始された時にジョブと関連したユーザー・プロファイルから取られます。

*SYSVAL

ジョブが開始された時のシステム値QPRTDEVの値が印刷装置として使用されます。

*WRKSTN

このジョブ記述で使用される印刷装置は、ジョブが開始される時のジョブに対応したワークステーションに割り当てられている印刷装置です。

名前 このジョブ記述を使用するジョブによって使用される印刷装置を指定します。

トップ

出力待ち行列 (OUTQ)

このジョブ記述を使用するジョブの省略時の出力待ち行列として使用される出力待ち行列の名前およびライブラリーを指定します。このパラメーターは、出力待ち行列に*JOBを指定するスプール印刷装置ファイルに対してのみ適用されます。

単一値

*USRPRF

このジョブ記述を使用するジョブの出力待ち行列名は、ジョブを開始した時にジョブと関連したユーザー・プロファイルから獲得されます。

***DEV** 印刷装置ファイルの装置 (DEV)パラメーターに指定された印刷装置と関連した出力待ち行列が使用されます。この出力待ち行列の名前は印刷装置と同じです。印刷装置ファイルのDEVパラメーターは、印刷装置ファイル作成 (CRTPRTF)、印刷装置ファイル変更 (CHGPRTF)、または印刷装置ファイル一時変更 (OVRPRTF)コマンドによって決定されます。

注: これは、印刷装置ファイル、ジョブ記述、ユーザー・プロファイル、およびワークステーションのOUTQパラメーターに省略時の値が指定されていることを前提としています。

*WRKSTN

このジョブ記述で使用される出力待ち行列は、ジョブが開始された時点でそのジョブに関連付けられるワークステーションに割り当てられている出力待ち行列です。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 このジョブ記述で使用する出力待ち行列の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

注: ジョブ記述の作成時に出力待ち行列が存在していない場合には、ライブラリー修飾子を指定しなければなりません (修飾された出力待ち行列名がジョブ記述に保管されるため)。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

ユーザー (USER)

このジョブ記述に関連したユーザー・プロファイルの名前を指定します。名前QSECOFR, QSPL, QDOC, QDBSHR, QRJE, QSYS, QLPAUTO, QLPINSTALL, QTSTRQS,およびQDFTOWNは、このパラメーターに有効な項目ではありません。

***RQD** ジョブ記述を使用するためには、ユーザー名が必要です。ワークステーション項目の場合には、ワークステーションでサインオンする時にユーザー名を入力しなければなりません。関連するユーザー名がジョブに使用される名前となります。自動始動ジョブ項目またはバッチ・ジョブ (BCHJOB) コマンドによって使用される項目に指定されるジョブ記述の場合には、*RQDは有効ではありません。これがジョブ投入 (SBMJOB)コマンドで有効なのは、*CURRENTがユーザー (USER)パラメーターに指定されている場合だけです。

名前 このジョブ記述を使用するバッチ・ジョブに対応したユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。対話式ジョブの場合には、これは、ユーザー名を入力せずにシステムにサインオンするために使用する省略時のユーザー名となります。

トップ

会計コード (ACGCDE)

この記述を使用するジョブのシステム資源の使用状況を記録する時に使用される会計コードを指定します。ジョブがジョブ投入 (SBMJOB)コマンドによって投入された場合には、送信者の会計コードが使用されます。*USRPRF以外の会計コードを指定するには、会計コード変更 (CHGACGCDE)コマンドが許可されていなければなりません。

*USRPRF

このジョブ記述を使用するジョブの会計コードは、ジョブと関連したユーザー・プロファイルから獲得されます。

*BLANK

このジョブ記述を使用するジョブに15個のブランクの会計コードが割り当てられます。

文字値 このジョブ記述を使用して、その会計統計がシステム会計ジャーナルQACGJRNに記録されるジョブの会計コードを指定します。15文字未満を入力した場合には、ストリングの右側にブランクが埋め込まれます。

[トップ](#)

印刷テキスト (PRTTXT)

各ページの最後での1行のテキストの印刷を指定します。

*SYSVAL

システム値QPRTTXT中の値が使用されます。

*BLANK

テキストは印刷されません。

文字値 各ページの最後に印刷する文字ストリングを指定してください。最大30文字までをアポストロフィで囲んで入力することができます。

[トップ](#)

経路指定データ (RTGDTA)

ジョブを開始するためにこのジョブ記述で 사용되는ルーティング・データを指定します。

QCMDI

ジョブを、QSYSライブラリー中のIBM提供の制御言語処理プログラム(QCMD)に経路指定するために、IBM提供の対話式サブシステムが省略時のルーティング・データQCMDIを使用します。

*RQSDTA

要求データまたはコマンド (RQSDTA)パラメーターに指定された最初の80文字までの要求データがジョブのルーティング・データとして使用されます。

文字値 このジョブ記述を使用するジョブのルーティング・データを指定します。最大80文字を（必要であればアポストロフィで囲んで）入力することができます。

[トップ](#)

要求データまたはコマンド (RQSDTA)

このジョブ記述を使用するジョブのジョブ・メッセージ待ち行列の最後の項目として入れられる要求データを指定します。

*NONE

このジョブのメッセージ待ち行列には要求データは入りません。

*RTGDTA

経路指定データ (RTGDTA)パラメーターに指定されたルーティング・データがジョブのメッセージ待ち行列の最後の項目として入れられます。

文字値 単一の要求としてジョブのメッセージ待ち行列の最後の項目として入れられる文字ストリングを指定してください。最大256文字を入力することができます（必要な場合には、アポストロフィで囲んでください）。CLコマンドを入力する場合には、これを単一アポストロフィで囲まなければならないが、アポストロフィが通常使用されるコマンドの中では、アポストロフィを2重にしなければなりません。

[トップ](#)

初期ライブラリー・リスト (INLLIBL)

このジョブ記述を使用するジョブに使用されるライブラリー・リストの初期ユーザー部分を指定します。

注: ライブラリー・リスト内でのライブラリー名の重複は許されません。

単一値

*SYSVAL

このジョブ記述を使用するジョブにシステムの省略時のライブラリー・リストが使用されます。この省略時のライブラリー・リストには、このジョブ記述を使用するジョブが開始される時点でシステム値QUSRLIBLに指定されたライブラリー名が入っています。

*NONE

ライブラリー・リストのユーザー部分は空です。システム部分だけが使用されます。

その他の値（最大250個指定可能）

名前 このジョブ記述を使用するジョブに使用されるライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーを指定します。

注: ライブラリーは、ここにリストされたのと同じ順序で検索されます。

[トップ](#)

初期ASPグループ (INLASPGRP)

このジョブ記述を使用するジョブの初期スレッドに、補助記憶域プール(ASP)グループ名の初期設定を指定します。スレッドは、ASPグループの設定 (SETASPGRP)コマンドを使用して、そのライブラリー名スペースを変更できます。ASPグループがスレッドと関連付けられた場合は、それらのASPグループの独立ASP中のすべてのライブラリーがアクセス可能となり、これらのライブラリー中のオブジェクトは正規のライブラリー修飾オブジェクト名の構文を使用して参照することができます。指定されたASPグループの独立ASPの

ライブラリーと、システムASP (ASP番号1)および基本ユーザーASP (ASP番号2から32)とをプラスしたものが、そのスレッドのライブラリー・ネーム・スペースを形成します。

制約事項:

1. ジョブ記述QGPL/QDFTJOBIDおよびQGPL/QDFTSVRは、ASPグループ名を指定するために変更できません。これらのジョブ記述の場合は、INLASPGRPは*NONEでなければなりません。

*NONE

このジョブ記述を使用するジョブの初期スレッドがASPグループなしで開始されることを指定します。ライブラリー・ネームスペースには、どのASPグループからのライブラリーも入れられません。ライブラリー・ネーム・スペースに入れられるのは、システムASPおよび基本ユーザーASPのライブラリーだけです。

名前 このジョブ記述を使用するジョブの初期スレッドに、ASPグループの名前が設定されることを指定します。このASPグループ名は、そのASPグループ中の1次ASP装置の名前です。このASPグループ中のすべてのASPからのすべてのライブラリーがライブラリー・ネーム・スペースに入れられます。

トップ

メッセージのロギング (LOG)

このジョブによってジョブ・ログに送られる情報の量およびタイプを決定するために使用されるメッセージのロギング値を指定します。このパラメーターには、メッセージ（またはロギング）レベル、メッセージ重大度、およびメッセージ・テキストのレベルという3つの要素があります。

要素1: レベル

4 このジョブ記述を使用するジョブに対して、メッセージ・ロギング・レベル4が使用されます。

0から4 ジョブのメッセージに使用されるメッセージ・ロギング・レベルを指定します。

0 メッセージは記録されません。

1 ジョブの外部メッセージ待ち行列に送られる、重大度がメッセージ・ロギング重大度以上であるすべてのメッセージが記録されます。これには、ジョブ開始、ジョブ終了、およびジョブ完了状況の指示が含まれます。

2 次の情報が記録されます。

- ロギング・レベル1の情報
- このメッセージ・ログ重大度より大きいか等しい重大度コードの高レベル・メッセージを出す結果となる要求メッセージです。要求メッセージと、関連したすべてのメッセージの両方が記録されます。

注: 高レベル・メッセージとは、要求メッセージを受け取るプログラムのプログラム・メッセージ待ち行列に送られるメッセージのことです。たとえば、QCMDは、要求メッセージを受け取るIBM提供の要求処理プログラムです。

3 次の情報が記録されます。

- ロギング・レベル1と2の情報
- すべての要求メッセージ
- CLプログラムで実行されるコマンド(CLプログラム・ジョブ属性のロギングおよびCLプログラムのログ属性で許可されている場合)。

4 次の情報が記録されます。

- すべての要求メッセージと、重大度がメッセージ・ロギング重大度以上であるすべてのメッセージ（トレース・メッセージを含む）。
- CLプログラムで実行されるコマンド（CLプログラム・ジョブ属性のロギングおよびCLプログラムのログ属性で許可されている場合）。

要素2: 重大度

0 このジョブ記述を使用するジョブに対して、メッセージ重大度レベル0が使用されます。

0から99

ジョブ・ログに記録されるエラー・メッセージを決定するために、ロギング・レベルと一緒に使用されるメッセージ重大度レベルを指定します。

要素3: テキスト

*NOLIST

ジョブが異常終了した場合には、ジョブ・ログは作成されません。ジョブが異常終了した場合（ジョブ終了コードが20以上である場合）には、ジョブ・ログが作成されます。ジョブ・ログに表示されるメッセージには、メッセージ・テキストとメッセージ・ヘルプの両方が含まれています。

*MSG メッセージ・テキストだけがジョブ・ログに書き出されます。

*SECLVL

エラー・メッセージのメッセージ・テキストとメッセージ・ヘルプ(原因と回復)の両方がジョブ・ログに書き出されます。

トップ

CL プログラム・コマンドのログ (LOGCLPGM)

制御言語プログラムで実行されたコマンドの中で、記録することのできるコマンドを、CLプログラムのメッセージ待ち行列を経由してジョブ・ログに記録するかどうかを指定します。このパラメーターは、ジョブのロギング・フラグの状況をセットします。*NOを指定した場合には、ロギング・フラグ状況は**オフ**となり、CLコマンドは記録されません。ここで*YESを指定し、CLプログラム作成 (CRTCLPGM)コマンドの**メッセージのロギング (LOG)**パラメーターに*JOBを指定した場合には、CLプログラム中の記録可能なすべてのコマンドがジョブ・ログに記録されます。

*NO CLプログラム中のコマンドはジョブ・ログに記録されません。

*YES CLプログラム中のコマンドはジョブ・ログに記録されます。

トップ

ジョブ・ログ出力 (LOGOUTPUT)

ジョブの完了時にジョブ・ログが作成される方法を指定します。これは、メッセージ待ち行列がフルであり、ジョブ・メッセージ待ち行列フル・アクションが*PRTWRAPを指定する時に作成されたジョブ・ログに影響しません。ジョブ・メッセージ待ち行列のメッセージはスプール・ファイルに書き込まれます。ジョブ・ログのメッセージがデータベース・ファイルに書き込まれることを指定するジョブでジョブ・ログ出力の制御(QMHCTLJL) APIが使用されない限り、このスプール・ファイルからジョブ・ログを印刷できます。

ジョブ・ログ出力値は、ジョブ・ログが作成または除去されるまで、任意の時点で変更できます。ジョブのジョブ・ログ出力値を変更するには、ジョブの変更(QWTCHGJB) APIまたはジョブの変更(CHGJOB)コマンドを使用してください。

ジョブ・ログは、ジョブ・ログが作成または除去されるまで、任意の時点で表示できます。ジョブ・ログを表示するには、ジョブ・ログの表示(DSPJOBLOG)コマンドを使用してください。

ジョブ・ログは、ジョブが完了して、ジョブ・ログがまだ作成または除去されていない時に除去できます。ジョブ・ログを除去するには、保留ジョブ・ログの除去(QWTRMVJL) APIまたはジョブの終了(ENDJOB)コマンドを使用してください。

***SYSVAL**

システム値QLOGOUTPUTに指定された値が使用されます。

***JOBLOGSVR**

ジョブ・ログは、ジョブ・ログ・サーバーによって作成されます。ジョブ・ログ・サーバーの詳細については、ジョブ・ログ・サーバーの開始(STRLOGSVR)コマンドを参照してください。

***JOBEND**

ジョブ・ログは、ジョブそのものによって作成されます。ジョブがその固有のジョブ・ログを作成できない場合は、ジョブ・ログはジョブ・ログ・サーバーによって作成されます。たとえば、システムがシステムの電源遮断(PWRDWN SYS)コマンドを処理している時には、ジョブはその固有のジョブ・ログを作成しません。

***PND** ジョブ・ログは作成されません。ジョブ・ログは除去されるまで保留で残されます。

[トップ](#)

ジョブ・メッセージ待ち行列最大サイズ (JOBMSGQMX)

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズを指定します。

***SYSVAL**

ジョブ開始時のQJOBMSGQMX (システム値) の値がジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズとして使用されます。

2から64

ジョブ・メッセージ待ち行列の最大サイズ (メガバイト数) を指定します。

[トップ](#)

ジョブ・メッセージ待ち行列満杯処置 (JOBMSGQFL)

ジョブ・メッセージ待ち行列がいっぱいになった時に取る処置を指定します。

***SYSVAL**

QJOBMSGQFLシステム値に指定された値が使用されます。

***NOWRAP**

いっぱいになった時にメッセージ待ち行列は折り返しません。この処置でジョブが終了します。

***WRAP**

メッセージ待ち行列は、いっぱいになると、メッセージ待ち行列の始めに折り返し、再びメッセージが入れ始められます。

*PRTWRAP

メッセージ待ち行列がいっぱいになった時には、ジョブ・メッセージ待ち行列の折り返しが行われ、折り返しによってオーバーレイされたメッセージが印刷されます。

[トップ](#)

CL構文検査 (SYNTAX)

(このジョブ記述を使用するジョブの場合) ジョブ・メッセージ待ち行列に入れられた要求をCLコマンドとして構文検査するかどうかを指定します。構文検査が指定された時には、ジョブの実行時にはなくコマンド投入時にコマンドの構文が検査されます。これによって、構文エラーをより早く診断できるようになります。検査が指定されている場合には、構文エラーのためにジョブの処理が終了するメッセージ重大度も指定することができます。

*NOCHK

要求データはCLコマンドとして構文検査されません。

0から99

ジョブの実行を終了させることができる最低のメッセージ重大度を指定します。要求データはCLコマンドとして構文検査されます。ここで指定するエラー・メッセージ重大度より大きいか等しい構文エラーが発生した場合には、エラーのあるコマンドが入っているジョブの実行が禁止されます。

[トップ](#)

終了重大度 (ENDSEV)

バッチ・ジョブ終了の原因となるエスケープ・メッセージのメッセージ重大度レベルを指定します。バッチ入力ストリーム中の要求が、要求処理プログラムQCMDまたはQCLに送られ、その結果としてエスケープ・メッセージが出され、その重大度がここで指定したレベルより大きいか等しい時に、バッチ・ジョブが終了します。このパラメーター値が比較される重大度は、バッチ・ジョブ中の非コンパイルCLコマンドの結果として出され、モニターされないエスケープ・メッセージの重大度です。

30 バッチ入力ストリーム要求によって結果的に重大度が30より大きいか等しいエスケープ・メッセージが出されると、ジョブが終了します。

0から99

バッチ入力ストリーム中の要求の結果として出される、このジョブ記述を使用するジョブを終了させるエスケープ・メッセージのメッセージ重大度を指定します。エスケープ・メッセージは特徴として最大重大度レベル50を持つので、エスケープ・メッセージの結果としてジョブを終了させるためには、50またはそれ以下の値を指定しなければなりません。指定された値より大きいか等しい重大度レベルを持つ、ここでは扱われていないエスケープ・メッセージが出されると、ジョブが終了します。

[トップ](#)

照会メッセージ応答 (INQMSGRPY)

このジョブ記述を使用するジョブで照会メッセージに回答する方法を指定します。通常の方法で照会メッセージに回答するか、省略時の回答を出すか、あるいは一定の条件が満たされた場合に、その条件に基づいて照会メッセージに回答を出すように指定することができます。満たされた条件は、システム応答リスト項目追加 (ADDRPYLE)コマンドのシステム応答リスト項目にリストされます。

***RQD** このジョブ記述を使用するジョブによって出される事前定義の照会メッセージに回答が必要です。

***DFT** このジョブ記述を使用するジョブの実行中に出力される事前定義の照会メッセージに省略時の回答が使用されます。省略時の回答は、メッセージ記述に定義されるか、あるいは省略時のシステムの回答です。

***SYSRPYL**

項目がこのジョブ記述を使用するジョブによって出された照会メッセージのメッセージIDおよび任意の比較値に一致するかどうかを判別するためには、システム応答リストが検査されます。一致があった場合には、その応答リスト項目の応答値が使用されます。そのメッセージに項目が存在していない場合には、回答が必要です。

[トップ](#)

ジョブ待ち行列上での保留 (HOLD)

このジョブ記述を使用するジョブが保留状態でジョブ待ち行列に入れられるかどうかを指定します。保留状態でジョブ待ち行列に入れられたジョブは、ジョブ解放 (RLSJOB)コマンドによって解放されるか、あるいはジョブ終了 (ENDJOB)コマンドかジョブ待ち行列消去 (CLRJOBQ)コマンドのいずれかによってそれが終了されるまで、保留されます。

***NO** このジョブ記述を使用するジョブは、ジョブ待ち行列に入れられる時に保留されません。

***YES** このジョブ記述を使用するジョブは、ジョブ待ち行列に入れられる時に保留されます。

[トップ](#)

ジョブ日付 (DATE)

ジョブ開始時にこのジョブ記述を使用するジョブに割り当てられる日付を指定します。

***SYSVAL**

ジョブの開始時のQDATEシステム値の値が、ジョブ日付として使用されます。

日付 開始するジョブのジョブ日付を指定します。DATFMTジョブ属性に現在指定されている形式を使用しなければなりません。

[トップ](#)

ジョブ・スイッチ (SWS)

このジョブ記述を使用するジョブで使用される8個のジョブ・スイッチの初期設定値を指定します。これらのスイッチはCLプログラムの中で設定またはテストすることができ、これらのスイッチを使用してプログラムの流れを制御することができます。各単一桁スイッチに有効な値は、0 (オフ) または1 (オン) だけです。

00000000

このジョブ記述を使用するジョブについてのジョブ・スイッチの最初の設定値は、全桁ゼロです。

文字値 ジョブ・スイッチの設定値を変更するための8個の0と1の組み合わせを（必要であればアポストロフィで囲んで）指定してください。

トップ

装置回復処置 (DEVRCYACN)

このジョブ記述を使用する対話式ジョブの*REQUESTOR装置で入出力エラーが見つかった時にそのジョブに対して取られる回復処置を指定します。非対話式ジョブの場合には、この属性は無視されます。

***SYSVAL**

ジョブが開始された時のシステム値QDEVRCYACNの値が、このジョブ記述に対する装置回復処置として使用されることとなります。

***MSG** 入出力操作を要求するアプリケーション・プログラムは、操作が正常に実行されなかったことを示すエラー・メッセージを受け取ります。

***DSCMSG**

ジョブは自動的に切り離されます。ジョブは、再接続されると、入出力エラーが起こったが、装置が回復されていることを示すエラー・メッセージを受け取ります。装置は回復されていますが、エラーの前の画面の内容を再表示しなければなりません。

***DSCENDRQS**

ジョブは自動的に切り離されます。ジョブが一度再接続されると、前の要求を出した処理プログラムを指定する要求終了 (ENDRQS)コマンドが出されます。要求処理プログラムがない場合には、エラー・メッセージが出されます。

***ENDJOB**

ジョブは*IMMEDオプションで終了します。このジョブのジョブ・ログが作成されます。

***ENDJOBNO LIST**

ジョブは*IMMEDオプションで終了します。このジョブのジョブ・ログは作成されません。

トップ

タイム・スライス終了プール (TSEPOOL)

対話式ジョブがタイム・スライスの終わりに達した時にそれらを別の主記憶域プールに移すかどうかを指定します。長時間待ちが起こった時には、ジョブは、最初に実行されていたプールに戻されます。これは、他の対話式ジョブの対話式応答時間に対する影響を最小限にするのに役立ちます。

***SYSVAL**

ジョブが開始された時のシステム値QTSEPOOLの値が、このジョブ記述のタイム・スライス終了時のプールの処置として使用されることとなります。

***NONE**

タイム・スライスの終わりに達した時に、ジョブは移動されません。

***BASE**

タイム・スライスの終わりに達した時に、ジョブは基本プールに移されます。

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

オブジェクトに対する権限は、そのオブジェクトが作成されているライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値と同じです。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のどのオブジェクトにも影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーはオブジェクトに対して基本的な操作（たとえば内容の表示など）を実行できます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。*USE権限は、オブジェクト操作権限、読み取り権限、および実行権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限に使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

マルチスレッド使用可能 (ALWMLTTHD)

ジョブを複数のユーザー・スレッドで実行できるかどうかを指定します。この属性によって、オペレーティング・システムがジョブの中でシステム・スレッドを作成することが妨げられることはありません。ジョブを開始してからは、このジョブ属性を変更することはできません。この属性は、自動始動ジョブ、事前開始ジョブ、ジョブ・スケジュール項目から投入されたバッチ・ジョブ、そしてジョブ投入 (SBMJOB)およびバッチ・ジョブ (BCHJOB)コマンドを使用して開始されたジョブに適用されます。他のすべてのタイプのジョブを開始する時には、この属性は無視されます。この属性を*YESに設定する必要があるのは、複数のユーザー・スレッドを作成する機能で排他的に使用するジョブ記述の場合だけです。

***NO** このジョブは、複数のユーザー・スレッドで実行することはできません。

***YES** このジョブは、複数のユーザー・スレッドで実行することができます。

トップ

スプール・ファイル・アクション (SPLFACN)

ジョブの終了後にジョブ・インターフェースを介してスプール・ファイルにアクセスするかどうかを指定します。スプール・ファイルをジョブで保持すると、ジョブの終了後であっても、投入ジョブ処理 (WRKSBMJOB) コマンドなどのジョブ・コマンドによってスプール・ファイルを処理することができます。ジョブからスプール・ファイルを切り離すと、ジョブの終了時にジョブ構造のリサイクルが可能になるためにシステム資源の使用が削減されます。

***SYSVAL**

システム値QSPLFACNに指定された値が使用されます。

***KEEP**

ジョブの終了時に、そのジョブについて少なくとも1つのスプール・ファイルがシステム補助記憶域プール(ASP 1)または基本ユーザーASP (ASP 2から32)に存在している場合には、スプール・ファイルはジョブで保持され、ジョブが完了したことを示すようにそのジョブの状況が更新されます。ジョブの残りのスプール・ファイルがすべて独立ASP (ASP 33から255)に入っていると、それらのスプール・ファイルはジョブから切り離され、ジョブはシステムから除去されます。

***DETACH**

ジョブが終了すると、スプール・ファイルはジョブから切り離されて、そのジョブはシステムから除去されます。

トップ

DDM会話 (DDMCNV)

分散データ管理機能(DDM)プロトコルを使用する接続が、使用中でない時に活動状態のままかどうかを指定します。この接続には、APPCの会話、活動TCP/IPの会話、またはOPTICONNECT接続が含まれます。DDMプロトコルは、分散リレーショナル・データベース・アーキテクチャー(DRDA)アプリケーション、DDMアプリケーション、またはDB2マルチシステム・アプリケーションで使用されます。分散データ管理機能の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))を参照してください。

***KEEP**

システムは、次の場合を除いて、もはや使用されていない場合であってもDDM会話の接続を活動状態に保ちます。

- ルーティング・ステップがソース・システムで終了した。
- DDM会話再利用 (RCLDDMCNV) コマンドまたは資源再利用 (RCLRSC) コマンドを使用して、会話を切り離す明示的な要求がある。
- 通信障害または内部的な障害がある。
- ISERIESで実行されていないアプリケーション・サーバーに対するDRDA接続が終了する。

***DROP**

システムは、DDM割り振り会話がもはや使用されなければ、それを終了します。たとえば、アプリ

セッションがDDMファイルをクローズする時、あるいは DRDAアプリケーションがSQL DISCONNECTステートメントを実行する時などです。

トップ

例

例1:対話式ジョブのジョブ記述の作成

```
CRTJOBDB  JOBDB(INT4)  USER(*RQD)  RTGDTA(QCMDI)
           INQMSGRPY(*SYSRPYL)
           TEXT('INTERACTIVE #4 JOBDB FOR DEPARTMENT 127')
```

このコマンドは、ユーザーの現行ライブラリーにINT4という名前のジョブ記述を作成します。このジョブ記述は、対話式ジョブ用であり、部門127 (DEPARTMENT 127)で使用されます。サインオンする時には、パスワードを入力しなければなりません。ジョブが実行されるサブシステムの経路指定テーブルと比較される経路指定データとして、文字QCMDIが使用されます。すべての照会メッセージがシステム応答リストの項目と比較され、応答を自動的に出すかどうかが決まります。

例2:指定した待ち行列上のジョブのジョブ記述の作成

```
CRTJOBDB  JOBDB(BATCH3)  USER(*RQD)  JOBQ(NIGHTQ)  JOBPY(4)
           OUTPTY(4)  ACGCDE(NIGHTQ012345)  RTGDTA(QCMDB)
           TEXT('BATCH #3 JOBDB FOR HIGH PRIORITY NIGHT WORK')
```

このコマンドは、ユーザーの現行ライブラリーにBATCH3という名前のジョブ記述を作成します。この記述を使用するジョブはジョブ待ち行列NIGHTQに入れられます。この記述とそのスプール出力を使用するジョブの優先順位は4です。QCMDB は、ジョブが実行されるサブシステムの経路指定テーブルの項目と比較される経路指定データです。このジョブ記述を使用するジョブの会計統計の記録時には、NIGHTQ012345の会計コードが使用されます。

例3:要求データの指定

```
CRTJOBDB  JOBDB(PAYWK)  USER(QPGMR)  RTGDTA(QCMDB)
           RQSDTA('CALL PAY025 PARM(WEEKLY UNION)')
```

このコマンドは、ユーザーの現行ライブラリーにPAYWKという名前のジョブ記述を作成します。このジョブ記述を使用するジョブは、プログラマーのためのIBM提供のユーザー・プロファイルQPGMRの下で実行され、そのユーザー・プロファイルにある会計コードを使用します。ジョブがSBMJOBコマンドを介して開始された場合には、そのコマンドを投入した担当者の会計コードが自動的に使用されます。経路指定データQCMDBが、ジョブが実行されるサブシステムの経路指定テーブルの項目と比較されます。コマンド処理プログラムに渡される要求データは、実行されるアプリケーション・プログラムの名前を指定し、そのプログラムにパラメーターを渡すCALLコマンドです。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1621

ジョブ記述&1がライブラリー&2に作成されなかった。

トップ

ジョブ待ち行列作成 (CRTJOBQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ待ち行列作成(CRTJOBQ)コマンドは新しいジョブ待ち行列を作成します。ジョブ待ち行列には、システムによって処理されるのを待っているジョブの項目が入ります。次のいずれかのコマンドを使用することにより、ジョブ待ち行列にジョブを入れることができます。

- データベース読み取りプログラム開始(STRDBRDR)
- ディスケット読み取りプログラム開始(STRDKTRDR)
- 印刷装置書出プログラム開始(STRPRTWTR)
- ディスケット書き出しプログラム開始(STRDKTWTR)
- ジョブ投入(SBMJOB)
- データベース・ジョブの投入(SBMDBJOB)
- ディスケット・ジョブ投入(SBMDKTJOB)
- ジョブ転送(TFRJOB)

新しいジョブ待ち行列を作成した後、その項目を適切なサブシステム記述に追加しなければなりません。それにはジョブ待ち行列項目追加(ADDJOBQE)コマンドを使用してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
OPRCTL	操作員制御	*YES, *NO	オプション, 定位置 2
AUTCHK	検査権限	*OWNER, *DTAAUT	オプション
AUT	権限	名前, *USE, *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

作成するジョブ待ち行列を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ待ち行列

名前 作成するジョブ待ち行列に付けたい名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

ジョブ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジョブ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

注: 一時ライブラリーQTEMPは有効なライブラリー名ではありません。ジョブ待ち行列は永続ライブラリー内になければなりません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

操作員制御 (OPRCTL)

ジョブ制御権限を持つユーザーに、このジョブ待ち行列の制御を許可するかどうかを指定します。

***YES** ジョブ制御権限を持つユーザーは、待ち行列を制御することができます。

***NO** ジョブ制御権限を持つユーザーは、他の特殊権限も持っている場合を除いて、この待ち行列を制御することはできません。

[トップ](#)

検査権限 (AUTCHK)

ジョブ待ち行列に対してどのタイプの権限を持つユーザーが、ジョブ待ち行列を保留または解放することによって待ち行列を制御できるかを指定します。特殊権限を持つユーザーもジョブ待ち行列を制御できる場合があります。

***OWNER**

ジョブ待ち行列権限テストを通過するためには、要求元はジョブ待ち行列に対する所有権限を必要

とします。要求側は、ジョブ待ち行列の所有者となるか、グループ・プロファイルジョブ待ち行列所有者と共用するか、あるいはジョブ待ち行列所有者の権限を借用するプログラムを実行することによって所有権を持つことができます。

***DTAAUT**

ジョブ待ち行列に対して追加、読み取り、および削除の各権限を持つユーザーが待ち行列を制御することができます。

トップ

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

***USE** 使用権限は、ジョブ待ち行列にジョブを投入するなど、待ち行列に対して基本的な操作を実行することをユーザーに許可します。

***CHANGE**

*DTAAUTが**検査権限 (AUTCHK)**パラメーターに指定された場合には、変更権限によって、ユーザーは他のユーザーが投入したジョブを制御することができます。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

オブジェクトに対する権限は、そのオブジェクトが作成されているライブラリーの**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値と同じです。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のどのオブジェクトにも影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限に使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。この権限リストはオブジェクトの作成時に存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTJOBQ  JOBQ(DEPTA)  AUT(*EXCLUDE)
          TEXT('SPECIAL QUEUE FOR DEPT A JOBS')
```

このコマンドは、DEPTAという名前のジョブ待ち行列を作成し、それを現行ライブラリーに書き込みます。AUT(*EXCLUDE)が指定され、OPRCTL(*YES)とみなされているので、このジョブ待ち行列は、待ち行列を作成したユーザーおよびジョブ制御権限(*JOBCTL)を持っているユーザーによってのみ使用され、制御されます。また、スプール制御権限(*SPLCTL)を持っているユーザーも待ち行列を制御できます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2192

オブジェクト&1をライブラリー&3に作成することはできない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3323

ジョブ待ち行列&1はすでに&2に存在している。

CPF3351

一時ライブラリー&1はジョブ待ち行列&2に対して正しくない。

CPF3354

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3356

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF3371

スプール・ユーザー・プロファイルQSPLに損傷があるか、または見つからない。

CPF9818

オブジェクト&2はライブラリー&3に作成されなかった。

[トップ](#)

ジャーナル作成 (CRTJRN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル作成(CRTJRN)コマンドは、ジャーナルを指定された属性を持つローカル・ジャーナルとして作成し、指定されたジャーナル・レシーバーをジャーナルに接続します。ジャーナルが作成されると、オブジェクト変更はそれに対してジャーナル処理することができるか、あるいはユーザー項目をそこに送ることができます。作成されたジャーナルの状態は*ACTIVEになります。

制約事項:

- ライブラリーQTEMPの中にジャーナルを作成することはできません。
- 指定されるレシーバーはこのコマンドを出す前に作成されていなければならず、しかも空でなければなりません（すなわち、レシーバーは以前にジャーナルに接続されていないか、あるいはジャーナルへの接続の処理中でなければなりません）。
- このコマンドは、リモート・ジャーナルを作成するために使用することができません。ADDRMTJRN (リモート・ジャーナル追加)コマンドの説明またはISERIES INFORMATION CENTERのサイト [HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter)で、API解説（英文）のリモート・ジャーナル追加(QJOADDREMOTEJOURNAL) APIを参照してください。
- RCVSIPOPTパラメーターからの*MAXOPTの値の1つがジャーナルに対して有効でない場合には、接続されているジャーナル・レシーバーに指定できる最大しきい値は1,919,999キロバイトです。
- ジャーナルを入れるライブラリーが独立ASP上にある場合には、指定するジャーナル・レシーバーはジャーナルのライブラリーと同じASPグループ内の独立ASP上になければなりません。同様に、ジャーナルを入れるライブラリーが独立ASP上にない場合には、指定するジャーナル・レシーバーを独立ASP上に置くことはできません。
- ジャーナルを入れるライブラリーが独立ASP上にある場合には、ASP(*LIBASP)を指定しなければなりません。
- RCVSIPOPT(*MINFIXLEN)およびFIXLENDTAをシステム機密保護監査ジャーナルQSYS/QAUDJRNに使用することはできません。機密保護監査ジャーナルのジャーナル項目は、監査目的に使用できるすべてのデータを入れるために必要です。
- JRNOBJLMT(*MAX10M)が有効なのは、RCVSIPOPTパラメーターに*MAXOPTの値の1つが指定されている場合だけです。
- JRNOBJLMT(*MAX10M)は、ジャーナルに指定されると、変更することができません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JRN	ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
JRNRVCV	ジャーナル・レシーバー	値 (最大 2 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ASP	ASP番号	1-32, *LIBASP	オプション
MSGQ	ジャーナル・メッセージ待ち行列	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ジャーナル・メッセージ待ち行列	名前, <u>QSYSOPR</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MNGRCV	レシーバーの管理	*SYSTEM, *USER	オプション
DLTRCV	レシーバーの削除	*NO, *YES	オプション
RCVSIZOPT	レシーバー・サイズ・オプション	単一値: *SYSDFT, *NONE その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *RMVINTENT, *MINFIXLEN, *MAXOPT1, *MAXOPT2, *MAXOPT3	オプション
MINENTDTA	項目固有のデータの最小化	単一値: *NONE その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *FILE, *FLDBDY, *DTAARA	オプション
JRNCACHE	ジャーナル・キャッシング	*NO, *YES	オプション
MNGRCVDLY	受信側遅延時間の管理	1-1440, <u>10</u>	オプション
DLTRCVDLY	受信側遅延時間の削除	1-1440, <u>10</u>	オプション
FIXLENTA	固定長データ	単一値: *JOBUSRPGM その他の値 (最大 9 回の繰り返し): *JOB, *USR, *PGM, *PGMLIB, *SYSSEQ, *RMTADR, *THD, *LUW, *XID	オプション
JRNOBJLMT	ジャーナル・オブジェクト限界	*MAX250K, *MAX10M	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

トップ

ジャーナル (JRN)

作成されるジャーナルの修飾名を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル

ジャーナル名

作成されるジャーナルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

ジャーナルは、ジョブの現行ライブラリー内に作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナルが作成されるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)

指定したジャーナルに接続するジャーナル・レシーバーを指定します。

ジャーナル・レシーバーは2つまで接続できますが、2番目のジャーナル・レシーバーは無視されます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル・レシーバー

レシーバー名

ジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

ジャーナル・レシーバーは、以前にジャーナルに接続されたことがないか、あるいはジャーナルへの接続の処理中でない必要があります。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ASP番号 (ASP)

システムがジャーナル用の記憶域を割り振る補助記憶域プール(ASP)を指定します。

***LIBASP**

ジャーナルの記憶域スペースは、ジャーナルのライブラリーの記憶域スペースとして同じ補助記憶域プールから割り振られます。この値は、独立ユーザーASP内にジャーナルが必要な場合に使用します。

ASP ID

ジャーナルの記憶域スペースを割り振るASPのIDを指定するには、1から32の範囲内で値を指定します。有効な値は、システムでのASPの定義方法によって異なります。ジャーナルを基本非ライブラリー・ユーザーASPに入れたい場合にのみ、ASP番号を指定します。

注: 値1はシステムASPであり、その他の値はユーザーASPを示します。

[トップ](#)

ジャーナル・メッセージ待ち行列 (MSGQ)

このジャーナルに関連したメッセージ待ち行列の修飾名を指定します。次の1つが起こった時に、この待ち行列にメッセージが送信されます。

- 接続されたジャーナル・レシーバーのしきい値を超えた時に、ジャーナルの属性がMNGRCV(*USER)である場合はメッセージCPF7099が送信されます。
- 接続されたジャーナル・レシーバーのしきい値を超えた時に、ジャーナルの属性がMNGRCV(*SYSTEM)である場合には、システムは新しいレシーバーの作成および接続を試みます。古いレシーバーが切り離された時には、メッセージCPF7020が送信されます。ロックの競合のためにこの試みが失敗した場合には、システムはメッセージCPI70E5を送って、ジャーナル変更操作が成功するまで、10分ごとに（あるいはMNGRCVDLYパラメーターを介して要求した回数だけ）やり直します。ジャーナル変更が他の理由で失敗した場合には、メッセージCPI70E3が送られます。
- ジャーナル・レシーバーの順序番号が2,147,000,000を超えると、メッセージCPI70E7が送信されます。RCVSIZEOPT(*MAXOPT1または*MAXOPT2)がジャーナルに有効になっている間にジャーナル・レシーバーが接続されている場合には、順序番号が9,900,000,000を超えるとメッセージCPI70E7が送信されます。RCVSIZEOPT(*MAXOPT3)がジャーナルに有効になっている間にジャーナル・レシーバーが接続されていた場合で、順序番号が18,446,644,000,000,000を超えるとメッセージCPI70E7が送信されます。
- ジャーナルがMNGRCV(*SYSTEM)属性を持っているかどうか、あるいはロックの競合以外の理由で新しいジャーナル・レシーバーの作成および接続が失敗するかどうかをシステムが判別できない場合には、メッセージCPI70E3が送信されます。
- リモート・ジャーナル操作を実行する場合には、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。
- システムがロックの競合のためにレシーバーを削除できないか、出口プログラムがレシーバーを削除できないことを示しているか、あるいはレシーバーがすべてのリモート・ジャーナルに対して完全に複写されていない場合には、CPI70E6が送られて、操作は10分ごとに（あるいはDLTRCVDLYパラメーターを介して要求された回数だけ）やり直されます。削除がその他のなんらかの理由で正常に実行されない場合には、CPI70E1が送られます。

しきい値を設定するためには、ジャーナル・レシーバー作成(CRTJRNRCV)またはジャーナル変更(CHGJRN)コマンドの説明を参照してください。

注: このパラメーターには、ライブラリーQTEMPの中のメッセージ待ち行列を指定することはできません。

QSYSOPR

メッセージはQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

ジャーナル・メッセージ待ち行列

ジャーナル・メッセージの送信先のメッセージ待ち行列の名前を指定してください。メッセージを送る時に、このメッセージ待ち行列が使用可能でない場合には、そのメッセージはQSYSOPRメッセージ待ち行列に送られます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジャーナルのメッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナルのメッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

トップ

レシーバーの管理 (MNGRCV)

ジャーナル・レシーバーの変更を管理する（現在接続されているジャーナル・レシーバーを切り離して新しいジャーナル・レシーバーを接続する）方法を指定します。

***SYSTEM**

システムがジャーナル・レシーバーの変更を管理します（この機能はシステムのジャーナル変更管理と呼ばれる）。接続されたジャーナル・レシーバーがそのサイズのしきい値に達すると、システムは接続されたジャーナル・レシーバーを切り離し、新規ジャーナル・レシーバーを作成して接続します。ジャーナル・レシーバーが切り離されると、メッセージCPF7020がジャーナル・メッセージ待ち行列に送信されます。

また、RCVSIZOPT(*MAXOPT1または*MAXOPT2)がジャーナルに有効になっている間にジャーナル・レシーバーが接続されている場合には、ジャーナル・レシーバーの順序番号が9,900,000,000を超えるとシステムはCHGJRNコマンドを実行してその順序番号をリセットします。

RCVSIZOPT(*MAXOPT3)がジャーナルに有効になっている間にジャーナル・レシーバーが接続されていた場合で、ジャーナル・レシーバーの順序番号が18,446,644,000,000,000,000を超えると、システムはCHGJRNコマンドを実行して順序番号をリセットしようとしています。その他のすべてのジャーナル・レシーバーの場合は、順序番号が2,147,000,000を超えるとシステムはこのCHGJRNを試みます。

さらに、初期プログラム・ロード(IPL)または独立ASPのオンへの構成変更中には、システムは、RCVSIZOPTが*MAXOPT3でなければ、CHGJRNコマンドを実行して新しいジャーナル・レシーバーを作成および接続し、そのIPLまたはオンへの構成変更に対するコミットメント制御回復の必要のないジャーナルのジャーナル順序番号をリセットします。RCVSIZOPTが*MAXOPT3の場合には、順序番号が18,446,600,000,000,000,000の順序番号のしきい値を超えない限り、この順序番号はリセットされず、新しいジャーナル・レシーバーは接続されません。

注:

1. ジャーナル・レシーバーのしきい値は、この値を指定する前に、*NONE以外の値で指定されていなければなりません。
2. MNGRCV(*SYSTEM)を指定しても、CHGJRNコマンドを使用してジャーナル・レシーバーを管理することはできません。

***USER**

ユーザーは、新規レシーバーを接続して古いレシーバーを切り離すためにジャーナル変更(CHGJRN)コマンドを出すことによって、ジャーナル・レシーバーの変更を管理します。

トップ

レシーバーの削除 (DLTRCV)

ジャーナル・レシーバーが必要でなくなった時にシステムがこれらを削除するか、あるいはシステムのジャーナル変更管理またはユーザーの出したCHGJRNコマンドによってこれらのジャーナル・レシーバーが切り離された後でユーザーがこれらを削除するために、システム上に残しておくかどうかを指定します。

注: このパラメーターを指定できるのは、MNGRCV(*SYSTEM)が指定されている場合だけです。

***NO** システムはジャーナル・レシーバーを削除しません。

***YES** ジャーナル・レシーバーはシステムによって削除されます。

ジャーナルがDLTRCV(*YES)属性を持っている場合には、次の条件のためにシステムがレシーバーを削除できないことがあります。これらの条件の1つが起こった場合には、システムはメッセージCPI70E6をジャーナル・メッセージ待ち行列に送って、操作が成功するまで削除操作を10分ごとに（あるいはDLTRCVLDLYパラメーターを介して要求された回数だけ）やり直します。

- ジャーナル・レシーバーまたはそのジャーナルに対するロックの競合が起っています。
- QIBM_QJO_DLT_JRNRCV出口点の方法によって登録済みの出口プログラムは、レシーバーが削除に適格でないことを示しています。
- ジャーナルがそれと対応したりモート・ジャーナルを持っていて、対応したりモート・ジャーナルの1つまたは複数はまだこのレシーバーの完全なコピーを持っていません。

トップ

レシーバー・サイズ・オプション (RCVSIZOPT)

ジャーナルに接続されたレシーバーのサイズに影響を与えるオプションを指定します。

単一値

***SYSDFT**

システムは現在の推奨値を使用します。現在この値を指定することは、*MAXOPT2および*RMVINTENTを指定することと同じです。

***NONE**

レシーバーに接続されたジャーナル項目のサイズに影響を与えるオプションはありません。レシーバーに入れられたジャーナル項目はすべて永続的です。FIXLENDTAで定義された固定長データは、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるすべてのジャーナル項目に含められます。

その他の値（最大3回までの繰り返し）

***RMVINTENT**

ジャーナルに接続されたレシーバーのサイズは、初期プログラム・ロード(IPL)または独立ASPのオンへの構成変更回復のみに必要な内部項目が（以後必要なくなったときに）自動的に除去されることによって減少されます。

***MINFIXLEN**

接続されているジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目のサイズは、回復目的に必要なとみなされない固定長データの自動除去によって削減されます。このオプションは、FIXLENDTAも指定されている場合には無効です。

***MAXOPT1**

これをジャーナルに指定すると、そのジャーナルに接続されるジャーナル・レシーバーの最大ジャ

ーナル・レシーバー・サイズは約1 TB (1,099,511,627,776バイト) に、最大順序番号は9,999,999,999にすることができます。さらに、入れることができるジャーナル項目の最大サイズは15,761,440バイトです。*MAXOPT2または*MAXOPT3が指定された場合には、この値を指定することはできません。

***MAXOPT2**

これをジャーナルに指定すると、そのジャーナルに接続されるジャーナル・レシーバーの最大ジャーナル・レシーバー・サイズは約1 TB (1,099,511,627,776バイト) に、最大順序番号は9,999,999,999にすることができます。さらに、入れることができるジャーナル項目の最大サイズは4,000,000,000バイトです。*MAXOPT1または*MAXOPT3が指定された場合には、この値を指定することはできません。

***MAXOPT3**

これをジャーナルに指定すると、そのジャーナルに接続されるジャーナル・レシーバーの最大レシーバー・サイズは約1 TB (1,099,511,627,776バイト) に、最大順序番号は18,446,744,073,709,551,600にすることができます。さらに、入れることができるジャーナル項目の最大サイズは4,000,000,000バイトです。これらのジャーナル・レシーバーは、V5R3M0より前のリリースに保管および復元することも、V5R3M0より前のリリースではどのシステムのどのリモート・ジャーナルにも複製することもできません。また、初期プログラム・ロード(IPL)または独立ASPのオンへの構成変更中には、MNGRCV(*SYSTEM)が指定されていると、システムは、順序番号が18,446,600,000,000,000,000の順序番号のしきい値を超えていない限り、新しいジャーナル・レシーバーを作成および接続し、ジャーナル順序番号をリセットするためのCHGJRNコマンドを自動的に実行しません。

*MAXOPT1または*MAXOPT2が指定された場合には、この値を指定することはできません。

トップ

項目固有のデータの最小化 (MINENTDTA)

ジャーナル項目が最小化された特定のデータを持つことができるオブジェクト・タイプを指定します。

項目特有のデータを最小化するために*FLDBDYオプションを使用しているジャーナル・レシーバーは、V5R4M0より前のリリースに保管および復元することはできず、V5R4M0より前のリリースのシステムのリモート・ジャーナルに複製することもできません。最小化された項目特定データを持つジャーナル項目の制約事項と使用法については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。

***NONE**

オブジェクト・タイプは最小化された項目特定データを持つジャーナル項目を使用できません。すべてのジャーナル処理済みオブジェクトのジャーナル項目は、完全な項目特定データを持つジャーナルに入れられます。

***FILE** ジャーナル処理されたファイルに、最小化された項目特定データで入れられたジャーナル項目が入ります。最小化はフィールド境界では行われません。したがって、この項目特有のデータは表示可能でなく、監査目的に使用することはできません。*FLDBDYが指定されている場合には、この値を指定することはできません。

***FLDBDY**

ジャーナル処理されたファイルに、最小化された項目特定データで入れられたジャーナル項目が入ります。ジャーナル処理済みファイルの最小化は、フィールド境界で行われます。したがって、この項目特有のデータは表示可能で、監査目的に使用することができます。

*DTAARA

ジャーナル処理されたデータ域に、最小化された項目特定データで入れられたジャーナル項目が入ります。

[トップ](#)

ジャーナル・キャッシング (JRNCACHE)

ディスクに書き出される前にジャーナル項目がキャッシュされるかどうかを指定します。

***NO** 単一システムの回復に必要な場合には、ジャーナル項目はただちにディスクに書き込まれます。

***YES** ジャーナル項目はメイン・メモリーに書き込まれます。メイン・メモリーに複数のジャーナル項目がある場合には、そのジャーナル項目はメイン・メモリーからディスクへ書き込まれます。アプリケーションが多数の変更を実行した場合には、同期ディスク書き込みが少なくなつて、パフォーマンスが改善されることとなります。しかし、メイン・メモリーの内容が保存されていないシステム障害の際に最後の1つの変更でも失うことが受け入れられない場合には、このオプションの使用はお奨めできません。このタイプのジャーナル処理は主としてバッチ・ジョブに向けられていて、単一のシステム回復がジャーナル処理の主要な理由である対話式アプリケーションの場合には適していません。

注: コミットメント制御を使用するアプリケーションでは、コミットメント制御で一部のジャーナル・キャッシュが実行されるので、パフォーマンスの改善は少ない傾向があります。

注: キャッシュ内にある項目は、ジャーナル表示(DSPJRN)コマンド、ジャーナル項目受信(RCVJRNE)コマンド、ジャーナル項目検索(RTVJRNE)コマンド、または QJORETRIEVEJOURNALENTRIES APIを使用して表示することはできません。また、キャッシュ内の項目も、リモート・ジャーナルを持つターゲット・システムには送られません。ただし、これらのジャーナル項目は、ジャーナル・レシーバー属性表示(DSPJRNRCVA)コマンドまたは QJORTVJRNERECEIVERINFORMATION APIを介して戻されたジャーナル・レシーバーの最後の順序番号に含まれています。

注: この値は、ライブラリーがQGPLでない限り、ジャーナル名がQで始まっていたり、ジャーナル・ライブラリーがQで始まっている場合は指定することができません。

[トップ](#)

受信側遅延時間の管理 (MNGRCVDLY)

ジャーナルがシステム管理(MNGRCV(*SYSTEM))の場合に、このジャーナルに新しいジャーナル・レシーバーを接続しようとする次の試みを遅延させるために使用する時間(分数)を指定します。

10 システムがこのジャーナルに新しいジャーナル・レシーバーを接続するために必要なオブジェクトを割り振れない場合には、10分間待機してから再度試みます。

1から1440

システムがこのジャーナルに新しいジャーナル・レシーバーを接続するために必要なオブジェクトを割り振れない場合には、指定された時間(分数)だけ待機してから再度試みます。

[トップ](#)

受信側遅延時間の削除 (DLTRCVDLY)

システムがこのジャーナルに関連付けられたジャーナル・レシーバーを削除するために必要なオブジェクトを割り振ることができず、ジャーナルにDLTRCV(*YES)が指定されている場合には、このパラメーターが、ジャーナル・レシーバーを削除する次の試みを遅延させるために使用する時間（分数）を指定します。

10 システムは、10分待ってやり直します。

1から1440

システムは、指定された分数だけ待ってやり直します。

トップ

固定長データ (FIXLENDTA)

接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目の固定長部分に含められるデータを指定します。このパラメーターは、RCVSILOPT(*MINFIXLEN)も指定された場合には無効です。

***JOBUSRPGM**

ジョブ名、ユーザー名、およびプログラム名は、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。

***JOB** ジョブ名は、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。

***USR** 有効なユーザー・プロファイル名は、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。

***PGM** プログラム名は、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。

***PGMLIB**

プログラム・ライブラリー名およびプログラム・ライブラリーが入っている補助記憶域プール装置名は、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。

***SYSSEQ**

システム・シーケンス番号は、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。システム・シーケンス番号は、システム上のすべてのジャーナル・レシーバーのすべてのジャーナル項目に相対順序を与えます。

***RMTADR**

該当する場合に、リモート・アドレス、アドレス・ファミリー、およびリモート・ポートは、接続されたジャーナル・レシーバーに保管されるジャーナル項目に含められます。

***THD** スレッドIDは、ジャーナル・レシーバーに保管されたジャーナル項目に含められます。スレッドIDは、同じジョブで実行中の複数のスレッド間での識別を助けます。

***LUW** 該当する場合に、作業論理単位IDは、ジャーナル・レシーバーに保管されたジャーナル項目に含められます。作業論理単位IDは、特定のコミット・サイクルに関連した作業を識別します。

***XID** 該当する場合に、トランザクションIDは、ジャーナル・レシーバーに保管されたジャーナル項目に含められます。トランザクションIDは、特定のコミット・サイクルに関連したトランザクションを識別します。

トップ

ジャーナル・オブジェクト限界 (JRNOBJLMT)

ジャーナルに対してジャーナル処理できるオブジェクトの最大数に影響を与えるオプションを指定します。

*MAX250K

ジャーナルに対してジャーナル処理できるオブジェクトの最大数は250,000です。

*MAX10M

ジャーナルに対してジャーナル処理できるオブジェクトの最大数は10,000,000です。このようなジャーナルに関連付けられたジャーナル・レシーバーは、V5R4M0より前のリリースに保管または復元することができず、V5R4M0より前のリリースにリモート・ジャーナル処理を介して複製することもできません。

この値をジャーナルに指定すると、JRNOBJLMTに下限を設定することはできません。

このオプションを選択する場合には、関係するランタイム・パフォーマンスに考慮する必要があります。この新しい属性では、1つのジャーナルに多数のオブジェクトをジャーナル処理する機会があります。要するに、より多くのオブジェクトをアクティブに同時に変更できて、ジャーナルのランタイム・パフォーマンスに影響する潜在的な機会があることとなります。したがって、この1つのジャーナルにジャーナル項目を入れる頻度がランタイム・パフォーマンス問題を引き起こすのであれば、ジャーナル処理されるオブジェクトを複数のジャーナルに分割することが優れた代替案となります。

単一のジャーナルに関連付けられたオブジェクトの量を増やすと、IPL時間、独立ASPのオンへの構成変更時間、または災害時回復時間が増えることに留意してください。一般的な、大ざっぱな実際に即した方法としては、アクティブに変更するオブジェクトの数が5,000より大きくなりそうな場合には、それらのオブジェクトの一部を別のジャーナルでジャーナル処理することを検討してみてください。システムの終了時に、所定のジャーナルでアクティブに変更するオブジェクトの数が大きくなればなるほど、IPLまたは独立ASPのオンへの構成変更時にジャーナルの回復に要する時間は長くなります。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド

(CRTLIB)で作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

例1:補助記憶域プールを使用するジャーナルの作成

```
CRTJRN  JRN(MYLIB/JRNLA) JRNRCV(MYLIB/RCV01) ASP(3)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBの中にJRNLAという名前のジャーナルを作成します。ジャーナルの記憶域スペースは、ユーザー補助記憶域プール(ASP) 3から割り振られます。ライブラリーMYLIBのジャーナル・レシーバーRCV01がジャーナルJRNLAに接続されます。ジャーナルの共通権限は、ライブラリーMYLIBのCRTAUTパラメーターから取られます。

例2:より大きいオブジェクト限界を持つジャーナルの作成

```
CRTJRN  JRN(YOURLIB/JRNLB) JRNRCV(YOURLIB/RCV01)
        RCVSIZOPT(*MAXOPT3 *RMVINTENT)
        JRNBJLMT(*MAX10M)
```

このコマンドは、ライブラリーYOURLIBに、最大10,000,000オブジェクトをそこにジャーナル処理できるJRNLBという名前のジャーナルを作成します。ライブラリーYOURLIBのジャーナル・レシーバーRCV01はジャーナルJRNLBに接続されます。ジャーナルの共通権限は、ライブラリーYOURLIBのCRTAUTパラメーターから取られます。より大きなジャーナル・オブジェクト限界を使用すると、レシーバー・サイズ・オプション・パラメーターの最大オプションの値の1つを指定する必要があります。この場合には、レシーバー・サイズ・オプション・パラメーターに*MAXOPT3が選択されています。これにより、ジャーナル・レ

シーバーは約1テラバイトまで大きくすることができ、順序番号は18,446,744,073,709,551,600に、最大ジャーナル項目のサイズは4,000,000,000バイトに達します。回復目的だけに必要な項目は、それ以上システムで必要がなくなった時に除去されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF70A0

FIXLENDTAパラメーターは使用できない。

CPF70A1

FIXLENDTAパラメーターはRCVSIZOPT(*MINFIXLEN)と一緒に使用できない。

CPF70B5

JRNOBJLMT(&1)は使用できません。

CPF70B8

指定されたMINENTDTA値は使用できません。

CPF70E0

&1での操作は実行できない。

CPF70E2

DLTRCV(*YES)は使用できない。

CPF70E5

指定されたRCVSIZOPT値は許されない。

CPF70F1

ジャーナル・レシーバーしきい値がジャーナルに対して大きすぎる。

CPF70F5

レシーバーのしきい値が正しくない

CPF7003

項目はジャーナル&1にジャーナル処理されなかった。理由コードは&3です。

CPF701A

ジャーナル・レシーバーが操作に適格でない。

CPF7010

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF7011

記憶域または資源が十分でない。

CPF7012

オブジェクト&1の補助記憶域プール&4が見つからない。

CPF7015

JRNRCVの指定にエラーがある。

CPF7017

メッセージ待ち行列パラメーターにはライブラリーQTEMPは正しくない。

CPF704E

RCVSIZEOPT(*MINFIXLEN)は使用できない。

CPF708A

QSYSのジャーナルQAUDJRNが作成または復元されなかった。

CPF708D

ジャーナル・レシーバーが論理的に損傷していることが判明した。

CPF708E

*MAXOPT1, *MAXOPT2,または*MAXOPT3を指定したジャーナル・レシーバーは許可されない。

CPF709F

ジャーナル・キャッシングを開始できない。理由コードは&3です。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9806

ライブラリー&3のオブジェクト&2に対して機能を実行することはできない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9839

オブジェクト&1は作成されなかった。

CPF9840

オブジェクト&1は作成されなかった。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

トップ

ジャーナル・レシーバー作成 (CRTJRNRCV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル・レシーバー作成(CRTJRNRCV)コマンドは、ジャーナル・レシーバーを作成します。ジャーナル・レシーバーをジャーナルに接続する（ジャーナル作成(CRTJRN)またはジャーナル変更(CHGJRN)コマンドによって）と、そこにジャーナル項目を入れることができます。そのジャーナル・レシーバーに対して、優先補助記憶域プール(ASP)および記憶スペースのしきい値を指定することができます。

制約事項:

- ・ ジャーナル・レシーバーは、ライブラリーQTEMP中に作成することはできません。
- ・ このコマンドを使用してリモート・ジャーナル用のジャーナル・レシーバーを作成することはできません。
- ・ ジャーナルを入れるライブラリーが独立ASP上にある場合には、ASP(*LIBASP)を指定しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JRNRCV	ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル・レシーバー	単純名	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
ASP	ASP番号	1-32, *LIBASP	オプション
THRESHOLD	ジャーナル・レシーバーしきい値	1-1000000000, <u>1500000</u> , *NONE	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
UNIT	入れたい記憶装置	1-255, *ANY	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション

トップ

ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)

作成されるジャーナル・レシーバー名およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル・レシーバー

レシーバー名

作成するジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*CURLIB

ジャーナル・レシーバーは現行ライブラリーの中に作成されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが作成されるライブラリーを指定します。

[トップ](#)

ASP番号 (ASP)

システムがジャーナル・レシーバー用の記憶域を割り振る補助記憶域プール(ASP)を指定します。

*LIBASP

ジャーナル・レシーバーの記憶域スペースは、ジャーナル・レシーバーのライブラリーの記憶域スペースとして、同じ補助記憶域プールから割り振られます。

ASP ID

ジャーナルの記憶域スペースを割り振るASPのIDを指定するには、1から32の範囲内で値を指定します。有効な値は、システムでのASPの定義方法によって異なります。

注: 値1はシステムASPであり、その他の値はユーザーASPを示します。

[トップ](#)

ジャーナル・レシーバーしきい値 (THRESHOLD)

ジャーナル・レシーバーの記憶スペースしきい値(KB)を指定します。ジャーナル処理時にしきい値を超えた場合には、次の1つが起こります。

- ジャーナルがMNGRCV(*USER)属性を持っている場合は、メッセージCPF7099がジャーナル・メッセージ待ち行列に送信されます。
- ジャーナルがMNGRCV(*SYSTEM)属性を持っている場合は、システムは新しいレシーバーの作成および接続を試みます。古いレシーバーが切り離された時に、メッセージCPF7020がジャーナル・メッセージ待ち行列に送信されます。ロックの競合のためにこの試みが失敗した場合には、システムはメッセージCPI70E5を送り、ジャーナル変更操作が成功するまで、10分ごとに（あるいはMNGRCVDLYパラメーターを介して要求した回数だけ）やり直します。
- ジャーナルがMNGRCV(*SYSTEM)属性を持っているかどうか、あるいはロックの競合以外の理由で新しいジャーナル・レシーバーの作成および接続が失敗するかどうかをシステムが判別できない場合には、メッセージCPI70E3が送信されます。

ジャーナル・メッセージ待ち行列はCRTJRN（ジャーナル作成）またはCHGJRN（ジャーナル変更）コマンドで指定します。

注: MNGRCVパラメーターの値は、CRTJRNまたはCHGJRNコマンドでジャーナルに対して指定します。MNGRCV(*SYSTEM)を指定していないで、しきい値を超えた場合には、CHGJRNコマンドを出すなどの処置を行うことができます。

注: ジャーナルにRCVSIZEOPT(*RMVINTENT)が指定されていると、そのジャーナル項目によって占められている内部スペースはレシーバーのしきい値に向けて適用されます。ジャーナル・レシーバーが切り離されると、この内部項目用のスペースが解放されることがあります。そのときには、ジャーナル・レシーバーのサイズは指定されたしきい値より小さくなります。

1500000

これが省略時のしきい値です。各1000 KBは1,024,000バイトの記憶域スペースを示します。

***NONE**

しきい値は指定されません。メッセージCPF7099は送信されず、このレシーバーをジャーナルに接続する時にMNGRCV(*SYSTEM)を指定することはできません。

1から1000000000

ジャーナル・レシーバーのしきい値を、記憶域のキロバイト数(KB)で指定します。各1000 KBは1,024,000バイトの記憶域スペースを指定します。100,000より小さい値は自動的に100,000にリセットされます。ジャーナル・レシーバーのスペースのサイズがこの値によって指定されたサイズより大きい場合には、該当すれば、指定されたメッセージ待ち行列にメッセージが送信され、ジャーナル処理は続行されます。

注:

1. 指定されたRCVSIZEOPTパラメーターからの*MAXOPT値の1つを持たないジャーナルにこのジャーナル・レシーバーを接続しようとしている場合には、指定する必要がある最大しきい値は1,919,999キロバイトです。
2. 100,000より小さい値を指定すると、その値は自動的に100,000にリセットされます。そうでない場合には、しきい値を超えたというメッセージが頻繁に出される可能性があります。また、しきい値が小さすぎる場合にも、ジャーナル作成(CRTJRN)コマンドまたはジャーナル変更(CHGJRN)コマンドのいずれかでジャーナル・レシーバーをジャーナルに接続したときに、しきい値を超えたというメッセージが出されることがあります。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

入れたい記憶装置 (UNIT)

このパラメーターはもはやサポートされていません。これは、AS/400システムのバージョン1リリース3モディフィケーション0以前のリリースとの構文上の互換性が厳重に保たれています。

ジャーナル・レシーバーをディスク・アームに分離するためには、ASPパラメーターを使用してください。ユーザーASPの使用法の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))を参照を参照してください。

このパラメーターには*ANYまたは1から32の値を指定することができます。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB) で作成権限 (CRTAUT) パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUT パラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE 権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTJRNRCV  JRNRCV(MYLIB/JRNRCCLA) ASP(3)
           THRESHOLD(100000) AUT(*ALL)
           TEXT('RECEIVER FOR WEEK 37')
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBの中にJRNRCCLAという名前のジャーナル・レシーバーを作成します。ジャーナル・レシーバーの記憶域スペースは、ユーザー補助記憶域プール(ASP) 3から割り振られます。このレシーバーの接続先のジャーナルがMNGRCV(*USER)の属性を持っている場合には、JRNRCCLAのサイズが100000 KB (102,400,000バイト) より大きくなると、メッセージCPF7099がジャーナル・メッセージ待ち行列に送られます。このジャーナル・レシーバーに対する共通権限は*ALLです。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF70FD

システム内部のジャーナル状況オブジェクトが再作成された。

CPF7010

&2のオブジェクト&1タイプ*&3がすでに存在している。

CPF7011

記憶域または資源が十分でない。

CPF7012

オブジェクト&1の補助記憶域プール&4が見つからない。

CPF70FD

システム内部のジャーナル状況オブジェクトが再作成された。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9839

オブジェクト&1は作成されなかった。

CPF9840

オブジェクト&1は作成されなかった。

CPF9873

ASPの状況によりオブジェクトにアクセスできない。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

[トップ](#)

JAVAプログラムの作成 (CRTJVAPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

JAVAプログラム作成(CRTJVAPGM)コマンドは、JAVAクラス・ファイル、JARファイル、またはZIPファイルからJAVAプログラムを作成します。できあがったJAVAプログラム・オブジェクトは、クラス・ファイル、JARファイル、またはZIPファイル・オブジェクトの一部になります。JAVAプログラムは、JAVA (JAVAプログラム実行) コマンドによって開始された時に実行されます。JAVAプログラムのサイズおよびパフォーマンスは、OPTIMIZEおよびLICOPTパラメーターを使用して制御することができます。

JARファイルまたはZIPファイルが指定された場合には、JAVAプログラムが1つだけ作成されて、このファイルに関連づけられます。JAVAプログラムは、JARファイルまたはZIPファイル内のすべてのクラスに対する最適化内部形式を含んでいます。

制約事項:ファイルは次のファイル・システムの1つに入っていないければなりません: QOPENSYS,"ROOT", またはユーザー定義ファイル・システム。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLSF	クラス・ファイルまたはJARファイル	パス名	必須, 定位置 1
CLASSPATH	クラスパス	パス名, *NONE, *ENVVAR	オプション
JDKVER	JAVA DEVELOPER KITバージョン	文字値, *NONE	オプション
OPTIMIZE	最適化	10, *INTERPRET, 20, 30, 40	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	*USER, *OWNER	オプション
USEADPAUT	借用権限の使用	*NO, *YES	オプション
REPLACE	プログラムの置き換え	*YES, *NO	オプション
ENBPFCOL	パフォーマンス収集使用可能	*NONE, *ENTRYEXIT, *FULL	オプション
PRFDTA	プロファイリング・データ	*NOCOL, *COL	オプション
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NONE, *ALL	オプション
TGTRLS	ターゲット・リリース	文字値, *CURRENT	オプション
LICOPT	LICオプション	文字値, *OPTIMIZE	オプション
LICOPTFILE	LICオプション・ファイル	パス名, *NONE	オプション

トップ

クラス・ファイルまたはJARファイル (CLSF)

JAVAプログラムを作成する元になるクラス・ファイル、JARファイル、またはZIPファイルの名前を指定します。ファイル名は1つまたは複数のディレクトリー名によって修飾することができます。

クラス・ファイル名

使用するクラス・ファイル（1つまたは複数）を識別するクラス・ファイルの名前またはパターンを指定してください。パターンは名前の最後の部分に指定することができます。アスタリスクは任意の数の文字と一致し、疑問符は単一の文字と一致します。名前が修飾されているか、あるいは名前にパターンが含まれている場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。修飾されたクラス・ファイル名の例は、`'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYCLASSNAME.CLASS'`です。パターンの例は`'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYCLASS*.CLASS'`です。

JARファイル名

使用するJARまたはZIPファイル（1つまたは複数）を識別するJAVAアーカイブ(JAR)ファイルの名前またはパターンを指定してください。ファイル名が`.JAR`または`.ZIP`で終わっていると、ファイルはJARファイルであると見なされます。パターンは名前の最後の部分に指定することができます。アスタリスクは任意の数の文字と一致し、疑問符は単一の文字と一致します。名前が修飾されているか、あるいは名前にパターンが含まれている場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。修飾されたJARファイル名の例は`'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYAPPNAME.JAR'`です。パターンの例は`'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYAPP*.ZIP'`です。

[トップ](#)

クラスパス (CLASSPATH)

JAR間バインディングのクラスを見つけるために使用されるパスを指定します。ディレクトリーはコロンによって区切ります。

*NONE

クラスを見つけるためのクラス・パスにこれ以上のディレクトリーまたはJARファイルは追加されません。

*ENVVAR

クラス・パスは環境変数CLASSPATHによって判別されます。

クラス・パス

クラスを見つけるために使用されるパス。クラス・パスの例は`'/DIRECTORY1/DIRECTORY2:/QIBM/PRODDATA/JAVA400'`です。

JAR間バインディングを行うためにはCLASSPATHまたはJDKVERのいずれかを指定しなければなりません。CLSFがクラス・ファイルの時にはCLASSPATHが*NONEでなければなりません。

[トップ](#)

JAVA DEVELOPER KITバージョン (JDKVER)

JAR間バインディングのクラスを見つけるためのクラス・パスに追加するJAVA DEVELOPMENT KIT (JDK)バージョンを指定します。

***NONE**

クラスを見つけるためのクラス・パスには、このJDKバージョン用のこれ以上のディレクトリーは追加されません。

JAVA-DEVELOPMENT-KITバージョン

クラスを見つけるためのクラス・パスにこのJDKバージョン用のJARファイルおよびディレクトリーが追加されます。JDKバージョンの例は'1.2.2'です。

JAR間バインディングを行うためにはCLASSPATHまたはJDKVERのいずれかを指定しなければなりません。CLSFCがクラス・ファイルの時にはJDKVERが*NONEでなければなりません。

トップ

最適化 (OPTIMIZE)

JAVAプログラムの最適化レベルを指定します。OPTIMIZE(*INTERPRET)の場合には、結果のJAVA プログラムは事前に検査されて、内部形式に変換されます。その後、実行される時に解釈されます。その他の最適化レベルの場合には、JAVAプログラムに、JAVAプログラムが呼び出された時に実行されるサーバー機械語命令順序が入ります。これらのサーバー機械語命令は、指定された最適化レベルに基づいて最適化されています。サーバーは、プログラムの実行時に直接機械語命令を実行します。

OPTIMIZE(*INTERPRET) JAVAプログラムは、より高い最適化レベルで作成されたJAVAプログラムより小さくなりますが、実行速度は低下します。最適化レベルを10より増やすと、一般にJAVAプログラムのパフォーマンスは向上しますが、JAVAプログラムを作成するために必要な時間が増え、デバッグはより困難になります。

- 10** JAVAプログラムには、クラス・バイト・コードのコンパイルされたバージョンが入りますが、最小限の追加コンパイラー最適化しか行われません。変数は、デバッグ中に表示および変更することができます。

***INTERPRET**

作成されたJAVAプログラムには、機械固有の命令は入っていません。JAVAプログラムは、その開始時にバイト・コードから解釈されます。変数は、デバッグ中に表示および変更することができます。

- 20** JAVAプログラムには、クラス・バイト・コードのコンパイルされたバージョンが入り、一部の追加コンパイラー最適化が行われます。変数は、デバッグ中に表示できますが、変更することはできません。
- 30** JAVAプログラムには、クラス・バイト・コードのコンパイルされたバージョンが入り、最適化レベル20より多くの追加コンパイラー最適化が行われます。デバッグ・セッション中に、ユーザー変数を変更することはできませんが、表示することはできます。表示される値は、その変数の現在の値でない可能性があります。
- 40** JAVAプログラムには、クラス・バイト・コードのコンパイルされたバージョンが入り、最適化レベル30より多くの追加コンパイラー最適化が行われます。プログラム呼び出しおよび命令トレースはすべて使用不可になります。

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

このプログラムの実行中に行われる権限検査に、プログラムを実行しているユーザー(*USER)だけが含まれるか、プログラムを実行しているユーザーとプログラム所有者(*OWNER)の両方が含まれる必要があるかを指定します。プログラム・ユーザーまたはプログラム・ユーザーとプログラム所有者の両方のプロファイルが、プログラムで使用できるオブジェクトの制御（プログラムがそれぞれのオブジェクトに対してもつ権限を含む）に使用されます。ユーザー・プロファイルの属性を変更できるのは、プログラム所有者または QSECOFR 権限を持つユーザーだけです。

*SAME

ユーザー・プロファイル属性は変更されません。

*USER

プログラムは、プログラムのユーザーのユーザー・プロファイルのもとで実行します。

*OWNER

プログラムの処理時に、プログラムの所有者とプログラムのユーザーの両方のユーザー・プロファイルが使用されます。プログラムの処理中にオブジェクトの検索およびアクセスには、両方のユーザー・プロファイルのオブジェクト権限の集合セットが使用されます。所有しているユーザー・プロファイルのグループ・プロファイルからの権限は、実行中のプログラムの権限には含まれません。

トップ

借用権限の使用 (USEADPAUT)

このプログラムの実行時に、呼び出しスタック内の前のプログラムからのプログラム借用権限が権限のソースとして使用されるかどうかを指定します。

*NO このプログラムの実行時には、前の呼び出しレベルからのプログラム借用権限は使用されません。

*YES このプログラムの実行時には、前の呼び出しレベルからのプログラム借用権限が使用されます。QUSEADPAUT システム値に権限リストが指定されて、ユーザーがその権限リストを認可されていない場合には、*NO が使用されます。

トップ

プログラムの置き換え (REPLACE)

このファイルと関連した既存の JAVA プログラムを作成中の新しい JAVA プログラムで置き換えるかどうかを指定します。

*YES このファイルと関連した既存の JAVA プログラムを作成される新しい JAVA プログラムによって置き換えます。

*NO このファイルと関連した既存の JAVA プログラムが置き換えられるのは、そのクラス・ファイルが既存のプログラムの作成以降に変更された場合だけです。そうでない場合には、新しい JAVA プログラムの作成は停止され、メッセージが表示されます。複数の作成を指示するためにパターンを使用した場合には、処理は次のファイルから続行されます。

トップ

パフォーマンス収集使用可能 (ENBPFRCOL)

パフォーマンス・データの収集を使用可能にするかどうかを指定します。

*NONE

パフォーマンス・データの収集は使用可能にされません。パフォーマンス・データは収集されません。

*ENTRYEXIT

プロシーチャーの入り口および出口に関するパフォーマンス・データが収集されます。

*FULL

プロシーチャーの入り口および出口に関するパフォーマンス・データが収集されます。パフォーマンス・データは、外部プロシーチャーへの呼び出し前後にも収集されます。

[トップ](#)

プロファイリング・データ (PRFDTA)

モジュールのプログラム・プロファイル作成データ属性を指定します。プログラム・プロファイル作成は、統計データ（プロファイル作成データ）に基づいて手順および手順内のコードを再配列する、拡張された最適化手法です。

*NOCOL

JAVAプログラムはプロファイル作成データを収集できません。

***COL** このJAVAプログラムはプロファイル作成データを収集することができます。

注: *COLは、JAVAプログラムの最適化レベルが30またはそれ以上で、変更されていない時のみ指定できます。

[トップ](#)

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

CLSFキーワードと一致するファイルを探そうとするときにディレクトリー・サブツリーを処理するかどうかを指定します。

*NONE

オブジェクト名のパターンと一致するファイルのみを処理します。サブツリーは処理されません。ディレクトリーにサブディレクトリーが含まれている場合には、サブディレクトリーもサブディレクトリー内のオブジェクトも処理されません。

***ALL** CLSFパラメーターで指定された名前と一致するファイルのJAVAプログラムを作成するために、CLSFに指定されたパスのサブツリー全体が処理されます。

[トップ](#)

ターゲット・リリース (TGTRLS)

作成中のオブジェクトを使用するつもりオペレーティング・システムのリリースを指定します。ターゲット・リリースの指定時には、リリースを指定するためにVXRXXMXという形式を使用します。ここで、VXはバージョン、RXはリリースで、MXはモディフィケーション・レベルです。たとえば、V4R2M0はバージョン4,リリース2,モディフィケーション・レベル0です。

有効値は現行バージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルによって異なり、各新規リリースで変更されます。

***CURRENT**

オブジェクトは、ユーザー・システムで現在実行中のオペレーティング・システムのリリースで使用されるものです。また、このオブジェクトは、導入済みのオペレーティング・システムの以降のリリースのシステムで使用することができます。

ターゲット・リリース

リリースをVXRXXMXという形式で指定してください。このオブジェクトは、指定されたリリースまたは導入済みのオペレーティング・システムの以降のリリースのシステムで使用することができます。

トップ

LICオプション (LICOPT)

1つまたは複数のライセンス内部コード・コンパイル時オプションを指定します。このパラメーターによって、個々のコンパイル時オプションを選択することができます。これは、選択された各タイプのコンパイラー・オプションの潜在的な利点と欠点を理解している上級プログラマー用です。

***OPTIMIZE**

OPTIMIZEパラメーターで指定された最適化レベルと暗黙に関連づけられているコンパイル時オプションの設定を使用します。OPTIMIZE(*INTERPRET)が指定された場合には、コンパイル時最適化は実行されません。

’ライセンス内部コード・オプション・ストリング’

JAVAプログラム・オブジェクトの作成時には、選択されたライセンス内部コード・コンパイル時最適化オプションが使用されます。ある種のオプションでは、作成されたJAVAプログラムのデバッグ能力が低下する場合があります。

注: LICOPTオプションに関する追加情報はISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)の「ISERIES JAVA開発キット(JDK)」を参照に記載されています。

トップ

LICオプション・ファイル (LICOPTFILE)

1つまたは複数のライセンス内部コード・コンパイル時オプションをリストするファイル名を指定します。

***NONE**

指定されているファイルはありません。

’ライセンス内部コード・オプション・ファイル名’

このファイルは、JAVAプログラム・オブジェクトの作成時に使用されるライセンス内部コード・

コンパイル時オプションを指定するために使用されます。ある種のオプションでは、作成されたJAVAプログラムのデバッグ能力が低下する場合があります。

注: LICOPTオプションに関する追加情報はISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)の「ISERIES JAVA開発キット(JDK)」を参照に記載されています。

[トップ](#)

例

例1: 最適化JAVAプログラムの作成

```
CRTJVAPGM  CLSF('/PROJECTA/MYJAVACLASSNAME.CLASS')
           OPTIMIZE(10)
```

このコマンドはJAVAプログラムを作成して、それをクラス・ファイルMYJAVACLASSNAMEと関連付けます。このJAVAプログラムには、RUNJVA (JAVAの実行) またはJAVA CLコマンドを介してJAVAプログラムを呼び出す時に実行されるコンパイル済み機械語命令順序が入れられます。

例2: LICOPTファイルを指定するJAVAプログラムの作成

```
CRTJVAPGM  CLSF('/PROJECTA/MYJAVACLASSNAME.CLASS')
           LICOPTFILE('/PROJECTA/MYLICOPTFILE.TXT')
```

このコマンドはJAVAプログラムを作成して、それをクラス・ファイルMYJAVACLASSNAMEと関連付けます。コマンドはテキスト・ファイルMYLICOPTFILE.TXTに含まれるライセンス内部コード・オプションを読み取って、コンパイル済み機械語命令順序の生成時に使用する省略時のライセンス内部コード・オプションの前にそれを付加します。

例3: 多数のJAVAプログラムの作成

```
CRTJVAPGM  CLSF('/PROJECTA/*.CLASS') SUBTREE(*ALL)
```

このコマンドはJAVAプログラムを作成して、それを、PROJECTAディレクトリーのどれかのクラス・ファイルおよびPROJECTAの下のディレクトリーのどれかのクラス・ファイルと関連付けます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

JVAB524

&1 JAVA PGMが作成され、&4個はエラーがあった。&2 JAVA PGMが現行のものでした。&3 JAVA PGMは作成されませんでした。

JVAB532

"&1"についてJAVAプログラムを作成することができません。

JVAB535

監視されていない例外を受け取った。

[トップ](#)

論理ファイル作成 (CRTLF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

論理ファイル作成(CRTLF)コマンドは、このコマンドに指定した情報およびソース・ファイルに入っているデータ記述仕様(DDS)から論理ファイルを作成します。

論理ファイルは、1つまたは複数の物理ファイルに入っているデータ・レコードをプログラムに渡す方法を記述するデータベース・ファイルです。論理ファイルにはデータ・レコードは入っていません。データ・レコードは、論理ファイルと関連した物理ファイルに入っています。

物理ファイルに入っているデータ・レコードはいくつかの物理ファイル・メンバーにまとめられます。論理ファイルは1つまたは複数の論理ファイル・メンバーを通じてデータ・レコードにアクセスします。各論理ファイル・メンバーは1つまたは複数の物理ファイル・メンバーに入っているデータを記述し、各論理ファイル・メンバーはそのデータに対する独自のアクセス・パスをもっています。通常、データベース・ファイルには1つのメンバーしかなく、そのメンバーはファイルの作成時に省略時の値によってファイルに追加されます。

制約事項:

- 1つ以上の物理ファイルの上にキー付き論理ファイルを作成するには、DDSでPFILEまたはJFILEキーワードに指定されたそれぞれのファイルのオブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびオブジェクト変更(*OBJALTER)権限が必要です。

キーなしの論理ファイルを作成するには、*OBJOPR権限だけが必要です。

- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ*SNAのリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QDDSSRC	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *FILE	オプション, 定位置 3
GENLVL	生成重大度レベル	0-30, 20	オプション
FLAG	フラグづけ重大度レベル	0-30, 0	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
FILETYPE	ファイル・タイプ	* <u>DATA</u> , *SRC	オプション
MBR	必要な場合にはメンバー	名前, * <u>FILE</u> , *NONE	オプション
DTAMBR	物理ファイル・データ・メンバー	単一値: * <u>ALL</u> その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 物理ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 物理ファイル	名前, <u>QDDSSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>CURRENT</u>	
	要素 2: メンバー	単一値: * <u>NONE</u> その他の値 (最大 32 回の繰り返し): 名前	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, * <u>SRCMBRTXT</u> , *BLANK	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 4 回の繰り返し): *SRC, *NOSRC, *SOURCE, *NOSOURCE, *LIST, *NOLIST, *SECLVL, *NOSECLVL, *EVENTF, *NOEVENTF	オプション, 位置 4
SYSTEM	システム	* <u>LCL</u> , *RMT, *FILETYPE	オプション
MAXMBRS	メンバーの最大数	整数, <u>1</u> , *NOMAX	オプション
ACCPHSIZ	アクセス・パス・サイズ	* <u>MAXITB</u> , *MAX4GB	オプション
PAGESIZE	アクセス・パス論理ページ・サイズ	* <u>KEYLEN</u> , 8, 16, 32, 64, 128, 256, 512	オプション
MAINT	アクセス・パスの保守	* <u>IMMED</u> , *DLY, *REBLD	オプション
RECOVER	アクセス・パス回復	*NO, *AFTIPL, *IPL	オプション
FRCACPTH	強制キー順アクセス・パス	* <u>NO</u> , *YES	オプション
UNIT	入れたい記憶装置	1-255, * <u>ANY</u>	オプション
FMTSLR	レコード様式選択プログラム	単一値: * <u>NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: レコード様式選択プログラム	名前, <u>QDDSSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	
FRCRATIO	強制書き出しレコード数	整数, * <u>NONE</u>	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, <u>30</u> , *IMMED, *CLS	オプション
WAITRCD	最大レコード待機時間	整数, <u>60</u> , *IMMED, *NOMAX	オプション
SHARE	オープン・データ・パス共用	* <u>NO</u> , *YES	オプション
SRTSEQ	分類順序	単一値: * <u>SRC</u> , *JOB, *LANGIDSHR, *LANGIDUNQ, *HEX その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 分類順序	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, * <u>LIBL</u> , *CURLIB	
LANGID	言語識別コード	文字値, * <u>JOB</u>	オプション
LVLCHK	レコード様式レベルの検査	* <u>YES</u> , *NO	オプション
AUT	権限	名前, * <u>LIBCRTAUT</u> , *ALL, *CHANGE, *EXCLUDE, *USE	オプション

トップ

ファイル (FILE)

作成する論理ファイルを指定します。

ファイルが高水準言語プログラムで使用される場合には、ファイル名はその言語の命名規則と合っていないければなりません。そうでない場合には、プログラムの中でファイル名を変更しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 論理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

ファイルはジョブの現行ライブラリーに入れられます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

注: 論理ファイルとその基礎となっている物理ファイルがそれぞれ異なるライブラリーに入っていて、その論理ファイルまたは物理ファイルが復元時（災害時回復時やファイルの削除時など）に存在していない場合には、アクセス・パスは復元されません。アクセス・パスは再作成されます。アクセス・パスを再作成ではなく復元できるようにするためには、論理ファイルとその基礎となっている物理ファイルが同じライブラリーに入っていないければなりません。保管されたアクセス・パスの復元の詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)にあります。

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

論理ファイルの作成に使用されるデータ記述仕様(DDS)ソースが入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: ソース・ファイル

QDDSSRC

論理ファイルの作成に使用されるソース記述はDDSソース・ファイル(QDDSSRC)に入っています。

名前 論理ファイルの作成に使用されるDDSが入っているソース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ソース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

ソース・メンバー(SRCMBR)

作成中の論理ファイル用のソースDDSが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

***FILE** ソース・ファイルのメンバー名は、**ファイル (FILE)**パラメーターに指定された名前と同じです。

名前 ソース・ファイル中のメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

生成重大度レベル (GENLVL)

ファイルが作成されない原因となるデータ記述仕様(DDS)メッセージの重大度レベルを指定します。このパラメーターが適用されるのは、ソースDDSファイルの処理中に作成されたメッセージに対してだけです。

20 DDSソース・ファイルの処理中に重大度レベルが20より大きいか等しいエラーが起こった場合には、ファイルは作成されません。

0から30

所要の重大度レベル値を指定してください。0を指定した場合には、ファイルは作成されません。指定する値は、**フラグづけ重大度レベル (FLAG)**パラメーターに指定された値に等しいかそれより大きくなければなりません。

[トップ](#)

フラグづけ重大度レベル (FLAG)

リストするメッセージの最小重大度レベルを指定します。

0 すべてのメッセージがリストされます。

0から30

リストするメッセージの最小重大度を示す数値を指定してください。指定する値は、**生成重大度レベル (GENLVL)**パラメーターに指定された値に等しいかそれより大きくなければなりません。

[トップ](#)

ファイル・タイプ (FILETYPE)

作成される論理ファイルの各メンバーにデータ・レコードが入っているか、あるいはプログラムまたは別のファイル用のソース・レコードが入っているかを指定します。

***DATA**

論理ファイルにはデータ・レコードを入れます。

***SRC** 論理ファイルにはソース・レコードを入れます。この値は結合論理ファイルの場合には指定することができません。

[トップ](#)

論理ファイル・メンバー (MBR)

論理ファイルの作成時に追加する論理ファイル・メンバーを指定します。

***FILE** 追加するメンバーの名前は、**ファイル (FILE)**パラメーターに指定された名前と同じです。

*NONE

ファイルの作成時にメンバーを追加しません。

名前 追加する論理ファイル・メンバーの名前を指定してください。

トップ

物理ファイル・データ・メンバー (DTAMBR5)

このコマンドで追加する論理ファイル・メンバーに関連したデータが入っている物理ファイルおよびメンバーを指定します。論理ファイル・メンバーは、論理ファイル自体の基礎となっているすべての物理ファイルおよびメンバー(*ALL)に基づかせるか、または合計ファイルおよびメンバーのサブセットに基づかせることができます。

注: DDMファイルである論理ファイルにメンバーを追加する時は、物理ファイル（指定された場合）も明示的にそのライブラリーおよびメンバー(1つまたは複数)の指定があるDDMファイルでなければなりません。論理ファイルがDDMファイルである場合には、*CURRENTはサポートされていません。

論理ファイルが作成される場合には、PFILEまたはJFILE DDSキーワードに指定された物理ファイルが使用されて論理ファイルが作成されます。PFILEまたはJFILEキーワード上の物理ファイルにライブラリー名が指定されていない場合には、ファイル作成時のライブラリー・リスト(*LIBL)を使用して物理ファイルを検索し、ライブラリー・リストの物理ファイルを使用して論理ファイルを作成します。PFILEまたはJFILEキーワードの修飾済み物理ファイルは（ライブラリー名が指定されているかどうかにかかわらず、あるいはファイルを検索するためにライブラリーが使用されたかどうかにかかわらず）、論理ファイルに対応した物理ファイルです。論理ファイルに対応した物理ファイルの名前は、論理ファイルの記述の中に保管されます。論理ファイルにメンバーが追加される時には、論理ファイル・メンバーに対応した物理ファイル・メンバーを指定するためにDTAMBR5パラメーターが使用されます。DTAMBR5パラメーターに指定する各物理ファイル名は、論理ファイル（論理ファイルの記述に保管されている）に対応した物理ファイルの名前でなければなりません。

単一値

***ALL** 追加される論理ファイル・メンバーは、論理ファイルによって使用されるすべての物理ファイルおよびメンバー（このCRTLFコマンドの入力時に存在するもの）に基づいています。物理ファイル中の少なくとも1つに、少なくとも1つのメンバーが存在していなければなりません。物理ファイルの名前は、DDSのPFILEまたはJFILEパラメーターに指定されます。

要素1: 物理ファイル

修飾子1: 物理ファイル

名前 追加される論理ファイル・メンバーによってアクセスされるデータが入っている物理ファイルの名前を指定してください。

物理ファイル名はDDS中のPFILEまたはJFILEキーワード上の名前と一致していなければならない。DDS中のPFILEまたはJFILEパラメーターに指定された回数よりも多くDTAMBR5パラメーターに指定することはできません。結合論理ファイルの場合には、JFILEキーワードに指定されたすべての物理ファイルがDTAMBR5パラメーターに指定されなければならない。それぞれ物理ファイルにはメンバーが1つだけ入っていないとできません。DDS中

のPFILEまたはJFILEキーワード上の物理ファイルの物理ファイル名が指定されていない場合には、論理ファイル・メンバーはその物理ファイルのどのメンバーにも対応していません。

修飾子2: ライブラリー

*CURRENT

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名を指定しない場合には、論理ファイル記述からの現行ライブラリー名(*CURRENT)が使用されます。ライブラリー名を指定する場合には、その物理ファイルは論理ファイルに関連した物理ファイルでなければなりません。論理ファイルが同じ名前をもつ複数の物理ファイルと対応している場合には、ライブラリー名を指定しなければなりません。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

単一値

*NONE

メンバー名は指定されません。

その他の値 (最大32個指定可能)

名前 追加される論理ファイルによってアクセスされるデータが入っている物理ファイル・メンバーの名前を指定してください。

FILEパラメーターが結合論理ファイルまたは到着順論理ファイルを指定している場合には、DDSのPFILEまたはJFILEキーワードに指定されている各物理ファイルのDTAMBRSPARAMETERにデータ・メンバーを1つだけ指定しなければなりません。*ALL は、基礎となるそれぞれの物理ファイルの中に1つしかメンバーが入っていない場合にのみ有効です。物理ファイルのいずれかが複数のメンバーを持っている場合には、DTAMBRSPARAMETERに特定の物理ファイル・メンバーを指定しなければなりません。

JFILEキーワードには、同じ物理ファイル名を複数回指定することができます。この場合には、現われるそれぞれのファイル名は基礎となる別の物理ファイルとして扱われるので、DTAMBRSPARAMETERに指定する必要があります。

最大32個までの修飾済み物理ファイル名および物理ファイル・メンバー名を指定することができます。また、メンバー名の合計数が32を超えてはいけません。たとえば、1つのファイルが32個のメンバーを指定するか、2つのファイルがそれぞれ16個ずつのメンバーを指定するか、あるいは32個のファイルがメンバーをそれぞれ1つずつ指定することができます。

DDMファイルの場合:

- DTAMBRSPARAMETERに指定するファイル名は、基礎となるリモート物理ファイルを表すDDMファイルの名前でなければなりません。メンバー名がDDMファイルのリモート・ファイル名の

一部として指定されている場合には、DTAMBRSPARAMETERにそのメンバー名だけを指定しなければなりません。このメンバー名は実際のリモート・ファイル・メンバー名でなければなりません。

- 基礎となる物理ファイルは、メンバーが追加される論理ファイルと同じシステム位置になければなりません。
- DDMファイル中のリモート・ファイル名にメンバー名が指定されていない時には、すべてのメンバーがアクセス可能です。1つのメンバー名だけが指定されている時には、そのメンバーだけが、そのDDMファイルを通してアクセス可能です。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

***SRCMBRTXT**

ソース・ファイルがデータベース・ファイルの場合には、テキストはファイルの作成に使用されたソース・ファイル・メンバーから取られます。ソース・ファイルがインライン・ファイルまたは装置ファイルの場合には、テキストはブランクです。

***BLANK**

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

ソース・リスト・オプション (OPTION)

ファイルの作成時に生成される出力のタイプを指定します。このパラメーターには、以下の値を4つまで任意の順序で指定することができます。オプションに両方の値を指定した場合、あるいはいずれの値も指定しなかった場合には、そのオプションにリストされている最初の値が使用されます。

注: 各オプションの最初の値は似ていますが、実際には省略時の値ではなく、したがってCHGCMDDFT (コマンド省略時値変更) コマンドによって変更することはできません。

ソース・リスト・オプション

***SRCまたは*SOURCE**

ソース・ステートメントの印刷出力 (エラーのリストを含む) が作成されます。

***NOSRCまたは*NOSOURCE**

エラーが検出されない限り、ソース・ステートメントの印刷出力は作成されません。エラーが検出されると、エラーがそのエラーの原因となったキーワードまたはレコード様式と一緒にリストされます。

プログラム・リスト・オプション

***LIST** ファイル仕様および他のファイル記述への参照の明細リストを示す拡張ソース印刷出力が作成されます。

***NOLIST**

展開ソース印刷出力は作成されません。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

***NOSECLVL**

データ記述仕様(DDS)印刷出力のメッセージ・セクションには、DDSの処理中に出されたメッセージのオンライン・ヘルプ情報は入っていません。

***SECLVL**

オンライン・ヘルプ情報がDDS印刷出力に現れます。

イベント・ファイル作成オプション

***NOEVENTF**

コンパイラーは、COOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT FOR ISERIES (CODE FOR ISERIES)プロダクトのイベント・ファイルを作成しません。

***EVENTF**

コンパイラーは、CODE FOR ISERIESプロダクトで使用できるイベント・ファイルを作成します。イベント・ファイルは、オブジェクト・ライブラリーのファイルEVFEVENTの中にメンバーとして作成されます。CODE FOR ISERIESプロダクトは、このファイルを使用して、CODE FOR ISERIESエディターによって統合されたエラー・フィードバックを提供します。通常、この値はユーザーのために CODE FOR ISERIESプロダクトによって指定されます。

[トップ](#)

システム (SYSTEM)

論理ファイルがローカル・システムで作成されるかリモート・システムで作成されるかを指定します。

***LCL** 論理ファイルはローカル・システムで作成されます。

***RMT** 論理ファイルはリモート・システムで作成されます。**ファイル (FILE)**パラメーターに指定されたファイルは、リモート・システムを識別するDDMファイルの名前および作成される論理ファイルの名前でなければなりません。

***FILETYPE**

FILEパラメーターに指定されたファイルがシステムに存在しない場合には、論理ファイルはローカル・システムで作成されます。そうでない場合には、FILEパラメーターのファイルはDDMファイルでなければならず、論理ファイルはリモート・システムで作成されます。DDMファイルはリモート・システムおよび作成される論理ファイルの名前を識別します。

[トップ](#)

メンバーの最大数 (MAXMBRS)

論理ファイルに入れることのできるメンバーの最大数を指定します。

1 1つだけのメンバーをファイルに入れることができます。

***NOMAX**

ファイルに入れることのできるメンバーの数は、システム最大値32,767個のメンバーです。

整数 ファイルに入れることのできるメンバーの最大数を指定してください。有効な値の範囲は1から32767です。

[トップ](#)

アクセス・パス・サイズ (ACCPHSIZ)

結合論理ファイルまたはキー順アクセス・パスをもつファイルと関連付けられるアクセス・パスが占有できる補助記憶域の最大サイズを指定します。

注: 結合論理ファイルの場合には、結合論理ファイルがキー付きファイルでなくても、このパラメーターはすべての結合2次アクセス・パスに適用されます。

*MAX1TB

このファイルと関連付けられるアクセス・パスは、最大1テラバイト(1,099,511,627,776バイト)の補助記憶域を占有することができます。

*MAX4GB

このファイルと関連付けられるアクセス・パスは、最大4ギガバイト(4,294,966,272バイト)の補助記憶域を占有することができます。

[トップ](#)

アクセス・パス論理ページ・サイズ (PAGESIZE)

アクセス・パスの作成時に使用されるアクセス・パス論理ページ・サイズを指定します。

アクセス・パス論理ページ・サイズは、索引の各ページのサイズを決定するためにシステムによって使用されます。この論理ページ・サイズは、ページ不在の場合に補助記憶域からジョブの記憶域プールに移動できるアクセス・パスのバイト数です。

*KEYLEN

アクセス・パス論理ページ・サイズは、1つ以上のキーの合計長によって決定されます。

- 8 8Kの論理ページ・サイズ。
- 16 16Kの論理ページ・サイズ。
- 32 32Kの論理ページ・サイズ。
- 64 64Kの論理ページ・サイズ。
- 128 128Kの論理ページ・サイズ。
- 256 256Kの論理ページ・サイズ。
- 512 512Kの論理ページ・サイズ。

[トップ](#)

アクセス・パスの保守 (MAINT)

キー・フィールドのあるファイルまたは結合論理ファイルの場合には、論理ファイルのすべてのメンバーに使用されるアクセス・パスの保守のタイプを指定します。

*IMMED

アクセス・パスは、メンバー中のレコードの変更、メンバーへのレコードの追加、またはメンバーからのレコードの削除が行われるたびに更新されます。固有キーが必要なファイルの場合には、*IMMEDを指定しなければなりません。

*REBLD

ファイル・メンバーがオープンされるたびにアクセス・パスは完全に再作成されます。アクセス・パスはメンバーがクローズされるまで維持され、メンバーがクローズされると削除されます。固有キーが必要なファイルの場合には、*REBLDを指定することはできません。

***DLY** アクセス・パスの保守は、論理ファイル・メンバーがオープンされるまで延期されます。その後で、ファイルが最後にオープンされた以降に追加、削除、または変更されたレコードについてのみアクセス・パスが変更されます。ファイルがオープンされている間は、基礎となるファイル・メンバーに対して行われたすべての変更は、このパラメーターに何が指定されていても、オープンされたファイル自身のメンバーのアクセス・パスにただちに反映されます。ファイルのオープン時に再作成に要する時間が長くなるのを防ぐためには、連続するオープン操作相互間のアクセス・パスに対する変更数が少ない時にのみ*DLYを指定すべきです。すなわち、ファイルが頻繁にオープンされる場合、あるいはこのアクセス・パスに対するレコード中のキー・フィールドがめったに変更されない場合などです。*DLYは固有のキー値が必要なアクセス・パスには正しくありません。

クローズ操作と次のオープン操作の間における変更の数がアクセス・パス・サイズのおよそ10パーセントに達した場合には、システムは変更の保管を停止し、アクセス・パスは次回にファイルがオープンされる時に完全に再作成されます。最後にメンバーがオープンされた以降にそのメンバーに追加、削除、または変更されたレコードが入っているメンバーがオープンされた時に、アクセス・パスが更新されます。

トップ

アクセス・パス回復 (RECOVER)

アクセス・パス上に即時または遅延保守を備えているファイルの場合に、アクセス・パスの変更中にシステム障害が起こった後で、ファイルの回復処理がいつ実行されるかを指定します。このパラメーターは、結合論理ファイルまたはキー順アクセス・パスのあるファイルに対してのみ有効です。

アクセス・パスの保守 (MAINT)パラメーターに*IMMED または*DLYが指定されている場合には、アクセス・パスは初期プログラム・ロード(IPL) (ユーザーがジョブを実行する前)、IPLの終了後 (並行ジョブの実行中)、または次のファイル・オープン時に再作成することができます。アクセス・パスの再作成中は、ファイルをジョブで使用することはできません。

IPL中は、アクセス・パス回復一時変更画面に、回復すべきパス、および各パスに対するRECOVERパラメーター値がリストされます。ユーザーは、この画面でRECOVERパラメーター値を一時変更することができます。詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)にあります。

MAINTパラメーターに*REBLDを指定すると、アクセス・パスは次にファイルがオープンされる時に再作成されます。

***NO** ファイルのアクセス・パスはファイルのオープン時に再作成されます。*NOは固有キーが必要でないすべてのファイルの省略時の値です。

*AFTIPL

初期プログラム・ロード(IPL)操作が完了した後で、ファイルのアクセス・パスが再作成されます。このオプションによって、このファイルを使用しない他のジョブはIPLの完了直後に処理を開始することができます。ジョブがアクセス・パスの再作成中にファイルを割り振ろうとすると、ファイル・オープン例外が起こります。固有キーが必要なファイルの場合の省略時の値は*AFTIPLです。

***IPL** ファイルのアクセス・パスは、IPL操作時に再作成されます。これにより、最初のユーザー・プロ

グラムがファイルを使用しようとする前に、ファイルのアクセス・パスが再作成されるようになります。しかし、RECOVER(*IPL)を指定するすべてのファイルのアクセス・パスが再作成されるまでは、ジョブは実行を開始することはできません。

トップ

強制キー順アクセス・パス (FRCACCPH)

キー・フィールドのあるファイルまたは結合論理ファイルの場合に、アクセス・パスの変更をファイルの関連レコードと一緒に補助記憶装置に強制書き出しするかどうかを指定します。FRCACCPH(*YES)は、ジョブの異常終了によって、再作成する必要があるアクセス・パスが損傷を受ける可能性を最小限（除去はされない）にします。

注：結合論理ファイルの場合には、結合ファイルがキー付きファイルでなくても、このパラメーター値はすべての結合2次ファイルに対して適用されます。

***NO** アクセス・パスが変更されても、アクセス・パスおよび関連したレコードは補助記憶装置に書き出されません。

***YES** アクセス・パスが変更されると、アクセス・パスおよび関連したレコードは補助記憶装置に書き出されます。アクセス・パスの保守 (MAINT)パラメーターに*REBLDが指定されている場合には、*YESを指定することはできません。

対話式ジョブでアクセス・パスが変更される場合には、FRCACCPH(*YES)ではシステムの応答時間が遅くなります。アクセス・パスが頻繁に変更される場合には、システム全体のパフォーマンスがいくらか影響を受けます。

トップ

入れたい記憶装置 (UNIT)

このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、OS/400オペレーティング・システムのバージョン3リリース6 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。補助記憶域プール(ASP)の使用方法については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)を参照してください。

このパラメーターには値*ANYまたは1から255の値を指定することができます。

トップ

レコード様式選択プログラム (FMTSLR)

論理ファイル・メンバーに複数の論理レコード様式が入っている時に呼び出されるレコード様式選択プログラムを指定します。

レコードがデータベース・ファイルに書き出され、レコード様式名が高水準言語プログラムに入っていない時には、ユーザー作成の選択プログラムが呼び出されます。選択プログラムはそのレコードを入力として受け取り、使用するレコード様式を決定して、それをデータベースに戻します。

このパラメーターは、論理ファイルにレコード様式が1つしかない場合には正しくありません。

単一値

*NONE

この論理ファイル用のセレクターはありません。

修飾子1: レコード様式選択プログラム

QDDSSRC

様式選択プログラムの名前はQDDSSRCです。

名前 呼び出す様式選択プログラムの名前を指定してください。様式選択プログラムとして指定されたプログラムは、**ユーザー・プロファイル (USRPRF)**パラメーターに*OWNERを指定して作成することはできません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラム名を見つけるために現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

強制書き出しレコード数 (FRCRATIO)

補助記憶域に強制的に書き出される前に処理される挿入または更新済みレコードの数を指定します。

論理ファイルに対して指定する強制書き出し率を、その基礎となるファイルの最小強制書き出し率より小さいか等しくすることはできません。より大きい強制書き出し率を指定した場合には、それは無視され、ユーザーに処置を指示するメッセージが出されます。

たとえば、3つの物理ファイルの強制書き出し率が2、6、および8である場合には、これらの3つの物理ファイルに基づく論理ファイルの強制書き出し率はそれらの最小のものに限定しなければなりません。すなわち、この場合は2です。FRCRATIOパラメーターが指定されていない場合でも2が使用されます。このように、プログラムが論理ファイルに2つのレコードを挿入、更新、または削除するたびに（基礎となるどの物理ファイルが影響を受けるかに係わらず）、これらのレコードは強制的に永続記憶域に入られます。

この論理ファイルに関連する物理ファイルをジャーナル処理する場合には、大きい強制書き出し率または*NONEを指定します。ジャーナル管理の詳細は、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)にあります。

*NONE

強制書き込み率を指定しません。どの時点でレコードが補助記憶域に書き出されるかは、システムによって決定されます。

整数 補助記憶域に書き出される前に処理される挿入または更新済みレコードの数を指定してください。

トップ

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ジョブの省略時待機時間がファイル資源の割り振りの待機時間として使用されます。

1から32767

ファイル資源が割り振られるのを待機する秒数を指定してください。

[トップ](#)

最大レコード待機時間 (WAITRCD)

プログラムがレコードの変更または削除を待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にレコードを割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

60 プログラムはレコードの変更または削除を60秒間待機します。

***IMMED**

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***NOMAX**

待機時間は、システムで使用可能な最大で、32767秒です。

整数 プログラムがレコードの変更または削除を待機する秒数を指定してください。有効な値の範囲は1から32767秒です。

[トップ](#)

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じルーティング・ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファーなどの機能を共用します。

注: 論理ファイル・メンバー (MBR)パラメーターに*NONEが指定されている場合には、このパラメーターは無効です。

***NO** ODPは、ルーティング・ステップ内の他のプログラムと共用されません。ファイルの新しいODPが作成され、プログラムがファイルをオープンするたびに使用されます。

***YES** ファイルをオープンする時に*YESも指定したジョブで、同じODPを各プログラムと共用することができます。

[トップ](#)

分類順序 (SRTSEQ)

このファイルに使用する分類順序を指定します。この分類順序とLANGIDパラメーターと一緒に使用されて、使用される分類順序テーブルが決められます。

単一値

***SRC** データ記述仕様(DDS)の中でALTSEQキーワードに指定されたテーブルが使用されます。DDSの中でALTSEQが使用されない場合には、このパラメーターで*JOBに指定された値を使用してください。

***JOB** 使用される分類順序の値は、論理ファイルの作成のためにこのコマンドを出すジョブ用の値です。

*LANGIDSHR

分類順序テーブルは複数の文字について同じ重みを含むことができるもので、LANGIDパラメーターで指定された言語と関連した共用重み付きテーブルです。

*LANGIDUNQ

分類順序テーブルには、コード・ページのそれぞれの文字に対して固有の重みが入っていません。

***HEX** 分類順序テーブルは使用されず、分類順序を決定するために文字の16進数値が使用されます。

修飾子1: 分類順序

名前 ソート・シーケンス・テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

言語識別コード (LANGID)

分類順序 (SRTSEQ)パラメーターに*LANGIDSHRまたは*LANGIDUNQが指定された時に使用される言語IDを指定します。この言語IDとSRTSEQパラメーターと一緒に使用されて、ファイルが使用する分類順序テーブルが決められます。

***JOB** ジョブに指定された言語IDが使用されます。

文字値 言語IDを指定してください。このコマンドについてプロンプトを出す時にIDの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。

[トップ](#)

レコード様式レベルの検査 (LVLCHK)

プログラムによるファイルのオープン時に、論理ファイルのレコード様式のレベルIDを検査するかどうかを指定します。

***YES** レコード様式のレベルIDが検査されます。レベルIDがすべて一致しない場合には、オープン・エラー・メッセージがオープン操作の要求元のプログラムに送られます。

***NO** ファイルのオープン時にレベルIDは検査されません。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド (CRTLIB)で**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

***CHANGE**権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

例1: メンバーなしの論理ファイルの作成

```
CRTL F FILE(INVEN/STOCKCTL) SRCFILE(SRCLIB/STKLFSRC)
      MBR(*NONE)
```

このコマンドは、INVENライブラリーにSTOCKCTLという名前の論理ファイルを作成します。この論理ファイルの作成には、SRCLIB ライブラリーのソース・ファイルSTKLFSRCのソース記述が使用されます。このファイルは、メンバーなし(*NONEが指定されている)で作成されて、後で(MAXMBRSパラメーターの省略時値が1メンバーであるため)メンバーを1つだけ追加することができます。この論理ファイルは、論理ファイルの作成に使用されたDDSソース・ファイルで指定されている物理ファイルに入っているデータにアクセスします。CRTLコマンドを正常に完了するためには、ユーザーはDDSで指定されたすべての物理ファイルに対するオブジェクト操作権限を持っていないければなりません。論理ファイルがキー付きの場合には、オブジェクト管理権限も必要です。

例2: メンバーを持つ論理ファイルの作成

```
CRTL F FILE(PAYLIB/PAYCODESEQ) SRCFILE(PAYLIB/PAYTXSRC)
      DTAMBR(S(PAYTRANS FIRSTQTR) AUT(*EXCLUDE)
      TEXT('PAY TAXES IN CODE SEQUENCE')
```

このコマンドは、PAYLIBライブラリーにどちらもPAYCODESEQという名前の論理ファイルと論理ファイル・メンバーを作成します。ファイルとそのメンバーは、同じライブラリーにあるPAYTXSRC ソース・ファイルから作成されます。論理ファイル・メンバーは、物理ファイルPAYTRANSのFIRSTQTRメンバーに入っているデータにアクセスします。論理ファイルは、所有者専用として保護されます。所有者は、メンバーを作成するためにPAYTRANSに対するオブジェクト操作権限を持っていないければなりません。論理ファイルがキー付きの場合には、オブジェクト管理権限も必要です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3204

&2のファイル&1に必要なオブジェクトを見つけることができない。

CPF323C

QRECOVERYライブラリーを割り振ることができなかった。

CPF5702

ファイルがDDMファイルでないか、あるいは見つからない。

CPF7302

ファイル&1はライブラリー&2に作成されなかった。

[トップ](#)

ライブラリー作成 (CRTLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー作成(CRTLIB)コマンドは、新しいライブラリーをシステムに追加します。ライブラリーにオブジェクトを入れる前に、ライブラリーが作成されていなければなりません。ライブラリーが作成されると、そのライブラリーは、QSYS (システム) ライブラリー内に存在するかのように見えます。

制約事項:

1. QRCLまたはQRPLOBJという名前のライブラリーはシステムASP (ASP 1)にしか作成できません。
2. QRCLXXXXXまたはQRPLXXXXXという名前のライブラリーは、'XXXXX' ('XXXXX'は、右寄せにされ、左にゼロが埋め込まれた1次ASPの番号) に一致するASP番号のASPにしか作成できません。たとえば、ライブラリーQRPL00033は、ASP番号33に一致するASP装置にしか作成できません。
3. ライブラリーQSPLNNNNが1次または2次ASPに作成される時には、'NNNN' ('NNNN'は、右寄せにされ、左にゼロが埋め込まれた1次または2次ASPの番号) に一致するASP番号のASPに作成されなければなりません。
4. 名前がQSYSXXXXX, QSYS2XXXXX,またはSYSIBXXXXX ('XXXXX'は数値) のライブラリーは作成できません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 1
TYPE	ライブラリー・タイプ	*PROD, *TEST	オプション, 定位置 2
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
AUT	権限	名前, *LIBCRTAUT, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
ASP	ASP番号	1-32, 1, *ASPDEV	オプション
ASPDEV	ASP装置	名前, *ASP, *ASPGRPPRI, *SYSTEM	オプション
CRTAUT	作成権限	名前, *SYSVAL, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE	オプション
CRTOBJAUD	オブジェクト監査の作成	*SYSVAL, *NONE, *USRPRF, *CHANGE, *ALL	オプション

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

作成されるライブラリーを指定します。

注: 文字Qで始まる名前を使用してはいけません。システムはそれらの名前のライブラリーをシステム・ライブラリーと見なします。

これは必須パラメーターです。

名前 作成されるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ライブラリー・タイプ (TYPE)

作成されるライブラリーのタイプを指定します。

***PROD**

これはプロダクション・ライブラリーです。プロダクション・ライブラリーの中のデータベース・ファイルは、ユーザーがデバッグ・モードで、プロダクション・ライブラリーの保護を要求した場合には、更新用にオープンすることはできません。ユーザーは、テストを始めるためのデバッグ開始(STRDBG)コマンドの**実動ファイルの更新(UPDPROD)**パラメーターに*NOを指定することによって、プロダクション・ライブラリーのすべてのデータベース・ファイルを更新から保護できます。ただし、この保護では、プログラムがデータベース・ファイルを削除することや、ライブラリー内の他のオブジェクト（データ域など）を変更することは防止できません。

***TEST**

これはテスト・ライブラリーです。テスト・ライブラリー中のオブジェクトは、たとえ特殊な保護がプロダクション・ライブラリーに対して要求されていても、すべてテスト中に更新することができます。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

ライブラリーを簡単に記述するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストはブランクに設定されます。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このライブラリーに対する省略時の共通権限を指定します。これは、ライブラリーに対する特定権限をもっていないユーザー、ライブラリーに指定された権限リスト上にないユーザー、および所属するユーザー・グループがライブラリーに対する特定権限をもっていないユーザーに与えられる権限です。

***LIBCRTAUT**

ライブラリーに対する権限は、QSYSライブラリーの作成権限と同じです。QSYSライブラリーの作成権限はライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用して表示することができます。ライブラリー変更(CHGLIB)コマンドによってQSYSの作成権限を変更しても、新しい権限は既存のライブラリーに影響しません。

***CHANGE**

変更(*CHANGE)権限では、所有者に限定されているもの、あるいはオブジェクト存在(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限によって制御されるものを除き、ライブラリーに対するすべての操作を実行するために必要な権限が提供されます。ユーザーはライブラリーに対して基本的な機能を変更および実行することができます。変更(*CHANGE)権限では、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限および全データ権限が提供されます。

***ALL** 全(*ALL)権限では、所有者に限定されているものまたは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって制御されるものを除くすべての操作を実行するために必要な権限が提供されます。ユーザーは、ライブラリーの存在を制御したり、ライブラリーの機密保護を指定したり、ライブラリーを変更したり、ライブラリーに対する基本的な機能を実行したりできます。ユーザーは、ライブラリーの所有権を変更することもできます。

***USE** 使用(*USE)権限では、プログラムの実行またはファイルの読み取りなどの基本操作をライブラリーに対して実行するために必要な権限が提供されます。ライブラリーは変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーは、ライブラリーにアクセスできません。

名前 権限リストの名前を指定してください。権限リストに含まれているユーザーには、リストに指定されたライブラリーに対する権限が認可されます。ライブラリーを作成する時には、権限リストが存在していなければなりません。

トップ

ASP番号 (ASP)

ライブラリーの記憶域が割り振られるシステムまたは基本ユーザー補助記憶域プール(ASP)の番号を指定します。ASPに作成されるライブラリーの場合には、ライブラリー内のすべてのオブジェクトがライブラリーと同じASPに入っていなければなりません。**ASP装置(ASPDEV)**パラメーターに*ASP以外の値を指定した時、**ASP番号(ASP)**パラメーターを指定する場合には、*ASPDEVが指定できる唯一の有効な値です。またASPDEVパラメーターに*ASP以外の値を指定すると、ASPパラメーターを除外できます。その場合には、その省略時値は無視されます。

1 ライブラリー用の記憶域スペースはシステム補助記憶域プールASP 1から割り振られます。

***ASPDEV**

ライブラリーの記憶域は、ASPDEVパラメーターに指定された1次または2次ASPから割り振られます。

番号 システムまたは基本ユーザーASPの番号である1~32の範囲の値を指定してください。

トップ

ASP装置 (ASPDEV)

ライブラリーの記憶域が割り振られる補助記憶域プール(ASP)装置の名前を指定します。**ASP番号(ASP)**パラメーターに*ASPDEV以外の値を指定した時、**ASP装置(ASPDEV)**パラメーターを指定する場合には、ASPDEV(*ASP)が唯一の有効な値となります。ASPパラメーターを除外した場合には、ASPDEVパラメーターのその他の値が有効となります。この場合には、ASPパラメーターに省略時値として使用された値は無視されます。

***ASP** ライブラリーの記憶域は、システムASPから、あるいはASPパラメーターに指定された基本ユーザーASPから割り振られます。

*ASPGRPRI

ライブラリー用の記憶域はスレッドのASPグループの1次ASPから割り振られます。スレッドと関連付けられているASPグループがない場合には、エラー・メッセージが送られます。

*SYSTEM

ライブラリー用の記憶域はシステムASP (ASP 1)から割り振られます。

名前 1次または2次ASP装置の名前を指定してください。ライブラリー用の記憶域は1次または2次ASPから割り振られます。この1次または2次ASPは活動化されていて(ASP装置をオンに変更することによって)、「使用可能」の状況になっていなければなりません。

注: 特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、ASPグループ中の各ASP装置に対する使用(*USE)権限が必要です。

トップ

作成権限 (CRTAUT)

このライブラリーに作成されるオブジェクトの省略時の共通権限を指定します。これは、オブジェクトに対する特定権限をもっていないユーザー、オブジェクトに指定された権限リスト上にないユーザー、および所属するユーザー・グループがオブジェクトに対する特定権限をもっていないユーザーに与えられる権限です。

ユーザーがオブジェクトをこのライブラリーに作成する時には、オブジェクトの作成コマンドの**権限(AUT)**パラメーターによってオブジェクトに対する共通権限が決定されます。オブジェクトの作成コマンドのAUT値が*LIBCRTAUTである場合には、オブジェクトの共通権限はライブラリーのCRTAUT値に設定されます。

*SYSVAL

オブジェクトがこのライブラリーに作成される時の省略時の共通権限は、QCRTAUTシステム値の値によって決定されます。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限が使用される権限リストの名前を指定してください。

トップ

オブジェクト監査の作成 (CRTOBJAUD)

このライブラリーに作成されるオブジェクトの監査値を指定します。

注: このパラメーターに*SYSVAL以外の値を指定するには、監査(*AUDIT)特殊権限が必要です。

***SYSVAL**

オブジェクトがこのライブラリーに作成される時の監査値は、QCRTOBJAUDシステム値の値によって決定されます。

***NONE**

このオブジェクトを使用または変更しても、監査項目が機密保護ジャーナルに送られることにはなりません。

***USRPRF**

監査項目がアクセス用に機密保護ジャーナルに送られるかどうかを決定するために、このオブジェクトにアクセスしているユーザーのユーザー・プロファイルが使用されます。特定ユーザーの監査をオンにするには、ユーザー監査変更(CHGUSRAUD)コマンドの**オブジェクト監査値(OBJAUD)**パラメーターが使用されます。

***CHANGE**

すべてのユーザーによるこのオブジェクトに対する全変更アクセスでは、監査項目が機密保護ジャーナルに送られることとなります。

***ALL** すべてのユーザーによるこのオブジェクトに対する全変更または読み取りアクセスでは、監査項目が機密保護ジャーナルに送られることとなります。

トップ

例

例1:プロダクション・ライブラリーの作成

```
CRTLIB LIB(MYLIB) TEXT('MY PRODUCTION LIBRARY')
```

ライブラリーMYLIBがシステムに追加されます。このライブラリーはプロダクション・ライブラリーです。所有者だけがそれに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限をもちます。ライブラリーMYLIBに対する他のユーザーの権限は、AUTパラメーターが*LIBCRTAUTとみなされるので、ライブラリーQSYSの作成権限によって決定されます。テキスト'MY PRODUCTION LIBRARY'は、MYLIBのライブラリー記述が表示される時には必ず表示されます。

例2:テスト・ライブラリーの作成

```
CRTLIB LIB(Z) TYPE(*TEST) AUT(*EXCLUDE)
TEXT('THIS IS A TEST LIBRARY')
```

テスト・ライブラリーZがシステムに追加されます。Zは、他のユーザーに権限が認可されていないので、その所有者だけが使用できます。指定されたテキスト('THIS IS A TEST LIBRARY')は、Zのライブラリー記述が表示される時には必ず表示されます。

例3:独立補助記憶域プール(ASP)へのライブラリーの作成

```
CRTLIB LIB(INVENTORY) ASPDEV(SALES)
TEXT('INVENTORY LIBRARY ON SALES ASP')
```

ライブラリーINVENTORYは、システムのSALESという名前の独立補助記憶域プール(ASP) に追加されます。SALES ASPは活動化されて (ASP装置をオンに構成変更することによって) , 状況が「使用可能」になっていなければなりません。このライブラリーはプロダクション・ライブラリーです。所有者だけがそれに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理(*OBJMGT)権限をもちます。ライブラリーINVENTORYに対する他のユーザーの権限は、AUTパラメーターが*LIBCRTAUTとみなされるので、ライブラリーQSYSの作成権限によって決定されます。テキスト'INVENTORY LIBRARY ON SALES ASP'は、INVENTORYのライブラリー記述が表示される時には必ず表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

CPF21A0

ライブラリーを作成または変更するためには*AUDITが必要である。

CPF210E

ライブラリー&1が使用できません。

CPF2111

ライブラリー&1はすでに存在している。

CPF2122

ユーザー・プロファイル&1の記憶域限界を超えた。

CPF2138

ライブラリー&3を作成することはできない。

CPF2166

ライブラリー名&1は無効である。

CPF2172

ASPに指定されている値に対してASPDEV値が無効である。

CPF218A

ライブラリー&1をASP &2に作成することはできない。

CPF218B

ライブラリー&1はASPDEV &2には作成できない。

CPF2197

ライブラリー&1をユーザーASP &2に作成することはできない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF7012

オブジェクト&1の補助記憶域プール&4が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

[トップ](#)

回線記述の作成（非同期）(CRTLINASC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

非同期回線記述の作成(CRTLINASC)コマンドは、非同期回線の回線記述を作成します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
INTERFACE	物理インターフェース	*RS232V24, *RS530V36, *INTMODEM	オプション
CNN	接続タイプ	*NONSWTPP, *SWTPP, *NONSWTCAL, *NONSWTANS	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT	オプション
AUTOCALL	自動呼び出し装置	*NO, *YES	オプション
BITSCHAR	文字当たりのデータ・ビット数	8, 7	オプション
PARITY	パリティのタイプ	*NONE, *ODD, *EVEN	オプション
STOPBITS	停止ビット	1, 2	オプション
DUPLEX	二重	*FULL, *HALF	オプション
ECHO	エコー・サポート	*NONE, *ALL, *CNTL	オプション
LINESPEED	回線速度	50, 75, 110, 150, 300, 600, 1200 , 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 28800, 38400, 57600, 76800, 115200	オプション
MODEM	サポートされるモデム・タイプ	*NORMAL, *V54, *IBMWRAP	オプション
SWTCNN	交換接続タイプ	*BOTH, *ANS, *DIAL	オプション
AUTOANS	自動返答	*YES, *NO	オプション
AUTODIAL	自動ダイヤル呼び出し	*NO, *YES	オプション
DIALCMD	ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ	*NONE, *V25BIS, *OTHER	オプション
SETMDMASC	モデムASYNC設定コマンド	文字値, *NONE, END	オプション
MDMINZCMD	モデム初期化コマンド・ストリング	文字値, *NONE	オプション
ACRSRCNAME	自動呼び出し資源名	名前	オプション
CALLNBR	呼び出し番号	文字値, *NONE	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	150-4200, 300 , *NOMAX	オプション
MAXBUFFER	最大バッファ・サイズ	128-4096, 896	オプション
FLOWCNTL	フロー制御	*NO, *YES, *HARDWARE	オプション
XONCHAR	XON文字	01-FF, 11	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
XOFFCHAR	XOFF文字	01-FF, <u>13</u>	オプション
EORTBL	レコードの終わりテーブル	値 (最大 8 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: レコード終結文字	00-FF, <u>00</u>	
	要素 2: 後書き文字	0-4, <u>0</u>	
DSRDRPTMR	データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー	3-60, <u>6</u>	オプション
AUTOANSTYP	自動返答タイプ	<u>*DTR</u> , *CDSTL	オプション
RMTANSTMR	リモート返答タイマー	30, 35, 40, 45, 50, 55, <u>60</u> , 65, 70, 75, 80, 85, 90, 95, 100, 105, 110, 115, 120	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
CTL	接続された非交換制御装置	名前	オプション
SWTCTLLST	交換制御装置リスト	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
MODEMRATE	モデム・データ速度の選択	<u>*FULL</u> , *HALF	オプション
THRESHOLD	エラーのしきい値レベル	<u>*OFF</u> , *MIN, *MED, *MAX	オプション
IDLTM	アイドル・タイマー	0-254, <u>1</u>	オプション
CTSTMR	送信可タイマー	10-120, <u>25</u> , *NOMAX	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
AUT	権限	名前, <u>*CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

物理インターフェース (INTERFACE)

入出力アダプター(IOA)ポート上の物理インターフェースのタイプを指定します。

***RS232V24 (非同期, BSC, X.25およびSDLCのみ)**

RS-232/V.24物理インターフェース

***V35 (BSCおよびSDLCのみ)**

V.35物理インターフェース

***X21 (X.25およびSDLCのみ)**

X.21物理インターフェース

***X21BISV24 (X.25, BSCおよびSDLCのみ)**

X.21 BIS/V.24物理インターフェース

***X21BISV35 (X.25, BSCおよびSDLCのみ)**

X.21 BIS/V.35物理インターフェース

***RS449V36 (非同期, BSC, X.25およびSDLCのみ)**

RS-449/V.36物理インターフェース

***INTMODEM**

統合モデム・インターフェースが使用されます。

[トップ](#)

接続タイプ (CNN)

回線接続のタイプを指定します。

***NONSWTPP**

非交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

***SWTPP**

交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

***NONSWTCAL**

非交換POINT-TO-POINT回線は呼び出しモードで使用されます。

***NONSWTANS**

非交換POINT-TO-POINT回線は応答モードで使用されます。

[トップ](#)

交換網バックアップ (SNBU)

非交換モデムの場合にかぎり、ローカル・モデムが交換網バックアップ・ユーティリティー(SNBU)機能をサポートするかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換（非交換回線）接続を迂回するために使用されます。

SNBUを活動化するには、モデムのモードを非交換から交換に変更する必要があります。モデム・モデルがIBM 386X, 586X,または786Xの場合には、変更は不要です。そうでない場合には、使用している回線記述の交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)パラメーターに*YESを指定してください。

*NO ローカル・モデムには、SNBU機能はありません。

*YES ローカル・モデムにSNBU機能があります。

[トップ](#)

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されません。

オンへの構成変更の待機

待機する時間（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更 (VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなる場合があります。

[トップ](#)

自動呼び出し装置 (AUTOCALL)

交換または交換網バックアップ回線（非同期、BSC、SDLC、またはX.25回線）の場合には、リモート・システムを自動的に呼び出す関連の自動呼び出し装置を回線に付けるかどうかを指定します。

*NO この回線に自動呼び出し装置を関連付けません。

*YES この回線に自動呼び出し装置を関連付けます。

[トップ](#)

文字当たりのデータ・ビット数 (BITSCHAR)

文字当たりのデータ・ビット数を指定します (パリティ・ビットがある場合はこれを除きます)。

8 文字当たりのデータ・ビット数に8が使用されます。

注: 8ビット (パリティ付き) は特定の入出力プロセッサでは使用できません。

7 文字当たりのデータ・ビット数に7が使用されます。

[トップ](#)

パリティのタイプ (PARITY)

エラー検査に使用されるパリティのタイプを指定します (パリティ・ビットは、そのパリティ・ビットを含めて、すべての数字の算術合計を出すためにデータの各バイトに挿入される2進数字で、常に奇数か、あるいは常に偶数です)。

注: リモート・システムは同じパリティを使用しなければなりません。

*NONE

パリティ・ビットはデータ・バイトに挿入されません。

*ODD パリティ・ビットも含めて、すべての桁数の算術合計は奇数です。

*EVEN

パリティ・ビットも含めて、すべての桁数の算術合計は偶数です。

[トップ](#)

停止ビット (STOPBITS)

各文字の終わりに追加するビット数を指定します。これらのビットは、回線のローカル終端とリモート終端の同期化を維持するために使用されます。

注: リモート・システムはローカル・システムと同じ数の停止ビットを使用しなければなりません。

1 1ビットのストップ・ビットが各文字に追加されます。

2 2ビットのストップ・ビットが各文字に追加されます。

注: 300 BPSまたはそれ以下の回線速度では、2ビットのストップ・ビットをお奨めします。

[トップ](#)

二重 (DUPLEX)

送信要求(RTS)が永続的にオン (全二重モデムの場合) であるか、あるいは送信が必要な時にだけオンになる (半二重モデムの場合) かどうかを指定します。

*HALF

送信要求(RTS)がオンに構成変更されるのは、送信が必要な場合(半二重モデムの場合)だけです。モデムが二重をサポートしている場合でも、半二重を選択することができます。

*FULL

送信要求(RTS)は永続的にオンにセットされています (二重モデムの場合)。

[トップ](#)

エコー・サポート (ECHO)

システムが受信したすべての文字をリモート・システムに送り返す (エコー) か、レコード終結文字以外のすべての文字を送り返すか、あるいはエコーが使用禁止であるかどうかを指定します。

注: この回線がエコーを必要とするリモート・システムとの通信をサポートする場合には、*ALLまたは*CNTLを指定してください。*ALLまたは*CNTLを指定した場合には、二重 (DUPLEX)パラメーターにも*FULLを指定しなければなりません。

*NONE

受信した文字はリモート・システムに対してエコーされません。

*ALL 受信したすべての文字はリモート・システムに対してエコーされます。

*CNTL

レコード終結文字の前に受信したすべての文字はリモート・システムに対してエコーされます。

[トップ](#)

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

1200 1200 BPSが使用されます。

回線速度

回線速度を指定します。有効な回線速度は50, 75, 110, 150, 300 600, 1200, 2400 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 28800, 38400, 57600, 76800,または115200 ビット/秒です。

[トップ](#)

サポートされるモデム・タイプ (MODEM)

通信回線でサポートされているモデムのタイプを指定します。選択すべき適切な値を判別するためにはモデムの解説書を参照してください。

*NORMAL

ユーザー・モデムに対する診断テストを実行する試みは行われません。

*V54 特定タイプの診断テスト(CCITT推奨事項によって定義された) がユーザー・モデムに対して実行されます。このシステムはCCITT V.54ループ3 (ローカル折り返し) およびループ2 (これはリモート折り返し) をサポートします。

*IBMWRAP

折り返しテスト機能のあるIBMモデムが通信回線で使用されます。

***IBMLPDA1**

リンク問題判別援助機能-1 (LPDA-1)のあるIBMモデムが回線上で使用されます。

***IBMLPDA2**

リンク問題判別援助機能-2 (LPDA-2)のあるIBMモデムが回線上で使用されます。

[トップ](#)

交換接続タイプ (SWTCNN)

着信呼び出しまたは発信呼び出し、あるいはこの両方に交換（非同期、BSC、SDLC、またはIDLC）回線を使用するか、あるいは交換網バックアップ（非同期、BSC、またはSDLC）回線を使用するかを指定します。

***BOTH**

回線は着信および発信の両方の呼び出しに使用されます。

***ANS** 回線が着信呼び出しの場合にのみ使用されます。

***DIAL** 回線は発信呼び出し専用で使用されます。

[トップ](#)

自動返答 (AUTOANS)

交換または交換網バックアップ回線（非同期、BSC、SDLC、またはX.25回線）の場合に、接続を確立するためにシステムがリモート・システムからの呼び出しに自動的に応答するかどうか、あるいはシステム操作員が呼び出しに手操作で応答しモデムをデータ・モードにするかどうかを指定します。

注: *YESは、モデムに自動応答機構がある場合にだけ有効なオプションです。

***YES** 着信呼び出しは自動応答機能によって自動的に応答されます。

***NO** 着信呼び出しは手動で応答する必要があります。

[トップ](#)

自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)

交換回線の場合に、接続を確立するためにシステムがリモート・システムを自動的に呼び出すかどうか、あるいはシステム操作員が手操作で呼び出しを入れる必要があるかどうかを指定します。

***NO** 回線接続は、X.25ネットワークの手動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

***YES** 回線接続は、X.25ネットワークのシステム自動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

[トップ](#)

ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)

リモート・システムとの交換接続の確立に使用されるダイヤル呼び出しコマンドのタイプを指定します。

***NONE**

ダイヤル呼び出しコマンドは使用されません。(自動呼び出し装置を使用して接続が行われます。)

***V25BIS**

呼び出しの確立およびデータの伝送に1つの物理インターフェースが使用できるV.25 BISをお奨めします。これは、システムからモデムへのディジットがリンク上に逐次に提示されるために、逐次自動呼び出しインターフェースと呼ばれています。

***OTHER**

IBMコマンド・セットは、非同期プロトコルで使用されるこの他のコマンド・タイプの1つの例です。ダイヤル呼び出しの数字およびその他のすべての呼び出し関連データは、アプリケーション・プログラムによってデータ・ストリームに直接入れられます。

トップ

モデムASYNC設定コマンド (SETMDMASC)

モデムをASYNCモードに設定するためにモデムに送信するV25BISコマンド・ストリングを指定します。

***NONE**

V25BISコマンド・ストリングはモデムに送信されません。

END ENDコマンド・ストリングは通常、ほとんどのモデムをASYNCモードに設定するためのコマンドとして使用されます。ENDコマンド・ストリングを使用しない場合には、モデムをASYNCモードに設定するために、適切なコマンド・ストリングをユーザーが入力しなければなりません。

コマンド・ストリング

出されるコマンドを表す文字を最大40文字まで指定します。有効な文字は大文字のAからZ, 小文字のAからZ, 数字0から9, および次の特殊文字です。

- ・ ピリオド
- < より小記号
- (左括弧
- + プラス符号
- & アンパーサンド
- * アスタリスク
-) 右括弧
- ; セミコロン
- マイナス符号
- / スラッシュ
- , コンマ
- _ 下線
- > より大記号
- ? 疑問符
- : コロン
- = 等号

モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)

モデムを設定するために送るモデム初期化コマンド・ストリングを指定します。

注: 有効であるのは、INTERFACE(*INTMODEM)またはINFTRFATYPE(*SYNCMODEM)が指定されている時だけです。

*NONE

コマンド・ストリングはモデムに送信されません。

コマンド・ストリング

モデムに送信する最大60文字までのコマンド・ストリングを指定します。有効な文字は大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

ピリオド
より小記号
左括弧
プラス符号
アンバーサンド
アスタリスク
右括弧
セミコロン
マイナス符号
スラッシュ
コンマ
下線
より大記号
疑問符
コロンの
等号
スペース
番号記号
二重引用符
感嘆符
単価記号
曲折記号
パーセント
左大括弧
右大括弧
円記号

注: モデム初期設定ストリングは、'AT'の2文字で始まらなければなりません。

自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)

リモート・システムとの接続を確立するために使用される自動呼び出し装置ポートを記述する自動呼び出し資源名を指定します。ハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用して資源名を判別してください。

呼び出し番号 (CALLNBR)

V.25 BIS識別による呼び出し要求(CRI)ダイヤル呼び出しコマンドに使用される回線のローカル電話番号を指定します。V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが使用されると、システムが呼び出された（接続）番号(CNPNBRパラメーター)を選択し、区切り文字(:)を追加して、終わりに呼び出し元番号を入れます。省略時の値の*NONEは、通常呼び出し要求(CRN)が使用されることを示します。

呼び出し元番号を指定するのは、モデムおよびネットワークがCRIダイヤル呼び出しをサポートしている場合だけです。

*NONE

通常呼び出し要求(CRN)が使用されます。CRNダイヤル呼び出しはV.25 BIS モデムに接続番号だけを送信します。

呼び出し元番号

V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが必要な場合には、そのローカル電話番号を指定します。この番号は最大32文字の長さとすることができます。モデムに対して許される値を判別するには、そのモデムの文書を参照してください。

注: モデムとネットワークの両方がV.25 BIS CRIダイヤル呼び出しコマンドをサポートしている場合にだけ、呼び出し元番号を指定してください。

[トップ](#)

非活動タイマー (INACTTMR)

システムが回線を切り離す前に交換回線上で活動を待機する時間(1/10秒単位)を指定します。

*NOMAX

システムは活動を無期限に待機します。

非活動タイマー

150から4200の単位を指定します。各単位は0.1秒を表し、これは0.3から9.9 秒の時間の範囲を示します。

[トップ](#)

最大バッファ・サイズ (MAXBUFFER)

インバウンドおよびアウトバウンドのデータ・バッファの最大サイズを指定します。

[トップ](#)

フロー制御 (FLOWCNTL)

ハードウェアがデータ・フローを制御するかどうかを指定します。

***NO** ハードウェアがフロー制御文字を生成または認識できないようにして、さらに、送信要求(RTS)および送信可(CTS)フロー制御信号を使用できないようにします。

***YES** システムは非同期プロトコルのフロー制御機能を使用します。*YESが指定されている場合は、ハードウェアはフロー制御文字を認識します。これは、XOFF文字が受信されると、XON文字が受信さ

れるまで、ハードウェアが送信を停止することを意味します。また、文字の受信ができない時にハードウェアがリモート・ロケーションにXOFF文字を送信することも意味します。ハードウェアが再び文字を受信可能な時に、XON文字をリモート・システムに送信します。

***HARDWARE**

このオプションが指定された場合には、ハードウェアは、文字の受信が可能でない時にRTS信号を除去することによってデータの送信を停止する信号をモデムに送ります。文字の受信が再び可能な場合には、ハードウェアはそのモデムに対してRTS信号を出します。また、ハードウェアはCTSおよびRTS信号をモデムからモニターして、これがオフになった時にデータの送信を停止します。

注:

1. *YESまたは*HARDWAREを指定した場合には、DUPLEX(*FULL)を指定しなければなりません。
2. ハードウェア・フロー制御は、送信要求(RTS)および送信可(CTS)フロー制御信号を使用して実行されず。

[トップ](#)

XON文字 (XONCHAR)

16進値のフロー制御文字XONを指定します。システムは、データを送信中にXOFF文字を受信した場合には、自動的に送信を中止し、XON文字を受信した後でのみデータの送信を再開します。

XON文字

XON文字は16進数01からFFの任意の値とすることができますが、XOFF文字とは異なった文字で、さらに、16進数の20 (ASCIIブランク) などのユーザーの通常データ・ストリームには現れない文字を指定する必要があります。

[トップ](#)

XOFF文字 (XOFFCHAR)

16進値のフロー制御文字XOFFを指定します。システムは、データを送信中にXOFF文字を受信した場合には、自動的に送信を中止し、XON文字を受信した後でのみデータの送信を再開します。

XOFF文字

16進数XOFF文字を指定します。XOFF文字は16進数01からFFの任意の値とすることができますが、XON文字とは異なった文字で、さらに、16進数の20 (ASCIIブランク) などのユーザーの通常データ・ストリームには現れない文字を指定する必要があります。

[トップ](#)

レコードの終わりテーブル (EORTBL)

データを受信したときにハードウェアが論理レコードを認識できるようにするテーブルを指定します。データ・ストリームにレコード終結文字(EOR)として行送り(LF)を定義し、データ・ストリーム内でLF文字が検出されたときに、ハードウェアがデータを戻すようにすることができます。

EORテーブルは1組の対の要素として指定され、この対の最初の要素はEOR文字で、2番目の文字はEOR文字の後に続く文字数を指定します。最大8項目まで指定することができます。00の値はレコード終結文字が定義されないことを表します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

EOR文字

レコード終結文字を指定します。有効なレコード終結文字は16進数の01から7F (7ビット/文字の場合) または01からFF (8ビット/文字の場合) の範囲内です。レコード終結文字は非同期通信サポートによる変換の後にその行に現れた通りに指定されます。

後書き文字

レコード終結文字が検出された後に受信した追加の文字数を指定します。後書き文字数は0から4です。

[トップ](#)

データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)

エラーの信号を出す前に、モデムがデータ・セット・レディー(DSR)状態を終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

切断タイマー

3から60秒の範囲の値を指定します。

[トップ](#)

自動返答タイプ (AUTOANSTYP)

システムが受信呼び出しの応答に使用する方法を指定します。

***DTR** システムは「データ端末レディー」状態になり、呼び出しに応答するようにモデムに信号を送り、「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのをモデムが待ちます。

***CDSTL**

呼び出しに応答するようにモデムに信号を送るために「リング標識」をモニターした後、システムは「データ・セット回線接続」(CDSTL)状態になります。

[トップ](#)

リモート返答タイマー (RMTANSTMR)

ダイヤル呼び出しの後、エラーの信号を出す前に、モデムが「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのを、システムが待機する時間を指定します。

応答タイマー

30から120秒の範囲の値を5秒間隔で指定します。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

接続された非交換制御装置 (CTL)

非交換回線の場合には、この回線に接続されている1つまたは複数の制御装置名を指定します。制御装置記述は事前に存在しなければなりません。

[トップ](#)

交換制御装置リスト (SWTCTLLST)

この交換回線との接続を確立できる最大64台までの交換制御装置の名前を指定します。制御装置記述は事前に存在しなければなりません。このパラメーターが有効なのは、回線が交換回線であるか、あるいは非交換回線が交換網バックアップ(SNBU) 機能をもっている場合だけです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

交換制御装置リスト

交換制御装置名を指定します。最大64の交換制御装置を指定することができます。

[トップ](#)

モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)

モデムにデータ速度選択機能が備わっている場合には、回線が作動する速度を指定します。

*FULL

回線はそのモデムの全速度で作動します。

*HALF

回線はそのモデムの全速度の半分で作動します。

[トップ](#)

エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)

システムによって監視される一時エラーエラーしきい値レベルを指定します。永続エラーは、エラーが連続して起こり、再試行回数限界を超えた場合にだけ、報告されます。

注: すべてのしきい値エラーに影響するTHRESHOLDパラメーターを指定します。これらを個別に指定することはできません。

***OFF** しきい値エラーは報告されません。

***MIN** エラーのしきい値は最小のモニター・レベルにセットされます。

***MED** エラーのしきい値は中間のモニター・レベルにセットされます。

***MAX** エラーのしきい値は最大のモニター・レベルにセットされます。

[トップ](#)

アイドル・タイマー (IDLTMR)

アダプターが受信バッファーをシステムへ転送する前の文字間でシステムが待機する時間(0.5秒間隔で)を指定します。

遊休タイマー

1から254の値を0.5秒間隔で指定するか、あるいはタイマーなしを表す0を指定します。

注: また、遊休タイマーは文字間タイマーとも呼ばれます。

[トップ](#)

送信可タイマー (CTSTMR)

エラーの信号を送る前に、モデムが送信可(CTS)状態に入るかまたは終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

*NOMAX

システムは無期限に待機します。

CTSタイマー

10から120秒の範囲の値を指定します。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

この回線記述で使用する2番目のレベルの通信回復の試みの限界を指定します。

使用できる**カウント限界**の値は次の通りです。

2 指定された時間間隔内に2回の回復が試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。有効な値の範囲は、0から99です。

使用できる**時間間隔**の値は、次の通りです。

5 5分間の間隔で指定された回数の回復が試みられます。

時間間隔

回復の試みが行なわれるまでの時間(分数)を指定してください。有効な値の範囲は0から120(1分間隔)です。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTLINASC LIND(ITF) RSCRNAME(LIN031)
```

このコマンドは、資源名がLIN031のITFという名前の非同期回線記述を作成します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

トップ

回線記述の作成(BSC) (CRTLINBSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

BSC回線記述の作成(CRTLINBSC)コマンドにより、BSC回線の回線記述を作成することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
APPTYPE	適用業務タイプ	*PGM, *RJE, *EML	オプション
INTERFACE	物理インターフェース	*RS232V24, *RS449V36, *RS530V36, *V35, *X21BISV24, *X21BISV35	オプション
CNN	接続タイプ	*NONSWTPP, *SWTPP, *MPTRIB	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT	オプション
AUTOCALL	自動呼び出し装置	*NO, *YES	オプション
STNADR	端末アドレス	04-FE	オプション
CLOCK	刻時	*MODEM, *SYSTEM	オプション
DUPLEX	二重	*HALF, *FULL	オプション
LINESPEED	回線速度	600, 1200, 2400, 4800, 7200, <u>9600</u> , 14400, 19200, 48000, 56000, 57600	オプション
MODEM	サポートされるモデム・タイプ	*NORMAL, *V54, *IBMWRAP	オプション
SWTCNN	交換接続タイプ	*BOTH, *ANS, *DIAL	オプション
AUTOANS	自動返答	*YES, *NO	オプション
AUTODIAL	自動ダイヤル呼び出し	*NO, *YES	オプション
DIALCMD	ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ	*NONE, *V25BIS	オプション
ACRSRCNAME	自動呼び出し資源名	名前	オプション
CALLNBR	呼び出し番号	文字値, *NONE	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	150-4200, <u>300</u> , *NOMAX	オプション
MAXBUFFER	最大バッファ・サイズ	8-8192, <u>1024</u>	オプション
CODE	文字コード	*EBCDIC, *ASCII	オプション
RCVTMR	受信タイマー	30-254, <u>30</u>	オプション
CONTTMR	続行タイマー	16-24, <u>20</u>	オプション
CTNRTY	回線争奪状態再試行	0-21, <u>7</u>	オプション
DTASTTRTY	データ状態再試行	0-255, <u>7</u>	オプション
TMTRTY	TTDまたはWACK送信再試行	0-65534, <u>60</u> , *NOMAX	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
RCVRTY	TTDまたはWACK受信再試行	0-65534, <u>45</u> , *NOMAX	オプション
DSRDRPTMR	データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー	3-60, <u>6</u>	オプション
AUTOANSTYP	自動返答タイプ	* <u>DTR</u> , *CDSTL	オプション
RMTANSTMR	リモート返答タイマー	30, 35, 40, 45, 50, 55, <u>60</u> , 65, 70, 75, 80, 85, 90, 95, 100, 105, 110, 115, 120	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
CTL	接続された非交換制御装置	名前	オプション
SWTCTLLST	交換制御装置リスト	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
MODEMRATE	モデム・データ速度の選択	* <u>FULL</u> , *HALF	オプション
SYNCCHARS	SYN同期文字	<u>2</u> , 4	オプション
THRESHOLD	エラーのしきい値レベル	* <u>OFF</u> , *MIN, *MED, *MAX	オプション
STXLRC	LRCへのSTX文字の組み込み	* <u>NO</u> , *YES	オプション
CTSTMR	送信可タイマー	10-60, <u>25</u>	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
AUT	権限	名前, <u>*CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

資源名 (RSRCNAME)

自動呼び出し装置ポートを記述する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。資源名はポート上にあります。たとえば、資源名はイーサネット・ポートでCMN01です。

これは必須パラメーターです。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

*YES この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

*NO この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

トップ

適用業務タイプ (APPTYPE)

この装置によって使用されるアプリケーション・タイプを指定します。

*PGM このBSC回線は、ユーザー作成のプログラム(RJEまたはEMLではない)により使用されます。

*RJE このBSC回線は、リモート・ジョブ入力機能により使用されます。

*EML このBSC回線は3270エミュレーションで使用されます。

トップ

物理インターフェース (INTERFACE)

入出力アダプター(IOA)ポート上の物理インターフェースのタイプを指定します。

*RS232V24 (非同期, BSC, X.25およびSDLCのみ)

RS-232/V.24物理インターフェース

*V35 (BSCおよびSDLCのみ)

V.35物理インターフェース

*X21 (X.25およびSDLCのみ)

X.21物理インターフェース

*X21BISV24 (X.25, BSCおよびSDLCのみ)

X.21 BIS/V.24物理インターフェース

*X21BISV35 (X.25, BSCおよびSDLCのみ)

X.21 BIS/V.35物理インターフェース

*RS449V36 (非同期, BSC, X.25およびSDLCのみ)

RS-449/V.36物理インターフェース

*INTMODEM

統合モデム・インターフェースが使用されます。

トップ

接続タイプ (CNN)

回線接続のタイプを指定します。

*NONSWTPP

非交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

注: 適用業務タイプ (APPTYPE)パラメーターに*EMLを選択した場合には、この値を選択することはできません。

*SWTPP

交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

注: 適用業務タイプ (APPTYPE)パラメーターに*EMLを選択した場合には、この値を選択することはできません。

*MPTRIB

マルチポイント従属回線

注: 適用業務タイプ (APPTYPE)パラメーターに*RJEを選択した場合には、この値を選択することはできません。

トップ

交換網バックアップ (SNBU)

非交換モデムの場合にかぎり、ローカル・モデムが交換網バックアップ・ユーティリティー(SNBU)機能をサポートするかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換（非交換回線）接続を迂回するために使用されます。

SNBUを活動化するには、モデムのモードを非交換から交換に変更する必要があります。モデム・モデルがIBM 386X, 586X,または786Xの場合には、変更は不要です。そうでない場合には、使用している回線記述の交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)パラメーターに*YESを指定してください。

*NO ローカル・モデムには、SNBU機能はありません。

*YES ローカル・モデムにSNBU機能があります。

トップ

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されません。

オンへの構成変更の待機

待機する時間（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更 (VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する

- 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
- 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

[トップ](#)

自動呼び出し装置 (AUTOCALL)

交換または交換網バックアップ回線（非同期、BSC、SDLC、またはX.25回線）の場合には、リモート・システムを自動的に呼び出す関連の自動呼び出し装置を回線に付けるかどうかを指定します。

- *NO この回線に自動呼び出し装置を関連付けません。
- *YES この回線に自動呼び出し装置を関連付けます。

[トップ](#)

端末アドレス (STNADR)

マルチポイント従属回線の場合に、16進数アドレスを指定します（このアドレスによってローカル・システムがリモート・システムに認識されます）。16進数アドレスはこのシステムに割り当てられたポーリング・アドレスです。

*ASCIIの文字コードが指定された場合には、6ビットがオンにセットされたどのアドレスも使用できません。*EBCDICの文字コードが指定された場合には、2ビットがオンにセットされたどのアドレスも使用できません。

端末アドレス

04からFEの16進数値を指定します。BSC制御文字を指定することはできません。

[トップ](#)

刻時 (CLOCK)

回線の刻時機能がどのような方法で提供されるかを指定します。

- *MODEM
回線の刻時機能はモデムによって提供されます。

[トップ](#)

二重 (DUPLEX)

送信要求(RTS)が永続的にオン（全二重モデムの場合）であるか、あるいは送信が必要な時にだけオンになる（半二重モデムの場合）かどうかを指定します。

***HALF**

送信要求(RTS)がオンに構成変更されるのは、送信が必要な場合(半二重モデムの場合)だけです。モデムが二重をサポートしている場合でも、半二重を選択することができます。

***FULL**

送信要求(RTS)は永続的にオンにセットされています (二重モデムの場合)。

[トップ](#)

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

1200 1200 BPSが使用されます。

回線速度

回線速度を指定します。有効な回線速度は50, 75, 110, 150, 300 600, 1200, 2400 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 28800, 38400, 57600, 76800,または115200 ビット/秒です。

[トップ](#)

サポートされるモデム・タイプ (MODEM)

通信回線でサポートされているモデムのタイプを指定します。選択すべき適切な値を判別するためにはモデムの解説書を参照してください。

***NORMAL**

ユーザー・モデムに対する診断テストの実行は試みられません。

***V54** 特定タイプの診断テスト(CCITT推奨事項によって定義された通り)がユーザー・モデムに対して実行されます。このシステムはCCITT V.54ループ3 (ローカル折り返し) およびループ2 (リモート折り返し) をサポートします。

***IBMWRAP**

折り返しテスト機能のあるIBMモデムが通信回線で使用されます。

[トップ](#)

交換接続タイプ (SWTCNN)

着信呼び出しまたは発信呼び出し、あるいはこの両方に交換 (非同期, BSC, SDLC, またはIDLC)回線を使用するか、あるいは交換網バックアップ (非同期, BSC,またはSDLC)回線を使用するかを指定します。

***BOTH**

回線は着信および発信の両方の呼び出しに使用されます。

***ANS** 回線が着信呼び出しの場合にのみ使用されます。

***DIAL** 回線は発信呼び出し専用で使用されます。

[トップ](#)

自動返答 (AUTOANS)

交換または交換網バックアップ回線（非同期、BSC、SDLC、またはX.25回線）の場合に、接続を確立するためにシステムがリモート・システムからの呼び出しに自動的に応答するかどうか、あるいはシステム操作員が呼び出しに手操作で応答しモデムをデータ・モードにするかどうかを指定します。

注: *YESは、モデムに自動応答機構がある場合にだけ有効なオプションです。

*YES 着信呼び出しは自動応答機能によって自動的に応答されます。

*NO 着信呼び出しは手動で応答する必要があります。

トップ

自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)

交換回線の場合に、接続を確立するためにシステムがリモート・システムを自動的に呼び出すかどうか、あるいはシステム操作員が手操作で呼び出しを入れる必要があるかどうかを指定します。

*NO 回線接続は、X.25ネットワークの手動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

*YES 回線接続は、X.25ネットワークのシステム自動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

トップ

ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)

リモート・システムとの交換接続の確立に使用されるダイヤル呼び出しコマンドのタイプを指定します。

*NONE

ダイヤル呼び出しコマンドは使用されません。(自動呼び出し装置を使用して接続が行われます。)

*V25BIS

呼び出しの確立およびデータの伝送に1つの物理インターフェースが使用できるV.25 BISをお奨めします。これは、システムからモデムへのディジットがリンク上に逐次に提示されるために、逐次自動呼び出しインターフェースと呼ばれています。

トップ

自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)

リモート・システムとの接続を確立するために使用される自動呼び出し装置ポートを記述する自動呼び出し資源名を指定します。ハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用して資源名を判別してください。

トップ

呼び出し番号 (CALLNBR)

V.25 BIS識別による呼び出し要求(CRI)ダイヤル呼び出しコマンドに使用される回線のローカル電話番号を指定します。V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが使用されると、システムが呼び出された（接続）番号(CNNNBRパラメーター)を選択し、区切り文字(:)を追加して、終わりに呼び出し元番号を入れます。省略時の値の*NONEは、通常呼び出し要求(CRN)が使用されることを示します。

呼び出し元番号を指定するのは、モデムおよびネットワークがCRIダイヤル呼び出しをサポートしている場合だけです。

*NONE

通常呼び出し要求(CRN)が使用されます。CRNダイヤル呼び出しはV.25 BIS モデムに接続番号だけを送信します。

呼び出し元番号

V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが必要な場合には、そのローカル電話番号を指定します。この番号は最大32文字の長さとすることができます。モデムに対して許される値を判別するには、そのモデムの文書を参照してください。

注: モデムとネットワークの両方がV.25 BIS CRIダイヤル呼び出しコマンドをサポートしている場合にだけ、呼び出し元番号を指定してください。

[トップ](#)

非活動タイマー (INACTTMR)

システムが回線を切り離す前に交換回線上で活動を待機する時間(1/10秒単位)を指定します。

*NOMAX

システムは活動を無期限に待機します。

非活動タイマー

150から4200の単位を指定します。各単位は0.1秒を表し、これは0.3から9.9 秒の時間の範囲を示します。

[トップ](#)

最大バッファ・サイズ (MAXBUFFER)

インバウンドおよびアウトバウンドのデータ・バッファの最大サイズを指定します。

[トップ](#)

文字コード (CODE)

回線で拡張2進10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*EBCDIC

EBCDIC文字セット・コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

[トップ](#)

受信タイマー (RCVTMR)

受信時間切れが起きる前にシステムがリモート・システムからのデータを待機する時間の長さを指定します。

受信タイマー

30から254の値を0.1秒間隔で指定します。

[トップ](#)

続行タイマー (CONTTMR)

システムでデータの送信または受信の準備ができていない時に、回線が作動不能にならないよう制御文字を送信する前にシステムが待機している時間を指定します。このパラメーターはRJEのアプリケーション・タイプでは無効です。

続行タイマー

16から24の値を0.1秒間隔で指定します。

[トップ](#)

回線争奪状態再試行 (CTNRTY)

エラーを表示し、回線を作動不能にする前に行う回線争奪状態における再試行の回数を指定します。

BSCの場合、回線争奪とは伝送終結(EOT)文字が受信または送信されてから、開始順序(ENQ)が肯定応答(ACK)されるまで存在する状態です。

データ通信では、回線またはリンクが使用可能なときにはいつでも、どちらのユーザーからでも伝送することのできる、ある種の半二重回線またはリンクの制御方法です。両方のユーザーが同時に要求を送送しようとした場合には、回線を獲得するユーザーはプロトコルまたはハードウェアによって決定されます。

回線争奪状態再試行

回線争奪状態再試行の回数に対して0から21の値を指定します。

[トップ](#)

データ状態再試行 (DTASTRTY)

エラーを示し、セッションを終了する前に行うデータ状態再試行回数を指定します。

BSCの場合、データ状態とはBSCが通信回線で文字を送信または受信している状態です。

データ状態再試行

データ状態再試行の回数に対して0から255の値を指定します。

TTDまたはWACK送信再試行 (TMTRTY)

一時テキスト遅延(TTD)を送信する再試行回数，またはセッション障害を示す前の送信前待機を指定します。このパラメーターはRJEのアプリケーション・タイプでは無効です。

*NOMAX

再試行は無制限に実行されます。

TTDまたはWACK再試行の送信

再試行の回数に対して0から65534の値を指定します。

TTDまたはWACK受信再試行 (RCVRTY)

セッション障害を示す前の，一時テキスト遅延(TTD)または送信待機要求(WACK) の受信の再試行回数を指定します。このパラメーターは，アプリケーション・タイプがプログラム相互間の場合にのみ有効です。

*NOMAX

再試行は無制限に実行されます。

TTDまたはWACK再試行の受信

再試行の回数に対して0から65534の値を指定します。

データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)

エラーの信号を出す前に，モデムがデータ・セット・レディー(DSR)状態を終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

切断タイマー

3から60秒の範囲の値を指定します。

自動返答タイプ (AUTOANSTYP)

システムが受信呼び出しの応答に使用する方法を指定します。

***DTR** システムは「データ端末レディー」状態になり，呼び出しに応答するようにモデムに信号を送り，「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのをモデムが待ちます。

*CDSTL

呼び出しに応答するようにモデムに信号を送るために「リング標識」をモニターした後，システムは「データ・セット回線接続」(CDSTL)状態になります。

リモート返答タイマー (RMTANSTMR)

ダイヤル呼び出しの後、エラーの信号を出す前に、モデムが「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのを、システムが待機する時間を指定します。

応答タイマー

30から120秒の範囲の値を5秒間隔で指定します。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

接続された非交換制御装置 (CTL)

非交換回線の場合には、この回線に接続されている1つまたは複数の制御装置名を指定します。制御装置記述は事前に存在しなければなりません。

[トップ](#)

交換制御装置リスト (SWTCTLLST)

この交換回線との接続を確立できる最大64台までの交換制御装置の名前を指定します。制御装置記述は事前に存在しなければなりません。このパラメーターが有効なのは、回線が交換回線であるか、あるいは非交換回線が交換網バックアップ(SNBU)機能をもっている場合だけです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

交換制御装置リスト

交換制御装置名を指定します。最大64の交換制御装置を指定することができます。

[トップ](#)

モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)

モデムにデータ速度選択機能が備わっている場合には、回線が作動する速度を指定します。

*FULL

回線はそのモデムの全速度で作動します。

*HALF

回線はそのモデムの全速度の半分で作動します。

[トップ](#)

SYN同期文字 (SYNCCHARS)

伝送中に送信するBSC SYN（同期）制御文字の数を指定します。SYN制御文字は、同期を確立し、維持するために使用され、データまたは他の制御文字がない時の埋め合わせとしても使用されます。

- 2 同期パターンは連続した2文字のSYN文字で構成されています。
- 4 同期パターンは連続した4文字のSYN文字で構成されています。

[トップ](#)

エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)

システムによって監視される一時エラーエラーしきい値レベルを指定します。永続エラーは、エラーが連続して起こり、再試行回数限界を超えた場合にだけ、報告されます。

注: すべてのしきい値エラーに影響するTHRESHOLDパラメーターを指定します。これらを個別に指定することはできません。

- *OFF しきい値エラーは報告されません。
- *MIN エラーのしきい値は最小のモニター・レベルにセットされます。
- *MED エラーのしきい値は中間のモニター・レベルにセットされます。
- *MAX エラーのしきい値は最大のモニター・レベルにセットされます。

[トップ](#)

LRCへのSTX文字の組み込み (STXLRC)

テキストの開始(STX)制御文字が、水平冗長検査(LRC)の計算に含まれるかどうかを指定します。これは、ASCII文字コードを使用する回線にのみ適用されます。

- *NO STX制御文字はLRCの計算に含まれていません。
- *YES STX制御文字はLRCの計算に含まれています。

[トップ](#)

送信可タイマー (CTSTMR)

エラーの信号を送る前に、モデムが送信可(CTS)状態に入るかまたは終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

CTSタイマー

10から60秒の範囲の値を指定します。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

この回線記述で使用する2番目のレベルの通信回復の試みの限界を指定します。

使用できる**カウント限界**の値は次の通りです。

- 2 指定された時間間隔内に2回の回復が試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。有効な値の範囲は、0から99です。

使用できる**時間間隔**の値は、次の通りです。

- 5 5分間の間隔で指定された回数の回復が試みられます。

時間間隔

回復の試みが行なわれるまでの時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120（1分間隔）です。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

- *ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

- *USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

- 名前** オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載

っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

例

```
CRTLINBSC  LIND(BRANCHES)  RSRNAME(LIN021)
           ONLINE(*NO)  CNN(*SWTPP)
           AUTOCALL(*YES)  ACRSRNAME(LIN032)
           SWTCTLLST(BRANCH1  BRANCH2)
```

このコマンドは、2番目のIOAの最初のポートのBSC回線記述を作成します。これは、3番目のIOAの2番目のポートで自動ダイヤルに設定されるか、自動応答に設定されます。SWTCTLLST内には制御装置記述がすでに存在しています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

回線記述の作成(DDI) (CTRLINDDI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述 (分散データ・インターフェース) 作成(CTRLINDDI)コマンドは, FDDI (ファイバー分散データ・インターフェース) ローカル・エリア・ネットワークなどのデータ記述インターフェースの回線記述を作成します。このコマンドの使用法の詳細は, AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *NWID	必須, キー, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT	オプション
MAXCTL	最大制御装置数	1-256, <u>40</u>	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-4444	オプション
LOGLVL	ロギング・レベル	*OFF, *ERRORS, *ALL	オプション
LCLMGRMODE	ローカル管理機能モード	*OBSERVING, *NONE	オプション
NWI	接続NWI	名前, *NONE	オプション
NWIDLCI	DLC識別コード	1-1018, *NONE	オプション
ADPTADR	ローカル・アダプター・アドレス	400000000000-7FFFFFFFFFFFF, *ADPT	オプション
EXCHID	交換識別コード	05600000-056FFFFFF, *SYSGEN	オプション
SSAP	SSAPリスト	単一値: *SYSGEN その他の値 (最大 24 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ソース・サービス・アクセス点	02-FE	
	要素 2: SSAP最大フレーム	265-4444, *MAXFRAME	
	要素 3: SSAPタイプ	*CALC, *NONSNA, *SNA	
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
NETCTL	ネットワーク制御装置	名前	オプション
GRPADR	グループ・アドレス	値 (最大 12 回の繰り返し): 800000000000-FFFFFFFFFFFFE, *NONE	オプション
TKNRTTIME	トークン循環時間	4-167, *CALC	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
LINKSPEED	リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, <u>*MAX</u>	オプション
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	オプション
SECURITY	回線の機密保護	<u>*NONSECURE</u> , *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	*PKTSWTNET, <u>*LAN</u> , *MIN, *TELEPHONE, *SATELLITE, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, <u>128</u>	オプション
AUTOCRTCTL	制御装置記述の自動作成	*YES, <u>*NO</u>	オプション
AUTODLTCTL	制御装置記述の自動削除	1-10000, <u>1440</u> , *NONE	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, <u>*CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。資源名はポート上にあります。たとえば、資源名はイーサネット・ポートでCMN01です。

注: RSRCTYPEパラメーターに指定された値は、*NWIDからその他の値に、あるいはその他の値から*NWIDに変更することはできません。

これは必須パラメーターです。

***NWID**

接続されたフレーム・リレー・ネットワーク・インターフェース記述に指定された資源名が使用されます。

名前 資源名を指定してください。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

***NOWAIT**

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

[トップ](#)

最大制御装置数 (MAXCTL)

回線がサポートする制御装置の最大数を指定します。

40 回線は40台の制御装置をサポートします。

制御装置の最大数

このネットワークに対して現在活動状態になっているすべての制御装置の数と、近い将来接続する予定の制御装置数を考慮した十分な大きさの数字を指定します。有効な値の範囲は1から256です。

[トップ](#)

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送信または受信できる最大フレーム（経路情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は要求単位(RU)サイズの計算に使用されます。制御装置が送信または受信できる最大PIUサイズはシステムIDが交換される時に決められるので、実行時に使用される最大PIUサイズは異なるものになることがあります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。

注: MAXFRAME値は電話キャリアによって提供され、そのヘッダーのサイズのための44バイトを差し引く必要があります。

4105 最大フレーム・サイズは4105バイトです。

注: RSRCNAME(*NWID)が指定された場合には、この値は1556に変わります。

最大フレーム・サイズ

最大フレーム・サイズを指定します。有効な値の範囲は265から4444バイトです。

[トップ](#)

ロギング・レベル (LOGLVL)

DDIローカル・エリア・ネットワーク(LAN)管理機能によって使用されるエラー・ロギング・レベルを指定します。このパラメーターを使用して、非送信請求LANエラーがログに記録されるかどうかを判別されます。これらのメッセージは、QHSTメッセージ待ち行列またはQSYSOPRメッセージ待ち行列のいずれかに記録されます。

注: RSRCNAME(*NWID)を指定した場合には、LOGLVLパラメーターは使用されません。

***OFF** エラーはモニターされません。

*ERRORS

LANマネージャー・エラー・メッセージだけをログに記録します。

***ALL** LANマネージャー・エラー・メッセージおよび通知メッセージをログに記録します。

[トップ](#)

ローカル管理機能モード (LCLMGRMODE)

この端末が監視ネットワーク管理機能であるかどうかを指定します。監視ネットワーク管理機能は、リング上のこの端末およびその他の端末のネットワーク・エラー・メッセージおよび通知メッセージをログに記録します。これらのメッセージは、QHSTメッセージ待ち行列またはQSYSOPRメッセージ待ち行列のいずれかに記録されます。

監視モードでだけ使用可能な情報の例としては、一般的なリング操作には影響しないリモート端末でのエラー、またはリングを結合または終了している端末に関する情報などがあります。

注: RSRCTYPE(*NVID)またはLOGLVL(*OFF)が指定された場合には、LCLMGRMODEは使用されません。

*OBSERVING

この端末のLANマネージャー機能はすべてのアダプターによって生成された情報を検索します。

*NONE

この端末のLANマネージャー機能はローカル・アダプターによって生成された情報だけを検索します。

注: ローカル・エリア・ネットワーク・マネージャーはこの端末と関連したメッセージ、および*NONEを指定した場合にリングにアクセスするその機能をログに記録します。

トップ

接続NWI (NWI)

接続されている非交換フレーム・リレーNWIを指定します。

注: RSRCTYPE(*NVID)が指定されない場合は、NWI(*NONE)を指定する必要があります。そうでない場合は、NVIDLCI(*NONE)も指定されている時にだけNWI(*NONE)を指定することができます。

*NONE

ネットワーク・インターフェースは指定されません。

名前 接続された非交換フレーム・リレーNWIの名前を指定してください。

トップ

DLC識別コード (NVIDLCI)

ネットワーク・インターフェースのデータ・リンク接続ID (DLCI)を指定します。

注: RSRCTYPE(*NVID)が指定されていない場合は、NVIDLCI(*NONE)を指定しなければなりません。その他の場合は、NVIDLCI(*NONE)を指定できるのは、NWI(*NONE)も指定されている場合だけです。

*NONE

DLCIはネットワーク・インターフェースに対しては指定されません。

データ・リンク接続ID

この回線を永続的に接続するネットワーク・インターフェースのDLCIを指定します。有効な値の範囲は1から1018です。

トップ

ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)

12桁の16進数アダプター・アドレスを指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)を指定した場合には、ADPTADR(*ADPT)を指定することはできません。

*ADPT

この値はユーザーに対してこのDDIアダプター・カードの事前設定のDDI省略時アドレスを提供します。ユーザーは、正常にオンに構成変更した後この回線記述でDSPLINDを実行することによってこれを表示することができます。

ローカル・アダプター・アドレス

DDIネットワーク中のこのシステムのアドレスを指定します。有効な値の範囲は16進数の400000000000から7FFFFFFFFFFFです。

[トップ](#)

交換識別コード (EXCHID)

リモート・システムに対してローカル・システムを識別させるために使用される16進交換IDを指定します。この16進交換IDは8桁で、3桁はブロック番号を、5桁はこのシステムのIDを示します。

*SYSGEN

オペレーティング・システムは交換IDを生成します。

交換ID

056から始まる8桁の16進数からなる交換IDを指定します。

[トップ](#)

SSAPリスト (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、バスから適切なユーザーに着信データを経路指定するために使用する16進数論理アドレスです。各SSAPに、最大フレーム・サイズを指定することができます。有効なSSAP値はAA (TCP/IPの場合)、および4で割り切れる04から9Cの値(SNAの場合)です。

リモート制御装置で指定される宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)は、通信のために指定されたSSAPの1つと一致しなければなりません。SSAP値はすべて固有のものでなければなりません。

*SYSGEN

システムは自動的に3つのSSAP、16進数04 (SNAの場合) および16進数の06 (TCP/IPアプリケーションの場合) を作成します。

可能なSSAPの値は次の通りです。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

有効なSSAP値を使用して、最大24のSSAPを指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

可能なSSAPのフレーム・サイズ値は次の通りです。

***MAXFRAME**

MAXFRAMEパラメーターに指定されたフレーム・サイズが使用されます。

SSAP最大フレーム

SSAPの最大フレーム・サイズ（送信または受信できるデータ・フィールドの最大サイズ）を指定します。このパラメーターの有効な値の範囲は265から4444バイトですが、MAXFRAMEパラメーターの値を超えてはいけません。

可能なSSAPタイプの値は次の通りです。

***CALC**

システムは、次の値に基づいてSSAPタイプを判別します。

- 4の倍数の04から9C（SNAの場合）
- 2の倍数の02からFE（非SNAの場合）

***SNA** SNA通信にはSSAPが使用されます。有効な値の範囲は04から9Cで、4で割りきれない値でなければなりません。

***NONSNA**

SSAPは非SNA通信用に使用されます。有効な値の範囲は02からFEで、2で割りきれない値でなければなりません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

ネットワーク制御装置 (NETCTL)

既存のネットワーク制御装置の名前を指定します。

[トップ](#)

グループ・アドレス (GRPADR)

使用される分散データ・インターフェース・グループ・アドレスを指定します。グループ・アドレスはおのおの12桁の16進数として指定しなければなりません。有効な値の範囲は800000000000からFFFFFFFFFFFEです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***NONE**

グループ・アドレスは指定されません。

グループ・アドレス

使用されるグループ・アドレスを指定します。

[トップ](#)

トークン循環時間 (TKNRTTIME)

要求されたトークン回転時間を指定します。この値は端末がネットワークでの送信権を要求する時に使用されます。リングが使用する値は、そのリング上にあるすべての接続端末のうち最も小さい値によって決まります。

注: RSRCNAME(*NWID)が指定された時には、TKNRTTIME(*CALC)を指定しなければなりません。

*CALC

システムは制御装置にリンクされる回線のタイプに基づいて値を計算します。

トークン回転時間

4から167ミリ秒の範囲の値を指定します。

[トップ](#)

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

*MAX 16M BPSより大きいリンク速度が使用されます。

4M リンク速度は4M BPSです。

*MIN 1200 BPSより小さいリンク速度が使用されます。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効な値の範囲は次の通りです。すなわち、1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M,および16Mです。

[トップ](#)

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

0 接続時間当たりのコストは0です。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

コスト/バイト (COSTBYTE)

回線でデータを送受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

0 1バイト当たりのコストは0です。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

トップ

回線の機密保護 (SECURITY)

物理回線の機密保護レベルを指定します。

*NONSECURE

通常の優先順位が使用されます。

*PKTSWTNET

パケット交換網が使用されます。データはネットワークを介して常に同じパスを通るとはかぎりません。

*UNDGRDCBL

地下ケーブルが使用されます。

*SECURECND

安全だが、防護されない配管（たとえば、与圧パイプ）が使用されます。

*GUARDCND

物理的な傍受から保護された防護配管が使用されます。

*ENCRYPTED

回線上を流れるデータは暗号化されます。

***MAX** 物理的および電磁波の傍受から保護された配管が使用されます。

トップ

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。最短から最長遅延への値の順序は、*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, および *SATELLITEです。

***LAN** ローカル・エリア・ネットワーク伝搬遅延が使用されます。

*PKTSWTNET

パケット交換網伝搬遅延が使用されます。

***MIN** 最小伝搬遅延が使用されます。

*TELEPHONE

電話伝搬遅延が使用されます。

*SATELLITE

衛星通信伝搬遅延が使用されます。

*MAX 最大伝搬遅延が使用されます。

[トップ](#)

ユーザー定義1 (USRDFN1)

3つのユーザー定義フィールドのうち最初のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義2 (USRDFN2)

3つのユーザー定義フィールドのうち2番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義3 (USRDFN3)

3つのユーザー定義フィールドのうち3番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上の隣接システムから呼び出しを受け取った時にシステムが自動的に制御装置記述を作成するかどうかを指定します。

*NO 着信呼び出しを受信した時に、システムは制御装置記述を自動的に作成しません。

*YES 着信呼び出しを受信した時に、システムが制御装置記述を自動的に作成します。

[トップ](#)

制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)

自動的に作成された制御装置がアイドル状態（オンに構成変更された状態からオンへの構成変更保留状態に切り替えられた状態）のままでいられる時間（分数）を指定します。この時間が過ぎると、回線記述および接続されている装置記述がオフに構成変更されて削除されます。

1440 制御装置記述は1440分間(24時間) 遊休にすることができます。

*NONE

システムは、自動的に構成された遊休制御装置記述を自動的に削除したり、オフに構成変更したりすることはありません。

待機時間

この回線の自動的に構成された遊休制御装置記述を削除する前に待機する分数を指定します。有効な値の範囲は1から10,000分です。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

可能な最大回復しきい値は次の通りです。

2 指定された間隔内に回復が2回試みられます。

カウント限界

試みる回復処置の回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

可能な回復時間間隔値は次の通りです。

5 15秒のタイムアウト期間が使用されます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値に指定された回復限界が使用されます。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SYSVAL

システム値QCFGMSGQの値が使用されます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTLINDDI LIND(DDILAN1) RSRNAME(LIN011)
          TEXT('FIBER DISTRIBUTED DATA INTERFACE (FDDI) LINE')
```

このコマンドは、システム上のアダプターLIN011に設置されているFDDI回線用にDDILAN1という名前のDDI回線記述を作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

回線記述の作成(イーサネット) (CRTLINETH)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

イーサネット回線記述の作成(CRTLINETH)コマンドはイーサネット回線の回線記述を作成します。

CRTLINETHの共通エラー

共通の構成エラーを防ぐために、回線記述を構成する前に、スイッチまたはハブのポート構成を決定してください。オペレーティング・システムがネットワークと正しく通信するためには、回線記述パラメーターとポート構成が一致していなければなりません。

回線記述を構成する際には次のガイドラインを使用してください。

- スwitchまたはハブが回線速度または二重のいずれかを自動折衝する場合は、LINESPEEDおよびDUPLEXパラメーターの両方に*AUTOを指定してください。LINESPEED(100M)またはLINESPEED(10M)およびDUPLEX(*FULL)を指定しないでください。
- スwitchまたはハブが回線速度または二重のいずれかを自動折衝しない場合には、システムで対応する値を指定してください。たとえば、スイッチが回線速度100Mおよび全二重を指定している場合には、コマンドでLINESPEED(100M)およびDUPLEX(*FULL)を指定します。

頻繁に問題が起こる1つの原因は2838のような自動折衝可能アダプターの二重の設定値とスイッチまたはハブの間のミスマッチです。自動折衝の場合は、スイッチ、ハブ、または自動折衝可能アダプターのいずれでも二重を検出できません。したがって、ユーザーにミスマッチを知らせる手段がありません。二重のミスマッチ症状には次のものがあります。

- A6E3, A6F4参照コード
- ローパフォーマンス
- TCP/IPの再送回数の多さ

以下は2809および2810 IOPの場合の共通参照コードです。

A6E3 二重ミスマッチ、ケーブルの問題、または自動折衝のタイムアウト

A6F4 リンクを確立できない、回線速度のミスマッチ、二重のミスマッチ、またはケーブルがない。

A42B スwitchまたはハブが自動折衝に関与していません。良好なリンクが確立できない可能性があります。回線記述を再構成して、スイッチまたはハブを一致させる必要があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *NWID, *NWSID	必須, 定位置 2

キーワード	記述	選択項目	注
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT	オプション
NWI	接続NWI	名前, *NONE	オプション
NWITYPE	NWIタイプ	*FR	オプション
NWIDLCI	DLC識別コード	1-1018, *NONE	オプション
NWS	ネットワーク・サーバー 記述	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1:	名前	
	要素 2: ポート番号	1-2, *VRTETHPTP, *VRTETH0, *VRTETH1, *VRTETH2, *VRTETH3, *VRTETH4, *VRTETH5, *VRTETH6, *VRTETH7, *VRTETH8, *VRTETH9	
ASSOCPORT	関連したポート資源名	名前, *NONE	オプション
ADPTADR	ローカル・アダプター・アドレス	文字値, *ADPT	オプション
EXCHID	交換識別コード	05600000-056FFFFF, *SYSGEN	オプション
ETHSTD	イーサネット標準	*ETHV2, *IEEE8023, *ALL	オプション
LINESPEED	回線速度	文字値, 10M, 100M, 1G, *AUTO	オプション
DUPLEX	二重	文字値, *HALF, *FULL, *AUTO	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	1496-8996, 1496, 8996	オプション
SSAP	SSAPリスト	単一値: *SYSGEN その他の値 (最大 24 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ソース・サービス・アクセス点	02-FE	
	要素 2: SSAP最大フレーム	265-8996, *MAXFRAME, 265, 521, 1033, 1466, 1493, 1496, 8996	
	要素 3: SSAPタイプ	*CALC, *NONSNA, *SNA, *HPR	
ACCTYPE	ATMアクセス・タイプ	*SVC, *PVC	オプション
PVCID	PVC識別コード	要素リスト	オプション
	要素 1: 仮想経路識別コード	0-7	
	要素 2: 仮想回線識別コード	32-4095	
USELECSADR	LECSアドレスの使用	*YES, *NO	オプション
LESATMADR	LES ATMアドレス	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク接頭部	16 進値	
	要素 2: 末端システム識別コード	16 進値	
	要素 3: セレクター・バイト	16 進値	
EMLLANNAME	エミュレートLAN名	文字値, *NONE	オプション
LECDSTIMO	LEC切断タイムアウト	1-30, 10, *NOMAX	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
NETCTL	ネットワーク制御装置	名前	オプション
GRPADR	グループ・アドレス	単一値: *NONE その他の値 (最大 12 回の繰り返し): 010000000000-FDFFFFFFF	オプション
MAXCTL	最大制御装置数	1-256, 40	オプション
THRESHOLD	エラーのしきい値レベル	*OFF, *MIN, *MED, *MAX	オプション
GENTSTFRM	テスト・フレームの生成	*YES, *NO	オプション
LINKSPEED	リンク速度	1200-603979776000, *MIN, 4M, 10M, 16M, 100M, *MAX	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	オプション
SECURITY	回線の機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	*LAN, *MIN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, <u>128</u>	オプション
AUTOCRTCTL	制御装置記述の自動作成	*YES, *NO	オプション
AUTODLTCTL	制御装置記述の自動削除	1-10000, <u>1440</u> , *NONE	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

資源名 (RSRCNAME)

通信ポートを識別する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。資源名はポート上にあります。たとえば、資源名はイーサネット・ポートでCMN01です。

注: RSRCTYPEパラメーターで指定された値は、*NWSDから別の値に、あるいは別の値から*NWSDに変更することはできません。

*NWID

接続されたフレーム・リレー・ネットワーク・インターフェース記述に指定された資源名が使用されます。

*NWSD

資源名は使用されるネットワーク・サーバーによって判別されます。

名前 通信ポートの資源名を指定してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されません。

オンへの構成変更の待機

待機する時間 (秒数) を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更 (VRYCFG) コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

[トップ](#)

接続NWI (NWI)

使用するネットワーク・インターフェース記述を指定します。

注: RSRCTYPE(*NWI)が指定されない場合は、NWI(*NONE)を指定する必要があります。そうでない場合は、NWI(*NONE)も指定されている時にだけNWI(*NONE)を指定することができます。

*NONE

ネットワーク・インターフェースは指定されません。

名前 使用するネットワーク・インターフェース記述の名前を指定してください。

[トップ](#)

NWIタイプ (NWI TYPE)

ネットワーク・インターフェース・タイプを指定します。

注: このパラメーターは、RSRCTYPEが*NWIでない場合には無視されます。

***FR** ネットワーク・インターフェース・タイプはフレーム・リレーです。

[トップ](#)

使用されるフレーム・リレー・ネットワーク・インターフェース・データ・リンク接続IDを指定します。

注: RSRCTYPE(*NWI)が指定されていない場合は、NWI(*NONE)を指定しなければなりません。その他の場合は、NWI(*NONE)を指定できるのは、NWI(*NONE)も指定されている場合だけです。

*NONE

DLCIはネットワーク・インターフェースに対しては指定されません。

データ・リンク接続ID

この回線を永続的に接続するネットワーク・インターフェースのDLCIを指定します。有効な値の範囲は1から1018です。

[トップ](#)

ネットワーク・サーバー 記述 (NWS)

この回線が接続されるネットワーク・サーバー名を指定します。

注: RSRCTYPE(*NWS)が指定された場合には、NWSを指定する必要があります。RSRCTYPE(*NWS)が指定されない場合には、NWS(*NONE)を指定する必要があります。

可能なネットワーク・サーバー記述の値は次の通りです。

*NONE

サーバー記述は指定されません。

名前 使用される既存のネットワーク・サーバー記述の名前を指定してください。

可能なネットワーク・サーバー・ポートの値は次の通りです。

ネットワーク・サーバー・ポート

回線の接続先のネットワーク・サーバー・ポートを指定します。有効な値は、1,2または仮想ポート*VRTETHPTPまたは*VRTETHNで、Nは0から9です。

[トップ](#)

関連したポート資源名 (ASSOCPORT)

WINDOWSネットワーク・サーバーとネットワークの間の接続を確立するために使用されるポートを記述する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。資源名はポート上にあります。たとえば、資源名はイーサネット・ポートでCMN01です。

注: ASSOCPORTパラメーターが有効なのは、RSRCNAME(*NWS)が指定されている場合だけです。

*NONE

関連付けられたポート資源名は回線と関連付けられていません。

名前 資源名を指定してください。

[トップ](#)

ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)

12桁の16進数アダプター・アドレスを指定します。

*ADPT

このイーサネット・アダプター・カードの事前設定の省略時アドレスが使用されます。

注: RSRCNAME(*NWID)およびNWITYPE(*FR)が指定されている場合には、この値は無効です。

注: NWSパラメーターで仮想イーサネット・ポート番号に*VRTETHPTPまたは*VRTETHN (Nは0から9)を指定するときには、*ADPTを指定する必要があります。

ローカル・アダプター・アドレス

イーサネット・ネットワーク中でこのシステムを記述する選択項目のアダプター・アドレスを指定します。指定される値はローカルに管理される個別のアドレスでなければなりません。有効な値は、*ADPTまたは16進数の020000000000からFEFFFFFFFです。2桁目は2, 6, A,またはEでなければなりません。

[トップ](#)

交換識別コード (EXCHID)

リモート・システムに対してローカル・システムを識別させるために使用される16進交換IDを指定します。この16進交換IDは8桁で、3桁はブロック番号を、5桁はこのシステムのIDを示します。

*SYSGEN

この値によって、オペレーティング・システムは交換IDを作成できます。回線記述表示(DSPLIND)コマンドを使用して、結果の交換IDを調べます。

交換ID

05600000から056FFFFFFの範囲の8文字(16進数の4バイト) 交換ID を指定します。

トップ

イーサネット標準 (ETHSTD)

ネットワーク上で使用されるイーサネット標準を識別します。

***ALL** すべてのイーサネット標準がネットワーク上で使用されます。

***ETHV2**

イーサネット・バージョン2

***IEEE8023**

IEEE 802.3標準

トップ

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

10M 回線速度は秒当たり1000万ビットです。

100M 回線速度は秒当たり1億ビットです。

1G 回線速度は秒当たり1ギガ・ビット(10億ビット/秒) です。

注: 値1Gはギガビット・イーサネットを指定します。ギガビット・イーサネットが使用可能となるのは、厳密にTCP/IPプロトコルを実行しているときだけです。NWSパラメーターで仮想イーサネット・ポート番号に*VRTETHPTPまたは*VRTETHN (Nは0から9)を指定するときには、1Gを指定する必要があります。

***AUTO**

回線速度の値は自動折衝を使用してハードウェアによって判別されます。

トップ

二重 (DUPLEX)

ハードウェアがデータの送信と受信を同時に行うことができるかどうかを指定します。半二重モードでは、ハードウェアがデータの送信と受信を交互に切り替えなければなりません。全二重モードでは1つのケーブルがデータの送信専用で、もう1つのケーブルがデータの受信専用です。したがって、データの送信と受信を同時に行うことができます。全二重ではハブが必要です。

注: 最適なパフォーマンスを得るためには、この設定はこの回線が接続しているスイッチまたはハブの設定と一致している必要があります。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)を参照してください。

***HALF**

回線は半二重モードを使用して通信します。

*FULL

回線は全二重モードを使用して通信します。

注: NWSパラメーターで仮想イーサネット・ポート番号に*VRTETHPTPまたは*VRTETHN (Nは0から9)を指定するときには、*FULLを指定する必要があります。

*AUTO

二重の値は自動折衝を使用してハードウェアによって判別されます。

トップ

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

この回線記述で送信または受信できる最大フレーム・サイズを指定します。

1496 最大フレーム・サイズは1496バイトです。

最大フレーム・サイズ

使用する最大フレーム・サイズの値を指定します。有効なフレーム・サイズ (バイト数) の範囲は1496から8996です。

注: RSRCNAME(*NWID)が指定された場合には、このパラメーターに有効な値は1496バイトだけです。最大フレーム・サイズが1496バイトより大きい場合には、LINESPEED(1G)またはLINSPEED(*AUTO)とDUPLEX(*FULL)またはDUPLEX(*AUTO)を使用する必要があります。NWSパラメーターで仮想イーサネット・ポート番号*VRTETHPTPまたは*VRTETHN (Nは0から9)が指定されている場合には、8996を推奨します。

トップ

SSAPリスト (SSAP)

SSAP値、最大フレーム・サイズ、およびSSAPタイプが入っているソース・サービス・アクセス・ポイント (SSAP)情報を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

可能なソース・サービス・アクセス・ポイント値は次の通りです。

*SYSGEN

システムがソース・サービス・アクセス・ポイントを判別します。

- ETHSTD(*ALL)またはETHSTD(*IEEE8023)が指定された場合には、システムがSSAP 04, 12, AA, およびC8を生成します。
- ETHSTD(*ETHV2)が指定された場合には、システムがSSAP 04および08を生成します。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

データの送受信のサービス・アクセス・ポイントを指定します。ETHSTDが*ALLまたは*IEEE8023の場合には、TCP/IPアプリケーションではSSAPは16進数の06またはAAでなければなりません (ETHSTDが*ETHV2の場合には、06およびAAは使用できませんが、TCP/IPはまだ実行可能です)。SNAアプリケーションでは、4の倍数で04から9Cの範囲の値を指定します。たとえば、7Cは有効な選択項目です。非SNAアプリケーションでは、2の倍数の02からFEの範囲の値を指定します。

可能なSSAPの値は次の通りです。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

データの送受信のソース・サービス・アクセス・ポイントを指定します。最大24個のSSAP値を指定することができます。

- 伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)アプリケーションでは、SSAPはAAでなければなりません。

注: ETHSTD(*ETHV2)が指定された場合には、AAを指定することはできませんが、TCP/IPは実行できます。

システム・ネットワーク体系(SNA)アプリケーションでは、SSAPは、4の倍数の04から9Cの範囲の16進数値(04, 08, 0Cなど)でなければなりません。

- ハイパフォーマンス経路指定(HPR)アプリケーションでは、SSAPは16進数のC8でなければなりません。
- 非SNAアプリケーションでは、SSAPは2の倍数の02からFEの範囲の値(02, 04, 06など)でなければなりません。
- LAN印刷アプリケーションでは、*NONSNAのSSAPタイプの12のSSAP値を指定します。
-

可能なSSAP最大フレーム・サイズの値は次の通りです。

*MAXFRAME

システムが送受信できる最大フレーム・サイズ(データ・フィールド・サイズ)を判別します。ETHSTD(*ALLまたは*IEEE8023)が指定されている場合には、*CALCはTCP/IPおよびSNA SSAP用に1496のフレーム・サイズを作成します。ETHSTD(*ETHV2)が指定されている場合には、*CALCはSNA SSAP用に1493のフレーム・サイズを作成します。

SSAP最大フレーム

このSSAPの最大フレーム・サイズを指定します。有効な値の範囲は265から8996(イーサネット標準(ETHSTD)パラメーターで*ETHV2が指定された場合には、SNA SSAPで265から1493)です。

注: 資源名(RSRCNAME)パラメーターで*NWIDが指定され、ETHSTDパラメーターで*ETHV2が指定されている場合には、このパラメーターに有効な値の範囲は265から1486バイトです。RSRCNAMEパラメーターで*NWIDが指定され、ETHSTDパラメーターで*ALLまたは*IEEE8023が指定されている場合には、このパラメーターに有効な値の範囲は265から1489バイトです。1486または1489より大きい最大フレーム・サイズが有効となるのは、TCP/IP用にAA SSAPが指定された場合だけです。

可能なSSAPタイプの値は次の通りです。

*CALC

システムは、指定されたSSAP値に基づいてSSAPタイプを判別します。

- *SNA システムは通信用にIBMのシステム・ネットワーク体系を使用します。4の倍数の04から9CのSSAP値だけがサポートされます。

*NONSNA

システムはSNA通信を使用しません。2の倍数の02からFEのSSAP値だけがサポートされます。

- *HPR SSAPがHPR通信用に使用されます。また、これはSNAアプリケーションでも使用することができます。有効な値は16進数のC8です。

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

ATMアクセス・タイプ (ACCTYPE)

ATMネットワークへのアクセスのタイプを指定します。

- *SVC この回線はスイッチド・バーチャル・サーキットを使用するLANエミュレーション・クライアントを表します。
- *PVC この回線はパーマネント・バーチャル・サーキットを使用するLANエミュレーション・クライアントを表します。

トップ

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

PVC識別コード (PVCID)

このパーマネント・バーチャル・サーキットと関連した仮想パスIDと仮想回線IDの対を指定します。

注: ACCTYPE(*PVC)を指定する場合には、PVCIDが必要です。

可能な仮想パスID値は次の通りです。

仮想パスID

仮想パスIDを表す番号を指定します。この番号は0から7の範囲内でなければなりません。

可能なバーチャル・サーキットIDの値は次の通りです。

バーチャル・サーキットID

バーチャル・サーキットIDを表す番号を指定します。この番号は32から4095の範囲内でなければなりません。

トップ

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LECSアドレスの使用 (USELECSADR)

LANエミュレーション構成サーバー(LECS)を接続するリモートLANエミュレーション・サーバー(LES)アドレスを要求するかどうかを指定します。

- *YES LECSアドレスが使用されます。
- *NO LECSアドレスは使用されません。

トップ

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LES ATMアドレス (LESATMADR)

リモートLANエミュレーション・サーバーのATMネットワーク・アドレスを指定します。

注: USELECSADR(*NO)を指定した場合には、このパラメーターを*NONEにすることはできません。

可能な単一値は次の通りです。

*NONE

ATMネットワーク・アドレスは使用されません。

可能なネットワーク接頭部の値は次の通りです。

ネットワーク接頭部

リモート・サーバーのATMアドレスのネットワーク接頭部を指定します。これは26桁の16進数値です。

可能な末端システムIDの値は次の通りです。

末端システムID

リモート・サーバーの末端システムIDを指定します。これは12桁の16進数値です。

可能なセクター・バイト値は次の通りです。

セクター・バイト

リモート・サーバーのセクター・バイトを指定します。これは2桁の16進数値です。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

エミュレートLAN名 (EMLLANNAME)

エミュレートされたLAN名を指定します。

*NONE

エミュレートされたLAN名は使用されません。

エミュレートされたLAN名

エミュレートされたLAN名を指定します。最大32文字まで指定できます。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LEC切断タイムアウト (LECDSTIMO)

LANエミュレーション(LE)クライアントが別のクライアントへの遊休仮想回線接続を切断する前に待機する時間の長さ(分数)を指定します。

10 LEクライアントは10分待機します。

***NOMAX**

LEクライアントは無制限に待機します。

LEC切断タイムアウト

別のクライアントとの遊休仮想回線接続を切り離す前に、LEクライアントが待機する分数を指定します。この値は1から30分の範囲内でなければなりません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

ネットワーク制御装置 (NETCTL)

既存のネットワーク制御装置の名前を指定します。

[トップ](#)

グループ・アドレス (GRPADR)

グループ・アドレスとは、そのローカル・アダプター・アドレスの他に、イーサネット回線上のノードのサブセットが応答するアドレスのことです。

***NONE**

グループ・アドレスは定義されません。

グループ・アドレス

イーサネット・ネットワーク中でこのシステムを記述する選択項目のグループ・アドレスを指定します。有効な値は16進数の010000000000からFDFFFFFFFFです。指定される値の2桁目は1, 3, 5, 7, 9, B, D,またはFでなければなりません。最大12のアドレスを指定することができます。

[トップ](#)

最大制御装置数 (MAXCTL)

回線がサポートする制御装置の最大数を指定します。

40 制御装置の数は40です。

制御装置の最大数

1から256の範囲の値を指定します。この数字は、この回線に対して現在活動状態になっているすべてのSNA制御装置の数と、近い将来接続する予定の制御装置数を考慮した十分な大きさをなければなりません。

エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)

このパラメーターと、その値の*OFF, *MIN, *MED,および*MAXを指定できますが、リリースV2R3M0で開始されるシステムでは使用されません。このパラメーターは以降のリリースでは除去されます。

トップ

テスト・フレームの生成 (GENTSTFRM)

システムが、ネットワークの使用可能性を判別するために、自動的にテスト・フレームを生成するかどうかを指定します。

***YES** システムがテスト・フレームを生成します。

***NO** システムはテスト・フレームを生成しません。

トップ

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

10M リンク速度は秒当たり1000万ビットです。

4M リンク速度は秒当たり400万ビットです。

16M リンク速度は秒当たり1600万ビットです。

100M リンク速度は秒当たり1億ビットです。

***MIN** 1200 BPSより小さいリンク速度が使用されます。

***MAX** 100M BPSより大きいリンク速度が使用されます。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効な値の範囲は1200から603979776000 BPSです。

トップ

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

0 接続時間当たりのコストは0です。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

トップ

コスト/バイト (COSTBYTE)

この回線でデータを送信および受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。ゼロは低コストを意味し、255は高コストを示します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

0 1バイト当たりのコストは0です。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

回線の機密保護 (SECURITY)

物理回線の機密保護レベルを指定します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*NONSECURE

回線上の機密保護はありません。

*PKTSWTNET

パケット交換網が使用されます。データはネットワークを介して常に同じパスを通るとはかぎりません。

*UNDRGRDCBL

地下ケーブルが使用されます。

*SECURECND

安全だが、防護されない配管が使用されます。

*GUARDCND

物理的な傍受から保護された防護配管が使用されます。

*ENCRYPTED

回線上を流れるデータは暗号化されます。

***MAX** 物理的および電磁波の傍受から保護された配管が使用されます。

[トップ](#)

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN) が使用されている場合にだけ有効です。最短ら最長遅延への値の順序は、*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, および *SATELLITE です。

***LAN** ローカル・エリア・ネットワークを使用する伝搬遅延

***MIN** 最小伝搬遅延が使用されます。

*TELEPHONE

電話回線を使用する伝搬遅延

***PKTSWTNET**

パケット交換網を使用する伝搬遅延

***SATELLITE**

衛星通信を使用する伝搬遅延

***MAX** 最大伝搬遅延が使用されます。

[トップ](#)

ユーザー定義1 (USRDFN1)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義2 (USRDFN2)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義3 (USRDFN3)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)

着信の拡張対等通信ネットワーク(APPN)呼び出しをローカル・エリア・ネットワーク(LAN)の周辺システムから受信する時に、システムが拡張プログラム間通信(APPC)制御装置記述を自動的に作成するかどうかを指定します。

***NO** この回線の制御装置記述を自動的に作成しません。

*YES この回線の制御装置記述を自動的に作成します。

トップ

制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)

構成変更が自動的にオフになり、アイドル状態になっていた、自動的に作成された拡張プログラム間通信 (APPC) 制御装置記述 (この回線と関連した) を削除する前に、システムが待機する分数を指定します。

1440 制御装置記述は1440分間(24時間) 遊休にすることができます。

*NONE

この回線の制御装置記述は自動的に削除されません。

制御装置の自動削除

1から10000分の範囲の値を指定します。値1440は24時間です。

トップ

回復限界 (CMNRCYLMT)

この回線記述で使用する2番目のレベルの通信回復の試みの限界を指定します。

使用できる**カウント限界**の値は次の通りです。

2 指定された時間間隔内に2回の回復が試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。有効な値の範囲は、0から99です。

使用できる**時間間隔**の値は、次の通りです。

5 5分間の間隔で指定された回数の回復が試みられます。

時間間隔

回復の試みが行なわれるまでの時間 (分数) を指定してください。有効な値の範囲は0から120 (1分間隔) です。

トップ

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SYSVAL

システム値QCFGMSGQの値が使用されます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

884 IBM Systems - iSeries: i5/OS コマンド CPYIGCTBL (DBCS フォント・テーブルのコピー) での開始

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

例1:イーサネット回線記述の作成

```
CRTLINETH LIND(BOSTON) RSRNAME(LIN041)
```

このコマンドは、資源名がLIN041のBOSTONという名前のイーサネット回線記述を作成します。

例2:ネットワーク・サーバーに接続されたイーサネット回線記述の作成

```
CRTLINETH LIND(ETHLIN) RSRNAME(*NWS) NWS(REMODEL 1)
```

このコマンドは、ネットワーク・サーバーREMODELのポート1に接続されたETHLINという名前のイーサネット回線記述を作成します。

例3:ギガビット・イーサネット回線記述の作成

```
CRTLINETH LIND(GIGETH) RSRNAME(LIN041) LINESPEED(1G)
           DUPLEX(*FULL) MAXFRAME(8996)
```

このコマンドは、最大ギガビット・イーサネット接続構成を使用してイーサネット回線記述を作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

回線記述の作成(ファクシミリ) (CRTLINFAX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述の作成 (ファックス) (CRTLINFAX)コマンドは、ファクシミリ (ファックス) 回線の回線記述を作成します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	値 (最大 2 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
CTL	接続された非交換制御装置	名前	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

資源名 (RSRCNAME)

ファクシミリ・ポートを記述する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理 (WRKHDWRSC)コマンドを使用します。

資源名は入出力アダプター(IOA)の資源名とIOAのポート番号から構成されています。たとえば、IOAの資源名がLIN01である場合には、ポート1および2の資源名は、LIN011およびLIN012となります。

ファクシミリIOAの両方のポートの資源名を指定しなければなりません。指定されたすべての回線は同じ入出力プロセッサに接続されていなければなりません。

RSRCNAME-1

ファクシミリ・ポートを記述するために使用される最初の資源名を指定します。

RSRCNAME-2

ファクシミリ・ポートを記述するために使用される2番目の資源名を指定します。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

***NOWAIT**

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されません。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

接続された非交換制御装置 (CTL)

このオブジェクトが接続される制御装置記述の名前を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、この回線記述の前に関連した制御装置記述が作成されている場合だけです。

トップ

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに与える権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載

っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

例

```
CRTLINFAX LIND(FAXLINE) RSRNAME(LIN041 LIN042)
```

このコマンドは、資源名がLIN041およびLIN042のFAXLINEという名前のFAX回線記述を作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

回線記述の作成(フレーム・リレー) (CRTLINFR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述 (フレーム・リレー・ネットワーク) 作成(CRTLINFR)コマンドは、フレーム・リレー・ネットワーク(FR)回線の回線記述を作成します。このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
NWI	接続NWI	名前, *NONE	オプション, 定位置 2
NWIDLCI	DLC識別コード	1-1018, *NONE	オプション, 定位置 3
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT	オプション
MAXCTL	最大制御装置数	1-256, 40	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-8182, 1590	オプション
EXCHID	交換識別コード	05600000-056FFFFFF, *SYSGEN	オプション
SSAP	SSAPリスト	単一値: *SYSGEN その他の値 (最大 24 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ソース・サービス・アクセス点	02-FE	
	要素 2: SSAP最大フレーム	265-8182, *MAXFRAME, 265, 502, 1014, 2038, 4086, 8182	
	要素 3: SSAPタイプ	*CALC, *NONSNA, *SNA, *HPR	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプション
LINKSPEED	リンク速度	1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000	オプション
NETCTL	ネットワーク制御装置	名前	オプション
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, 0	オプション
COSTBYTE	コストバイト	0-255, 0	オプション
SECURITY	回線の機密保護	*PKTSWTNET, *NONSECURE, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	*PKTSWTNET, *LAN, *MIN, *TELEPHONE, *SATELLITE, *MAX	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, <u>128</u>	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

接続NWI (NWI)

非交換接続では、この回線を永続的に接続する先の、DLCIを含むフレーム・リレー・ネットワーク・インターフェース記述を指定します。ネットワーク・インターフェースにDLCIが指定されない場合には、記述を指定することはできません。ネットワーク・インターフェースにDLCIが指定された場合には、記述を指定する必要があります。

*NONE

ネットワーク・インターフェースは指定されません。

名前 この回線を永続的に接続する先のネットワーク・インターフェースの名前を指定してください。

トップ

DLC識別コード (NWIDLCI)

ネットワーク・インターフェースのデータ・リンク接続ID (DLCI)を指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)が指定されていない場合は、NWIDLCI(*NONE)を指定しなければなりません。その他の場合は、NWIDLCI(*NONE)を指定できるのは、NWI(*NONE)も指定されている場合だけです。

*NONE

DLCIはネットワーク・インターフェースに対しては指定されません。

データ・リンク接続ID

この回線を永続的に接続するネットワーク・インターフェースのDLCIを指定します。有効な値の範囲は1から1018です。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更 (VRYCFG) コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなる場合があります。

[トップ](#)

最大制御装置数 (MAXCTL)

回線によってサポートされる制御装置の最大数を指定します。

40 回線は40台の制御装置をサポートします。

制御装置の最大数

このネットワークに対して現在活動状態になっているすべての制御装置の数と、近い将来接続する予定の制御装置数を考慮した十分な大きさの数字を指定します。有効な値の範囲は1から256です。

[トップ](#)

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

制御装置が送信または受信できる最大フレーム（経路情報単位(PIU))サイズを指定します。この値は要求単位(RU)サイズの計算に使用されます。制御装置が送受信できる最大PIUサイズはIDの交換時に折衝されるので、実行時に使用される最大PIUサイズが異なっている場合があります。この値はホスト・システム側の対応する値と一致します。MAXFRAMEの推奨値は次の通りです。502, 1014, 1590, 2038, 4086,および8182バイト。

1590 最大フレーム・サイズは1590バイトです。

最大フレーム・サイズ

使用する最大フレーム・サイズの値を指定します。有効な値の範囲は265から8182 です。

[トップ](#)

交換識別コード (EXCHID)

リモート・システムに対してローカル・システムを識別させるために使用される16進交換IDを指定します。この16進交換IDは8桁で、3桁はブロック番号を、5桁はこのシステムのIDを示します。

*SYSGEN

オペレーティング・システムは交換IDを生成します。

交換ID

(*SYSGEN値が指定されない場合) 056で始まる8桁の16進数の交換IDを指定します。

[トップ](#)

SSAPリスト (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。最も一般に使用されるSNA SSAPは16進数の04です。SSAP値はすべて固有のものでなければなりません。

*SYSGEN

システムは自動的に3つのSSAPを作成します。すなわち、システム・ネットワーク体系(SNA)アプリケーションの場合の16進数04、ハイパフォーマンス経路指定(HPR)アプリケーション用の16進数のC8,および伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)アプリケーションの場合の16進数のAAを作成します。

可能なSSAPの値は次の通りです。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

データの送信用のソース・サービス・アクセス・ポイントを指定します。最大24個のSSAP値を指定することができます。

- TCP/IPアプリケーションでは、SSAPはAAでなければなりません。
- SNAアプリケーションでは、SSAPは、4の倍数の04から9Cの範囲の16進数値(04, 08, 0Cなど)でなければなりません。
- HPRアプリケーションでは、SSAPは16進数のC8でなければなりません。
- 非SNAアプリケーションでは、SSAPは2の倍数の02からFEの範囲の値(02, 04, 06など)でなければなりません。

SSAP値に可能なフレーム・サイズは次の通りです。

***MAXFRAME**

MAXFRAMEパラメーターに指定されたフレーム・サイズが使用されます。

SSAP最大フレーム

SSAPの最大フレーム・サイズ（送受信できるデータ・フィールドの最大サイズ）を指定します。このパラメーターの有効な値は265から8182バイトです。

注：この値は、MAXFRAMEパラメーターに指定された値より大きくすることはできません。

可能なSSAPタイプの値は次の通りです。

***CALC**

システムは、次の16進数の値に基づいてSSAPタイプを判別します。

- 4の倍数の04から9C（SNAの場合）
- C8（HPRの場合）
- 2の倍数の02からFE（非SNAの場合）

***SNA** SNA通信にはSSAPが使用されます。有効な値の範囲は4の倍数の04から9Cの範囲の16進数値(04, 08, 0Cなど)です。

***NONSNA**

SSAPは非SNA通信用に使用されます。有効な値の範囲は2の倍数の02からFEの16進数（02, 04, 06, など）です。

***HPR** SSAPがHPR通信用に使用されます。また、これはSNAアプリケーションでも使用することができます。有効な値は16進数のC8です。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

64000 リンク速度は64000 BPSです。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効な値の範囲は次の通りです。すなわち、1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000です。

[トップ](#)

ネットワーク制御装置 (NETCTL)

既存のネットワーク制御装置の名前を指定します。

[トップ](#)

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

0 接続時間当たりのコストは0です。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

コスト/バイト (COSTBYTE)

回線でデータを送受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

0 1バイト当たりのコストは0です。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

回線の機密保護 (SECURITY)

物理回線の機密保護レベルを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

*PKTSWTNET

パケット交換網が使用されます。データはネットワークを介して常に同じパスを通るとはかぎりません。

*NONSECURE

通常の優先順位が使用されます。

***UNDGRDCBL**

地下ケーブルが使用されます。

***SECURECND**

安全だが、防護されない配管（たとえば、与圧パイプ）が使用されます。

***GUARDCND**

物理的な傍受から保護された防護配管が使用されます。

***ENCRYPTED**

回線を流れるデータは暗号化されます。

***MAX** 物理的および電磁波の傍受から保護された配管が使用されます。

[トップ](#)

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。最短から最長遅延への値の順序は、*MIN、*LAN、*TELEPHONE、*PKTSWTNET、および*SATELLITEです。

***PKTSWTNET**

パケット交換網伝搬遅延が使用されます。

***LAN** ローカル・エリア・ネットワーク伝搬遅延が使用されます。

***MIN** 最小伝搬遅延が使用されます。

***TELEPHONE**

電話伝搬遅延が使用されます。

***SATELLITE**

衛星通信伝搬遅延が使用されます。

***MAX** 最大伝搬遅延が使用されます。

[トップ](#)

ユーザー定義1 (USRDFN1)

3つのユーザー定義フィールドのうち最初のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義2 (USRDFN2)

3つのユーザー定義フィールドのうち2番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義3 (USRDFN3)

3つのユーザー定義フィールドのうち3番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

2 指定された間隔内に回復が2回試みられます。

カウント限界

試みる回復処置の回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

5 15秒のタイムアウト期間が使用されます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値に指定された回復限界が使用されます。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

***SYSVAL**

システム値QCFGMSGQの値が使用されます。

***SYSOPR**

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTL)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

例

```
CRTLINFR  LIND(FRLIN)  NWI(NEWONE)  NWIDLCI(1001)
           ONLINE(*YES)
           VRYWAIT(*NOWAIT)  MAXFRAME(1600)  LINKSPEED(2400)
```

このコマンドは、フレーム・リレー回線FRLINを作成します。FRLINは、DLCI番号1001を使用してNEWONEという名前のフレーム・リレーNWIに接続されています。FRLINは、初期プログラム・ロード(IPL)時に自動的にオンに構成変更されます。システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。したがって回線は非同期的にオンに構成変更されます。この回線の最大フレーム・サイズは1600で、リンク速度は2400 ビット/秒(BPS)です。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

回線記述(PPP)の作成 (CRTLINPPP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述の作成 (POINT-TO-POINTプロトコル(PPP)) (CRTLINPPP)コマンドは、PPP回線の回線記述を作成します。このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

制約事項:このコマンドを使用するには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	名前	必須, キー, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前	必須, キー, 定位置 2
CNN	接続タイプ	* <u>SWTPP</u> , *NONSWTPP, *NONSWTCAL, *NONSWTANS	オプション, キー
FRAMING	フレーム・タイプ	* <u>ASYNC</u> , *SYNC	オプション
INTERFACE	物理インターフェース	文字値, * <u>RS232V24</u> , *RS449V36, *V35, *X21, *INTMODEM	オプション
NWI	接続された非交換NWI	名前	オプション
NWICHLNBR	NWIチャンネル番号	文字値	オプション
SWTNWILST	交換NWIリスト	単一値: * <u>NONE</u> その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: NWI記述	名前	
	要素 2: NWIチャンネル・タイプ	* <u>B</u>	
	要素 3: NWIチャンネル番号	* <u>CALC</u> , 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30	
ONLINE	IPL時のオンライン	* <u>NO</u> , *YES	オプション
VRYPWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, * <u>NOWAIT</u>	オプション
LINESPEED	回線速度	文字値, <u>115200</u>	オプション
INFTRFTYPE	情報転送タイプ	文字値, * <u>UNRESTRICTED</u> , *V110, *DOV, *ASYNCMODEM, *SYNCMODEM	オプション
MDMINZCMD	モデム初期化コマンド・スト リング	文字値, * <u>NONE</u>	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	文字値, <u>2048</u>	オプション
SWTCNN	交換接続タイプ	文字値, * <u>BOTH</u> , *ANS, *DIAL	オプション
SWTNWISLCT	交換NWI選択	文字値, * <u>FIRST</u> , *CALC	オプション
CNNLSTOUT	発信接続リスト	名前	オプション
CNNLSTOUTE	接続リスト項目	名前	オプション
CNNLSTIN	着信接続リスト	名前, * <u>NETATR</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CLOCK	刻時	*MODEM, *INVERT, *LOOP	オプション
DIALCMD	ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ	文字値, *ATCMD, *V25BIS	オプション
SETMDMASC	モデムASYNC設定コマンド	文字値, *NONE, END	オプション
CALLNBR	呼び出し番号	文字値, *NONE	オプション
FLOWCNTL	フロー制御	文字値, *HARDWARE, *NO	オプション
NETCTL	ネットワーク制御装置	名前	オプション
CTSTMR	送信可タイマー	10-60, <u>25</u>	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	文字値, *NOMAX	オプション
RMTANSTMR	リモート返答タイマー	文字値, <u>60</u>	オプション
NRZI	NRZIデータ・エンコード	*YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
ACCM	非同期制御文字マップ	16 進値, <u>00000000</u>	オプション
LCPAUT	LCP認証値	要素リスト	オプション
	要素 1: リモート対等チャレンジ・タイマー	整数, *NONE	
	要素 2: 最大認証試行回数	1-255, <u>5</u>	
LCPCFG	LCP構成値	要素リスト	オプション
	要素 1: 構成再試行タイマー	0.1-60.0, <u>3.0</u>	
	要素 2: 最大構成障害回数	1-255, <u>5</u>	
	要素 3: 最大構成要求回数	1-255, <u>10</u>	
	要素 4: 最大終了要求回数	1-255, <u>2</u>	
COMPRESS	圧縮	文字値, *STACLZS, *NONE	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

資源名 (RSRCNAME)

記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。

[トップ](#)

接続タイプ (CNN)

使用される回線接続のタイプを指定します。

注: *NONSWTCALおよび*NONSWTANSが有効となるのは、INTERFACE(*INTMODEM),あるいはINFTRFTYPE *ASYNCMODEMまたは*SYNCMODEMの場合だけです。

*SWTPP

交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

*NONSWTPP

非交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

*NONSWTCAL

非交換POINT-TO-POINT回線は呼び出しモードで使用されます。

*NONSWTANS

非交換POINT-TO-POINT回線は応答モードで使用されます。

[トップ](#)

フレーム・タイプ (FRAMING)

回線が非同期フレームを使用するか、あるいは同期フレームを使用するかを指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

*ASYNC

非同期フレームが使用されます。

*SYNC

同期フレームが使用されます。

[トップ](#)

物理インターフェース (INTERFACE)

入出力アダプター(IOA)ポート上の物理インターフェースのタイプを指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

*RS232V24

RS232/V.24インターフェースが使用されます。

*RS449V36

RS449/V.36インターフェースが使用されます。

*X35 X.35インターフェースが使用されます。

*X21 X.21インターフェースが使用されます。

*INTMODEM

統合モデム・インターフェースが使用されます。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続された非交換NWI (NWI)

非交換接続の場合には、この回線を永続的に接続するチャンネルが入っているネットワーク・インターフェース記述を指定します。

注: RSRNAME(*NWI)およびCNNが*SWTPPでない場合にのみ有効です。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

NWIチャンネル番号 (NWIHLNBR)

非交換接続では、この回線記述によって使用されるネットワーク・インターフェース記述のチャンネル番号(1から30)を指定します。2, 23または30のチャンネルが各ネットワーク・インターフェース記述で使用可能であり、これは、そのネットワーク・インターフェースが基本であるかまたは1次速度であるか、また、どんなタイプのネットワーク・タイプであるかによって異なりますが、チャンネルに永続的に接続できる回線記述は1つだけです。ネットワーク・インターフェース記述表示(DSPNWI)コマンドを使用して、NWIのチャンネル番号に関する情報を表示します。

注: RSRNAME(*NWI)およびCNNが*SWTPPでない場合にのみ有効です。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

交換NWIリスト (SWTNWILST)

ISDN/T1交換接続では、この回線を接続できるネットワーク・インターフェース記述のリストを指定します。ネットワーク・インターフェース記述は、着信または発信の呼び出しの処理の時に交換NWI選択パラメーター(SWTNWLCT)によって指定された値に基づいてリストから選択されます。

注: RSRNAME(*NWI)およびCNN(*SWTPP)の時にだけ有効です。

可能なネットワーク・インターフェース記述名値は次の通りです。

***NONE**

ネットワーク・インターフェース記述は指定されません。

名前 交換接続では、この回線を接続する先のネットワーク・インターフェース記述の名前を指定してください。

可能なネットワーク・インターフェースのチャンネル・タイプ値は次の通りです。

***B** Bチャンネルが使用されます。

可能なネットワーク・インターフェースのチャンネル番号の値は次の通りです。

***CALC**

システムは、着信または発信呼び出しを処理する時に、ネットワーク・インターフェース記述に定義された30のチャンネル番号の1つを（可用性質に基づいて）選択します。

NWIチャンネル番号

回線記述を制限するチャンネル番号(1から30)を指定します。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

トップ

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

***NOWAIT**

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する

- 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
- 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

トップ

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

9600 9600 BPSが使用されます。

回線速度

回線速度を指定します。有効な値は600, 1200, 2400 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 57600, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 392000, 448000, 504000, 512000, 560000, 576000, 616000, 640000, 672000, 704000, 728000, 768000, 784000, 832000, 840000, 896000, 952000, 960000, 1008000, 1024000, 1064000, 1088000, 1120000, 1152000, 1176000, 1216000, 1232000, 1280000, 1288000, 1344000, 1400000, 1408000, 1456000, 1472000, 1512000, 1536000, 1568000, 1600000, 1624000, 1664000, 1680000, 1728000, 1736000, 1792000, 1856000, 1920000, 1984000,または2048000ビット/秒です。

トップ

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

情報転送タイプ (INFTRFTYPE)

情報転送タイプを指定します。情報転送タイプは層1プロトコルを判別します。

注: RSRNAME(*Nwid)およびCNNが*SWTPPでない場合にのみ有効です。

*UNRESTRICTED

データ・チャンネル・トラフィックはデジタル情報として示されます。すなわち、物理変換は不要です。Bチャンネルはそれぞれ64K BPSの容量で作動します。

***V110** 転送タイプはVシリーズの推奨事項110です。各Bチャンネルは56K BPSで作動します。

***DOV** DATA OVER VOICE (DOV)デジタル・データをISDN音声呼び出しによって転送することができます。また、これは、DATA OVER VOICE BEARER SERVICE (DOVBS), DATA OVER SPEECH BEARER SERVICE (DOSBS), TOLLSAVER,またはTOLLMIZERとも呼ばれます。このオプションは、ISDN音声呼び出しがISDNデータ呼び出しより安価の場合、またはデータのベアラー・サービスが使用可能でない場合にだけ使用してください。また、リモート・ロケーションもこの機能をサポートしている必要があります。データは、各方向で56KBPSで転送されます。

*ASYNCMODEM

統合非同期モデムからのデータをISDN音声呼び出しを介して転送することができます。このオプションは、アナログ電話回線上で非同期モデムを使用しているリモート・ロケーションに接続するた

めに使用してください。データは、リモート・アナログ装置からこのデジタル接続に最大33.6KBPSのモデム速度で転送され、このデジタル接続からリモート・アナログ装置には最大56KBPSで転送されます。

*SYNCMODEM

統合同期モデムからのデータをISDN音声呼び出しを介して転送することができます。アナログ電話回線で非同期モデムを使用しているリモート・ロケーションに接続するためには、このオプションを使用する必要があります。データは、リモート・アナログ装置からこのデジタル接続に最大33.6KBPSのモデム速度で転送され、このデジタル接続からリモート・アナログ装置には最大56KBPSで転送されます。

トップ

モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)

モデムを設定するために送るモデム初期化コマンド・ストリングを指定します。

注: INTERFACE(*INTMODEM)またはINFTRFTYPE(*ASYNCMODEM)またはINFTRFTYPE(*SYNCMODEM)を指定した場合にかぎり有効です。

*NONE

コマンド・ストリングはモデムに送信されません。

コマンド・ストリング

モデムに送信する最大60文字までのコマンド・ストリングを指定します。有効な文字は大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

ピリオド
より小記号
左括弧
プラス符号
アンパーサンド
アスタリスク
右括弧
セミコロン
マイナス符号
スラッシュ
コンマ
下線
より大記号
疑問符
コロン
等号
スペース
番号記号
二重引用符
感嘆符
単価記号
曲折記号
パーセント
左大括弧
右大括弧
円記号

注: モデム初期設定ストリングは、'AT'の2文字で始まらなければなりません。

トップ

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

PPPフレームの情報フィールドの最大長（埋め込みは含まれるが、プロトコル・フィールドは含まれない）を指定します。また、これは、最大受信単位(MRU)とも呼ばれます。折衝によってPPPの実現に同意すると、MRUの他の値を使用することができます。

2048 最大フレーム・サイズは2048バイトです。

最大フレーム・サイズ

最大フレーム・サイズ（バイト数）を指定します。有効な値の範囲は1500から4096バイトです。

[トップ](#)

交換接続タイプ (SWTCNN)

交換回線で、回線を着信呼び出し、発信呼び出し、あるいは着信および発信両方の呼び出しに使用するかどうかを指定します。

*BOTH

回線は着信および発信の両方の呼び出しに使用されます。

***ANS** 回線が着信呼び出しの場合にのみ使用されます。

***DIAL** 回線は発信呼び出し専用で使用されます。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

交換NWI選択 (SWTNWISLCT)

交換網インターフェース・リストからネットワーク・インターフェースを選択するために使用される方式を指定します。

注: RSRCTYPE(*NWD)およびCNN(*SWTPP)の時にだけ有効です。

*FIRST

選択は、交換網インターフェース・リストに指定された最初のネットワーク・インターフェースから開始します。

*CALC

選択されるネットワーク・インターフェースをシステムが計算します。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

発信接続リスト (CNLSTOUT)

ISDN/T1交換接続用に、ISDN/T1へのダイヤルアウト操作のISDN/T1割り当て番号が入っている接続リスト・オブジェクトの名前を指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)およびCNN(*SWTPP)の時にだけ有効です。

名前 ダイヤルアウト操作のための接続リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続リスト項目 (CNLSTOUTE)

ISDN/T1交換接続用に、ISDN/T1への呼び出しを行うために使用される接続リストから項目名を指定します。接続リストはCNLSTOUTパラメーターに指定しなければなりません。

注: RSRCNAME(*NWID)およびCNN(*SWTPP)の時にだけ有効です。

名前 接続リストから項目名を指定します。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

着信接続リスト (CNLSTIN)

ISDN/T1交換接続では、許可された着信呼び出しの識別用のすべての情報（または接続）を検索するために使用される接続リストの名前を指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)およびCNN(*SWTPP)の時にだけ有効です。

*NETATR

この回線記述で使用される接続リストは、IPL（初期プログラム・ロード）時に識別したシステムの省略時ネットワーク属性のリストから取り出されます。ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドを使用して、接続リストの名前を調べることができます。

名前 この回線記述に使用される接続リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

刻時 (CLOCK)

回線の刻時機能がどのような方法で提供されるかを指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

*MODEM

モデムが刻時機能を提供します。

*LOOP

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供される受信刻時は、システム・データ端末装置(DTE)送信刻時にループバックされます。モデム(DCE)がこのようなオプションをサポートする場合には、このオプションを使用して、高速データ伝送を改善することができます。*LOOPで有効なインターフェースは*V35、*X21BISV35、および*RS449V36です。

*INVERT

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供されている伝送クロックが使用前に逆転されません。高速データ伝送に問題があり、モデム(DCE)が折り返されたクロックをサポートしない場合には、このオプションを使用することができます。*INVERT で有効なインターフェースは*V35、*X21、*X21BISV35、および*RS449V36です。

トップ

ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)

リモート・システムとの交換接続の確立に使用されるダイヤル呼び出しコマンドのタイプを指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

*ATCMD

アテンション(AT)コマンド・セット(HAYESコマンド・セットと呼ばれることもある)は、モデム・コマンドの1つのグループであり、これによって非同期で作動中にアプリケーション・プログラムがモデムを制御できます。アプリケーション・プログラムはすべてのATコマンドをそのデータ・ストリームに直接入れる必要があります。サポートされるATコマンドは使用されている特定のモデムによって異なります。

*V25BIS

逐次自動呼び出し用の国際電気通信連合-電気通信(ITU-T) (前はCCITTと呼ばれた) V.25 BIS標準を使用します。

トップ

モデムASYNC設定コマンド (SETMDMASC)

モデムをASYNCモードに設定するためにそのモデムに送信するASCII V.25 BISコマンド・ストリングを指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

*NONE

V.25 BISコマンド・ストリングはモデムに送信されません。

***END** ENDコマンド・ストリングは通常、ほとんどのモデムをASYNCモードに設定するためのコマンドとして使用されます。ENDコマンド・ストリングを使用しない場合には、モデムをASYNCモードに設定するために、適切なコマンド・ストリングをユーザーが入力しなければなりません。

コマンド・ストリング

モデムに送信するコマンド・ストリングを表す文字を最大40文字まで指定します。有効な文字は大文字のAからZ、小文字のaからz、数字の0から9、および次の特殊文字です。

・ ピリオド

<	より小記号
(左括弧
+	プラス符号
&	アンパーサンド
*	アスタリスク
)	右括弧
;	セミコロン
-	マイナス符号
/	スラッシュ
,	コンマ
_	下線
>	より大記号
?	疑問符
:	コロン
=	等号

トップ

呼び出し番号 (CALLNBR)

V.25 BIS識別による呼び出し要求(CRI)ダイヤル呼び出しコマンドに使用する回線のローカル電話番号を指定します。このパラメーターは、CRI機能がV.25 BISに必要な時に使用されます。V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが使用されると、システムは制御装置記述のCNBRパラメーターから呼び出された（接続）番号を使用し、区切り文字(;)を追加し、呼び出し元番号を最後に連結します。モデムとネットワークの両方がCRIダイヤル呼び出しコマンドをサポートする場合だけは、呼び出し元番号を指定します。

注: RSRNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

*NONE

通常呼び出し要求(CRN)ダイヤル・コマンドがV.25 BIS回線で使用されます。

呼び出し元番号

V.25 BIS CRI自動ダイヤル呼び出しのローカル電話番号を表す最大32文字を指定します。

トップ

フロー制御 (FLOWCNTL)

システムがデータ・フローを制御するかどうかを指定します。

注: RSRNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

*NO ハードウェアがフロー制御文字を生成または認識できないようにして、さらに、送信要求(RTS)および送信可(CTS)フロー制御信号を使用できないようにします。

*HARDWARE

ハードウェア・フロー制御は、送信要求(RTS)および送信可(CTS)フロー制御信号を使用して実行されます。

[トップ](#)

ネットワーク制御装置 (NETCTL)

既存のネットワーク制御装置の名前を指定します。

[トップ](#)

送信可タイマー (CTSTMR)

エラーの信号を送る前に、モデムが送信可(CTS)状態に入るかまたは終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

25 システムは、CTS状態が開始または終了するのを25秒まで待ちます。

タイマー値

10から60秒の範囲の値を指定します。

[トップ](#)

非活動タイマー (INACTTMR)

交換回線での作業を切断するまでにシステムが待つ時間（秒数）を指定します。

*NOMAX

非活動タイマーは使用不能にされます。

タイマー値

15から65535秒の範囲の値を指定します。

[トップ](#)

リモート返答タイマー (RMTANSTMR)

ダイヤル呼び出し後にDSR状態に入るモデムがエラーの信号を出すまでに、システムが待つ時間を指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

60 システムは、エラーの信号を出すまでに60秒待ちます。

タイマー値

30から120秒の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

NRZIデータ・エンコード (NRZI)

データ・ストリームで特定のビット・パターンを感知可能なモデムで、非ゼロ復帰逆転記録方式(NRZI)データ・エンコードを使用するかどうかを指定します。これによって、信号が長時間の間同じまま残っていないようにします。デジタル電話回線では、*NOにすることを推奨します。

注: RSRCNAME(*NWID)の時には有効ではありません。

注:

1. 回線上のすべてのデータ通信装置は同じデータ伝送コーディング・メソッドを使用しなければなりません。
2. NRZIデータ・エンコードを使用するには、フレーム指示(FRAMINGパラメーター)は*SYNCでなければなりません。

*YES NRZIデータ・エンコードが使用されます。

*NO NRZIデータ・エンコードは使用されません。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

非同期制御文字マップ (ACCM)

回線のデータ通信装置により除去または導入された可能性がある伝送データに制御文字のマッピングを指定します。

注: FRAMING(*ASYNC)を指定しない限り、ACCM(00000000)を指定しなければなりません。

ホスト・システムは、このマップで指定されたすべての文字を2バイト・エスケープ・シーケンスとしてリモート・ピアに送信します。さらに、このマップで指定されたすべての文字は、リモート・ピアによって2バイト・エスケープ・シーケンスとしてホスト・システムに送信されなければなりません。このマップに指定されたエスケープ以外の文字は、ホスト・システムによって破棄されます。

重要

このパラメーターの省略時の値は、通常は変更する必要がありません。変更の影響がはっきりと分からない限りは、このパラメーターに別の値を指定しないでください。

00000000

'00'Xから'1F'X'の間のASCII制御文字はエスケープされます。

制御文字マップ

32ビットの値を8桁の16進数として指定します。この32ビットの値の各ビットは、文字をエスケ

プするかしないかを指示します。ビット値を1に設定すると、対応する文字がエスケープされます。ビットを0に設定すると、制御文字はエスケープされません。

32ビット値のビットの序数は影響を受ける文字を判別します。左端のビット（番号0）は文字'00'Xと対応します。右端のビット（番号31）は文字'1F'Xと対応します。たとえば、

- ACCM(80000000)を指定すると、文字'00'Xは2バイトのエスケープ・シーケンス'7D20'Xとして送受信する必要があります。文字'01'Xから'1F'Xまではマップされません。
- ACCM(00000001)を指定すると、文字'1F'Xは2バイトのエスケープ・シーケンス'7D3F'Xとして送受信する必要があります。文字'00'Xから'1E'Xまではマップされません。
- ACCM(0000A000)を指定すると、文字'11'Xおよび'13'Xはそれぞれ、2バイトのエスケープ・シーケンス'7D31'Xおよび'7D33'Xとして送受信する必要があります。

トップ

LCP認証値 (LCPAUT)

ホストPPPのリンク制御プロトコル層がリモート・ピアを認証する方法を制御する値を指定します。

リモート・ピア・チャレンジ・タイマー値は、定期的によりリモート・ピアに認証チャレンジを出す間隔を分けて指定します。

*NONE

PPPリンクが最初にオープンされている時のみ、リモート・ピアが1回だけ認証されます。追加の認証チャレンジは出されません。

チャレンジ間隔

リモート・ピアの認証が再検査するための間隔（分数）を指定します。

最大認証試行回数の値は、リモート・ピアに送信される無応答認証チャレンジの最大回数を指定し、その後でピアは応答できないと見なされます。

注:

1. ホスト・システムが構成再試行タイマー（パラメーターLCPCFGの要素1）によって指定された間隔内に応答を受け取らない場合には、チャレンジは無応答とみなされます。
2. この値は、ピアが認証に失敗したときにホスト・システムが応答する方法には影響を与えません。リモート・ピアからの応答が認証に失敗した場合には、ホスト・システムは常に再試行せずに通信を終了します。
5. ホスト・システムが5回の認証チャレンジを送信した後でリモート・ピアが応答しない場合には、ホスト・システムは通信を終了します。

最大試行回数

通信を打ち切る前に、リモート・ピアに送信される無応答チャレンジの最大数を指定します。

トップ

LCP構成値 (LCPCFG)

ホストPPPのリンク制御プロトコル層がリモート・ピアと相互に受け入れ可能なリンク構成値を折衝する方法を制御する値を指定します。

重要:

このパラメーターの省略時の値は通常変更する必要はありません。これを変更した場合の影響を完全に把握している場合以外は、このパラメーターに異なった値を指定しないでください。

構成再試行タイマーの値は、ホスト・システムがリモート・ピアに無応答の構成、終了、または認証チャレンジ要求を再送信するまで待機する間隔（秒数）を指定します。

3.0 無応答構成要求は3秒ごとに再送信されます。

再試行間隔

未確認の要求が再送信される時間間隔を指定してください。

最大構成障害回数値は、リモート・ピアとの間で相互に受け入れ可能な構成を折衝するために行なわれる最大試行回数を指定し、その後で構成が集中していないと見なされます。

5 構成が5回の試行後に収束していない場合には、ホスト・システムは通信を終了します。

最大試行回数

相互に受け入れ可能な構成を折衝するために行なわれる最大試行回数を指定します。

最大構成要求値は、リモート・ピアに送信される無応答構成要求の最大数を指定し、その後でピアが応答できないと見なされます。

10 ホスト・システムがリモート・ピアに10回の構成要求を送信して応答を受信していない場合には、ホスト・システムは通信を終了します。

最大試行回数

ホスト・システムが通信を終了するまでに行う最大構成試行回数を指定します。

最大打ち切り要求数値は、リモート・ピアに送信される無応答打ち切り要求パケット数の最大数を指定し、その後でピアが応答できないと見なされます。

2 2回の終了要求を送信した後で応答を受信されない場合には、ホスト・システムは即時に通信を終了します。

最大試行回数

通信を打ち切ることをリモート・ピアに通知するために、実行される最大試行回数を指定します。

[トップ](#)

圧縮 (COMPRESS)

圧縮機能が提供されることを指定します。

注: このパラメーターによって圧縮プロトコルを使用可能にすることができますが、圧縮が使用されることを保証するものではありません。データ圧縮は、ローカル・システムとリモート・ピア・システム接続の両方が指定された圧縮プロトコルの使用に同意しない限り活動化されません。

*STACLZS

ホスト・システムは、STAC LZSデータ圧縮の使用を折衝することができます。

*NONE

ホスト・システムは、POINT-TO-POINT圧縮プロトコルの折衝または使用を許可されません。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

可能な最大回復しきい値は次の通りです。

- 2 指定された時間間隔内に2回の回復が試みられます。

カウント限界

試みる回復処置の回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

可能な回復時間間隔値は次の通りです。

- 5 指定された回数の回復の試みが5分の間隔内に行われます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は無限の回復を指定します。

可能なその他の単一値:は次の通りです。

*SYSVAL

システム値QCMNRCYLMTに指定された回復限界が使用されます。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SYSVAL

システム値QCFGMSGQの値が使用されます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTLINPPP LIND(PPP01) RSCRNAME(LIN031)
```

このコマンドは、資源名がLIN031のPPP01という名前のPPP回線記述を作成します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261E

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

トップ

回線記述の作成(SDLC) (CRTLINS DLC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述(SDLC)作成(CRTLINS DLC)コマンドは、同期データ・リンク制御(SDLC) 回線の回線記述を作成します。このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	値 (最大 6 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
ROLE	データ・リンクの役割	*NEG, *PRI, *SEC	オプション
INTERFACE	物理インターフェース	*RS232V24, *RS530V36, *V35, *X21, *X21BISV24, *X21BISV35, *RS449V36, *INTMODEM	オプション
CNN	接続タイプ	*NONSWTPP, *SWTPP, *MP, *SHM, *NONSWTCAL, *NONSWTANS	オプション
SNBU	交換網バックアップ	*NO, *YES	オプション
SHMNODE	SHMノード・タイプ	*T21, *T20	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT	オプション
AUTOCALL	自動呼び出し装置	*NO, *YES	オプション
EXCHID	交換識別コード	05600000-056FFFFF, *SYSGEN	オプション
NRZI	NRZIデータ・エンコード	*YES, *NO	オプション
MAXCTL	最大制御装置数	1-254, 1	オプション
CLOCK	刻時	*MODEM, *SYSTEM, *LOOP, *INVERT	オプション
LINESPEED	回線速度	600, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 57600, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 392000, 448000, 504000, 512000, 560000, 576000, 616000, 640000, 672000, 704000, 728000, 768000, 784000, 832000, 840000, 896000, 952000, 960000, 1008000, 1024000, 1064000, 1088000, 1120000, 1152000, 1176000, 1216000, 1232000, 1280000, 1288000, 1344000, 1400000, 1408000, 1456000, 1472000, 1512000, 1536000, 1568000, 1600000, 1624000, 1664000, 1680000, 1728000, 1736000, 1792000, 1856000, 1920000, 1984000, 2048000	オプション
MODEM	サポートされるモデム・タイプ	*NORMAL, *V54, *IBMWRAP, *IBMLPDA1, *IBMLPDA2	オプション
SWTCNN	交換接続タイプ	*BOTH, *ANS, *DIAL	オプション
AUTOANS	自動返答	*YES, *NO	オプション
AUTODIAL	自動ダイヤル呼び出し	*NO, *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
MDMINZCMD	モデム初期化コマンド・ストリング	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
DIALCMD	ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ	<u>*NONE</u> , *V25BIS	オプション
ACRSRCNAME	自動呼び出し資源名	名前	オプション
SHMCALLTMR	SHM呼び出しタイマー	1-60, <u>*NONE</u>	オプション
SHMMAXCNN	SHM最大接続タイマー	1-254, <u>8</u> , *NOMAX	オプション
SHMANSPLY	SHM返答遅延タイマー	1-254, <u>11</u> , *NOMAX	オプション
SHMCALLFMT	SHM呼び出し形式	0-15, <u>*DNIC</u> , *DCC	オプション
SHMACC	SHMアクセス・コード	文字値, <u>X</u>	オプション
CALLNBR	呼び出し番号	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
STNADR	端末アドレス	01-FE	オプション
CNNPOLLRTY	ポーリング接続再試行	0-64, <u>7</u>	オプション
CNNTMR	接続タイマー	1-32767, <u>*NOMAX</u>	オプション
SHORTTMR	短時間タイマー	10-600, <u>50</u>	オプション
LONGTMR	長時間タイマー	100-6000, <u>600</u>	オプション
SHORTRTY	短時間再試行	0-254, <u>7</u>	オプション
LONGRTY	長時間再試行	0-254, <u>1</u>	オプション
CPSRTY	呼び出し進行中信号再試行	値 (最大 11 回の繰り返し): *CPS41, *CPS42, *CPS43, *CPS44, *CPS45, *CPS46, *CPS47, *CPS48, *CPS49, *CPS71, *CPS72	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265, <u>521</u> , 1033, 2057	オプション
DUPLEX	二重	<u>*HALF</u> , *FULL	オプション
INACTTMR	非活動タイマー	150-4200, <u>300</u> , *NOMAX	オプション
POLLRSPDLY	ポーリング応答遅延	0-2048, <u>0</u>	オプション
NPRDRCVTMR	非生産受信タイマー	160-4200, <u>320</u>	オプション
IDLTMR	アイドル・タイマー	5-300, <u>30</u>	オプション
CNNPOLLTMR	接続ポーリング・タイマー	2-300, <u>30</u>	オプション
POLLPAUSE	ポーリング・サイクル休止	0-2048, <u>0</u>	オプション
FRAMERTY	フレーム再試行	0-64, <u>7</u>	オプション
FAIRPLLTMR	フェア・ポーリング・タイマー	5-60, <u>15</u>	オプション
DSRDRPTMR	データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー	3-60, <u>6</u>	オプション
AUTOANSTYP	自動返答タイプ	<u>*DTR</u> , *CDSTL	オプション
RMTANSTMR	リモート返答タイマー	30, 35, 40, 45, 50, 55, <u>60</u> , 65, 70, 75, 80, 85, 90, 95, 100, 105, 110, 115, 120	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
CTL	接続された非交換制御装置	値 (最大 254 回の繰り返し): 名前	オプション
MODEMRATE	モデム・データ速度の選択	<u>*FULL</u> , *HALF	オプション
THRESHOLD	エラーのしきい値レベル	<u>*OFF</u> , *MIN, *MED, *MAX	オプション
MODULUS	モジュラス	<u>8</u> , 128	オプション
MAXOUT	最大未処理フレーム数	1-28, <u>7</u>	オプション
CTSTMR	送信可タイマー	10-60, <u>25</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
LINKSPEED	リンク速度	*INTERFACE, *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	オプション
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, *CNN	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, *CNN	オプション
SECURITY	回線の機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, <u>128</u>	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

資源名 (RSRCNAME)

この記述が表すハードウェアを識別する資源名を指定します。WRKHDWRSCコマンドを使用して資源名を判別してください。

これは必須パラメーターです。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

*YES この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

*NO この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

トップ

データ・リンクの役割 (ROLE)

システムが1次端末であるか、2次端末であるか、あるいはシステムが1次および2次の役割を動的にネゴシエーションするかを指定します。

1次端末は制御端末で、2次端末は応答端末です。1次端末は、2次端末にコマンドを送信することによりデータ・リンクを制御し、2次端末はコマンドに応答します。

*NEG この値により、このシステムとリモート・システムはどちらの端末が1次端末であるかをネゴシエーションすることができます。

*PRI このシステムがこの通信回線上の1次局となります。

*SEC このシステムがこの通信回線上の2次局となります。

トップ

物理インターフェース (INTERFACE)

入出力アダプター(IOA)ポート上の物理インターフェースのタイプを指定します。

*RS232V24 (非同期, BSC, X.25およびSDLCのみ)

RS-232/V.24物理インターフェース

*V35 (BSCおよびSDLCのみ)

V.35物理インターフェース

*X21 (X.25およびSDLCのみ)

X.21物理インターフェース

*X21BISV24 (X.25, BSCおよびSDLCのみ)

X.21 BIS/V.24物理インターフェース

*X21BISV35 (X.25, BSCおよびSDLCのみ)

X.21 BIS/V.35物理インターフェース

*RS449V36 (非同期, BSC, X.25およびSDLCのみ)

RS-449/V.36物理インターフェース

*INTMODEM

統合モデム・インターフェースが使用されます。

トップ

接続タイプ (CNN)

回線接続のタイプを指定します。

*NONSWTPP

非交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

*SWTPP

交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

*MP 非交換マルチポイント回線

*SHM X.21短期保留モード回線

*NONSWTCAL

非交換POINT-TO-POINT回線は呼び出しモードで使用されます。

*NONSWTANS

非交換POINT-TO-POINT回線は応答モードで使用されます。

トップ

交換網バックアップ (SNBU)

非交換モデムの場合にかぎり、ローカル・モデムが交換網バックアップ・ユーティリティー(SNBU)機能をサポートするかどうかを指定します。バックアップ機能は、交換接続を確立して、切断された非交換（非交換回線）接続を迂回するために使用されます。

SNBUを活動化するには、モデムのモードを非交換から交換に変更する必要があります。モデム・モデルがIBM 386X, 586X,または786Xの場合には、変更は不要です。そうでない場合には、使用している回線記述の交換網バックアップ活動化 (ACTSNBU)パラメーターに*YESを指定してください。

*NO ローカル・モデムには、SNBU機能はありません。

*YES ローカル・モデムにSNBU機能があります。

トップ

SHMノード・タイプ (SHMNODE)

X.21短期保留モード回線の場合に限り、X.21短期保留モード回線を使用する制御装置の物理装置タイプを指定します。このパラメーターは、CNN(*SHM)が指定されている場合にのみ有効です。

*T21 物理装置タイプ2.1の制御装置を指定します。データ・リンクの役割 (ROLE)パラメーターに*NEGも指定する必要があります。

この値は次の制御装置を使用する時に指定しなければなりません。

- APPC制御装置

*T20 物理装置タイプ2.0の制御装置を指定します。データ・リンクの役割 (ROLE)パラメーターに*PRIまたは*SECを指定しなければなりません。

この値は次の制御装置を使用する時に指定しなければなりません。

- ホスト制御装置
- リモート・ワークステーション制御装置
- 金融機関用制御装置

トップ

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されません。

オンへの構成変更の待機

待機する時間（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更 (VRYCFG) コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなる場合があります。

[トップ](#)

自動呼び出し装置 (AUTOCALL)

交換または交換網バックアップ回線（非同期、BSC、SDLC、またはX.25回線）の場合には、リモート・システムを自動的に呼び出す関連の自動呼び出し装置を回線に付けるかどうかを指定します。

*NO この回線に自動呼び出し装置を関連付けません。

*YES この回線に自動呼び出し装置を関連付けます。

[トップ](#)

交換識別コード (EXCHID)

リモート・システムに対してローカル・システムを識別させるために使用される16進交換IDを指定します。この16進交換IDは8桁で、3桁はブロック番号を、5桁はこのシステムのIDを示します。

*SYSGEN

この値によって、オペレーティング・システムは交換IDを作成できます。回線記述表示 (DSPLIND) コマンドを使用して、結果の交換IDを調べます。

交換ID

05600000から056FFFFFFの範囲の8文字(16進数の4バイト) 交換ID を指定します。

NRZIデータ・エンコード (NRZI)

データ・ストリームで特定のビット・パターンを感知可能なモデムで、非ゼロ復帰反転(NRZI)データ・コーディングを使用するかどうかを指定します。これによって、信号が長時間の間同じまま残っていないようにします。

注: 回線上のすべてのデータ通信装置は同じ伝送方式を使用しなければなりません。

- *YES NRZIデータ・コーディングが使用されます。
- *NO NRZIデータ・コーディングは使用されません。

トップ

最大制御装置数 (MAXCTL)

回線がサポートする制御装置の最大数を指定します。

- 1 1つの制御装置が使用されます。次の場合には省略時の値(1)を使用します。
 - 非交換POINT-TO-POINTおよび交換POINT-TO-POINTの接続タイプ
 - 二重双方向同時データ転送を使用するホスト・システムとの通信で非交換POINT-TO-POINT およびマルチポイント接続タイプ。(ホスト・システムは、LINEマクロ命令でLINE ADDRESS=(NNN,FULL)を指定することによって、そのNCP生成に二重データ転送を指定します。)
 - ROLE(*SEC)およびSHMNODE(*T20)を指定した短期保留モード回線ROLE(*PRI)またはROLE(*NEG)を指定した短期保留モード回線は、最大64の制御装置をサポートすることができます。

制御装置の最大数

1から254の範囲の値を指定します。この数字は、この回線に対して現在活動状態になっているすべての制御装置の数と、近い将来接続する予定の制御装置数を考慮した十分な大きさの数でなければなりません。

トップ

刻時 (CLOCK)

回線の刻時機能がどのような方法で提供されるかを指定します。

*MODEM

回線の刻時機能はモデムによって提供されます。

*LOOP

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供される受信刻時は、システム・データ端末装置(DTE)送信刻時のDCEモデムにループバックされます。モデムDCEがこのようなオプションをサポートする場合には、このオプションを使用して、高速データ伝送を提供することができます。

*LOOPで有効なインターフェースは*V35、*X21BISV35、および*RS449V36です。

*INVERT

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供されている伝送クロックが使用前に逆転されます。高速データ伝送に問題があり、モデム(DCE)が折り返されたクロックをサポートしない場合には、このオプションを使用することができます。*INVERT で有効なインターフェースは*V35, *X21, *X21BISV35,および*RS449V36です。

トップ

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

9600 9600 BPSが使用されます。

回線速度

回線速度を指定します。有効な値は600, 1200, 2400 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 57600, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 392000, 448000, 504000, 512000, 560000, 576000, 616000, 640000, 672000, 704000, 728000, 768000, 784000, 832000, 840000, 896000, 952000, 960000, 1008000, 1024000, 1064000, 1088000, 1120000, 1152000, 1176000, 1216000, 1232000, 1280000, 1288000, 1344000, 1400000, 1408000, 1456000, 1472000, 1512000, 1536000, 1568000, 1600000, 1624000, 1664000, 1680000, 1728000, 1736000, 1792000, 1856000, 1920000, 1984000,または2048000ビット/秒です。

トップ

サポートされるモデム・タイプ (MODEM)

通信回線でサポートされているモデムのタイプを指定します。選択すべき適切な値を判別するためにはモデムの解説書を参照してください。

*NORMAL

ユーザー・モデムに対する診断テストを実行する試みは行われません。

***V54** 特定タイプの診断テスト(CCITT推奨事項によって定義された) がユーザー・モデムに対して実行されます。このシステムはCCITT V.54ループ3 (ローカル折り返し) およびループ2 (これはリモート折り返し) をサポートします。

*IBMWRAP

折り返しテスト機能のあるIBMモデムが通信回線で使用されます。

*IBMLPDA1

リンク問題判別援助機能-1 (LPDA-1)のあるIBMモデムが回線上で使用されます。

*IBMLPDA2

リンク問題判別援助機能-2 (LPDA-2)のあるIBMモデムが回線上で使用されます。

トップ

交換接続タイプ (SWTCNN)

着信呼び出しまたは発信呼び出し、あるいはこの両方に交換 (非同期, BSC, SDLC, またはIDLC)回線を使用するか、あるいは交換網バックアップ (非同期, BSC,またはSDLC)回線を使用するかを指定します。

***BOTH**

回線は着信および発信の両方の呼び出しに使用されます。

***ANS** 回線が着信呼び出しの場合にのみ使用されます。

***DIAL** 回線は発信呼び出し専用で使用されます。

トップ

自動返答 (AUTOANS)

交換または交換網バックアップ回線（非同期、BSC、SDLC、またはX.25回線）の場合に、接続を確立するためにシステムがリモート・システムからの呼び出しに自動的に応答するかどうか、あるいはシステム操作員が呼び出しに手操作で応答しモデムをデータ・モードにするかどうかを指定します。

注: *YESは、モデムに自動応答機構がある場合にだけ有効なオプションです。

***YES** 着信呼び出しは自動応答機能によって自動的に応答されます。

***NO** 着信呼び出しは手動で応答する必要があります。

トップ

自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)

交換回線の場合に、接続を確立するためにシステムがリモート・システムを自動的に呼び出すかどうか、あるいはシステム操作員が手操作で呼び出しを入れる必要があるかどうかを指定します。

***NO** 回線接続は、X.25ネットワークの手動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

***YES** 回線接続は、X.25ネットワークのシステム自動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

トップ

モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)

モデムを設定するために送るモデム初期化コマンド・ストリングを指定します。

注: 有効であるのは、INTERFACE(*INTMODEM)またはINFTRFTYPE(*SYNCMODEM)が指定されている時だけです。

***NONE**

コマンド・ストリングはモデムに送信されません。

コマンド・ストリング

モデムに送信する最大60文字までのコマンド・ストリングを指定します。有効な文字は大文字のAからZ、小文字のaからz、数字の0から9、および次の特殊文字です。

ピリオド
より小記号
左括弧
プラス符号
アンパーサンド

アスタリスク
右括弧
セミコロン
マイナス符号
スラッシュ
コンマ
下線
より大記号
疑問符
コロンの
等号
スペース
番号記号
二重引用符
感嘆符
単価記号
曲折記号
パーセント
左大括弧
右大括弧
円記号

注: モデム初期設定ストリングは、'AT'の2文字で始まらなければなりません。

[トップ](#)

ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)

リモート・システムとの交換接続の確立に使用されるダイヤル呼び出しコマンドのタイプを指定します。

*NONE

ダイヤル呼び出しコマンドは使用されません。(自動呼び出し装置を使用して接続が行われます。)

*V25BIS

呼び出しの確立およびデータの伝送に1つの物理インターフェースが使用できるV.25 BISをお奨めします。これは、システムからモデムへのディジットがリンク上に逐次に提示されるために、逐次自動呼び出しインターフェースと呼ばれています。

[トップ](#)

自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)

リモート・システムとの接続を確立するために使用される自動呼び出し装置ポートを記述する自動呼び出し資源名を指定します。ハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用して資源名を判別してください。

[トップ](#)

SHM呼び出しタイマー (SHMCALLTMR)

指定された間隔でSHM再接続が行なわれない場合には、リモート・システムの状態を検査するために、X.21短期保留モード(SHM)回線で接続が再確立される間隔を指定します。このパラメーターが有効なのは、**接続タイプ (CNN)**パラメーターに*SHMが指定されている場合だけです。

*NONE

接続を検査するための呼び出しは行われません。

短期保留モード呼び出しタイマー

接続を検査するための呼び出しを行う1から60分の間隔を指定します。

[トップ](#)

SHM最大接続タイマー (SHMMAXCNN)

使用可能なポートより制御装置の方が多い場合にシステムが接続の存続を許す時間の長さを指定します。システムは指定時間の経過後に接続を解消し、SHM返答遅延タイマー (SHMANSDLY)パラメーターで指定された時間だけその後の呼び出しを遅らせて、中断されていた制御装置を再呼び出しする前に、待機している呼び出しを行います。

注: このパラメーターが有効なのは、データ・リンクの役割 (ROLE)パラメーターで*PRIまたは*NEGが指定されている場合、および接続タイプ (CNN)パラメーターで*SHMが指定されている場合だけです。

8 システムは、他の制御装置を検査する前に8秒待ちます。

*NOMAX

タイマーは活動化されません。

最大接続タイムアウト

1から254秒の範囲の値を指定します。

[トップ](#)

SHM返答遅延タイマー (SHMANSDLY)

システムが発信呼び出しを行う前に、制御装置の呼び出しを待機する時間の長さを指定します。SHM応答遅延タイマーは次の1つが真になった時に開始されます。

- SHM最大接続タイマー(SHMMAXCNNパラメーター) で指定された時間が満了した。
- 着信呼び出しを受け取る間もなく、SHMMAXCNNパラメーターの値の2倍に等しい時間が経過した。

注: このパラメーターが有効なのは、データ・リンクの役割 (ROLE)パラメーターで*PRIまたは*NEGが指定されている場合、および接続タイプ (CNN)パラメーターで*SHMが指定されている場合だけです。

11 システムは、発信呼び出しを行う前に1.1秒待ちます。

*NOMAX

タイマーは活動化されません。

ANS遅延タイムアウト

1秒の10分の1から254秒の範囲の値を指定します。たとえば、10秒は10分の100秒と等しくなります。

[トップ](#)

SHM呼び出し形式 (SHMCALLFMT)

X.21短期保留モードの回線呼び出し番号の形式を指定します。このパラメーターが有効なのは、接続タイプ (CNN)パラメーターに*SHMが指定されている場合だけです。

*DNIC

データ・ネットワークID (DNIC)が使用されます。

*DCC データ国別コード(DCC)が使用されます。

呼び出し形式

SHM呼び出し元番号の市外局番または国別または地域コードの長さです。0から15の範囲の値を指定します。

[トップ](#)

SHMアクセス・コード (SHMACC)

X.21短期保留モード回線のアクセス・コードを指定します。このパラメーターが有効なのは、**接続タイプ (CNN)**パラメーターに*SHMが指定されている場合だけです。

[トップ](#)

呼び出し番号 (CALLNBR)

V.25 BIS識別による呼び出し要求(CRI)ダイヤル呼び出しコマンドに使用される回線のローカル電話番号を指定します。V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが使用されると、システムが呼び出された（接続）番号 (CNNNBRパラメーター) を選択し、区切り文字(:)を追加して、終わりに呼び出し元番号を入れます。省略時の値の*NONEは、通常呼び出し要求(CRN)が使用されることを示します。

呼び出し元番号を指定するのは、モデムおよびネットワークがCRIダイヤル呼び出しをサポートしている場合だけです。

*NONE

通常呼び出し要求(CRN)が使用されます。CRNダイヤル呼び出しはV.25 BIS モデムに接続番号だけを送信します。

呼び出し元番号

V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが必要な場合には、そのローカル電話番号を指定します。この番号は最大32文字の長さとすることができます。モデムに対して許される値を判別するには、そのモデムの文書を参照してください。

注: モデムとネットワークの両方がV.25 BIS CRIダイヤル呼び出しコマンドをサポートしている場合にだけ、呼び出し元番号を指定してください。

[トップ](#)

端末アドレス (STNADR)

交換2次または折衝可能な回線の場合に、リモート・システムが呼び出しに応答する場合、これがリモート・システムによってポーリングされた時、ローカル・システムが応答する宛先の16進数の端末アドレスを指定します。

端末アドレス

01からFEの16進数値を指定してください。

[トップ](#)

ポーリング接続再試行 (CNNPOLLRTY)

交換1次回線または折衝可能回線の場合には、エラーを指示して端末を作動不良にする前に、ポーリング接続の再試行を行う回数を指定します。

ポーリング接続再試行

再試行回数に対して0から64の値を指定します。

トップ

接続タイマー (CNNTMR)

X.21回線交換インターフェースの場合に、自動応答接続要求が着信呼び出しの受け入れを待機する時間の長さを指定します。

*NOMAX

システムは無期限に待機します。

接続タイマー

1から32767の値を0.1秒間隔で指定します。

トップ

短時間タイマー (SHORTTMR)

X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モードの場合に、再試行操作のバースト時に使用される短時間タイマーを指定します。システムは次の接続試行までこのタイムアウト時間の間待機します。

1. SHORTTMRパラメーターを使用するのは、X.21回線交換または短期保留モード回線の場合だけです。
2. この省略時の値は、呼び出し再試行回数および呼び出し遅延に関してほとんどの国または地域の要件を満たしています。この省略時の値がユーザーの国または地域の要件を満たしていない場合には、この値はその国または地域の要件に従って構成する必要があります。この値を変更する前に、新規の値がユーザーの国または地域の要件に従っていることを確認してください。

ユーザーの国または地域の要件が不明な場合には、IBMの貴社担当者またはIBM代理店がこの情報を提供することができます。

このパラメーターは、X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モード・ネットワークを經由して呼び出しを行う時の再試行を制御するために使用します。呼び出しの試行呼び出しの試みには再試行の「バースト」による特徴があります。再試行の単一バーストは、短時間タイマーおよび短時間再試行値によって制御されます。すべての短時間再試行が完了した場合には、システムは別の再試行のバーストを試みる前に長時間（長時間タイマー）遅延します。これらの再試行のバーストの合計数は長時間再試行値が基になっています。

50 システムは5秒間待機します。

短時間タイマー

10から600の範囲の値を0.1秒間隔で指定します。

トップ

長時間タイマー (LONGTMR)

X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モードの場合に、再試行操作のバースト間で使用される長時間タイマーを指定します。再試行のバーストの後で、システムは次の試行までこのタイムアウト期間の間待機します。

このパラメーターは、X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モード・ネットワークを経由して呼び出しを行う時の再試行を制御するために使用します。呼び出しの試みは再試行の「バースト」によって特徴づけられます。再試行の単一バーストは、短時間タイマーおよび短時間再試行値によって制御されます。すべての短時間再試行が完了した場合には、システムは別の再試行のバーストを試みる前に長時間（長時間タイマー）遅延します。これらの再試行のバーストの合計数は長時間再試行値が基になっています。

600 システムは60秒間待機します。

長時間タイマー

100から6000の範囲の値を0.1秒間隔で指定します。

[トップ](#)

短時間再試行 (SHORTRTY)

X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モードの場合に、再試行のバースト時に行なわれる再試行の回数を指定します。

短時間再試行

再試行回数に対して0から254の値を指定します。

[トップ](#)

長時間再試行 (LONGRTY)

X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モードの場合に、接続要求の処理時のバースト再試行の試行回数を指定します。

このパラメーターは、X.21回線交換インターフェースまたは短期保留モード・ネットワークを経由して呼び出しを行う時の再試行を制御するために使用します。呼び出しの試みは再試行の「バースト」によって特徴づけられます。再試行の単一バーストは、短時間タイマーおよび短時間再試行値によって制御されます。すべての短時間再試行が完了した場合には、システムは別の再試行のバーストを試みる前に長時間（長時間タイマー）遅延します。これらの再試行のバーストの合計数は長時間再試行値が基になっています。

1 1回の再試行が試みられます。

長時間再試行

再試行回数に対して0から254の値を指定します。

[トップ](#)

呼び出し進行中信号再試行 (CPSRTY)

X.21回線交換インターフェースまたはX.21短期保留モード回線でどの呼び出し進行中信号が再試行されるかを指定します。最大11個の値を指定することができます。重複した値は無視されます。

有効な値は、*CPS41、*CPS42、*CPS43、*CPS44、*CPS45、*CPS46、*CPS47、*CPS48、*CPS49、*CPS71、および*CPS72です。

このパラメーターを指定できるのは、**接続タイプ (CNN)**パラメーターに*SHMまたは*SWTPPが指定され、**物理インターフェース (INTERFACE)**パラメーターで*X21が指定されている場合だけです。

トップ

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

この回線記述で送信または受信できる最大フレーム・サイズを指定します。

フレーム・サイズ

標準フレーム・サイズは次の通りです。

- 265 (すべての回線タイプ)
- 521 (すべての回線タイプ)
- 1033 (すべての回線タイプ)
- 1994 (トークンリングのみ)
- 2057 (SDLCまたはトークンリング)
- 4105 (TDLCまたはトークンリング)
- 4060 (トークンリングのみ)
- 8156 (トークンリングのみ)
- 16393 (トークンリングのみ)

トップ

二重 (DUPLEX)

送信要求(RTS)が永続的にオン (全二重モデムの場合) であるか、あるいは送信が必要な時にだけオンになる (半二重モデムの場合) かどうかを指定します。

*HALF

送信要求(RTS)がオンに構成変更されるのは、送信が必要な場合(半二重モデムの場合)だけです。モデムが二重をサポートしている場合でも、半二重を選択することができます。

*FULL

送信要求(RTS)は永続的にオンにセットされています (二重モデムの場合)。

トップ

非活動タイマー (INACTTMR)

2次または折衝可能回線の場合に、エラーを報告して回線を切断する前に、システムが有効なフレームの流れのを待機する時間(1/10秒単位)を指定します。このタイマーは、接続時に開始されてフレームが送られた時に再始動され、その後で有効なフレーム検査文字列をもつフレームが受け取られた時にリセットされます。

300 システムは有効なフレームに対して30秒(10分の300秒) 待機します。

非活動タイマー

150から4200の値を0.1秒間隔で指定します。

[トップ](#)

ポーリング応答遅延 (POLLRSPDLY)

2次回線または折衝可能回線の場合で、送信するフレームがない時にシステムがデータ・ポーリングに応答する前に、待機しなければならない最小時間を指定します。

ポーリング応答遅延

1から2048の値を0.0001秒間隔で指定するか、あるいは遅延なしを示す0を指定します。

[トップ](#)

非生産受信タイマー (NPRDRCVTMR)

1次回線または折衝可能回線の場合で、2次端末が連続して送信している時に、システムが最終フレームまたはアイドル信号のいずれかを待つ時間を指定します。このタイマーが満了した場合には、非生産受信条件が報告されます。

非生産受信タイマー

160から4200の値を0.1秒間隔で指定します。

[トップ](#)

アイドル・タイマー (IDLTMR)

1次回線または折衝可能回線の場合には、アイドル信号用の回線のサンプリングの前にシステムが待機する時間(0.1秒間隔で)を指定します。アイドル信号が検出された時に、エラー回復手順が開始されます。

遊休タイマー

5から300の値を0.1秒間隔で指定します。

[トップ](#)

接続ポーリング・タイマー (CNNPOLLTMR)

1次回線または折衝可能回線の場合で、ポーリングを再送信する前に、システムが接続ポーリングへの応答を待つ時間を指定します。

接続ポーリング・タイマー

2から300の値を0.1秒間隔で指定します。

[トップ](#)

ポーリング・サイクル休止 (POLLPAUSE)

1次回線または折衝可能回線の場合で、ポーリング・リスト中の最後のリモート・システムがポーリングされた後で、システムが休止する時間を指定します。

ポーリング・サイクル休止

1から2048の値を0.0001秒間隔で指定するか、あるいは休止なしを示す0を指定します。

[トップ](#)

フレーム再試行 (FRAMERTY)

1次回線、協定可能回線またはX.25回線の場合には、エラーを表示する前の、応答されなかったコマンド・フレームまたは肯定応答されなかった情報フレームの再試行回数を指定します。

フレーム再試行

再試行回数に対して0から64の値を指定します。

[トップ](#)

フェア・ポーリング・タイマー (FAIRPLLTMR)

マルチポイント回線の場合に、システムがデータ転送要求を保留しないで端末のポーリングを再開する前に待機する秒数を指定します。

公平ポーリング・タイマー

5から60の値を1秒間隔で指定します。

[トップ](#)

データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)

エラーの信号を出す前に、モデムがデータ・セット・レディー(DSR)状態を終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

切断タイマー

3から60秒の範囲の値を指定します。

[トップ](#)

自動返答タイプ (AUTOANSTYP)

システムが受信呼び出しの応答に使用する方法を指定します。

***DTR** システムは「データ端末レディー」状態になり、呼び出しに応答するようにモデムに信号を送り、「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのをモデムが待ちます。

***CDSTL**

呼び出しに応答するようにモデムに信号を送るために「リング標識」をモニターした後、システムは「データ・セット回線接続」(CDSTL)状態になります。

[トップ](#)

リモート返答タイマー (RMTANSTMR)

ダイヤル呼び出しの後、エラーの信号を出す前に、モデムが「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのを、システムが待機する時間を指定します。

応答タイマー

30から120秒の範囲の値を5秒間隔で指定します。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

接続された非交換制御装置 (CTL)

非交換回線の場合には、この回線に接続されている1つまたは複数の制御装置名を指定します。制御装置記述は事前に存在しなければなりません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

名前 接続する1つ以上の非交換制御装置の名前を指定してください。最大254の制御装置名を指定できます。

[トップ](#)

モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)

モデムにデータ速度選択機能が備わっている場合には、回線が作動する速度を指定します。

*FULL

回線はそのモデムの全速度で作動します。

*HALF

回線はそのモデムの全速度の半分で作動します。

[トップ](#)

エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)

システムによって監視される一時エラーエラーしきい値レベルを指定します。永続エラーは、エラーが連続して起こり、再試行回数限界を超えた場合にだけ、報告されます。

注: すべてのしきい値エラーに影響するTHRESHOLDパラメーターを指定します。これらを個別に指定することはできません。

- *OFF しきい値エラーは報告されません。
- *MIN エラーのしきい値は最小のモニター・レベルにセットされます。
- *MED エラーのしきい値は中間のモニター・レベルにセットされます。
- *MAX エラーのしきい値は最大のモニター・レベルにセットされます。

トップ

モジュラス (MODULUS)

拡張順序番号を使用するかどうかを指定します。

- 8 拡張順序番号は使用されません (モジュラス8)。
- 128 拡張順序番号が使用されます (モジュラス128)。

トップ

最大未処理フレーム数 (MAXOUT)

リモート・システムが応答を返す前にリモート・システムに送ることのできるフレームの最大数を指定します。モジュラス8の場合には、フレームの最大数は1から7まででなければなりません。モジュラス128の場合には、8から28まででなければなりません。

最大未処理フレーム数

未処理フレーム数に対して1から28の値を指定します。

トップ

送信可タイマー (CTSTMR)

エラーの信号を送る前に、モデムが送信可(CTS)状態に入るかまたは終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

CTSタイマー

10から60秒の範囲の値を指定します。

トップ

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

*INTERFACE (SDLCおよびX.25のみ)

リンク速度は物理インターフェースのタイプが基になっています。すなわち、RS-232/V.24およびX.21 BIS/V.24では9600 BPSとなり、V.35およびX.21 BIS/V.35では48000 BPSとなり、X.21およびRS-449V.36では64000 BPSです。

- *MIN 1200 BPSより小さいリンク速度が使用されます。

*MAX 100M BPSより大きいリンク速度が使用されます。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効なリンク速度は次の通りです。すなわち、1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10Mおよび16Mビット/秒です。

[トップ](#)

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。ゼロは低コストを意味し、255は高コストを示します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*CNN (SDLCおよびIDLCのみ)

接続時間当たりのコストはその接続タイプによって異なります。非交換接続ではゼロであり、交換接続では128です。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

コスト/バイト (COSTBYTE)

この回線でデータを送信および受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。ゼロは低コストを意味し、255は高コストを示します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*CNN (SDLCおよびIDLCのみ)

1バイト当たりのコストはその接続タイプによって異なります。非交換接続ではゼロであり、交換接続では128です。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

回線の機密保護 (SECURITY)

物理回線の機密保護レベルを指定します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*NONSECURE

回線上の機密保護はありません。

*PKTSWTNET

パケット交換網が使用されます。データはネットワークを介して常に同じパスを通るとはかぎりません。

***UNDRGRDCBL**

地下ケーブルが使用されます。

***SECURECND**

安全だが、防護されない配管が使用されます。

***GUARDCND**

物理的な傍受から保護された防護配管が使用されます。

***ENCRYPTED**

回線を流れるデータは暗号化されます。

***MAX** 物理的および電磁波の傍受から保護された配管が使用されます。

[トップ](#)

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN) が使用されている場合にだけ有効です。最短ら最長遅延への値の順序は、*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, および *SATELLITE です。

***MIN** 最小伝搬遅延が使用されます。

***LAN** ローカル・エリア・ネットワークを使用する伝搬遅延

***TELEPHONE**

電話回線を使用する伝搬遅延

***PKTSWTNET**

パケット交換網を使用する伝搬遅延

***SATELLITE**

衛星通信を使用する伝搬遅延

***MAX** 最大伝搬遅延が使用されます。

[トップ](#)

ユーザー定義1 (USRDFN1)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN) が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義2 (USRDFN2)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義3 (USRDFN3)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

この回線記述で使用する2番目のレベルの通信回復の試みの限界を指定します。

使用できる**カウント限界**の値は次の通りです。

2 指定された時間間隔内に2回の回復が試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。有効な値の範囲は、0から99です。

使用できる**時間間隔**の値は、次の通りです。

5 5分間の間隔で指定された回数の回復が試みられます。

時間間隔

回復の試みが行なわれるまでの時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120（1分間隔で）です。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTLINS DLC LIND(BOSTON) RSRNAME(LIN041)
```

このコマンドは、資源名がLIN041のBOSTONという名前のSDLC回線記述を作成します。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

トップ

回線記述の作成(TDLC) (CRTLINTDLC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TDLC回線記述の作成(CRTLINTDLC)コマンドにより、平衡型データ・リンク制御回線の回線記述が作成されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
WSC	接続したワークステーション制御機構	名前	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
NETCTL	ネットワーク制御装置	名前	オプション
CTL	接続された非交換制御装置	値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

[トップ](#)

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

接続したワークステーション制御機構 (WSC)

5150装置および他の表示装置が接続されているワークステーション制御機構の名前を指定します。

名前 ワークステーション制御装置を指定します。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

ネットワーク制御装置 (NETCTL)

既存のネットワーク制御装置の名前を指定します。このネットワーク制御装置は、TCP/IP OVER接続を実行するために使用されます。

[トップ](#)

接続された非交換制御装置 (CTL)

非交換回線の場合には、この回線に接続されている1つまたは複数の制御装置名を指定します。制御装置記述は事前に存在しなければなりません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

名前 最大56までのAPPC制御装置名を指定してください。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR),読み取り(*READ),および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトにアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

例1:TDLC回線記述の作成

```
CRTLINTDLC LIND(WSFLINE) WSC(CTL01)
```

このコマンドは、ワークステーション制御装置CTL01に接続されているWSFLINEという名前のTDLC回線記述を作成します。

2:ネットワーク制御装置と関連したTDLC回線記述の作成

```
CRTLINTDLC LIND(NETLINE) WSC(CTL01) NETCTL(NETC01)
```

このコマンドは、ワークステーション制御装置CTL01に接続されているNETLINEという名前のTDLC回線記述を作成します。NETC01は、TCP/IP OVER接続で実行するためにネットワーク制御装置として使用されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

トップ

回線記述の作成(トークンリング) (CRTLINTRN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

トークンリング・ネットワーク回線記述の作成(CRTLINTRN)コマンドにより、トークンリング・ネットワークの回線記述が作成されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	名前	必須, キー, 位置 1
RSRCNAME	資源名	名前, *NWID, *NWSD	必須, キー, 位置 2
NWITYPE	NWIタイプ	<u>*FR</u>	オプション, キー
ONLINE	IPL時のオンライン	<u>*YES</u> , *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, <u>*NOWAIT</u>	オプション
MAXCTL	最大制御装置数	1-256, <u>40</u>	オプション
NWI	接続NWI	名前, <u>*NONE</u>	オプション
NWIDLCI	DLC識別コード	1-1018, <u>*NONE</u>	オプション
NWS	ネットワーク・サーバー 記述	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1:	名前	
	要素 2: ポート番号	1-3, *INTERNAL	
LINESPEED	回線速度	4M, <u>16M</u> , 100M, *AUTO, *NWI	オプション
DUPLEX	二重	文字値, <u>*HALF</u> , *FULL, *AUTO	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	265-16393, 265, 521, 1033, 1466, 1556, 1600, 1994, 4060, 8156, 16393	オプション
LECFRAME	LECフレーム・サイズ	1516, <u>4544</u> , 9234, 18190	オプション
ADPTADR	ローカル・アダプター・アドレス	文字値, <u>*ADPT</u>	オプション
EXCHID	交換識別コード	05600000-056FFFFF, <u>*SYSGEN</u>	オプション
SSAP	SSAPリスト	単一値: <u>*SYSGEN</u> その他の値 (最大 24 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ソース・サービス・アクセス点	02-FE	
	要素 2: SSAP最大フレーム	265-16393, <u>*MAXFRAME</u> , 265, 521, 1033, 1466, 1994, 4060, 8156, 16393	
	要素 3: SSAPタイプ	<u>*CALC</u> , *NONSNA, *SNA, *HPR	
ACCTYPE	ATMアクセス・タイプ	<u>*SVC</u> , *PVC	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
PVCID	PVC識別コード	要素リスト	オプション
	要素 1: 仮想経路識別コード	0-7	
	要素 2: 仮想回線識別コード	32-4095	
USELECSADR	LECSアドレスの使用	<u>*YES</u> , *NO	オプション
LESATMADR	LES ATMアドレス	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク接頭部	16 進値	
	要素 2: 末端システム識別コード	16 進値	
	要素 3: セレクター・バイト	16 進値	
EMLLANNAME	エミュレートLAN名	文字値, <u>*NONE</u>	オプション
LECDSTIMO	LEC切断タイムアウト	1-30, <u>10</u> , *NOMAX	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
NETCTL	ネットワーク制御装置	名前	オプション
ACTLANMGR	LAN管理機能の活動化	<u>*YES</u> , *NO	オプション
TRNLOGLVL	TRLAN管理機能ロギング・レベル	<u>*OFF</u> , *MIN, *MED, *MAX	オプション
TRNMGRMODE	TRLAN管理機能モード	<u>*OBSERVING</u> , *CONTROLLING	オプション
LOGCFGCHG	構成変更ログ	<u>*LOG</u> , *NOLOG	オプション
TRNINFBCN	ビーコンのトークンリング通知	<u>*YES</u> , *NO	オプション
FCNADR	機能分野アドレス	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 31 回の繰り返し): C00000000001, C00000000002, C00000000004, C00000000008, C00000000010, C00000000020, C00000000040, C00000000080, C0000000100, C0000000200, C0000000400, C0000000800, C0000001000, C0000002000, C0000004000, C0000008000, C0000010000, C0000020000, C0000040000, C0000080000, C0000100000, C0000200000, C0000400000, C0000800000, C0001000000, C0002000000, C0004000000, C0008000000, C0010000000, C0020000000, C0040000000	オプション
ELYTKNRLS	トークン早期解放	*YES, *NO, <u>*LINESPEED</u>	オプション
THRESHOLD	エラーのしきい値レベル	<u>*OFF</u> , *MIN, *MED, *MAX	オプション
LINKSPEED	リンク速度	1200-603979776000, 4M, 10M, <u>16M</u> , 100M, *MIN, *MAX	オプション
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	オプション
SECURITY	回線の機密保護	<u>*NONSECURE</u> , *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, <u>128</u>	オプション
AUTOCRTCTL	制御装置記述の自動作成	*YES, <u>*NO</u>	オプション
AUTODLTCTL	制御装置記述の自動削除	1-10000, <u>1440</u> , *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

資源名 (RSRCNAME)

その記述が表す、ハードウェアを識別する資源名を指定します。

注: 資源名の判別に役立つために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。資源名はポート上にあります。たとえば、資源名はイーサネット・ポートでCMN01です。

注: RSRCNAMEパラメーターで指定された値は、*NWSIDから別の値に、あるいは別の値から*NWSIDに変更することはできません。

*NWSID

接続されたフレーム・リレー・ネットワーク・インターフェース記述に指定された資源名が使用されます。

*NWSR

資源名は使用されるネットワーク・サーバー記述によって判別されます。

名前 通信ポートの資源名を指定してください。

これは必須パラメーターです。

トップ

NWIタイプ (NWITYPE)

ネットワーク・インターフェース・タイプを指定します。

注: このパラメーターは、RSRCNAMEが*NWIDでない場合には無視されます。

*FR ネットワーク・インターフェース・タイプはフレーム・リレーです。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

*YES この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

*NO この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されません。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

[トップ](#)

最大制御装置数 (MAXCTL)

回線がサポートする制御装置の最大数を指定します。

制御装置の最大数

1から256の範囲の値を指定します。この数字は、この回線に対して現在活動状態になっているすべての制御装置の数と、近い将来接続する予定の制御装置数を考慮した十分な大きさの数でなければなりません。

[トップ](#)

接続NWI (NWI)

使用するネットワーク・インターフェース記述を指定します。

注: RSRCTYPE(*NWI)が指定されない場合は、NWI(*NONE)を指定する必要があります。そうでない場合は、NWI(*NONE)も指定されている時にだけNWI(*NONE)を指定することができます。

*NONE

ネットワーク・インターフェースは指定されません。

名前 使用するネットワーク・インターフェース記述の名前を指定してください。

[トップ](#)

DLC識別コード (NWIDLCI)

ネットワーク・インターフェースのデータ・リンク接続ID (DLCI)を指定します。

注: RSRCTYPE(*NWI)が指定されていない場合は、NWIDLCI(*NONE)を指定しなければなりません。その他の場合は、NWIDLCI(*NONE)を指定できるのは、NWI(*NONE)も指定されている場合だけです。

*NONE

DLCIはネットワーク・インターフェースに対しては指定されません。

データ・リンク接続ID

この回線を永続的に接続するネットワーク・インターフェースのDLCIを指定します。有効な値の範囲は1から1018です。

[トップ](#)

ネットワーク・サーバー 記述 (NWS)

この回線が接続されるネットワーク・サーバー名を指定します。

注: RSRCTYPE(*NWS)が指定された場合には、NWSパラメーターも指定する必要があります。

ネットワーク・サーバー記述がTYPE(*AIX)のタイプのものである場合には、ネットワーク・サーバー・ポートに指定できるのは*INTERNALだけであり、その回線はトークンリング回線でなければなりません。

可能なネットワーク・サーバー記述の値は次の通りです。

***NONE**

サーバー記述は指定されません。

名前 使用される既存のネットワーク・サーバー記述の名前を指定してください。

可能なネットワーク・サーバー・ポートの値は次の通りです。

***INTERNAL**

回線の接続先の内部ネットワーク・サーバー・ポート。各ネットワーク・サーバーに構成される内部ネットワーク・サーバー・ポートは1つだけです。

ネットワーク・サーバー・ポート

回線の接続先のネットワーク・サーバー・ポートを指定します。有効な値は1および2です。

トップ

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

注: RSRCTYPE(*NWID)およびNWITYPE(*FR)が指定されている場合には、このパラメーターに*NWIを指定しなければなりません。

4M 回線速度は4M BPSです。

16M 回線速度は16M BPSです。

100M 回線速度は100M BPSです。

***AUTO**

回線速度の値は自動折衝を使用してハードウェアによって判別されます。

***NWI** 使用される回線速度はネットワーク・インターフェース用です。

注: LINESPEED(*NWI)が有効となるのは、RSRCTYPE(*NWID)およびNWITYPE(*FR)が指定された場合だけです。

二重(DUPLEX)パラメーターに省略時の値があり、回線速度(LINESPEED)パラメーターが100Mまたは*AUTOの場合には、このパラメーターは*AUTOに設定されます。

トップ

二重 (DUPLEX)

ハードウェアがデータの送信と受信を同時に行うことができるかどうかを指定します。半二重モードでは、ハードウェアがデータの送信と受信を交互に切り替えなければなりません。全二重モードでは1つのケーブルがデータの送信専用で、もう1つのケーブルがデータの受信専用です。したがって、データの送信と受信を同時に行うことができます。全二重ではハブが必要です。

***HALF**

回線は半二重モードを使用して通信します。

***FULL**

回線は全二重モードを使用して通信します。

*AUTO

二重の値は自動折衝を使用してハードウェアによって判別されます。

注: 二重(DUPLEX)パラメーターに省略時の値があり、回線速度(LINESPEED)パラメーターが100Mまたは*AUTOの場合には、このパラメーターは*AUTOに設定されます。

トップ

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

この回線記述で送信または受信できる最大フレーム・サイズを指定します。

RSRCNAME(*NWID)およびNWITYPE(*FR)が指定されている場合は、省略時の値1556バイトが使用されます。RSRCNAME(*NWID)およびNWITYPE(*ATM)が指定されている場合は、省略時の値4060が使用されます。その他の場合は、省略時の値4105バイトが使用されます。

注

1. トークンリング・アダプターが4M LINESPEEDだけしかサポートしない場合には、4472の値またはそれより小さい値を指定することができます。
2. RSRCNAME(*NWID)およびNWITYPE(*FR)が指定された場合には、このパラメーターの有効な値の範囲は265から8148バイトです。MAXFRAME値は電話キャリアによって提供され、そのヘッダーのサイズのための44バイトを差し引く必要があります。
3. RSRCNAME(*NWID)およびNWITYPE(*ATM)が指定された場合には、このパラメーターの有効な値の範囲は265から16393バイトです。MAXFRAME値は電話キャリアによって提供され、そのヘッダーのサイズのための20バイトを差し引く必要があります。

最大フレーム・サイズ

使用する最大フレーム・サイズの値を指定します。ネットワーク・インターフェースがフレーム・リレーの時には、有効なフレーム・サイズ (バイト数) の範囲は265 から8148バイトです。そうでない場合には、有効なフレーム・サイズ (バイト数) は265から16393バイトの範囲です。

トップ

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LECフレーム・サイズ (LECFRAME)

この回線記述で送信および受信することができるLANエミュレーション・クライアント(LEC)フレーム・サイズを指定します。

注: MAXFRAMEは、常にこのフィールドより20は少なくなければなりません。

4544 LECフレーム・サイズは4544バイトです。

1516 LECフレーム・サイズは1516バイトです。

9234 LECフレーム・サイズは9234バイトです。

18190 LECフレーム・サイズは18190バイトです。

トップ

ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)

ローカル・システムのトークンリング・アダプター・アドレスを指定します。

*ADPT

この値はユーザーに対してこのトークンリング・アダプター・カードの事前設定のトークンリング・アドレスを提供します。このアドレスは、正常にオンに構成変更した後この回線記述で回線記述表示(DSPLIND)コマンドを実行することによって表示することができます。

注: RSRCNAME(*NWID)およびNWITYPE(*FR)が指定された場合、あるいはRSRCNAME(*NWS)が指定された場合には、この値は有効となりません。

ローカル・アダプター・アドレス

トークンリング・ネットワーク中のこのシステムを記述するためのユーザー選択のアダプター・アドレスを指定します。有効な値の範囲は16進数の400000000000 から7FFFFFFFFFFFです。

トップ

交換識別コード (EXCHID)

リモート・システムに対してローカル・システムを識別させるために使用される16 進交換IDを指定します。この16進交換IDは8桁で、3桁はブロック番号を、5桁はこのシステムのIDを示します。

*SYSGEN

この値によって、オペレーティング・システムは交換ID を作成できます。回線記述表示(DSPLIND)コマンドを使用して、結果の交換IDを調べます。

交換ID

05600000から056FFFFFFの範囲の8文字(16進数の4バイト) 交換ID を指定します。

トップ

SSAPリスト (SSAP)

SSAP値、最大フレーム・サイズ、およびSSAPタイプが入っているソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)情報を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

可能なソース・サービス・アクセス・ポイント値は次の通りです。

*SYSGEN

システムはソース・サービス・アクセス・ポイント04, 12, AAまたはC8を生成します。

可能なSSAPの値は次の通りです。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

データの送受信のソース・サービス・アクセス・ポイントを指定します。最大24個のSSAP値を指定することができます。

- 伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)アプリケーションでは、SSAPはAAでなければなりません。

- システム・ネットワーク体系(SNA)アプリケーションでは、SSAPは、4の倍数の04から9Cの範囲の16進数値(04, 08, 0Cなど) でなければなりません。
- ハイパフォーマンス経路指定(HPR)アプリケーションでは、SSAPは16進数のC8でなければなりません。
- 非SNAアプリケーションでは、SSAPは2の倍数の02からFEの範囲の値(02, 04, 06など) でなければなりません。

可能なSSAP最大フレーム・サイズの値は次の通りです。

*MAXFRAME

システムは、SSAP最大フレーム・サイズについてこのコマンドのMAXFRAMEパラメーターに指定された値を使用します。

SSAP最大フレーム

SSAPの最大フレーム・サイズ（送受信できるデータ・フィールドの最大サイズ）を指定します。RSRCNAME(*NWID)およびNWITYPE(*FR)が指定された場合には、このパラメーターの有効な値の範囲は265から8148バイトです。その他の場合は、このパラメーターの有効な値の範囲は265から16393バイトです。

注: この値は、MAXFRAMEパラメーターに指定された値より大きくすることはできません。

可能なSSAPタイプの値は次の通りです。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

*SNA 使用されるSSAPがSNA通信に使用されます。有効な値の範囲は4の倍数の16進数の04から9C (04, 08, 0Cなど) です。

*NONSNA

SSAPは非SNA通信用に使用されます。有効な値の範囲は2の倍数の16進数の02からFE (02, 04, 06など) です。

*HPR SSAPがHPR通信用に使用されます。また、これはSNAアプリケーションでも使用することができます。有効な値は16進数のC8です。

トップ

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

ATMアクセス・タイプ (ACCTYPE)

ATMネットワークへのアクセスのタイプを指定します。

*SVC この回線はスイッチド・バーチャル・サーキットを使用するLANエミュレーション・クライアントを表します。

*PVC この回線はパーマネント・バーチャル・サーキットを使用するLANエミュレーション・クライアントを表します。

トップ

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

PVC識別コード (PVCID)

このパーマネント・バーチャル・サーキットと関連した仮想パスIDと仮想回線IDの対を指定します。

注: ACCTYPE(*PVC)を指定する場合には、PVCIDが必要です。

可能な仮想パスID値は次の通りです。

仮想パスID

仮想パスIDを表す番号を指定します。この番号は0から7の範囲内でなければなりません。

可能なバーチャル・サーキットIDの値は次の通りです。

バーチャル・サーキットID

バーチャル・サーキットIDを表す番号を指定します。この番号は32から4095の範囲内でなければなりません。

トップ

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LECSアドレスの使用 (USELECSADR)

LANエミュレーション構成サーバー(LECS)を接続するリモートLANエミュレーション・サーバー(LES)アドレスを要求するかどうかを指定します。

*YES LECSアドレスが使用されます。

*NO LECSアドレスは使用されません。

トップ

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LES ATMアドレス (LESATMADR)

リモートLANエミュレーション・サーバーのATMネットワーク・アドレスを指定します。

注: USELECSADR(*NO)を指定した場合には、このパラメーターを*NONEにすることはできません。

可能な単一値は次の通りです。

*NONE

ATMネットワーク・アドレスは使用されません。

可能なネットワーク接頭部の値は次の通りです。

ネットワーク接頭部

リモート・サーバーのATMアドレスのネットワーク接頭部を指定します。これは26桁の16進数値です。

可能な末端システムIDの値は次の通りです。

末端システムID

リモート・サーバーの末端システムIDを指定します。これは12桁の16進数値です。

可能なセレクター・バイト値は次の通りです。

セレクター・バイト

リモート・サーバーのセレクター・バイトを指定します。これは2桁の16進数値です。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

エミュレートLAN名 (EMLLANNAME)

エミュレートされたLAN名を指定します。

*NONE

エミュレートされたLAN名は使用されません。

エミュレートされたLAN名

エミュレートされたLAN名を指定します。最大32文字まで指定できます。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

LEC切断タイムアウト (LECDSTIMO)

LANエミュレーション(LE)クライアントが別のクライアントへの遊休仮想回線接続を切断する前に待機する時間の長さ (分数) を指定します。

10 LEクライアントは10分待機します。

*NOMAX

LEクライアントは無制限に待機します。

LEC切断タイムアウト

別のクライアントとの遊休仮想回線接続を切り離す前に、LEクライアントが待機する分数を指定します。この値は1から30分の範囲内でなければなりません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

***BLANK**

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

ネットワーク制御装置 (NETCTL)

既存のネットワーク制御装置の名前を指定します。

[トップ](#)

LAN管理機能の活動化 (ACTLANMGR)

この回線用にローカル・エリア・ネットワーク(LAN)マネージャーが活動化されるかどうかを指定します。

注:

1. RSRCNAME(*NWID)が指定されている時には、ACTLANMGR(*YES)を指定しなければなりません。
2. ACTLANMGR(*NO)では、TRNLOGLVL, TRNMGRMODE, LOGCFGCHG,およびTRNINFBCNの値は無視されます。

***YES** LANマネージャー・サポートがこの回線で活動化されます。

***NO** LANマネージャー・サポートはこの回線で活動化されません。

[トップ](#)

TRLAN管理機能ロギング・レベル (TRNLOGLVL)

TRLAN管理プログラムによって使用されるエラー・ログ・レベルを指定します。

注: RSRCNAME(*NWID)が指定された時には、TRNLOGLVL(*OFF)を指定しなければなりません。

***OFF** 指定された回線でのエラーの報告はすべて停止されます。

***MIN** 性能低下を示す条件だけを報告する最小報告レベルが使用されます。

***MED** 最小報告レベルに加えて、潜在的な性能低下を示す条件を報告する中間報告レベルが使用されます。

***MAX** *MINおよび*MED報告レベルについて報告される情報を含む、すべてのエラー条件を報告する最大報告レベルが使用されます。

[トップ](#)

TRLAN管理機能モード (TRNMGRMODE)

この回線でどちらのモードのネットワーク管理機能を活動状態にするかを指定します。制御管理機能は、端末の除去および経路テストの実行など、監視管理機能では実行できない機能を実行することができます。

ただし、活動状態にできる制御管理機能は任意の1つのリングで1つだけです。

注: RSRCTYPE(*NID)が指定された時には、TRNMGRMODE(*OBSERVING)を指定しなければなりません。

***OBSERVING**

この回線のマネージャーは、監視のネットワーク・マネージャーとして機能します。

***CONTROLLING**

この回線のマネージャーは、制御のネットワーク・マネージャーとして機能します。

[トップ](#)

構成変更ログ (LOGCFGCHG)

この回線のネットワーク管理機能が最も近い活動アップストリーム隣接(NAUN)に起こる変更を記録するかどうかを指定します。

注: RSRCTYPE(*NID)が指定された時には、LOGCFGCHG(*LOG)を指定しなければなりません。

***LOG** 回線マネージャーは変更をログに記録します。

***NOLOG**

回線マネージャーは変更をログに記録しません。

[トップ](#)

ビーコンのトークンリング通知 (TRNINFBCN)

ビーコン条件が起こった時にこの回線のネットワーク管理機能がメッセージをQSYSOPRメッセージ待ち行列に送るかどうかを指定します。

注: RSRCTYPE(*NID)を指定した場合には、TRNINFBCN(*YES)を指定する必要があります。

***YES** ビーコン状態が起こった場合には、この回線のマネージャーがQSYSOPRメッセージ待ち行列にメッセージを送信します。

***NO** ビーコン状態が起こった場合に、この回線のマネージャーはQSYSOPRメッセージ待ち行列にメッセージを送信しませんが、代わりに、QHSTログに項目をログに記録します。

[トップ](#)

機能分野アドレス (FCNADR)

トークンリング機能分野アドレスが使用されるかどうかを指定します。

***NONE**

機能アドレスは使用されません。

機能アドレス

ビット有効値の形式でエンコードされる16進数の機能アドレスのグループを指定します。有効な値の範囲は16進数のC00000000001からC00040000000です。最初の桁はCでなければなりません。機能アドレスは固有なものでなければなりません。

活動状態のモニター

C00000000001

リング・パラメーター・サーバー

C00000000002

ネットワーク・サーバー・ハートビート

C00000000004

リング・エラー・モニター

C00000000008

構成報告書サーバー

C00000000010

同期帯域幅マネージャー

C00000000020

位置指定ディレクトリー・サーバー

C00000000040

NETBIOS

C00000000080

ブリッジ

C00000000100

IMPLサーバー

C00000000200

リング許可サーバー

C00000000400

LANゲートウェイ

C00000000800

リング集線接続

C00000001000

LANマネージャー

C00000002000

ユーザー定義

C00000004000からC00040000000

トップ

トークン早期解放 (ELYTKNRLS)

この回線でトークン早期解放オプションを使用するかどうかを指定します。

注: RSRCTYPE(*NWID)を指定した場合には、ELYTKNRLS(*LINESPEED)を指定しなければなりません。

*LINESPEED

早期トークン解放オプションを使用するか否かについては、この回線のLINESPEED パラメーターが選択します。

***YES** この回線は早期トークン解放オプションを選択します。

***NO** この回線は早期トークン解放オプションを選択しません。

トップ

エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)

このパラメーターと、その値の*OFF, *MIN, *MED,および*MAXを指定できますが、リリースV2R3M0で開始されるシステムでは使用されません。このパラメーターは以降のリリースでは除去されます。

[トップ](#)

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

4M リンク速度は秒当たり400万ビットです。

10M リンク速度は秒当たり1000万ビットです。

16M リンク速度は秒当たり1600万ビットです。

100M リンク速度は秒当たり1億ビットです。

***MIN** 1200 BPSより小さいリンク速度が使用されます。

***MAX** 100M BPSより大きいリンク速度が使用されます。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効な値の範囲は1200から603979776000 BPSです。

[トップ](#)

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

0 接続時間当たりのコストは0です。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

コスト/バイト (COSTBYTE)

この回線でデータを送信および受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。ゼロは低コストを意味し、255は高コストを示します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

0 1バイト当たりのコストは0です。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

回線の機密保護 (SECURITY)

物理回線の機密保護レベルを指定します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*NONSECURE

回線上の機密保護はありません。

*PKTSWTNET

パケット交換網が使用されます。データはネットワークを介して常に同じパスを通るとはかぎりません。

*UNDRGRDCBL

地下ケーブルが使用されます。

*SECURECND

安全だが、防護されない配管が使用されます。

*GUARDCND

物理的な傍受から保護された防護配管が使用されます。

*ENCRYPTED

回線上を流れるデータは暗号化されます。

*MAX 物理的および電磁波の傍受から保護された配管が使用されます。

[トップ](#)

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN) が使用されている場合にだけ有効です。最短ら最長遅延への値の順序は、*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, および *SATELLITE です。

*LAN ローカル・エリア・ネットワークを使用する伝搬遅延

*MIN 最小伝搬遅延が使用されます。

*TELEPHONE

電話回線を使用する伝搬遅延

*PKTSWTNET

パケット交換網を使用する伝搬遅延

*SATELLITE

衛星通信を使用する伝搬遅延

*MAX 最大伝搬遅延が使用されます。

[トップ](#)

ユーザー定義1 (USRDFN1)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN) が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義2 (USRDFN2)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義3 (USRDFN3)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)

着信の拡張対等通信ネットワーク(APPN)呼び出しをローカル・エリア・ネットワーク(LAN)の周辺システムから受信する時に、システムが拡張プログラム間通信(APPC)制御装置記述を自動的に作成するかどうかを指定します。

***NO** この回線の制御装置記述を自動的に作成しません。

***YES** この回線の制御装置記述を自動的に作成します。

[トップ](#)

制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)

構成変更が自動的にオフになり、アイドル状態になっていた、自動的に作成された拡張プログラム間通信(APPC)制御装置記述（この回線と関連した）を削除する前に、システムが待機する分数を指定します。

1440 制御装置記述は1440分間(24時間)遊休にすることができます。

*NONE

この回線の制御装置記述は自動的に削除されません。

制御装置の自動削除

1から10000分の範囲の値を指定します。値1440は24時間です。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

この回線記述で使用する2番目のレベルの通信回復の試みの限界を指定します。

使用できる**カウント限界**の値は次の通りです。

2 指定された時間間隔内に2回の回復が試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。有効な値の範囲は、0から99です。

使用できる**時間間隔**の値は、次の通りです。

5 5分間の間隔で指定された回数の回復が試みられます。

時間間隔

回復の試みが行なわれるまでの時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120（1分間隔で）です。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SYSVAL

システム値QCFGMSGQの値が使用されます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTL)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

例1: トークンリング回線記述の作成

```
CRTLINTRN  LIND(TRLAN1)  RSRNAME(LIN011)
            TEXT('TOKEN-RING LINE')
```

このコマンドは、資源名がLIN011で、交換ID 05612345のトークンリング回線(TRLAN1)を作成します。

例2: トークンリング回線記述の作成

```
CRTLINTRN  LIND(TRNLIN)  RSRNAME(*NWS)  NWS(REMODEL 2)
```

このコマンドは、ネットワーク・サーバーREMODELのポート2に接続されたTRNLINという名前のトークンリング回線記述を作成します。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

回線記述の作成（無線）(CRTLINWLS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述の作成（無線）(CRTLINWLS)コマンドは、無線ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)回線の回線記述を作成します。

注: 拡張無線回線構成データは、それぞれINZFILEおよびINZMBRパラメーターで指定されたソース・ファイルおよびメンバーに入っています。この回線をオンに構成変更すると、この構成データが無線アダプターにダウンロードされます。INZPGM(QZXCINZ) およびINZFILE(QEWSRC)を使用し、INZMBRパラメーターに構成初期設定データが入っているソース・メンバーを指定することをお勧めします。拡張無線回線構成データのダウンロードの詳細については、AS/400 LAN,フレームおよびATMサポート (SD88-5012)を参照してください。

このコマンドの使用法の詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前	必須, 定位置 2
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT	オプション
ADPTADR	ローカル・アダプター・アドレス	020000000000-FEFFFFFFFF, *ADPT	オプション
EXCHID	交換識別コード	05600000-056FFFFFF, *SYSGEN	オプション
ETHSTD	イーサネット標準	*ETHV2, *IEEE8023, *ALL	オプション
SSAP	SSAPリスト	単一値: *SYSGEN その他の値 (最大 24 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ソース・サービス・アクセス点	02-FE	
	要素 2: SSAP最大フレーム	265-1496, *MAXFRAME, 265, 521, 1033, 1466, 1493, 1496	
	要素 3: SSAPタイプ	*CALC, *NONSNA, *SNA	
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, *NONE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前, *NONE	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
INZPGM	初期設定プログラム	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 初期設定プログラム	名前, <u>*NONE</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , <u>*CURLIB</u>	
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*BLANK</u>	オプション
NETCTL	ネットワーク制御装置	名前	オプション
GRPADR	グループ・アドレス	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 12 回の繰り返し): 010000000000-FDFFFFFFF	オプション
MAXCTL	最大制御装置数	1-256, <u>40</u>	オプション
LINKSPEED	リンク速度	*MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, <u>280000</u> , 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, *MAX	オプション
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, <u>0</u>	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, <u>0</u>	オプション
SECURITY	回線の機密保護	<u>*NONSECURE</u> , *ENCRYPTED	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	<u>*LAN</u> , *MIN, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, <u>128</u>	オプション
AUTOCRTCTL	制御装置記述の自動作成	*YES, <u>*NO</u>	オプション
AUTODLTCTL	制御装置記述の自動削除	1-10000, <u>1440</u> , *NONE	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
AUT	権限	名前, <u>*CHANGE</u> , *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

資源名 (RSRCNAME)

自動呼び出し装置ポートを記述する資源名を指定します。資源名は入出力アダプター(IOA)の資源名とIOAのポート番号から構成されています。たとえば、IOAの資源名がLIN01で、IOA上のポートが1の場合には、その資源名はLIN011となります。

注: 資源名の判別に役立てるためには、TYPEパラメーターに*CMNを指定してハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用することができます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

[トップ](#)

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

***NOWAIT**

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されます。

オンへの構成変更の待機

待機する時間(秒数)を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更(VRYCFG)コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなることがあります。

[トップ](#)

ローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR)

12桁の16進数アダプター・アドレスを指定します。

*ADPT

事前設定の無線アダプター・アドレスがローカル・アダプター・アドレスとして使用されます。アダプター・アドレスは、正常にオンに構成変更した後に回線記述表示(DSPLIND)コマンドを使用して表示することができます。

ローカル・アダプター・アドレス

ローカル無線アダプター・アドレスを指定して、事前設定のローカル・アドレスを上書きします。ローカル・アダプター・アドレスは個別アドレスでなければなりません（これはグループ・アドレスとすることはできません）。有効な値の範囲は020000000000からFEFFFFFFFの16進数形式です。このアドレスの2桁目（左から）は2, 6, A,またはEでなければなりません。

[トップ](#)

交換識別コード (EXCHID)

リモート・システムに対してローカル・システムを識別させるために使用される16進交換IDを指定します。この16進交換IDは8桁で、3桁はブロック番号を、5桁はこのシステムのIDを示します。

*SYSGEN

この値によって、オペレーティング・システムは交換IDを作成できます。回線記述表示(DSPLIND)コマンドを使用して、結果の交換IDを調べます。

交換ID

05600000から056FFFFFFの範囲の8文字(16進数の4バイト) 交換ID を指定します。

[トップ](#)

イーサネット標準 (ETHSTD)

この回線で使用されるETHERNET標準フレーム・タイプを指定します。

***ALL** すべてのETHERNET標準を使用することができます。ただし、システム・ネットワーク体系(SNA)データはIEEE 802.3フレームに入れられます。

*ETHV2

ETHERNETバージョン2のフレームがすべてのデータで使用されます。

*IEEE8023

IEEE 802.3のフレームがすべてのデータで使用されます。

[トップ](#)

SSAPリスト (SSAP)

ソース・サービス・アクセス・ポイント(SSAP)を指定します。これは、ETHERNETバスから適切なユーザーに着信データを経路指定するために使用される16進数の論理アドレスです。各SSAPに、最大フレーム・サイズを指定することができます。

注: ETHERNETバージョン2 (ETHSTDパラメーターに*ETHV2として指定されている) では、06およびAAのSSAPの値を使用することはできません。

リモート制御装置で指定される宛先サービス・アクセス・ポイント(DSAP)は、通信のために指定されたSSAPの1つと一致しなければなりません。SSAP値はすべて固有のものでなければなりません。

***SYSGEN**

ETHSTD(*ALLまたは*IEEE8023)の場合には、オペレーティング・システムは3つのSSAPを作成します。すなわち、SNAアプリケーションにSSAP 04、TCP/IPアプリケーションにAAおよび06です。ETHSTD(*ETHV2)では、システムはSNA用の16進数の04を作成します。

可能なSSAPの値は次の通りです。

ソース・サービス・アクセス・ポイント

最大24のSSAPを指定し(TCP/IPの場合の16進数AAおよび06も含む)、SNAアプリケーションでは4で割りきれない16進数の04から9Cです。

SSAP値に可能なフレーム・サイズは次の通りです。

***MAXFRAME**

システムが送受信できる最大フレーム・サイズ(データ・フィールド・サイズ)を判別します。ETHSTD(*ALLまたは*IEEE8023)を指定した場合には、*CALCがTCP/IPおよびSNA SSAP用に1496のフレーム・サイズを作成します。ETHSTD(*ETHV2)を指定した場合には、*CALCがSNA SSAP用に1493のフレーム・サイズを作成します。

SSAP最大フレーム

それぞれのSSAPの最大フレーム・サイズを指定します。最大フレーム・サイズの有効な値の範囲は265から1496です。

可能なSSAPタイプの値は次の通りです。

***CALC**

システムが使用する値を判別します。

***SNA** SNA通信にはSSAPが使用されます。有効な値の範囲は04から9Cで、4で割りきれない値でなければなりません。

***NONSNA**

SNA通信以外の通信にはSSAPが使用されます。有効な値の範囲は02からFEで、2で割りきれない値でなければなりません。

トップ

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

構成初期設定データが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

注: このコマンド記述の始めに記述されている通り、拡張された無線回線構成データを無線アダプターにダウンロードする時には、INZFILEおよびINZMBRパラメーターが必要です。

***NONE**

初期設定ファイル名は指定されません。

初期設定ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

名前 初期設定データが入っているソース・ファイルの名前を指定します。このパラメーターには*NONEの値が受け入れられます。この回線記述をオンに構成変更する前に、ソース・ファイル名が追加されていない場合には、初期設定に現行IOPの省略時の値が使用されます。

[トップ](#)

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

構成の初期設定データが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

注: このコマンド記述の始めに記述されている通り、拡張された無線回線構成データを無線アダプターにダウンロードする時には、INZFILEおよびINZMBRパラメーターが必要です。

***NONE**

ソース・ファイル・メンバー名は指定されません。

名前 初期設定データが入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。この回線記述をオンに構成変更する前にソース・メンバー名が追加されていない場合には、初期設定に現行IOPの省略時の値が使用されます。

[トップ](#)

初期設定プログラム (INZPGM)

構成の初期設定データを管理するプログラムの名前を指定します。

注: 2663無線アダプターの場合は、INZPGM(QZXCINZ)を指定されるようお奨めします。INZFILEおよびINZMBRの値の結果は、回線がオンに構成変更された時に、拡張無線回線メンバーの変更(CHGEWLM)コマンドに渡されます。

***NONE**

初期設定プログラム名は指定されません。

初期設定プログラム名は次のライブラリー値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

名前 構成初期設定データを管理するプログラムの名前を指定してください。プログラム名を指定した場合には、この回線記述が作成される時にそれが呼び出されます。ソース・ファイルの名前および構成初期設定データを含むメンバーがパラメーターとしてこのプログラムに渡されます。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

ネットワーク制御装置 (NETCTL)

既存のネットワーク制御装置の名前を指定します。このパラメーターは、伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)ネットワークに接続される回線に指定することができます。

[トップ](#)

グループ・アドレス (GRPADR)

アダプターを無線グループ・アドレスの一部として組み込むかどうかを指定します。このアドレスは、同じグループ・アドレスの無線ネットワーク上のすべてのアダプターを識別するために使用されます。

*NONE

グループ・アドレスは使用されません。

グループ・アドレス

ローカル・アダプターを追加する宛先のアダプター・グループのアドレスを指定します。有効な値の範囲は16進数形式の010000000000からFDFFFFFFFです。2桁目(左から)は奇数でなければなりません。すべてのグループ・アドレスは固有としなければなりません。

[トップ](#)

最大制御装置数 (MAXCTL)

この回線でサポートされるSNA制御装置の最大数を指定します。

40 制御装置は最大40までが回線によってサポートされます。

制御装置の最大数

回線でサポートされる制御装置の最大数を指定します。この数字は、この回線に対して現在接続されているすべての制御装置の数と、近い将来接続する予定の制御装置数を考慮した十分な大きさの数でなければなりません。有効な値の範囲は1から256です。

[トップ](#)

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

280000 280000 BPSのリンク速度が使用されます。

4M 400万BPSのリンク速度が使用されます。

***MIN** 4M以下のリンク速度が使用されます。

***MAX** 4M以上のリンク速度が使用されます。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効な値は次の通りです。すなわち、1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 112000, 128000, 168000, 192000, 224000, 256000, 280000, 320000, 336000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, および4Mです。

[トップ](#)

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

0 接続時間当たりのコストは0です。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

コスト/バイト (COSTBYTE)

回線でデータを送受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。このパラメーターは、システムでAPPNが使用される場合にだけ必須です。

0 1バイト当たりのコストは0です。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

回線の機密保護 (SECURITY)

回線の機密保護レベルを指定します。

*NONSECURE

通常の優先順位が使用されます。

*ENCRYPTED

回線上を流れるデータは暗号化されます。

[トップ](#)

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターが有効なのは、システムで拡張対等通信ネットワーク(APPN)が使用される場合だけです。

***LAN** ローカル・エリア・ネットワーク伝搬遅延が使用されます。

***MIN** 最小伝搬遅延が使用されます。

***MAX** 最大伝搬遅延が使用されます。

[トップ](#)

ユーザー定義1 (USRDFN1)

3つのユーザー定義フィールドのうち最初のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERにあるAPPNサポート情報を参照してください。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義2 (USRDFN2)

3つのユーザー定義フィールドのうち2番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERにあるAPPNサポート情報を参照してください。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

ユーザー定義3 (USRDFN3)

3つのユーザー定義フィールドのうち3番目のものを指定します。このフィールドは、制御される回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システムでAPPNが使用されている場合にだけ有効です。

注: このパラメーターに指定する値については、[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERにあるAPPNサポート情報を参照してください。

128 値128が使用されます。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

制御装置記述の自動作成 (AUTOCRTCTL)

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)上の隣接システムから呼び出しを受け取った時にシステムが自動的に制御装置記述を作成するかどうかを指定します。

***NO** 着信呼び出しを受信した時に、システムは制御装置記述を自動的に作成しません。

***YES** 着信呼び出しを受信した時に、システムが制御装置記述を自動的に作成します。

[トップ](#)

制御装置記述の自動削除 (AUTODLTCTL)

自動的に作成された制御装置がアイドル状態（オンに構成変更された状態からオンへの構成変更保留状態に切り替えられた状態）のままでいられる時間（分数）を指定します。この時間が過ぎると、回線記述および接続されている装置記述がオフに構成変更されて削除されます。

1440 制御装置記述は1440分間(24時間) 遊休にすることができます。

*NONE

システムは、自動構成した遊休制御装置記述を自動的に削除またはオンに構成変更しません。

待機時間

この回線の自動的に構成された遊休制御装置記述を削除する前に待機する分数を指定します。有効な値の範囲は1から10,000分です。

[トップ](#)

回復限界 (CMNRCYLMT)

システム操作員に照会メッセージが送られる前にシステムによって行なわれる回復処置の試行回数を指定します。また、回復処置の試行回数がカウント限界に達したことを示す照会メッセージをシステム操作員に送る前に経過していなければならない時間（分数）も指定します。

可能な最大回復しきい値は次の通りです。

2 指定された間隔内に回復が2回試みられます。

カウント限界

試みる回復処置の回数を指定してください。有効な値の範囲は、0から99です。

可能な回復時間間隔値は次の通りです。

5 指定された回数の回復の試みが5分の間隔内に行われます。

時間間隔

指定された回数の第2レベルの回復が試みられる時間間隔（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120です。カウント限界に指定された値が0でない場合には、値0は時間無制限の回復を指定します。

可能な単一値の値は次の通りです。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値に指定された回復限界が使用されます。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限を持っていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

[トップ](#)

例

```
CRTLINWLS  LIND(MYLINE)  RSRNAME(LIN041)
           INZFILE(*NONE) INZMBR(*NONE)
```

このコマンドは、資源名がLIN041のMYLINEという名前の無線回線記述を作成します。構成初期設定データのソース・ファイル名およびメンバー名は未指定のまま、後で変更できます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261E

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

回線記述の作成(X.25) (CRTLINX25)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

X.25回線記述の作成(CRTLINX25) コマンドは、X.25回線に対する回線記述を作成します。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
RSRCNAME	資源名	名前	必須, 定位置 2
LGLCHLE	論理チャネル項目	単一値: *PROMPT その他の値 (最大 256 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 3
	要素 1: 論理チャネル識別コード	文字値	
	要素 2: 論理チャネルのタイプ	*PVC, *SVCIN, *SVCBOTH, *SVCOUT	
	要素 3: PVC制御装置	名前	
NETADR	ローカル・ネットワーク・アドレス	文字値	必須, 定位置 4
CNNINIT	接続開始	*LOCAL, *REMOTE, *WAIT, *CALLER	必須, 定位置 5
ONLINE	IPL時のオンライン	*YES, *NO	オプション
INTERFACE	物理インターフェース	*X21BISV24, *X21BISV35, *RS232V24, *RS449V36, *X21, *INTMODEM	オプション
CNN	接続タイプ	*NONSWTPP, *SWTPP, *NONSWTCAL, *NONSWTANS	オプション
NWI	接続された非交換NWI	名前	オプション
NWICHLTYPE	NWIチャネル・タイプ	*B	オプション
NWICHLNBR	NWIチャネル番号	1-30	オプション
SWTNWILST	交換NWIリスト	単一値: *NONE その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: NWI記述	名前	
	要素 2: NWIチャネル・タイプ	*B	
	要素 3: NWIチャネル番号	1-30, *CALC	
VRYWAIT	オンへの構成変更待機	15-180, *NOWAIT	オプション
LINESPEED	回線速度	*CALC, 600, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600 , 12000, 14400, 19200, 48000, 56000, 57600, 64000, 128000, 192000, 256000, 320000, 384000, 448000, 512000, 576000, 640000, 704000, 768000, 832000, 896000, 960000, 1024000, 1088000, 1152000, 1216000, 1280000, 1344000, 1408000, 1472000, 1536000, 1600000, 1664000, 1728000, 1792000, 1856000, 1920000, 1984000, 2048000	オプション
EXCHID	交換識別コード	05600000-056FFFFFF, *SYSGEN	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
PKTMODE	パケット・モード	*YES, *NO	オプション
INFTRFTYPE	情報転送タイプ	*UNRESTRICTED, *V110, *DOV, *SYNCMODEM	オプション
EXNNETADR	拡張ネットワーク・アドレス指定	*YES, *NO	オプション
MAXFRAME	最大フレーム・サイズ	1024, 2048, 4096	オプション
DFTPFSIZE	省略時のパケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	*TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
MAXPKFSIZE	最大パケット・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	*DFTPFSIZE, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
	要素 2: 受信値	*DFTPFSIZE, *TRANSMIT, 64, 128, 256, 512, 1024, 2048, 4096	
MODULUS	モジュラス	8, 128	オプション
DFTWDSIZE	省略時のウィンドウ・サイズ	要素リスト	オプション
	要素 1: 送信値	1-15, 2	
	要素 2: 受信値	1-15, *TRANSMIT	
ADRINSERT	パケットへネットワーク・アドレスの挿入	*YES, *NO	オプション
NETUSRID	ネットワーク・ユーザー識別コード	文字値	オプション
CNNBR	接続番号	文字値	オプション
CALLNBR	呼び出し番号	文字値, *NONE	オプション
SWTCNN	交換接続タイプ	*BOTH, *ANS, *DIAL	オプション
CNNLSTOUT	発信接続リスト	名前	オプション
CNNLSTOUTE	接続リスト項目	名前	オプション
CNNLSTIN	着信接続リスト	名前, *NETATR	オプション
AUTOANS	自動返答	*YES, *NO	オプション
AUTODIAL	自動ダイヤル呼び出し	*NO, *YES	オプション
DIALCMD	ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ	*NONE, *V25BIS	オプション
MDMINZCMD	モデム初期化コマンド・ストリング	文字値, *NONE	オプション
CALLIMMED	即時呼び出し	*NO, *YES	オプション
AUTOCALL	自動呼び出し装置	*NO, *YES	オプション
ACRSRCNAME	自動呼び出し資源名	名前	オプション
PREDIALDLY	事前ダイヤル呼び出し遅延	0-254, 6	オプション
REDIALDLY	再ダイヤル呼び出し遅延	0-254, 120	オプション
DIALRTY	ダイヤル呼び出し再試行	0-254, 2	オプション
SWTDSC	交換回線切断	*YES, *NO	オプション
SWTDSCTMR	切断タイマー	要素リスト	オプション
	要素 1: 最小接続タイマー	0-65535, 170	
	要素 2: 切断遅延タイマー	0-65535, 0	
DSRDRPTMR	データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー	1-60, 6	オプション
AUTOANSTYP	自動返答タイプ	*DTR, *CDSTL	オプション
RMTANSTMR	リモート返答タイマー	30, 35, 40, 45, 50, 55, 60, 65, 70, 75, 80, 85, 90, 95, 100, 105, 110, 115, 120	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CLOCK	刻時	*MODEM, *LOOP, *INVERT	オプション
SWTNWISLCT	交換NWI選択	*FIRST, *CALC	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
X25DCE	X.25 DCEサポート	*NO, *YES, *NEG	オプション
NETCTL	ネットワーク制御装置	名前	オプション
SWTCTLLST	交換制御装置リスト	単一値: *NONE, *ALL その他の値 (最大 64 回の繰り返し): 名前	オプション
IDLTM	アイドル・タイマー	3-600, <u>40</u>	オプション
FRAMERTY	フレーム再試行	0-64, <u>7</u>	オプション
THRESHOLD	エラーのしきい値レベル	*OFF, *MIN, *MED, *MAX	オプション
MODEM	サポートされるモデム・タイプ	*NORMAL, *V54, *IBMWRAP	オプション
MODEMRATE	モデム・データ速度の選択	*FULL, *HALF	オプション
CTSTMR	送信可タイマー	10-60, <u>25</u>	オプション
LINKSPEED	リンク速度	*INTERFACE, *MIN, 1200, 2400, 4800, 7200, 9600, 14400, 19200, 48000, 56000, 64000, 128000, 192000, 256000, 320000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, 16M, *MAX	オプション
COSTCNN	コスト/接続時間	0-255, <u>128</u>	オプション
COSTBYTE	コスト/バイト	0-255, <u>128</u>	オプション
SECURITY	回線の機密保護	*NONSECURE, *PKTSWTNET, *UNDGRDCBL, *SECURECND, *GUARDCND, *ENCRYPTED, *MAX	オプション
PRPDLY	伝搬遅延	*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET, *SATELLITE, *MAX	オプション
USRDFN1	ユーザー定義1	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN2	ユーザー定義2	0-255, <u>128</u>	オプション
USRDFN3	ユーザー定義3	0-255, <u>128</u>	オプション
CMNRCYLMT	回復限界	単一値: *SYSVAL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カウント限界	0-99, <u>2</u>	
	要素 2: 時間間隔	0-120, <u>5</u>	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *SYSVAL, *SYSOPR その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前	
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

回線記述 (LIND)

回線記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

資源名 (RSRCNAME)

注: 資源名の判別に役立てるために、TYPEパラメーターに*CMNを指定したハードウェア資源の処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用します。資源名はポート上にあります。たとえば、資源名はイーサネット・ポートでCMN01です。

その記述が表す、ハードウェアを識別する資源名を指定します。

トップ

論理チャンネル項目 (LGLCHLE)

X.25回線記述作成(CRTLINX25)またはX.25回線記述変更(CHGLINX25)コマンドを使用する時に、論理チャンネル・テーブルで最大256個までの項目が追加、除去、または変更されることを指定します。チャンネル項目は、チャンネルID、論理チャンネルのタイプ、およびPVC制御装置から成っています。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

可能なチャンネルIDの値は次の通りです。

*PROMPT

*PROMPTを指定すると、現行の論理チャンネル項目の処理に使用できる対話式表示が示されます。

チャンネルID

論理チャンネル識別子用に001からFFFの範囲の3文字の16進数を指定します。最初の桁（左から右へ）は論理チャンネル・グループ番号です。2番目と3番目の桁は論理チャンネル番号を構成します。論理チャンネル識別子を指定します。有効な値の範囲は16進数の001からFFFです。

可能なチャンネル・タイプ値は次の通りです。

***PVC** 論理チャンネルはパーマネント・バーチャル・サーキットです。

*SVCIN

論理チャンネルは着信呼び出し用のスイッチド・バーチャル・サーキットです。

*SVCBOTH

論理チャンネルは着信と発信の両方の呼び出し用のスイッチド・バーチャル・サーキットです。

*SVCOUT

論理チャンネルは発信呼び出し用のスイッチド・バーチャル・サーキットです。

PVC制御装置

論理チャンネルに割り当てるPVC制御装置の名前を指定してください。このフィールドが有効となるのは、チャンネル・タイプに対して*PVCが指定された場合だけです。

トップ

ローカル・ネットワーク・アドレス (NETADR)

このシステムのローカル・ネットワーク・アドレスを指定します。EXNNETADRパラメーターに*YESを指定した場合には、最大17桁までを指定することができます。そうでない場合には、最大15桁までを指定することができます。

ローカル・ネットワーク・アドレス

ローカル・ネットワーク・アドレスを指定します。

トップ

接続開始 (CNNINIT)

X.25データ・リンク接続の確立のために使用される方法を指定します。

*LOCAL

ローカル・システムは、接続を確立するために非同期平衡モード設定(SABM)通信コマンドを出して接続を開始します。

*REMOTE

リモート・システムはSABM通信コマンドを出して接続を開始します。ローカル・システムは接続が確立されるのを待機します。

*WAIT

ローカル・システムは、リンクの活動化を試みる前に、DCEからの切断(DISC) または切断モード(DM)を待機します。

*CALLER

接続は、呼び出しの方向に基づいてローカル・システムまたはリモート・システムのいずれかから開始されます。

トップ

IPL時のオンライン (ONLINE)

初期プログラム・ロード(IPL)時にこのオブジェクトが自動的にオンに構成変更されるかどうかを指定します。

***YES** この回線は初期プログラム・ロード(IPL)で自動的にオンに構成変更されます。

***NO** この回線はIPLで自動的にオンに構成変更されません。

トップ

物理インターフェース (INTERFACE)

入出力アダプター(IOA)ポート上の物理インターフェースのタイプを指定します。

*X21BISV24 (X.25, BSCおよびSDLCのみ)

X.21 BIS/V.24物理インターフェース

*X21BISV35 (X.25, BSCおよびSDLCのみ)

X.21 BIS/V.35物理インターフェース

***X21 (X.25およびSDLCのみ)**

X.21物理インターフェース

***RS232V24 (非同期, BSC, X.25およびSDLCのみ)**

RS-232/V.24物理インターフェース

***RS449V36 (非同期, BSC, X.25およびSDLCのみ)**

RS-449/V.36物理インターフェース

***INTMODEM**

統合モデム・インターフェースが使用されます。

[トップ](#)

接続タイプ (CNN)

回線接続のタイプを指定します。

注: *NONSWTCALおよび*NONSWTANSが有効となるのは、INTERFACE(*INTMODEM),またはINFTRFTYPE *SYNCMODEMの場合だけです。

***NONSWTPP**

非交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

***SWTPP**

交換POINT-TO-POINT回線が使用されます。

***NONSWTCAL**

非交換POINT-TO-POINT回線は呼び出しモードで使用されます。

***NONSWTANS**

非交換POINT-TO-POINT回線は応答モードで使用されます。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続された非交換NWI (NWI)

非交換接続の場合には、この回線を永続的に接続するチャンネルが入っているネットワーク・インターフェース記述を指定します。

注: RSRCNAME(*Nwid)およびCNNが*SWTPPでない場合にのみ有効です。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

NWIチャンネル・タイプ (NWICHLTYPE)

非交換接続の場合に、この回線記述が使用するサービス総合デジタル網(ISDN) チャンネルのタイプを指定します。このパラメーターは、**接続された非交換NWI (NWI)**パラメーターで指定されたネットワーク・インターフェース記述のISDN Bチャンネル(データ伝送チャンネル)を使用するように事前設定されています。

***B** Bチャンネルが使用されます。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

NWIチャンネル番号 (NWICHLNBR)

非交換接続では、この回線記述によって使用されるネットワーク・インターフェース記述のチャンネル番号(1から30)を指定します。2, 23または30のチャンネルが各ネットワーク・インターフェース記述で使用可能であり、これは、そのネットワーク・インターフェースが基本であるかまたは1次速度であるか、また、どんなタイプのネットワーク・タイプであるかによって異なりますが、チャンネルに永続的に接続できる回線記述は1つだけです。ネットワーク・インターフェース記述表示(DSPNWID)コマンドを使用して、NWIDのチャンネル番号に関する情報を表示します。

注: RSRNAME(*NWID)およびCNNが*SWTPPでない場合にのみ有効です。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

交換NWIリスト (SWTNWILST)

ISDN/T1交換接続では、この回線を接続できるネットワーク・インターフェース記述のリストを指定します。ネットワーク・インターフェース記述は、着信または発信の呼び出しの処理の時に交換NWI選択パラメーター(SWTNWISLCT)によって指定された値に基づいてリストから選択されます。

注: RSRNAME(*NWID)およびCNN(*SWTPP)の時にだけ有効です。

可能なネットワーク・インターフェース記述名値は次の通りです。

***NONE**

ネットワーク・インターフェース記述は指定されません。

名前 交換接続では、この回線を接続する先のネットワーク・インターフェース記述の名前を指定してください。

可能なネットワーク・インターフェースのチャンネル・タイプ値は次の通りです。

***B** Bチャンネルが使用されます。

可能なネットワーク・インターフェースのチャンネル番号の値は次の通りです。

*CALC

システムは、着信または発信呼び出しを処理する時に、ネットワーク・インターフェース記述に定義された30のチャンネル番号の1つを（可用性質に基づいて）選択します。

NWIチャンネル番号

回線記述を制限するチャンネル番号(1から30)を指定します。

[トップ](#)

オンへの構成変更待機 (VRYWAIT)

回線が非同期または同期のどちらでオンに構成変更されるかを指定します。同期でオンに構成変更される場合には、このパラメーターは、システムがオンへの構成変更の完了を待機する時間の長さを指定します。

*NOWAIT

システムはオンへの構成変更が完了するのを待機しません。回線は非同期でオンに構成変更されません。

オンへの構成変更の待機

待機する時間（秒数）を指定してください。有効な値の範囲は15から180です。システムは、回線がオンに構成変更するまで、または指定された時間が経過するまで待機して、その後で構成変更 (VRYCFG) コマンドを完了します。

注:

1. ONLINE(*YES)が使用される場合に、回線記述に待機時間を指定すると、システムIPL時間に影響します。このような場合には、システムIPL時間は、回線を同期でオンに構成変更するのにかかる時間、または待機時間の値に達するまでの時間によって影響を受けます。
2. 回線をオンに構成変更するのにかかる時間とは、次を行うために必要な時間です。
 - 回線の管理のために適所にタスクを配置する
 - 通信入出力プロセッサ(IOP)を活動化する。これには、IOPモデル固有のライセンス内部コードのダウンロードも含まれます。
 - 通信タスクおよびプロセスを確立する

オンに構成変更する時間の範囲は通常5から45秒ですが、そのシステム、回線プロトコル、またはその他の要素によっては、これより長くなる場合があります。

[トップ](#)

回線速度 (LINESPEED)

回線速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。

9600 回線速度は9600 BPSです。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

回線速度

回線速度に次の値(BPSで) の1つを指定します。

600	57600	576000	1152000	1728000
1200	64000	640000	1216000	1792000
2400	128000	704000	1280000	1856000

4800	192000	768000	1344000	1920000
7200	256000	832000	1408000	1984000
14400	320000	896000	1472000	2048000
19200	384000	960000	1536000	
48000	448000	1024000	1600000	
56000	512000	1088000	1664000	

トップ

交換識別コード (EXCHID)

リモート・システムに対してローカル・システムを識別させるために使用される16進交換IDを指定します。この16進交換IDは8桁で、3桁はブロック番号を、5桁はこのシステムのIDを示します。

*SYSGEN

この値によって、オペレーティング・システムは交換IDを作成できます。回線記述表示 (DSPLIND)コマンドを使用して、結果の交換IDを調べます。

交換ID

05600000から056FFFFFFの範囲の8文字(16進数の4バイト) 交換ID を指定します。

トップ

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

パケット・モード (PKTMODE)

ISDNまたはT1仮想回線サービスをアクセスするかどうかを指定します。

***NO** ISDN/T1ネットワークを使用して、ISDN/T1に対しては外部のX.25パケット交換網への透過アクセスを提供します (ケースA)。

***YES** ISDN/T1バーチャル・サーキットサービスをアクセスします (ケースB)。

トップ

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

情報転送タイプ (INFTRFTYPE)

情報転送タイプを指定します。情報転送タイプは層1プロトコルを判別します。

注: RSRNAME(*NWID)およびCNNが*SWTPPでない場合にのみ有効です。

*UNRESTRICTED

データ・チャネル・トラフィックはデジタル情報として示されます。すなわち、物理変換は不要です。Bチャネルはそれぞれ64K BPSの容量で作動します。

***V110** 転送タイプはVシリーズの推奨事項110です。各Bチャネルは56K BPSで作動します。

***DOV** DATA OVER VOICE (DOV)デジタル・データをISDN/T1音声呼び出しを介して転送することができます。また、これは、DATA OVER VOICE BEARER SERVICE (DOVBS), DATA OVER

SPEECH BEARER SERVICE (DOSBS), TOLLSAVER,またはTOLLMIZERとも呼ばれます。このオプションは、ISDN音声呼び出しがISDNデータ呼び出しより安価の場合、またはデータのベアラ・サービスが使用可能でない場合にだけ使用してください。また、リモート・ロケーションもこの機能をサポートしている必要があります。データは、各方向で56KBPSで転送されます。

*SYNCMODEM

統合非同期モデムからのデータをISDN/T1音声呼び出しを介して転送することができます。アナログ電話回線で非同期モデムを使用しているリモート・ロケーションに接続するためには、このオプションを使用する必要があります。データは、リモート・アナログ装置からこのデジタル接続に最大33.6KBPSのモデム速度で転送され、このデジタル接続からリモート・アナログ装置には最大56KBPSで転送されます。

[トップ](#)

拡張ネットワーク・アドレス指定 (EXNNETADR)

アドレス名で17桁使用できるように、ネットワークのアドレッシングを拡張するかどうかを指定します。

*NO ネットワーク・アドレスは最大15文字とすることができます。

*YES ネットワーク・アドレスは最大17文字とすることができます。

[トップ](#)

最大フレーム・サイズ (MAXFRAME)

この回線記述で送信または受信できる最大フレーム・サイズを指定します。

1024 省略時のフレーム・サイズは1024です。

最大フレーム・サイズ

次の値の1つを指定します。すなわち、1024、2048、または4096です。

[トップ](#)

省略時のパケット・サイズ (DFTPCKTSIZE)

この回線で送信および受信用に使用される省略時のパケット・サイズを指定します。指定する値はX.25ネットワークで使用される省略時の値と一致しなければなりません。

指定できる送信の値は次の通りです。

128 省略時のパケット・サイズは128です。

送信パケット・サイズ

この回線に接続されるすべての制御装置の送信用の省略時のパケット・サイズを指定します。制御装置コマンドは、この省略時の値を制御装置コマンドのDFTPCKTSIZEパラメーターによって上書きします。パケット・サイズの有効な値は64、128、256、512、1024、2048、および4096です。

指定できる受信の値は次の通りです。

*TRANSMIT

送信用の省略時のパケット・サイズとして指定された値が受信の省略時の値として使用されます。

受信パケット・サイズ

この回線に接続されるすべての制御装置の受信用の省略時のパケット・サイズを指定します。制御装置コマンドは、この省略時の値を制御装置コマンドのDFTPFSIZEパラメーターによって上書きします。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

[トップ](#)

最大パケット・サイズ (MAXPKTSIZE)

この回線での送信および受信用の最大パケット・サイズを指定します。この値はX.25ネットワークで送信および受信用にサポートされている最大パケット・サイズと一致しなければなりません。指定する値は、指定された省略時のパケット・サイズより小さくはなりません。

指定できる送信の値は次の通りです。

*DFTPFSIZE

送信用の最大パケット・サイズは送信用の省略時のパケット・サイズと同じです。

最大送信パケット・サイズ

この回線に接続されるすべての制御装置の送信用のパケット・サイズを指定します。パケット・サイズの有効な値は64, 128, 256, 512, 1024, 2048, および4096 です。

[トップ](#)

モジュラス (MODULUS)

拡張順序番号を使用するかどうかを指定します。

8 拡張順序番号は使用されません (モジュラス8)。

128 拡張順序番号が使用されます (モジュラス128)。

[トップ](#)

省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)

この回線に接続される制御装置との送信および受信用の省略時のパケット・ウィンドウ・サイズを指定します。制御装置は、制御装置コマンドで **X.25省略時のウィンドウ・サイズ (DFTWDWSIZE)**パラメーターを指定して、この省略時値を指定変更できます。

指定できる送信の値は次の通りです。

2 省略時のパケット・ウィンドウ・サイズは2です。

送信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

指定できる受信の値は次の通りです。

*TRANSMIT

送信用の省略時のウィンドウ・サイズとして指定された値が受信用の省略時の値として使用されません。

受信ウィンドウ・サイズ

適切な省略時のウィンドウ・サイズを指定します。モジュラス8を指定している場合は、有効な値の範囲は1から7です。モジュラス128を指定した場合には、有効な値の範囲は1から15です。

[トップ](#)

パケットへネットワーク・アドレスの挿入 (ADRINSERT)

システムが呼び出し要求パケットにローカル・ネットワーク・アドレスを挿入するかどうかを指定します。

***YES** ローカル・ネットワーク・アドレスがパケットに挿入されます。

***NO** ローカル・ネットワーク・アドレスがパケットに挿入されません。

[トップ](#)

ネットワーク・ユーザー識別コード (NETUSRID)

交換回線の場合には、このパラメーターによって、ネットワーク加入者は、この回線のローカル・システムが送信したすべての呼び出し要求パケットに対してネットワーク・ユーザー識別(NUI)情報をNUI選択項目機能にエンコードすることを要求することができます。

ネットワーク・ユーザーID

NUIを最大長214文字の16進数を指定します。

[トップ](#)

接続番号 (C>NNNBR)

この回線と接続するために使用する番号を指定します。これはモデムによってダイヤル呼び出しされる電話番号です。最大32文字まで指定できます。

接続番号

接続番号を指定します。

[トップ](#)

呼び出し番号 (CALLNBR)

V.25 BIS識別による呼び出し要求(CRI)ダイヤル呼び出しコマンドに使用される回線のローカル電話番号を指定します。V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが使用されると、システムが呼び出された(接続)番号(C>NNNBRパラメーター)を選択し、区切り文字(:)を追加して、終わりに呼び出し元番号を入れます。省略時の値の*NONEは、通常呼び出し要求(CRN)が使用されることを示します。

呼び出し元番号を指定するのは、モデムおよびネットワークがCRIダイヤル呼び出しをサポートしている場合だけです。

*NONE

通常呼び出し要求(CRN)が使用されます。CRNダイヤル呼び出しはV.25 BIS モデムに接続番号だけを送信します。

呼び出し元番号

V.25 BIS CRIダイヤル呼び出しが必要な場合には、そのローカル電話番号を指定します。この番号は最大32文字の長さとすることができます。モデムに対して許される値を判別するには、そのモデムの文書を参照してください。

注: モデムとネットワークの両方がV.25 BIS CRIダイヤル呼び出しコマンドをサポートしている場合にだけ、呼び出し元番号を指定してください。

[トップ](#)

交換接続タイプ (SWTCNN)

着信呼び出しまたは発信呼び出し、あるいはこの両方に交換（非同期、BSC、SDLC、またはIDLC）回線を使用するか、あるいは交換網バックアップ（非同期、BSC、またはSDLC）回線を使用するかを指定します。

*BOTH

回線は着信および発信の両方の呼び出しに使用されます。

*ANS 回線が着信呼び出しの場合にのみ使用されます。

*DIAL 回線は発信呼び出し専用で使用されます。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

発信接続リスト (CNLSTOUT)

ISDN交換接続では、ISDNに対するダイヤルアウト操作のためにそのISDN割り当て番号を含む接続リスト・オブジェクトの名前を指定します。

*NONE

ダイヤルアウト操作のためにユーザー指定の接続リストは使用されません。OSI 通信サブシステムが導入されている場合には、接続リストは自動的に構成されます。

名前 ダイヤルアウト操作のための接続リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

接続リスト項目 (CNLSTOUTE)

ISDN交換接続では、ISDNに対してを呼び出しを行うために使用する接続リストから項目名を指定します。接続リストはCNLSTOUTパラメーターに指定しなければなりません。

[トップ](#)

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

着信接続リスト (CNLSTIN)

ISDN交換接続では、許可された着信呼び出しの識別用の呼び出し情報（または接続）の検索に使用される接続リストの名前を指定します。

*NETATR

この回線記述で使用される接続リストは、IPL（初期プログラム・ロード）時に識別したシステムの省略時ネットワーク属性のリストから取り出されます。ネットワーク属性表示(DSPNETA)コマンドを使用して、接続リストの名前を調べることができます。

名前 この回線記述に使用される接続リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

自動返答 (AUTOANS)

交換または交換網バックアップ回線（非同期、BSC、SDLC、またはX.25回線）の場合に、接続を確立するためにシステムがリモート・システムからの呼び出しに自動的に応答するかどうか、あるいはシステム操作員が呼び出しに手操作で応答しモデムをデータ・モードにするかどうかを指定します。

注: *YESは、モデムに自動応答機構がある場合にだけ有効なオプションです。

***YES** 着信呼び出しは自動応答機能によって自動的に応答されます。

***NO** 着信呼び出しは手動で応答する必要があります。

[トップ](#)

自動ダイヤル呼び出し (AUTODIAL)

交換回線の場合に、接続を確立するためにシステムがリモート・システムを自動的に呼び出すかどうか、あるいはシステム操作員が手操作で呼び出しを入れる必要があるかどうかを指定します。

***NO** 回線接続は、X.25ネットワークの手動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

***YES** 回線接続は、X.25ネットワークのシステム自動ダイヤル呼び出しによって接続されます。

[トップ](#)

ダイヤル呼び出しコマンドのタイプ (DIALCMD)

リモート・システムとの交換接続の確立に使用されるダイヤル呼び出しコマンドのタイプを指定します。

*NONE

ダイヤル呼び出しコマンドは使用されません。(自動呼び出し装置を使用して接続が行われます。)

*V25BIS

呼び出しの確立およびデータの伝送に1つの物理インターフェースが使用できるV.25 BISをお奨めします。これは、システムからモデムへのディジットがリンク上に逐次に提示されるために、逐次自動呼び出しインターフェースと呼ばれています。

モデム初期化コマンド・ストリング (MDMINZCMD)

モデムを設定するために送るモデム初期化コマンド・ストリングを指定します。

注: 有効であるのは、INTERFACE(*INTMODEM)またはINFTRFTYPE(*SYNCMODEM)が指定されている時だけです。

*NONE

コマンド・ストリングはモデムに送信されません。

コマンド・ストリング

モデムに送信する最大60文字までのコマンド・ストリングを指定します。有効な文字は大文字のAからZ,小文字のAからZ,数字の0から9,および次の特殊文字です。

ピリオド
 より小記号
 左括弧
 プラス符号
 アンバーサンド
 アスタリスク
 右括弧
 セミコロン
 マイナス符号
 スラッシュ
 コンマ
 下線
 より大記号
 疑問符
 コロン
 等号
 スペース
 番号記号
 二重引用符
 感嘆符
 単価記号
 曲折記号
 パーセント
 左大括弧
 右大括弧
 円記号

注: モデム初期設定ストリングは、'AT'の2文字で始まらなければなりません。

即時呼び出し (CALLIMMED)

交換回線の場合に、回線がオンに構成変更された直後に(CNNBRパラメーターに指定された番号を使用している)呼び出しが行なわれるかどうかを指定します。

*NO システムはオンへの構成変更の後にただちに呼び出しを試みません。

*YES システムはオンへの構成変更の後にただちに呼び出しを試みます。

自動呼び出し装置 (AUTOCALL)

交換または交換網バックアップ回線（非同期、BSC、SDLC、またはX.25回線）の場合には、リモート・システムを自動的に呼び出す関連の自動呼び出し装置を回線に付けるかどうかを指定します。

***NO** この回線に自動呼び出し装置を関連付けません。

***YES** この回線に自動呼び出し装置を関連付けます。

[トップ](#)

自動呼び出し資源名 (ACRSRCNAME)

リモート・システムとの接続を確立するために使用される自動呼び出し装置ポートを記述する自動呼び出し資源名を指定します。ハードウェア資源処理(WRKHDWRSC)コマンドを使用して資源名を判別してください。

[トップ](#)

事前ダイヤル呼び出し遅延 (PREDIALDLY)

番号のダイヤル呼び出しの前に待機する時間間隔を指定します。

6 6の省略時の値は3秒の遅延を提供します。

ダイヤル前遅延

0から254単位の範囲の値を指定します。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

再ダイヤル呼び出し遅延 (REDIALDLY)

呼び出しの試みが正常に行われなかった時に、ダイヤル再呼び出しする前に待機する時間間隔(0.5秒間隔で)を指定します。

120 省略時の値の120では60秒の遅延となります。

再ダイヤル遅延

0から254単位の範囲の値を指定します。各単位は0.5秒を表します。遅延なしを指示するには、値0を指定してください。

[トップ](#)

ダイヤル呼び出し再試行 (DIALRTY)

ダイヤル呼び出しが失敗したと見なされる前に、システムによって行われる再ダイヤルの試行回数を指定します。

2 省略時の試行回数は2です。

ダイヤル呼び出し再試行

0から254の範囲の値を指定します。

交換回線切断 (SWTDSC)

最後のスイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)が削除されて交換回線切断タイマー(SWTDSCCTMR)が満了した時に、回線を除去するかどうかを指定します。

***YES** 交換接続が除去されます。

***NO** 交換接続は除去されません。

トップ

切断タイマー (SWTDSCCTMR)

交換X.25回線をネットワークまたはリモート・システムから切り離すために使用されるタイマーを指定します。最小接続タイマーは、システムが接続を活動状態のままにしておく最小の長さの時間を指定します。このタイマーは接続が確立された時に開始されます。切断遅延タイマーは、回線上に活動中のSVCがない時、あるいは最後のSVCが完了して**最小接続タイマー**が満了した時に、交換接続の切断を試みる前にシステムが待機する時間の長さを指定します。

可能な**最小接続タイマー**値は次の通りです。

最小接続タイマー

0から65535秒の範囲の値を指定します。

可能な**切断遅延タイマー**値は次の通りです。

切断遅延タイマー

0から65535秒の範囲の値を指定します。

トップ

データ・セット・レディー・ドロップ・タイマー (DSRDRPTMR)

エラーの信号を出す前に、モデムがデータ・セット・レディー(DSR)状態を終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

切断タイマー

1から60秒の範囲の値を指定します。

トップ

自動返答タイプ (AUTOANSTYP)

システムが受信呼び出しの応答に使用する方法を指定します。

***DTR** システムは「データ端末レディー」状態になり、呼び出しに応答するようにモデムに信号を送り、「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのをモデムが待ちます。

*CDSTL

呼び出しに応答するようにモデムに信号を送るために「リング標識」をモニターした後、システムは「データ・セット回線接続」(CDSTL)状態になります。

トップ

リモート返答タイマー (RMTANSTMR)

ダイヤル呼び出しの後、エラーの信号を出す前に、モデムが「データ・セット・レディー」(DSR)状態になるのを、システムが待機する時間を指定します。

応答タイマー

30から120秒の範囲の値を5秒間隔で指定します。

トップ

刻時 (CLOCK)

回線の刻時機能がどのような方法で提供されるかを指定します。

*MODEM

モデムが刻時機能を提供します。

*LOOP

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供される受信刻時は、システム・データ端末装置(DTE)送信刻時のDCEモデムにループバックされます。モデムDCE がこのようなオプションをサポートする場合には、このオプションを使用して、高速データ伝送を改善することができます。

*INVERT

モデム・データ回線終端装置(DCE)によって提供されている伝送クロックが使用前に逆転されません。高速データ伝送に問題があり、モデム(DCE)が折り返されたクロックをサポートしない場合には、このオプションを使用することができます。*INVERT で有効なインターフェースは*X21、*X21BISV35,および*RS449V36です。

トップ

注: このパラメーターはもはやサポートされていません。これが存在するのは、オペレーティング・システムのバージョン5リリース3 モディフィケーション0より前のリリースとの互換性を保つためだけです。

交換NWI選択 (SWTNWISLCT)

交換網インターフェース・リストからネットワーク・インターフェースを選択するために使用される方式を指定します。

*FIRST

選択は、交換網インターフェース・リストに指定された最初のネットワーク・インターフェースから開始します。

*CALC

選択されるネットワーク・インターフェースをシステムが計算します。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

回線記述を簡単に説明するテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定しません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

X.25 DCEサポート (X25DCE)

システムがX.25回線終端装置(DCE)サポートを通じて通信するかどうかを指定します。これによって、システムはX.25ネットワークを通さずに別のシステムと通信することができます。

***NO** システムはX.25 DCEサポートを介して通信しません。

***YES** システムはX.25 DCEサポートを介して通信します。

***NEG** オペレーティング・システムは、X.25 DCEサポートを介して通信するかどうかを、別のシステムと折衝します。この値を指定できるのは、交換回線の場合だけです。

トップ

ネットワーク制御装置 (NETCTL)

既存のネットワーク制御装置の名前を指定します。

トップ

交換制御装置リスト (SWTCTLLST)

最大64の交換非同期制御装置の名前を指定するか、あるいはX.25スイッチド・バーチャル・サーキット(SVC)との接続を確立できる交換非同期X.25制御装置の無制限数に対して*ALLを指定します。制御装置記述は事前に存在しなければなりません。このパラメーターが有効となるのは、制御装置記述の作成(非同期)(CRTCTLASC)コマンドで作成した交換非同期X.25制御装置を接続するために回線を使用する場合だけです。CANNBR(*ANY)またはANSNBR(*ANY)を指定した制御装置を接続することによって、このリストの順序が変更される場合があります。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

***ALL** 制御装置記述の作成(非同期)(CRTCTLASC)コマンドを使用して作成したすべてのX.25交換制御装置、および交換回線リスト(SWTLINLST)パラメーターのこの回線記述のリストを使用して、X.25交換制御装置(SVC)との接続を確立することができます。

*NONE

交換非同期制御装置は指定されません。

名前 交換制御装置名を指定します。最大64の交換制御装置を指定することができます。

トップ

アイドル・タイマー (IDLTMR)

再送信前に送られた各フレームに対してネットワークからの肯定応答をシステムが待機する最大時間数(0.1秒間隔で)を指定します。

注: IDLTMR値は次の式より大きいか等しくなければなりません。すなわち、 $(2 * P + (MAXPKTSIZE * 8) / LINESPEED + D) * 10$ です。ここの"P"はユーザーとネットワークを接続する媒体の伝搬遅延(秒数)であり、MAXPKTSIZEは最大送信パケット・サイズであり、"D"はDCE(データ回線終端装置)処理オーバーヘッド(秒数)です。これらの2つの値に関する情報については、ネットワーク提供会社に連絡してください。

40 このパラメーターの省略時の値は40です。

遊休タイマー

3から600の範囲の値を指定します。それぞれの単位は0.1秒を表し、0.3から60秒の範囲のタイムアウト値を提供します。

[トップ](#)

フレーム再試行 (FRAMERTY)

1次回線、協定可能回線またはX.25回線の場合には、エラーを表示する前の、応答されなかったコマンド・フレームまたは肯定応答されなかった情報フレームの再試行回数を指定します。

フレーム再試行

再試行回数に対して0から64の値を指定します。

[トップ](#)

エラーのしきい値レベル (THRESHOLD)

システムによって監視される一時エラーエラーしきい値レベルを指定します。永続エラーは、エラーが連続して起こり、再試行回数限界を超えた場合にだけ、報告されます。

注: すべてのしきい値エラーに影響するTHRESHOLDパラメーターを指定します。これらを個別に指定することはできません。

***OFF** しきい値エラーは報告されません。

***MIN** エラーのしきい値は最小のモニター・レベルにセットされます。

***MED** エラーのしきい値は中間のモニター・レベルにセットされます。

***MAX** エラーのしきい値は最大のモニター・レベルにセットされます。

[トップ](#)

サポートされるモデム・タイプ (MODEM)

通信回線でサポートされているモデムのタイプを指定します。選択すべき適切な値を判別するためにはモデムの解説書を参照してください。

*NORMAL

ユーザー・モデムに対する診断テストを実行する試みは行われません。

***V54** 特定タイプの診断テスト(CCITT推奨事項によって定義された)がユーザー・モデムに対して実行されます。このシステムはCCITT V.54ループ3(ローカル折り返し)およびループ2(これはリモート折り返し)をサポートします。

***IBMWRAP**

折り返しテスト機能のあるIBMモデムが通信回線で使われます。

***IBMLPDA1**

リンク問題判別援助機能-1(LPDA-1)のあるIBMモデムが回線上で使われます。

***IBMLPDA2**

リンク問題判別援助機能-2(LPDA-2)のあるIBMモデムが回線上で使われます。

[トップ](#)

モデム・データ速度の選択 (MODEMRATE)

モデムにデータ速度選択機能が備わっている場合には、回線が作動する速度を指定します。

***FULL**

回線はそのモデムの全速度で作動します。

***HALF**

回線はそのモデムの全速度の半分で作動します。

[トップ](#)

送信可タイマー (CTSTMR)

エラーの信号を送る前に、モデムが送信可(CTS)状態に入るかまたは終了するのをシステムが待機する時間の長さを指定します。

CTSタイマー

10から60秒の範囲の値を指定します。

[トップ](#)

リンク速度 (LINKSPEED)

リンク速度を1秒当たりのビット数(BPS)で指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

***INTERFACE (SDLCおよびX.25のみ)**

リンク速度は物理インターフェース・タイプに基づいたものになります。すなわち、RS-232/V.24およびX.21 BIS/V.24では9600 BPSとなり、V.35およびX.21 BIS/V.35では48000 BPSとなり、また、X.21では64000 BPSとなります。

***MIN** 1200 BPSより小さいリンク速度が使われます。

***MAX** 100M BPSより大きいリンク速度が使われます。

リンク速度

リンク速度を指定します。有効な値は次の通りです。すなわち、1200,2400,4800,7200,9600, 14400,

19200, 48000, 56000, 64000, 128000, 192000, 256000, 320000, 384000, 448000, 499000, 576000, 614000, 691000, 768000, 845000, 922000, 998000, 1075000, 1152000, 1229000, 1382000, 1536000, 1690000, 1843000, 1997000, 4M, 10M, および16Mです。

[トップ](#)

コスト/接続時間 (COSTCNN)

この回線で接続中の相対コストを指定します。ゼロは低コストを意味し、255は高コストを示します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*CNN (SDLCおよびIDLCのみ)

接続時間当たりのコストはその接続タイプによって異なります。非交換接続ではゼロであり、交換接続では128です。

接続時間当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

コスト/バイト (COSTBYTE)

この回線でデータを送信および受信する場合の1バイト当たりの相対コストを指定します。ゼロは低コストを意味し、255は高コストを示します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*CNN (SDLCおよびIDLCのみ)

1バイト当たりのコストはその接続タイプによって異なります。非交換接続ではゼロであり、交換接続では128です。

バイト当たりのコスト

0から255の範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

回線の機密保護 (SECURITY)

物理回線の機密保護レベルを指定します。このパラメーターが有効となるのは、APPNがシステム上で使用される場合だけです。

*NONSECURE

回線上の機密保護はありません。

*PKTSWTNET

パケット交換網が使用されます。データはネットワークを介して常に同じパスを通るとはかぎりません。

*UNDRGRDCBL

地下ケーブルが使用されます。

*SECURECND

安全だが、防護されない配管が使用されます。

***GUARDCND**

物理的な傍受から保護された防護配管が使用されます。

***ENCRYPTED**

回線を流れるデータは暗号化されます。

***MAX** 物理的および電磁波の傍受から保護された配管が使用されます。

トップ

伝搬遅延 (PRPDLY)

回線の伝搬遅延のレベルを指定します。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN)が使用されている場合にだけ有効です。最短ら最長遅延への値の順序は、*MIN, *LAN, *TELEPHONE, *PKTSWTNET,および*SATELLITEです。

***MIN** 最小伝搬遅延が使用されます。

***LAN** ローカル・エリア・ネットワークを使用する伝搬遅延

***TELEPHONE**

電話回線を使用する伝搬遅延

***PKTSWTNET**

パケット交換網を使用する伝搬遅延

***SATELLITE**

衛星通信を使用する伝搬遅延

***MAX** 最大伝搬遅延が使用されます。

トップ

ユーザー定義1 (USRDFN1)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義1

0から255の範囲の値を指定してください。

トップ

ユーザー定義2 (USRDFN2)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能 (APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義2

0から255の範囲の値を指定してください。

ユーザー定義3 (USRDFN3)

このフィールドは、制御したい回線の固有の特性を記述するために使用されます。このパラメーターは、システム上で拡張対等ネットワーク機能(APPN)が使用されている場合にだけ有効です。

128 省略時の値は128です。

ユーザー定義3

0から255の範囲の値を指定してください。

回復限界 (CMNRCYLMT)

この回線記述で使用する2番目のレベルの通信回復の試みの限界を指定します。

使用できる**カウント限界**の値は次の通りです。

2 指定された時間間隔内に2回の回復が試みられます。

*SYSVAL

QCMNRCYLMTシステム値の値が使用されます。

カウント限界

システムによって実行される回復の試みの回数を指定します。有効な値の範囲は、0から99です。

使用できる**時間間隔**の値は、次の通りです。

5 5分間の間隔で指定された回数の回復が試みられます。

時間間隔

回復の試みが行なわれるまでの時間（分数）を指定してください。有効な値の範囲は0から120（1分間隔で）です。

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列を指定します。

*SYSVAL

システム値QCFGMSGQの値が使用されます。

*SYSOPR

メッセージは、システム操作員メッセージ待ち行列(QSYS/QSYSOPR)に送られます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

名前 操作メッセージが送られるメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーの名前を指定してください。

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

***ALL** ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

***USE** ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで作成権限 (CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTLINX25  LIND(X251)  RSRNAME(LIN011)
           LGLCHLE((111 *PVC CTL1) (222 *SVCIN))
           NETADR(12345)  CNNINIT(*LOCAL)  TEXT('X.25 LINE')
```

このコマンドは、資源名がLIN011で、2つの論理チャネル (PVC制御装置に接続) をもち、ネットワーク・アドレスが12345で、ローカル接続開始のあるX.25回線(X251)を作成します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2718

エラーのために、回線記述&1は作成されなかった。

[トップ](#)

ロケール作成 (CRTLOCALE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ロケール作成(CRTLOCALE)コマンドは、SRCFILEパラメーターで提供されたファイルからのソース情報を使用してロケール・オブジェクト(*LOCALE)を作成します。

ロケールは、データがどのように処理、印刷、および表示されるかを判別することのできるオブジェクトです。ロケールは、言語、教養データ、および文字セットを定義するカテゴリで構成されています。ロケールは、システム・オブジェクトの形式としてはオペレーティング・システムに同梱されていません。代わりに、ロケール定義ソース・ファイルが提供されています。

ロケールの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「グローバル化」情報を参照してください。

制約事項

ロケールはQSYSファイル・システム中に作成しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LOCALE	ロケール名	パス名	必須, 定位置 1
SRCFILE	ソース・ファイル・パス名	パス名	必須, 定位置 2
CCSID	コード化文字セットID	1-65533, *JOB, *UTF	必須, 定位置 3
GENLVL	生成重大度レベル	<u>10</u> , 20	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
OUTPUT	出力	*PRINT, *NONE	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: ソース・リスト	整数, *SRC, *NOSRC	
	要素 2: 第2レベル・メッセージ	整数, *SECLVL, *NOSECLVL	
REPLACE	オブジェクトの置き換え	*YES, *NO	オプション
DTAAUT	データの共通認可	名前, *INDIR, *NONE, *RWX, *RX, *RW, *WX, *R, *W, *X, *EXCLUDE	オプション
OBJAUT	オブジェクトの共通認可	単一値: *INDIR, *NONE, *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *OBJEXIST, *OBJMGT, *OBJALTER, *OBJREF	オプション

トップ

ロケール名 (LOCALE)

作成するロケールのパス名を指定します。

[トップ](#)

ソース・ファイル・パス名 (SRCFILE)

作成するロケールの記述が入っているソース・ファイルのパス名を指定します。ファイルのCCSIDが65535である場合には、このコマンドではそれがジョブの省略時のCCSIDと見なされます。ファイルがQSYSファイル・システムからのものである場合には、それはデータベース・ソース物理ファイルでなければなりません。

注: ソース・ファイルがレコード・ファイルでない場合には、ソース・ファイル中の各行は、ソース・ファイルの作成時には改行または行送り文字で終了していなければなりません。

[トップ](#)

コード化文字セットID (CCSID)

ロケール・オブジェクトのロケール情報を記憶するコード化文字セットID(CCSID) を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***JOB** ロケール情報としてジョブCCSIDが使用されることを指定します。ジョブCCSID が65535である場合には、ジョブの省略時のCCSIDが使用されます。

***UTF** 2つのロケール(UTF8用に1つ、UTF32用に1つ) が作成されることを指定します。UTF8ロケール名には、指定されたロケール名に_8が追加されます。UTF32ロケール名には、指定されたロケール名に_4が追加されます。CCSID(*UTF)を指定した場合には、指定するロケール名は長さが8文字に制限されます。

コード化文字セットID

ロケール情報として使用するCCSIDを指定してください。

[トップ](#)

生成重大度レベル (GENLVL)

作成操作を制御することのできる重大度レベルを指定します。作成操作で生成されたメッセージの重大度レベルは、発生したエラーのタイプを示します。

注: 重大度レベルが20を超えるエラーが発生した場合には、ロケールは作成されません。

考えられる値は次の通りです。

10 レベル10の重大度のエラーでもロケールが作成されます。

20 レベル20の重大度のエラーでもロケールが作成されます。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

ロケールについて簡単に説明するテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***BLANK**

テキストは指定しません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コンパイル・リストを作成するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***PRINT**

コンパイル・リストが作成されます。リストに含まれる情報は、OPTIONパラメーターに指定される値によって異なります。

***NONE**

コンパイル・リストは作成されません。コンパイル時のパフォーマンスを改善するためには、リストを必要としない時にこの値を指定しておかなければなりません。

[トップ](#)

ソース・リスト・オプション (OPTION)

このコマンドの処理時に作成される出力リストのタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SRC** ロケールを作成するために使用されるソース入力印刷されます。

***NOSRC**

ロケールを作成するために使用されるソース入力は印刷されません。

***NOSECLVL**

第1レベルのエラー・メッセージ・テキストだけがソース・リストに組み込まれます。

***SECLVL**

第2レベルのエラー・メッセージ・テキストが印刷されます。

[トップ](#)

オブジェクトの置き換え (REPLACE)

既存のバージョンのロケールを現行のロケールで置き換えるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***YES** 既存のロケールが新しいバージョンで置き換えられます。古いバージョンはライブラリーQRPLOBJ

に移され、システム日付および時刻に基づいて名前が変更されます。元のロケールのテキスト記述は、新しいロケールのテキスト記述として使用されません。古いロケールは次のIPL時に削除されるか、あるいはロケール削除(DLTLOCALE)コマンドを使用して削除することができます。

***NO** ロケールは置き換えられず、エラー・メッセージが出されます。

トップ

データの共通認可 (DTAAUT)

作成されるオブジェクトの中のデータに対してユーザーに与えられる共通権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***INDIR**

作成されるオブジェクトに対する権限は、それが作成されるディレクトリーによって決まります。DTAAUTに対して*INDIRを使用する場合には、OBJAUTに対してもそれを使用する必要があります。

***RWX** ユーザーには、オブジェクトに対する*RWX権限が与えられます。*RWX権限により、所有者に限定されている操作、あるいはオブジェクト存在、オブジェクト管理、オブジェクト変更、およびオブジェクト参照権限によって制御される操作を除いて、オブジェクトについてのすべての操作を実行できます。ユーザーはオブジェクトを変更し、オブジェクトに対して基本的な機能を実行できます。*RWX権限は、オブジェクト操作権およびすべてのデータ権限を提供します。

***RX** *RX権限により、ユーザーはプログラムの実行またはファイルの内容の表示など、オブジェクトにおける基本操作を実行できます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。*RX権限は、オブジェクト操作権と読み取りおよび実行の権限を提供します。

***RW** *RW権限により、ユーザーはオブジェクトの内容を表示および変更できます。*RW権限は、オブジェクト操作権およびデータの読み取り、追加、更新、および削除権限を提供します。

***WX** *WX権限により、ユーザーはオブジェクトの内容の変更、プログラムの実行、およびライブラリーまたはディレクトリーの検索ができます。*WX権限は、オブジェクト操作権と、データの追加、更新、削除、および実行権限を提供します。

***R** *R権限により、ユーザーはオブジェクトの内容を表示できます。*R権限は、オブジェクト操作権およびデータ読み取り権を提供します。

***W** *W権限により、ユーザーはオブジェクトの内容を変更できます。*W権限は、オブジェクト操作権、およびデータの追加、更新、削除権限を提供します。

***X** *X権限により、ユーザーはプログラムを実行したり、あるいはライブラリーまたはディレクトリーを検索できます。*X権限は、オブジェクト操作権およびデータ実行権限を提供します。

***EXCLUDE**

除外権限は、ユーザーがオブジェクトにアクセスできないようにします。この特殊値を使用する場合には、OBJAUT値が*NONEでなければなりません。

***NONE**

ユーザーはオブジェクトに対するデータ権限を何も認可されません。この値をOBJAUT値*NONEと一緒に使用することはできません。

権限リスト名

使用する権限リストの名前を指定してください。

オブジェクトの共通認可 (OBJAUT)

ユーザーに与えられるオブジェクトに対する権限を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***INDIR**

オブジェクト権限は、このオブジェクトが作成されるディレクトリーに対する権限に基づきます。DTAAUTに対して*INDIRを使用する場合には、OBJAUTに対してもそれを使用する必要があります。

***NONE**

他のオブジェクト権限（存在、管理、変更、または参照権限）はユーザーに認可されません。DTAAUTパラメーターに*EXCLUDEまたは権限リスト名を指定する場合には、この値を指定しなければなりません。

***ALL** 他のオブジェクト権限（存在、管理、変更、および参照権限）のすべてがユーザーに認可されます。

あるいは、次の値を最大4つまでを指定します。

***OBJEXIST**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト存在権限を認可されます。

***OBJMGT**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト管理権限を認可されます。

***OBJALTER**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト変更権限を認可されます。

***OBJREF**

ユーザーはオブジェクトに対するオブジェクト参照権限を認可されます。

例

```
CRTLOCALE  LOCALE('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/USLOCALE.LOCALE')
           SRCFILE('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/LSRC.FILE/USLOCALE.MBR')
           CCSID(37)  TEXT('LOCALE FOR USA')
```

このコマンドは、QSYS.LIBファイル・システム中のMYLIBという名前のライブラリー中にCCSIDが37のUSLOCALEという名前のロケールを作成します。テキスト・パラメーターは、これをUSAのロケールとして記述します。

```
CRTLOCALE  LOCALE('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/USLOCALE.EXAMPLE')
           SRCFILE('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/LSRC.FILE/EXAMPLE.MBR')
           CCSID(*UTF)  TEXT('UTF LOCALE EXAMPLES')
```

このコマンドは、CCSIDが1232のEXAMPLE_4という名前およびCCSIDが1208のEXAMPLE_8という名前の2つのロケールをQSYS.LIBファイル・システム中のMYLIBという名前のライブラリーに作成します。テキスト・パラメーターは、これらをUTFロケールの例として記述します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF3BE1

ロケール・オブジェクト&1が作成されなかった。

メニュー作成 (CRTMNU)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メニュー作成(CRTMNU)コマンドは、メニュー・オブジェクトを作成するために使用します。このコマンドを使用して、表示装置ファイル(*DSPF)メニュー、およびプログラム(*PGM)メニューの両方を作成することができます。また、メニューは、メニュー表示(GO)コマンドを使用して表示することができます。

制約事項:

- メニューを作成するライブラリーに対する変更(*CHANGE),読み取り(*READ),および追加 (*ADD)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MENU	メニュー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メニュー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *CURLIB	
TYPE	メニュー・タイプ	*DSPF, *PGM, *UIM	必須, 定位置 2
DSPF	表示装置ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 表示装置ファイル	名前, *MENU	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前, *MENU	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CMDLIN	コマンド入力行	*LONG, *SHORT, *NONE	オプション
DSPKEY	機能キーの表示	*NO, *YES	オプション
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: プログラム	名前, *MENU	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCFILE	ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ソース・ファイル	名前, QMNUSRC	
	修飾子 2:	名前, *LIBL, *CURLIB	
SRCMBR	ソース・メンバー	名前, *MENU	オプション
OPTION	ソース・リスト・オプション	値 (最大 3 回の繰り返し): *SOURCE, *NOSOURCE, *SRC, *NOSRC, *NOSECLVL, *SECLVL, *NOEVENTF, *EVENTF	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
INCFILE	組み込みファイル	単一値: <u>*SRCFILE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 組み込みファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , <u>*CURLIB</u>	
CURLIB	現行ライブラリー	名前, <u>*NOCHG</u> , <u>*MNULIB</u> , <u>*CRTDFT</u>	オプション
PRDLIB	実行ライブラリー	名前, <u>*NOCHG</u> , <u>*NONE</u>	オプション
CHRID	文字識別コード	整数, <u>*DEVD</u> , <u>*JOBCCSID</u> , <u>*CHRIDCTL</u>	オプション
REPLACE	メニューの置き換え	<u>*YES</u> , <u>*NO</u>	オプション
TEXT	テキスト'記述'	文字値, <u>*SRCMBRTXT</u> , <u>*BLANK</u>	オプション
AUT	権限	名前, <u>*LIBCRTAUT</u> , <u>*CHANGE</u> , <u>*ALL</u> , <u>*USE</u> , <u>*EXCLUDE</u>	オプション

トップ

メニュー (MENU)

作成するメニューを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メニュー

名前 メニューの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***CURLIB**

新しいメニューを保管するために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メニューを保管するライブラリーを指定してください。

トップ

メニュー・タイプ (TYPE)

作成されるメニューのタイプを指定します。

注: 表示装置ファイル (DSPF)およびメッセージ・ファイル (MSGF)パラメーターに値を指定する場合には、*DSPFを指定しなければなりません。プログラム (PGM)パラメーターは、ここに*PGMを指定した場合にだけ有効です。

これは必須パラメーターです。

***DSPF** メニューを作成するために、既存の表示装置ファイルおよびメッセージ・ファイルが使用されます。

***PGM** 作成中のメニューが、メニューの要求時にプログラムを呼び出します。

***UIM** メニューは、ソース・ファイル (SRCFILE)およびソース・メンバー (SRCMBR)パラメーターに指定されたファイルで見つかったUIMタグ言語を使用して作成されます。

表示装置ファイル (DSPF)

メニュー・オブジェクトの作成に使用する表示装置ファイルを指定します。この表示装置ファイルには、メニュー様式と呼ばれる、表示装置ファイル自体と同じ名前の1つのレコード様式が含まれていなければなりません。ファイルにはヘルプ様式も含めることができます。

ヘルプ様式は、命名規則#HXXYYに従っています。ここで、XXはヘルプ様式が適用される最初のメニュー・オプションであり、YYはその最後のメニュー・オプションです。(たとえば、#H0306はメニュー・オプションの3から6までに適用されます。#H0000は、メニューの一般ヘルプを指定します。

表示装置ファイルは、独立標識域(INDARAキーワード)を持ち、サブファイル記述を含んでいてはなりません。

このパラメーターを指定できるのは、**メニュー・タイプ (TYPE)**パラメーターに*DSPFが指定された場合だけです。

修飾子1: 表示装置ファイル

*MENU

表示装置ファイルは、**メニュー (MENU)**パラメーターに指定されたメニュー名と同じ名前です。

名前 使用する表示装置ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

表示装置ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリー使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 表示装置ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

メッセージ・ファイル (MSGF)

メニュー・オプションが選択された時に実行するコマンドが入っているメッセージ・ファイルを指定します。このファイル中のメッセージのMSGIDはUSRXXXXの書式になります。ここで、XXXXはコマンド行に入力されたメニュー・オプションの番号です。

注: 作成中のメッセージ・ファイルをメニューに使用する場合には、メッセージ記述追加(ADDMSGD)コマンドを使用して、メッセージ・ファイル・メンバーをファイルに追加することが必要です。

修飾子1: メッセージ・ファイル

*MENU

実行するコマンドを含むメッセージ・ファイルは、**メニュー (MENU)**パラメーターに指定したメニュー名と同じ名前です。

名前 使用するメッセージ・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリー使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

コマンド入力行 (CMDLIN)

長いコマンド行を使用するか、短いコマンド行を使用するか、それともコマンド行（オプション行）を使用しないかを指定します。

*LONG

153バイトの長さのコマンド行が使用されます。

*SHORT

73バイトの長さのコマンド行が使用されます。

*NONE

コマンド行は使用されません。4バイトのオプション行が使用されます。

[トップ](#)

機能キーの表示 (DSPKEY)

メニューを表示する時に、機能キーの凡例をメニューの下部に表示するかどうかを指定します。

***NO** 機能キーの凡例は画面の下部に表示されません。

***YES** 機能キーの凡例が画面の下部に表示されます。

[トップ](#)

プログラム (PGM)

メニューの表示時に呼び出すプログラムを指定します。

次の3つのパラメーターがプログラムに渡されます。

- 最初のパラメーターは、呼び出すプログラムを識別するメニュー・オブジェクトの10文字の名前です。
- 2番目のパラメーターは、メニュー・オブジェクトが入っているライブラリーの10文字の名前です。
- 3番目のパラメーターは、呼び出されるプログラムで変数として宣言されている2文字の2進数戻りコードです。プログラムは、次の1つの戻りコードを設定してくるはずですが。

戻り コード	16進数	説明
0	0000	プログラム（メニューの表示） の再呼び出し

-1	FFFF	要求された機能の終了
-2	FFFE	要求された前の機能
-4	FFFC	要求されたホーム機能 (ホーム・メニューの表示)

修飾子1: プログラム

*MENU

呼び出されるプログラムは、**メニュー (MENU)**パラメーターに指定されたメニュー名と同じ名前です。

名前 呼び出されるプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムを見つけるライブラリーを指定してください。

トップ

ソース・ファイル (SRCFILE)

メニュー記述ソース・ステートメントが入っているソース・ファイルを指定します。

修飾子1: ソース・ファイル

QMNUSRC

ソース・ファイルQMNUSRCにはメニュー記述ソース・ステートメントが入っています。

名前 メニュー記述ソース・ステートメントが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ソース・メンバー (SRCMBR)

メニュー記述が入っているソース・ファイルのメンバーを指定します。

*MENU

メンバー名は、**メニュー (MENU)**パラメーターに指定されたメニュー名と同じ名前です。

名前 メニュー記述が入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

トップ

ソース・リスト・オプション (OPTION)

コンパイル時に作成される出力のオプションを指定します。このパラメーターには、複数のオプション値を任意の順序で指定できます。各グループに値がどちらも指定されないか、あるいは両方の値が指定された場合には、下線のついた値が使用されます。

注: このパラメーターの下線で示した値は、省略時の値と類似していますが、実際には省略時の値ではないので、コマンドの省略時値変更(CHGCMDDFT)コマンドでは変更できません。

ソース・リスト・オプション

SRCまたはSOURCE****

ソース・リストが作成されます。

NOSRC**またはNOSOURCE**

エラーが検出されないかぎり、ソース・リストは作成されません。

第2レベル・メッセージ・テキスト・オプション

***NOSECLVL**

メッセージをリストの終りに印刷する時に、第2レベルのテキストは第1レベル・テキストとともに提供されません。

***SECLVL**

メッセージをリストの終りに印刷する時に、第2レベルのテキストは第1レベル・テキストとともに提供されます。

事象ファイル作成オプション

***NOEVENTF**

コンパイラーはCOOPERATIVE DEVELOPMENT ENVIRONMENT FOR ISERIES (CODE FOR ISERIES)の事象ファイルを作成しません。

***EVENTF**

コンパイラーは、CODE FOR ISERIESプロダクトが使用できる事象ファイルを作成します。事象ファイルは、オブジェクト・ライブラリーのファイルEVFEVENTの中にメンバーとして作成されます。CODE FOR ISERIESプロダクトは、このファイルを使用して、CODE FOR ISERIESエディターによって統合されたエラー・フィードバックを提供します。この値は通常、ユーザーに代わりCODE FOR ISERIESプロダクトによって指定されます。

トップ

組み込みファイル (INCFILE)

組み込むメンバーが入っているソース・ファイルを指定します。

注: ソース・ファイルのコード化文字セットID (CCSID)がソース・ファイル (SRCFILE)パラメーターに指定された基本ソース・ファイルのCCSIDと異なっている場合には、そのCCSIDが基本ソース・ファイルのCCSIDに変更されます。CCSIDは、オブジェクトの作成に使用するすべてのソース・メンバーで同一でなければなりません。

単一値

***SRCFILE**

組み込みファイルは、SRCFILEパラメーターに指定したファイルと同じファイルです。

修飾子1: 組み込みファイル

名前 組み込むメンバーが入っているソース・ファイルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ソース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ソース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

現行ライブラリー (CURLIB)

メニューを表示する時に、現行ライブラリーとして使用するライブラリーを指定します。

***NOCHG**

このメニューの処理によって現行ライブラリーが変更されることはありません。

***MNULIB**

現行ライブラリーは、メニューの表示中にはそのメニューが入っているライブラリーに変更されません。

***CRTDFT**

メニューの表示時には、現行ライブラリーはありません。

名前 メニューの表示時に現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

実行ライブラリー (PRDLIB)

メニューの表示時にプロダクト・ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定します。

注: コマンドまたはメニューのプロダクト・ライブラリーは、コマンドまたはメニューが活動状態の間、別のコマンドまたはメニューでそのプロダクト・ライブラリーが変更されない限り、ライブラリー・リスト内に残されます。プロダクト・ライブラリーを変更したコマンドまたはメニューが終了すると、プロダクト・ライブラリーはそのコマンドまたはライブラリーを開始した時のものに復元されます。

***NOCHG**

プロダクト・ライブラリーは、メニューの表示時に変更されず、メニューの終了後も復元されません。

***NONE**

メニューの表示中に、ライブラリー・リストのプロダクト・ライブラリー項目は使用されません。

名前 メニューの表示時にプロダクト・ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

文字識別コード (CHRID)

メニューが表示される時にメニュー・オブジェクトの文字ID（図形文字セットおよびコード・ページ）が装置の文字IDに変更されるかどうかを指定します。

注: このパラメーターを指定できるのは、メニュー・タイプ (TYPE)パラメーターに*UIMが指定された場合だけです。

***DEVD**

変更は行なわれません。メニュー・オブジェクトの文字IDは、装置の文字IDと同じです。

***JOBCCSID**

メニュー・オブジェクトの文字IDは、ソース・ファイル (SRCFILE)パラメーターに指定されたファイルのCCSIDから装置の文字IDに変更されます。

***CHRIDCTL**

システムはCHRIDCTLジョブ属性を検査して、このメニューのCHRIDコマンド・パラメーターに*JOBCCSIDまたは*DEVDを使用するかどうかを決定します。

トップ

メニューの置き換え (REPLACE)

同じ名前の既存のメニューを置き換えるかどうかを指定します。

注: メニューは、このジョブまたは別のジョブによって使用中の場合には、置き換えることはできません。

***YES** 既存のメニューがシステム・ライブラリーQRPLOBJに移動されて、新しいメニューで置き換えられます。

***NO** 既存のメニューは新しいメニューで置き換えられません。

トップ

テキスト'記述' (TEXT)

メニューに関連したテキスト記述を指定します。

***SRCMBRTXT**

メニューのテキストは、ソース・ファイル・メンバーと対応したテキストから取り出されます。メニューが*UIMのタイプの場合には、この特殊値がテキストを取り出すのはソース・ファイル・メンバーからだけであることに注意してください。その他メニュー・タイプでは、テキストは空白に設定されます。

***BLANK**

メニューにはテキスト記述は指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

権限(AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

***LIBCRTAUT**

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成コマンド(CRTLIB)で作成権限(CRTAUT)パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

***CHANGE**

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

***EXCLUDE**

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

CRTMNU MENU(ARLIB/ARPER) TYPE(*PGM)

このコマンドは、名前ARPERSのメニューをライブラリーARLIBに作成します。このメニューは、メニュー実行時にプログラム（これも名前ARPERS)を呼び出します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF6AC3

メニューは作成されなかった。

[トップ](#)

モード記述作成 (CRTMODD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モード記述作成(CRTMODD)コマンドは、拡張プログラム間通信機能(APPC)装置のモード記述を作成します。モード記述は、ローカル・ロケーションとリモート・ロケーション間のセッション特性およびリンクのセッション数を定義します。モードの詳細については、AS/400 APPCプログラミング (SD88-5032)および[HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter)のISERIES INFORMATION CENTERにあるAPPNサポート情報を参照してください。

APPCサポートには、システム・ネットワーク体系(SNA) が使用されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MODD	モード記述	通信名	必須, 定位置 1
MAXSSN	最大セッション	1-512, <u>8</u>	オプション
MAXCNV	会話の最大数	1-512, <u>8</u>	オプション
LCLCTLSSN	ローカル制御セッション数	0-512, <u>4</u>	オプション
PREESTSSN	事前結合セッション数	0-512, <u>0</u>	オプション
MAXINPAC	最大インバウンド・ペーシング値	1-32767, *CALC	オプション
INPACING	インバウンド・ペーシング値	0-63, <u>7</u>	オプション
OUTPACING	アウトバウンド・ペーシング値	0-63, <u>7</u>	オプション
MAXLENRU	要求単位の最大長	241-32767, *CALC	オプション
DTACPR	データ圧縮	1-2147483647, *NETATR, *NONE, *ALLOW, *REQUEST, *REQUIRE	オプション
INDTACPR	インバウンド・データの圧縮	*RLE, *LZ9, *LZ10, *LZ12, *NONE	オプション
OUTDTACPR	アウトバウンド・データの圧縮	*RLE, *LZ9, *LZ10, *LZ12, *NONE	オプション
SLE	セッション・レベル暗号	*NONE, *ALL	オプション
TEXT	テキスト記述	文字値, *BLANK	オプション
COS	サービス・クラス	通信名, #CONNECT, #BATCH, #INTER, #BATCHSC, #INTERSC	オプション
AUT	権限	名前, *CHANGE, *ALL, *USE, *EXCLUDE, *LIBCRTAUT	オプション

トップ

モード記述 (MODD)

モード記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

最大セッション (MAXSSN)

このモードに対して確立される活動セッションの最大数を指定します。この数は、**ローカル制御セッション数プロンプト(LCLCTLSSN)**で指定されるローカル制御セッション数と、リモート・ロケーションで指定されるローカル制御セッション数との合計より大きいか等しくなければなりません。

セッションの最大数

セッションの最大数を指定してください。

有効な値の範囲は1から512です。

[トップ](#)

会話の最大数 (MAXCNV)

リモート・システムと同時に確立できる会話の最大数を指定します。会話の最大数は、同期会話と非同期会話の合計です。この値は、**最大セッションプロンプト (MAXSSNパラメーター)**で指定された値より大きいか等しくなければなりません。同期会話は、ソース・プログラムとターゲット・プログラムの両方が通信を行なっている会話です。非同期会話は、ソース・プログラムは会話から切り離されたが、ターゲット・プログラムがまだデータを読み取っている会話です。

会話の最大数

会話の最大数を指定してください。有効な値の範囲は1から512です。

[トップ](#)

ローカル制御セッション数 (LCLCTLSSN)

このモードを確立するために活動状態でなければならないローカル制御セッションの最小数を指定します。この値は、**最大セッションプロンプト(MAXSSNパラメーター)**に指定された値より小さいか等しくなければなりません。

ローカル制御セッション

ソース・セッションとして使用されるローカル制御セッションの数を指定してください。有効な値の範囲は0から512です。

[トップ](#)

事前結合セッション数 (PREESTSSN)

モードが開始された時に確立されるローカル制御セッションの最大数を指定します。追加のセッションは、必要に応じて、**最大セッションプロンプト**(MAXSSNパラメーター)に指定されたローカル制御セッションの最大数まで確立されます。この値は、**ローカル制御セッション数プロンプト**(LCLCTLSSNパラメーター)に指定された値より小さいか等しくなければなりません。

確立セッションの数

モードが開始された時に確立される並行ローカル制御セッションの最大数を指定してください。有効な値の範囲は0から512です。

[トップ](#)

最大インバウンド・ペーシング値 (MAXINPAC)

着信要求単位(RU)をスケジュールするために使用される最大SNAペーシング値を指定します。**ペーシング**は、送信システムの伝送速度を制御してデータの消失を防止するために、受信システムで設定されます。

注: 最適な速度が得られるように、*CALCの値をお奨めします。

*CALC

システムが使用する値を判別します。この値は、INPACINGパラメーターに指定された値の2倍である2*INPACINGとなるように計算されます。

最大インバウンド・ペーシング

最大インバウンド・ペーシング値として、1から32767 RUの範囲の値を指定してください。

[トップ](#)

インバウンド・ペーシング値 (INPACING)

着信要求単位(RU)をスケジュールするために使用されるシステム・ネットワーク体系(SNA)ペーシング値を指定します。

7 RUペーシング値に7の値が使用されます。

インバウンド・ペーシング

限定値として使用される0から63の値を指定してください。

[トップ](#)

アウトバウンド・ペーシング値 (OUTPACING)

発信要求単位(RU)に使用されるSNAペーシング値を指定します。

7 RUペーシング値に7の値が使用されます。

アウトバウンド・ペーシング

限定値として使用される0から63の値を指定してください。

[トップ](#)

要求単位の最大長 (MAXLENRU)

使用できる要求単位(RU)の最大長を指定します。

注: 最適な長さが得られるように、*CALCの値をお奨めします。

*CALC

システムは使用する値を計算します。

要求単位の最大長

着信要求単位に、241から32767バイトの範囲内の、最大長の値を指定してください。

その他の共通の値は、次の通りです。

- SDLC回線 : 256, 512, 1024, 2048
- トークンリング・ネットワーク回線: 256, 512, 1024, 1985
- X.25 (QLLC)回線 : 247, 503, 1015
- X.25 (ELLC)回線 : 241, 497, 1009

詳細は、AS/400通信構成 (SD88-5011)にあります。

[トップ](#)

データ圧縮 (DTACPR)

データ圧縮を使用するかどうかを指定します。

*NETATR

DTACPRネットワーク属性からの値が使用されます。

*NONE

セッションで圧縮を使用することはできません。

*ALLOW

リモート・システムによって要求された場合には、データ圧縮をローカル・システムによるセッションで使用することができます。ローカル・システムは圧縮を要求しません。

リモート・システムによってデータ圧縮が要求された場合には、セッションによって使用されるデータ圧縮レベルは、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト (INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター) に指定されたレベルです。

*REQUEST

データ圧縮は、ローカル・システムによるセッションで要求されます。しかし、この要求は、リモート・システムによって拒否されるか、あるいはより低い圧縮レベルに変更される場合があります。データ圧縮は、それがリモート・システムによって要求された場合に、セッションで使用することができます。インバウンドおよびアウトバウンド・データ用に要求される圧縮レベルは、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト (INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター) に指定されたレベルです。

リモート・システムによってデータ圧縮が要求された場合には、セッションによって使用されるデータ圧縮レベルは、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト (INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター) に指定されたレベルです。

*REQUIRE

データ圧縮がセッションに必要です。リモート・システムがローカル・システムに必要な正確なレベルの圧縮を受け入れない場合には、セッションは確立されません。

ローカル・システムが必要とするデータ圧縮レベルは、**インバウンド・データの圧縮**および**アウトバウンド・データの圧縮**プロンプト(INDTACPRおよびOUTDTACPRパラメーター)に指定されているレベルです。

回線速度

データが圧縮される最高回線速度を指定してください。セッションで使用されるリンクの回線速度が指定したこの回線速度より小さいか等しい場合には、*REQUESTが指定されているかのように、データ圧縮がセッションで使用されます。そうでない場合には、*ALLOWが指定されているかのように、データ圧縮がセッションで使用されます。有効な値の範囲は1から2147483647ビット/秒(BPS)です。

トップ

インバウンド・データの圧縮 (INDTACPR)

インバウンド・データに所要の圧縮レベルを指定します。**データ圧縮**プロンプト(DTACPRパラメーター)に*NONEが指定されている場合には、データ圧縮は起こりません。

注: 最適のディクショナリー基本圧縮は動的圧縮アルゴリズムであり、LEMPERL-ZIVと類似して、前に表示されたストリングを9ビット、10ビット、および12ビット・コードに圧縮します。このアルゴリズムは次のパラメーターでLZとして参照されます。

***RLE** ラン・レングス・エンコード(RLE)アルゴリズムが使用されます。RLEはデータ・ストリーム中の同じ文字の繰り返しの代わりに1バイトまたは2バイトの文字列を使用します。このアルゴリズムは記憶域を必要とせず、また他のオプションより処理時間が少なく済みます。

***LZ9** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、9ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ9はLZアルゴリズムの最小記憶域と処理時間を必要としますが、LZ9が行うデータ・ストリームの圧縮は最小になります。

***LZ10** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、10ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ10テーブル・アルゴリズムにはLZ9より多くの記憶域と処理時間が必要ですが、LZ12よりは少なく済みます。LZ10はLZ9より多くデータ・ストリームを圧縮しますが、LZ12よりは少なく圧縮します。

***LZ12** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、12ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ12はLZアルゴリズムの最大記憶域と処理時間を必要としますが、LZ12が行うデータ・ストリームの圧縮は最大になります。

*NONE

圧縮は起こりません。

トップ

アウトバウンド・データの圧縮 (OUTDTACPR)

アウトバウンド・データに所要の圧縮レベルを指定します。データ圧縮プロンプト(DTACPRパラメーター)に*NONEが指定されている場合には、データ圧縮は起こりません。

- *RLE** ラン・レングス・エンコード(RLE)アルゴリズムが使用されます。RLEはデータ・ストリーム中の同じ文字の繰り返しの代わりに1バイトまたは2バイトの文字列を使用します。このアルゴリズムは記憶域を必要とせず、また他のオプションより処理時間が少なく済みます。
- *LZ9** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、9ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ9はLZアルゴリズムの最小記憶域と処理時間を必要としますが、LZ9が行うデータ・ストリームの圧縮は最小になります。
- *LZ10** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、10ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ10テーブル・アルゴリズムにはLZ9より多くの記憶域と処理時間が必要ですが、LZ12よりは少なく済みます。LZ10はLZ9より多くデータ・ストリームを圧縮しますが、LZ12よりは少なく圧縮します。
- *LZ12** データ・ストリーム中の反復サブストリングに対して、12ビット・コードのLZアルゴリズムが使用されます。これらのコードは、送信者と受信者の間をデータが流れるにつれて作成される、共通ディクショナリー中の項目を参照します。LZアルゴリズムには記憶域と余分な処理時間が必要です。LZ12はLZアルゴリズムの最大記憶域と処理時間を必要としますが、LZ12が行うデータ・ストリームの圧縮は最大になります。
- *NONE**
圧縮は起こりません。

[トップ](#)

セッション・レベル暗号 (SLE)

セッション暗号化の所要のレベルを指定します。

- *NONE**
データの暗号化または暗号解読は行われません。
- *ALL** すべてのデータは、ネットワークに送信される前に暗号化され、ネットワークから受信された時に復号化されます。

注: セッション・レベルで暗号化を使用するためには、IBM共通のI5/OS暗号化アーキテクチャー・サービスが、暗号化プロセッサ機構または暗号化プロセッサ商用機構とともに導入されていなければなりません。

[トップ](#)

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

*BLANK

テキストは指定されません。

文字値 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

サービス・クラス (COS)

拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)によって使用される経路制御ネットワーク特性（サービス・クラス記述によって表される）を指定します。

- #CONNECT
- #BATCH
- #INTER
- #BATCHSC
- #INTERSC

サービス・クラス名

サービス・クラス名を指定します。

注: APPCのモードを使用している場合には、サービス・クラス名は無視されます。

[トップ](#)

権限 (AUT)

このオブジェクトに対する特定の権限をもっておらず、権限リスト上になく、さらにそのグループ・プロファイルまたは補足グループ・プロファイルがオブジェクトに対する特定の権限をもっていないユーザーに付与する権限を指定します。

*CHANGE

ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいはオブジェクト存在権限(*OBJEXIST)およびオブジェクト管理権限(*OBJMGT)によって制御される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトでの基本的な機能を変更して実行することができます。

*CHANGE権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)権限およびすべてのデータ権限を提供します。このオブジェクトが権限リストである場合は、ユーザーの追加、変更、または除去はできません。

*ALL ユーザーは、所有者に限定されるか、あるいは権限リスト管理(*AUTLMGT)権限によって管理される以外のオブジェクトで、すべての操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトの存在を制御し、オブジェクトの機密保護を指定し、オブジェクトを変更し、さらにオブジェクトに対して基本的な機能を実行することができます。オブジェクトの所有権を変更することもできます。

*USE ユーザーは、プログラムの実行またはファイルの読み取りなど、オブジェクトに対する基本操作を実行することができます。ユーザーはオブジェクトを変更できません。使用(*USE)権限は、オブジェクト操作(*OBJOPR)、読み取り(*READ)、および実行(*EXECUTE)権限を提供します。

*EXCLUDE

ユーザーはこのオブジェクトをアクセスできません。

*LIBCRTAUT

システムは、作成するオブジェクトが入っているライブラリーに対するライブラリー作成(CRTLIB)コマンドで**作成権限 (CRTAUT)**パラメーターに指定された値を使用して、このオブジェクトに対する権限を決定します。CRTAUTパラメーターに指定された値が変更された場合には、新しい値は既存のオブジェクトに影響しません。

名前 オブジェクトに対する権限として使用する権限リストの名前を指定してください。権限リストに載っているユーザーは、リストに指定されているオブジェクトに対する権限が認可されます。オブジェクトが作成される時に権限リストが存在していなければなりません。

トップ

例

```
CRTMODD  MODD(MODE1)  COS(COSD1)
          TEXT('MODE USING COSD1 CLASS-OF-SERVICE')
```

このコマンドは、サービス・クラス記述COSD1を指定するモードMODE1を作成します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF261B

エラーのために、モード記述&1は作成されなかった。

トップ

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとしします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

(C) (御社名) (年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 (C) Copyright IBM Corp. 1998, 2006. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries
LPDA
OfficeVision
i5/OS
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



Printed in Japan